船乘業ヲ營ム爲傭入レタル【清國】人ヲ營業上必要ノ場合ニ於テ各開港市場以外ニ上陸セシメントスルトキハ其船長若ハ代理者ヨリ所在警察官署又ハ憲兵官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

●支那勞働者取締規則

（明治三十七年九月二十四日臺灣總督府令第六十八號）
改正　大正四年第二五號、九年第一九八號

【清國】勞働者取締規則左ノ通相定ム

支那勞働者取締規則

第一條　支那勞働者ハ此ノ規則ノ定ムル所ニ依リ本島ニ上陸シ勞働ニ從事スルコトヲ得

第二條　此ノ規則ニ於テ支那勞働者ト稱スルハ農業、漁業、鑛業、土木、建築、製造、運搬、挽車、仲仕其ノ他雜役ニ關スル勞働ニ從事スル者ヲ謂フ

第三條　支那勞働者ハ上陸ノ際清國勞働者取扱人ノ渡航證明書ヲ携帶スヘシ

第四條　支那勞働者ハ支那勞働者取扱人ノ渡航證明書ニ記載シタル地點ニ上陸スヘシ其ノ上陸セントスルトキハ當該官吏ニ渡航證明書ヲ差出シ上陸許可證ヲ受クヘシ

第五條　上陸許可證ヲ受ケタル者ハ本島內何レノ地ニ於テモ居住シ又ハ旅行スルコトヲ得

第六條　支那勞働者ハ常ニ上陸許可證ヲ携帶スヘシ

上陸許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ下付ヲ受ケタル官廳ニ願出テ再下付ヲ請フコトヲ得

第七條　支那勞働者本島ヲ退去セントスルトキハ上陸許可證ヲ返納スヘシ

第八條　支那勞働者取扱人ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル者ニ限ル

支那勞働者取扱人ハ臺灣總督ノ指定ニ從ヒ金錢又ハ國債證券ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第九條　支那勞働者取扱人ハ支那勞働者ニ對シ其ノ渡航前左ノ事項ヲ記載シタル渡航證明書ヲ交付スヘシ

一　氏名、鄉貫、年齡
一　勞働ノ種類
一　本島ニ於ケル上陸地點

渡航證明書ニハ勞働者ノ寫眞ヲ貼布シ契印スヘシ

第十條　支那勞働者取扱人ハ左記各號ノ一ニ該當スル者ニハ渡航證明書ヲ交付スルコトヲ得ス

一　疾病其ノ他ニ依リ身體强健ナラサル者
二　本島居住ヲ禁止セラレタルコトアル者
三　身元確實ナラサル者

第十一條　支那勞働者取扱人ハ其ノ取扱ヒタル勞働者ニ關シ左ノ義務ヲ負フモノトス

一　病災救助
二　官廳ノ命令ニ依ル送還

第十二條　州知事又ハ廳長ハ支那勞働者ニシテ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルモノアリト認ムルトキハ之ニ本島退去ヲ命スルコトヲ得

第十三條　臺灣總督ハ支那勞働者取扱人ノ行爲ニシテ法令若ハ官廳ノ命令ニ違背シ又ハ公安ヲ害スルモノアリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ業務ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ既ニ渡航セシメタル勞働者ニ對シテハ此ノ規則ニ定ムル義務ノ履行ヲ免ルルコトヲ得ス

第十四條　支那勞働者取扱人ニシテ其ノ取扱ヒタル勞働者ニ關シ此ノ規則ニ定ムル義務ヲ履行セサルトキハ官ニ於テ之レカ代執行ヲ爲シ其ノ費用ハ保證金ヲ以テ支辨シ更ニ保證金ノ補充ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條　支那勞働者取扱人ノ交付シタル渡航證明書ヲ所持セサル支那勞働者ヲ搭載シテ渡航シタル船舶ノ船長ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ勞働者ヲ支那ニ送還セシム

船長勞働者送還ノ義務ヲ盡ササルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ支那勞働者取扱人ノ業務ヲ爲シタル者
二　此ノ規則ニ依ラサル支那勞働者ノ渡航ヲ教唆又ハ幇助シタル者
三　支那勞働者取扱人第十條ニ違背シ又ハ第十一條ノ義務ニ違背シタル者
四　支那勞働者取扱人第十三條第一項ノ業務停止ノ命令ニ違背シ又ハ同條第二項ノ義務ヲ履行セサル者

第十七條　支那勞働者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ニ違背シタル者
二　上陸許可證ヲ携帶セサル者
三　第十二條ノ命令ヲ受ケ一箇月以內ニ本島ヲ退去セサル者

附　則

第十八條　本令ハ明治三十七年十月一日ヨリ施行ス

第十九條　明治三十一年府令第九十八號清國人茶工券規則及明治三十二年府令第七十四號清國勞働者取締規則ハ之ヲ廢止ス

第二十條　明治三十一年府令第九十八號清國人茶工券規則ニ依ル有效期間內ノ茶工券及明治三十二年府令第七十四號清國勞働者取締規則ニ依ル上陸許可ノ證明書ハ此ノ規則ニ定メタル上陸許可證ト看做ス

第二十一條　明治三十二年府令第七十四號清國勞働者取締規則ニ依ル勞働者請負人ハ其ノ請負ニ係ル勞働者ニ對シテハ其ノ規則ニ定ムル所ノ義務ノ履行ヲ免ルルコトヲ得ス

●外國旅券規則

（明治四十年八月樺太廳令第六十八號）
改正　明治四〇年第七四號、四四年第八號、大正六年第三號、七年第五八號、一〇年第二八號、一四年第三四號

外國旅券規則

第一條　樺太ヨリ外國ヘ旅行スル者ニ下附スル旅券ハ外務大臣發行ノモノヲ樺太廳ニ於テ交付ス

第二條　旅券ノ下附ヲ請フ者ハ書面ニ左ノ事項ヲ記載シ之ニ戶籍謄本又ハ其ノ氏名、本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書竝警察官署ノ指定シタル醫師ノ體格檢查書ヲ添附シ所轄警察官署經由樺太廳ニ出願スヘシ但シ身元正確ト認ムル場合ハ戶籍謄本又ハ其ノ他ノ文書ノ添附ヲ省略セシムルコトヲ得

一　氏名（片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ）
二　本籍地（本籍地ト所在地ト異ナルトキハ所在地ヲ併記スヘシ）
三　身分（戶主家族ノ別、家族ナルトキハ戶主ノ氏名及戶主トノ續柄ヲ記載スヘシ）
四　年齡（何年何月何日生）
五　職業
六　旅行地名
七　旅行ノ目的

朝鮮人ニ在リテハ前項ノ願書ニハ其ノ地位名望顯著ナル者及五年以上樺太ニ在留シテ其ノ身元充分判明セル者ノ外ハ本人ノ身分職業行等ヲ明記セル朝鮮總督府等ノ發給ニ係ル外國渡航證明書ヲ添附シ本人自ラ樺太廳支廳ニ出頭スヘシ

本條ノ願書ニハ最近ノ撮影ニ係ル本人ノ寫眞二葉（手札形半身、無臺紙）ヲ添附スヘシ但シ父又ハ母ノ旅券ニ併記スル五歲未滿ノ子ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　官命ニ依リ外國ニ旅行スル者ハ其ノ所管官廳ヲ經由シテ樺太廳ニ旅券ノ下附ヲ出願スルコトヲ得但シ第二條第一號乃至第五號及第七號ノ事項ヲ開申スヘシ家族又ハ從者ヲ同行スルトキハ同行者ニ係ル第二條第一項ニ依ル體格檢査書ヲ提出シ第二條第一號乃至第四號ノ事項ヲ併セテ開申スヘシ

第二條末項ノ規定ハ本條ノ出願ニ之ヲ準用ス

第四條　第二條ノ規定ニ依リ旅券ノ下附ヲ受ケタル者ハ一枚ニ付金十圓ニ相當スル收入印紙ヲ旅券領收證ニ貼附スヘシ

第五條　旅券ノ下附ヲ受クル者ハ旅券ニ署名スヘシ若署名スルコト能ハサルトキハ代署セシメ本人之ニ實印ヲ押捺スヘシ旅券面ニ査證アルコトヲ必要トスル國ニ旅行スル者ハ其ノ定ムル所ニ依リ査證ヲ受クヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅券ノ下附ヲ受クルコトヲ得ス但シ第二號ニ該當スル者ハ清國ニ旅行セムトスル場合ノ外此ノ限ニ在ラス

一　豫戒命令中ノ者

二　淸國在留禁止命令中ノ者

第七條　第二條ノ規定ニ依リ旅券ノ下附ヲ受ケタル後六箇月以內ニ出發セサル者ハ旅券ヲ返納スヘシ

第八條　旅行者歸國若ハ歸著シタルトキハ旅券ヲ返納スヘシ

旅券ノ下附ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ遺族ヨリ之ヲ返納スヘシ

第九條　商業漁業其ノ他職業ノ爲特定ノ地ニ數次往復スル者ハ歸國若ハ歸著每ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日ヨリ三箇年ヲ過キテ歸國若ハ歸著スルトキハ之ヲ返納スヘシ

前項特定ノ地ハ樺太廳長官之ヲ告示ス

第十條　旅券ノ下附ヲ受ケタル者第六條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第二條第一號乃至第三號、第六號、第七號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ旅券ヲ返納スヘシ

第十一條　旅券ヲ紛失シタルトキハ直ニ屆出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第十二條　本則ノ規定ニ依リ旅券ノ返納又ハ其ノ紛失若ハ發見ノ屆出ヲ受クヘキ官廳ハ樺太廳及所轄警察官署トス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ七十圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ二月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス

一　第一條各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第六條各號ノ一ニ該當スル者其ノ事實ヲ申告セス其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下附ヲ受ケタル者及之ヲ幇助シタル者
二　他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幇助シタル者
三　本則ニ依リ返納スヘキ旅券ヲ返納セスシテ使用シタル者
四　旅券ニ貼附シタル寫眞ヲ取換ヘ該旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメタル者

附　則

第十四條　本則ハ明治四十年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●外國人入國ニ關スル件

（大正七年二月一日樺太廳令第二號）
改正　大正一〇年第二七號、一二年第三八號、一三年第一七號

外國人入國ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　樺太ニ渡來スル外國人ニシテ左記各號ノ一ニ該當スト認ムル者ハ其ノ上陸ヲ禁止スルコトアルヘシ

一　旅券又ハ國籍證明書ヲ所持セサル者
二　帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲シ又ハ敵國ノ利便ヲ圖ル虞アル者
三　公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ル虞アル者
四　浮浪又ハ乞丐ノ常習アル者
五　各種傳染病患者其ノ他公衆衞生上危險ナル疾患アル者
六　心神喪失者心神耗弱者貧困者其ノ他救助ヲ要スヘキ虞アル者

前項第一號ノ旅券又ハ國籍證明書ハ本人ノ寫眞ヲ添附シタルモノニシテ本國官憲ノ發給ニ係リ且本邦上陸前一年以內ニ在外帝國大公使又ハ在外帝國領事官ノ査證ヲ經タルモノニ限ル但シ父母又ハ其ノ一方ノ旅券若ハ國籍證明書ニ併記セラレタル十五歲未滿ノ子女ノ寫眞ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　帝國臣民ノ入國ニ關シ旅券又ハ國籍證明書ノ提示ヲ必要トセサル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ特ニ前條第一項第一號ノ規定ヲ、其ノ旅券又ハ國籍證明書ニ當該國官憲ノ査證ヲ必要トセサル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ同條第二項中査證ニ關スル規定ヲ適用セサルコトアルヘシ

第三條　樺太ニ渡來スル外國人ハ當該警察官吏ノ請求ニ應シ旅券又ハ國籍證明書ヲ提示シ及第一條第一項各號其他必要ナル事項ノ調査ニ關スル推問ニ對シ眞實ナル陳述ヲ爲スヘシ

第四條　前條ニ違背シ又ハ他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券又ハ國籍證明書ヲ使用シ若ハ虛僞ノ方法ニ依リ旅券又ハ國籍證明書ノ査證ヲ受ケタル者ハ上陸ヲ禁止シ又ハ帝國領土外ニ退去ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　本令ノ規定ハ帝國ニ駐在スル外國大公使、大公使館員、外國領事官、領事館員竝其ノ家族及外國政府ノ公務ヲ帶フル者ニ之ヲ適用セス帝國港灣ニ寄港スル外國船舶ノ乘組員ニ付亦同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ樺太渡來ノ途中ニ在ル外國人ニシテ本令第一條ノ旅券又ハ國籍證明書ノ發給又ハ査證ヲ受クルコト能ハサル事由アリト認ムル場合ニ於テハ本令第一條第一項第一號ニ關スル規定ヲ適用セサルコトアルヘシ

●關東州居住支那人露領旅行證明規則

（大正三年八月十四日關東都督府令第十九號）
改正　大正九年關東廳令第五八號

關東州居住支那人露領旅行證明規則左ノ通定ム

關東州居住支那人露領旅行證明規則

第一條　關東州內居住ノ支那人ニシテ露領ニ旅行セムトスル者ハ本規則ニ依リ證明書ノ下付ヲ受クルコトヲ得

第二條　證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ左記事項ヲ具シ居住地會長ノ奧書ヲ受ケ所轄民政署又ハ民政支署ニ出願スヘシ

一　氏名
二　年齡
三　職業
四　本籍
五　居所
六　旅行先
七　旅行ノ目的

前項ノ願書ニハ手數料トシテ一件ニ付金一圓ヲ納ムヘシ

第三條　證明書ノ下付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ證明書ヲ返納スヘシ

一　證明書ノ下付ヲ受ケタル後三箇月以內ニ出發セサルトキ
二　證明書有效期間內ニ旅行地ヨリ歸還セルトキ
三　返納ヲ命セラレタルトキ

第四條　證明書ハ下付ノ日ヨリ向フ一年間有效トス

第五條　虛僞ノ手段ニ依リ證明書ノ下付ヲ受ケ又ハ證明書ヲ他人ノ使用ニ供シタル者ハ證明書ヲ返納セシメ十圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國人取締規則

（大正七年三月二十日關東都督府令第十五號）
改正　大正一三年關東廳令第三三號

外國人取締規則左ノ通定ム

外國人取締規則

第一條　外國人ニシテ左記各號ノ一ニ該當スト認ムル者ハ所轄民政署長、同支署長又ハ警務署長ニ於テ其ノ關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地內ニ立入ルコトヲ禁止シ又ハ當該地域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

一　旅券又ハ國籍證明書ヲ所持セサル者
二　帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲シ又ハ敵國ノ利便ヲ圖ル虞アル者
三　公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ル虞アル者
四　浮浪又ハ乞丐ノ常習アル者
五　各種傳染病患者其ノ他公衆衞生上危險ナル疾患アル者

六　心神喪失者、心神耗弱者、貧困者其ノ他救助ヲ要スヘキ虞アル者

前項第一號ノ旅券又ハ國籍證明書ハ本人ノ寫眞ヲ添附シタルモノニシテ本國官憲ノ發給ニ係リ且管内上陸又ハ入境前一年内ニ在外帝國大公使又ハ在外帝國領事官ノ査證ヲ經タルモノニ限ル

第二條　帝國臣民ノ入國ニ關シ旅券又ハ國籍證明書ノ提示ヲ必要トセル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ特ニ前條第一項第一號ノ規定ヲ其ノ旅券又ハ國籍證明書ニ當該國官憲ノ査證ヲ必要トセサル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ同條第二項中査證ニ關スル規定ヲ適用セサルコトヲ得

第三條　敵國人ハ關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地内ニ立入リ又ハ居住スルコトヲ得ス但シ第一條第一項ニ揭クル官憲ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　外國人ハ當該警察官吏ノ請求ニ應シ旅券、國籍證明書又ハ許可證ヲ提示シ及第一條第一項各號其ノ他必要ナル事項ノ調査ニ關スル推問ニ對シ眞實ナル陳述ヲ爲スヘシ

第五條　前條ニ違背シ又ハ虚僞ノ方法ニ依リ許可ヲ受ケ若ハ受ケムトシタル者ハ所轄民政署長、同支署長又ハ警務署長ニ於テ關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地内ニ立入ルコトヲ禁止シ又ハ當該地域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第六條　本令ノ規定ハ締盟國大公使、大公使館員、領事官、領事館員竝此等ノ者ノ家族及締盟國政府ノ公務ヲ帶フル者ニ之ヲ適用セス關東州内各港灣ニ寄港スル締盟國船舶ノ乘組員ニ付亦同シ

附　則

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　本令施行ノ際現ニ關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地ニ渡來ノ途中ニ在ル外國人ニシテ本令第一條ノ旅券又ハ國籍證明書ノ發給又ハ査證ヲ受クルコト能ハサル事由アリト認ムル場合ニ於テハ本令第一條第一項第一號ヲ適用セサルコトヲ得

●外國旅券規則

（大正十一年九月四日南洋廳令第二十七號）

改正　大正一三年第七號

外國旅券規則左ノ通定ム

外國旅券規則

第一條　南洋群島ヨリ外國ヘ旅行スル帝國臣民又ハ南洋群島島民ニ下付スル旅券ハ外務大臣發行ノモノヲ南洋廳ニ於テ交付ス

第二條　旅券ノ下付ヲ請フ者ハ書面ニ左ノ事項ヲ記載シ之ニ戸籍謄本又ハ其ノ氏名本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書ヲ添附シ之ヲ所轄支廳ニ提出スヘシ但シ支廳長ハ南洋群島島民又ハ身元確實ナル者ニ對シ戸籍謄本又ハ其ノ他ノ文書ノ添附ヲ省略セシムルコトヲ得

一　氏名（片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ）
二　本籍地及所在地（南洋群島島民ニ在リテハ本籍地ヲ記載スルニ及ハス）
三　身分（戸主家族ノ別　家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ但シ南洋群島島民ニ在リテハ戸主ハ之ヲ世帶主トス）
四　年齡（滿何年又ハ何年何月何日生）
五　職業
六　旅行地名
七　旅行ノ目的

本條ノ願書ニハ最近撮影ニ係ル本人ノ寫眞二葉（手札形、半身、無臺紙）ヲ添附スヘシ但シ父又ハ母ノ旅券ニ併記スル五歳未滿ノ子ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　官命ニ依リ外國ニ旅行スル者ハ其ノ所管官廳ヲ經由シテ南洋廳ニ旅券ノ下付ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條第一號、第六號及第七號ノ事項ヲ開申スヘシ但シ家族又ハ從者ヲ同行スルトキハ同行者ニ係ル第二條第一號乃至第四號ノ事項ヲ併セテ開申スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ本條ノ出願ニ付之ヲ準用ス

第四條　第二條ノ規定ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ハ帝國臣民ニ在リテハ金十圓南洋群島島民ニ在リテハ金五圓ニ相當スル收入印紙ヲ旅券領收證ニ貼附スヘシ

第五條　旅券ノ下付ヲ受クル者ハ其ノ券面ニ署名スヘシ署名スルコト能ハサルトキハ代署セシメ本人之ニ實印ヲ押捺スヘシ

旅券面ニ査證ヲ必要トスル國ヘ旅行スル者ハ其ノ定ムル所ニ依リ査證ヲ受クヘシ

第六條　第二條ノ規定ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル後六月以内ニ出發セサル者ハ旅券ヲ返納スヘシ

第七條　旅行者歸國又ハ歸著シタルトキハ旅券ヲ返納スヘシ

第八條　商業漁業其ノ他職業ノ爲特定ノ地ニ數次往復スル者ハ歸國又ハ歸著每ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日ヨリ三年ヲ過キテ歸國若ハ歸著シタルトキ又ハ歸國若ハ歸著後本人ノ所在地ヲ管轄スル行政廳ヨリ命令アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項特定ノ地ハ南洋廳長官之ヲ告示ス

第九條　旅券ノ下付ヲ受ケタル者ハ第二條第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ旅券ヲ返納スヘシ

第十條　旅券ヲ紛失シタルトキハ直ニ屆出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第十一條　本令ノ規定ニ依リ旅券ノ返納又ハ紛失若ハ發見ノ屆出ヲ受クヘキ官廳ハ南洋廳及其ノ所轄支廳トス

旅券ヲ返納シ又ハ其ノ紛失、發見ノ屆出ヲ爲スヘキ者死亡シ又ハ行衞不明トナリタルトキハ其ノ遺族、同居人等ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス

一　第二條各號ノ事項ヲ詐稱シ若ハ其ノ事實ヲ申告セス其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者又ハ之ヲ幫助シタル者
二　他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ使用シ若ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者又ハ之ヲ幫助シタル者
三　返納スヘキ旅券ヲ返納セスシテ使用シタル者
四　旅券ニ貼附シタル寫眞ヲ取換ヘ該旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメタル者

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國人入島ニ關スル件

（大正十四年二月二日南洋廳令第一號）

外國人入島ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　南洋群島ニ渡來スル外國人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムル者ハ支廳長ニ於テ其ノ上陸ヲ禁止スルコトヲ得

一　旅券又ハ國籍證明書ヲ所持セサル者
二　帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲シ又ハ敵國ノ利便ヲ圖ルノ虞アル者
三　公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アル者
四　浮浪又ハ乞丐ノ常習アル者
五　各種傳染病患者其ノ他公衆衞生上危險ナル疾患アル者

六　心神喪失者、心神耗弱者、貧困者其ノ他救助ヲ要スヘキ虞アル者

前項第一號ノ旅券又ハ國籍證明書ハ本人ノ寫眞ヲ添付シタルモノニシテ本國官憲ノ發給ニ係リ且本人カ帝國ノ他ノ地方ヨリ渡來スル場合ヲ除クノ外南洋群島上陸前一年内ニ在外帝國大公使又ハ在外帝國領事ノ査證ヲ經タルモノニ限ル

第二條　帝國臣民ノ入國ニ關シ旅券又ハ國籍證明書ノ提示ヲ必要トセサル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ特ニ前條第一項第一號ノ規定ヲ、其ノ旅券又ハ國籍證明書ニ當該國官憲ノ査證ヲ必要トセサル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ同條第二項中査證ニ關スル規定ヲ適用セサルコトヲ得

第三條　南洋群島ニ渡來スル外國人ハ當該警察官吏ノ請求ニ應シ旅券又ハ國籍證明書ヲ提示シ第一條第一項各號其ノ他必要ナル事項ノ調査ニ關スル推問ニ對シ眞實ナル陳述ヲ爲スヘシ

第四條　前條ニ違反シ又ハ他人ノ氏名ヲ記載セル旅券又ハ國籍證明書ヲ使用シ若ハ虚僞ノ方法ヲ以テ旅券又ハ國籍證明書ノ査證ヲ受ケタル者ハ支廳長ニ於テ其ノ上陸ヲ禁止シ又ハ南洋群島外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第五條　本令ノ規定ハ帝國ニ駐在スル外國大公使、大公使館員、外國領事、領事館員竝其ノ家族及外國政府ノ公務ヲ帶フル者ニ之ヲ適用セス南洋群島港灣ニ寄港スル外國船舶乘組員ニ付亦同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ南洋群島渡來ノ途中ニ在ル外國人ニシテ本令第一條ノ旅券又ハ國籍證明書ノ發給又ハ査證ヲ受クルコト能ハサル事由アリト認ムル場合ニ於テハ本令第一條第一項第一號ニ關スル規定ヲ適用セサルコトヲ得

第五章　特殊財産管理

●獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件

（大正九年三月二十五日勅令第四十八號）

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

（各大臣副署）

第一號　政府ハ獨逸國、墺地利洪牙利國若ハ土耳其國ニ屬シ又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ヲ管理スルコトヲ得

第二條　政府ハ前條ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ其ノ財産ノ所在、種類、數量、價額、權利狀態其ノ他管理ニ必要ナル事項ノ申告ヲ命スルコトヲ得

第三條　當該官吏又ハ吏員ハ第一條ノ財産ニ關シ調査ノ爲必要ナル場所ニ立入リ若ハ檢査ヲ爲シ又ハ其ノ財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ供述ヲ求ムルコトヲ得

第四條　第一條ノ財産ノ管理ハ當該官廳ノ管理命令ヲ以テ之ヲ開始ス

管理命令ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第五條　當該官廳ハ管理財産ニシテ登記又ハ登錄ノ規定アルモノニ付テハ管理財産タル旨ノ登記又ハ登錄ヲ關係ノ官廳其ノ他ニ囑託又ハ請求スヘシ

當該官廳ハ管理財産債權ナルトキハ管理財産タル旨ヲ債務者ニ通知スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スヘキ財産ノ管理ハ登記若ハ登錄又ハ通知アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六條　前二條ノ規定ハ財産ノ管理ヲ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　當該官廳ハ管理財産ノ所有者又ハ保管者ニ對シ其ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第八條　管理ニハ財産ノ換價其ノ他ノ處分ヲ包含ス

政府カ擔保權ノ目的タル管理財産ヲ換價シタルトキハ擔保權ハ代金ノ上ニ存在ス此ノ場合ニ於テハ其ノ代金ハ別ニ之ヲ保管スヘシ

第九條　第一條ノ國、國人又ハ法人ハ其ノ者ニ屬スル管理財産ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　管理財産ハ管理ニ依リテ生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ强制執行又ハ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　財産ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル管理財産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第十二條　財産ノ管理ヲ免ルルノ目的ヲ以テ財産ノ隱匿、處分、毀棄ヲ爲シ若ハ爲サムトスル行爲アリタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ處分ヲ受諾シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ依リ命セラレタル申告ヲ爲サス又ハ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者
二　第三條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虚僞ノ調査資料ヲ提供シ又ハ供述ヲ拒ミ若ハ虚僞ノ供述ヲ爲シタル者
三　第七條ノ規定ニ依ル引渡ノ命令ニ應セサル者

附　則

本令ハ大正八年勅令第三百四號失效ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正八年勅令第三百四號ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ旨大正九年三月二十五日勅令第四十七號ヲ以テ公布セラル）

●特殊財産管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件

（大正九年三月二十五日内務省令第三號）

改正　大正九年第三九號、一〇年第二三號

特殊財産管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件左ノ通定ム

特殊財産管理ニ關スル勅令施行ニ關スル件

第一條　財産ノ管理、管理ノ解除、換價其ノ他必要ナル處分ハ地方長官之ヲ爲ス

第二條　財産ノ所有者、保管者、其ノ他關係者ハ本令施行ノ際ニ於ケル財産ニ付テハ本令施行後十日内ニ本令施行後生シタル財産ニ付テハ其ノ都度地方長官ニ別記樣式ニ依リ財産ニ關スル申告ヲ爲スヘシ但シ獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ニシテ大正九年一月十一日以後墺地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ニシテ大正九年十月十五日以後洪牙利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ニシテ大正十年七月二十七日以後ニ生シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　管理財產ノ所有者及保管者ハ管理財產ニ付キ滅失毀損若ハ變更アリタルトキ又ハ修理ヲ要スト認ムルトキハ其旨直ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四條　當該官吏又ハ吏員其ノ職務ヲ執行セムトスルトキハ證票ヲ携帶スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正八年内務省令第三號ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別ニ規定スル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

（別記）

第一樣式

番號	國籍	權利者別	住所又ハ所在地	職業	姓名又ハ名稱
		所有者			
		保管者又ハ代表者			

財產		
種別	價格又ハ金高	備考
土地		
建物		
預金及現金		
外國貨幣		
有價證券		
債權		
商品		
特許權		
其他		
合計		

參考事項

第二樣式

番號

土地ニ關スル權利

權利ノ種別	登記年月日番號	所在地	地目	地積	地價	權利價格	所有權者		權利
							住所地	姓名	
合計									

參考事項

第三樣式

番號

建物ニ關スル權利

所在地	種類	坪數	價額	備考

合計				

參考事項

第四樣式

番號

預金及現金

預入保管又ハ所持ノ別	金高	保管者又ハ銀行		備考
		所在地	姓名又ハ名稱	

合計				

參考事項

第五樣式

番號

有價證券

種類	數量	額面高	時價	保管者又ハ保管銀行		備考
				所在地	姓名又ハ名稱	

合計

参考事項

第六様式

番號

其ノ他ノ財産

種類	數量	價格	所在地	備考
合計				

参考事項

事項

●朝鮮ニ於ケル特殊財産管理ニ關スル件（大正十年二月三日内務省令第三號）

朝鮮ニ於ケル特殊財産管理ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮ニ於ケル特殊財産管理ニ關スル件

第一條　財産ノ所有者、保管者其ノ他關係者ハ本令施行ノ際ニ於ケル財産ニ付テハ本令施行後十日内ニ本令施行後生シタル財産ニ付テハ其ノ都度特殊財産管理局長ニ別記様式ニ依リ財産ニ關スル申告ヲ爲スヘシ但シ獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ニシテ大正九年一月十一日以後墺地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ニシテ大正九年十月十五日以後ニ生シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　管理財産ノ所有者及保管者ハ管理財産ニ付キ滅失、毀損若ハ變更アリタルトキ又ハ修理ヲ要スト認ムルトキハ其ノ旨直ニ特殊財産管理局長ニ届出ツヘシ

第三條　當該官吏又ハ吏員其ノ職務ヲ執行セムトスルトキハ證票ヲ携帶スヘシ

第四條　特殊財産管理局長ニ提出スヘキ書面ハ財産所在地所轄道廳ニ在ル特殊財産管理局職員ニ差出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正九年朝鮮總督府令第五十號ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別ニ規定スル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

（別記）

第一様式

番號	國籍	權利者別	住所又ハ職業　所在地	姓名又ハ名稱
		所有者		
		保管者又ハ代表者		

財産										
種別	土地	建物	預金及現金	外國貨幣	有價證券	債權	商品	特許權	其他	合計
價額又ハ金高										
備考										

参考事項

第二様式

番號

土地ニ關スル權利

權利ノ種別	登記年月日番號	所在地	地目	地積	地價	權利價額	所有權者住所地	所有權者姓名	權利
合計									

参考事項

第三様式

番號

建物ニ關スル權利

所在地	種類	坪數	價額	備考
合計				

参考事項

第四様式

番號

預金及現金

預入保管又ハ所持ノ別	金高	保管者又ハ銀行所在地	保管者又ハ銀行姓名又ハ名稱	備考

合計					

參考事項

第五様式

番號

有價證券					
種類	數量	額面高・時價	保管者又ハ保管銀行		備考
			所在地	姓名又ハ名稱	
合計					

參考事項

第六様式

番號

其ノ他ノ財産				
種類	數量	價格	所在地	備考
合計				

參考事項

●大正九年勅令第四十八號施行ニ關スル件（大正九年四月十日關東廳令第二十二號）

大正九年三月勅令第四十八號施行ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　財産ノ管理、管理ノ解除、換價其ノ他必要ナル處分ハ關東長官之ヲ爲ス

第二條　財産ノ所有者、保管者、其ノ他關係者ハ本令施行ノ際ニ於ケル財産ニ付テハ本令施行後十日內ニ本令施行後生シタル財産ニ付テハ其ノ都度財産ノ所在、種類、數量、價額、權利狀態其ノ他管理ニ必要ナル事項ヲ關東長官ニ申告スヘシ但シ獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル財産ニシテ大正九年一月十一日以後ニ生シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第三條　管理財産ノ所有者及保管者ハ管理財産ニ付キ滅失毀損若ハ變更アリタルトキ又ハ修理ヲ要スト認ムルトキハ其ノ旨直ニ關東長官ニ屆出ツヘシ

第四條　當該官吏其ノ職務ヲ執行セムトスルトキハ別記證票ヲ携帶スヘシ

第五條　第一條ノ申告及第二條ノ屆出ハ民政署長、同支署長、警務署長、同支署長ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正八年六月關東廳令第二十五號ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ別ニ規定スル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

別記

第　號		年　月　日
逸獨國等ニ屬スル財産檢査員之證		關東廳印
官		氏名

備考

一　證票ハ大サ縱三寸横二寸トス

一　裏面ニ獨逸語ノ譯文ヲ附ス

●大正九年勅令第四十八號ニ依ル管理財産タル國債ニ關スル取扱手續（大正九年三月二十七日大藏省令第十一號）

大正九年勅令第四十八號ニ依ル管理財産タル國債ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

第一條　當該官廳ニ於テ管理財産タル登録國債ニ付テ管理財産タル旨ノ登録ヲ受ケムトスルトキハ國債ノ種別、登録ノ金額、記號、番號（記名證券ノ發行アルモノニ付テハ登録ノ記號、番號ニ代フルニ證券ノ額面金額種類、記號及番號ヲ以テス）及記名ヲ記載シタル請求書ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第二條　取扱店ニ於テ國債登録簿ニ管理財産タル旨ノ登録ヲ爲シタルトキハ請求書記載ノ事項及登録濟年月日ヲ記載シタル登録濟通知書ヲ當該官廳ニ交付スヘシ

第三條　前二條ノ規定ハ登録國債ノ管理財産タルノ登録ヲ變更シ又ハ抹消スル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　國債規則ノ規定ハ當該官廳カ管理財産タル國債ニ關シテ請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正九年勅令第四十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正八年大藏省令第十六號ニ依リ爲シタル手續及登録ハ之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

●同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件（大正九年五月二十七日勅令第百七十一號）

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

第一條　獨逸國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財産ヲ以テ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第二百九十七條ニ規定スル支拂ニ充ツルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　前條ノ政府管理財産ノ上ニ存スル抵當權、質權其ノ他ノ擔保權ヲ實行セムトスルトキハ其ノ擔保權者ハ第三條乃至第六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第三條　前條ノ擔保權者ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ其ノ擔保權ヲ特殊財産管理局ニ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル屆出ニハ擔保權ノ性質及原因竝債權ノ額ヲ表示シ且證據書類又ハ其ノ謄本ヲ提出スヘシ

第四條　前條ニ規定スル期間ヲ經過シタル後屆出ヲ爲シタル擔保權者ハ擔保權ノ目的タリシ財産ノ殘餘價額ノ限度ニ於テノミ政府管理財産ニ付擔保權ヲ實行スルコトヲ得

第五條　第二條ノ擔保權ハ辨濟期ニ至ラサル債權、條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ニ付テモ之ヲ實行スルコトヲ得

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ニ付テハ擔保權ノ實行ハ特殊權利審査會ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價額ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第六條　特殊財産管理局ハ屆出アリタル擔保權ノ目的タル財産ヲ賣却シ代金ノ中ヨリ管理ノ費用ヲ控除シ其ノ殘金ヲ以テ其ノ擔保權者及之ニ優先スル權利ヲ有スル者ニ民法其ノ他ノ法令ノ規定ニ依ル順位ニ從ヒテ支拂ヲ爲スヘシ

第七條　第一條ニ規定スル支拂ヲ受ケムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ其ノ權利ニ付特殊權利審査會ニ審査ヲ請求スヘシ

特殊權利審査會ハ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル期間滿了後ニ於テモ仍審査ノ請求ヲ受理スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ラサル審査ノ請求ハ前二項ノ規定ニ依ル請求者ニ對シ支拂ヲ爲シ仍政府管理財産ニ殘餘アリト認ムル場合ニ限リ支拂ヲ爲スコトヲ條件トシテ之ヲ受理スルコトヲ得

特殊權利審査會前三項ノ規定ニ依リ審査ノ請求ヲ受理シタルトキハ其ノ請求ハ之ヲ特殊財産管理局ニ對スル支拂ノ請求ト看做ス

第八條　賠償請求ノ目的ヲ財産回收ニ依リ達セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ五月內ニ其ノ希望ヲ表示シ其ノ權利ニ付特殊權利審査會ニ審査ヲ請求スヘシ

第九條　第七條ニ規定スル審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第十條　特殊權利審査會審査ノ爲必要ト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ證據調ハ裁判所其ノ他ノ官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ證據調ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　特殊權利審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　特殊權利審査會ハ賠償請求ニ關スル審査ノ請求ヲ理由ナシト認ムル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ依リ事件ヲ管轄スル機關ニ其ノ事件ヲ送付スヘシ

第十三條　第八條ノ規定ニ依ル財産回收ノ希望ノ表示アリタル場合ニ於テハ前條ニ規定スル手續ハ其ノ回收行ハレタルトキ、回收不能ト認メタルトキ又ハ一部ニ付回收行ハレ他ノ部分ニ付回收不能ト認メタルトキ之ヲ爲スヘシ

第十四條　特殊權利審査會カ金錢債權ニ關スル審査ノ請求ニ付爲シタル決定ニ不服アル者ハ其ノ決定告知ノ日ヨリ起算シ三月內ニ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十五條　內地ニ住居ヲ有セサル者ニ對スル前條ノ訴ハ政府管理財産ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ政府管理財産ノ所在地ハ東京市トス

第十六條　朝鮮、臺灣、樺太、關東州及從前ノ占領地ニ存スル政府管理財産ハ特殊財産管理局之ヲ管理ス

第十七條　第一條ニ規定スル支拂ハ本令ニ規定スル手續ニ從ヒ確定シタル金額ニ依リ特殊財産管理局之ヲ爲ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件（大正九年十一月十八日勅令第五百三十四號）

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

大正九年勅令第百七十一號ハ墺地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財産ヲ以テ同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約第二百四十九條ニ規定スル支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件（大正十年八月九日勅令第三百七十六號）

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約ニ依ル財産處理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

大正九年勅令第百七十一號ハ洪牙利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財産ヲ以テ同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約第二百三十二條ニ規定スル支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特殊財産ノ現金ニ對シ利子ヲ附スルノ件（大正十二年八月二十九日勅令第三百八十九號）

朕特殊財産ノ現金ニ對シ利子ヲ附スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏大臣副署）

大正九年勅令第四十八號ニ依リ管理ニ付シタル政府管理財産ノ現金ニ對シテハ大藏省預金部ノ普通預金利子ヲ附スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年勅令第二百十四號ハ之ヲ廢止ス

第八輯

社寺　宗教

第八輯

社寺　宗教

第八輯　社寺　宗教

第一章　社寺

第一款　神宮及官國幣社

○神宮神號ノ太字ハ大字ヲ用ヰシム（明治五、布告二七二）……一
○神宮宮域監察規程（大正三、內訓八）……一
○神宮會計規則（大正三、內訓一）……一
○官社以下定額及神官職員規則（明治四、五、一四、布告）……三
○官國幣社以下神社ノ祭神神社名社格明細帳境內創立移轉廢合參拜拜觀寄附金講社神札等ニ關スル件（大正二、內令六）……五
○官國幣社職制（明治三五、勅令二七）……七
○官國幣社社務取扱所ノ名稱（明治七、教達甲一）……七
○官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件（明治三五、內令一）……八
○官國幣社處務規則（明治三六、內訓一一）……八
○官國幣社以下神社神職奉務規則（大正二、內訓九）……八
○官國幣社及神宮神部署神職任用令（明治三五、勅令二八）……九
○神職高等試驗施行細則（大正一四、內告一七）……九
○神職高等試驗竝神職尋常試驗手數料納付ニ關スル件（大正一五、內令四〇）……一〇
○官國幣社神職俸給規則（大正一〇、內令二七）……一〇
○官國幣社宮司權宮司旅行稟請方（明治二六、內訓一七）……一〇
○官國幣社經費ニ關スル法律（明治三九、法律二四）……一〇
○官國幣社會計規則（大正一五、內令五四）……一一
○官國幣社營繕ニ關スル規程（明治三六、內訓一〇）……二〇
○官國幣社各社共通金ヲ以テ營繕費ヲ支辨スル建物ノ種類（明治四〇、內訓一一）……二〇
○神社財產ニ關スル法律（明治四一、法律二三）……二〇
○神社財產ノ登錄ニ關スル件（明治四一、勅令一七七）……二〇
○神社ノ財產登錄及管理竝會計ニ關スル件（明治四一、內令一二）……二〇
○朝鮮神宮職員令（大正一四、勅令二七六）……二二
○官幣大社朝鮮神宮出仕ニ關スル件（大正一五、朝令四四）……二二
○官幣大社朝鮮神宮神職俸給規則（大正一四、朝令八五）……二二
○官幣大社朝鮮神宮職員旅費規則（大正一五、朝令二九）……二二
○官幣大社朝鮮神宮會計規則（大正一五、朝令二三）……二二
○官幣社神職俸給規則（大正一一、臺令一三三）……三一
○官幣大社樺太神社會計規則（明治四四、閣令六）……三一
○官幣大社樺太神社神職俸給規則（明治四四、閣令七）……三二
○官幣大社樺太神社職員旅費規則（明治四四、閣令九）……三二
○官幣大社樺太神社主典ノ定員及出仕ノ採用ニ關スル件（明治四四、閣令八）……三三
○官幣大社樺太神社神職奉務規律（明治四四、閣訓一）……三三
○官幣大社樺太神社處務規程（明治四四、閣訓二）……三三

第二款　祭式

○大祓ノ舊儀再興（明治四、六、二五、布告）……三四
○神宮祭祀令（大正三、勅令九）……三四
○神宮ニ於ケル祭式及齋戒ニ關スル件（大正三、內令三）……三四
○即位禮及大嘗祭ノ當日神宮ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件（大正四、勅令一〇八）……三四
○皇太子結婚禮當日神宮ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件（大正一三、勅令六）……三四
○天皇皇后結婚滿二十五年ノ祝儀當日神宮ニ於テ行フ臨時奉幣祭ノ祭式及祝詞（大正一四、內令八）……三五
○官國幣社以下神社祭祀令（大正三、勅令一〇）……三五
○即位禮及大嘗祭ノ當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件（大正四、勅令一〇九）……三五
○立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件（大正五、勅令二三一）……三五
○皇太子結婚禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件（大正一三、勅令七）……三五
○天皇皇后結婚滿二十五年ノ祝儀當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件（大正一四、勅令一六九）……三六
○官國幣社以下神社祭式（大正三、內令四）……三六
○官幣大社氷川神社、官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社橿原神宮及官幣大社明治神宮例祭式（大正一五、內令一二）……四〇
○大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祭式（昭和元、內令二）……四一
○官國幣社改造修繕ノトキ遷座式執行區別（明治一〇、內達丁八）……四三
○官國幣社神饌獻供方（明治一〇、內達丁五）……四三
○國幣社例祭ノ節供進スヘキ幣帛神饌料（大正九、內訓一四）……四三
○神社祭式行事作法（明治四〇、內告七六）……四三
○官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件（大正三、內令五）……四五
○神宮竝官國幣社以下神社ニ於テ恒例トシテ行フ式（大正三、內訓二）……四五
○大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祓次第（昭和元、內訓一）……四六
○靖國神社祭式（大正三、陸令二）……四六
○靖國神社齋戒ニ關スル件（大正三、陸令三）……四八
○官幣大社朝鮮神宮祭式（大正一四、朝令一一〇）……四八
○大喪中ニ於ケル官幣大社朝鮮神宮大祭式（昭和二、朝令五）……五〇
○官幣大社朝鮮神宮神職齋戒ニ關スル件（大正一五、朝令一）……五一
○神社ノ祭式恒例式及齋戒ニ關スル件（大正五、朝令四九）……五一
○大喪中ニ於ケル神社ノ祭式、恒例式及齋戒ニ關スル件（昭和二、朝令六）……五四
○神社奉仕ノ行事及作法（大正五、朝告一五七）……五五
○官幣社及縣社以下神社祭式ニ關スル件（大正一四、臺令七〇）……五七
○大喪中ニ於ケル官幣社及縣社以下神社大祭式竝中祭式（昭和二、臺令四）……五七
○官幣社及縣社以下神社神職齋戒ニ關スル件（大正三、臺令六四）……五八

第八輯

社寺　宗教

○縣社以下神社ノ鎭座祭式〔大正一二、臺令七三〕……五八
○官幣諸社祭典地方官ニ於テ執行〔明治六、布告五三〕……五八
○官國幣社新年祭新嘗祭例祭ニ地方長次官及代理參向方〔明治一六、內達乙八〕……五九
○神輿渡御ノトキ供奉者帶刀ヲ許ス〔明治九、敎達甲五〕……五九

第三款　諸社及寺院

○府縣社以下神社ノ神職ニ關スル件〔明治二七、勅令二二〕……五九
○府社縣社以下神社神職任用規則〔明治三五、內令四〕……五九
○神官神職ハ衆議院議員選擧競爭ニ關與ス可ラス〔明治二七、內訓五〕……五九
○神職職務上怠慢ノ所爲戒飭方〔明治二六、內訓一八〕……六〇
○神官ハ葬儀ニ關係セス府縣社以下神官ハ舊ニ依ル〔明治一五、內達乙七〕……六〇
○府縣社以下神社神饌幣帛料供進ニ關スル件〔明治三九、勅令九六〕……六〇
○府縣社鄉社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料金額〔大正九、內令二四〕……六〇
○町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル村社ノ神饌幣帛料供進方〔明治三九、內令二〇〕……六〇
○鄉社定則〔明治四、七、四、達〕……六〇
○社寺境內樹木濫伐禁止〔明治六、布告二三五〕……六〇
○社寺什物竝祠堂金等處分心得方〔明治六、布告二四九〕……六〇
○社寺總代人撰擧竝收入財產取調方〔明治一四、內達乙三三〕……六〇
○町村分合等ニヨリ甲乙社氏子轉換ノ際協議屆出方〔明治一五、內達乙二八〕……六一
○戊辰已巳ノ際從軍殉國ノ者私設招魂場所在地免稅祭祀竝修繕共一切官費支給方〔明治七、內達乙二二〕……六一
○招魂社及墳墓ヘ神職監守者設置竝其給料支辨方〔明治一三、內訓八〕……六一
○招魂社竝墳墓修繕處分方〔明治二三、內訓二九〕……六一
○招魂社費招魂社營繕費取扱順序〔明治二三、內訓九〕……六一
○【社】寺取扱概則〔明治一一、內達乙五七〕……六一
○寺院明細帳製式〔明治一二、內達乙三一〕……六一
○寺院創立再興復舊等出願取扱方〔明治一三、內達乙五二〕……六二
○寺院創立再興復舊等ノ建物造立期限竝取扱處分方〔明治一五、內達乙五九〕……六二
○寺院公賣處分ヲ受ケタルモノ再建期限〔明治二〇、內訓四五〕……六二
○廢寺院佛像什器處分方〔明治五、布告三三四〕……六二
○廢合寺院跡地竝建物處分規則〔明治八、內達乙一一三〕……六二
○寺院及佛堂參拜觀覽料竝寄附金募集ニ關スル取締方〔明治三一、內令六〕……六三
○寺院佛堂境內官有地木竹管理規則〔明治三六、內令二〕……六三
○寺院佛堂境內地使用取締規則〔明治三六、內令一二〕……六四
○寺院附屬ノ佛器什物記簿存置方〔明治五、敎達一二〕……六四
○寺院ニ於テ金穀借入方〔明治一〇、布告四三〕……六四
○寺院ノ物品抵當取扱方〔明治一二、內達乙三九〕……六四
○寺院ノ願伺屆書ニハ宗名ヲ記載セシム〔明治九、敎達一〇〕……六四
○離末本寺換屆出方〔明治一一、內達乙八〕……六四
○寺院輪番住職廢止本住職差置〔明治七、敎布達三〕……六四
○寺院副住職設置方〔明治九、敎達一八〕……六四
○私祭ノ神祠佛堂ヘ衆庶參拜停止及參拜出願方〔明治九、敎達三八〕……六四
○神社寺院規則〔大正四、朝令八二〕……六四
○神職任用奉務及服裝規則〔大正五、朝令五〇〕……六五
○神祠ニ關スル件〔大正六、朝令二一〕……六六
○寺刹令〔明治四四、制令七〕……六六
○寺刹令施行規則〔明治四四、朝令八四〕……六六
○寺刹ヨリ提出ノ願屆經由方〔大正二、朝訓五五〕……六七
○縣社以下神社ノ創立移轉廢止合併等ニ關スル規則〔大正一二、臺令五六〕……六七
○寺敎務所說敎所建立廢合規則〔明治三二、臺令四七〕……七〇
○臺灣舊慣ニ依ル社寺廟宇等建立廢合移轉方〔明治三二、臺令五九〕……七〇
○社、遙拜所ニ關スル件〔大正一二、臺令五七〕……七〇
○縣社以下神社神職任用規則〔明治三七、臺令一二〕……七二
○縣社以下神社神職俸給規則〔大正一三、臺令七四〕……七二
○縣社以下神社ノ總代ニ關スル規則〔大正一二、臺令五五〕……七三
○神社寺院等ノ所屬財產賣渡讓與交換其ノ他ノ處分ヲ爲ストキ取扱方〔明治三八、臺令八四〕……七三
○神社規則〔大正九、樺令四八〕……七三
○寺院規則〔大正九、樺令四九〕……七四
○社司社掌任用規則〔明治四三、樺令二九〕……七五
○關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル神社廟宇及寺院等ニ關スル件〔大正一一、勅令二六二〕……七五
○關東州及南滿洲鐵道附屬地神社規則〔大正一一、關令七八〕……七五
○關東州及南滿洲鐵道附屬地寺院、敎會、廟宇其ノ他ノ布敎所規則〔大正一一、關令七九〕……七七

第四款　古社寺保存

○古社寺保存法〔明治三〇、法律四九〕……七八
○古社寺保存法施行ニ關スル件〔明治三〇、勅令四四六〕……七八
○古社寺保存法施行細則〔明治三〇、內令三五〕……七九
○古社寺保存法ニ依ル特別保護建造物ニ對シ制札建設方〔明治三五、內訓一五〕……七九
○官國幣社及府縣鄉社古來ノ制式保存方〔明治八、達一五九〕……七九

第二章　宗敎

第一款　管長　敎師　僧侶

○寺院住職任免及敎師進退各管長ヘ委任條件〔明治一七、布達一九〕……七九
○神佛各宗派管長及舊敎導職身分取扱方〔明治一七、達七〇〕……八〇
○神佛各敎宗派事務ニ關シ內務省ヘ出願手續〔明治二二、內訓二二〕……八〇
○神佛各宗派管長海外渡航稟請方〔明治二六、內訓一三〕……八〇

○盲僧ヲ天臺宗所轄トス〔明治八、敎達二九〕……八〇
○僧侶托鉢解禁〔明治一四、內布甲八〕……八〇
○僧侶托鉢免許方竝托鉢者心得〔明治一四、內達戊二〕……八〇
○僧侶神葬祭兼行ヲ停ム〔明治七、敎布達四〕……八一

第二款　開帳　祈禱

○佛像出開帳出願手續〔明治一七、內達乙一六〕……八一
○禁厭祈禱ニ關スル取締方〔明治七、敎達乙三三〕……八一

第三款　布敎　堂宇

○神佛道敎會所規則〔大正一二、文令三二〕……八一
○神佛道外宗敎宣布及堂宇等設立ニ關スル規程〔明治三二、內令四一〕……八一
○宗敎ノ宣布又ハ儀式執行ヲ目的トスル法人設立等ニ關スル規程〔明治三三、內令三九〕……八二
○神佛敎務所說敎所取調竝諸願差出方〔明治一七、內達乙三七〕……八二
○神佛敎務所說敎所設立移轉廢合竝寺院住職進退屆出方〔明治一七、內達乙三八〕……八二
○敎院敎會所說敎所等ニ於テ平素衆庶ノ參拜社寺ニ倣フヲ停ム〔明治一四、內達戊三〕……八二
○葬儀執行ノ爲メ祠宇建設出願要件〔明治一五、內達戊一〕……八三
○布敎規則〔大正四、朝令八三〕……八三
○布敎規則〔大正九、樺令五〇〕……八三

第八輯　社寺　宗教

第一章　社寺

第一款　神宮及官國幣社

●神宮神號ノ太字ハ大字ヲ用ヰシム（明治五年九月十五日太政官布告第二百七十二號）

神宮神號太字自今大字可相用事

●神宮宮域監察規程（大正三年六月二十日内務省訓令第八號）

神宮宮域監察規程左ノ通定ム

神宮大宮司

神宮宮域監察規程

第一條　神宮司廳ニ宮域監察ヲ置ク宮域監察ハ兩宮及各別宮宮域内ニ於ケル左ノ事項ヲ監察スルモノトス

一　規律ノ弛張

二　勤務員（宿衛、神宮警衛部及神宮神部署職員等宮域内全般ノ勤務員ヲ云フ）ノ勤惰能否

三　事務ノ繁簡整否

四　諸般規定實施ノ狀況及便否

五　諸般ノ經營及施設ノ舉否得失

第二條　宮域監察ハ神宮司廳高等官ノ中ヨリ大宮司之ヲ命ス

第三條　宮域ノ監察ハ晝夜不定時之ヲ行フヘシ

第四條　宮域監察ハ第一條各號ノ外勤務員ノ風儀動作其ノ他外部ニ對スル關係等ニ對シ常ニ注意ヲ爲スヘシ

第五條　宮域監察ノ職務執行上ノ要求ニ對シテハ各勤務員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　宮域監察ハ監察ノ成績上必要ト認メタル事項ハ其ノ狀況及意見ヲ大宮司ニ上申スヘシ

●神宮會計規則（大正三年三月十二日内務省訓令第一號）

改正　大正一三年第一二號

神宮大宮司

明治三十三年十月訓第九三八號神宮會計規則左ノ通改正ス

神宮會計規則

第一章　總則

第一條　會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條　各年度ニ屬スル經費定額ハ之ヲ他ノ年度ニ屬スル經費ニ充ツルコトヲ得ス

第三條　金錢ノ出納ニ關スル事項ハ毎年度決定ノ豫算ニ據リ施行スヘシ

第四條　會計ノ收支所屬年度ハ左ノ區分ニ依ルヘシ

收入所屬年度

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ告知書ヲ發スルモノハ其ノ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

支出所屬年度

一　俸給、諸手當、旅費、手數料等ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

二　工事及物件費ノ類ハ工事又ハ物件ノ受渡ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約履行ノ數年ニ涉ルモノハ毎年度既成部分ニ對スル仕拂金額ヲ以テ其ノ年度ノ所屬トス

三　前各號ノ類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂切符ヲ發行シタル日ノ屬スル年度

第五條　一會計年度ニ屬スル收支ハ翌年度五月三十一日迄ニ完結スヘシ

第六條　收入支出ハ其ノ都度神宮大宮司ノ命令ニ依リ會計課長之ヲ執行スヘシ

第二章　費途區分

第七條　神宮費ハ幣帛神饌料、國庫供進金、諸收入ヲ收入トシ神宮祭儀、警衛其ノ他神宮司廳ニ要スル一切ノ經費ヲ支出トス

神宮費收入ニ不足アルトキハ神宮別途費ヨリ之ヲ補充スルコトヲ得

第八條　神宮別途費ハ神宮神部署、徴古館、農業館ニ屬スル收入及本費支辨ニ屬スル事項ヨリ生スル一切ノ收入金ヲ收入トシ神宮神部署、徴古館、農業館ニ要スル經費及他ノ費途ニ屬セサル一切ノ經費ヲ支出トス

第九條　神宮皇學館費ハ神宮皇學館資金ノ利子、授業料、雜收入及神宮別途費繰入金ヲ收入トシ神宮皇學館ニ要スル一切ノ經費ヲ支出トス

第十條　神宮皇學館恩賜獎學費ハ恩賜金利子ヲ收入トシ神宮皇學館學生獎學ニ關スル經費ヲ支出トス

第十一條　神宮職員退隱金費ハ神宮職員退隱金資金ノ利子ヲ收入トシ神宮職員ノ退隱金、遺族扶助金、退官賜金及退職賜金ヲ支出トス但シ利子收入ニテ不足アルトキハ資金ヲ繰入ルヽコトヲ得

第十二條　用途指定ノ寄附金及其ノ利子ハ寄附者ノ意思ニ反シテ消費スルコトヲ得ス

第三章　豫算

第十三條　豫算ハ款、項、目ニ區分シ調製スヘシ但シ目ヲ設クルノ必要ナキモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

豫算ニハ收入ノ性質支出ノ目的及其ノ算出ノ基礎ヲ明瞭ニスヘシ

第十四條　豫算ハ毎年度當該年度二箇月前迄ニ調製シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事其ノ他ノ事業ハ繼續費トシテ其ノ總額及年割額ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　豫算決定後避クヘカラサル經費ノ不足ヲ生シ又ハ豫算外ニ必要ノ經費ヲ生シタルトキハ追加豫算ヲ調製シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用スルコトヲ得ス

豫算各款ノ金額ハ流用スルコトヲ得ス又内務大臣ノ認可ヲ經ルニアラサレハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十八條　神宮職員退隱金費豫算不足ヲ生シタル場合ニ於テハ當該資金ヨリ之ヲ補充スルコトヲ得

第四章　收入

第十九條　神宮ニ屬スル收入金ハ告知書ヲ發シテ神宮現金取扱方ニ納入セシムルカ又ハ會計課長ニ於テ收納スヘシ

第二十條　神宮皇學館、徴古館、農業館、神樂殿及神宮神部署支署ニ屬スル收入金ハ收入員ニ於テ現金ヲ收納スルコトヲ得

第二十一條　會計課長ニ於テ收納シタル現金ハ即日金額事由ヲ詳記シタル收納證憑書ヲ以テ神宮現金取扱方ニ預ケ入ルヘシ

收入員ニ於テ受入レタル現金ハ特別ノ規定アルモノヽ外即日之ヲ神宮現金取扱方ニ預ケ入レ翌日中ニ内譯書ヲ以テ會計課長ニ送付ノ手續ヲナスヘシ

遠隔ノ廨衙ニ於ケル收入員ノ取扱ニ係ルモノニシテ五十圓未滿ノ金員ハ翌月五日迄ニ前項ノ手續ヲナスヘシ

收入員ニ於テ受入レタル賽物ニシテ即日金額ヲ調査スルコト能ハサルモノハ三日以内ニ金員調査ヲ爲シ第二項ノ手續ヲナスヘシ

第二十二條　出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及過渡、誤拂ノ返納金ハ現年度收入ニ受入ルヘシ

第五章　支出

第二十三條　會計課長ニ於テ金錢ノ仕拂ヲ執行セントスルトキハ其ノ金額事由ヲ詳記シタル仕拂證憑書ニ據リ仕拂切符ヲ發行シ之ヲ債主ニ交付シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ但シ領收證書ヲ徴スルコト能ハサルトキハ主任者ニ於テ仕拂證明書ヲ製シ之ニ代フルコトヲ得

遠隔地ニ對スル仕拂ハ仕拂切符ヲ現金取扱方ニ交付シ現金取扱方ヲシテ送金セシメ領收證書ヲ徴スヘシ

第二十四條　會計課長ハ仕拂切符發行前證憑書ニ基キ其ノ經費ハ正當ニシテ必要ナルヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第二十五條　仕拂切符ハ正當ナル債主又ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニアラサレハ發行スルコトヲ得ス但シ左ノ經費ニ限リ現金ノ仕拂ヲ爲サシムル爲主任者ニ對シ現金前渡ノ仕

拂切符ヲ發行スルコトヲ得

一　遠隔地ノ廨衙ニ於テ仕拂フ經費

二　出張先ニ於テ仕拂ヲ要スル經費

第二十六條　官公衙ニ仕拂フ經費ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　旅費及修學旅行手當ハ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　過渡、誤拂ニ係ル返納金ハ其ノ年度內ニ在リテハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルヘシ

第二十九條　過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲サントスルトキハ現年度豫算內ヨリ支出スヘシ

第六章　決算

第三十條　收支決算及資金收支明細書ハ年度後四箇月以內ニ內務大臣ニ報告スヘシ

第三十一條　仕拂ノ證憑書ハ正當受取人ノ領收證書工事又ハ物件ノ購買借入ニ關スル契約書及決議書其ノ他仕拂ノ所由竝計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但シ事ノ複雜ニ涉ルモノハ明細書若クハ說明書ヲ添付シ又臨時特殊ニ係ル事項ハ內務大臣ノ認可書又ハ命令書ヲ添付スヘシ

第三十二條　收入ノ證憑書ハ現金取扱方ノ領收濟報告書又ハ振替貯金ノ受入通知書及物件ノ品質、數量、金額、事由ヲ明記セル內譯書等トス但シ物品ノ賣拂貸下等ノ收入ニ關シテハ該處分決議書及契約書等ヲ添付スヘシ

第七章　定額繰越

第三十三條　年度內ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ其ノ年度內ニ經費ノ支出ヲ終ラサリシトキハ內務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ金額ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第三十四條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事又ハ製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ每年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スヘシ

第八章　工事又ハ物件ノ賣買貸借

第三十五條　神宮ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競爭入札ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競爭ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

一　一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

二　祕密ヲ要スヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

三　非常急遽ノ際工事又ハ物件ノ買入借入ヲ爲スニ競爭ニ付スル暇ナキトキ

四　特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニヨリ生產製造ノ場所又ハ生產者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

五　特別ノ技術家ニ命スルニアラサレハ製造シ得サル製造品又ハ機械ヲ買入ル、トキ

六　土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造ニ限アルトキ

七　豫定價格二千圓ヲ超ヘサル工事又ハ物件ノ買入借入ヲナストキ

八　見積價格千圓ヲ超ヘサル動產ヲ賣拂フトキ

九　試驗ノ爲工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

十　官署、公署及公共團體ヨリ物件ノ買入借入ヲナストキ

十一　前各號ニ揭クル場合ノ外特別ノ事由アルニヨリ內務大臣ニ於テ隨意契約ノ認可ヲ與ヘタルトキ

第三十六條　工事又ハ物件ノ購入ニシテ無制限ノ競爭ニ付スルヲ不利トスルトキハ指名競爭ニ付スルコトヲ得

第三十七條　前二條ニヨリ競爭ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ第四十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意ノ契約ヲナスコトヲ得但シ之カ爲最初競爭ニ付スルトキ定メタル價格及其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十八條　一廉千圓以上ヲ要スル新營ノ工事及一廉二千圓以上ヲ要スル修繕ノ工事ハ其ノ都度該設計書ヲ具シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條　不動產ノ賣買ハ其ノ都度事由ヲ具シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條　工事五百圓以上ヲ要シタル新營及千圓以上ヲ要シタル修繕ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其ノ工事ヲ監督シタル吏員ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ

契約ニ依リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部ヲ仕拂ハントスルトキハ特ニ檢査員ヲ命シテ事實ヲ調査シ調書ヲ作ラシムヘシ

會計課長ハ前各項ノ調書ニ依ルニアラサレハ仕拂ヲ執行スルコトヲ得ス又前項ノ場合ニ於ケル工事ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九物品ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユヘカラス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額マテヲ仕拂フコトヲ得

第四十一條　工事又ハ物件供給ノ競爭ニ加ハラントシ若クハ其ノ契約ヲ結ハントスル者ニハ其ノ工事又ハ物件ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明セシムヘシ但シ特ニ內務大臣ノ認可ヲ經テ競爭者ノ資格ヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

工事又ハ物件ノ賣買貸借ノ競爭ニ加ハラントシ若クハ其ノ契約ヲ結ハントスル者ニハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納メシムヘシ

第四十二條　前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ神宮大宮司之ヲ定ムヘシ

一　競爭ニ加ハラントスル者ハ其ノ事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

二　契約ヲ結ハントスル者ハ其ノ事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第四十三條　入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其ノ入札期日ヨリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ但シ要急ノ場合ニ於テハ公告期間ヲ七日迄ニ短縮スルコトヲ得

第四十四條　前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

一　競爭入札ニ付スル事項

二　契約書案ヲ示ス場所

三　競爭執行ノ場所日限及時刻

四　入札ノ保證金額

第四十五條　神宮大宮司若クハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ其ノ競爭入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第四十六條　開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札人出席セサルカ又ハ出席セサルモノアルトキハ入札ニ關係ナキ吏員ヲシテ開札ニ立會セシムヘシ一旦提出シタル入札書ハ引換變更又ハ取消ヲナサシムルコトヲ得ス

競爭加入ノ資格ナクシテ爲シタル者ノ入札ハ無效トス

第四十七條　開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第四十五條ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條　落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第四十九條　競爭ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競爭ヲ行フヘシ但シ本條ノ場合ニ於テハ第四十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第五十條　工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其ノ契約セントスル事項ノ細密ナル設計仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分其ノ他一切必要ナル條件ヲ揭クヘシ

第五十一條　契約ハ神宮大宮司若クハ特ニ其ノ委任ヲ受ケタル吏員其ノ契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第五十二條　隨意契約書ハ第五十條及第五十一條ニ準據シ調製スヘシ但シ一口千圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

第五十三條　隨意契約ノ場合ニ於テハ神宮大宮司ノ見込ニ依リ第四十一條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

第五十四條　競爭ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ第四十一條ニ依ル保證金ハ神宮ノ所得トナス

第九章　資金

第五十五條　資金ノ種別左ノ如シ

一　第一豫備金

二　第二豫備金

三　神宮皇學館資金

四　徵古館農業館資金

五　神宮職員退隱金資金

六　神宮皇學館恩賜獎學賜金

七　用途指定資金

第五十六條　第一豫備金ハ神宮費、第二豫備金ハ神宮別途費ニ充用スルコトヲ得

第五十七條　神宮皇學館資金ノ利子ハ神宮皇學館費ニ充テ其元額ハ支消セサルモノトス

第五十八條　徵古館農業館資金ノ利子ハ館費ニ充ツルモノトス

前項ノ利子ハ元額十万圓ニ達スルマテハ之ヲ支消スルコトヲ得ス

第五十九條　神宮別途費收入中ヨリ第二豫備金ニ積立ヲ爲スヘシ其ノ額ハ每年度豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第六十條　神宮費ノ剩餘ハ第一豫備金ニ神宮別途費ノ剩餘ハ第二豫備金ニ編入スルモノトス

第六十一條　神宮皇學館費ノ剩餘ハ神宮皇學館資金ニ編入スルモノトス

第六十二條　徵古館、農業館ノ收入ノ半額ハ該資金ニ積立ツヘシ

第六十三條　神宮職員退隱金資金ハ神宮別途費收入ヨリ積立ヲ爲スヘシ但シ其ノ額ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條　神宮奉齋會償還金ハ神宮職員退隱金資金ニ編入スルモノトス

第六十五條　資金ハ公債證書若クハ政府ノ特別保護ヲ受クル銀行會社ノ株券、債券トナスカ中央金庫、本支金庫、郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ保管スヘシ但シ銀行ニ預ケ入レヲナストキハ相當擔保ヲ徵スヘシ

第六十六條　特別ノ經費ニ充ツル爲積立テタル金額ハ資金取扱ノ例ニ準シ保管スヘシ

第十章　出納員（會計課長、收入員、現金前渡ヲ受ケタル吏員）

第六十七條　會計課長ハ神宮大宮司ノ命ヲ受ケ神宮ニ屬スル有價證券及現金ノ保管出納ヲ取扱フモノトス

第六十八條　收入員ハ神宮大宮司之ヲ命ス

收入員ハ本規則其ノ他ノ定ムル所ニ依リ收入金ノ收納ヲ取扱フモノトス

第六十九條　會計課長疾病其ノ他ノ事故ノ爲事務ヲ執ルコト能ハサルトキハ神宮大宮司ハ臨時代理員ヲ命スルコトヲ得

第七十條　出納員ハ其ノ職務ニ屬スル事務ニ付一切ノ責任ヲ負フモノトス

第七十一條　出納員ハ其ノ職務ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス但シ特ニ事務代理ヲ置キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十二條　神宮大宮司ハ出納員ノ所爲怠慢ニ因リ損失ヲ生シタリト認ムルトキハ內務大臣ヘ經伺ノ上損失金ヲ辨償セシムルコトヲ得

第七十三條　出納員水火盜難等ノ場合ニ於テ避ケ得ヘカラサル事故ニ因リ現金又ハ有價證券ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ事實ヲ神宮大宮司ニ證明スヘシ

前項ノ場合ニ於テ神宮大宮司ハ其ノ實況ヲ調査シ內務大臣ヘ經伺ノ上出納員ノ責任ヲ解除スルコトヲ得

第七十四條　收入員及現金前渡ヲ受ケタル吏員ハ現金出納計算書ヲ調製シ年度經過後二箇月以內、轉免等ノ場合ハ一箇月以內ニ神宮大宮司ニ報告スヘシ但シ臨時ノ收入員及現金前渡ヲ受ケタル吏員ハ其ノ事項結了後一箇月以內ニ報告スヘシ

收入員及現金前渡ヲ受ケタル吏員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自身計算書ヲ調製シ能ハサルトキハ神宮大宮司ハ他ノ吏員ニ命シ之ヲ調製セシムヘシ

第七十五條　會計課長ハ內務省ノ檢査ニ依リ責任ヲ解除セラル、迄其ノ會計上ノ責任ヲ免カル、コトヲ得ス

第七十六條　收入員及現金前渡ヲ受ケタル吏員ハ神宮大宮司ヨリ責任ヲ解除セラル、迄其ノ會計上ノ責任ヲ免カル、コトヲ得ス

第十一章　會計ノ監督

第七十七條　出納員ノ金櫃帳簿ハ神宮大宮司ニ於テ隨時檢査スルモノトス

第十二章　帳簿

第七十八條　帳簿ハ左ノ通設備スヘシ

收入簿　支出簿

各費受拂簿　資金受拂簿

預金受拂簿　有價證券明細簿

第七十九條　收入員及現金前渡ヲ受ケタル吏員ハ現金出納簿ヲ設備スヘシ

第十三章　雜則

第八十條　頒布大麻曆ニ關スル收入金及支出金ノ送金ハ郵便振替貯金ノ法ニ據ルコトヲ得

第八十一條　神御衣御料絹布及大麻曆原料ノ購入ハ年度開始前契約ヲ締結スルコトヲ得

第八十二條　各會計ニ於テハ相互ニ一時現金ノ繰替ヲナスコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ年度內ニ之ヲ返還スヘシ

第八十三條　各會計ニ於テ一時現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ郵便貯金トシ又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入ル、コトヲ得但シ銀行ニ預入レヲナストキハ相當ノ擔保ヲ徵スヘシ

第八十四條　現金出納ヲ取扱ハシムル爲神宮現金取扱方ニ對スル命令ハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十五條　本規則ニ依リ內務大臣ヘ提出スヘキ豫算決算等ノ樣式ハ神宮大宮司之ヲ定ムヘシ

第八十六條　本規則ニ定ムルモノ、外出納員ノ現金取扱及收支ノ證明其ノ他會計ニ關スル細則ハ神宮大宮司之ヲ定ムヘシ

附則

本規則ハ大正三年四月一日ヨリ施行ス但シ第六十二條ハ大正四年度ヨリ施行ス

明治三十三年十月訓第九三八號神宮會計規則同年十二月訓第一二〇五號神宮會計規則補則明治三十六年四月訓第二六〇號神宮資產管理規則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

現在ノ第一蓄積金ハ本規則ニ依ル神宮皇學館資金、神宮費剩餘金ハ第一豫備金第二蓄積金ハ第二豫備金、永世神樂同御饌料ハ用途指定資金トス

●官社以下定額及神官職員規則

（明治四年五月十四日太政官布告）

官社以下定額及【神官職員】規則等別紙ノ通被仰出尤府藩縣社鄕社ノ分ハ先達テ差出候明細書ヲ以テ取調區別ノ上追テ神祇官ヨリ差圖ニ可及候條其節万端處置ノ儀同官ヘ可相伺事

一　神官從來ノ敍爵總テ被止候事

一　官社以下府藩縣社鄕社神官總テ其地方貫屬支配タルヘク本籍ノ儀ハ士族民ノ內適宜ヲ以テ編籍可致事

別紙

官社

○官幣大社

賀茂別雷神社	山城國
賀茂御祖神社	同上
石清水八幡宮	同上
松尾神社	同上
平野神社	同上
稻荷神社	同上
大神神社	大和國
大和神社	同上
石上神宮	同上
春日神社	同上
廣瀨神社	同上
龍田神社	同上
丹生川上神社	同上
枚岡神社	河內國
大鳥神社	和泉國
住吉神社	攝津國

生國魂神社	同上
廣田神社	同上
氷川神社	武藏國
安房神社	安房國
香取神宮	下總國
鹿島神宮	常陸國
三島神社	伊豆國
熱田神宮	尾張國
日吉神社	近江國
日前神宮	紀伊國
國懸神宮	同上
出雲大社	出雲國
宇佐神宮	豐前國
霧島神宮	大隅國
伊弉諾神社	淡路國
香椎宮	筑前國
宮崎神宮	日向國
橿原神宮	大和國
平安神宮	京都府
氣比神宮	越前國
鹿兒島神宮	大隅國
鵜戸神宮	日向國
淺間神社	駿河國
建部神社	近江國
札幌神社	石狩國
臺灣神社	臺灣島
宗像神社	筑前國
吉野神宮	大和國
樺太神社	樺太
月山神社	羽前國
多賀神社	近江國
阿蘇神社	肥後國
筥崎宮	筑前國
明治神宮	武藏國
八坂神社	山城國
日枝神社	武藏國
竈山神社	紀伊國
熊野座神社	紀伊國
熊野速玉神社	紀伊國
諏訪神社	信濃國
朝鮮神社	朝鮮
丹生都比賣神社	紀伊國
○官幣中社	
白峰宮	山城國
赤間宮	長門國
水無瀬宮	攝津國
鎌倉宮	相摸國
井伊谷宮	遠江國
八代宮	肥後國
梅宮神社	山城國
貴船神社	同上
大原野神社	同上
吉田神社	同上
北野神社	山城國
金鑚神社	武藏國
金崎宮	越前國
太宰府神社	筑前國
生田神社	攝津國
長田神社	同上
海神社	播磨國
英彦山神社	豐前國
嚴島神社	安藝國
住吉神社	長門國
吉備津神社	備中國
伊太祁曾神社	紀伊國
御上神社	近江國
臺南神社	臺灣
以上大中【三十五】社【神祇官】所祭爲官幣社	
○官幣小社	
大國魂神社	武藏國
波上宮	沖繩縣
竈門神社	筑前國
住吉神社	同上
志賀海神社	同上
○別格官幣社	
談山神社	大和國
護王神社	山城國
小御門神社	下總國
菊池神社	肥後國
湊川神社	攝津國
名和神社	伯耆國
阿部野神社	攝津國
藤島神社	越前國
結城神社	伊勢國
豐榮神社	周防國
建勳神社	山城國
豐國神社	同上
東照宮	下野國
常磐神社	常陸國
照國神社	薩摩國
靖國神社	武藏國
靈山神社	岩代國
梨木神社	山城國
東照宮	駿河國
四條畷神社	河內國
唐澤山神社	下野國
上杉神社	羽前國
尾山神社	加賀國
野田神社	周防國
○國幣大社	
氣多神社	能登國
大山祇神社	伊豫國
高良神社	筑後國
多度神社	伊勢國
熊野神社	出雲國
南宮神社	美濃國
○國幣中社	
敢國神社	伊賀國
淺間神社	甲斐國
寒川神社	相摸國
鶴岡八幡宮	同上
玉前神社	上總國
貫前神社	上野國
二荒山神社	下野國
二荒山神社	同上
都々古別神社	磐城國
都々古別神社	同上
伊佐須美神社	岩代國
志波彦神社	陸前國
鹽竈神社	同上
大物忌神社	羽後國
若狹彦神社	若狹國
射水神社	越中國
彌彦神社	越後國
出雲神社	丹波國
籠神社	丹後國
出石神社	但馬國
宇倍神社	因幡國
水若酢神社	隱岐國
中山神社	美作國
安仁神社	備前國
忌部神社	阿波國
大麻比古神社	同上
田村神社	讚岐國
土佐神社	土佐國
西寒多神社	豐後國
田島神社	肥前國
住吉神社	壹岐國
海神神社	對馬國
金刀比羅宮	讚岐國
大洗磯前神社	常陸國
酒列磯前神社	同上
美保神社	出雲國
新田神社	薩摩國
函館八幡宮	渡島國
生島足島神社	信濃國
伊和神社	播磨國
眞清田神社	尾張國
白山比咩神社	加賀國
玉祖神社	周防國
諏訪神社	肥前國
大縣神社	尾張國
速谷神社	安藝國
○國幣小社	
砥鹿神社	三河國
小國神社	遠江國
水無神社	飛驒國
駒形神社	陸中國
岩木山神社	陸奧國
出羽神社	羽前國
湯殿山神社	同上
古四王神社	羽後國
度津神社	佐渡國
大神山神社	伯耆國
日御碕神社	出雲國
物部神社	石見國
沼名前神社	備後國
都農神社	日向國

枚聞神社	薩摩國
神部神社	駿河國
淺間神社	同上
大歳御祖神社	同上
戸隱神社	信濃國
菅生石部神社	加賀國
須佐神社	出雲國
藤崎八幡宮	肥後國
忌宮神社	長門國
柞原八幡宮	豐後國
高瀬神社	越中國
津島神社	尾張國
以上中小【六十二】社地方官所祭爲國幣社	

右官幣國幣社通計【九十七】社【神祇官】管之

諸社

○府社

○【藩社】

○縣社

府【藩】縣崇敬ノ社

○鄉社

鄉邑產土神

右地方官管之

官幣國幣官社以外府【藩】縣社鄉社ニ等ヲ以テ天下諸社ノ等差トス右官社定額ノ外式內及國史見在ノ諸社期年檢查ヲ經テ更ニ官社ニ列スヘシ【但四時祭官幣ノ列ハ方今神祇官ニ請シテ祭之】

職員規則（改正ニ付畧ス）

（本令中神社名ノ改正ハ正式ヲ以テ公布セラレサルモノモ多々ナレハ一々掲記スルコト能ハス依テ其改正ノ年月日及ヒ公文番號等ハ總テ畧ス）

●官國幣社以下神社ノ祭神神社名社格明細帳境內創立移轉廢合參拜拜觀寄附金講社神札等ニ關スル件

大正二年四月二十一日　內務省令第六號
改正　大正三年第二二號、一五年第三三號
昭和二年第一四號

官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境內、創立、移轉、廢合、參拜、拜觀、寄附金、講社、神札等ニ關スル件左ノ通定ム

第一章　祭神、神社名、社格、明細帳

第一條　祭神ノ決定、變更又ハ訂正ヲ請ハムトスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ

第二條　別格官幣社靖國神社ノ祭神ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ緣故アル地方ノ招魂社ニ合祀スルコトヲ得

第三條　祭神ノ靈代ハ公衆ニ拜觀セシムルコトヲ得ス

當該神職ハ特別ノ事由アルトキニ限リ官國幣社ニ在リテハ內務大臣、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ拜觀スルコトヲ得

第四條　神社名ノ變更ヲ請ハムトスルトキハ官國幣社ニ在リテハ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ、府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スヘシ

前項ニ依ル地方長官ノ處分ニシテ神社名ヲ宮名ニ改稱若ハ復稱シ又ハ延喜式內社、國史所載社其ノ他特別由緒アル神社ノ神社名ヲ變更セムトスルモノナルトキハ內務大臣ニ稟請スヘシ

第五條　招魂社ハ其ノ社名中ニ招魂社ナル文字ヲ用フヘキモノトス

第六條　社格ノ變更又ハ訂正ハ由緒其ノ他特別ノ事由アルニ非サレハ詮議セサルモノトス

社格ノ變更又ハ訂正ノ詮議ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ハ之ヲ內務大臣ニ具申スルコトヲ得

第七條　神社、建物アル遙拜所及官修墳墓ニ付テハ地方長官ハ別記樣式ニ依リ其ノ明細帳二通ヲ調製シ一通ヲ內務大臣ニ進達スヘシ

第八條　神社、建物アル遙拜所ノ管理者及官修墳墓ノ監守者ハ明細帳ノ樣式ニ準シ調製セル明細書ヲ備付クヘシ

第九條　明細帳ニ脫漏ノ神社ハ其ノ編入ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得編入ノ許可ヲ受ケタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第十條　神社ハ明細帳ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ其ノ訂正ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十一條　北海道ヲ除クノ外祭神ノ決定、變更、訂正又ハ明細帳脫漏神社ノ編入ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ニ於テ內務大臣ニ稟請スヘシ但シ明細帳脫漏神社ノ編入ニシテ編入ト同時ニ之ヲ他ノ神社ニ合併セントスルモノナルトキハ官國幣社、延喜式內社、國史所載社、特別由緒アル神社ニ係ルモノヲ除クノ外稟請ヲ要セス

第二章　境內

第十二條　新ニ境內地ヲ設定シ又ハ從來ノ境內地ヲ擴張セムトスルトキハ左ノ制限ニ超過スルコトヲ得ス但シ特別ノ緣故、土地ノ狀況等ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

官國幣社	五千坪
府縣社	千五百坪
鄉社	千坪
村社	七百坪
招魂社	千五百坪
其ノ他ノ神社	五百坪

第十三條　神社ニ於テ其ノ境內地ノ設定、增減又ハ模樣替ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ地方長官ニ於テ之ヲ許可セムトスルトキハ官國幣社境內地ノ模樣替ニ付テハ內務大臣ニ稟請スヘシ

第十四條　境內地ニシテ古墳若ハ其ノ傳說又ハ特別ノ由緒アル地域ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス

地方長官ニ於テ之ヲ許可セムトスルトキハ官國幣社境內地ニ付テハ內務大臣ニ稟請スヘシ

第十五條　神社ハ地方長官ノ指揮ヲ受ケ境內ニ管轄地方廳名ノ制札ヲ建設スルコトヲ得

制札ニ記載スヘキ禁止事項ノ概目左ノ如シ

一　車馬ヲ乘入ルコト
一　魚鳥ヲ捕ルコト
一　竹木ヲ伐ルコト

第十六條　境內地ノ木竹ニシテ由緒アルモノ及風致ニ必要ナルモノハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第十七條　境內地ニ於テ枯損木竹又ハ障碍木竹ヲ採取セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ北海道廳支廳竝ニ府縣支廳ノ管內及市ノ區域ニ在ル鄉社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ノ許可ヲ受クルモノトス

第十八條　官國幣社ノ本殿及其ノ周圍ノ垣、幣殿、拜殿、鳥居、神饌所、社務所又ハ府縣社以下ノ神社ノ本殿、幣殿、拜殿鳥居ノ造修用材ニ必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ境內地ノ木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ神社ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除クノ外樹木ニ付テハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

一　目通五尺以上一丈未滿ノ樹木ノ一割
一　目通一尺以上五尺未滿ノ樹木ノ二割

前項ニ該當セサル建造物ト雖古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第十九條　前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ムヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十條　民有借地境內地ノ木竹ニシテ地主ノ所有タル確證アルモノハ地主ヨリ神社ニ要求シ神社ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキニ限リ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十一條　境內地ノ林藪經營上必要ナル間伐ヲ爲サムトスルトキハ豫メ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十二條　境內地ノ林藪ニシテ五町歩以上ニ涉ルモノニ付テハ特ニ保護竝施業ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ五町歩以下ノモノト雖地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第二十三條　監督官廳ニ於テ境內地ノ林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十四條　境内地ニ於テ土石、切芝又ハ樹根ノ採取ヲ爲サムトスルトキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ但シ北海道廳支廳竝ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル鄕社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ニ届出ツルモノトス

行政廳前項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ由緒又ハ風致上必要ト認ムルトキハ其ノ採取ヲ禁止スルコトヲ得

第二十五條　境内地ニ接續スル土地ニ火入ヲ爲サムトスル者ハ境内ニ對スル防火ノ設備ヲ爲シ警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　境内地ニハ國家ニ功勞アルモノ又ハ頌揚スヘキ事蹟アルモノニ非サレハ其ノ碑表又ハ形像ヲ建設スルコトヲ得ス

前項ノ碑表又ハ形像ハ建設ヲ竣ルト同時ニ無條件ニテ神社ノ所有ニ移スモノニ非サレハ神社ハ其ノ建設ヲ承認スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ碑表又ハ形像建設取締ニ關スル他ノ規程ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條　境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其ノ神社以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一　一時限リノ使用

一　參拜者休息所等其ノ使用一年以内ニ止マルモノ

一　公益ノ爲ニスル使用ニシテ境内地ノ目的ヲ損セサルモノ

前項ノ使用ヲ爲サムトスル者ハ神社ノ承認ヲ得地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ一時限リ使用ハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス

第二十八條　地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ境内地ノ使用ヲ禁止シ若ハ停止シ又ハ建設物ノ改造撤却其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一　制規ノ手續ヲ經サルトキ

一　期限ヲ經過シタルトキ

一　神社ノ爲メ必要アリト認メタルトキ

一　公益上必要アリト認メタルトキ

一　法令若ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ

第二十九條　境内地ニ近接シ風致上必要ナル社有林ニ付テハ地方長官ニ於テ其ノ區域ヲ指定シ境内地ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得

第三十條　本章ノ規定ハ建物アル遙拜所ニ之ヲ準用ス

第三章　創立、移轉、廢合

第三十一條　祭神ノ事蹟顯著ニシテ土地ノ情況又ハ緣故等特別ノ事由アルニ非サレハ神社ヲ創立スルコトヲ得ス

第三十二條　神社ヲ創立セムトスルトキハ氏子又ハ崇敬者トナルヘキ者五十人以上ノ連署ヲ以テ創立ノ事由ヲ具シ左記事項ニ關スル調書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　祭神及神社名

二　由緒

三　社殿

四　鎭座地及境内地

五　建設費及其ノ處辨方法

六　維持方法

第三十三條　神社創立ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ社殿ヲ建設セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ年限ヲ延長スルコトヲ得

建設ヲ竣リタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第三十四條　前三條ノ規定ハ神社ノ再興、復舊及建物アル遙拜所ノ建設竝私祭神祠ヲ神社ト爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　官國幣社ニ於テ其ノ攝末社ノ指定又ハ廢止ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ具申スヘシ

第三十六條　神社ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ移轉先ノ社地及建物ノ圖面ヲ添ヘ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ移轉ヲ了ラサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ年限ヲ延長スルコトヲ得

移轉ヲ了リタルトキハ神社ニ於テ明細帳ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ

第三十七條　神社及建物アル遙拜所ヲ廢止シ又ハ合併セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ廢止又ハ合併ヲ了リタルトキハ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十八條　道府縣ニ渉リ神社ヲ移轉シ又ハ合併セムトスルトキハ關係地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三十九條　地方長官ニ於テ前三條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ官國幣社、延喜式内社、國史所載社、特別由緒アル神社ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第四十條　社殿亡失シタル後五年以内ニ再建セサル神社ハ廢止シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ハ年限ヲ延長スルコトヲ得

第四章　參拜、拜觀、寄附金、講社、神札

第四十一條　神社ハ何等ノ名義ニ拘ラス參拜ノ爲メ料金ヲ徴收スルコトヲ得ス

第四十二條　神社ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建造物、寶物等ヲ拜觀セシムル爲メ料金ヲ徴收スルコトヲ得ス

第四十三條　神社又ハ神社ノ爲メニスル者ニ於テ寄附金ノ募集ヲ爲サムトスルトキハ其ノ目的、方法、金額、區域、期間及募集員ノ身元ヲ具シ神社所在地地方長官ノ許可ヲ受ケタル上更ニ募集地地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ノ許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

神社ノ爲メニ寄附金募集ヲ爲サムトスル者ハ豫メ神社ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

寄附金ノ募集ニ關シ神社ノ尊嚴ヲ瀆シ其ノ他不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第四十四條　神社ニ於テ其ノ附屬ノ講社其ノ他ノ團體ヲ組織セムトスルトキハ其ノ目的、方法等ヲ記載シタル規約書ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四十五條　神社ニ於テ神札授與ノ爲出張所ヲ設ケタルトキハ出張所所在地地方長官ニ届出ツヘシ

第五章　罰則

第四十六條　第二十五條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ同條第二項ニ依ル命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十七條　神社ノ爲メニスル者ニ於テ第四十三條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ同條第三項ニ依ル命令ニ違背シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

第四十八條　本令施行前調製シタル明細帳ハ第七條ニ依リ調製シタルモノト看做ス

附　則（大正十五年内務省令第三十三號）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル境内地ノ土石、切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲サムトスル許可ノ申請ニシテ本令施行ノ際仍其ノ許可ヲ得サルモノニ付テハ之ヲ本令ニ依ル届出ト看做ス

（別記）

第一號樣式

官國幣社明細帳（美濃罫紙）

道府縣　國　郡市　區　町村　大字　字

鎭座

（社格）（神社名）

一祭神　（神名）（座數）

配祀　（神名）

一由緒

一例祭　（月日）

一本殿　（建坪）

造營ノ沿革

一境内　（坪數）

一氏子　（戸數）

一境内神社

（神社名）

祭神　（神名）

由緒

社殿　（種類）

造營ノ沿革

一境内招魂社

（招魂社名）

祭神　（神名）

由緒

社殿　（種類）

一境内遙拜所

（遙拜所名）

由緒

建物　（種類）

備考

一（社格）（神社名）（神名）等括弧ノ個所ニハ各々其ノ該當ノ事項ヲ記載スヘシ

一祭神二柱以上ナルトキハ之ヲ竝記スヘシ

一特別由緒アル祭典ハ其ノ名稱及月日ヲ「例祭」ノ次項ヘ附記スヘシ

一幣殿、拜殿、神饌所、社務所、神庫其ノ他特ニ重要ナル建物ハ「本殿」ノ例ニ傚ヒテ記載スヘシ但シ「造營ノ沿革」ハ創建、改築、再築等特ニ著シキ事項ニ限リ記載スヘシ

一本殿、幣殿、拜殿、神饌所、社務所、神庫其ノ他特ニ重要ナル建物ノ立圖、平面圖及境内地竝其ノ附近ノ平面圖ヲ添付スヘシ

一境内神社、境内招魂社及境内遙拜所ニ付記載スヘキ事項中「種類」トアル個所ニハ本殿、拜殿等建物ノ名稱ヲ記載スヘシ但シ境内神社ノ「造營ノ沿革」ノ記載方ハ第四項ノ例ニ依ル

一境外ニ在ル奥宮若ハ攝末社ハ本社ニ準シ明細帳ヲ調製シ本社明細帳ニ添付スヘシ

第二號樣式

府縣社以下神社明細帳（美濃罫紙）

道府縣　國　郡市　區　町村　大字　字

番地鎭座

（社格）（神社名）

一祭神　（神名）

配祀　（神名）

一由緒

一社殿　（種類）

一境内　（坪數）

一氏子　（戸數）

一境内神社

（神社名）

祭神　（神名）

由緒

社殿　（種類）

一境内招魂社

（招魂社名）

祭神　（神名）

由緒

社殿　（種類）

一境内遙拜所

（遙拜所名）

由緒

建物　（種類）

備考

一（社格）（神社名）（神名）等括弧ノ個所ニハ各々其ノ該當ノ事項ヲ記載スヘシ

一「社殿」ノ下「種類」トアル個所ニハ本殿、幣殿、拜殿又ハ社務所等建物ノ名稱ヲ記載スヘシ

一氏子ナキ神社ニ在リテハ氏子ニ準スヘキ崇敬者戸數ヲ記載スヘシ

一明細帳ハ郡市區ニ別チテ編製シ目錄ヲ附スヘシ

第三號樣式

招魂社明細帳（美濃罫紙）

道府縣　國　郡市　區　町村　大字　字　番地鎭座

（官私祭招魂社名）

一由緒

一社殿　（種類）

一境内　（坪數）

一祭神

神名	舊藩名又ハ族籍身分	合祀年月日 官私祭區別	戰死事故

第四號樣式

遙拜所明細帳（美濃罫紙）

道府縣　國　郡市　區　町村　大字　字　番地

（遙拜所名）

一由緒

一建物　（種類）

一境内　（坪數）

第五號樣式

官修墳墓明細帳（美濃罫紙）

道府縣　國　郡市　區　町村　大字　字　番地

官修墳墓

一設置ノ沿革

一域内　（坪數）

姓名	舊藩名	創立年月日	戰死事故

●官國幣社社務取扱所ノ名稱

（明治七年二月二日敎部省達甲第一號）

官國幣社宮司

社務取扱所稱呼各社異稱候趣今後一般某神社社務所ト相唱可申此旨爲心得相達候事

●官國幣社職制

（明治三十五年二月十日勅令第二十七號）

改正（明治四四年第一七四號　大正九年第一號、第四七一號）

朕官國幣社職制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、海軍、陸軍、内務大臣副署）

官國幣社職制

第一條　官幣社及國幣社ニ左ノ神職ヲ置ク

宮司　一人

權宮司　一人（但シ官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社橿原神宮及官幣大社明治神宮ニ限ル）

禰宜　一人

主典

宮掌（但シ官幣大社熱田神宮ニ限ル）

主典及宮掌ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條　宮司ハ内務大臣及地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ國家ノ宗祀ニ奉仕シ祭儀ヲ司トリ庶務ヲ管理ス

第三條　權宮司ハ宮司ヲ補佐シ祭儀及庶務ニ從事ス

第四條　禰宜ハ宮司及權宮司ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事ス

第五條　主典及宮掌ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事ス

第六條　宮司事故アルトキハ權宮司ヲ置ク神社ニ在リテハ權宮司其ノ他ノ神社ニ在リテハ禰宜之ヲ代理ス

第七條　宮司及權宮司ハ奏任待遇トシ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ禰宜、主典及宮掌ハ判任待遇トシ地方長官之ヲ命ス

第七條ノ二　宮司ニシテ十五年以上奏任又ハ奏任待遇以上ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ特ニ勅任官ノ待遇ヲ爲スコトヲ得

權宮司ヲ置ク神社ノ宮司ハ前項ノ規定ニ拘ラス勅任官ノ待遇ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ勅任官ノ待遇ヲ爲スコトヲ得ル者ノ員數ハ通シテ七人ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　官國幣社神職ニハ俸給ヲ支給ス但シ宮司及權宮司ニ在リテハ内務大臣、禰宜、主典及宮掌ニ在リテハ地方長官ニ於テ名譽職

ト爲スコトヲ妨ケス

第九條　官國幣社神職ノ服務、俸給及旅費ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第十條　本令中内務大臣及地方長官ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣之ヲ行フ

第十一條　本令中内務大臣ノ職權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ内閣總理大臣之ヲ行ヒ地方長官ノ職權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

附　則

第十二條　本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本令施行ノ際現ニ官國幣社神職タル者ハ本令ニ依リ各其ノ職ニ命セラレタルモノト看做ス

●官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件

（明治三十五年二月十二日内務省令第一號）

改正　大正元年第六號、五年第七號、七年第二五號　昭和二年第二〇號

官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　主典ノ定員ハ一社ニ付二人以内トス

第二條　削除

第三條　特別ノ事由アル神社ニ付テハ地方長官ハ第一條ノ定員外ニ主典ヲ增置スルコトヲ得

第四條　主典ノ現員三人以上ノ神社ニ在テハ當分ノ内現員ノ儘存置スルコトヲ得但退職其ノ他ノ事故ニ依リ減員スルトキハ定員ニ復スルマテ補命スルコトヲ得ス

前條ニ依ル補命ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用スル限ニ在ラス

第五條　熱田神宮宮掌ノ定員ハ十三人以内トス

第六條　雇員ハ宮司之ヲ命免ス

第七條　削除

第八條　第二條及第四條ノ事項ニ關シ本規則施行前内務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ本規則施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第九條　本規則ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●官國幣社處務規則

（明治三十六年十月二十六日内務省訓令第十一號）

改正　明治四三年第八號　大正元年第一三號

北海道廳　府縣

官國幣社處務規則左ノ通相定ム

官國幣社處務規則

第一條　官國幣社社務ハ宮司ニ於テ各擔任者ヲ指名シ之ヲ處理セシムヘシ

社務繁多ナル神社ニ在テハ分課ヲ設クヘシ此場合ニ於テ各課ノ關係等處務上必要ナル細則ハ宮司之ヲ定ム

第二條　社務ハ擔任者ニ於テ速ニ處分見込取調ヘ同議ニ付シ宮司ノ決裁ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス

第三條　職員出勤ノ節ハ出勤簿ニ捺印スヘシ

疾病又ハ事故アリテ出勤シ難キトキハ其事由ヲ具シ宮司ヘ屆出ヘシ

病氣引籠五日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四條　忌服ヲ受ケタルトキハ宮司ニ在テハ地方長官ヘ其他ニ在テハ宮司ヘ屆出ヘシ

除服出仕ハ宮司ニ付テハ地方長官其他ニ付テハ宮司之ヲ命スヘシ

職員死去セルトキハ判任待遇以上ノ職員ニ在テハ地方長官及宮司ヘ其他ニ在テハ宮司ヘ屆出ヘシ

第五條　削除

第六條　重要ナル印章ハ宮司ニ於テ嚴重保管スヘシ

第七條　神殿倉庫等ノ鍵ハ宮司ニ於テ封印ヲ施シ置クヘシ但宮司ニ於テ自ラ保管スルモノハ此限ニ在ラス

第八條　社務所ニハ左ノ簿冊ヲ備フヘシ

祭神記
由緒記
官私祭書類
神社明細圖書
附攝末社明細圖書
不動産臺帳（但資金臺帳ニ揭クル物ヲ除ク）
附立木調書ノ類
寶物及貴重品臺帳
藏書目錄
祭器具明細帳
神社所有物帳
契約書類綴
法規指令類綴
會計諸帳簿
社務同議綴
社務日記宿直日記類
一社職員錄同履歷書綴
神符大麻守札等員數（製造授與）調帳

前項各號ノ一ニ該當セサルモノト雖モ凡テ後來ノ照査トナリ又ハ參考トナルヘキ圖書書類ハ適當ニ類別保存スヘシ

第九條　必要ニ應シ前條以外ノ簿冊又ハ補助簿等ヲ調製シ物件ノ所在、出納其他各般ノ社務ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十條　凡テ簿冊ハ目安ヲ付シ索引ニ便ナラシムヘシ

第十一條　宿直員ハ可成二名以上ヲ以テ之ニ充ツヘシ

宿直員一名ハ必ス主典以上ノ職員タルコトヲ要ス

宿直員ハ時々境内ヲ巡視シ取締ニ從事スヘシ

事變アルトキハ直チニ之ヲ宮司ニ急報セシメ若シ其指揮ヲ待ツノ暇ナキトキハ臨機ノ處置ヲ行ヒ其旨直チニ宮司ヘ急報スヘシ

第十二條　神社ニ風火災盜難等アルトキハ直チニ宮司ヨリ地方長官ヘ報告スヘシ

第十三條　宮司交替ノ節ハ一社仕來並ニ社務取扱ニ關スル一切ノ事件明細書ヲ以テ引繼クヘシ

一切ノ簿冊ハ目錄相添之ヲ引繼クヘシ

土地建物金品證書證券其他一切ノ物件ハ目錄相添簿冊ニ對照シ之ヲ引繼クヘシ

引繼ニハ地方廳官吏立會フヘシ

第十四條　前條ノ引繼終リタルトキハ新舊宮司連署授受ノ證書ヲ作リ立會官吏之ニ檢印スヘシ

引繼ノ終了ハ地方長官ヨリ直チニ内務大臣ヘ報告スヘシ若シ事故アルトキハ併テ之ヲ報告スヘシ

第十五條　舊任宮司死亡シタルトキハ新任宮司ヘノ引繼ハ禰宜（權宮司ヲ置ケル神社ニ在テハ權宮司）ニ於テ之ヲ行フヘシ

未タ新ニ宮司ノ任命ナキトキ又ハ新任宮司著任以前引繼ヲ行フトキハ舊任宮司ハ禰宜（權宮司ヲ置ケル神社ニ在テハ權宮司）ニ對シ引繼ヲ行フヘシ

前項ニ依リ引繼ヲ受ケタル禰宜（權宮司）ハ新任宮司著任ヲ待チ更ラニ新任宮司ヘ引繼クヘシ

本條ノ引繼ハ總テ前二條ニ準シ之ヲ行フモノトス但前項ノ場合ニハ地方廳官吏ノ立會ヲ要セス其終了ハ（事故アルトキハ事故共）宮司、禰宜（權宮司）連署地方長官ヘ屆出ツヘシ

第十六條　本則ニ定ムルモノ、外地方長官ニ於テ官國幣社處務上必要ナル規則ヲ設クヘシ

第十七條　明治十三年第五號通達神官事務取扱方明治十一年三月十四日内務省番外達宿直人員ノ件明治八年十一月七日敎部省甲第十四號達官國幣社社務受渡成規其他本則ニ牴觸スル從前ノ制規ハ之ヲ廢止ス但明治十三年第五號通達神官事務取扱方第六條但書ノ規定ハ明治三十七年三月三十一日迄其效力ヲ有ス

●官國幣社以下神社神職奉務規則

（大正二年四月二十一日内務省訓令第九號）

官國幣社以下神社神職

官國幣社以下神社神職奉務規則左ノ通定メ公布ノ日ヨリ施行ス

官國幣社以下神社神職奉務規則

第一條　神職ハ國家ノ禮典ニ則リ國家ノ宗祀ニ從フヘキ職司ナルヲ以テ平素國典ヲ修メ國體ヲ辨シ操行ヲ正シクシテ其ノ本務ヲ盡スヘシ

第二條　祭祀ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齋肅恭敬ヲ旨トシ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條　祭典ハ制規ニ據リ之ヲ行ヒ非常ノ事故アル場合ノ外濫ニ其ノ次第ヲ變更シ又ハ其ノ時間ヲ伸縮スヘカラス但シ古來ノ儀式ニ遵ヒ神社慣行ノ神賑等ハ適宜之ヲ行フコトヲ得

第四條　臨時祭ヲ行ハムトスルトキハ所轄警察官署ニ通知シ官國幣社ニ在リテハ更ニ地方長官ニ申報スヘシ

第五條　神札ハ氏子又ハ崇敬者以外ノ者ニ之ヲ配授スルコトヲ得ス但シ其ノ請求ニ依リ之ヲ授與スルヲ妨ケス

第六條　神職ハ已ムヲ得サル場合ノ外其ノ奉仕スル神社所在地ノ市町村内ニ居住スヘシ

第七條　神職ハ社殿及境内ノ清潔修理ニ注意シ神社ノ尊嚴ヲ保持スルニ努ムヘシ

第八條　火災盜難等ノ豫防ニ付テハ周到嚴密ヲ期シ豫メ取締方法ヲ定メ常ニ警戒注意ヲ爲スヘシ

第九條　神社所藏ノ寶物、貴重品、古文書等ニ

付テハ格護ノ方法ヲ設ケ常ニ之カ整理保存ニ注意スヘシ

第十條　神職ハ神社金穀ノ出納及財産ノ管理ニ關シ平素其ノ會計收支ヲ明確ニシ苟モ公私混淆ノ嫌アルヘカラス

第十一條　神職ハ常ニ境内ノ樹木ニ付森嚴ナル風致ヲ保ツニ努メ殊ニ其ノ所屬山林ニ付テハ保護植栽ヲ懈ルヘカラス

●官國幣社及神宮神部署神職任用令

（明治三十五年二月十日勅令第二十八號）

改正　明治三六年第八六號、四二年第一八二號、四四年第一七五號、四五年第八八號　大正三年第一九四號、一〇年第五八號、一三年第二九五號、一五年第二六七號

朕官國幣社及神宮神部署神職任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍、内務大臣副署）

官國幣社及神宮神部署神職任用令

第一條　奏任待遇ノ神職ハ神職高等試驗合格ノ者、判任待遇ノ神職ハ神職尋常試驗又ハ神職高等試驗合格ノ者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第二條　年齡二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ神職試驗ヲ受クルコトヲ得

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　禁治産者、準禁治産者

四　懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條　神職高等試驗ハ神職高等試驗委員之ヲ施行シ神職尋常試驗ハ神職尋常試驗委員之ヲ施行ス

神職高等試驗委員ハ主務大臣之ヲ選任シ神職尋常試驗委員ハ主務省ニ於テ行フ試驗ニ付テハ主務大臣其ノ他ニ付テハ地方長官之ヲ選任ス

第四條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第五條　試驗期日及場所ハ豫メ官報、公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條　試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一　祭式

二　倫理

三　國文（作文ハ神職高等試驗ニ在リテハ宣命祝詞及公文體、神職尋常試驗ニ在リテハ祝詞公文體）

四　歷史

五　法制（神職高等試驗ニ在リテハ現行神社法令及憲法、神職尋常試驗ニ在リテハ現行神社法令）

六　算術

第六條ノ二　試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ神職高等試驗ニ在リテハ十圓ヲ、神職尋常試驗ニ在リテハ二圓ヲ納付スヘシ

第七條　試驗ニ關スル細則ハ試驗委員ニ於テ之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ但シ地方廳ニ於テ行フ神職尋常試驗ニ關スル細則ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第八條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス神職高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

一　其ノ神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世中ニ於テ之ヲ補佐シ功績顯著ナル者若ハ其ノ相續人ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ

二　高等官又ハ五年以上官務ニ從事シ判任官二等以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ

三　十年以上神職（府縣社以下神社神職ヲ除ク）ト爲リ現ニ官國幣社禰宜又ハ神宮神部署ノ神部補若ハ主事補ノ職ニ在ル者

四　師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ敎員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者

五　神宮皇學館本科卒業ノ者

六　皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正ヲ付與シタル者

第九條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得

一　五年以上官務ニ從事シ判任官以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ

二　現ニ神宮宮掌以上ノ職ニ在ル者

三　前條第四號若ハ第五號ニ揭ケタル者又ハ神宮皇學館專科卒業ノ者

四　皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正又ハ一等司業ヲ付與シタル者

五　中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ

六　五年以上神職ト爲リ現ニ社司ノ職ニ在ル者

七　内務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職敎習科卒業ノ者

第十條　三年以上官國幣社又ハ神宮神部署ニ於テ本令ニ依リ任用セラルヘキ神職ヲ勤メ退職シタル者ハ試驗ヲ要セス前職同等若ハ其ノ以下ノ神職ニ任用スルコトヲ得

奏任待遇ノ神職ニ在リテハ各職同等ト看做シ判任待遇ノ神職ニ在リテハ禰宜神部補及主事補ヲ以テ同等ト看做ス

第十一條　五年以上雇員トシテ神宮神部署ニ奉職シタル者ハ試驗ヲ要セス神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ神部補又ハ主事補ニ任用スルコトヲ得

五年以上雇員トシテ官國幣社ニ奉職シタル者ハ試驗ヲ要セス神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ主典又ハ宮掌ニ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ主典又ハ宮掌ニ任用セラレ三年以上奉職シタル者ハ神職尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ禰宜ニ任用スルコトヲ得

第十二條　神職試驗ヲ受クル資格ナキ者ニハ前四條ノ規定ヲ適用セス

第十三條　本令中主務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣、其ノ他ニ關シテハ内務大臣之ヲ行フ

第十三條ノ二　本令中地方長官ニ屬スル職權ハ臺灣ニ於テハ臺灣總督、樺太ニ於テハ樺太廳長官之ヲ行フ

附　則

第十四條　本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十五年勅令第八十八號）

本令ハ明治四十五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

神宮大麻及曆頒布ノ事務ニ從事シタル者ハ本令施行ノ際ニ限リ主事ニ在リテハ高等試驗委員、主事補ニ在リテハ尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ主事又ハ主事補ニ任用スルコトヲ得

第十條ノ規定ハ[illegible]タル者ニ之ヲ[illegible]神部署ノ在[illegible]ニ付テハ之ヲ[illegible]

●神職高等試驗施行細則

（大正十四年七月[illegible]内務省告示第[illegible]號）

明治三十五年勅令第二十八號官國幣社及神宮神部署神職任用令第七條ニ依リ神職高等試驗委員ニ於テ神職高等試驗施行細則左ノ通定メタリ

神職高等試驗施行細則

第一條　官國幣社及神宮神部署神職任用令ニ依ル高等試驗ハ毎年一回東京ニ於テ之ヲ行フ

第二條　試驗ヲ受ケムトスル者ハ受驗願書（第一號書式）ニ左ノ書類ヲ添ヘ公告ノ出願期間内ニ高等試驗委員長ニ提出スヘシ

一、履歷書（第二號書式）

二、官國幣社及神宮神部署神職任用令第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ證スル市町村長ノ證明書

三、寫眞（[illegible]）及氏名ヲ記載スヘシ

第三條　試驗ハ分チテ筆記試驗、實地試驗（祭式ニ限ル）及口述試驗（[illegible]）トス

口述試驗ハ筆記試驗及實地試驗ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第四條　試驗[illegible]高等試驗委員ノ[illegible]

第五條　試驗[illegible]之ヲ公告ス

第六條　受驗者[illegible]セス又ハ[illegible]

第七條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ對シテハ其ノ試驗ヲ停止シ又ハ[illegible]ルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第八條　試[illegible]

要ナル事項ハ高等試驗委員長之ヲ定ム

附　則

本則ハ大正十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

神職高等試驗受驗願書式（用紙美濃紙）

本　籍　何府縣郡市町村何番地
戸主又ハ何某男兄弟
現住所　何府縣郡市町村何番地
（何某方）
氏　名
（氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ）
年月日生

私儀神職高等試驗相受ケ度別紙履歷書證明書及寫眞相添ヘ此段御願ニ及ヒ候也

年　月　日
氏　名印

神職高等試驗委員長氏　名宛

東京市內又ハ其ノ附近ニ現住所ヲ有セサル者ハ高等試驗委員長ヨリ發スル通知書ヲ受ケ取ルヘキ場所ヲ必ス東京市內又ハ其ノ附近ニ定メ左ノ書式ニ依リ追記シ又現住所若クハ通知書ヲ送付スヘキ宿所ヲ轉シタルトキハ其ノ時々直ニ屆出ツヘシ

追テ高等試驗委員長ヨリ發スル通知書ハ左ノ所ニ御發送被成下度候
東京市　何區　何町（何丁目）何番地（何某方）

第二號書式

履歷書（用紙美濃紙）

氏　名

學　事

一、何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ科目大略何々

一、何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス

職　業

一、何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何々歷任等

賞　罰

●神職高等試驗竝神職尋常試驗手數料納付ニ關スル件

（大正十五年八月七日內務省令第四十號）

神職高等試驗竝神職尋常試驗手數料納付ニ關スル件左ノ通定ム

神職高等試驗及神職尋常試驗手數料ハ收入印紙ヲ用ヰ受驗願書ニ貼付スヘシ其既ニ納メタル後ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官國幣社神職俸給規則

（大正十年十二月十七日內務省令第二十七號）
改正　昭和二年第二二號

明治四十一年二月內務省令第二號官國幣社神職俸給規則左ノ通改正ス

官國幣社神職俸給規則

第一條　宮司、權宮司ノ俸給ハ年俸トシ別表甲號ニ依リ禰宜、主典、宮掌ノ俸給ハ月俸トシ別表乙號ニ依ル

第二條　宮司、權宮司ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮司ノ在職年數ニシテ權宮司ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ權宮司ノ一級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

第三條　禰宜、主典、宮掌ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ成績優等ナル者ニハ特ニ月額四十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ官國幣社神職ノ在職年數ニシテ現職ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現職ノ一級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

第四條　名譽職タル官國幣社神職ニハ報酬ヲ給スルコトヲ得

第五條　俸給支給方ハ宮司、權宮司ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ禰宜、主典、宮掌ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル月額又ハ年額ニテ報酬ヲ支給スル場合亦同シ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸年額及年手當（臨時手當ヲ含ム）ノ合算額ニ相當スル級俸ヲ受ケ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス但シ改正級俸各所定ノ最低額ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

前二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ一級俸ノ額ヲ超過スルトキハ第二條第三條ノ適用ニ就テハ之ヲ一級俸ト看做ス

（別表）

甲號

職名＼級俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
宮司	三、八〇〇	三、四〇〇	三、一〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇
權宮司	三、一〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八五〇	八〇〇

乙號

職名＼級俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
禰宜	一六〇	一三五	一一五	一〇〇	八五	七五	六五	五五	五〇	
主典	一三〇	一一五	一〇〇	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇
宮掌	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	

●官國幣社宮司權宮司旅行稟請方

（明治二十六年九月二十七日內務省訓令第十七號）

北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

官國幣社ヨリ稟申ノ儀ハ明治二十年當省訓令第十八號ノ旨モ候處自今宮司權宮司旅行ノ儀ハ其事故竝日數地名等ヲ明記シ地方廳ヲ經テ當省ヘ稟請セシムヘシ

但父母病氣危篤ニヨリ難閣事情ノモノハ地方廳限リ許可シ其旨報告スヘシ

●官國幣社經費ニ關スル法律

（明治三十九年四月七日法律第二十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官國幣社經費ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏、內務大臣副署）

第一條　官國幣社ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ供進シ其ノ各社ニ對スル金額ハ內務大臣之ヲ定ム

第二條　從前官國幣社ニ於テ積立テタル永遠資本金及維持元資金ハ官國幣社ノ基本財產トシ之ヲ費消スルコトヲ得ス

前項基本財產ノ利子及其ノ他ノ財產竝收入ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ經費ニ充ツルコトヲ得

第三條　官國幣社ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ臨時ノ費用ニ充ツル爲第一條供進金ノ中ヨリ一定ノ積立ヲ爲スヘシ

前項ノ積立金ハ各社共通ノ費途ニ充テ內務大臣ハ內務省神社局長ヲシテ之ヲ保管セシメ其ノ收支ヲ取扱ハシム

第四條　從前官國幣社ニ於テ積立テタル官國幣社保存費共通金ハ前條各社共通金ニ編入ス

第五條　本法ハ官幣大社臺灣神社及別格官幣社靖國神社ニ適用セス

附　則

第六條　第一條ニ依リ供進スル經費ハ天災事變ノ爲要スル臨時費用ノ外【明治四十九年度】ニ至ル迄每年二十二萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
（明治四十年勅令第一號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

●官國幣社會計規則

（大正十五年十二月一日內務省令第五十四號）

官國幣社會計規則左ノ通改正ス

官國幣社會計規則

第一章　總則

第一條　會計年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歲入歲出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ完結スヘシ

第二條　一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ之ヲ豫算ニ編入スヘシ

第三條　每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　臨時ノ營繕費ヲ支辨スル爲又ハ負債ヲ償還スル爲必要アル場合ニ限リ起債ヲ爲スコトヲ得

起債ヲ爲サムトスルトキハ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第五條　當該神社ノ爲必要アル場合ニ限リ地方長官ノ認可ヲ受ケ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ請求書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ請求書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ供進金、補助金ノ類ニシテ其ノ收入ヲ豫算シタル年度ノ出納完結前ニ領收シタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度

第七條　歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　支拂期日ノ一定シタル支出ハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　俸給、給料、報酬、旅費其ノ他ノ給與ハ支拂期日ノ一定シタルモノヲ除クノ外其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

三　工事請負代金、物件購入代金ノ類ハ支拂期日ノ一定シタルモノヲ除クノ外工事、物件等ノ受渡ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ既濟又ハ既納ノ部分ニ對シテ爲ス部分拂ハ支拂ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

四　前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第八條　金錢物件ノ出納ハ會計主任又ハ物品會計主任ニ於テ宮司ノ決裁ヲ經宮司ノ職名ヲ以テ執行スヘシ

第九條　用途ヲ指定シタル寄附金又ハ寄附物件ハ指定以外ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

第十條　必要アル場合ニ於テハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第二章　豫算及決算

第十一條　豫算ハ款項ニ區分シ別記第一號樣式ニ依リ調製シ年度開始ノ一月前迄ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ追加更正ヲ要スルトキハ其ノ都度地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ流用スルコトヲ得

第十三條　豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クルコトヲ得

豫備費ハ賞與、手當、交際費、寄附金及補助金ノ支出ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條　工事其ノ他ノ事業ニ關シ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ費用ノ總額及其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第十五條　歲計ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ豫備資金ニ編入スヘシ但シ必要アル場合ニ限リ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十六條　繼續費ノ每年度支拂殘額ハ之ヲ其ノ年期間遞次繰越使用スルコトヲ得

第十七條　決算ハ別記第一號樣式ニ依リ、資金明細書ハ別記第二號樣式ニ依リ各二通ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ意見ヲ付シ七月三十一日迄ニ各其ノ內一通ヲ內務大臣ニ進達スヘシ

第三章　現金出納

第十八條　會計帳簿ハ別記第三號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十九條　歲計現金ハ出納準備ニ必要ナルモノヲ除クノ外郵便官署又ハ地方長官ノ認可シタル銀行ニ預入スヘシ

第二十條　賽錢、神饌料等ノ容器ニハ鎖鑰ヲ設ケ會計主任ハ宮司又ハ其ノ指定シタル神職ト立會ノ上之ヲ開閉スヘシ

第二十一條　支拂ハ證憑書類ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十二條　工事請負代金又ハ物件購入代金ノ類ハ工事又ハ物件ノ全部ノ引渡ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ支拂フコトヲ得ス但シ契約ニ依リ既濟又ハ既納ノ部分ニ付部分拂ヲ爲スヘキコトヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事請負ノ類ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ購入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十三條　千圓ヲ超ユル工事ノ類又ハ物件ノ購入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後宮司又ハ其ノ委託ヲ受ケタル者ニ於テ檢査ヲ行ヒ之カ調書ヲ作成スヘシ

契約ニ依リ工事ノ類ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代金ノ一部ヲ支拂ハムトスルトキハ宮司又ハ其ノ委託ヲ受ケタル者ニ於テ事實ヲ調定シ其ノ調書ヲ作成スヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條　左ニ揭クル場合ニ於テハ現金ヲ前渡スルコトヲ得

一　出張先ニ於テ支拂ヲ要スルトキ

二　日用品購入ノ爲必要アルトキ但シ一月ノ總額五拾圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十五條　前金拂ニ非サレハ購入スルコトヲ得サル物件ノ代金ニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　旅費ハ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　第二十四條第一號ノ規定ニ依リ現金ノ前渡ヲ受ケタル者ハ歸著後五日以內ニ、同條第二號ノ規定ニ依リ現金ノ前渡ヲ受ケタル者ハ翌月五日迄ニ精算スヘシ

旅費ノ概算渡ヲ受ケタル者ハ歸著後五日以內ニ精算スヘシ

第四章　契約

第二十八條　賣買、貸借、請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ總テ公告シテ競爭入札ニ付スヘシ但シ左ニ揭クル場合ニ於テハ三名以上ヲ指名シ競爭入札ニ付スルコトヲ得

一　一般競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ一般競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　一般競爭入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

四　特ニ指名競爭入札ニ付スルノ必要アリト認ムルトキ

第二十九條第一號及第二號ノ場合ニ於テハ指名競爭入札ニ付スルヲ妨ケス

第二十九條　左ニ揭クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　豫定價格千圓ヲ起エサル請負契約ヲ爲サムトスルトキ

二　豫定價格五百圓ヲ起エサル物件ノ賣買ヲ爲シ又ハ豫定賃貸借料年額若ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸借ヲ爲サムトスルトキ

三　競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

四　急施ヲ要シ競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

五　競爭入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

六　競爭入札ニ付スルコト能ハサルトキ

第三十條　第二十八條第一項第三號ノ場合ニ於テ指名競爭入札ニ付セムトスルトキ又ハ前條第五號ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ締結セムトスルトキハ保證金及期限ヲ除クノ外

最初競爭入札ニ付スルトキ定メタル豫定價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十一條　入札ニ付セムトスルトキハ入札ヲ爲サムトスル者ヲシテ入札金額ノ百分ノ三以上ノ入札保證金ヲ納付セシムヘシ但シ指名競爭入札又ハ豫定價格貳千圓ヲ超エサル一般競爭入札ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第三十二條　契約ヲ締結セムトスルトキハ其ノ相手方ヲシテ契約金額ノ百分ノ五以上ノ契約保證金ヲ納付セシムヘシ但シ指名競爭入札ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第三十三條　入札保證金及契約保證金ハ國債證券、地方債證券、勸業債券、農工債券、拓殖債券、興業債券其ノ他宮司ニ於テ適當ト認ムル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ國債證券ハ其ノ額面金額ニ依リ其ノ他ハ該地方ニ於ケル前月ノ市場價格ノ十分ノ八ヲ以テ之ヲ換算スヘシ

第三十四條　隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徵スヘシ

第三十五條　契約ヲ締結セムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ但シ第二十九條第一號又ハ第二號ニ規定スル契約ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五章　物品會計

第三十六條　物品ノ出納ハ之ヲ物品出納簿ニ明記スヘシ但シ收納後直ニ費消スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　撤下ノ神饌、幣帛其ノ他ノ供物ハ慣例ニ依リ神職及雇員ニ頒賜スルコトヲ得

第六章　會計主任

第三十八條　會計主任及物品會計主任ハ禰宜又ハ主典ノ中ヨリ宮司之ヲ命シ地方長官ニ報告スヘシ

第三十九條　會計主任又ハ物品會計主任疾病其ノ他ノ事故ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ宮司ハ他ノ禰宜又ハ主典ノ中ヨリ其ノ代理者ヲ定メ地方長官ニ報告スヘシ

第四十條　會計主任、物品會計主任又ハ其ノ代理者現金、有價證券又ハ物品ノ出納保管ニ關シ神社ニ損害ヲ及ホシタルトキハ辨償ノ責ニ任スルモノトス

第四十一條　會計主任、物品會計主任又ハ其ノ代理者ハ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ代理者ヲ置キタル場合ニ於テハ會計主任又ハ物品會計主任其ノ代理者ノ行爲ニ付テハ責任ヲ負ハサルモノトス

第四十二條　現金、有價證券又ハ物品ノ保管ニ關シ神社ニ損害ヲ及ホシタル者善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキハ地方長官ハ宮司ノ具申ニ依リ其ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第七章　各社共通金

第四十三條　各社共通金トシテ國庫供進金ヨリ積立ツヘキ額ハ其ノ三割以內トス

第四十四條　各社共通金ヨリ支出スヘキ費途ハ臨時營繕費、宮司、權宮司ノ赴任旅費及休職給トス

第四十五條　各社共通金ヨリ支出スル臨時營繕費ハ別途整理スヘシ

第四十六條　前條ノ臨時營繕費ニ殘金ヲ生シタルトキハ之ヲ各社共通金ニ戾シ入ルヘシ但シ內務大臣ノ許可ヲ受ケ更ニ之ヲ他ノ臨時營繕費ニ充用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八章　資金

第四十七條　資金ノ種別左ノ如シ

一　基本財產
二　豫備資金
三　特別資金

第四十八條　用途指定ノ寄附ニ係ルモノヲ除クノ外收益アル不動產ハ之ヲ基本財產ト爲スヘシ

第四十九條　基本財產ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　國庫供進金及社入金ニ對シ左ノ割合ニ依リ算出シタル額ハ營繕費ニ充ツルノ外豫備資金ニ積立ツヘシ

五千圓迄	百分ノ五
一萬圓迄	五千圓ニ對シテハ前號ノ割合 五千圓ヲ超ユル金額ニ對シテハ百分ノ十
一萬圓以上	一萬圓ニ對シテハ前號ノ割合 一萬圓ヲ超ユル金額ニ對シテハ百分ノ十五

前項豫備資金ノ積立ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ停止スルコトヲ得

第五十一條　豫備資金ハ地方長官ノ認可ヲ得テ臨時營繕費其ノ他ノ臨時費ニ充ツルコトヲ得

第五十二條　基本財產ヨリ生スル收入及豫備資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ經費ニ充ツルコトヲ得

第五十三條　特別資金ヲ設定セムトスルトキハ其ノ資金ノ名稱、目的、管理方法及處分ニ關スル規定ヲ詳具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

特別資金ヲ廢止セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條　資金ハ之ヲ特別會計ト爲スヘシ

第五十五條　資金ハ別記第四號樣式ニ依リ臺帳ヲ調製シ之ヲ整理スヘシ

第五十六條　資金ハ不動產ヲ除クノ外國債證券、地方債證券、勸業債券、農工債券、拓殖債券、興業債券若ハ地方長官ノ認可シタル種類ノ有價證券ト爲シ又ハ郵便官署若ハ地方長官ノ認可シタル銀行ニ預入スヘシ

有價證券ハ郵便官署若ハ日本銀行ニ保管ヲ委託スヘシ但シ地方長官ノ認可シタル銀行ニ保管ヲ委託スルヲ妨ケス

第五十七條　古社寺保存法ニ依リ下附ヲ受ケタル修理保存費ハ別途整理スヘシ

第九章　附則

第五十八條　本令ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ施行ス

第五十九條　從前ノ規定ニ依リ積立テタル剩餘蓄積金ハ之ヲ豫備資金ニ編入スヘシ

從前ノ規定ニ依リ設定シタル各種ノ資金ハ之ヲ本令ノ規定ニ依リ設定シタル特別資金ト看做ス

第六十條　特別ノ事情アル神社ニ付テハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

（別記）

第一號樣式ノ一

大正何年度社格何々神社歲入歲出豫算

歲入

科目				本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
第一款　諸收入				圓	圓	圓	
	第一項　國庫供進金						
		第一目　國庫供進金					
	第二項　神饌幣帛料						
		第一目　神饌幣帛料					
	第三項　社入金						
		第一目　賽物其他收入					
			第一節　神符守札授與料				
			第二節　賽錢				
			第三節　神饌及初穗料				
			第四節　祈禱料				
			第五節　燈油料				
			第六節　社頭繪圖料				
			第七節　神籤料				
			第八節　拜觀料				
			第九節　何々				
		第二目　境內地收入					
			第一節　境內地使用料				
			第二節　枯損竹木賣却代				
			第三節　何々				
		第三目　境外地收入					
			第一節　貸地料				
			第二節　貸家料				
			第三節　竹木賣却代				
			第四節　何々				
		第四目　保管林收入					
		第五目　雜收入					
			第一節　預金利子				
			第二節　不用品賣却代				
			第三節　賽物出陳補給金				
			第四節　何々				
	第四項　用途指定寄附金						
		第一目　用途指定寄附金					
			第一節　何々				
第二款　恩給法納金							
	第一項　恩給法納金						
		第一目　恩給法納金					
第三款　繰越金							
	第一項　前年度繰越金						
		第一目　前年度歲計剩餘繰越金					
		第二目　前年度營繕費繰越金					
第四款　繰入金							
	第一項　資金會計ヨリ繰入						
		第一目　何々					
第五款　社債							
	第一項　社債						
		第一目　何々					
第六款　下附金							
	第一項　各社共通金下附金						
		第一目　何々營繕費下附金					
		第二目　何々營繕費下附金預金利子					

第二項 古社寺保存下附金				
第一目 何々修繕費下附金				
第二目 何々修繕費下附金預金利子				
歳入合計				

歳出

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
第一款 社費	圓	圓	圓	
第一項 祭典費				
第一目 神饌品費				
第二目 器具費				
第三目 雜用品費				
第四目 傭人料				
第五目 雜費				
第二項 俸給				
第一目 神職俸給				
第二目 雇員給				
第三項 雜給				
第一目 神職報酬				
第二目 手當				
第三目 傭人料				
第四目 賞與				
第五目 何々				
第四項 廳費				
第一目 備品費				
第二目 文房具費				
第三目 圖書及印刷費				
第四目 神符守札調製費				
第五目 消耗品費				
第六目 通信運搬費				
第七目 賄費				
第八目 交際費				
第九目 雜費				
第五項 旅費				
第一目 旅費				
第六項 境内外地諸費				
第一目 傭人料				
第二目 植樹費				
第三目 雜費				
第四目 諸税				
第二款 營繕費				
第一項 營繕費				
第一目 指定營繕費				
第一節 何々新營費				
第二節 何々修繕費				
第二目 各所修繕費				
第三目 前年度繰越營繕費				
第一節 何々				
第三款 國庫納金				
第一項 恩給法國庫納金				
第一目 恩給法國庫納金				
第四款 繼續費				
第一項 何々本年度支出額				
第一目 何々本年度支出額				
第五款 寄附金				
第一項 寄附金				
第一目 何々寄附				
第六款 補助金				
第一項 補助金				
第一目 何々補助				
第七款 社債費				
第一項 元金償還				
第一目 何々				
第二項 利子				
第一目 何々				
第八款 雜支出				
第一項 資金會計繰入				
第一目 資金會計繰入				
第九款 豫備費				
第一項 豫備費				
第一目 豫備費				
歳出合計				

備考

一 本表ニ掲クルモノノ外必要ニ應シ科目ヲ增置スルコトヲ得、本表ニ掲クルモノト雖該當ノ事項ナキトキハ其ノ科目ヲ省クモノトス

二 增減欄ノ減ハ朱書スヘシ

三 附記欄ニハ計算ノ基礎及增減ノ事由ヲ説明スヘシ

四 營繕費中各所修繕費ノ目ニハ一廉參百圓以下ノ修繕費ヲ一括シテ計上スルモノトス

附記

一 特別會計ニ屬スル豫算ハ資金ノ收支ニ關スルモノヲ除クノ外本樣式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

二 豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲サムトスルトキハ本樣式中本年度豫算額ヲ追加豫算額又ハ更正豫算額、前年度豫算額ヲ既決豫算額ト記載スヘシ

三 決算ハ本樣式ニ準シ本年度豫算額ヲ何年度決算額、前年度豫算額ヲ何年度豫算額トシ表末ニ備考ヲ設ケ歳入出差引殘金處置ノ顛末ヲ詳記スヘシ

第一號樣式ノ二

大正何年度社格何々神社資金會計歳入歳出豫算

歳入

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
第一款 資金ヨリ生スル收入	圓	圓	圓	
第一項 基本財產收入				
第一目 小作米				
第二目 貸地料				
第三目 貸家料				
第四目 竹木其他賣却代				
第五目 預金利子				
第六目 有價證券利子				
第七目 何々				
第二項 豫備資金收入				
第一目 預金利子				
第二目 有價證券利子				
第三目 何々				
第三項 何々資金收入				

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較増減	附記
第一目　預金利子				
第二目　有價證券利子				
第三目　何々				
第二款　寄附金				
第一項　基本財産指定寄附				
第一目　基本財産指定寄附				
第二項　豫備資金指定寄附				
第一目　豫備資金指定寄附				
第三項　何々資金指定寄附				
第一目　何々資金指定寄附				
第三款　受入金				
第一項　基本財産受入				
第一目　基本財産受入				
第二項　豫備資金受入				
第一目　豫備資金受入				
第三項　何々資金受入				
第一目　何々資金受入				
第四項　一般會計ヨリ繰入				
第一目　一般會計ヨリ繰入				
歳入合計				
歳出				
第一款　資金支出	圓	圓	圓	
第一、項　一般會計繰入				
第一目　基本財産支出				
第一節　基本財産支出				
第二節　基本財産利子支出				
第二目　豫備資金支出				
第一節　豫備資金支出				
第二節　豫備資金利子支出				
第三目　何々資金支出				
第一節　何々資金支出				
第二節　何々資金利子支出				
第二款　資金造成管理費				
第一項　積立金				
第一目　基本財産積立金				
第二目　豫備資金積立金				
第三目　何々資金積立金				
第二項　管理費				
第一目　基本財産管理費				
第一節　傭人料				
第二節　修繕費				
第三節　有價證券保管料				
第四節　保險料				
第五節　種苗費				
第六節　諸税				
第七節　雜費				
第二目　豫備資金管理費				
第一節　有價證券保管料				
第三目　何々資金管理費				
第一節　有價證券保管料				
歳出合計				

備考

一　第一號樣式ノ一備考及附記ハ本樣式ニ之ヲ準用ス

二　歳入出差引殘金ハ資金毎ニ計算シ之ヲ當該資金ニ編入スヘシ

第二號樣式

大正何年度社格何神社資金明細書（大正何年三月三十一日調査）

資金名稱	區分	前年度越高	年度内		現在高
			受高	拂高	
何々資金	土地	圓	圓	圓	圓
	建物				
	有價證券				
	現金				
	其他				
	計				

備考

一　本表ハ資金毎ニ區分シ記載スヘシ

二　立木ノ價格ハ土地ノ價格ニ、預金ハ現金ニ合算スヘシ

三　土地及建物ハ時價ヲ、有價證券ハ額面金額ヲ記載スヘシ

四　現金ノ年度内受拂中土地、建物及有價證券等ノ賣買代金及有價證券ノ償還金ハ當該欄ニ特ニ區分シ朱記スヘシ

第三號樣式ノ一

表紙

大正何年度

歳入内譯簿

社格何神社

年月日	摘要	金額
	第何款第何項ノ内第何目第何節貸家料	圓
何年何月何日	何月分何某外何名納	九七〇 〇〇〇
同日	何月分何某納	六五 〇〇〇
計		一、〇三五 〇〇〇
何月何日	何某納何月分ノ内過納ニ付還付	△五 〇〇〇
通計		一、〇三〇 〇〇〇

△印　朱書

備考

一　本簿ニハ節毎ニ、節ヲ設ケサル科目ニ在リテハ目毎ニ各口座ヲ設クヘシ

二　摘要欄ニハ收入ノ事由ヲ記載スヘシ

三　各口座ニハ日計及通計ヲ付スヘシ但シ記帳一口ニ止マルトキハ日計ヲ付スルヲ要セス

四　過誤納金ノ還附ハ其ノ金額ヲ朱書スヘシ

五　金額ヲ誤記シタルトキハ之ヲ發見シタル日ノ帳簿記載ノ末尾ニ其ノ事由ヲ記載シテ訂正シ増額ヲ要スルトキハ其ノ金額ヲ墨書シ減額ヲ要スルトキハ之ヲ朱書スヘシ

六　本簿ハ之ヲ洋式帳簿ト爲スヲ妨ケス

七　特別會計ニ屬スルモノハ別ニ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

第三號樣式ノ二

表紙

大正何年度

歳出内譯簿

社格何神社

年月日	摘要	豫算額	支出額	豫算殘額

△印　朱書

何年何月何日	第何款第何項ノ内第何目神饌品費	五〇〇〇〇〇		
	何々代、何某渡		二五〇〇〇〇	
計			二五〇〇〇〇	二五〇〇〇〇
何月何日	何々代何某渡		二〇〇〇〇〇	
計			四五〇〇〇〇	五〇〇〇〇
何月何日	豫算追加	一〇〇〇〇〇		
同日	同項第何目何費ヨリ流用	一〇〇〇〇		
計		一一〇〇〇〇		
通計		六一〇〇〇〇		一六〇〇〇〇
何月何日	何々代何某渡		一五五〇〇〇	
通計			六〇五〇〇〇	五〇〇〇
何月何日	同項第何目何費ヘ流用	△五〇〇〇		
通計		六〇五〇〇〇		
何月何日	何某渡何々代ノ内誤拂ニ付返納		△五〇〇〇	
通計			六〇〇〇〇〇	五〇〇〇

備考

一　豫算ノ追加更正若ハ費目ノ流用ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ記載スヘシ費目ノ流用ニ因リテ減額シタル科目ニ於テハ其ノ金額ヲ朱書シ増額シタル科目ニ於テハ之ヲ墨書スヘシ

二　過誤拂金ノ返納ヲ受ケタルトキハ支出額ノ欄ニ其ノ金額ヲ朱書スヘシ

三　一口ノ營繕工事ニシテ各社共通金ト古社寺保存費トヲ受クルモノニ付テハ摘要欄ニ其ノ支出區分ヲ明ニスヘシ

四　前各項ニ定ムルモノノ外總テ歳入内譯簿取扱ノ例ニ依ルヘシ

第三號様式ノ三

表紙

大正何年度
歳入歳出日計簿
社格何神社

△印　朱書

年月日	當日收入高	累計收入高	當日支出高	累計支出高	殘高
何年何月何日	一,〇三五〇〇〇	一,〇三五〇〇〇	二五〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	七八五〇〇〇
何月何日		一,〇三五〇〇〇	二〇〇〇〇〇	四五〇〇〇〇	五八五〇〇〇
何月何日	△五〇〇〇	一,〇三〇〇〇〇		四五〇〇〇〇	五八〇〇〇〇
何月何日		一,〇三〇〇〇〇	△五〇〇〇	四四五〇〇〇	五八五〇〇〇

備考

一　本簿ハ收入又ハ支出アリタル日毎ニ收入ト支出トヲ各別ニ合算シ記載スヘシ

二　過誤納金ヲ還附シタルトキハ當日收入高欄ニ、過誤拂金ノ返納ヲ受ケタルトキハ當日支出高欄ニ其ノ金額ヲ朱書スヘシ

三　前二項ニ定ムルモノノ外總テ歳入内譯簿取扱ノ例ニ依ルヘシ

第三號様式ノ四

表紙

大正何年何月調製
社債臺帳
社格何神社

許可年月日番號	起債目的	起債許可額	利率	借入先	償還財源

借入額	借入未濟額	借入年月日	備考

償還豫定			償還顛末				
年月日	元金	利子	年月日	元金	元金未償還額	利子	利子支拂計算期間

備考

一　本簿ハ年度毎ニ之ヲ改製スルヲ要セス

第三號様式ノ五

表紙

大正何年何月調製
擔保物件受拂簿
社格何神社

×印　二條ノ朱抹消線

年月日	摘要	種類名稱	數量	受入年月日	還付年月日	保管箇所	備考
×何年何月何日	×何々工事契約保證ノ爲何某納	×現金	×一〇〇〇〇〇	×何年何月何日	×何年何月何日	×何々銀行	
何月何日	何々工事入札保證ノ爲何某納	第何回勧業債券何號何番	二〇〇〇〇	何年何月何日		社務所	

備考

一　本簿ハ請負ニ關スル入札又ハ契約保證金其ノ他擔保ノ爲收納シタル物件ノ受拂ヲ記載スルモノトス

二　摘要欄ニハ擔保ノ目的タル事項竝納入者ノ氏名ヲ記載スヘシ

三　有價證券ヲ受ケタルトキハ一枚毎ニ之ヲ記載シ數量ハ額面金額ヲ記入スヘシ

四　擔保物件ヲ還附シタルトキハ朱線二條ヲ以テ當該欄ヲ抹消スヘシ

五　既ニ受入レタル擔保物件ニ異動ヲ生シタルトキハ備考欄ニ其ノ事由ヲ記入スヘシ

六　本簿ハ年度毎ニ之ヲ改製スルヲ要セス

第四號様式

表紙

大正何年何月調製
何資金臺帳
社格何神社

凡例

一　本簿ハ資金毎ニ之ヲ調製スヘシ但シ紙數少ナキモノニ限リ區分ヲ明瞭ニシテ數資金ヲ合冊スルヲ妨ケス

二　本簿ハ土地、建物、有價證券及現金等其ノ財産ノ種類毎ニ口座ヲ設ケテ記載スヘシ

三　立木、穀物等様式ノ定メナキモノハ適宜之ヲ調製スヘシ

四　本簿ハ年度毎ニ之ヲ改製スルヲ要セス

土地

×印　二條ノ朱抹消線

所在地	地目	段別又ハ坪數	地價	現況	編入年月日	編入方法	除却年月日	除却方法	備考
何縣何郡何町村字何々何番	田	一段歩	五〇〇〇〇	……	何年何月何日	寄附			
×同	×畑	×五畝歩	×二〇〇〇〇	×……	×何年何月何日	×何々	×何年何月何日	×賣却	
同	宅地	百坪	五〇〇〇〇	……	何年何月何日	何々			

備考

一　土地ハ一筆毎ニ記載スヘシ

二　現況欄ニハ土地ノ利用狀況及地上權、抵當權其ノ他土地ニ關スル權利ノ設定等土地ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ事項ヲ詳細ニ記載スヘシ

三　賣却交換等ノ爲當該土地ヲ本簿ヨリ除却スルトキハ當該欄ニ其ノ年月日竝事由ヲ記入シ朱線二條ヲ以テ之ヲ抹消スヘシ

建物

×印　二條ノ朱抹消線

所在地	建物種類	構造	棟數	建坪數	現況	編入年月日	編入方法	除却年月日	除却方法	備考
何縣何郡何町村字何々何番	本家	木造瓦葺二階建	一	二〇	、、、	何年何月何日	寄附			
同	納屋	木造瓦葺平家建	一	四	、、、	何年何月何日	何々			
×同	×本家	×木造瓦葺平家建	×一	×一〇	×、、、	×何年何月何日	×何々	×何年何月何日	×賣却	

備考

一　本簿ノ取扱方ニ付テハ土地様式ノ備考ニ準スヘシ

有價證券

×印　二條ノ朱抹消線
△印　朱書

種類	記號番號	額面	利率	利子支拂期	編入年月日	編入方法	保管箇所	除却年月日	除却方法	備考
臨時國庫證券	何號何番	五〇	年五分	何月 何月	何年何月何日	購入	郵便官署			
四分利公債	何號何番	一,〇〇〇	年四分	何月 何月	何年何月何日	購入	同上			
×第何回勧業債券	×何號何番	×二〇	×年五分	×何月	×何年何月何日	×購入	×同上	△×何年何月何日	×償還	
何縣農工債券	何號何番	一〇〇	年六分五厘	何月 何月	何年何月何日	購入	何々銀行			
△計	△四枚	△一,一七〇								
何市公債	何號何番	五〇〇	年五分五厘	何月 何月	何年何月何日	應募	何々銀行			
△第何回勧業債券	△何號何番	△二〇						△何年何月何日	△償還	
△計	△四枚	△一,六五〇								

備考

一　有價證券ハ一枚毎ニ記載スヘシ

二　當籤償還又ハ賣却等ノ爲當該證券ヲ本簿ヨリ除却スルトキハ當該欄ニ其ノ年月日、事由ヲ記入シ朱線二條ヲ以テ之ヲ抹消スヘシ

三　記載シタル證券ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度新ニ計ヲ付スヘシ

現金

年月日	摘要	受高	拂高	殘高（現金 預金）
何年何月何日	勧業債券額面百圓ニ對スル利子	五〇〇〇		五〇〇〇
何月何日	何々銀行預金ニ對スル利子大正何年上半期分	六〇〇〇〇		六五〇〇〇
何月何日	第何回勧業債券額面二十圓償還金	二〇〇〇〇		八五〇〇〇
何月何日	大正何年度蓄積金何々	五〇〇〇〇〇		五八五〇〇〇
何月何日	何縣農工債券額面百圓購入		一〇〇〇〇〇	四八五〇〇〇
何月何日	一般會計何々費補足		二〇〇〇〇〇	二八五〇〇〇

備考

一　預金ノ預入及拂戻ハ受拂ノ欄ニ記入セス殘ノ欄ニハ實際ノ保管ニ應シ區分記載スヘシ

●官國幣社營繕ニ關スル規程

（明治三十六年十月二十六日 内務省訓令第十號）
改正　大正元年第一四號、八年第一一號、第十二號

北海道廳　府縣

官國幣社營繕ニ關スル規程左ノ通相定ム

官國幣社營繕ニ關スル規程

第一條　建設物ノ新築又ハ增築ハ維持ノ目途確立シ風致ヲ害セサルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

神苑水道等ノ新設又ハ增設ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二條乃至第四條　削除

第五條　左記ノ場合ノ一ニ該當スルトキハ内務大臣ニ稟請セシムヘシ

一　建設物ヲ新築又ハ增築シ及神苑ヲ新設又ハ增設セントスルトキ

二　本殿、四百年以前ノ建物、特別由緒アル建物又ハ建築優秀ナル建物ノ再築、改築及模樣替ヲ爲サントスルトキ

第六條　第五條第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外建設物又ハ神苑ノ再築、改築、模樣替、水道ノ新設、增設、變更ヲ爲サントスルトキ及工費一廉三百圓以上ノ修繕ヲ爲サントスルトキハ地方長官ニ稟請セシムヘシ

第七條　臨時營繕ノ爲メ各社共通金ノ支出ヲ要スルトキハ内務大臣ニ稟請セシムヘシ此場合ニ於テ不用古材ノ賣却代金ハ該工費ニ加フヘキモノトス

第八條　第五條第二號ノ建設物ヲ廢棄セントスルトキハ内務大臣ニ稟請セシメ其他ノ建設物ヲ廢棄シ又ハ神苑、水道等ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ニ稟請セシムヘシ

第九條　營繕工事一廉五百圓以上ナルトキハ其執行方法ハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ

各社共通金ヨリ支出シタル營繕工事竣功セルトキハ直チニ其工費精算ヲ内務大臣ニ報告セシムヘシ

第十條　營繕ノ爲メ生シタル不用古材ニシテ價格一廉三百圓以上ノモノノ處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ

第十一條　第二條但書第五條及第七條ニ依ル稟請ノ場合ニハ工事ノ金額、設計竝圖面ヲ添付セシムヘシ

但第五條第一號ニ依ル場合ハ維持ノ方法ヲモ具セシムルヲ要ス

第十二條　此規程ニ依リ内務大臣ニ差出スヘキ書面ハ地方長官ヲ經由セシムヘシ

第十三條　從前ノ令達ニシテ此規程ニ牴觸スルモノハ廢止ス

●官國幣社各社共通金ヲ以テ營繕費ヲ支辨スル建物ノ種類

（明治四十年一月十六日 内務省訓令第一號）
改正　大正一〇年第一一號、一四年第四號

道廳府縣

官國幣社各社共通金ヲ以テ營繕費ヲ支辨スル建物ノ種類左ノ如シ

本社　本殿（新築、改築又ハ遷座ヲ必要トスル修繕ニ伴フ殿内裝代及神座ノ設備ヲ含ム）、幣殿、拜殿、祝詞屋、中門、透塀及垣（必要缺ク可ラサルモノニ限ル）、假殿（必要缺クヘカラサルモノニ限ル）、鳥居（必要缺クヘカラサルモノニ限ル）、樓門、廻廊、神饌所、社務所

奧宮、別宮及攝社　本殿、幣殿、拜殿

但シ攝社ニ付テハ由緒特ニ顯著ナルモノ又ハ本社トノ緣故特ニ深厚ナルモノニ限ル

●神社財產ニ關スル法律

（明治四十一年三月二十三日 法律第二十三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル神社財產ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

第一條　本法ニ於テ神社ト稱スルハ官國幣社、府縣社以下ノ神社ヲ謂ヒ財產ト稱スルハ神社ノ不動產及寶物ニシテ登錄ヲ受ケタルモノヲ謂フ

第二條　地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ神社財產ヲ擔保ニ供シ又ハ處分シタルトキハ之ヲ無效トス神社ノ負債ニ付亦同シ

第三條　神社ノ神社財產ヲ處分スル場合ニ於テ其ノ神社ノ神職、氏子總代及崇敬者總代ハ之ヲ取得スルコトヲ得ス

第四條　神社財產タル境內地、社殿其ノ他境內ニ在ル工作物及寶物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五條　神社ノ不動產及寶物ハ地方廳ニ於テ保管スル臺帳ニ登錄ヲ受クヘシ

登錄ニ關スル事項及登錄ト不動產登記トノ關係ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ別格官幣社靖國神社ニ之ヲ適用セス

（明治四十一年勅令第百七十六號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●神社財產ノ登錄ニ關スル件

（明治四十一年七月二十日 勅令第百七十七號）

朕神社財產ノ登錄ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務、司法大臣副署）

第一條　神社財產ノ登錄ハ神社所在地ノ地方廳ニ於テ之ヲ爲ス

第二條　神社財產ヲ登錄スル臺帳ハ神社財產登錄臺帳ト稱シ不動產登錄臺帳及寶物登錄臺帳ノ二種トス

神社財產登錄臺帳ニ登錄スヘキ事項ハ左ノ如シ

一　土地ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、境內地境外地ノ區別

二　社殿及工作物ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、社殿其ノ他工作物ノ種類、若名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號、構造、建坪又ハ間數、境內地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別

三　寶物ハ名稱、員數、品質、形狀又ハ寸尺、若作者又ハ傳來明カナルトキハ其ノ作者又ハ傳來

四　登錄ノ年月日、番號

第三條　神社ハ不動產又ハ寶物ヲ取得シタルトキハ三十日以內ニ登錄ヲ申請スヘシ但シ土地及境外地ニ在ル建物ニ付テハ申請前登記ヲ經ルコトヲ要ス

前項但書ニ依ル登記ノ爲該期間內ニ申請ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ登記ノ了リタルトキヨリ十五日以內ニ登錄ヲ申請スヘシ

登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦前二項ニ同シ

第四條　登記ヲ經タル不動產ノ登錄ヲ爲シタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク神社財產ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第五條　神社ハ神社財產ヲ處分シタルトキ若ハ其ノ滅失シタルトキ又ハ寶物ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ七日以內ニ登錄ノ抹消ヲ申請スヘシ

第六條　登記所ニ於テ裁判所ノ囑託ニ依リ神社財產ノ登記アル不動產ニ付民事訴訟法第七百條第一項第一號又ハ競賣法第三十三條第一項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク神社所在地ノ地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ不動產ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第七條　登記ヲ經タル不動產ノ登錄ヲ抹消シタルトキハ地方廳ハ遲滯ナク神社財產ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附　則

本令ハ明治四十一年法律第二十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神社ハ本令施行ノ際現ニ所有スル不動產及寶物ニ付本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

●神社ノ財產登錄及管理竝會計ニ關スル件

（明治四十一年七月二十日 内務省令第十二號）
改正　明治四二年第一四號、大正元年第八號、三年第二八號、七年第一二號、一五年第三二號

神社ノ財產登錄及管理竝會計ニ關スル件左ノ通定ム

第一章　登錄

第一條　地方廳ニ於テ保管スル神社財產登錄臺帳ハ別記樣式ニ依リ調製スヘシ

第二條　神社ニ於テ登記ヲ經タル不動產ノ登錄ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ

第二章　管理

第三條　神社ハ不動產、寶物其ノ他貴重ノ書畫什器類ハ之ヲ臺帳ニ登載シ其ノ增減變更アリタルトキハ加除訂正スヘシ

不動產及寶物ヲ登載スル臺帳ハ神社財產登錄臺帳ノ樣式ニ準シ調製スヘシ

第四條　寶物及貴重品ハ其ノ容器又ハ適當ナル箇所ニ番號票ヲ附シ臺帳ニ其ノ合番號ヲ記入スヘシ

第五條　左ニ揭クル事項ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス

一　不動產、寶物其ノ他貴重品ヲ買入ル、コト

一　負擔附ノ寄附ヲ受クルコト

一　寶物其ノ他貴重品ヲ神社外ニ持出スコト

第六條　用途指定ノ寄附金品ハ其ノ用途以外ニ使用又ハ處分スルコトヲ得ス

第三章　會計

第七條　會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　神社ハ毎會計年度收入支出豫算ヲ定メ年度開始ノ一月前迄ニ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ北海道廳支廳竝府縣支廳ノ管內及市ノ區域ニ在ル鄉社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長）ノ認可ヲ受クルモノトス

豫算ノ追加更正ヲ爲サムトスルトキハ其ノ都度認可ヲ受クヘシ

第九條　收入支出ハ神職ノ職名ヲ以テ之ヲ執行スヘシ

第十條　收入支出ハ帳簿ニ記入シ記入毎ニ神職印ヲ捺スヘシ

第十一條　支拂ハ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ受取證書アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十二條　神社ハ毎會計年度收入支出決算書竝ニ基金明細書ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ但シ北海道廳支廳竝府縣支廳ノ管內及市ノ區域ニ在ル鄉社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長（東京市、京都市、大阪市ニ在リテハ區長）ニ報告スルモノトス

第十三條　毎年度社入金ノ百分ノ五以上ハ基

本財產トシテ積立ツヘシ

第十四條　基本財產ハ其ノ神社維持ノ爲已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非レハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第十五條　基本財產ヨリ生スル收入ハ經費ニ充用スルコトヲ得

第十六條　基本財產ハ國債登錄、公債證書其ノ他ノ確實ナル有價證券ト爲スカ又ハ中央金庫、本支金庫、郵便官署、日本銀行ニ預入ルヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ土地ヲ買入又ハ前項以外ノ銀行ニ預入若ハ其ノ他ノ管理方法ニ依ルコトヲ得

第十七條　有價證券ハ【中央金庫】、郵便官署、日本銀行、日本興業銀行ニ保管ヲ委託スヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ前項以外ノ管理方法ニ依ルコトヲ得

第十八條　從前積立タル資金ハ基本財產ニ編入スヘシ但シ特別ノ目的ヲ以テ積立タルモノハ地方長官ノ認可ヲ得テ整理スヘシ

第十九條　古社寺保存法ニ依リ下附セラレタル修理保存費ハ特別ニ整理スヘシ

第二十條　官國幣社ノ會計ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第三章會計ニ關スル規定ハ地方長官ノ指定シタル神社ニ之ヲ適用ス

（別記）

土地ノ部

郡市區町村大字字番地
社格　何　神社

登錄年月日番號	所在地	地目	段別又ハ坪數	境內外ノ區別	備考

備考

一　登錄番號ハ土地ニ在リテハ地第何號、社殿其ノ他工作物ニ在リテハ建第何號、寶物ニ在リテハ寶第何號トシ一箇年毎ニ更新スヘシ

一　登錄ヲ抹消又ハ變更シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ備考ニ記入スヘシ以下皆同シ

（神社備置ノ臺帳ニハ地目ノ下ニ「地價」ノ一欄ヲ增設シ取得ノ原因ヲ備考ニ記入スヘシ）

社殿其ノ他工作物ノ部

郡市區町村大字字番地
社格　何　神社

登錄年月日番號	種類名稱	番號	構造	建坪又ハ間數	所在地、地目、段別又ハ坪數	境內外ノ區別	備考

備考

一　古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレタルトキハ其ノ旨備考ニ記入スヘシ

（神社備置ノ臺帳ニハ取得ノ原因ヲ備考ニ記入スヘシ以下同シ）

寶物ノ部

郡市區町村大字字番地
社格　何　神社

登錄年月日番號	名稱	員數	品質、形狀、寸尺	作者、傳來	備考

備考

一古社寺保存法ニ依リ國寶ニ指定セラレタルトキハ其ノ旨備考ニ記入スヘシ

（神社備置ノ臺帳ニハ品目ノ頭ニ「番號」ノ一欄ヲ設ケ現品ノ合番號ヲ記入スヘシ）

●朝鮮神宮職員令

（大正十四年九月十一日勅令第二百七十六號）

朕朝鮮神宮職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理大臣副署）

朝鮮神宮職員令

第一條　朝鮮神宮ニ左ノ職員ヲ置ク

宮司　一人

禰宜　一人

主典　五人

第二條　宮司ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ祭祀ニ奉仕シ祭儀ヲ司リ庶務ヲ管理ス

第三條　禰宜ハ宮司ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事ス

第四條　主典ハ上職ノ指揮監督ヲ承ケ祭儀及庶務ニ從事ス

第五條　宮司事故アルトキハ禰宜之ヲ代理ス

第六條　宮司ハ勅任待遇トシ内閣ニ於テ之ヲ命シ禰宜及主典ハ判任待遇トシ朝鮮總督之ヲ命ス

第七條　神職ニハ俸給ヲ支給ス但シ朝鮮總督ニ於テ名譽職ト爲スコトヲ妨ケス

第八條　神職ノ服務、俸給及旅費ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第九條　宮司ハ官國幣社及神宮神部署神職任用令ニ依ル高等試驗ノ合格者及同令第八條第二號乃至第六號ノ規定ニ依リ奏任待遇ノ神職ニ任用セラルル資格アル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第十條　禰宜及主典ハ官國幣社及神宮神部署神職任用令ニ依ル尋常試驗ノ合格者其ノ他同令ニ依リ判任待遇ノ神職ニ任用セラルル資格アル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

禰宜及主典ハ前項ノ規定ニ依ルノ外官國幣社及神宮神部署神職任用令第九條、第十一條第二項第三項及第十二條ノ例ニ依リ朝鮮總督ノ選任スル尋常試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得但シ同令第九條中文部大臣トアルハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官幣大社朝鮮神宮出仕ニ關スル件

（大正十五年五月七日朝鮮總督府令第四十四號）

官幣大社朝鮮神宮出仕ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　朝鮮神宮ニ出仕ヲ置ク

第二條　出仕ハ主典ノ職務ヲ補助ス

第三條　出仕ハ雇ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　出仕ハ宮司之ヲ命免ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官幣大社朝鮮神宮神職俸給規則

（大正十四年九月十八日朝鮮總督府令第八十五號）

官幣大社朝鮮神宮神職俸給規則左ノ通定ム

官幣大社朝鮮神宮神職俸給規則

第一條　宮司ノ俸給ハ年俸トシ別表甲號ニ依リ禰宜及主典ノ俸給ハ月俸トシ別表乙號ニ依ル

第二條　宮司ニシテ五年以上其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　禰宜又ハ主典ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ成績優等ナル者ニハ特ニ月額四十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

第四條　神職死亡シタルトキハ在職最終年俸ノ三分ノ一又ハ月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭クル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第五條　宮司、禰宜及主典ニハ加俸ヲ支給ス

宮司ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ四トシ禰宜及主典ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ六トス

第六條　名譽職タル神職ニハ報酬ヲ支給スルコトヲ得

第七條　俸給及加俸ノ支給方ハ宮司ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ禰宜及主典ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル月額又ハ年額ニテ報酬ヲ支給スル場合亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

甲號

職名＼俸給	一級	二級	三級
宮司	三、八〇〇圓	三、四〇〇圓	三、一〇〇圓

乙號

職名＼俸級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
禰宜	一六〇圓	一三五圓	一一五圓	一〇〇圓	八五圓	七五圓	六五圓	五五圓	五〇圓	|
主典	一三〇	一一五	一〇〇	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇圓

●官幣大社朝鮮神宮職員旅費規則

（大正十五年四月七日朝鮮總督府令第二十九號）

官幣大社朝鮮神宮職員旅費規則左ノ通定ム

官幣大社朝鮮神宮職員旅費規則

第一條　官幣大社朝鮮神宮職員ニハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　内國旅費規則第十一條、第十五條、第十六條及第二十一條ノ規定ハ朝鮮神宮ノ職員タルヘキ者、職員タリシ者又ハ職員ノ遺族ニ付之ヲ準用ス

第三條　囑託員、雇員及傭人ノ赴任ニハ家族移轉料ヲ支給セス

第四條　旅費ヲ支給スヘキ場合竝旅費ノ額及支給方法ハ前條ノ場合ヲ除クノ外朝鮮總督府職員ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ大正十四年九月十五日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス

●官幣大社朝鮮神宮會計規則

（大正十五年三月三日朝鮮總督府令第二十三號）

官幣大社朝鮮神宮會計規則左ノ通定ム

官幣大社朝鮮神宮會計規則

第一章　總則

第一條　會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ完結スヘシ

第二條　收入支出ハ總テ之ヲ豫算ニ編入スヘシ

第三條　毎會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　豫算内ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ年度内ノ收入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第五條　公益ノ爲必要アル場合ニ限リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六條　會計ノ收支所屬年度ハ左ノ區分ニ依ルヘシ

收入所屬年度

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ請求書ヲ發スルモノハ其ノ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ請求書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ供進金及寄附金ハ年度經過後ト雖出納閉鎖期迄ハ之ヲ豫定シタル年度ノ收入ト爲スコトヲ得

支出所屬年度

一　俸給、給料、報酬、旅費其ノ他ノ給與ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、工事費、物件ノ購入代金其ノ他契約ニ依ル支拂金ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第七條　金錢物件ノ出納ハ宮司ノ命ニ依リ會計主任之ヲ執行スヘシ

第八條　用途指定ノ寄附金ハ指定以外ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

第二章　豫算及決算

第九條　豫算ハ款項ニ區分シ第一號樣式ニ依リ調製シ年度開始ノ一月前迄ニ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲サムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ハ年度經過後ニ於テ追加更正ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ之ヲ流用スルコトヲ得ス各項ノ金額ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ流用スルコトヲ得

第十二條　豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クルコトヲ得

第十三條　工事其ノ他ノ事業ニ關シ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スル爲繼續費ヲ設ケムトスルトキハ費用ノ總額及其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十四條　歲計ニ剩餘ヲ生シタルトキハ豫備資金ニ編入スヘシ但シ必要アル場合ニ限リ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十五條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終迄逐次繰越使用スルコトヲ得

第十六條　宮司ハ出納閉鎖後一月以内ニ第一號樣式ニ依リ收支決算書ヲ、第二號樣式ニ依リ資金明細書ヲ調製シ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第三章　現金出納

第十七條　會計帳簿ハ第三號樣式ニ依リ調製スヘシ

第十八條　現金又ハ有價證券ハ支拂準備ニ必要ナルモノヲ除クノ外郵便官署又ハ朝鮮總督ノ認可シタル銀行ニ預入シ又ハ寄託スヘシ

第十九條　賽錢等ノ容器ニハ鎖鑰ヲ設ケ會計主任ハ宮司又ハ其ノ指定シタル神職ト立會ノ上之ヲ開閉スヘシ

第二十條　支拂ハ證憑書類ニ依リ其ノ正當ナルコトヲ確認シタル後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條　工事請負代金又ハ物件購入代金ノ類ハ工事又ハ物件ノ全部ノ引渡ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ支拂フコトヲ得ス但シ契約ニ依リ既成又ハ既納ノ部分ニ付部分拂ヲ爲スヘキコトヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　前條ノ支拂金ニシテ一廉千圓ヲ超ユルトキ又ハ前條但書ニ該當スルトキハ宮司又ハ其ノ委託ヲ受ケタル者ハ支拂前之カ檢査ヲ行ヒ調書ヲ作製スヘシ

第二十三條　左ニ揭クル場合ニ於テ係員ヲシテ支拂ヲ爲サシムル爲必要アルトキハ現金ヲ前渡スルコトヲ得

一　出張先ニ於テ支拂ヲ要スルトキ

二　日用品購入ノ爲必要アルトキ但シ一月五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十四條　前金拂ニ非サレハ購入又ハ契約スルコトヲ得サル場合ニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　旅費ハ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　第二十三條第一號ノ規定ニ依リ現金ノ前渡ヲ受ケタル者ハ歸著後五日以内ニ、同條第二號ノ規定ニ依リ現金ノ前渡ヲ受ケタル者ハ翌月五日迄ニ精算スヘシ

旅費ノ概算渡ヲ受ケタル者ハ歸著後五日以内ニ精算スヘシ

第四章　契約

第二十七條　豫定價格千圓ヲ超ユル請負契約ヲ締結シ又ハ豫定價格五百圓ヲ超ユル物件ノ賣買貸借ヲ爲サムトスルトキハ一般競爭入札ニ付スヘシ

第二十八條　左ニ揭クル場合ニ於テハ三名以上ヲ指名シテ競爭入札ニ付スルコトヲ得

一　一般競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ一般競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　一般競爭入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又ハ落札人ナキトキ

四　特ニ指名競爭入札ニ付スルノ必要アリト認ムルトキ

前項第一號及第四號ノ場合ニ在リテハ豫メ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條　左ニ揭クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　競爭入札ニ付スルヲ不適當ト認ムルトキ

二　急施ヲ要シ競爭入札ニ付スルノ暇ナキトキ

三　競爭入札ニ付スルモ入札人ナキトキ又

ハ落札人ナキトキ

四　競爭入札ニ付スルコト能ハサルトキ

前項第一號及第四號ノ場合ニ在リテハ豫メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條　第二十八條第三號ノ場合ニ於テ指名競爭入札ニ付セムトスルトキ又ハ前條第三號ノ場合ニ於テ隨意契約ヲ締結セムトスルトキハ保證金及期限ヲ除クノ外最初競爭入札ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十一條　入札ヲ爲サムトスル者ハ入札金額ノ百分ノ三以上ノ入札保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競爭入札又ハ豫定價格二千圓ヲ超エサル一般競爭入札ニ付テハ之ヲ減免スルコトヲ得

第三十二條　神社ト契約ヲ締結セムトスル者ハ契約金額ノ百分ノ五以上ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ指名競爭入札又ハ隨意契約ノ方法ニ依リ契約ヲ締結スル場合ニ在リテハ之ヲ減免スルコトヲ得

第三十三條　入札保證金及契約保證金ハ國債證券、地方債證券、朝鮮殖産債券又ハ勸業債券ヲ以テ代用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ國債證券ハ其ノ額面金額ニ依リ、其ノ他ノモノハ京城ニ於ケル前月ノ市場價格ノ十分ノ八ヲ以テ之ヲ換算ス

第三十四條　入札保證金ハ入札終了後之ヲ還付ス但シ落札人ニ對シテハ契約保證金納付ノ際之ヲ還付シ契約保證金ハ契約履行後之ヲ還付ス

第三十五條　隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徴スヘシ

第三十六條　契約ヲ締結セムトスルトキハ契約ノ目的履行期限、保證金額、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作製スヘシ但シ第二十七條ニ規定スル金額ヲ超エサル契約ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章　物品會計

第三十七條　物品ハ第四號樣式ニ依リ出納簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明記スヘシ但シ收納後直ニ消費スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　購入シタル物品ハ豫算ノ當該款項以外ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

第三十九條　用途指定ノ寄附物件ハ其ノ指定以外ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

第四十條　撤下ノ神饌、幣帛其ノ他供物ハ神職、雇員其ノ他ノ者ニ頒賜スルコトヲ得

第六章　會計主任

第四十一條　會計主任及物品會計主任ハ禰宜又ハ主典ノ中ヨリ宮司之ヲ命ス

宮司會計主任及物品會計主任ヲ命シタルトキハ朝鮮總督ニ報告スヘシ會計主任ハ物品會計主任ト相兼ヌルコトヲ得

第四十二條　會計主任又ハ物品會計主任疾病其ノ他ノ事故ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ宮司其ノ代理者ヲ定メ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第四十三條　會計主任又ハ物品會計主任ハ其ノ代理者ノ行爲ニ付其ノ責ニ任セス

第四十四條　會計主任、物品會計主任及其ノ代理者現金、有價證券又ハ物品ノ出納保管ニ關シ神社ニ損害ヲ及ホシタルトキハ辨償ノ責ニ任ス會計主任及其ノ代理者以外ノ者ニシテ現金ノ前渡ヲ受ケタル者又ハ物品ノ交付ヲ受ケタル者ニ付亦同シ

第四十六條　現金、有價證券又ハ物品ヲ出納保管スル者之ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタル場合ニ限リ朝鮮總督ハ宮司ノ具申ニ依リ前條ノ責任ヲ免除スルコトヲ得

第七章　資金

第四十六條　資金ノ種別左ノ如シ

一　基本財産

二　豫備資金

三　特別資金

第四十七條　用途指定ノ寄附ニ係ルモノヲ除クノ外收益アル不動産ハ之ヲ基本財産ト爲スヘシ

第四十八條　基本財産ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條　社入金（用途指定寄附金ヲ除ク）ノ一割以上ノ額ハ豫備資金ニ積立ツヘシ

前項豫備資金ノ積立ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ停止スルコトヲ得

第五十條　豫備資金ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ營繕費其ノ他ノ臨時費ニ充ツルコトヲ得

第五十一條　基本財産及豫備資金ヨリ生スル收益ハ之ヲ經費ニ充ツルコトヲ得

第五十二條　特別資金ヲ設定セムトスルトキハ其ノ資金ノ名稱、目的及管理ノ規定ヲ詳具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ資金及之ヨリ生スル收益ハ其ノ目的ニ反シ消費スルコトヲ得ス

第五十三條　資金ハ各特別會計ト爲シ第五號樣式ニ依リ臺帳ヲ調製シ整理スヘシ

第五十四條　基本財産タル金錢ハ不動産、國債證券、地方債證券、朝鮮殖産債券、勸業債券其ノ他朝鮮總督ノ認可シタル有價證券以外ノ財産ニ換フルコトヲ得ス

第五十五條　資金タル金錢及有價證券ハ郵便官署又ハ朝鮮總督ノ認可シタル銀行ニ預入又ハ寄託スヘシ

附　則

本令ハ大正十四年九月十五日以降ノ分ニ付適用ス

第一號樣式ノ一

大正何年度官幣大社朝鮮神宮收支豫算

收入

科目	本年度豫算額 圓	前年度豫算額 圓	比較 增減 圓	附記
第一款　諸收入				
第一項　國庫供進金				
第一目　國庫供進金				
第二項　神饌幣帛料				
第一目　神饌幣帛料				
第三項　社入金				
第一目　賽物其他收入				
第一節　神符守札授與料				
第二節　賽物				
第三節　神饌及初穗料				
第四節　燈油料				
第五節　社頭繪圖料				
第六節　何何				
第二目　境內地收入				
第一節　境內地使用料				
第二節　枯損木賣却代				
第三節　何何				
第三目　境外地收入				
第一節　貸地料				
第二節　貸家料				
第三節　竹木賣却代				
第四節　何何				
第四目　保管林收入				
第五目　雜收入				
第一節　預金利子				
第二節　不用品賣却代				
第三節　何何				
第四項　寄附金				
第一目　用途指定寄附金				
第一節　何何				
第二目　寄附金				
第一節　何何				
第五項　雜收入				
第一目　過年度收入				
第一節　過誤拂戻入				
第二節　何何				
第二款　繰越金				
第一項　前年度繰越金				
第一目　前年度繰越金				
第二目　營繕費前年度繰越金				
第三款　繰入金				
第一項　資金會計ヨリ繰入				
第一目　何何				
第四款　恩給法納金				
第一項　恩給法納金				
第一目　恩給法納金				
收入合計				

支出

科目	本年度豫算額 圓	前年度豫算額 圓	比較 增減 圓	附記
第一款　社費				
第一項　祭典費				
第一目　神饌品費				
第二目　器具費				
第三目　雜用品費				
第四目　傭人料				
第五目　雜費				
第二項　俸給				
第一目　神職俸給				
第二目　雇員給				
第三項　雜給				
第一目　手當				
第二目　傭人料				
第三目　賞與				
第四目　何何				
第四項　廳費				
第一目　備品費				

第二目　文房具費				
第三目　圖書及印刷費				
第四目　神符守札調製費				
第五目　消耗品費				
第六目　通信運搬費				
第七目　賄費				
第八目　接待費				
第九目　雜費				
第五項　旅費				
第一目　旅費				
第六項　境內外地諸費				
第一目　傭人料				
第二目　植樹費				
第三目　雜費				
第四目　諸稅				
第二款　營繕費				
第一項　營繕費				
第一目　指定營繕費				
第一節　何何營繕費				
第二節　何何修繕費				
第二目　前年度繰越何何營繕費				
第三目　各所修繕費				
第三款　繼續費				
第一項　何何本年度支出額				
第一目　何何本年度支出額				
第四款　寄附金				
第一項　寄附金				
第一目　何何寄附金				
第五款　補助金				
第一項　補助金				
第一目　何何補助				
第六款　繰入金				
第一項　資金會計繰入				
第一目　資金會計繰入				
第七款　豫備費				
第一項　豫備費				
第一目　豫備費				
第八款　國庫納金				
第一項　恩給法國庫納金				
第一目　恩給法國庫納金				
支出合計				

備考

一　本表ニ揭クルモノノ外必要ニ應シ科目ヲ增置スルコトヲ得本表ニ揭クルモノト雖該當ノ事項ナキトキハ其ノ科目ヲ省クモノトス

二　增減欄ノ減ハ朱書スヘシ

三　附記欄ニハ計算ノ基礎及增減ノ事由ヲ說明スヘシ

四　本令第四條ノ借入金ハ豫算ニ計上セサルモノトス

五　營繕費中各所修繕費ノ目ニハ一廉五百圓以下ノ修繕費ヲ一括シテ計上スルモノトス

附記

一　豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲サムトスルトキハ本樣式中本年度豫算額ヲ追加豫算額又ハ更正豫算額、前年度豫算額ヲ既決豫算額ト記載スヘシ

二　決算ハ本樣式ニ準シ本年度豫算額ヲ何年度決算額トシ表末ニ備考ヲ設ケ「收支差引殘金何圓ハ何年度ニ於テ豫備資金ニ編入ス」ト記載スヘシ

第一號樣式ノ二

大正何年度官幣大社朝鮮神宮資金會計收支豫算

科目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	附記
收入				

第一款　資金ヨリ生スル收入				
第一項　基本財產收入				
第一目　小作米				
第二目　貸地料				
第三目　貸家料				
第四目　竹木其他賣却代				
第五目　預金利子				
第六目　有價證券利子				
第七目　何何				
第二項　豫備資金收入				
第一目　預金利子				
第二目　有價證券利子				
第三目　何何				
第三項　何何資金收入				
第一目　預金利子				
第二目　有價證券利子				
第三目　何何				
第二款　寄附金				
第一項　基本財產指定寄附金				
第一目　基本財產指定寄附				
第二項　豫備資金指定寄附金				
第一目　豫備資金指定寄附				
第三項　何何資金指定寄附金				
第一目　何何資金指定寄附金				
第三款　受入金				
第一項　基本財產受入				
第一目　基本財產受入				
第二項　豫備資金受入				
第一目　豫備資金受入				
第三項　何何資金受入				
第一目　何何資金受入				
第四項　一般會計ヨリ繰入				
第一目　一般會計ヨリ繰入				
收入合計				
科目	本年度豫算額 圓	前年度豫算額 圓	比較增減 圓	附記
支出				
第一款　資金支出				
第一項　一般會計繰入				
第一目　基本財產支出				
第一節　基本財產支出				
第二節　基本財產利子支出				
第二目　豫備資金支出				
第一節　豫備資金支出				
第二節　豫備資金利子支出				
第三目　何何資金支出				
第一節　何何資金支出				
第二節　何何資金利子支出				
第二項　資金支出				
第一目　豫備資金支出				
第一節　何何新營費				
第二節　何何修繕費				
第二目　何何資金支出				

		第一節　何何
		第二節　何何
第二款　資金造成管理費		
第一項　積立金		
	第一目　基本財産積立金	
	第二目　豫備資金積立金	
	第三目　何何資金積立金	
第二項　管理費		
	第一目　基本財産管理費	
		第一節　傭人料
		第二節　修繕費
		第三節　有價證券保管料
		第四節　保險料
		第五節　諸税
		第六節　雜費
	第二目　豫備資金管理費	
		第一節　有價證券保管料
	第三目　何何資金管理費	
		第一節　有價證券保管料
支出合計		

備考

一　第一號様式ノ一備考及附記ハ本様式ニ之ヲ準用ス但シ決算表ノ末尾ニハ左ノ通記載スヘシ

收支差引殘金　何程

内

金何程　基本財産ニ編入

金何程　豫備資金ニ編入

金何程　何何資金ニ編入

二　決算ノ結果生シタル殘金ヲ當該資金ニ積立ツル場合ニ於テハ之ヲ豫算ニ編入スルヲ要セス

第二號様式

大正何年度官幣大社朝鮮神宮資金明細書（大正何年三月三十一日調査）

資金名稱	區分	前年度越高	年度内受高	年度内拂高	現在高
何何資金	土地				
	建物				
	有價證券				
	現金				
	其他				
	計				

備考

一　本表ハ資金毎ニ區分シ記載スヘシ

二　立木ノ價格ハ土地ノ價格ニ、預金ハ現金ニ合算スヘシ

三　土地及建物ハ時價ヲ、有價證券ハ額面金額ヲ記載スヘシ

四　現金ノ年度内受拂中土地、建物及有價證券等ノ賣買代金及有價證券ノ償還金ハ當該欄ニ特ニ區分シ朱記スヘシ

第三號様式ノ一　表紙

大正何年度

收入内譯簿

官幣大社　朝鮮神宮

△印ハ朱書

年月日	摘要	金額
何年何月何日	第何款何項内第何目第何節貸家料	
	何月分何某外何名納	九七〇 〇〇〇
同日	何月分何某納	六五 〇〇〇
計		一,〇三五 〇〇〇
何月何日	何某納何月分ノ内過納ニ付還付	△五 〇〇〇
通計		一,〇三〇 〇〇〇

備考

一　本簿ニハ節毎ニ、節ヲ設ケサル科目ニ在リテハ目毎ニ各口座ヲ設クヘシ

二　摘要欄ニ收入ノ事由ヲ記載スヘシ

三　各口座ニハ日計及通計ヲ附スヘシ但シ記帳一日ニ止マルトキハ日計ヲ附スルヲ要セス

四　過誤納金ノ還付ハ其ノ金額ヲ朱書スヘシ

五　金額ヲ誤記シタルトキハ之ヲ發見シタル日ノ帳簿記載ノ末尾ニ其ノ事由ヲ記載シテ訂正シ増額ヲ要スルトキハ其ノ金額ヲ墨書シ減額ヲ要スルトキハ之ヲ朱書スヘシ

六　一時借入金ヲ爲シタルトキハ本簿ノ末尾ニ別ニ其ノ口座ヲ設ケ之ヲ記載スヘシ

七　本簿ハ之ヲ洋式簿ト爲スヲ妨ケス

八　特別會計ニ屬スルモノハ別ニ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

第三號様式ノ二　表紙

大正何年度

支出内譯簿

官幣大社　朝鮮神宮

△印ハ朱書

年月日	摘要	豫算額	支出額	豫算殘額
	第何款第何項ノ内第何目神饌品費	五〇〇 〇〇〇		
何年何月何日	何何代　何某渡		二五〇 〇〇〇	
計			二五〇 〇〇〇	二五〇 〇〇〇
何月何日	何何代　何某渡		二〇〇 〇〇〇	
通計			四五〇 〇〇〇	五〇 〇〇〇
何月何日	豫算追加	一〇〇 〇〇〇		
同日	同項第何目ヨリ流用	一〇 〇〇〇		
計		一一〇 〇〇〇		
通計		六一〇 〇〇〇		一六〇 〇〇〇
何月何日	何何代　何某渡		一五五 〇〇〇	
通計			六〇五 〇〇〇	五 〇〇〇
何月何日	同項第何目何費ヘ流用	△五 〇〇〇		
通計		六〇五 〇〇〇		
何月何日	何某渡何何代ノ内誤算ニ付返納		△五 〇〇〇	
通計			六〇〇 〇〇〇	五 〇〇〇

備考

一　豫算追加更正若ハ費目ノ流用ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ記載スヘシ費目ノ流用ニ因リテ減額シタル科目ニ於テハ其ノ金額ヲ朱書シ増額シタル科目ニ於テハ之ヲ墨書スヘシ

二　過誤拂金ノ返納ヲ受ケタルトキハ其ノ支出額ノ欄ニ其ノ金額ヲ朱書スヘシ

三　前各項ニ定ムルモノノ外總テ收入内譯簿取扱ノ例ニ依ルヘシ

第三號様式ノ三　表紙

大正何年度

收入支出日計簿

官幣大社　朝鮮神宮

△印ハ朱書

年月日	當日收入高	累計收入高	當日支出高	累計支出高	殘高
何年何月何日	一,〇三五 〇〇〇	一,〇三五 〇〇〇	二五〇 〇〇〇	二五〇 〇〇〇	七八五 〇〇〇
何月何日		一,〇三五 〇〇〇	二〇〇 〇〇〇	四五〇 〇〇〇	五八五 〇〇〇
何月何日	△五 〇〇〇	一,〇三〇 〇〇〇		四五〇 〇〇〇	五八〇 〇〇〇
何月何日		一,〇三〇 〇〇〇	△五 〇〇〇	四四五 〇〇〇	五八五 〇〇〇

備考

一　本簿ハ收入又ハ支出アリタル日毎ニ收入ト支出トヲ各別ニ合算シ記載スヘシ

二　過誤納金ヲ還付シ又ハ一時借入金ヲ償還シタルトキハ當日支出高欄ニ其ノ金額ヲ朱書スヘシ過誤拂金返納ヲ受ケタルトキハ當日收入高欄ニ其ノ金額ヲ朱書スヘシ

三　前二項ニ定ムルモノノ外總テ收入内譯簿取扱ノ例ニ依ルヘシ

第三號様式ノ四　表紙

大正何年何月調製

擔保物件受拂簿

官幣大社　朝鮮神宮

×印二條ノ朱抹消線

年月日	摘要	種類名稱	數量	受入年月日 還付年月日	保管個所	備考
×何年何月何日	×何何工事契約保證ノ爲何某納	×現金	×一〇〇 〇〇〇	×何年何月何日 ×何年何月何日	×何何銀行	
何月何日	何何工事入札保證ノ爲何某納	第何回勸業債券何號何番	二〇 〇〇〇	何年何月何日	社務所	

備考

一　本簿ハ請負ニ關スル入札又ハ契約保證金其ノ他擔保ノ爲收納シタル物件ノ受拂ヲ記載スルモノトス

二　摘要欄ニハ擔保ノ目的タル事項竝納入者ノ氏名ヲ記載スヘシ

三　有價證券ヲ受ケタルトキハ一枚毎ニ之ヲ記載シ數量ハ額面金額ヲ記入スヘシ

四　擔保物件ヲ還付シタルトキハ朱線ヲ以テ當該欄ヲ抹消スヘシ

五　既ニ受入レタル擔保物件ニ異動ヲ生シタルトキハ備考欄ニ其ノ事由ヲ記入スヘシ

六　本簿ハ毎年度毎ニ之ヲ改製スルヲ要セス

第四號様式ノ一　表紙

大正何年度
物品出納簿
官幣大社　朝鮮神宮

呼稱ノ單位
品目

年月日	受		拂	殘			摘要	物品會計主任印
	數量	單價		供用		在庫		
				共用	專用			

備考
一　本簿ハ備品ノ受拂ヲ登載スルモノトス

第四號樣式ノ二　表紙

大正何年度
物品出納簿
官幣大社　朝鮮神宮

呼稱ノ單位
品目

年月日	受		拂	現在	摘要	物品會計主任印	受領者印
	數量	單價					

備考
一　本簿ハ消耗品ノ受拂ヲ登載スルモノトス

第五號樣式　表紙

大正何年何月調製
何資金臺帳
官幣大社　朝鮮神宮

凡例

一　本簿ハ資金毎ニ之ヲ調製スヘシ但シ紙數少キモノニ限リ區分ヲ明瞭ニシテ數資金分ヲ合冊スルヲ妨ケス
二　本簿ハ別記樣式ニ依リ土地、建物、有價證券及現金等其ノ財産ノ種類毎ニ口座ヲ設ケテ記載スヘシ
三　立木、穀物等樣式ノ定メナキモノハ別記樣式ニ準シ適宜之ヲ調製スヘシ
四　本簿ハ年度毎ニ之ヲ改製スルヲ要セス

土地

×印二條ノ朱抹消線

所在地	地目	段別又ハ坪數	地價		現況	編入年月日 編入方法	除却年月日 除却方法	備考
何縣何郡何町村字何何何番	田	一段歩	五〇圓	〇〇〇	…………	何年何月何日 購入		
× 同	×畑	×五畝歩	×二〇	〇〇〇	×…………	×何年何月何日 ×購入	×何年何月何日 ×賣却	
同	宅地	百坪	五〇	〇〇〇	…………	何年何月何日 寄附		

備考
一　土地ハ一筆毎ニ記載スヘシ
二　現況欄ニハ土地ノ利用狀況及地上權、抵當權其ノ他土地ニ關スル權利ノ設定等土地ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ事項ヲ詳細ニ記載スヘシ
三　賣却交換等ノ爲當該土地ヲ本簿ヨリ除却スルトキハ當該欄ニ其ノ年月日及事由ヲ記入シ朱線二條ヲ以テ之ヲ抹消スヘシ

建物

×印二條ノ朱抹消線

所在地	建物種類	構造	棟數	建坪數	現況	編入年月日 編入方法	除却年月日 除却方法	備考
何縣何郡何町村何何番	本家	木造瓦葺 二階建	一	二〇	………… …×…×	何年何月何日 建築		
同	納屋	木造瓦葺 平家建	一	四	………… …………	何年何月何日 建築		
同	×本家	×木造瓦葺 ×平屋建	×一	×一〇	………… …………	×何年何月何日 ×購入	×何年何月何日 ×賣却	

備考
一　本簿ノ取扱方ニ付テハ土地樣式ノ備考ニ準スヘシ

有價證券

×印二條ノ朱抹消線
△印朱書

種類	記號番號	額面	利率	利子支拂期	編入年月日 編入方法	保管場所	除却年月日 除却方法	備考
臨時國庫證券	何號 何番	五〇圓	年五分	何月 何月	何年何月何日 購入	郵便官署		
四分利公債	何號 何番	一、〇〇〇	年四分	何月 何月	何年何月何日 購入	同		
第何回×勸業債券	×何號 何番	×二〇	×年五分	×何月	×何年何月何日 ×購入	×同	×何年何月何日 ×償還	
何縣×農工債券	何號 何番	一、〇〇〇	年六分五厘	何月 何月	何年何月何日 購入	何何銀行		
△計	△四枚	二、〇七〇						
	何號 何番	五〇〇	年五分五厘	何月 何月	何年何月何日 應募	何何銀行		
	何號 何番	△二〇					△何年何月何日 △償還	
計	△四枚	△二、五五〇						

備考
一　有價證券ハ一枚毎ニ記載スヘシ
二　當籤償還又ハ賣却等ノ爲當該證券ヲ本簿ヨリ除却スル時ハ當該欄ニ其ノ年月日及事由ヲ記入シ朱線二條ヲ以テ之ヲ抹消スヘシ
三　記載シタル證券ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度新ニ計ヲ附スヘシ

現金

年月日	摘要	受高		拂高		殘高 現金		殘高 預金	
何年何月何日	勸業債券額面百圓ニ對スル利子	五圓	〇〇〇					五圓	〇〇〇
何月何日	何何銀行預金ニ對スル利子大正何年上半期分	六〇	〇〇〇					六五	〇〇〇
何月何日	何何公債證書額面百圓償還	一〇〇	〇〇〇					一六五	〇〇〇
何月何日	大正何年度蓄積金何何	五〇〇	〇〇〇					六六五	〇〇〇
何月何日	何何公債證書額面百圓購入			九五	〇〇〇			五七〇	〇〇〇
何月何日	一般會計何何費補足			二〇〇	〇〇〇			三七〇	〇〇〇

備考
一　預金ノ預入及拂戻ハ受拂ノ欄ニ記入セス殘ノ欄ニハ實際ノ保管ニ應シ區分記載スヘシ

補塡方法ヲ定メテ支出シタル資金

許可年月日番號	支出事由	支出許可額	支出金補塡加算率
		圓	

支出額	支出未濟額	支出年月日	備考
圓	圓		

補塡豫定			補塡		額	末
年月日	元金	加算金	年月日	元金	元金未補塡額	加算金
	圓	圓		圓	圓	圓

●官幣社神職俸給規則

（大正十一年六月三日朝鮮總督府令第百三十三號）
（改正　大正一三年第五三號、一四年第六二號）

明治三十四年府令第二十號官幣社神職俸給規則左ノ通改正ス

第一條　宮司ノ俸給ハ年俸トシ別表甲號ニ依リ禰宜、主典ノ俸給ハ月俸トシ別表乙號ニ依ル

第二條　宮司ニシテ五年以上其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　禰宜、主典ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ成績優等ナル者ニハ特ニ月額四十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

第四條　神職死亡シタルトキハ在職最終年俸ノ三分ノ一又ハ月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項ノ遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第五條　名譽職タル神職ニハ俸給定額内ヨリ報酬ヲ給スルコトヲ得

第六條　宮司、禰宜、主典ニハ加俸ヲ支給ス

宮司ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五トシ禰宜、主典ノ加俸ハ月俸ノ十分ノ六トス

第七條　俸給及加俸ノ支給方ハ宮司ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ禰宜、主典ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル月額又ハ年額ニテ報酬ヲ支給スル場合亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在リ別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

甲號

職名＼級俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
宮司	三、八〇〇圓	三、四〇〇圓	三、一〇〇圓	二、七〇〇圓	二、四〇〇圓	二、〇〇〇圓	一、八〇〇圓	一、六〇〇圓
	九級	十級	十一級	十二級	十三級			
	一、四〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇			

乙號

職名＼級俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
禰宜	一六〇圓	一三五圓	一一五圓	一〇〇圓	八五圓	七五圓	六五圓	五五圓	五〇圓	圓
主典	一三〇	一一五	一〇〇	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇

●官幣大社樺太神社會計規則

（明治四十四年四月一日閣令第六號）
（改正　大正一〇年第一號）

官幣大社樺太神社會計規則左ノ通定ム

官幣大社樺太神社會計規則

第一條　官幣大社樺太神社ノ會計ハ本令ニ依ル

第二條　會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

各年度所屬ノ收入及支出ハ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ完結スヘシ

第三條　左ニ掲クル諸收納ヲ神社ノ收入トス

一　國庫ヨリノ交付金
二　賽錢
三　寄附金
四　神社ニ屬スル土地物件ヨリ生スル收入
五　神社ニ屬スル現金又ハ有價證券ノ利子
六　其ノ他雜收入

第四條　左ニ掲クル經費ヲ神社ノ支出トス

一　祭典ニ要スル諸費
二　宮司以下ノ俸給、旅費其ノ他ノ給與
三　土地建物及附屬工作物ノ建設維持及保存ニ要スル費用

四　什器寶物ノ備付維持及保存ニ要スル費用

五　社務費

第五條　宮司ハ毎年度豫メ收入支出ノ豫算書ヲ調製シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ追加又ハ更正ヲ要スルトキ亦同シ

第六條　豫算ハ款項目ニ區分シ其ノ算出ノ基礎ヲ示スヘシ

第七條　豫算各款ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

各項ノ金額ハ樺太廳長官ノ認可ヲ得テ之ヲ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得

第八條　宮司ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條　宮司ハ正當ナル債主又ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ經費ヲ支出スルコトヲ得ス

第十條　過誤拂ト爲リタル金額ハ當該年度内ニ限リ經費ノ定額ニ戻入スルコトヲ得

第十一條　宮司ハ毎月收支計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添附シ翌月五日迄ニ樺太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ

第十二條　宮司ハ毎年度收支決算書二通ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ樺太廳長官ニ之ヲ提出スヘシ

樺太廳長官ハ前項ノ收支決算書ヲ審査シ七月三十一日迄ニ其ノ一通ヲ内閣總理大臣ニ進達スヘシ

第十三條　毎年度ノ剩餘金ハ基金トシテ之ヲ積立ツヘシ

第十四條　基金ハ國債若ハ地方債證券ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部郵便官署若ハ確實ナル銀行ニ預ケ入ルヘシ

第十五條　基金ハ神社維持ノ爲已ムヲ得サル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

神社維持ノ爲已ムヲ得サルニ因リ基金ヲ支出セムトスルトキハ其ノ補塡方法ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　宮司ハ神社ニ屬スル現金及有價證券ノ出納保管ニ付一切ノ責ニ任スヘシ

第十七條　宮司ハ自ラ事務ヲ執ラサルノ故ヲ以テ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ第十九條ノ規定ニ依リ定メタル代理者ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　樺太廳長官ハ宮司ノ故意又ハ怠慢ニ因リ神社ニ損失ヲ生シタリト認ムルトキハ其ノ事實ヲ審査シ之カ辨償ヲ命スルコトヲ得

第十九條　宮司疾病其ノ他ノ事故ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ禰宜又ハ主典ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ之ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ

前項代理者ノ責任ニ關シテハ第十六條乃至第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　現金及有價證券ハ之ヲ金櫃ニ收メ鎖鑰ヲ施シ其ノ鍵ハ宮司又ハ其ノ代理者之ヲ保管スヘシ

第二十一條　賽錢箱ハ鎖鑰ヲ施シ毎月一回宮司又ハ其ノ代理者立會者ト共ニ之ヲ開櫃スヘシ

第二十二條　撤下ノ神饌、幣帛又ハ供物ハ之ヲ神職及雇員ニ頒賜スルコトヲ得

第二十三條　本令施行ニ關スル細則及帳簿計表類ノ樣式ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

●官幣大社樺太神社神職俸給規則

（明治四十四年四月一日閣令第七號）改正　大正九年第一一號、一二年第一號

官幣大社樺太神社神職俸給規則左ノ通定ム

官幣大社樺太神社神職俸給規則

第一條　官幣大社樺太神社神職ノ俸給ハ別表ニ依ル

第一條ノ二　官幣大社樺太神社神職ニシテ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ宮司ニ在リテハ年額五百圓以内、禰宜及主典ニ在リテハ月額四十圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第一條ノ三　神職死亡シタルトキハ在職最終年俸ノ三分ノ一又ハ月俸三月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項ノ遺族トハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第一條ノ四　宮司、禰宜、主典ニハ加俸ヲ支給ス

宮司ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五以内トシ禰宜、主典ノ加俸ハ月俸ノ十分ノ八以内トシ其ノ額ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二條　宮司ノ俸給及加俸ハ高等官俸給、禰宜及主典ノ俸給及加俸ハ判任官俸給支給ノ例ニ依リ之ヲ支給ス

第三條　名譽職タル官幣大社樺太神社神職ニハ俸給定額内ニ於テ報酬ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ報酬支給ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年閣令第十一號）

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年勅令第二百五十七號附則第二項乃至第六項及第八項ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付之ヲ準用ス

（別表）

宮司	年俸	一級俸	三千百圓
		二級俸	二千七百圓
		三級俸	二千四百圓
		四級俸	二千圓
		五級俸	千八百圓
		六級俸	千六百圓
禰宜主典	月俸	一級俸	百六十圓
		二級俸	百三十五圓
		三級俸	百十五圓
		四級俸	百圓
		五級俸	八十五圓
		六級俸	七十五圓
		七級俸	六十五圓
		八級俸	五十五圓
		九級俸	五十圓
		十級俸	四十五圓
		十一級俸	四十圓

●官幣大社樺太神社職員旅費規則

（明治四十四年四月二十二日閣令第九號）改正　大正九年第一二號

官幣大社樺太神社職員旅費規則左ノ通定ム

官幣大社樺太神社職員旅費規則

第一條　官幣大社樺太神社職員ノ旅費ハ本令ニ依ル

第二條　車馬賃、日當、宿泊料及食卓料ハ内地旅行ノ場合ニ於テハ別表第一表、樺太内旅行ノ場合ニ於テハ別表第二表ニ掲クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

鐵道賃及船賃ニ付テハ宮司ハ高等官ノ額、禰宜及主典ハ判任官ノ額トシ大正九年大藏省令第十六號ノ例ニ依ル

雇員及傭人ノ鐵道賃及船賃ハ三等又ハ下級ノ運賃トシ前項ノ規定ヲ準用ス

第三條　削除

第四條　内地ヨリ樺太ヘ旅行ノ場合ニ於テハ樺太最初ノ著船地迄ヲ内地旅行トシ樺太ヨリ内地ヘ旅行ノ場合ニ於テハ樺太最後ノ發船地迄ヲ樺太内旅行トシ各其ノ旅費ヲ支給ス但シ内地ヨリ樺太ヘ著船當日ハ別表第二表ノ日當、樺太ヨリ内地ヘ發船當日ハ別表第一表ノ日當ヲ支給ス

第五條　赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス但シ雇員ニハ赴任手當ヲ、傭人ニハ赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給セス

第六條　神職及雇員樺太外ノ地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ當分ノ内支度料ヲ支給ス

第七條　移轉料及支度料ノ額ハ別表第三表ノ範圍内ニ於テ樺太廳長官之ヲ指定ス

第八條　神職樺太ニ於ケル勤續二年以上ニシテ退職ト爲リ三十日以内ニ樺太ヲ出發歸鄕スルトキハ其ノ原籍地迄別表第一表ニ依リ前職相當ノ旅費ヲ支給ス但シ懲戒處分又ハ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　雇員勤續五年以上ニシテ社務ノ都合ニ依リ解雇ト爲リ三十日以内ニ樺太ヲ出發歸鄕スルトキハ前條ノ例ニ準シ歸鄕旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十條　神職在職中死亡シタルトキハ勤續年數ニ拘ラス第八條ノ例ニ準シ歸鄕旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十一條　雇員在勤中死亡シタルトキハ前條ノ例ニ準シ歸鄕旅費ニ相當スル金額以内ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第十二條　樺太廳長官ハ旅費ノ定額ヲ減少シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十三條　本令ニ定ムルモノノ外旅費ノ支給ニ關シテハ内國旅費規則ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

（第一表）

區分	車馬賃（一里ニ付）	日當（一日ニ付）	宿泊料（一夜ニ付）	食卓料（一夜ニ付）
宮司	九十錢	五圓	七圓	二圓五十錢
禰宜、主典	七十五錢	二圓五十錢	四圓五十錢	二圓
雇員	六十錢	二圓	三圓五十錢	一圓二十錢
傭人	四十五錢	一圓五十錢	二圓八十錢	八十錢

（第二表）

區分	車馬賃（一里ニ付）	日當（一日ニ付）	宿泊料（一夜ニ付）	食卓料（一夜ニ付）
宮司	一圓五十錢	六圓	九圓	二圓五十錢
禰宜、主典	一圓二十錢	三圓五十錢	六圓	二圓
雇員	九十錢	二圓五十錢	四圓五十圓	一圓二十錢
傭人	七十錢	二圓	三圓五十錢	八十錢

（第三表）

區分	移轉料	支度料
宮司	百五十圓以内	二百圓以内
禰宜、主典	百圓以内	百圓以内
雇員	五十圓以内	五十圓以内

●官幣大社樺太神社主典ノ定員及出仕ノ採用ニ關スル件

（明治四十四年四月一日閣令第八號）改正　大正一〇年第六號

官幣大社樺太神社主典ノ定員及出仕ノ採用ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　樺太神社主典ノ定員ハ一人トス

前項定員ノ外名譽職タル主典一人ヲ置クコトヲ得

第二條　樺太神社ニ出仕ヲ置キ主典ノ職務ヲ補助セシムルコトヲ得

出仕ハ雇員ヲ以テ之ニ充ツ宮司之ヲ命免ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官幣大社樺太神社神職奉務規律

（明治四十四年四月一日内閣訓令第一號）

官幣大社樺太神社神職

官幣大社樺太神社神職奉務規律左ノ通定ム

官幣大社樺太神社神職奉務規律

第一條　神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以テ平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ素行ヲ正シ以テ其ノ本務ヲ盡スヘシ

第二條　祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齋肅恭敬ヲ旨トシ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條　祈年祭、新嘗祭、例祭其ノ他官祭ノ典則ハ非常ノ事故アルニ非サレハ成規ノ時間ヲ伸縮スヘカラス

第四條　公衆ノ求ニ應シ神符等ヲ授クルハ妨ナシト雖苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第五條　神社所藏ノ寶物、什器、古文書類等ハ散逸セサル樣嚴重ニ監守スヘシ

第六條　社殿及境内ハ常ニ清潔ナラシムヘシ

●官幣大社樺太神社處務規程

（明治四十四年四月一日内閣訓令第二號）

官幣大社樺太神社神職

官幣大社樺太神社處務規程左ノ通定ム

官幣大社樺太神社處務規程

第一條　官幣大社樺太神社ノ社務ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　社務ハ宮司ニ於テ各其ノ擔任者ヲ定メ之ヲ處分セシムヘシ

第三條　神社ニ到達シタル文書ニシテ處分ヲ要スルモノハ各其ノ擔任者ニ於テ速ニ處分ノ案ヲ具シ宮司ノ決裁ヲ經テ之ヲ執行シ處分ヲ要セサルモノハ宮司ノ査閲ニ供スヘシ

第四條　令達其ノ他例規トナルヘキ文書ハ前條ノ手續ヲ爲シタル後類別編纂シ永久之ヲ保存スヘシ

前項以外ノ文書ハ適宜編綴シ必要ノ期間之ヲ保存スヘシ

第五條　社務所ニハ左ノ簿冊及圖面ヲ備フヘシ

一　祭神記
二　神社財產臺帳
三　境内及建物圖
四　寶物及貴重書畫什器類目錄
五　祭器具目錄
六　藏書目錄
七　文書受發簿

八　寄附金品受領簿
九　神符及守札簿
十　日誌

宮司ハ前項ノ外樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ會計ニ關スル諸帳簿ヲ設ケ神社ノ收支及金品ノ出納ニ關スル事項ヲ登記スヘシ

第六條　金品ノ獻納アリタルトキハ之ヲ受領スルコトヲ得但シ用途ヲ指定シタル金品ハ其ノ用途ニ供用シ得ル場合ニ限リ之ヲ受領スルコトヲ得

獻納ニ係ル金品ヲ受領シタルトキハ毎月其ノ明細書ヲ調製シ翌月五日迄ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

獻納ニ係ル樹木及草花等ハ境內適當ノ場所ニ植付クヘシ

第七條　社殿其ノ他ノ改築、增築又ハ修繕ヲ要スルトキハ工費概算書ヲ添ヘ其ノ事由ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ竹木花卉ノ植付若ハ伐採又ハ庭園ノ修築ヲ要スルトキ亦同シ

第八條　不用物品ノ賣却ヲ要スルトキハ其ノ品目及見積價格等ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ消耗品ニ屬シ價格二圓ヲ超エサルモノハ適宜處分スルコトヲ得

第九條　社印其ノ他重要ナル印章ハ金櫃ニ收メ鎖鑰ヲ施スヘシ

第十條　神殿、倉庫及金櫃等ノ鍵ハ一定ノ容器ニ收メ封印ヲ施スヘシ但シ宮司自ラ保管スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　宮司交替シタルトキハ社務引繼書ヲ調製シ一切ノ事項ヲ其ノ後任者ニ引繼クヘシ

宮司死亡シタルトキハ後任者ノ著任ヲ俟チ禰宜ニ於テ前項ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十二條　宮司交替シタル場合ニ於テ未タ後任者ノ任命ナキトキハ禰宜ニ對シ其ノ引繼ヲ爲スヘシ後任者ノ著任ヲ俟ツノ遑ナキトキ亦同シ

前項ニ依リ引繼ヲ受ケタル禰宜ハ後任宮司ニ對シ更ニ其ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十三條　土地、建物、金品及有價證券ノ引繼ハ各其ノ帳簿及目錄ト對照シ樺太廳長官ノ派遣シタル官吏ノ立會ヲ以テ之ヲ執行スヘシ

第十四條　社務ノ引繼ヲ了シタルトキハ連署ヲ以テ其ノ受渡書ヲ調製シ立會官吏ノ檢印ヲ受クヘシ

社務引繼ノ際金品ノ不足其ノ他ノ事故アリタルトキハ前項ノ受渡書ニ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

第十五條　社務ノ引繼ヲ受ケタル宮司又ハ禰宜ハ其ノ受渡書ノ謄本ヲ調製シ遲滯ナク樺太廳長官ニ進達スヘシ

第十六條　社務引繼ノ終了ハ樺太廳長官ヨリ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十七條　職員疾病其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤スルトキハ宮司ハ樺太廳長官ニ其ノ他ハ宮司ニ屆出ツヘシ

第十八條　職員忌服ヲ受ケタルトキハ宮司ハ樺太廳長官ニ、禰宜及主典ハ樺太廳長官及宮司ニ、其ノ他ハ宮司ニ屆出ツヘシ

宮司、禰宜及主典ノ除服出仕ハ樺太廳長官、其ノ他ノ除服出仕ハ宮司之ヲ命スヘシ

第十九條　職員轉地療養、墓參歸省其ノ他私事ノ爲旅行ヲ要スルトキハ其ノ旅行先及日數等ヲ具シ宮司、禰宜及主典ハ樺太廳長官、其ノ他ハ宮司ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條　職員死亡シタルトキハ宮司ヨリ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

宮司死亡シタルトキハ禰宜ヨリ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ヨリ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十一條　神社ニ風火災又ハ盜難アリタルトキハ宮司ヨリ直ニ樺太廳長官ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ヨリ其ノ顚末ヲ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十二條　本規程ニ定ムルモノノ外神社ノ處務上必要ナル事項ハ宮司之ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二款　祭式

●大祓ノ舊儀再興

明治四年六月二十五日
太政官布告

大祓ノ儀從前六月祓或ハ夏越神事ト稱シ執行來候處全ク後世一社ノ神事ト相心得本儀ヲ失ヒ候ニ付今般舊儀御再興被爲在候間追々天下一般修行可致樣被　仰出候事

但祓式ノ儀ハ【追テ被　仰出候事】

●神宮祭祀令

大正三年一月二十六日
勅令第九號

朕神宮祭祀令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

神宮祭祀令

第一條　神宮ノ祭祀ハ大祭中祭及小祭トス

第二條　左ニ揭クル祭祀ハ之ヲ大祭トス

新年祭
神御衣祭
月次祭
神嘗祭
新嘗祭
遷宮祭
臨時奉幣祭

第三條　左ニ揭クル祭祀ハ之ヲ中祭トス

日別朝夕大御饌祭
歲旦祭
元始祭
紀元節祭
風日祈祭
天長節祭

第四條　內務大臣ハ遷宮ニ屬スル諸祭ニ付前二條ニ揭クルモノノ外別ニ大祭中祭ヲ定ムルコトヲ得

第五條　大祭及中祭以外ノ祭祀ハ之ヲ小祭トス

第六條　喪ニ在ル者ハ祭祀ニ奉仕シ又ハ參列スルコトヲ得ス但シ除服セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　祭式及齋戒ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ期日ハ內務大臣之ヲ定ム

（大正三年內務省令第二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

●神宮ニ於ケル祭式及齋戒ニ關スル件

大正三年三月二十七日
內務省令第三號

神宮ニ於ケル祭式及齋戒ニ關シテハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ル

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●卽位禮及大嘗祭ノ當日神宮ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件

大正四年七月五日
勅令第百八號

朕卽位禮及大嘗祭ノ當日神宮ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

卽位禮當日神宮ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス

大嘗祭ヲ行フ年ニハ神宮ニ於テ新嘗祭ヲ行ハス大嘗祭當日祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ大祭トス

●皇太子結婚禮當日神宮ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件

大正十三年一月二十二日
勅令第六號

朕皇太子結婚禮當日神宮ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

皇太子結婚禮當日神宮ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年一月二十二日
內務省令第三號

皇太子殿下御結婚禮當日神宮ニ於テ行フ祭祀ノ祭式及祝詞左ノ通定ム

一　祭式

元始祭式ニ準ス

二　祝詞

度會乃宇治乃五十鈴乃川上「度會乃山田原」乃下都磐根爾大宮柱太敷立氐高天原爾千木高知里氐稱辭竟奉留掛麻久母畏伎天照坐皇大御神「豐受大御神」乃大御前爾恐美恐美母白左久八十日日波有禮杼母今日乃生日乃足日爾天皇命乃大命以知氐食國乃法乃隨爾有留倍伎政登爲氐皇太子妃乎定賜比結婚乃大御禮乎行波世賜布爾因里氐此久乃狀乎告奉良久登爲氐齋麻波里清麻波里氐仕奉禮留大御食大御酒乎始米氐鰭乃廣物鰭乃狹物奥都藻菜邊都藻菜甘菜辛菜爾至留麻傳爾横山乃如久置高成志氐獻奉良久乎平介久安介久聞食志氐二柱命乃大御身安久穩爾大御德彌高爾彌廣爾守賜比惠賜比大御代乎茂御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里幸奉里賜閉登恐美恐美母白須

（皇大神宮別宮荒祭宮　豐受大神宮別宮多賀宮）以下諸宮社大御饌祝詞之ニ準ス

●天皇皇后結婚滿二十五年ノ祝儀當日神宮ニ於テ行フ臨時奉幣祭ノ祭式及祝詞

大正十四年五月五日
內務省令第八號

天皇　皇后兩陛下御結婚滿二十五年ノ御祝儀ヲ擧ケサセラルル當日神宮ニ於テ行フ臨時奉幣祭ノ祭式及祝詞左ノ通定ム

一　祭式

大御饌供進ノ儀ハ新年祭式ニ奉幣ノ儀ハ月次祭式ニ準ス

二　祝詞

大御饌供進祝詞

度會乃宇治乃五十鈴乃川上「度會乃山田原」乃下都磐根爾大宮柱太敷立氐高天原爾千木高知里氐稱辭竟奉留掛麻久母畏伎天照坐皇大御神「豐受大御神」乃大御前爾恐美恐美母白左久明御神登天乃下知食須天皇命皇后宮登大御結婚乃禮典行波世給比志與里今年波二十五年爾滿給比斯久長久志久二柱相竝比坐志氐內外乃政事治米給布事乎喜比給比壽岐給布隨爾今日乃生日乃足日爾大御賀儀行波世給布爾依里氐大御前爾禮代乃大御食大御酒海河山野乃種種乃物乎横山乃如久置高成志氐獻奉良志米給波久乎平介久安介久聞食志氐大御代乎手長乃御代乃嚴御代登堅磐爾常磐爾齋奉里幸奉里萬千秋乃長五百秋爾相竝比坐志氐彌榮衣爾榮衣彌若衣爾御若衣坐左志米奉里給閉登恐美恐美母白須

奉幣祝詞（少宮司之ヲ奏ス）

大御饌供進祝詞ニ同シ但シ「禮代乃大御食大御酒海河山野乃種種乃物乎横山乃如久置高成志氐獻奉良志米給波久乎」ヲ「宇豆乃大幣帛奉出志給布狀乎」ニ改ム

●官國幣社以下神社祭祀令

大正三年一月二十六日
勅令第十號
改正　大正四年第一九九號

朕官國幣社以下神社祭祀令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、內務、陸軍大臣副署）

官國幣社以下神社祭祀令

第一條　官國幣社以下神社ノ祭祀ハ大祭中祭及小祭トス

第二條　左ニ揭クル祭祀ハ之ヲ大祭トス

新年祭
新嘗祭
例祭
遷座祭
臨時奉幣祭

前項ノ外別格官幣社靖國神社ニ於テハ合祀祭ハ之ヲ大祭トス

第三條　左ニ揭クル祭祀ハ之ヲ中祭トス

歲旦祭
元始祭
紀元節祭
天長節祭
神社ニ特別ノ由緒アル祭祀

第四條　大祭及中祭以外ノ祭祀ハ之ヲ小祭トス

第五條　新ニ小祭ヲ定メムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　喪ニ在ル者ハ祭祀ニ奉仕シ又ハ參列スルコトヲ得ス但シ除服セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　祭式及齋戒ニ關スル規程ハ主務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ於テハ朝鮮總督、臺灣ニ於テハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

第八條　本令施行ノ期日ハ內務大臣之ヲ定ム

（大正三年內務省令第二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

第九條　地方ノ狀況其ノ他特別ノ事情アル神社ニ於テハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

●卽位禮及大嘗祭ノ當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件

大正四年七月五日
勅令第百九號

朕卽位禮及大嘗祭ノ當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、陸軍、海軍大臣副署）

卽位禮當日官國幣社以下神社ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス

大嘗祭ヲ行フ年ニハ官國幣社以下神社ニ於テ新嘗祭ヲ行ハス大嘗祭當日祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ大祭トス

●立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件

大正五年十月二十五日
勅令第二百三十一號

朕立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、海軍、陸軍大臣副署）

立太子禮當日官國幣社以下神社ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●皇太子結婚禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件

大正十三年一月二十二日
勅令第七號

朕皇太子結婚禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、海軍、陸軍大臣副署）

皇太子結婚禮當日官國幣社以下神社ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年一月二十二日
內務省令第四號

皇太子殿下御結婚禮當日官國幣社以下神社ニ於テ行フ祭祀ノ祝詞左ノ通定ム

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司（社司（社掌））位勳功爵氏名恐美恐美母白左久八十日日波有禮杼母今日乃生日乃足日爾天皇命乃大命以知食國乃法乃隨爾有留倍伎政登爲氐皇太子妃乎定賜比結婚乃大御禮乎行給布爾依里氐此久乃狀乎告奉良久登御食御酒種種

乃物（手）獻奉（里志）稱辭竟奉（良久手）平（介久）安（介久）聞食（志氐）天皇命乃知食（須）天（都）日嗣乃高御座天地乃共長久日月乃共遠久動久事無久變（留）事無久齋奉（里）幸奉（里）給（比）皇太子命乃御門（手）彌高（爾）彌廣（爾）守奉（里）惠奉（里）給（比）堅磐（爾）常磐（爾）立榮（衣）志米給（閉登）恐（美）恐（美毛）稱辭竟奉（良久登）白（須）

●天皇皇后結婚滿二十五年ノ祝儀當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件

大正十四年五月五日
勅令第百六十九號

朕天皇皇后結婚滿二十五年ノ祝儀當日官國幣社以下神社ニ於テ行フヘキ祭祀ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍、內務大臣副署）

天皇皇后結婚滿二十五年ノ祝儀當日官國幣社以下神社ニ於テ祭祀ヲ行フ其ノ祭祀ハ之ヲ中祭トス

大正十四年五月五日
內務省令第九號

天皇皇后兩陛下御結婚滿二十五年ノ御祝儀ヲ擧ケサセラルル當日官國幣社以下神社ニ於テ行フ祭祀ノ祝詞左ノ通定ム

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司（（社司）（社掌））位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）明御神（登）天乃下知食（須）天皇命皇后宮（登）大御結婚乃禮典行（波世）給（比志與里）今年（波）二十五年（爾）滿給（比奴）斯久長久（志久）二柱相竝（比）坐（志）氐內外乃政事（毛）治（米）給布事（毛）喜（比）給（比）壽（岐）給布隨（爾）今日乃生日乃足日（爾）大御賀儀行（比）給布（爾）依（里氐）大前（爾）御食御酒種種乃物（手）獻奉（里志）稱辭竟奉（良久手）平（介久）安（介久）聞食（志氐）大御代手長乃御代乃嚴御代（登）堅磐（爾）常磐（爾）齋奉（里）幸奉（里）萬千秋乃長五百秋（爾）相竝（比）坐（志氐）彌榮（衣爾）榮（衣）彌若（衣爾）御若（衣）坐（左志米）奉（里）給（閉登）恐（美）恐（美毛）稱辭竟奉（良久登）白（須）

●官國幣社以下神社祭式

大正三年三月二十七日
內務省令第四號

官國幣社以下神社祭式左ノ通定メ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

官國幣社以下神社祭式

第一　官國幣社祭式

一　大祭式

新年祭新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次幣帛供進使參進（是ヨリ先手水ノ儀アリ）
次幣帛供進使祓所ニ著ク
次修祓（先幣帛次幣帛供進使及隨員）
次幣帛供進使所定ノ座ニ著ク
次御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（幣帛供進使隨員之ヲ調フ）
次宮司諸事辨備セル由ヲ幣帛供進使ニ申ス
次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）
次禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）
次宮司祝詞ヲ奏ス
次幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク）
次宮司御幣物ヲ奉ル
次幣帛供進使祝詞ヲ奏ス
次幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ隨員之ヲ附ス）
次幣帛供進使隨員拜禮
次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）
次權宮司若クハ禰宜以下拜禮
次權宮司若クハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス
次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）
次宮司祭儀畢レル由ヲ幣帛供進使ニ申ス
次各退出

本殿遷座祭

當日早旦本殿假殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下假殿所定ノ座ニ著ク
次地方長官參進隨員副從（是ヨリ先手水ノ儀アリ）
次地方長官祓所ニ著ク
次修祓
次地方長官假殿所定ノ座ニ著ク
次宮司假殿ノ御扉ヲ開ク（此間奏樂）
次宮司祝詞ヲ奏ス
次宮司殿內ニ參進シ諸員各其ノ位置ニ列立ス
次遷御（此間奏樂警蹕）
其ノ儀地方長官前行宮司御靈代ヲ奉戴シ（辛櫃羽車神輿ヲ用フル等各社ノ古例ニ依ルコトヲ得）諸員行障絹垣ヲ奉仕シ前後陣ニ整列ス（神寶ヲ列立スル等各社ノ古儀ヲ行フコトヲ得）
次入御（此間奏樂警蹕）
是ヨリ先權宮司若クハ禰宜本殿ノ御扉ヲ開ク
次宮司御靈代ヲ神座ニ奉安ス
次宮司御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク
次禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）
次宮司祝詞ヲ奏ス
次地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮
次地方長官隨員拜禮
次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮
次權宮司若クハ禰宜以下拜禮
次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク（此間奏樂）
次各退出

假殿遷座祭

次第本殿遷座祭ニ準ス

臨時奉幣祭

次第時ニ臨ミ之ヲ定ム

二　中祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）
次禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）
次宮司祝詞ヲ奏ス
次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮
次權宮司若クハ禰宜以下拜禮
次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）
次各退出

三　小祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次禰宜以下神饌ヲ供ス
次宮司祝詞ヲ奏ス
次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮
次權宮司若クハ禰宜以下拜禮
次禰宜以下神饌ヲ撤ス
次各退出

四　修祓

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次禰宜祓詞ヲ讀ム
次主典一人大麻ヲ執リ同一人若クハ雇員鹽湯ヲ執リ神饌及宮司以下ヲ祓フ
次各退下

五　祝詞

新年祭宮司祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）今年乃御年始給（波牟登爲氐）天皇命乃宇豆乃大幣帛（手）捧奉（良志米）給（布賀）故（爾）大前（爾）齋（麻波里）清（麻波里氐）獻奉（留）御食（波）和稻荒稻（爾）仕奉（留）御酒（波）甕乃上高知（里）甕乃腹滿竝（倍氐）大野乃原（爾）生（布留）物（波）甘菜辛菜青海原（爾）住（牟）物（波）鰭乃廣物鰭乃狹物奧（都）藻菜邊（都）藻菜（爾）至（留麻傳爾）置足（波志氐）今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登（爾）稱辭竟奉（良久手）平（介久）安（介久）聞食（志氐）天乃下乃國（乃）民（我）手肱（爾）水沫搔垂（里）向股（爾）泥搔寄（世氐）取（里）作（良牟）奧（都）御年（手）始（米氐）草乃片葉（爾）至（留麻傳）作（里）作（留）物共（爾）惡（伎）風荒（伎）水（爾）相（波世）給（波受）豐（爾）牟久佐加（爾）成幸（倍）給（比氐）新嘗乃御祭嚴（志久）美（志久）仕奉（良志米）給（閉登）恐（美）恐（美毛）稱辭竟奉（良久登）白（須）

新年祭幣帛供進使祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）恐（美）恐（美毛）白（左久）天皇（我）大命以（知氐）今年乃新年祭（爾）官位勳功爵氏名（手）使（登爲氐）大前（爾）獻奉（留）宇豆乃大幣帛（手）安幣帛乃足幣帛（登）平（介久）安（介久）聞食（志氐）皇神等乃依奉（良牟）奧（都）御年（手）八束穗乃茂穗（爾）成幸（倍）給（比氐）天皇（我）大朝廷（手）始（米氐）天乃下乃國（乃）民（爾）至（留麻傳）彌遠（爾）彌廣（爾）五十橿八桑枝乃如久立榮（衣志米）給（閉登）白給（波久乎）恐（美）恐（美毛）白（須）

新嘗祭宮司祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）天（都）御食乃長御食乃遠御食（登）新嘗聞食（左牟登爲氐）天皇命乃宇豆乃大幣帛（手）捧奉（良志米）給（布賀）故（爾）皇神等乃成幸（倍）給（閉留）八束穗乃秋乃初穗（手）御食御酒（爾）仕奉（里氐）山野乃物（波）甘菜辛菜海川乃物（波）鰭乃廣物鰭乃狹物奧（都）藻菜邊（都）藻菜（爾）至（留麻傳）置足（波志氐）獻奉（良久手）聞食（志）宇豆那比給（比氐）天皇命乃大御代（手）嚴御代乃足御代（登）萬千秋乃長五百秋（爾）平（介久）安（介久）齋奉（里）幸奉（里）給（比）親王等諸王等（手）始（米氐）天乃下乃國（乃）民（爾）至（留麻傳）撫給（比）惠給（比氐）五十橿八桑枝乃如久立榮（衣）仕奉（良志米）給（閉登）恐（美）恐（美毛）稱辭竟奉（良久登）白（須）

新嘗祭幣帛供進使祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）恐（美）恐（美毛）白（左久）天皇（我）大命以（知氐）今年乃新嘗祭（爾）官位勳功爵氏名（手）使（登爲氐）大前（爾）獻奉（留）宇豆乃大幣帛（手）安幣帛乃足幣帛（登）平（介久）安（介久）聞食（志氐）天（都）御食乃長御食乃遠御食（登）豐明（爾）明（里）坐（左牟）皇御孫命乃大御食（手）萬千秋乃長五百秋（爾）平（介久）安（介久）聞食（左志米）給（比）天皇（我）大朝廷（手）始（米氐）天乃下乃國（乃）民（爾）至（留麻傳）彌遠（爾）彌廣（爾）五十橿八桑枝乃如久立榮（衣志米）給（閉登）白給（波久乎）恐（美）恐（美毛）白（須）

例祭宮司祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）高天原（爾）神留坐（須）神漏岐神漏美命以（知氐）天社國社（登）稱辭竟奉（留）中（爾）此乃大宮（手）靜宮乃常宮（登）鎭坐（須）大神（乃）廣（伎）厚（伎）恩頼（手）尊（美）奉（里氐）一年（爾）一回仕奉（留）常乃例乃今日乃御祭（爾）天皇命乃宇豆乃大幣帛（手）捧奉（良志米）給（布賀）故（爾）大前（爾）齋（麻波里）清（麻波里氐）獻奉（留）御食御酒種種乃物（手）平（介久）安（介久）聞食（志氐）天皇命乃大御代（手）嚴御代乃足御代（登）堅磐（爾）常磐（爾）齋奉（里）手長乃御代（登）幸奉（里）給（比）親王等諸王等（手）始（米氐）天乃下乃國（乃）民（爾）至（留麻傳）長久平（介久）守給（比）惠給（閉登）恐（美）恐（美毛）稱辭竟奉（良久登）白（須）

例祭幣帛供進使祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）恐（美）恐（美毛）白（左久）天皇（我）大命以（知氐）常乃例乃隨（爾）仕奉（留）一年（爾）一回乃今日乃御祭（爾）官位勳功爵氏名（手）使（登爲氐）獻奉（留）宇豆乃大幣帛（手）安幣帛乃足幣帛（登）平（介久）安（介久）聞食（志氐）天皇（我）大朝廷（手）始（米氐）天乃下乃國（乃）民（爾）至（留麻傳）彌遠（爾）彌廣（爾）守給（比）幸給（比氐）此乃食國天乃下乃八十國島乃八十嶋（波）落（都留）事無（久）天乃壁立極國乃退立限皇大朝廷乃大御稜威（手）御光（手）輝（加志米）給（閉登）白給（波久乎）恐（美）恐（美毛）白（須）

假殿遷座本殿祭祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）大神乃常宮（登）鎭坐（世留）此乃御殿（乃）年經（氐）破損（波礼多留）故（爾）今度改造（里）（修里）仕奉（良牟登須）是（手）以（知氐）今日乃生日乃足日（爾）假宮（爾）遷奉（里）坐奉（留）事（手）平（介久）安（介久）聞食（世登）恐（美）恐（美毛）白（須）

假殿遷座假殿祭祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）今日乃吉日乃吉辰（爾）此乃假宮（爾）遷奉（里）坐奉（留）是（手）以（知氐）大前（爾）御食御酒種種乃物（手）置足（波志氐）獻奉（留）狀（手）平（介久）安（介久）聞食（志氐）暫乃間平穩（爾）鎭坐（世登）恐（美）恐（美毛）白（須）

本殿遷座假殿祭祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）大神乃敷坐（須）瑞乃御殿（手）改造（里）（修里）仕奉（良牟登）往（志）某年某月某日（爾）此乃假宮（爾）遷奉（里）坐奉（里志手）此乃某年某月某日（爾）至（里氐）新宮殿（志久）麗（志久）榮造（里）（御殿本乃如修里）仕奉（里）畢（留）是（手）以（知氐）今日乃生日乃足日（爾）還（志）鎭坐奉（留）事（手）聞食（志氐）安（介久）靜（介久）遷坐（世登）恐（美）恐（美毛）白（須）

本殿遷座本殿祭祝詞

掛（麻久）畏（伎）某神社乃大前（爾）宮司位勳功爵氏名恐（美）恐（美毛）白（左久）大神乃天乃御蔭日乃御蔭（登）隱坐（左牟）瑞乃御殿清（久）美（志久）改造（里）（修里）仕奉（里）畢（留爾）依（里氐）今日乃吉日乃吉辰（爾）還（志）鎭坐奉（留）是（手）以（知氐）禮代乃御食御酒種種乃物（手）置足（波志氐）獻奉（留）狀（手）平（介久）安（介久）聞食（志氐）今（與里）往先大御心平穩（爾）此乃大宮（手）靜宮乃安宮（登）長久（爾）鎭坐（世登）恐（美）恐（美毛）白（須）

歲旦祭祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾宮司位勲功爵氏名恐美恐美母白久新年乃新月乃新日乃今日乃朝日乃豐榮登爾御賀乃壽詞仕奉良久登白須豐御食豐御酒種種乃物手獻奉留狀乎平介久安介久聞食志此乃年乎良年乃美年止守里給比幸比給比天皇命乃大朝廷手堅磐爾常磐爾齋奉里給比天乃下乎平介久穀物豐介久産業手彌奬米國民乎彌榮衣志米給比大御稜威乎差昇年乃初日乃光止共彌益益爾輝加志米給閉止恐美恐美母御賀乃壽詞仕奉良久登白須

元始祭祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾宮司位勲功爵氏名恐美恐美母白久遠皇祖乃大御代與利天皇命乃御代御代受傳坐志知食來留天津日嗣高御座乃大元始手歳乃首爾言壽奉留今日乃御祭仕奉留狀乎平介久安介久聞食志天皇命乃知食須天津日嗣乃大御陸天地乃共無窮久動久事無久變留事無久齋奉里幸奉里給比天乃下平介久國内安介久皇大朝廷乃大御稜威手天輝志國輝加志米給比皇大御國乃大御榮手天足志國足志米給閉登恐美恐美母言壽奉良久登白須

紀元節祭祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾宮司位勲功爵氏名恐美恐美母白久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知志食須豐葦原水穗國手萬千秋乃長秋爾平介久知食世登事依奉里隨爾神日本磐余彦天皇乃高志伎嚴志伎大御德以知志食國天乃下乎平介久給比調給比大和國乃畝傍乃橿原爾岩根爾大宮柱太敷立高天原爾千木高知天津日嗣乃高御座爾坐志米志皇國知食志命乃御代御代彌繼繼爾傳來坐志彌廣爾彌遠爾立榮行久大元手恐美奉里辱美奉里今日乃生日乃足日爾御食御酒種種乃物手大前爾捧奉里今日乃賀詞手神壽壽奉良久皇大御神乃定給比掟給比天津日嗣乃大御位手天地共爾久志久日月共爾遠久彌益益爾御榮坐志皇大朝廷乃大御稜威天乃壁立極美國乃退立限彌廣爾彌廣爾行加志米給閉止神壽壽奉良久恐美恐美母白須

天長節祭祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾宮司位勲功爵氏名恐美恐美母白久八十日日波有禮杼今日乃生日乃足日爾明御神登天乃下知食須天皇命乃生出坐志志貴伎愛志伎美志伎日登天皇命乃大朝廷手始米天乃下四方乃國波青雲乃靄久極白雲乃向伏須限落留事無久漏留事無久言壽仕奉留此乃大前爾御食御酒種種乃物手捧奉里稱辭竟奉良久手平介久安介久聞食志天皇命乃大御壽手長乃大御壽止由都磐村乃如久常磐爾堅磐爾齋奉里奉里給比大御稜威手彌高爾彌廣爾輝加志米給比大御惠手彌遠爾彌長爾仰恐美恐美母言壽奉良久登白須

祓詞

掛卷毛恐伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐留祓戸大神等今日仕奉留神職等我過犯世留罪穢有良牟乎祓給比清給閉登白須事乎聞食世登恐美恐美母白須

幣帛供進使竝地方長官ノ修祓ニ當リテハ神職ノ二字ヲ次ノ二字ニ換フ

官人

六　雜則

一　御幣物ハ祭日ノ前地方長官正廳ニ臨ミ之ヲ點檢ス
一　神饌料ハ豫メ之ヲ神社ニ交附ス
一　四ニ定ムル修祓ハ祭祀ノ前之ヲ行フ
一　御幣物及幣帛供進使竝地方長官ノ修祓ハ四ニ定ムル式ニ準シテ之ヲ行フ
一　神饌臺數竝品目左ノ如シ

大祭

大社　十一臺以上
中社　十臺以上
小社／別格官幣社　九臺以上
和稻　荒稻　酒　餅　海魚　川魚　野鳥　水鳥　海菜　野菜　菓　鹽　水

中祭　七臺以上

但シ小社、別格官幣社ニ在リテハ野鳥水鳥ノ中一種ヲ省略スルコトヲ得
和稻　荒稻　酒　餅　魚　鳥　海菜　野菜　菓　鹽　水

小祭　五臺以上

但シ鳥ハ之ヲ省略スルコトヲ得
和稻　荒稻　酒　魚　海菜　野菜　菓　鹽　水

一　定額ノ神饌及幣物ノ外其ノ地ノ産物等ヲ副ヘテ奉ルコトヲ得
一　例祭ニ際シ古例ノ神事アルモノハ之ヲ行フコトヲ得
一　神社ニ特別ノ由緒アル祭祀若クハ小祭ニシテ一社傳來ノ儀式アルモノハ之ヲ行フコトヲ得
一　官幣大社ニシテ特別ノ定例アルモノハ之ニ依ル

第二　府縣社以下神社祭式

官國幣社祭式ニ準ス但シ祝詞ハ左ノ如シ

新年祭社司(社掌)祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勲功爵氏名恐美恐美母白久今年乃御依里氐此乃某道府縣(郡市區町村)與利宇豆乃幣帛捧奉留故爾大前爾齋波里清麻波里御食波和稻荒稻爾仕奉里御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿並弖大野乃原爾生布物波甘菜辛菜青海原爾住物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧津藻菜邊津藻菜爾至留萬傳置足波志氐今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾稱辭竟奉良久手平介久安介久聞食志天乃下乃國民乃手肱爾水泡搔垂向股爾泥搔寄世氐取作良牟奧津御年手始米氐草乃片葉爾至留萬傳作里作留物共爾惡伎風荒伎水爾相波世給波受豐爾牟久佐加爾成幸給比氐新嘗乃御祭嚴志久美志久仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

新年祭幣帛供進使祝詞

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣以下二十四字ヲ削ル

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾官(職)位勲功爵氏名恐美恐美母白久今年乃新年祭爾某道府縣(郡市區町村)與利獻奉留宇豆乃幣帛手安幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氐皇神等乃依奉良牟奧津御年手八束穗乃茂穗爾成幸給比天皇命乃大朝廷手始米氐天乃下乃國民爾至留萬傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美母白須

新嘗祭社司(社掌)祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勲功爵氏名恐美恐美母白久天都御食乃長御食乃遠御食登天皇命乃新嘗聞食須爾依里氐此乃某道府縣(郡市區町村)與利宇豆乃幣帛捧奉留故爾皇神等乃成幸給閉留八束穗乃秋乃初穗手御食御酒爾仕奉里山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧津藻菜邊津藻菜爾至留萬傳置足波志氐獻奉良久手聞食宇豆那比給比天皇命乃大御代手嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等手始米氐天乃下乃國民爾至留萬傳惠給比五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

新嘗祭幣帛供進使祝詞

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣以下二十四字ヲ削ル

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾官(職)位勲功爵氏名恐美恐美母白久今年乃新嘗祭爾某道府縣(郡市區町村)與利獻奉留宇豆乃幣帛手安幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氐天都御食乃長御食乃遠御食登豐明爾明坐須皇御孫命乃大御食手萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久聞食志米給比天皇命乃大朝廷手始米氐天乃下乃國民爾至留萬傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美母白須

例祭社司(社掌)祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勲功爵氏名恐美恐美母白久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知志食天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮爾靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩賴手尊美奉里仰奉里一年爾一回仕奉留常乃祭爾此乃某道府縣(郡市區町村)與利宇豆乃幣帛捧奉留故爾大前爾齋麻波里清麻波里御食御酒種種乃物手平介久安介久聞食志天皇命乃大御代手嚴御代乃足御代登齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等手始米天乃下乃國民平介久守給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

辭別氐白左久此乃仕奉留爾依里氐御氏子乃人等又此乃某道府縣(郡市區町村)乃人守給比惠給比心穩爾身健爾家内安久産業豐介久各各爾彌饒八十續爾至留萬傳彌榮爾榮衣志米給閉登恐美恐美母白須

例祭幣帛供進使祝詞

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣(郡市區町村)與利宇豆乃幣帛前爾ノ二十七字ヲ削ル

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾官(職)位勲功爵氏名恐美恐美母白久常乃例奉留一年爾一回乃今日乃御祭爾某道府縣(郡市區町村)與利獻奉留宇豆乃幣帛幣帛登平介久安介久聞食志天皇命乃大朝廷手始米天乃下乃國民彌廣爾守給比幸給閉登恐美恐美母白須

假殿遷座本殿祭祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勲功爵氏名恐美恐美母白久大神乃坐世留此乃御殿乃年經氐破損爾依里氐故今度改造(修)仕奉良牟登爲氐乃生日乃足日爾假宮爾遷奉里坐奉留事手平介久安介久聞食世登恐美恐美

假殿遷座假殿祭祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勲功爵氏名恐美恐美母白久今日乃此乃假宮爾遷奉里坐奉里是手以知氐大前爾御食御酒種種乃物手置足波志氐獻安介久聞食志氐暫乃間平穩爾鎭坐世登恐美恐美母白須

本殿遷座假殿祭祝詞

掛卷毛恐伎某神社乃大前爾社司(社掌)位勲功爵氏名恐美恐美母白久大神乃御殿手改造(修)仕奉里往志某年某月某日爾此乃假宮爾遷奉里坐奉年某月某日爾至里新宮殿志久築造里(御殿本乃如修里)仕奉里畢日乃生日乃足日爾還志鎭米坐奉留事手聞食志安介久靜介久還坐世登恐美恐美

本殿遷座本殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃天乃御蔭日乃御蔭登隱坐左坐瑞乃御殿淸久美志久改造里（修理）仕奉里畢閑奴禮婆今日乃吉日乃吉辰爾還志鎭米坐奉里是乎以知禮代乃御食御酒種種乃物乎置足波志氐獻奉留狀乎平介久安介久聞食志氐今與利往先大御心平穩爾此乃大宮乎靜宮乃安宮登長久鎭坐世登恐美恐美母白須

歲旦祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久新伎年乃新伎月乃今日乃朝日乃豐榮登爾御賀乃壽詞仕奉良久登御食御酒種種乃物乎獻奉留狀乎平介久安介久聞食志氐此乃年乎良伎年美志年登守給比幸給比天皇命乃大朝廷乎堅磐爾常磐爾齋奉里給比天乃下平介久穀物豐介久產業乎獎米給比國民乎彌榮衣爾榮衣志米給比大御稜威乎差昇留年乃初日乃光登共爾彌益益爾輝加志米給閉登恐美恐美母御賀乃壽詞仕奉良久登白須

元始祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久皇祖乃大御代與里天皇命乃御代御代受傳坐志知食志來留天津日嗣高御座乃大元始乎歲首爾言壽奉留豐代乃今日乃御祭仕奉留狀乎平介久安介久聞食志天皇命乃知食須天津日嗣乃大御位天地乃共無窮爾動久事無久變留事無久齋奉里幸奉里給比天乃下平介久國內安介久皇大朝廷乃大御稜威乎天輝志國輝加志米給比皇大御國乃大御榮乎天足志國足志爾足波志米給閉登禮代乃御食御酒種種乃物乎捧奉里氐恐美恐美母言壽奉良久登白須

紀元節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氐豐葦原水穗國乎萬千秋乃長秋爾平介久知食世登事依奉里志隨爾神日本磐余彥天皇乃高伎嚴志伎大御德以知氐食國天乃下乎平給比調給比氐大和國乃畝傍乃橿原乃底都岩根爾大宮柱太敷立氐高天原爾千木高知里氐天津日嗣乃高御座爾坐志氐國知食志志與里皇御孫命乃御代御代彌繼繼爾永繼傳來志氐彌廣爾彌遠爾立榮衣行久大元乎恐美辱美奉里氐今日乃生日乃足日爾御食御酒種種乃物乎大前爾捧奉里氐今日乃言壽乃賀詞乎神壽岐壽奉良久波皇大御神乃定給比捉給閉留事乃隨爾天津日嗣乃大御位波天地登共爾久志久日月登共爾遠久彌益益爾御榮坐左牟皇大朝廷乃大御稜威波天乃壁立極國乃退立限彌次次爾廣里行加志米登神壽岐壽奉良久乎甘良爾聞食世登恐美恐美母白須

天長節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久八十日日波有禮杼今日乃生日乃足日波志母明御神登天乃下知食須天皇命乃生出坐志志貴伎愛伎美志日登天皇命乃大朝廷乎始米氐天乃下四方乃國波青雲乃靄久極白雲乃向伏須限落留事無久漏留事無久言壽岐仕奉留此乃大前爾御食御酒種種乃物乎捧奉里氐稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御壽乎手長乃大御壽登由都磐村乃如久常磐爾堅磐爾齋奉里嚴御代爾幸奉里給比大御稜威乎彌高爾彌廣爾輝加志米給比大御惠乎彌遠爾彌長爾仰賀志米給閉登恐美恐美母言壽奉良久登白須

祓詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓戸大神等今日仕奉留神職等我過犯世留罪穢有良牟乎波祓給比淸給閉登申須事乎聞食世登恐美恐美母白須

幣帛供進使ノ修祓ニ當リテハ神職ノ二字ヲ次ノ二字ニ換フ

官人

●官幣大社氷川神社、官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社橿原神宮及官幣大社明治神宮例祭式

（大正十五年五月十日內務省令第十二號）

官幣大社氷川神社、官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社橿原神宮及官幣大社明治神宮例祭式左ノ通定ム

官幣大社氷川神社、官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社橿原神宮及官幣大社明治神宮例祭式

一　祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次地方長官參進

是ヨリ先手水ノ儀アリ

次修祓

次地方長官所定ノ座ニ著ク

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次勅使御幣物ヲ奉シテ參進（神饌前導）

是ヨリ先手水ノ儀アリ

次修祓（先御幣物次勅使及隨員）

次勅使所定ノ座ニ著ク

次御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（勅使隨員相副フ）

次勅使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク）

次宮司御幣物ヲ奉ル

次勅使御祭文ヲ奏ス

次宮司御祭文ヲ受ケ之ヲ神前ニ納メ畢リテ勅使ニ反命ス

次勅使退出（神饌前導）

次地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若ハ禰宜以下拜禮

次權宮司若ハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）

次各退出

官幣大社氷川神社ニ在リテハ「次宮司御祭文ヲ受ケ之ヲ神前ニ納メ畢リテ勅使ニ反命ス」ノ次ニ「次勅使本座ニ復ス」及「次東遊」ヲ加フ

官幣大社熱田神宮ニ在リテハ「次勅使退出（神饌前導）」ノ次ニ「次地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮」「次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮」「次權宮司若ハ禰宜以下拜禮」及「次權宮司若ハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス」ヲ削リ「次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）」ノ次ニ「次宮司御幣物ヲ殿內ニ納ム」ヲ加ヘ「次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）」ノ次ニ「次地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮」「次宮司玉串ヲ奉ル」及「次宮司以下拜禮」ヲ加フ

二　祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氐天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮乎靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩賴乎尊美奉里仰美奉里氐一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾官位勳功爵氏名乎差志氐天皇命乃宇豆乃大幣帛乎捧奉良志米給布賀故爾大前爾齋麻波里淸麻波里氐獻奉留御食御酒種々乃物乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

官幣大社氷川神社ニ在リテハ「天皇乃宇豆乃大幣帛乎捧奉」ノ次ニ「又東遊仕奉」ヲ加フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治神宮例祭式ハ之ヲ廢止ス

●大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祭式

（昭和元年十二月二十八日內務省令第二號）

大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祭式左ノ通定ム

大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祭式

第一　官國幣社祭式

一　祭式

新年祭新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（主典之ヲ扱フ）

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）

次主典御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク）

次宮司御幣物ヲ奉ル

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）

次權宮司若クハ禰宜以下拜禮

次權宮司若クハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）

次各退出

本殿遷座祭

當日早旦本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下假殿所定ノ座ニ著ク

次宮司假殿ノ御扉ヲ開ク（此間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司殿內ニ參進シ諸員其ノ位置ニ列立ス

次遷御（此間奏樂警蹕）

其ノ儀禰宜若クハ主典前行宮司御靈代ヲ奉戴シ（辛櫃羽車神輿ヲ用フル等ノ古例ニ依ルコトヲ得）諸員行障絹垣ヲ奉仕シ前後ニ整列ス（神寶ヲ列立スル等各社ノ古儀ヲ行フコトヲ得）

次入御（此間奏樂警蹕）

是ヨリ先權宮司若クハ禰宜本殿ノ御扉ヲ開ク

次宮司御靈代ヲ神座ニ奉安ス

次宮司御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次權宮司若クハ禰宜以下拜禮

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク（此間奏樂）

次各退出

假殿遷座祭

次第本殿遷座祭ニ準ズ

修　祓

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次禰宜祓詞ヲ讀ム

次主典一人大麻ヲ執リ同一人若クハ雇員鹽湯ヲ執リ御幣物神饌及宮司以下ヲ祓フ

次各退下

二　祝詞

新年祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今年乃御年始給布爾依里氐大前爾齋麻波里淸麻波里氐獻奉留御食波和稻荒稻爾仕奉里氐御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿並倍氐大野乃原爾生布物波甘菜辛菜青海原爾住物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳置足波志氐天皇命乃宇豆乃大幣帛乎今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氐皇神等乃依奉良牟奧都御年乎始米氐草乃片葉爾至留麻傳作里作留物共乎惡伎風荒伎水爾相波世給波受豐爾年久佐加爾成幸給比氐天皇我大朝廷乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

新嘗祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今年乃新嘗祭仕奉良志米給布爾依里氐皇神等乃成幸給閉留八束穗乃秋乃初穗乎御食御酒爾仕奉里氐山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳置足波志氐天皇命乃宇豆乃大幣帛捧奉良久乎聞食志氐宇豆那比給比氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳撫給比惠給比五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

例祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美母白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氐天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮乎靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩賴乎尊美奉里仰美奉里氐一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾大前爾齋麻波里淸麻波里氐御食御酒種種乃物乎獻置氐天皇命乃宇豆乃大幣帛捧奉良久

乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻氐長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

祓詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓戸大神等今日仕奉留神職等乃過犯世留罪穢有良牟乎婆祓給比清給閉登申須事乎聞食世登恐美恐美母白須

三　雜則

一　神饌料ハ豫メ之ヲ神社ニ交附ス

一　修祓ハ祭祀ノ前之ヲ行フ

一　神饌臺數竝品目左ノ如シ

大　社	十一臺以上
中　社	十臺以上
小　社 別格官幣社	九臺以上

和稻　荒稻　酒　餅　海魚　川魚　野鳥　水鳥　海菜　野菜　菓　鹽水

但シ小社、別格官幣社ニ在リテハ野鳥水鳥ノ中一種ヲ省略スルコトヲ得

一　定額ノ神饌及幣物ノ外其ノ地ノ産物等ヲ神饌ニ副ヘテ奉ルコトヲ得

一　例祭ニ際シ古例ノ神事アルモノハ之ヲ行フコトヲ得

一　官幣大社ニシテ特別ノ定例アルモノハ之ニ依ル

第二　府縣社以下神社祭式

官國幣社祭式ニ準ズ但シ祝詞ハ左ノ如シ

新年祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今年乃御年始給牟依里氐大前爾齋麻波里清麻波里氐獻奉留御食御酒和稻荒稻爾仕奉里氐御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿竝氐大野乃原爾生布留物波甘菜辛菜青海原爾住留物波鰭乃廣物鰭乃狭物奥都藻菜邊都藻菜爾至留麻氐置足波志氐今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾此乃某道府縣（市町村）與里宇豆乃幣帛捧奉良久乎平介久安介久聞食志氐皇神等乃依奉良牟奥都御年乎始米氐草乃片葉爾至留麻氐作留物共乎惡伎風荒伎水爾相波世給波受登年久佐加爾成幸給比氐天皇乃大朝廷乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻氐彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣以下十八字ヲ削リ稱辭竟奉ノ四字ヲ加フ

新嘗祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今年乃新嘗祭仕奉良志米給布留爾依里氐皇神等乃成幸給閉留八束穂乃秋乃初穂乎御食御酒爾仕奉里氐山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狭物奥都藻菜邊都藻菜爾至留麻氐置足波志氐此乃某道府縣（市町村）與里宇豆乃幣帛捧奉良久乎聞食志氐宇豆那比給比氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻氐撫給比惠給比氐五十橿八桑枝乃如久立榮衣仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣以下十八字ヲ削リ獻奉ノ二字ヲ加フ

例祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氐天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮乎靜宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩頼乎尊美奉里仰奉里氐一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾大前爾齋麻波里清麻波里氐御食御酒種種乃物乎獻置氐此乃某道府縣（市町村）與里宇豆乃幣帛捧奉良久乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻氐長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

辭別伎氐白左久此久仕奉留爾依里氐御氏子乃人等又此乃某道府縣（市町村）乃人等乎廣久厚久守給比惠給比氐心穩爾身健爾家内安久產業豐介久各母各母彌饒爾饒志米生乃子乃八十續爾至留麻氐彌榮衣志米給閉登恐美恐美母白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某道府縣以下二十二字ヲ削リ獻奉ノ二字ヲ加フ

祓詞

官國幣社ノ祓詞ニ同シ

前各項ニ定ムルモノノ外大正三年三月内務省令第四號官國幣社以下神社祭式ノ規定ニ依ル

（昭和二年二月三日　内務省令第七號）

大喪中ニ於ケル官幣大社賀茂別雷神社、官幣大社賀茂御祖神社、官幣大社石清水八幡宮、官幣大社春日神社、官幣大社氷川神社、官幣大社熱田神宮、官幣大社出雲大社、官幣大社橿原神宮及官幣大社明治神宮例祭式ハ昭和元年内務省令第二號大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祭式第一官國幣社祭式ノ規定ニ依ル但シ官幣大社熱田神宮ニ在リテハ新年祭新嘗祭及例祭ノ祭式中「次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）ス」「次權宮司若クハ禰宜以下拜禮」及「次權宮司若クハ禰宜以下御幣物ヲ撤ス」ヲ削リ「次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）」ノ次ニ「次宮司御幣物ヲ殿内ニ納ム」ヲ加ヘ「次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）」ノ次ニ「次宮司玉串ヲ奉ル（玉串ハ宮掌之ヲ附ス）」及「次宮司以下拜禮」ヲ加フ

●官國幣社改造修繕ノトキ遷座式執行區別

（明治十年五月十日　内務省達丁第八號）

官國幣社

各社本殿造修ノ都度假正遷座式執行致シ來候處自今本殿改造又ハ内陣修繕總屋根葺替等ノ外遷座ニ及ハス供饌ノ上祝詞ヲ以テ其由ヲ告ケ候儀ト可心得此旨相達候事

【但此場合ニ於テモ神饌等ノ入費ハ其都度別段地方官ヘ可稟請事】

●官國幣社神饌獻供方

（明治十年四月二十四日　内務省達丁第五號）

官國幣社神官

各社例祭新年祭新嘗祭及元始祭紀元節除夜每月一日等別段神饌獻供候節ハ自今平常日供獻備ニ不及儀ト可相心得此旨相達候事

（同日乙第四十四號府縣ヘ心得達略ス）

●國幣社例祭ノ節供進スヘキ幣帛神饌料

（大正九年八月二十六日　内務省訓令第十四號）

北海道廳　府縣（東京府、大阪府、埼玉、滋賀、奈良、和歌山、沖繩ノ五縣ヲ除ク）

國幣社例祭ノ節供進スヘキ幣帛神饌料左ノ通改正ス

國幣大社	金九拾圓	金六拾圓　幣帛料 金參拾圓　神饌料
國幣中社	金七拾五圓	金五拾圓　幣帛料 金貳拾五圓　神饌料
國幣小社	金六拾圓	金四拾圓　幣帛料 金貳拾圓　神饌料

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●神社祭式行事作法

（明治四十年六月二十九日　内務省告示第七十六號）

神社祭式行事作法ヲ定ムルコト左ノ如シ

神社祭式行事作法

第一編　行事

一　開扉及閉扉

開扉　先ツ所役御鑰ヲ捧持シテ齋主ノ座側ニ就キ之ヲ進メテ復座、齋主之ヲ受ケテ昇殿（警蹕所役隨行シ階下ニ候ス）進ミテ御錠ヲ解キ御鑰ヲ案上（案ハ豫メ御扉ノ側便宜ノ所ニ設ク）ニ置キ再ヒ進ミテ御錠ヲ除キ同案上ニ置キ更ニ進ミテ御扉ヲ開ク（此間奏樂警蹕一同平伏）次ニ神前ニテ再拜拍手ニ畢リテ側ニ候ス（警蹕所役ハ齋主祗候ノ時復座）

閉扉　先ツ齋主神前ニ進ミ（警蹕所役進ミテ階下ニ候ス）再拜拍手ニ次ニ御扉ヲ閉チ（此間奏樂警蹕一同平伏）御錠ヲ鎖シ御鑰ヲ捧持シテ下殿復座（警蹕所役ハ齋主ニ先チテ復座）次ニ御鑰ノ所役齋主ノ座側ニ就キ御鑰ヲ受ケテ復座

○二人（齋主副齋主）奉仕ノ場合左ノ如シ

開扉　齋主御鑰ヲ捧持シテ起座スル時副齋主共ニ起座シテ齋主ハ神前ノ左側ヨリ副齋主ハ右側ヨリ竝ヒ進ミテ昇殿、先ツ齋主進ミテ御錠ヲ解キ御鑰ヲ案上（案ハ豫メ御扉ノ側ニ設ク）ニ置キ次ニ二人左右ヨリ進ミテ御錠ヲ除キ各之ヲ案上ニ置キ再ヒ進ミテ御扉ヲ開ク次ニ齋主ハ神前ニ再拜拍手ニ（此間副齋主ハ平伏）畢リテ齋主ハ側ニ候シ副齋主ハ拜殿（又ハ幄舍）ニ著ク

閉扉　齋主ハ副齋主ノ進ミタル時神前ニテ再拜拍手ニ（此間副齋主ハ平伏）次ニ二人左右ヨリ御扉ヲ閉チ御錠ヲ鎖シ齋主御鑰ヲ捧持シ齋主副齋主共ニ下殿復座

其ノ他ノ行事ハ總ヘテ一人開閉扉ノ時ノ例ニ準ス

二　神饌獻撤

獻饌　先ツ後取贊薦ヲ舖キ饌案ヲ設ケテ復座次ニ陪膳進ミテ案前ニ候シ手長順次進ミテ正中ノ左右ニ斜メニ相對シテ分候ス次ニ膳部（豫メ神饌所ニ候ス）神饌ヲ手長ニ傳ヘ手長次第ニ之ヲ陪膳ニ傳フ陪膳之ヲ案上ニ奠ス（此間奏樂）畢リテ末席ヨリ順次復座

撤饌　先ツ陪膳進ミテ案前ニ候シ手長順次進ミテ正中ノ左右ニ斜メニ相對シテ分候ス次ニ陪膳神饌ヲ撤シテ手長ニ傳ヘ手長次第ニ之ヲ膳部（豫メ神饌所ニ候ス）ニ傳フ（此間奏樂）畢リテ末席ヨリ順次復座次ニ後取饌案及贊薦ヲ撤ス

祭場ノ都合ニ依リテハ手長一方ニ竝列シテ獻撤シ又ハ各自ニ捧持シテ獻撤スルコトアルヘシ

三　御幣物獻撤

獻幣　先ツ後取贊薦ヲ舖キ幣案ヲ設ケテ復座次ニ屬御幣物（雲脚臺ノママ、）ヲ辛櫃ヨリ出シ捧持シテ假案（豫メ便宜ノ所ニ設ク）ノ上ニ置キ側ニ候ス次ニ齋主御幣物ヲ捧持シテ神前ノ案上ニ奉奠シ再拜拍手ニ畢リテ本所ニ復ス屬拜殿（又ハ幄舍）ニ著ク

撤幣　其ノ儀撤饌ニ同シ

四　祝詞奏上

地方長官祝詞奏上　先ツ後取軾ヲ所定ノ座ニ舖キテ復座次ニ屬祝詞ヲ捧持シ長官ノ座側ニ就キテ之ヲ進ム長官受ケテ笏ニ持チ添フ屬復座次ニ長官祝詞座ニ著キ再拜祝詞ヲ懐中シ笏ヲ置キテ拍手ニ祝詞ヲ取リ出シ左側ニテ徐ニ開キ之ヲ押シ合セテ一揖シ目通ニ捧ケテ奏上ス（此間一同平伏）畢リテ又押シ合セテ一揖シ左側ニテ徐ニ卷キ納メ懐中シテ拍手ニ笏ヲ把リ祝詞ヲ添ヘテ再拜畢リテ復座次ニ屬長官ノ座側ニ就キ祝詞ヲ受ケテ復座次ニ後取軾ヲ撤ス

齋主祝詞奏上　其ノ儀地方長官祝詞奏上ニ同シ

五　玉串奉奠

地方長官（又ハ次官）玉串奉奠　先ツ後取贊薦ヲ舖キ玉串案ヲ設ケ軾ヲ舖キテ復座次ニ屬玉串ヲ執リ長官（又ハ次官）ノ座側ニ就キテ之ヲ進ム長官（又ハ次官）受ケテ案上ニ奠シ（玉串ハ豫メ上ニ本ヲ神前ニ向ク）拜座ニ著キテ再拜拍手ニ畢リテ復座

齋主玉串奉奠　其ノ儀地方長官（又ハ次官）玉串奉奠ニ同シ

諸員拜禮畢ル時ハ後取軾、玉串案及贊薦ヲ撤ス

六　修祓

先ツ所役案前（豫メ祓所ニ贊薦及案ヲ舖設シ案上ニ大麻ヲ安ス）ニ進ミ祓詞ヲ讀ミ（祝詞奏上ノ儀ニ準ス）畢リテ大麻ヲ執リテ祓ヲ受クヘキモノノ前ニ進ミ之ヲ祓ヒ（祓ヲ受クル者ハ平伏）畢リテ大麻ヲ案上ニ置キテ復座

七　大祓切麻

先ツ所役案前ニ進ミ切麻ノ三方（豫メ案上ニ置ク）ヲ捧持シテ參列者ノ前ニ据ウ次ニ參列者各自ニ切麻ヲ執リテ祓フ畢リテ所役三方ヲ案上ニ置キテ復座

第二編　作法

上

一　座法

兩足ノ拇指ヲ重ネ少シク膝ヲ開キ左右ノ手先ヲ腰前ニ控ヘ體ヲ垂直ニシテ正面スルヲイフ

二　立法

兩足ノ踵ヲ接ケ少シク爪先ヲ開キ左右ノ手先ヲ下腹ノ邊ニ控ヘ體ヲ垂直ニシテ正面スルヲイフ

三　座拜

座シタルマヽ正笏シテ笏ノ下方ヲ腹部ニ引クト共ニ腰ヲ折ルヲイフ

四　立拜

立チタルマヽ正笏シテ笏ノ下方ヲ腹部ニ引クト共ニ腰ヲ折ルヲイフ

○揖ニ深揖、小揖ノ別アリ腰ヲ折ルコトノ淺深ニ依ル

揖ハ座ノ起著、列ノ離就、階段ノ昇降、殿舍及神門ノ出入、物品ノ授受、尊前ノ進退、行事ノ前後、客ノ著脱等ニ行フ所作ナリ

五　起拜

右膝ヨリ立チ左足ヲ進メ兩足ヲ踏ミ整ヘテ體

チ正シ正笏シテ笏頭チ目通ニ上ケ左膝チ伏セ尋キテ右膝チ伏セテ俛伏スルチイフ

六　居拜

座シタルマヽ正笏シテ笏頭チ目通ニ上ケ正座シテ俛伏スルチイフ

七　立拜

立チタルマヽ兩足チ踏ミ整ヘ體チ正シテ正笏シ笏頭チ目通ニ上ケ腰チ屈折スルチイフ

八　拍手

兩手チ合セ靜ニ左右ニ開キテ拍チ合スルチイフ座セル時ハ置笏シ立テル時ハ懷笏シテ行フモノトス

九　起座

先ツ兩足チ爪立テ次ニ右膝チ起シテ立チナカラ左右チ進メテ右足ニ踏ミ整ヘ或ハ右足チ引キテ左足ニ踏ミ整フルチイフ

進ム起座ハ左足チ進ムル方ニ依リ退ク起座ハ右足チ引ク方ニ依ルモノトス

席ニ上下ノ別アル時ハ下座ノ膝ヨリ起スモノトス

十　著座

先ツ左膝チ突キ次ニ右膝チ突キ整ヘテ座スルチイフ

進ム著座ハ左膝チ前方ニ突キテ右膝チ突キ整ヘ退ク著座ハ左足チ引キテ膝チ突キ右膝チ突キ整フルモノトス

座前ヨリ著座スル時ハ先ツ左膝チ突キ同轉シテ座スルモノトス

座後ヨリ著座スル時ハ先ツ左膝チ突キ膝行シテ座スルモノトス

座ニ上下ノ別アル時ハ轉ヘテ上座ノ膝ヨリ突クモノトス

十一　進退

進ム時ハ左足ヨリシ退ク時ハ右足ヨリス

席ニ上下ノ別アル時ハ進ム時ハ下座ノ足ヨリシ退ク時ハ上座ノ足ヨリス

十二　膝行

膝ニテ進ムチイフ先ツ跪キテ左膝チ進メ次ニ右膝チ進メ又左膝チ進メテ右膝チ突キ整フルモノトス

席ニ上下ノ別アル時ハ下座ノ膝ヨリス

十三　膝退

膝行ノ反對ニシテ右左右ト退クチイフ

席ニ上下ノ別アル時ハ上座ノ膝ヨリス

○膝行膝退ハ尊前ノ進退、神饌獻撤ノ時等ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三歩トス

十四　平伏

正笏シテ背チ平ニ俛伏スルチイフ開閉扉、祝詞奏上、渡御、御幣物通過、受祓等ノ時ニ行フ所作ナリ

十五　蹲居

兩膝チ突キ爪先チ立テ踵ノ上ニ臀チ置クチイフ殿上ニテ應對、授受及薦、案、軾等チ舖設スル時ニ行フ所作ナリ

十六　蹲踞

兩膝チ折リ蹲マルチイフ神前ニ近キ所チ横キル時及庭上ニテ殿上ノ蹲居ト同シキ時等ニ行フ所作ナリ

十七　起立

兩足チ踏ミ整ヘテ立ツチイフ立禮ニテ應對、授受等ノ時ニ行フ所作ナリ

十八　磬折

立チタルマヽ正笏シテ腰チ折ルチイフ座禮ノ平伏ト同シキ時ニ行フ所作ナリ

十九　屈行

腰チ折リテ歩行スルチイフ立禮ニテ神前チ横キル時等ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三歩トス

二十　逡行

右足ヨリ右左右ト後歩スルチイフ尊前チ退ク時ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三歩トス

席ニ上下ノ別アル時ハ上座ノ足ヨリス

二十一　持笏

右手ニテ笏ノ下方チ拇指ト小指トチ内ニシテ右方ニ持ツチイフ

二十二　置笏

笏チ右手ヨリ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏頭チ把リ右膝ノ傍ニ置クチイフ

二十三　把笏

右手ニテ笏頭チ把リ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏ノ下方チ把リ右方ニ把持スルチイフ

二十四　懷笏

笏チ右手ヨリ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏頭チ把リ懷中スルチイフ行事ノ時及立禮ニテ拍手スル時等ニ行フ所作ナリ

二十五　正笏

左右ノ手ニテ笏ノ下方チ把リ腹部ノ正前ニテ正シク持チ身體チ整フルチイフ拜、揖等ノ時ニ行フ所作ナリ

二十六　警蹕

をトイフ音チ長ク引キテ唱フルチイフ開閉扉及渡御等ノ時ニ行フ所作ナリ

下

一　階ノ昇降

一神前ノ左方ヨリ昇ルモノハ右足ヨリシ右方ヨリ昇ルモノハ左足ヨリス

一神前ノ左方ヨリ降ルモノハ左足ヨリシ右方ヨリ降ルモノハ右足ヨリス

一昇降ハ一階毎ニ足チ聚ムヘシ

二　御扉ノ開閉

一開扉ハ左手ニテ雄扉ノ端ノ上部チ持チ右手ニテ其ノ下部チ持チテ開キ雌扉ノ方ニ移リ右手チ上ニシ左手チ下ニシテ開ク

一閉扉ハ雌扉ニハ左手チ上ニシ雄扉ニハ右手チ上ニス

三　祝詞ノ展卷

祝詞チ展フルニハ左手ニ卷チ持チ右手ニ折端チ持チ左側ニテ展フ之チ卷クモ亦左側ニ於テス

四　御鑰、祝詞、玉串、大麻等ノ持方

一御鑰、祝詞、玉串、大麻等ハ左手ニテ上部チ右手ニテ下部チ執リ左高ニ捧持シ（祝詞ハ折端ヲ内ニシテ開クカ如クス）授クル時ハ總ヘテ反對ニ持チ換フヘシ

一玉串チ奉奠スルニハ左手チ右手ノ元ニ下シ本チ神前ニ向ケ其ノ中程チ裏ヨリ右手ニテ持チ左手チ添ヘテ案上ニ置クヘシ

一御鑰等ノ授受ハ上位ノ人ハ下位ノ人ノ持テル所ヨリ左右各其ノ上邊チ下位ノ人ニハ上位ノ人ノ持テル所ヨリ左右各其ノ下邊チ執ラシムヘシ

一授受ニハ總ヘテ懷笏スヘシ但シ齋主祝詞チ受クル時ハ之チ笏ニ受ケ授クル時ハ笏ニ添ヘテ授クヘシ

五　三方、案、薦、軾等ノ持方

一三方ハ拇指チ左右ノ縁ニ他ノ指チ縁ト胴トニ掛ケテ持ツヘシ（胴穴ヲ避クヘシ）

一折敷高坏ハ右手ニテ高坏チ持チ左手チ折敷ニ添ヘテ持ツヘシ塗高坏モ亦之ニ準ス

一案ハ左手ニテ裏チ支ヘ右手チ右方ノ脚ノ附根ニ掛ケテ持ツヘシ但シ案小ナル時ハ兩手チ左右ノ脚ノ附根ニ掛ケテ持ツヘシ

一薦、軾等ハ右手ニテ端チ執リ左手ニテ中程チ支ヘ左チ少シク高ク上ケテ斜メニ持ツヘシ但シ薦ハ右前ニ卷キ軾ハ右前三折ニ疊ム又之チ舒フルトキ右端チ取ルニハ左手チ中程ニ右手チ下部ニ左端チ取ルニハ右手チ中程ニ左手チ下部ニ配スヘシ收ムルトキハ之ニ反ス

一三方、高坏、案等ハ目通ニ捧持スヘシ薦、軾等ハ之ニ及ハス

六　大麻、切麻ノ祓方

一大麻ニテ祓フトキハ祓チ受クヘキ者ノ前ニ進ミ之チ持チ換ヘテ（右手上左手下）正前ニ捧ケ左右左ト振リ畢リテ又之チ持チ換フヘシ

一切麻ハ左手チ三方ノ左方ニ掛ケ右手ニテ切麻チ執リ左右左ト祓フヘシ

七　折敷、三方等ノ据方

一折敷又ハ三方等ハ縁ノ綴目ナキ方チ神前ニ向ク

一神饌チ案上ニ奉奠スルトキ調理セサル魚鳥等首尾アルモノチ正中若クハ右方ニ供スルニハ左頭トシ左方ニ供スルニハ右頭トス

第三編　雜載

一　祭場ノ座位

一正中チ上位トシ左チ次トシ右チ其ノ次トス

一神前ニ近キチ上位トシ遠キチ下位トス

二　神饌獻撤ノ順序

一獻饌ノ順序ハ一（和稻荒稻）、二酒、三餅、四海魚、五川魚、六野鳥、七水鳥、八海菜、九野菜、十菓、十一（鹽水）トシ撤饌ノ時ハ最終ノ供饌ヨリス

一神饌ノ臺數奇數ナルトキハ先ツ正中次ニ左方次ニ右方トシ偶數ナルトキハ先ツ左方次ニ右方ノ順序チ以テ奉奠ス

●官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件

（大正三年三月二十七日内務省令第五號）

官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件左ノ通定ム

官國幣社以下神社神職齋戒ニ關スル件

第一條　祭祀ニ奉仕シ又ハ參向スル者ハ大祭、中祭ニハ其ノ當日及前日小祭ニハ其ノ當日齋戒スヘシ

第二條　齋戒中ニ在ル者ハ喪ニ與ル等其ノ他凡テ汚穢ニ觸ルルコトチ得ス

附　則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之チ施行ス

●神宮竝官國幣社以下神社ニ於テ恒例トシテ行フ式

（大正三年三月二十七日内務省訓令第二號）

神官神職

神宮竝官國幣社以下神社ニ於テ恒例トシテ行フ式左ノ通定メ大正三年四月一日ヨリ施行ス

第一條　神宮ニ於テ恒例トシテ左ノ式チ行フ

春季皇靈祭遙拜
神武天皇祭遙拜
明治天皇祭遙拜
秋季皇靈祭遙拜
大祓

第二條　官國幣社以下神社ニ於テ恒例トシテ左ノ式チ行フ

春季皇靈祭遙拜
神武天皇祭遙拜
明治天皇祭遙拜
秋季皇靈祭遙拜
神嘗祭遙拜
大祓

（大正三年三月二十七日内務省訓令第三號）

神宮大宮司

本年三月内務省訓令第二號ニ依ル神宮ニ於テ行フ遙拜及大祓次第ハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依リ執行スヘシ

（大正三年三月二十七日内務省訓令第四號）

神職

本年三月内務省訓令第二號ニ依ル官國幣社以下神社遙拜及大祓次第左ノ通定ム

官國幣社以下神社遙拜及大祓次第

第一　官國幣社遙拜及大祓次第

遙拜次第

當日早旦社頭便宜ノ所ニ式場チ辨備ス

新薦チ舖キ案チ立ツ

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次宮司遙拜詞チ奏ス

次宮司玉串チ奉リテ拜禮

次權宮司若クハ禰宜以下拜禮

次各退下

春秋皇靈祭遙拜詞

掛麻久母畏伎皇靈殿乃大前爾遙爾拜美奉良久登白須（カケマクモカシコキミタマドノノオホマヘニハルカニヲロガミマツラクトマヲス）

神武天皇祭遙拜詞

掛麻久母畏伎畝傍山東北陵乃大前爾遙爾拜美奉良久登白須（カケマクモカシコキウネビヤマノウシトラノミササギノオホマヘニハルカニヲロガミマツラクトマヲス）

明治天皇祭遙拜詞

掛麻久母畏伎伏見桃山陵乃大前爾遙爾拜美奉良久登白須（カケマクモカシコキフシミノモモヤマノミササギノオホマヘニハルカニヲロガミマツラクトマヲス）

神嘗祭遙拜詞

掛麻久母畏伎伊勢乃神宮乃大前爾遙爾拜美奉良久登白須（カケマクモカシコキイセノカミノミヤノオホマヘニハルカニヲロガミマツラクトマヲス）

大祓次第

當日社頭ノ庭上ニ祓所チ辨備ス

正面ニ新薦チ舖キ案チ立テ祓物チ置キ其ノ前ニ祓詞ノ座チ設ケ便宜ノ所ニ地方官神職ノ座チ設ク

雨儀等ニ在リテハ便宜ノ所ニ於テ之チ行フ

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次地方官所定ノ座ニ著ク

次主典切麻チ頒ツ

次宮司祓チ修ス

次禰宜祓詞チ宣ル

次諸員切麻チ執リテ祓フ

次主典大麻チ行フ

次主典切麻チ撤ス

次主典祓物チ執リテ河海ニ向フ

次各退下

祓物

木綿　一兩（常ノ木綿五尺チ以テ代フルコトチ得）

布　五尺（麻布）

形代及解繩チ用フル例アル神社ハ之チ添フルコトチ得

大祓詞

集侍波禮留人等諸聞食世登宣留（ウコナハレルヒトドモモロモロキコシメセトノル）

高天原爾神留坐須皇賀親神漏岐神漏美命以知八百萬神等乎神集閉爾集賜比神（タカマノハラニカムヅマリマススメラガムツカムロギカムロミノミコトモチテヤホヨロヅノカミタチヲカムツドヘニツドヘタマヒカム）

議比爾議賜比我賀皇御孫命波豐葦原水穗國乎安國止平介久知食世登事依奉利（ハカリニハカリタマヒテアガスメミマノミコトハトヨアシハラノミヅホノクニヲヤスクニトタヒラケクシロシメセトコトヨサシマツリキ）

此久依奉志國中爾荒振神等乎波神問波志爾問賜比神掃比爾掃賜比語問比志磐根樹立草（カクヨサシマツリシクヌチニアラブルカミタチヲバカムトハシニトハシタマヒカムハラヒニハラヒタマヒテコトトヒシイハネキネタチクサ）

乃片葉乎毛語止米天天乃磐座放知天乃八重雲乎伊頭乃千別伎爾千別伎天天降志依奉利伎此久依奉（ノカキハヲモコトヤメテアメノイハクラハナチアメノヤヘグモヲイヅノチワキニチワキテアマクダシヨサシマツリキカクヨサシマツ）

里志四方乃國中登大倭日高見國乎安國止定奉利天下都磐根爾宮柱太敷立天高天原爾（リシヨモノクニナカトオホヤマトヒダカミノクニヲヤスクニトサダメマツリテシタツイハネニミヤバシラフトシキタテタカマノハラニ）

千木高知里弖皇御孫命乃瑞乃御殿仕奉里弖天乃御蔭日乃御蔭登隱坐志弖安國登平介久知食左牟國中爾成出傳牟天乃益人等我過犯志介牟種種乃罪事波天都罪國都罪許許太久乃罪出傳牟此久出傳婆天都宮事以知弖天都金木乎本打切里末打斷知弖千座乃置座爾置足波志弖天都菅麻乎本刈斷知末刈切里弖八針爾取辟伎弖天都祝詞乃太祝詞事乎宣禮此久宣良婆天都神波天乃磐門乎押披伎弖天乃八重雲乎伊頭乃千別伎爾千別伎弖聞食左牟國都神波高山乃末短山乃末爾上坐志弖高山乃伊褒理短山乃伊褒理乎搔別介弖聞食左牟此久聞食志弖婆罪登云布罪波在良自登科戸乃風乃天乃八重雲乎吹放都事乃如久朝乃御霧夕乃御霧乎朝風夕風乃吹拂布事乃如久大津邊爾居留大船乎舳解放知艫解放知弖大海原爾押放都事乃如久彼方乃繁木我本乎燒鎌乃敏鎌以知弖打掃布事乃如久遺留罪波在良自登祓給比清給布事乎高山乃末短山乃末與里佐久那太理爾落多岐都速川乃瀬爾坐須瀬織津比賣登云布神大海原爾持出傳奈牟此久持出往奈婆荒潮乃潮乃八百道乃八潮道乃潮乃八百會爾坐須速開都比賣登云布神持加加呑弖牟此久加加呑弖婆氣吹戸爾坐須氣吹戸主登云布神根國底國爾氣吹放知弖牟此久氣吹放知弖婆根國底國爾坐須速佐須良比賣登云布神持佐須良比失比弖牟此久佐須良比失比弖婆今日與里始米弖罪登云布罪波在良自登今日乃夕日乃降乃大祓爾祓給比清給布事乎諸聞食世登宣留

神職等大川道爾持退出傳弖祓却倍登宣留

第二　府縣社以下神社遙拜及大祓次第

官國幣社遙拜及大祓次第ニ準ス

●大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祓次第

昭和元年十二月二十八日
内務省訓令第一號

神職

大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祓次第左ノ通定ム

大喪中ニ於ケル官國幣社以下神社大祓次第

第一　官國幣社大祓次第

大祓次第

當日社頭ノ庭上ニ祓所ヲ辨備ス

正面ニ新薦ヲ舗キ案ヲ立テ祓物ヲ置キ其ノ前ニ祓詞ノ座ヲ設ケ、便宜ノ所ニ神職ノ座ヲ設ク

雨儀等ニ在リテハ便宜ノ所ニ於テ之ヲ行フ

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次主典切麻ヲ頒ツ

次宮司祓ヲ仰ス

次禰宜祓詞ヲ宣ル

次諸員切麻ヲ執リテ祓フ

次主典大麻ヲ行フ

次主典切麻ヲ撤ス

次主典祓物ヲ執リテ河海ニ向フ

次各退下

祓物

木綿　一兩（常ノ木綿五尺ヲ以テ代フルコトヲ得）

布　五尺　麻布

形代及解繩ヲ用フル例アル神社ハ之ヲ添フルコトヲ得

大祓詞

大正三年三月内務省訓令第四號官國幣社以下神社遙拜及大祓次第ニ定ムル大祓詞ニ依ル

第二　府縣社以下神社大祓次第

官國幣社大祓次第ニ準ズ

●靖國神社祭式

（大正三年四月一日陸軍省令第二號）

靖國神社祭式左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（海軍大臣連署）

靖國神社祭式

一　大祭式

新年祭新嘗祭

當日早旦神職社殿ヲ裝飾ス

午前十時幣帛供進使（正裝）宮司以下參進所定ノ位置ニ著ク

次ニ幣帛供進使御幣物ヲ奉シテ祓所ニ著ク

次ニ修祓ノ儀アリ

次ニ幣帛供進使宮司以下本殿ニ參進著床

次ニ御扉ヲ開ク（御簾ヲ掲ク）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假案ノ上ニ置ク

次ニ宮司御幣物ヲ奉奠ス

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ幣帛供進使玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ幣帛供進使隨員拜禮

次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ禰宜以下拜禮

次ニ御幣物神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ御扉ヲ閉ツ（御簾ヲ垂ル）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ各退下

例祭

例祭當日ノ儀

當日早旦神職社殿ヲ裝飾ス

午前八時陸海軍兩省掛官（正裝）宮司以下本殿ニ參進著床

次ニ御扉ヲ開ク（御簾ヲ掲ク）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間軍樂ヲ奏ス

午前八時三十分陸海軍兩大臣陸海軍將校同相當官勅奏任文官（正裝大禮服）拜殿ニ參著

午前九時勅使御幣物ヲ奉シ參向（是レヨリ前齋館ニ著アリ齋館ヨリ徒歩神職前導憲兵辛櫃ノ前後ヲ護シ參進ス）

此ノ時陸海軍兩大臣ハ拜殿階上ノ椽側ニ掛官及宮司禰宜ハ同階段ノ下ニ奉迎ス

次ニ勅使本殿ニ進ム（宮司先導掛官及禰宜隨從ス）

次ニ宮司御幣物ヲ奉奠ス

次ニ勅使御祭文ヲ奏ス

次ニ勅使御祭文ヲ宮司ニ付ス

次ニ宮司御祭文ヲ内陣ニ納ム訖テ勅使ニ反命ス

次ニ勅使下向

此ノ時奉送ハ奉迎ノ時ニ準ス

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ皇族拜禮

次ニ陸海軍兩大臣本殿ニ進ミ玉串ヲ奠シ拜禮（春ハ陸軍大臣秋ハ海軍大臣先ツ玉串ヲ奠ス）

次ニ陸海軍將校同相當官勅奏任文官本殿ニ進ミ拜禮

次ニ掛官玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ掛官隨員拜禮

次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ禰宜以下拜禮

午前九時三十分ヨリ軍隊順次拜禮畢テ諸人ノ參拜ヲ許ス但シ遺族ハ昇殿シ拜禮スルコトヲ得

次ニ御幣物神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ（御簾ヲ垂ル）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ各退下

例祭前一日　清祓

祓所ノ儀

先ツ神職社殿ヲ裝飾シ祓所ヲ辨備ス

午後（春ハ三時秋ハ二時）陸海軍兩省掛官（通常禮裝）宮司以下祓所ニ參進著床

次ニ主典祓物ヲ陳ネ切麻ヲ頒ツ

次ニ禰宜祓詞ヲ讀ム

次ニ主典ノ一人大麻ヲ執リ一人鹽湯ヲ執リ供神物ニ灑祓フ

次ニ參列ノ諸員切麻ヲ執リテ祓フ

次ニ各退下

本殿ノ儀（清祓畢テ直ニ之ヲ行フ）

先ツ掛官宮司以下本殿ニ參進著床

次ニ御扉ヲ開ク（御簾ヲ掲ク）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ掛官玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ掛官隨員拜禮

次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ禰宜以下拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ御扉ヲ閉ツ（御簾ヲ垂ル）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ各退下

例祭後一日　直會

直會祭所ノ儀

先ツ神職社殿ヲ裝飾シ直會祭所ヲ辨備ス

午前（春ハ九時秋ハ十時）陸海軍兩省掛官（通常禮裝）宮司以下直會祭所ニ參進著床

次ニ降神ノ式ヲ行フ（宮司奉仕）　警蹕　菅搔

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ掛官竝掛官隨員拜禮

次ニ宮司以下拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ昇神ノ式ヲ行フ（宮司奉仕）　警蹕　菅搔

次ニ各退下

本殿ノ儀（直會祭畢テ直ニ之ヲ行フ）

先ツ掛官宮司以下本殿ニ參進著床

次ニ御扉ヲ開ク（御簾ヲ掲ク）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス畢テ東遊又ハ倭舞ヲ奏スルコトヲ得

次ニ掛官玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ掛官隨員拜禮

次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ禰宜以下拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ御扉ヲ閉ツ（御簾ヲ垂ル）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ各退下

直會ノ儀（本殿ノ儀畢テ直ニ之ヲ行フ）

先ツ掛官宮司以下直會所ニ到リ著床

次ニ直會ノ詞ヲ宣ル

次ニ饗膳

次ニ勸盃

次ニ各退下

合祀祭

例祭ニ準ス但シ時刻ハ時ニ臨ミテ之ヲ定ム

合祀祭前一日　合祀奉告祭

清祓當日本殿ノ儀ニ準ス

合祀祭前夜　招魂式

豫メ招魂齋庭ヲ辨備ス

午後七時前招魂齋庭ニ庭燎ヲ燒ク

同　七時三十分儀仗兵一中隊參著

同　八時陸海軍各官衙近衛第一兩師團勅奏任官總代及判任官總代（高等官ハ正裝大禮服判任官ハ軍裝通常禮服）參著

次ニ陸海軍兩省掛官（正裝）宮司以下參著

次ニ招魂ノ式ヲ行フ（宮司奉仕）　警蹕　菅搔

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ參列ノ各官拜禮

次ニ掛官玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ掛官隨員拜禮

次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ禰宜以下拜禮

次ニ宮司掛官ト共ニ本殿ニ參進

次ニ御扉ヲ開ク（御簾ヲ掲ク）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ宮司掛官ト共ニ本殿ヲ降リ招魂齋庭ニ到ル

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ靈璽ヲ奉戴シ本殿ニ奉遷ス（此ノ時庭燎竝燈火ヲ滅ス）

其ノ儀神職前行軍樂隊掛官御羽車宮司以下神職參列各官之ニ續キ軍樂隊ハ中庭ニ列立シ參列各官ハ拜殿ニ著床ス

次ニ宮司靈璽ヲ奉安ス（畢テ燈火ヲ點ス）

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ參列ノ各官本殿ニ進ミ拜禮

次ニ掛官竝掛官隨員拜禮

次ニ宮司以下拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ御扉ヲ閉ツ（御簾ヲ垂ル）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間軍樂ヲ奏ス

次ニ各退下

遷座祭臨時奉幣祭

時ニ臨ミテ之ヲ定ム

二　中祭式

歲旦祭元始祭紀元節祭天長節祭

當日早旦神職社殿ヲ裝飾ス

午前十時（但シ歲旦祭ハ午前八時）宮司以下參進所定ノ座ニ著ク

次ニ御扉ヲ開ク（御簾ヲ掲ク）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ神饌ヲ供ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ宮司祝詞ヲ奏ス

次ニ宮司玉串ヲ奠シ拜禮

次ニ禰宜以下拜禮

次ニ神饌ヲ撤ス（禰宜以下奉仕）

此ノ間奏樂

次ニ御扉ヲ閉ツ（御簾ヲ垂ル）（宮司奉仕主典二人從フ）　警蹕

此ノ間奏樂

次ニ各退下

三　小祭式

月毎ノ祭（[illegible]）陸軍記念日祭海軍記念日煤拂祭除夜祭

中祭ニ準ス但シ裝飾ヲ省キ御簾ヲ掲ケス參進ハ瑞垣北門ヨリシ煤拂祭ハ午後二時除夜祭ハ午後三時トス

四　祝詞（之ヲ略ス）

五　雜則

一、神饌ハ大祭二十臺中祭十五臺小祭十臺トス但シ例祭合祀祭ハ五十臺トシ合祀奉告祭ニハ十臺招魂祭ニハ二十五臺清祓直會本殿祭ハ各十五臺清祓直會祭ハ各三臺トス

一、例祭ノ神饌中ニハ陸軍糧秣廠及海軍經理局ヨリ獻ル鯛鮑ノ類ヲ加フルモノトス

一、例祭竝合祀祭ニハ和妙荒妙鏡及刀ヲ獻リ新年祭竝新嘗祭ニハ明妙照妙ヲ獻ル

一、大祭及中祭ニハ玉串ハ榊ノ枝ニ紅白ノ絹ヲ著ケ清祓祭直會祭竝小祭ニハ榊ノ枝ニ紙ヲ著ク

一、社殿ノ裝飾ハ幕旗提燈等當分慣例ニ依ル

一、例祭竝合祀祭ニハ中門内左右ニ眞榊ヲ樹ツ（左ニ劍右ニ鏡ヲ掛ケ五色ノ絹ヲ著ク）

一、例祭竝合祀祭ノ鋪設ハ本殿外陣中央ニ祝詞座東廂北側ニ神職ノ倚子同南側ニ掛官ノ倚子ヲ設ケ豫メ皇族ノ席ヲ南廂ニ設ク其ノ南北兩側ニ陸海軍兩大臣將校同相當官其ノ他各官衙新年祭參列官ノ倚子ヲ設ク（他ノ各官衙ハ北側）但シ中祭以下ノ祭典ハ本殿ニ限リ倚子ヲ栻ニ代フ

祓所直會所等ノ鋪設ハ宮司時ニ之ヲ定ム

靖國神社遙拜大祓及修祓ノ儀左ノ通定ム（大正三年四月一日陸軍省告示第四號）（海軍大臣連署）

靖國神社遙拜大祓及修祓ノ儀

遙拜ノ儀

當日早旦遙拜所ヲ辨備ス
時刻宮司以下參進所定ノ位置ニ著ク
次ニ宮司拜辭ヲ申シ玉串ヲ奠シ拜禮
次ニ禰宜以下拜禮
次ニ各退下

（六月十二月）大祓ノ儀

當日豫メ祓所ヲ辨備ス（祓所ハ中門內廊上ニ設ク雨儀等ノトキハ便宜ノ所ニ於テ行フ）
其ノ儀正面ニ新薦ヲ舖キ高案ヲ据ヱ祓物（木綿一兩麻五尺）ヲ置ク其ノ左側ヲ神職右側ヲ官員前面ヲ一般參列者ノ位置トス
時刻宮司以下參進所定ノ位置ニ著ク
次ニ官員參進所定ノ位置ニ著ク
次ニ主典一人切麻ヲ頒ツ
次ニ禰宜祓詞ヲ讀ム
次ニ官員神職切麻ヲ執リテ祓フ
次ニ主典一人大麻ヲ行フ
次ニ主典一人切麻ヲ撤ス
次ニ主典祓物ヲ執リテ河ニ向フ
次ニ各退下

修祓ノ儀

修祓ハ祭祀竝遙拜ノ前之ヲ行フ
先ツ祓所ヲ辨備ス
時刻宮司以下所定ノ位置ニ著ク
次ニ禰宜祓詞ヲ讀ム
次ニ主典ノ一人大麻ヲ執リ一人鹽湯ヲ執リテ祓フ
次ニ各退下

●靖國神社齋戒ニ關スル件

（大正三年四月一日陸軍省令第三號）

靖國神社齋戒ニ關スル件左ノ通定ム（海軍大臣連署）

齋戒ニ關スル件

第一條　祭祀ニ奉仕シ又ハ參向スル者ハ左ノ各號ニ依リ齋戒スヘシ
一　神職及幣帛供進使ニ在リテハ例祭及合祀祭ニハ當日竝祭日前後一日其ノ他ノ大祭及中祭ニハ當日竝祭日前一日小祭ニハ當日
二　前號ニ揭クル以外ノ者ニ在リテハ當日

第二條　御煤拂等ノ爲ニ內陣ニ參進スル者ハ前日及當日齋戒スヘシ

第三條　齋戒中ニ在ル者ハ喪ニ預ル等其ノ他凡テ汚穢ニ關ルルコトヲ得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●官幣大社朝鮮神宮祭式

（大正十四年十一月二十一日朝鮮總督府令第百十號　改正　大正一五年第七六號）

官幣大社朝鮮神宮祭式左ノ通定ム

官幣大社朝鮮神宮祭式

第一　大祭式

新年祭新嘗祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次ニ幣帛供進使參進（是ヨリ先手水ノ儀アリ）
次ニ幣帛供進使祓所ニ著ク
次ニ修祓（先幣帛次幣帛供進使及隨員）
次ニ幣帛供進使所定ノ座ニ著ク
次ニ御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（幣帛供進使隨員從フ）
次ニ宮司諸事辨備セル由ヲ幣帛供進使ニ申ス
次ニ宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）
次ニ禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）
次ニ宮司祝詞ヲ奏ス
次ニ幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク）
次ニ宮司御幣物ヲ奉ル
次ニ幣帛供進使祝詞ヲ奏ス
次ニ幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ隨員之ヲ附ス）
次ニ幣帛供進使隨員拜禮
次ニ宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）
次ニ禰宜以下拜禮
次ニ禰宜以下御幣物ヲ撤ス
次ニ禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次ニ宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）
次ニ宮司祭儀畢レル由ヲ幣帛供進使ニ申ス
次ニ各退出

例　祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下參集
次ニ參列員參集
但シ服裝男子ハ大禮服、正裝、服制ナキ者ハ通常禮服、女子ハ通常服又ハ袿袴（禮服）
次ニ諸員參進　是ヨリ先手水ノ儀アリ
次ニ修祓
次ニ參列員所定ノ座ニ著ク
次ニ宮司以下拜殿ノ座ニ著ク
次ニ王族公族拜殿ノ座ニ著ク
但シ服裝男子ハ大禮服、正裝、女子ハ通常服又ハ袿袴（禮服）
次ニ宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）
次ニ禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）
次ニ宮司祝詞ヲ奏ス
次ニ勅使御幣物ヲ奉シテ參進（神職前導）
次ニ祓所ニ著ク
次ニ修祓
次ニ勅使拜殿ノ座ニ著ク
次ニ御幣物ノ辛櫃ヲ中門內ニ舁据ウ（勅使隨員相副フ）
次ニ勅使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ中門內ニ設ク）
次ニ宮司御幣物ヲ奉ル
次ニ勅使進テ御祭文ヲ奏ス
次ニ宮司進テ御祭文ヲ請ヒ之ヲ神前ニ納ム訖テ勅使ニ反命ス
次ニ勅使退下（神職前導）
次ニ王族公族玉串ヲ奉リテ拜禮
次ニ參列員玉串ヲ奉リテ拜禮
次ニ宮司玉串ヲ奉リテ拜禮
次ニ禰宜以下拜禮
次ニ禰宜以下御幣物神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次ニ宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）
次ニ各退出

臨時奉幣祭

次第時ニ臨ミ之ヲ定ム

第二　中祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次ニ宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）
次ニ禰宜以下神饌ヲ供ス（此間奏樂）
次ニ宮司祝詞ヲ奏ス
次ニ宮司玉串ヲ奉リテ拜禮
次ニ禰宜以下拜禮
次ニ禰宜以下神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次ニ宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此間奏樂）
次ニ各退出

第三　小祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次ニ禰宜以下神饌ヲ供ス
次ニ宮司祝詞ヲ奏ス
次ニ宮司玉串ヲ奉リテ拜禮
次ニ禰宜以下拜禮
次ニ禰宜以下神饌ヲ撤ス
次ニ各退出

第四　修　祓

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス
時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク
次ニ禰宜祓詞ヲ讀ム
次ニ主典一人大麻ヲ執リ同一人若クハ雇員鹽湯ヲ執リ神饌及宮司以下ヲ祓フ
次ニ各退下

第五　祝　詞

新年祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白佐久今年乃御年始給波牟登爲天皇命乃宇豆乃大幣帛手捧奉良志米給布故爾大前爾齋麻波里清麻波理氏獻奉留御食波和稻荒稻爾仕奉里氏御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿竝倍氏大野乃原爾生布留物波甘菜辛菜青海原爾住牟物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻氏置足波志氏今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾稱辭竟奉良久手平介久安介久聞食志氏天乃下乃國民爾手肱爾水泡搔垂留向

股爾泥搔寄世氏取作良牟奧都御年手始米氏草乃片葉爾至留麻傳作里作留物共手惡伎風荒伎水爾相麻波世給波受豐爾牟久佐加爾成幸給比氏新嘗乃御祭嚴志久美志久仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

新年祭幣帛供進使祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾恐美恐美毛白左久天皇我大命以知氏今年乃新年祭爾官位勳功爵氏名手使登爲氏大前爾獻奉留宇豆乃大幣帛手安幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氏皇神等乃依奉良牟奧都御年手八束穗乃茂穗爾成幸給比氏天皇我大朝廷手始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登白給波久登恐美恐美母白須

新嘗祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久天都御食乃長御食乃遠御食登新嘗聞食左牟登爲氏天皇命乃宇豆乃大幣帛手捧奉良志米給布故爾皇神等乃成幸給閉留八束穗乃秋乃初穗手御食御酒爾仕奉里氏山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳置足波志氏獻奉良久手聞食志宇豆那比給比氏天皇命乃大御代手嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等手始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳惠給比氏五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

新嘗祭幣帛供進使祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾恐美恐美毛白左久天皇我大命以知氏今年乃新嘗祭爾官位勳功爵氏名手使登爲氏大前爾獻奉留宇豆乃大幣帛手安幣帛乃足幣帛登平介久安介久聞食志氏天都御食乃長御食乃遠御食登豐明爾明坐左牟皇御孫命乃大御食手萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久聞食左志米給比氏天皇我大朝廷手始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登白給波久登恐美恐美母白須

例祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氏天社國社登稱辭竟奉留中爾毛此乃大宮手靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩賴手尊美奉里御奉里登一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾天皇命乃宇豆乃大幣帛手捧奉良志米給布故爾大前爾齋麻波里清麻波理氏獻奉留御食御酒種種乃物手平介久安介久聞食志氏天皇命乃大御代手嚴御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等手始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳長給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

歳旦祭祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久新伎日乃今日乃朝日乃豐榮登爾御賀乃壽詞仕奉良久登豐御食豐御酒種種乃物手平介久安介久聞食志氏此乃年手良伎年乃美志年登守給比幸給比氏天皇命乃大御代手堅磐爾常磐爾齋奉里給比天乃下平介久穀物豐介久產業手彌獎米爾獎米國民榮衣志米給比氏大御稜威手差昇留年乃初日乃光登共爾彌益益爾輝加志米給閉登賀乃壽詞仕奉良久登白須

元始祭祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久遠皇祖皇命乃御代御代受傳坐志氏知食來留天都日嗣高御座乃大元始手歳乃首爾言日乃御祭仕奉留狀手平介久安介久聞食志氏天皇命乃知食須天都日嗣乃大共無窮爾動久事無久變留事無久齋奉里幸奉里給比天乃下平介久國內安大稜威手天輝志國輝加志米給比皇大御國乃大御榮手天足志國足志禮代乃御食御酒種種乃物手捧奉里氏恐美恐美母言壽奉良久登白須

紀元節祭祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久高天原爾神漏岐神漏美命以知氏豐葦原水穗國手萬千秋乃長秋爾平介久知食世登事爾神日本磐余彥天皇乃高伎嚴志伎大御德以知氏食國天乃下手平介給比和國乃畝傍橿原乃底都岩根爾大宮柱太敷立氏高天原爾千木高知里氏天都坐志氏肇國知食志志與里皇御孫命乃御代御代彌繼繼爾承繼傳來坐志氏彌廣衣行久大元手恐美奉里今日乃生日乃足日爾御食御酒種種乃物手大氏今日乃言壽乃賀詞手壽壽奉良久波皇大御神乃定給比掟給閉留事乃大御位天地登共爾久志久月日登共爾遠久彌益益爾御榮坐左牟皇大朝廷乃壁立極國乃退立限彌次次爾廣里行加牟神壽壽奉良久手甘良爾聞食世登白須

天長節祭祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久八十日日[illegible]今日乃

生日乃足日波志母明御神登天乃下知食須天皇命乃生出坐志志貴伎愛多岐美志日登天皇命乃大朝廷乎始米氐天乃下四方乃國波青雲乃靄久極白雲乃向伏須限落留事無久漏留事無久言壽岐仕奉留此乃大前爾御食御酒種種乃物乎捧奉里氐稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御壽乎手長乃大御壽登由都磐村乃如久常磐爾堅磐爾齋奉里嚴御代爾幸奉里給比大御稜威乎彌高爾彌廣爾輝加志米給比大御惠乎彌遠爾彌長爾御蒙志米給閉登恐美恐美毛言壽奉良久登白須

祓詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓戸大神等今日仕奉留神職等過犯世留罪穢有良牟乎波祓給比清給閉登申須事乎聞食世登恐美恐美毛白須

幣帛供進使竝朝鮮總督ノ修祓ニ當リテハ神職ノ二字ヲ次ノ二字ニ換フ

官人

第六　雜則

一　御幣物ハ祭日ノ前朝鮮總督正廳ニ臨ミ之ヲ點檢ス

一　神饌料ハ豫メ之ヲ神宮ニ交附ス

一　第四ニ定ムル修祓ハ祭祀ノ前之ヲ行フ

一　御幣物及幣帛供進使竝朝鮮總督ノ修祓ハ第四ニ定ムル式ニ準シテ之ヲ行フ

一　神饌臺數竝品目左ノ如シ

大祭　十一臺以上

和稻　荒稻　酒　餅　海魚　川魚　野鳥　水鳥　海菜　野菜　菓　鹽　水

中祭　七臺以上

和稻　荒稻　酒　餅　魚　鳥　海菜　野菜　菓　鹽　水

但シ鳥ハ之ヲ省略スルコトヲ得

小祭　五臺以上

和稻　荒稻　酒　魚　海菜　野菜　菓　鹽　水

定額ノ神饌及幣物ノ外其ノ地ノ産物等ヲ副ヘテ奉ルコトヲ得

一　神宮ニ特別ノ由緒アル祭祀若クハ小祭ニシテ神宮ニ特別ノ儀式アルモノハ之ヲ行フコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大喪中ニ於ケル官幣大社朝鮮神宮大祭式

（昭和二年一月二十四日朝鮮總督府令第五號）

大喪中ニ於ケル官幣大社朝鮮神宮大祭式左ノ通定ム

大喪中ニ於ケル官幣大社朝鮮神宮大祭式

第一　祭式

新年祭、新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（主典關フ）

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此ノ間奏樂）

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次主典御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假案上ニ置ク

（案ハ豫メ便宜ノ所ニ置ク）

次宮司御幣物ヲ奉ル

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ傳フ）

次禰宜以下拜禮

次禰宜以下御幣物ヲ撤ス

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本座ニ復ス（此ノ間奏樂）

次各退出

修祓

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス

時刻宮司以下所定ノ座ニ著ク

次禰宜祓詞ヲ讀ム

次主典ノ一人大麻ヲ執リ同一人若ハ出仕鹽湯ヲ執リ御幣物神饌及宮司以下ヲ祓フ

次各退下

第二　祝詞

新年祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白佐久今年乃御年始給布爾依里氐大前爾齋麻波里清麻波里氐獻奉留御食波和稻荒稻爾仕奉里氐御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿並氐大野乃原爾生布留物波甘菜辛菜青海原爾住牟物波鰭乃廣物鰭乃狹物奥都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳爾置足波志氐天皇命乃宇豆乃大幣帛乎今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氐皇神等乃依奉良牟奥都御年乎始米氐草乃片葉爾至留麻傳作里登作留物共乎惡伎風荒伎水爾相波世給波受豐爾牟久佐加爾成幸給比氐天皇乎大朝廷乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久登白須

新嘗祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白佐久今年乃新嘗祭仕奉良志米給布爾依里氐皇神等乃成幸給閉留八束穗乃秋乃初穗乎御食御酒爾仕奉里氐山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物奥都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳置足波志氐天皇命乃宇豆乃大幣帛乎捧奉良久乎聞食志宇豆那比給比氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾惠給比氐五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久登白須

例祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎朝鮮神宮乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白佐久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氐天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮乎靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩頼乎尊美奉里仰奉里氐一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾大前爾齋麻波里清麻波里氐御食御酒種種乃物乎獻置伎氐天皇命乃宇豆乃大幣帛捧奉良久乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久登白須

祓詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓戸大神等今日仕奉留神職等過犯世留罪穢有良牟乎波祓給比清給閉登申須事乎聞食世登恐美恐美毛白須

第三　雜則

一　神饌料ハ豫メ之ヲ神宮ニ交附ス

一　修祓ハ祭祀ノ前之ヲ行フ

一　神饌臺數竝品目左ノ如シ

臺數　十一臺以上

品目　和稻、荒稻、酒、餅、海魚、川魚、野鳥、水鳥、海菜、野菜、菓、鹽、水

一　定額ノ神饌及幣物ノ外其ノ地ノ産物等ヲ神饌ニ副ヘテ奉ルコトヲ得

●官幣大社朝鮮神宮神職齋戒ニ關スル件

（大正十五年一月八日朝鮮總督府令第一號）

官幣大社朝鮮神宮神職齋戒ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　祭祀ニ奉仕シ又ハ參向スル者ハ大祭又ハ中祭ニハ其ノ當日及前日、小祭ニハ其ノ當日齋戒スヘシ

第二條　齋戒中ニ在ル者ハ喪ニ與ル等凡テ汚穢ニ觸ルルコトヲ得ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●神社ノ祭式恆例式及齋戒ニ關スル件

（大正五年六月二十九日朝鮮總督府令第四十九號）

神社ノ祭式恆例式及齋戒ニ關スル件左ノ通定ム

第一章　神社祭式

第一條　大祭式次第左ノ如シ

一　新年祭、新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻神職所定ノ座ニ著ク

次神職御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此間奏樂）

次神職神饌ヲ供ス（此間奏樂）

次神職祝詞ヲ奏ス

次神職一人玉串ヲ奉リテ拜禮（他ノ神職一同拜禮）

次神職神饌ヲ撤ス（此間奏樂）

次神職御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ復ス（此間奏樂）

次各退出

二　本殿遷座祭

當日早旦本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻神職假殿所定ノ座ニ著ク

次神職假殿ノ御扉ヲ開ク（此間奏樂）

次神職祝詞ヲ奏ス

次神職殿内ニ參進シ諸員各其ノ位置ニ列立ス

次遷御（此間奏警蹕）

其ノ儀神職御靈代ヲ奉戴シ（辛櫃羽車神輿ヲ用ウル等各社ノ古例ニ依ルコトヲ得）諸員行障絹垣ヲ奉仕シ前後陣ニ整列ス（神寶ヲ列立スル等各社ノ古儀ヲ行フコトヲ得）

次入御（此間奏樂警蹕）

是ヨリ先キ神職一人本殿ノ御扉ヲ開ク

次神職御靈代ヲ神座ニ奉安ス

次神職御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次神職神饌ヲ供ス（此間奏樂）

次神職祝詞ヲ奏ス

次神職一人玉串ヲ奉リテ拜禮（他ノ神職一同拜禮）

次神職神饌ヲ撤ス（此間奏樂）

次神職御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ著ク（此間奏樂）

次各退出

三　假殿遷座祭

次第本殿遷座祭ニ準ス

第二條　中祭式次第ハ大祭式次第ニ準ス

第三條　小祭式次第左ノ如シ

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻神職所定ノ座ニ著ク

次神職神饌ヲ供ス

次神職祝詞ヲ奏ス

次神職一人玉串ヲ奉リテ拜禮（他ノ神職一同拜禮）

次神職神饌ヲ撤ス

次各退出

第四條　修祓次第左ノ如シ

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス

時刻神職所定ノ座ニ著ク

次神職祓詞ヲ讀ム

次神職大麻ヲ執リ同人又ハ他ノ神職若ハ雇員鹽湯ヲ執リ神饌及神職ヲ祓フ

修祓ハ祭祀ノ前之ヲ行フ

第五條　祝詞左ノ如シ

新年祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久今年乃御年始給布爾依里氐大前爾齋麻波里清麻波里氐獻奉留御食波和稻荒稻爾仕奉里氐御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿並氐大野乃原爾生布留物波甘菜辛菜青海原爾住牟物波鰭乃廣物鰭乃狹物奥都藻菜

邊都藻菜爾至留麻傳爾置足波志氐今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氐天乃下乃國民爾手肱爾水泡搔垂里向股爾泥搔寄世氐取作良牟奧都御年乎始米氐草乃片葉爾至留麻傳作里登作留物共乎惡伎風荒伎水爾相波世給波受豐爾牟久佐加爾成幸給比氐新嘗乃御祭嚴志久美志久仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

新嘗祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久天都御食乃長御食乃遠御食登天皇命乃新嘗聞食須爾依里氐皇神等乃成幸給閉留八束穗乃秋乃初穗乎御食御酒爾仕奉里氐山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳爾置足波志氐獻奉良久乎聞食志氐宇豆那比給比氐天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳爾撫給比惠給比氐五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

例祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氐天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮爾靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩頼乎尊美奉里仰奉里氐一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾齋麻波里清麻波里氐獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御代乎堅磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須

辭別伎氐白左久此久仕奉留爾依里氐御氏子乃人等又此乃某道府縣（郡市區町村）乃人等乎廣久厚久守給比惠給比氐心乎穩爾身乎健爾家內安久產業豐介久各母各母彌健爾健志氐生乃子乃八十續爾至留麻傳彌榮衣爾榮衣志米給閉登恐美恐美母白須

假殿遷座本殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃常宮登鎭坐世留此乃御殿乃年經氐破損志多留賀故爾今度改造里（修里）仕奉良牟登須留是乎以知氐今日乃生日乃足日爾假宮爾遷奉里坐奉留事乎平介久安介久聞食世登恐美恐美母白須

假殿遷座假殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久今日乃吉日乃吉辰爾此乃假宮爾遷奉里坐奉里奴是乎以知氐大前爾御食御酒種種乃物乎置足波志氐獻奉留狀乎平介久安介久聞食志氐暫乃間平穩爾鎭坐世登恐美恐美母白須

本殿遷座假殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃敷坐須瑞乃御殿乎改造里（修里）仕奉良牟登往志某年某月某日爾此乃假宮爾遷奉里坐奉里志乎此乃某年某月某日爾至里氐新宮殿志久麗志久築造里（御座本乃如修里）仕奉里畢閉奴禮婆是乎以知氐今日乃生日乃足日爾還志鎭米坐奉留事乎聞食志氐安介久靜介久遷坐世登恐美恐美母白須

本殿遷座本殿祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久大神乃天乃御蔭日乃御蔭登隱坐左牟瑞乃御殿清久美志久改造里（修里）仕奉里畢閉奴禮婆依里氐今日乃吉日乃吉辰爾還志鎭米坐奉里是乎以知氐禮代乃御食御酒種種乃物乎置足波志氐獻奉留狀乎平介久安介久聞食志氐今與里往先大御心平穩爾此乃大宮乎靜宮乃安宮登長久爾鎭坐世登恐美恐美母白須

歲旦祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久新伎年乃新伎月乃新伎日乃今日乃朝日乃豐榮登爾御賀乃壽詞仕奉良久登豐御食豐御酒種種乃物乎獻奉留狀乎平介久安介久聞食志氐此乃年乎良伎年乃美志年登守給比幸給比氐天皇命乃大朝廷乎堅磐爾常磐爾齋奉里給比天乃下平介久穀物豐介久產業乎彌獎米爾獎米國民乎彌榮衣爾榮衣志米給比氐大御稜威乎差昇留年乃初日乃光登共爾彌益益爾輝加志米給閉登恐美恐美母御賀乃壽詞仕奉良久登白須

元始祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久遠皇祖乃大御代與里天皇命乃御代御代受傳坐志氐知食來留天都日嗣高御座乃大元始乎歲乃首爾言壽奉留今日乃御祭仕奉留狀乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃知食須天都日嗣乃大

御陰天地乃共無窮爾動久事無久變留事無久齋奉里幸奉里給比天乃下平介久國內安介久皇大朝廷乃大御稜威乎天輝志國輝爾輝加志米給比皇大御國乃大御榮乎天足志國足志米給閉登禮代乃御食御酒種種乃物乎捧奉里氐恐美恐美母言壽奉良久登白須

紀元節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氐豐葦原水穗國乎萬千秋乃長秋爾平介久知食世登事依奉志隨爾神日本磐余彥天皇乃高伎嚴志伎大御德以知氐食國天乃下乎平介給比調給比氐大和國乃畝傍橿原乃底都岩根爾大宮柱太敷立氐高天原爾千木高知里氐天都日嗣乃高御座爾坐志氐擧國知食志志與里皇御孫命乃御代御代彌繼繼爾永繼伎傳來坐志氐彌廣爾彌遠爾立榮衣行久大元乎恐美奉里辱美奉里氐今日乃生日乃足日爾御食御酒種種乃物乎大前爾捧奉里氐今日乃言壽乃賀詞乎神壽伎壽奉良久波皇大御神乃定給比掟給閉留事乃隨爾天都日嗣乃大御位波天地登共爾久志久日月登共爾遠久彌益益爾御榮坐左牟皇大朝廷乃大御稜威波天乃壁立極國乃退立限彌次次爾廣里行加牟登神壽伎壽奉良久乎甘良爾聞食世登恐美恐美母白須

天長節祭祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美母白左久八十日日波有禮杼今日乃生日乃足日波志毛明御神登天乃下知食須天皇命乃生出坐志志貴伎愛多伎美志日登天皇命乃大朝廷乎始米氐天乃下四方乃國波青雲乃靄久極白雲乃向伏須限落留事無久漏留事無久言壽伎仕奉留此乃大前爾御食御酒種種乃物乎捧奉里氐稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御壽乎手長乃大御壽登由都磐村乃如久常磐爾堅磐爾齋奉里嚴御代爾幸奉里給比大御稜威乎彌高爾彌廣爾輝加志米給比大御惠乎彌遠爾彌長爾仰賀志米給閉登恐美恐美母言壽奉良久登白須

祓詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戶乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓戶大神等今日仕奉留神職等我過犯世留罪穢有良牟乎婆祓給比清給閉登申須事乎聞食世登恐美恐美母白須

第六條　大祭ノ神饌ハ九臺以上トシ其ノ品目ハ和稻、荒稻、酒、餅、海魚、川魚、野鳥、水鳥、海菜、野菜、菓、鹽及水トス但シ野鳥又ハ水鳥ノ中一種ヲ省略スルコトヲ得

第七條　中祭ノ神饌ハ七臺以上トシ其ノ品目ハ和稻、荒稻、酒、餅、魚、鳥、海菜、野菜、菓、鹽及水トス但シ鳥ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第八條　小祭ノ神饌ハ五臺以上トシ其ノ品目ハ和稻、荒稻、酒、魚、海菜、野菜、菓、鹽及水トス

第九條　前三條ノ定額ノ神饌ノ外其ノ地ノ產物等ヲ添ヘテ奉ルコトヲ得

第十條　例祭ニ際シ古例ノ神事アルモノハ之ヲ行フコトヲ得

神社ニ特別ノ由緒アル祭祀ハ之ヲ行フコトヲ得

第二章　神社恆例式

第十一條　神社ニ於テ恆例トシテ左ノ式ヲ行フ

春季皇靈祭遙拜
神武天皇祭遙拜
明治天皇祭遙拜
秋季皇靈祭遙拜
神嘗祭遙拜
大祓

第十二條　遙拜次第左ノ如シ

當日早旦社頭便宜ノ所ニ式場ヲ辨備ス

新薦ヲ舖キ案ヲ立ツ

時刻神職所定ノ座ニ著ク

次神職遙拜詞ヲ奏ス

次神職一人玉串ヲ奉リテ拜禮（他ノ神職一同拜禮）

次各退下

第十三條　遙拜詞左ノ如シ

春秋季皇靈祭遙拜詞

掛麻久母畏伎皇靈殿乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

神武天皇祭遙拜詞

掛麻久母畏伎畝傍山東北陵乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

明治天皇祭遙拜詞

掛麻久母畏伎伏見桃山陵乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

神嘗祭遙拜詞

掛麻久母畏伎伊勢乃神宮乃大前乎遙爾拜美奉良久登白須

第十四條　大祓次第左ノ如シ

當日社頭ノ庭上ニ祓所ヲ辨備ス

正面ニ新薦ヲ舖キ案ヲ立テ祓物ヲ置キ其ノ前ニ祓詞ノ座ヲ設ケ便宜ノ所ニ地方官及神職ノ座ヲ設ク

雨儀等ニ在リテハ便宜ノ所ニ於テ之ヲ行フ

時刻神職所定ノ座ニ著ク

次地方官所定ノ座ニ著ク

次神職切麻ヲ頒ツ

次神職祓ヲ仰ス

次神職祓詞ヲ宣ル

次諸員切麻ヲ執リテ祓フ

次神職大麻ヲ行フ

次神職切麻ヲ撤ス

次神職祓物ヲ執リテ河海ニ向フ

次各退下

第十五條　祓物ハ木綿一兩（常ノ木綿五尺ヲ以テ代フルコトヲ得）及布五尺（麻布トシ形代及解繩ヲ用ウル例アル神社ハ之ヲ添フルコトヲ得）

第十六條　大祓詞左ノ如シ

集侍（留）人等諸聞食（止宣）

高天原（爾）神留坐（須）皇（我）親神漏岐神漏美命以（知氐）八百萬神等（乎）神集（閉爾）集賜（比）神議（里爾）議賜（比氐）我（我）皇御孫命（波）豐葦原水穗國（乎）安國（登）平（介久）知食（左登）事依奉（里志）此久依奉（志）國中（爾）荒振神等（乎波）神問（波志爾）問賜（比）神掃（比爾）掃賜（比氐）語問（比志）磐根樹根立草乃片葉（乎毛）語止（米氐）天乃磐座放（知）天乃八重雲（乎）伊頭乃千別（爾）千別（氐）天降（志）依（左志）奉（里支）此久依奉（志）四方乃國中（登）大倭日高見國（乎）安國（登）定奉（里氐）下（都）磐根（爾）宮柱太敷立（氐）高天原（爾）千木高知（里氐）皇御孫命乃瑞乃御殿仕奉（里氐）天乃御蔭日乃御蔭（登）隱坐（志氐）安國（登）平（介久）知食（左牟）國中（爾）成出（傳牟）天乃益人等（我）過犯（志家牟）種種乃罪事（波）天（都）罪國（都）罪許許太久乃罪出（傳牟）此久出（傳波）天（都）宮事以（知氐）天（都）金木（乎）本打切（里）末打斷（知氐）千座乃置座（爾）置足（波志氐）天（都）菅麻（乎）本刈斷末刈切（里氐）八針（爾）取辟（岐氐）天（都）祝詞乃太祝詞事（乎）宣（禮）此久宣（良婆）天（都）神（波）天乃磐門（乎）押披（岐氐）天乃八重雲（乎）伊頭乃千別（爾）千別（氐）聞食（左牟）國（都）神（波）高山乃末短山乃末（爾）上坐（志氐）高山乃伊褒理短山乃伊褒理（乎）撥別（氐）聞食（左牟）此久聞食（志氐波）罪（登）云（布）罪（波）在（良自登）科戸乃風乃天乃八重雲（乎）吹放（都）事乃如久朝乃御霧夕乃御霧（乎）朝風夕風乃吹拂（布）事乃如久大津邊（爾）居（留）大船（乎）舳解放（知）艫解放（知氐）大海原（爾）押放（都）事乃如久彼方乃繁木（我）本（乎）燒鎌乃敏鎌以（知氐）打掃（布）事乃如久遺（留）罪（波）在（良自登）祓給（比）清給（布）事（乎）高山乃末短山乃末（與里）佐久那太理（爾）落多岐（都）速川乃瀨（爾）坐（須）瀨織津比賣（登）云（布）神大海原（爾）持出（傳奈牟）此久持出往（奈婆）荒潮乃潮乃八百道乃八潮道乃潮乃八百會（爾）坐（須）速開都比賣（登）云（布）神持加加呑（美氐牟）此久加加呑（美氐婆）氣吹戸（爾）坐（須）氣吹戸主（登）云（布）神根國底國（爾）氣吹放（知氐牟）此久氣吹放（知氐婆）根國底國（爾）坐（須）速佐須良比賣（登）云（布）神持佐須良比失（比氐牟）此久佐須良比失（比氐婆）今日（與里）始（米氐）罪（登）云（布）罪（波）在（良自登）今日乃夕日乃降乃大祓（爾）祓給（比）清給（布）事（乎）諸聞食（止宣）

神職等大川道（爾）持退出（傳氐）祓却（止宣）

第三章　齋戒

第十七條　祭祀ニ奉仕シ又ハ參向スル者ハ大祭中祭ニハ其ノ當日及前日小祭ニハ其ノ當日齋戒スヘシ

第十八條　齋戒中ニ在ル者ハ喪ニ與リ其ノ他汚穢ニ觸ルルコトヲ得ス

●大喪中ニ於ケル神社ノ祭式、恒例式及齋戒ニ關スル件

（昭和二年一月二十四日朝鮮總督府令第六號）

大喪中ニ於ケル神社ノ祭式、恒例式及齋戒ニ關スル件左ノ通定ム

大喪中ニ於ケル神社ノ祭式、恒例式及齋戒ニ關スル件

第一祭式

新年祭、新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻神職所定ノ座ニ著ク

次神職御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此ノ間奏樂）

次神職神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次神職祝詞ヲ奏ス

次神職一人玉串ヲ奉リテ拜禮（他ノ神職一同拜禮）

次神職神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次神職御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ座ニ復ス（此ノ間奏樂）

次各退出

第二祝詞

新年祭社司（社掌）祝詞

掛（麻久母）畏（伎）某神社乃大前（爾）社司（社掌）位勳功爵氏名恐（美）恐（美母）白（佐久）今年乃御年始給（布）（爾）依（里氐）大前（爾）齋（麻波里）清（麻波里氐）獻奉（留）御食（波）和稻荒稻（爾）仕奉（里氐）御酒（波）甕乃上高知（里）甕乃腹滿（志）竝（氐）大野乃原（爾）生（布）物（波）甘菜辛菜青海原（爾）住（牟）物（波）鰭乃廣物鰭乃狹物奧（都）藻菜邊（都）藻菜（爾）至（留麻傳）置足（波志氐）今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登（爾）稱辭意奉（良久乎）平（介久）安（介久）聞食（志氐）皇神等乃依奉（良牟）奧（都）御年（乎）始（米氐）草乃片葉（爾）至（留麻傳）作（里）作（留）物（乎）惡（伎）風荒（伎）水（爾）相（波志米）給（波受）豐（爾）牟久佐加（爾）成幸（閇）給（比氐）天皇（我）大朝廷（乎）始（米氐）天乃下乃國民（爾）至（留麻傳）彌遠（爾）彌廣（爾）五十橿八桑枝乃如久立榮（衣志米）給（閇登）恐（美）恐（美母）稱辭竟奉（良久登）白（須）

新嘗祭社司（社掌）祝詞

掛（麻久母）畏（伎）某神社乃大前（爾）社司（社掌）位勳功爵氏名恐（美）恐（美母）白（佐久）今年乃新嘗祭仕奉（良志米）給（布）（爾）依（里氐）皇神等乃成幸（閇）給（留）八束穗乃秋乃初穗（乎）御食御酒（爾）仕奉（里）山野乃物（波）甘菜辛菜海川乃物（波）鰭乃廣物鰭乃狹物奧（都）藻菜邊（都）藻菜（爾）至（留麻傳）置足（波志氐）獻奉（良久乎）平（介久）聞食（志氐）天皇命乃大御代（乎）嚴御代乃足御代（登）萬千秋乃長五百秋（爾）平（介久）安（介久）齋奉（里）幸奉（里）給（比）親王等諸王等（乎）始（米氐）天乃下乃國民（爾）至（留麻傳）推給（比）惠給（比氐）五十橿八桑枝乃如久立榮（衣志米）仕奉（良志米）給（閇登）恐（美）恐（美母）稱辭意奉（良久登）白（須）

例祭社司（社掌）祝詞

掛（麻久母）畏（伎）某神社乃大前（爾）社司（社掌）位勳功爵氏名恐（美）恐（美母）白（佐久）高天原（爾）神留坐（須）神漏岐神漏美命以（知氐）天社國社（登）稱辭意奉（留）中（爾）此乃大宮（乎）常宮（登）鎭坐（須）大神乃廣（伎）厚（伎）恩賴（乎）尊（美）奉（里）仰奉（里氐）一年（爾）一回仕奉（留）常乃例乃今日乃御

祭（乃）大前（爾）齋（麻波里）清（麻波里氐）御食御酒種種乃物（乎）獻奉（良久乎）平（介久）安（介久）聞食（志氐）天皇命乃大御代（乎）嚴御代乃足御代（登）堅磐（爾）常磐（爾）齋奉（里）幸奉（里）給（比）親王等諸王等（乎）始（米氐）天乃下乃國民（爾）至（留麻傳）長久平（介久）守給（比）惠給（閇登）恐（美）恐（美母）稱辭意奉（良久登）白（須）

辭別（氐）白（佐久）此久仕奉（留爾）依（里氐）御氏子乃人等又此乃某道（府郡町洞）乃人等（乎）廣（久）厚（久）守給（比）惠給（比氐）心（乎）穩（爾）身（乎）健（爾）家內安（久）產業（乎）豐（介久）各（毛）各（毛）彌（爾）饒（爾）生乃子乃八十續（爾）至（留麻傳）彌榮（衣志米）榮（衣志米）給（閇登）恐（美）恐（美母）白（須）

祓詞

掛（麻久母）畏（伎）伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原（爾）御禊祓給（比志）時（爾）生坐（世留）祓戸大神等今日仕奉（留）神職等（我）過犯（世留）罪穢有（良牟乎波）祓給（比）清給（閇登）申（須）事（乎）聞食（世登）恐（美）恐（美母）白（須）

第三　恒例式

大祓次第

當日社頭ノ庭上ニ祓所ヲ辨備ス

正面ニ新薦ヲ鋪キ案ヲ立テ祓物ヲ置キ其ノ前ニ祓詞ノ座ヲ設ケ便宜ノ所ニ神職ノ座ヲ設ク

雨儀等ニ在リテハ便宜ノ所ニ於テ之ヲ行フ

時刻神職所定ノ座ニ著ク

次神職切麻ヲ頒ツ

次神職祓ヲ仰ス

次神職祓詞ヲ宣ル

次諸員切麻ヲ執リテ祓フ

次神職大麻ヲ行フ

次神職切麻ヲ撤ス

次神職祓物ヲ執リテ河海ニ向フ

次各退下

祓物

木綿　一兩　常ノ木綿五尺ヲ以テ代フルコトヲ得

布　五尺　麻布

形式及解繩ヲ用フル例アル神社ハ之ヲ添フルコトヲ得

大祓詞

大正五年六月朝鮮總督府令第四十九號神社ノ祭式恒例式及齋戒ニ關スル件ニ定ムル大祓詞ニ依ル

前各項ニ定ムルモノノ外大正五年六月朝鮮總督府令第四十九號神社ノ祭式恒例式及齋戒ニ關スル件ノ定ムル所ニ依ル

●神社奉仕ノ行事及作法

（大正五年六月二十九日朝鮮總督府告示第百五十七號）

神社奉仕ノ行事及作法左ノ通定ム

第一章　行事

一　開扉及閉扉

開扉　先ツ所役御鑰ヲ捧持シテ齋主ノ座側ニ就キ之ヲ進メテ復座、齋主之ヲ受ケテ昇殿（警蹕所役隨行シ階下ニ候ス）進ミテ御錠ヲ解キ御鑰ヲ案上（案ハ豫メ御扉ノ側便宜ノ所ニ設ク）ニ置キ再ヒ進ミテ御錠ヲ除キ同案上ニ置キ更ニ進ミテ御扉ヲ開ク（此間奏樂警蹕一同平伏）次ニ神前ニテ再拜拍手ニ畢リテ側ニ候ス

閉扉　先ツ齋主神前ニ進ミ（警蹕所役進ミテ階下ニ候ス）再拜拍手ニ次ニ御扉ヲ閉チ（此間奏樂警蹕一同平伏）御錠ヲ鎖シ御鑰ヲ捧持シテ下殿復座（警蹕所役ハ齋主ニ先チテ復座）次ニ御鑰ノ所役齋主ノ座側ニ就キ御鑰ヲ受ケテ復座

二人（齋主副齋主）奉仕ノ場合左ノ如シ

開扉　齋主御鑰ヲ捧持シテ起座スル時副齋主モ共ニ起座シ齋主ハ神前ノ左側ヨリ副齋主ハ右側ヨリ並ヒ進ミ先ツ齋主進ミテ御錠ヲ解キ御鑰ヲ案上ニ置キ次ニ二人左右ニ進ミテ御錠ヲ除キ各之ヲ案上ニ置キ更ニ進ミテ御扉ヲ開ク次ニ齋主ハ神前ニテ再拜拍手ニ畢リテ側ニ候シ副齋主ハ拜殿（又ハ幣殿）ニ著ク

閉扉　齋主ハ神前ニ進ミ副齋主ハ左右ニ並ヒ進ミテ再拜拍手ニ次ニ二人共ニ御扉ヲ閉チ御錠ヲ鎖シ齋主ハ御鑰ヲ捧持シ齋主副齋主共ニ下殿復座ス其ノ他ハ總テ一人開閉扉ノ時ノ例ニ準ス

二　神饌獻撤

獻饌　先ツ後取薦ヲ鋪キ案ヲ設ケテ復座

次ニ陪膳進ミテ案前ニ候シ手長順次進ミテ正中ノ左右ニ斜ニ相對シテ分候ス次ニ膳部（所役ハ豫メ神饌所ニ候ス）神饌ヲ手長ニ傳ヘ手長次第ニ之ヲ陪膳ニ傳フ陪膳之ヲ案上ニ奠ス（此間奏樂）畢リテ末席ヨリ順次復座

撤饌　先ツ陪膳進ミテ案前ニ候シ手長順次進ミテ正中ノ左右ニ斜ニ相對シテ分候ス次ニ膳部進ミ陪膳神饌ヲ撤シ手長ニ傳ヘ手長次第ニ膳部ニ傳フ（此間奏樂）畢リテ末席ヨリ順次復座

祭場ノ都合ニ依リ手長ヲ一方ニ並列シテ獻撤シ又ハ各自ニ捧持シテ獻撤スルコトアルヘシ

三　祝詞奏上

齋主祝詞奏上　先ツ後取軾ヲ所定ノ座ニ鋪キテ復座次ニ所役祝詞ヲ捧持シ齋主ノ座側ニ就キ之ヲ進メテ復座次ニ齋主之ヲ受ケ笏ト共ニ持チテ起座シ軾ニ著キ再拜拍手ニ畢リテ祝詞ヲ取リ出シ左側ニ徐ニ開キ一拜シ奏上シ畢リテ一拜シ又卷キ納メ懷中シテ拍手シ又再拜シテ復座次ニ所役齋主ノ座側ニ就キ祝詞ヲ受ケテ復座次ニ後取軾ヲ撤ス

四　玉串奉奠

齋主玉串奉奠　先ツ後取薦ヲ鋪キ玉串案ヲ設ケ軾ヲ鋪キテ復座次ニ所役玉串ヲ執リ齋主ノ座側ニ就キ之ヲ進メテ復座次ニ齋主之ヲ受ケテ起座シ軾ニ著キ玉串ヲ案上ニ奠シ再拜拍手ニ畢リテ復座

諸員拜禮畢リタル時ハ後取玉串案及薦ヲ撤ス

五　修祓

先ツ所役案前ニ進ミ祓詞ヲ奏シ畢リテ大麻所役大麻ヲ執リテ祓ヲ行フ（此ノ間參列者ハ頭ヲ下ケテ之ヲ受ク）

六　大祓切麻

先ツ所役案前ニ進ミテ切麻ノ三方ヲ捧持シテ參列者ノ前ニ据ウ次ニ參列者各自ニ切麻ヲ執リテ祓フ畢リテ所役三方ヲ案上ニ置キテ復座

第二章　作法

一　座法

上

兩足ノ指ヲ重ネ少シク膝ヲ開キ左右ノ手先ヲ腰前ニ控ヘ體ヲ垂直ニシテ正面スルナリ

二　立法

兩足ノ踵ヲ接シ少シク爪先ヲ開キ左右ノ手先ヲ下腹ノ邊ニ控ヘ體ヲ垂直ニシテ正面スルナリ

三　座揖

座シタルママ正笏シテ笏ノ下方ヲ腹部ニ引クト共ニ腰ヲ折ルナリ

四　立揖

立チタルママ正笏シテ笏ノ下方ヲ腹部ニ引クト共ニ腰ヲ折ルナリ

揖ニ深揖小揖ノ別アリ、腰ヲ折ルコトノ淺深ニ依ル

揖ハ起座、列ノ離就、階段ノ昇降、殿舍及神門ノ出入、物品ノ授受、尊前ノ進退、行事ノ前後等ニ在テハ之ヲ行フ

神饌獻撤、祝詞奏上ノ前後及御鑰ヲ捧持セルトキ等ニ在テハ正笏セサルコトアリ

へシ

五　起拜

右膝ヨリ立チ左足ヲ進メ兩足ヲ踏ミ整ヘテ體ニ正シ正笏シテ笏頭ヲ目通ニ上ケ左膝ヲ伏セ尋キテ右膝ヲ伏セテ俛伏スルヲイフ

六　居拜

座シタルママ正笏シテ笏頭ヲ目通ニ上ケ正座シテ俛伏スルヲイフ

七　立拜

立チタルママ兩足ヲ踏ミ整ヘ體ヲ正シテ正笏シ笏頭ヲ目通ニ上ケ腰ヲ屈折スルヲイフ

八　拍手

兩手ヲ合セ靜ニ左右ニ開キテ拍チ合スルヲイフ

座セルトキハ置笏シ立テルトキハ懷笏シテ行フモノトス

九　起座

先ツ兩足ヲ爪立テ次ニ右膝ヲ起シテ立チナカラ左足ヲ進メテ右足ニ踏ミ整ヘ或ハ右足ヲ引キテ左足ニ踏ミ整フルヲイフ

進ム起座ハ左足ヲ進ムル方ニ依リ退ク起座ハ右足ヲ引ク方ニ依ルモノトス

席ニ上下ノ別アルトキハ下座ノ膝ヨリ起スモノトス

十　著座

先ツ左膝ヲ突キ次ニ右膝ヲ突キ整ヘテ座スルヲイフ

進ム著座ハ左膝ヲ前方ニ突キテ右膝ヲ突キ整ヘ退ク著座ハ左足ヲ引キテ膝ヲ突キ右膝ヲ突キ整フルモノトス

座前ヨリ著座スルトキハ先ツ左膝ヲ突キ同轉シテ座スルモノトス

座後ヨリ著座スルトキハ先ツ左膝ヲ突キ膝行シテ座スルモノトス

席ニ上下ノ別アルトキハ總テ上座ノ膝ヨリ突クモノトス

十一　進退

進ムトキハ左足ヨリシ退クトキハ右足ヨリス

席ニ上下ノ別アルトキハ進ムトキハ下座ノ足ヨリシ退クトキハ上座ノ足ヨリス

十二　膝行

膝ニテ進ムヲイフ先ツ跪キテ左膝ヲ進メ次ニ右膝ヲ進メ又左膝ヲ進メテ右膝ヲ突キ整フルモノトス

席ニ上下ノ別アルトキハ下座ノ膝ヨリス

十三　膝退

膝行ノ反對ニシテ右左右ト退クヲイフ

席ニ上下ノ別アルトキハ上座ノ膝ヨリス

膝行膝退ハ尊前ノ進退、神饌獻撤ノトキ等ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三歩トス

十四　平伏

正笏シテ背ヲ平ニ俛伏スルヲイフ開閉扉、祝詞奏上、渡御、受祓等ノトキニ行フ所作ナリ

十五　跪居

兩膝ヲ突キ爪先ヲ立テ踵ノ上ニ臀ヲ置クヲイフ殿上ニテ應對、授受及薦、案、軾等ヲ舖設スルトキニ行フ所作ナリ

十六　蹲踞

兩膝ヲ折リ蹲マルヲイフ神前ニ近キ所ヲ横キルトキ又庭上ニテ殿上ノ跪居ト同シキトキ等ニ行フ所作ナリ

十七　起立

兩足ヲ踏ミ整ヘテ立ツヲイフ立禮ニテ應對、授受等ノトキニ行フ所作ナリ

十八　磬折

立チタルママ正笏シテ腰ヲ折ルヲイフ座禮ノ平伏ト同シキトキニ行フ所作ナリ

十九　屈行

腰ヲ折リテ歩行スルヲイフ立禮ニテ神前ヲ横キルトキ等ニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三歩トス

二十　逆行

右足ヨリ右左右ト後歩スルヲイフ尊前ヲ退クトキニ行フ所作ナリ其ノ程度凡ソ三歩トス

席ニ上下ノ別アルトキハ上座ノ足ヨリス

二十一　持笏

右手ニテ笏ノ下方ヲ拇指ト小指トヲ內ニシテ右方ニ持ツヲイフ

二十二　置笏

笏ヲ右手ヨリ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏頭ヲ把リ右膝ノ傍ニ置クヲイフ

二十三　把笏

右手ニテ笏頭ヲ把リ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏ノ下方ヲ把リ右方ニ把持スルヲイフ

二十四　懷笏

笏ヲ右手ヨリ左手ニ移シ更ニ右手ニテ笏頭ヲ把リ懷中スルヲイフ行事ノトキ及立禮ニテ拍手スルトキ等ニ行フ所作ナリ

二十五　正笏

左右ノ手ニテ笏ノ下方ヲ把リ腹部ノ正面ニテ正シク持チ身體ヲ整フルヲイフ拜、揖等ノトキニ行フ所作ナリ

二十六　警蹕

をトイフ音ヲ長ク引キテ唱フルヲイフ開閉扉及渡御等ノトキニ行フ所作ナリ

下

一　階ノ昇降

神前ノ左方ヨリ昇ルモノハ右足ヨリシ右方ヨリ昇ルモノハ左足ヨリス

神前ノ左方ヨリ降ルモノハ左足ヨリシ右方ヨリ降ルモノハ右足ヨリス

昇降ハ一階每ニ足ヲ聚ムヘシ

二　御扉ノ開閉

開扉ハ左手ニテ雌扉ノ端ノ上部ヲ持チ右手ニテ其ノ下部ヲ持チテ開キ雄扉ノ方ニ移リ右手ヲ上ニシ左手ヲ下ニシテ開ク

閉扉ハ雌扉ニハ左手ヲ上ニシ雄扉ニハ右手ヲ上ニス

三　祝詞ノ展卷

祝詞ヲ展フルニハ左手ニ卷ヲ持チ右手ニ折端ヲ持チ左側ニテ展フ之ヲ卷クモ亦左側ニ於テス

四　御鑰、祝詞、玉串、大麻等ノ持方

御鑰、祝詞、玉串、大麻等ハ左手ニテ上部ヲ右手ニテ下部ヲ執リ左高ニ捧持シ（祝詞ハ折端ヲ內ニシ開クカ）如ク授クルトキハ總テ反對ニ持チ換フヘシ

玉串ヲ奉奠スルニハ左手ヲ右手ノ元ニ下シ本ヲ神前ニ向ケ其ノ中程ヲ裏ヨリ右手ニテ持チ左手ヲ添ヘテ案上ニ置クヘシ

御鑰等ノ授受ハ上位ノ人ニハ下位ノ人ノ持テル所ヨリ左右各其ノ上邊ヲ下位ノ人ニハ上位ノ人ノ持テル所ヨリ左右各其ノ下邊ヲ執ラシムヘシ

授受ニハ總テ懷笏スヘシ但シ齋主、祝詞ヲ受クルトキハ之ヲ笏ニ受ケ授クルトキハ笏ニ添ヘテ授クヘシ

五　三方、案、薦、軾等ノ持方

三方ハ拇指ヲ左右ノ縁ニ他ノ指ヲ縁ト胴トニ掛ケテ持ツヘシ（隅角ヲ差クヘシ）

折敷高坏ハ右手ニテ高坏ヲ持チ左手ヲ折敷ニ添ヘテ持ツヘシ塗高坏モ亦之ニ準ス

案ハ左手ニテ裏ヲ支ヘ右手ヲ右方ノ脚ノ附根ニ掛ケテ持ツヘシ但シ案小ナルトキハ兩手ヲ左右ノ脚ノ附根ニ掛ケテ持ツヘシ

薦、軾等ハ右手ニテ端ヲ執リ左手ニテ中程ヲ支ヘ左ヲ少シク高ク上ケテ斜メニ持ツヘシ但シ薦ハ右前ニ卷キ軾ハ右前三折ニ疊ム又之ヲ舒フルトキ右端ヲ取ルニハ左手ヲ中程ニ右手ヲ下部ニ左端ヲ取ルニハ右手ヲ中程ニ左手ヲ下部ニ配スヘシ收ムルトキハ之ニ反ス

三方、高坏、案等ハ目通ニ捧持スヘシ薦、軾等ハ之ニ及ハス

六　大麻、切麻ノ祓方

大麻ニテ祓フトキハ祓ヲ受クヘキ者ノ前ニ進ミ之ヲ持チ換ヘテ（右手上左手下）正面ニ捧ケ左右左ト振リ畢リテ又之ヲ持チ換フヘシ

切麻ハ左手ニ三方ノ左方ニ掛ケ右手ニテ切麻ヲ執リ左右左ト祓フヘシ

七　折敷、三方等ノ据方

折敷又ハ三方等ハ縁ノ綴目ナキ方ヲ神前ニ向ク

神饌ヲ案上ニ奉奠スルトキ調理セサル魚鳥等首尾アルモノヲ正中若ハ右方ニ供スルニハ左頭トシ左方ニ供スルニハ右頭トス

第三章　雜載

一　祭場ノ座位

正中ヲ上位トシ左ヲ次トシ右ヲ其ノ次トス

神前ニ近キヲ上位トシ遠キヲ下位トス

二　神饌獻撤ノ順序

獻饌ノ順序ハ一（和稻荒稻）、二酒、三餅、四海魚、五川魚、六野鳥、七水鳥、八海菜、九野菜、十菓、十一（鹽水）トシ撤饌ノトキハ最終ノ供饌ヨリス

神饌ノ臺數奇數ナルトキハ先ツ正中次ニ左方次ニ右方トシ偶數ナルトキハ先ツ左方次ニ右方ノ順序ヲ以テ奉奠ス

●官幣社及縣社以下神社祭式ニ關スル件

（大正十四年十一月十八日臺灣總督府令第七十號）

官幣社及縣社以下神社祭式ニ關シテハ左ニ定ムルモノヲ除クノ外大正三年內務省令第四號ヲ準用ス

官幣社祭式

一　大祭式

新年祭、新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

午前八時幣帛供進使、隨員、宮司以下神職、總督、參列員參進其ノ列左ノ如シ（是ヨリ先幣帛供進使隨員手水ノ儀アリ）

先導（神職）　御幣物辛櫃　隨員　幣帛供進使

隨員　宮司以下神職　總督　參列員

次幣帛供進使祓所ニ著ク

次修祓（先御幣物次幣帛供進使、隨員次總督次參列員）

次幣帛供進使、隨員、宮司以下神職、總督、參列員所定ノ席ニ著ク

次御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（幣帛供進使隨員認フ）

次宮司諸事辨備セル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此ノ間奏樂）

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司御幣物ヲ奉ル

次幣帛供進使隨員御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ便宜ノ所ニ置ク）

次幣帛供進使祝詞ヲ奏ス

次幣帛供進使玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ隨員之ヲ附ス）

隨員列拜

次總督玉串ヲ奉リテ拜禮

次參列員玉串ヲ奉リテ拜禮

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）禰宜以下列拜

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次禰宜以下御幣物ヲ撤ス

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ席ニ復ス（此ノ間奏樂）

次宮司祭儀畢レル由ヲ幣帛供進使ニ申ス

次各退出

二　中祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

午前八時（歲旦祭ハ午前五時）宮司以下神職、參列員所定ノ席ニ著ク

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此ノ間奏樂）

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次參列員玉串ヲ奉リテ拜禮

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）禰宜以下列拜

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本席ニ復ス（此ノ間奏樂）

次各退出

三　小祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

午前八時（除夜祭ハ午後五時）宮司以下所定ノ席ニ著ク

次禰宜以下神饌ヲ供ス

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）禰宜以下列拜

次禰宜以下神饌ヲ撤ス

次各退出

四　修祓

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス

午前七時（歲旦祭ハ午前四時、除夜祭ハ午後四時）宮司以下所定ノ席ニ著ク

次禰宜若ハ主典祓詞ヲ白ス

次主典一人大麻ヲ執リ同一人若ハ出仕鹽湯ヲ執リ神饌及宮司以下ヲ祓フ

次各退下

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

●大喪中ニ於ケル官幣社及縣社以下神社大祭式並中祭式

（昭和二年一月二十六日臺灣總督府令第四號）

大喪中ニ於ケル官幣社及縣社以下神社大祭式並中祭式左ノ通相定ム

大喪中ニ於ケル官幣社及縣社以下神社大祭式並中祭式

第一　官幣社祭式

一　大祭式

新年祭、新嘗祭及例祭

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ席ニ著ク

次宮司御幣物辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（主典認フ）

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此ノ間奏樂）

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次主典御幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ便宜ノ所ニ置ク）

次宮司御幣物ヲ奉ル

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮（玉串ハ主典之ヲ附ス）

次禰宜以下拜禮

次禰宜以下御幣物ヲ撤ス

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本席ニ復ス（此ノ間奏樂）

次各退出

本殿遷座祭

當日早旦本殿假殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下假殿所定ノ席ニ著ク

次宮司假殿ノ御扉ヲ開ク（此ノ間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司殿內ニ參進シ諸員其ノ位置ニ列立ス

次遷御（此ノ間警蹕奏樂）其ノ儀禰宜若クハ主典前行宮司御靈代ヲ奉戴シ諸員行障絹垣ヲ奉仕シ前後陣ニ整列ス

次入御（此ノ間警蹕奏樂）是ヨリ先禰宜本殿ノ御扉ヲ開ク

次宮司御靈代ヲ神座ニ奉安ス

次宮司御扉ノ側ニ候シ諸員所定ノ座ニ著ク

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次禰宜以下拜禮

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ所定ノ席ニ著ク（此ノ間奏樂）

次各退出

假殿遷座祭

次第本殿遷座祭ニ準ス

二　中祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

時刻宮司以下所定ノ席ニ著ク

次宮司御扉ヲ開キ畢リテ側ニ候ス（此ノ間奏樂）

次禰宜以下神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次宮司祝詞ヲ奏ス

次宮司玉串ヲ奉リテ拜禮

次禰宜以下拜禮

次禰宜以下神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次宮司御扉ヲ閉チ畢リテ本席ニ復ス（此ノ間奏樂）

次各退出

三　修祓

當日豫メ便宜ノ所ニ祓所ヲ辨備ス

時刻宮司以下所定ノ席ニ著ク

次禰宜祓詞ヲ白ス

次主典一人大麻ヲ執リ同一人若ハ雇員鹽湯ヲ執リ御幣物神饌及宮司以下ヲ祓フ

次各退下

四　祝詞

新年祭宮司祝詞

掛麻久毛畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久今年乃御年始給布留爾依里氏大前爾齋麻波里清麻波里氏獻奉留御食波和稻荒稻爾仕奉里氏御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿並倍氏大野乃原爾生布留物波甘菜辛菜青海原爾住牟物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳爾置足波志氏天皇命乃宇豆乃大幣帛乎今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾稱辭竟奉良久乎平介久安介久聞食志氏皇神等乃依奉良牟奧都御年乎手始米氏草乃片葉爾至留麻傳作里作留物共乎惡伎風荒伎水爾相波世給波受豐爾牟久佐加爾成幸給比氏天皇我大朝廷乎始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久乎白須

新嘗祭宮司祝詞

掛麻久毛畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久今年乃新嘗祭仕奉良志米給布爾依里氏皇神等乃成幸給閉留八束穗乃秋乃初穗乎御食御酒爾仕奉里氏山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳置足波志氏天皇命乃宇豆乃大幣帛捧奉良久乎聞食志氏天皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氏天乃下乃國民爾至留麻傳撫給比惠給比氏五十橿八桑枝乃如久立榮衣仕奉良志米給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久乎白須

例祭宮司祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾宮司位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知良志天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮爾靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩賴乎尊美奉里御奉里志一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾大前爾齋麻波里清麻波里志御食御酒種種乃物乎獻置伎志天皇命乃宇豆乃大幣帛捧奉良久乎平介久安介久聞食志天皇命乃大御代乎手厳御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里手長乃御代登幸奉里給比親王等諸王等乎始米天乃下乃國民爾至留麻傳長久平介久守給比惠給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久登白須

祓詞

掛麻久母畏伎伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘小戸乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓戸大神等今日仕奉留神職等我過犯世留罪穢有良牟乎婆祓給比清給閉登申須事乎聞食世登恐美恐美毛白須

五　雜則

一　神饌料ハ豫メ之ヲ神社ニ交付ス
一　修祓ハ祭祀ノ前ニ之ヲ行フ
一　神饌臺數並品目左ノ如シ
　大社　十一臺以上
　中社　十臺以上
　和稻　荒稻　酒　餅　海魚　川魚　野鳥　水鳥　海菜　野菜　菓　鹽水
一　定額ノ神饌及幣物ノ外其ノ地ノ產物等ヲ神饌ニ副ヘテ奉ルコトヲ得
一　例祭ニ際シ古例ノ神事アルモノハ之ヲ行フコトヲ得
一　官幣大社ニシテ特別ノ定例アルモノハ之ニ依ル

第二　縣社以下神社祭式

官幣社祭式ニ準ス但シ祝詞ハ左ノ如シ

新年祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久今年乃御年始給牟止爲留爾依里氐大前爾齋麻波里清麻波里氐獻奉留御酒波甕乃上高知里甕乃腹滿並氐大野乃原爾生布物波甘菜辛菜青海原爾住物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳置足波志氐今日乃生日乃足日乃朝日乃豐榮登爾此乃某州（廳）乃宇豆乃幣帛捧奉良久乎平介久安介久聞食志氐皇神等乃依奉良牟奧都御年乎手始米氐片葉爾至留麻傳作物共乎惡伎風荒伎水爾相波世給波受成幸給比氐天皇乃大朝廷乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳彌遠爾彌廣爾五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久登白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃州以下十四字ヲ削リ稱辭竟奉ノ四字ヲ加フ

新嘗祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久今年乃新嘗祭仕奉良志米給布爾依里氐八束穗乃秋乃初穗乎御食御酒爾仕奉里山野乃物波甘菜辛菜海川乃物波鰭乃廣物鰭乃狹物奧都藻菜邊都藻菜爾至留麻傳置足波志氐此乃某州（廳）乃宇豆乃幣帛捧奉良久乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御代乎手厳御代萬千秋乃長五百秋爾平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳撫給比惠給比氐五十橿八桑枝乃如久立榮衣志米給閉登恐美恐美毛稱辭竟奉良久登白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ此乃某州以下十四字ヲ削リ獻奉ノ二字ヲ加フ

例祭社司（社掌）祝詞

掛麻久母畏伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久高天原爾神留坐須神漏岐神漏美命以知良志天社國社登稱辭竟奉留中爾此乃大宮爾靜宮乃常宮登鎭坐須大神乃廣伎厚伎恩賴乎尊美奉里御奉里一年爾一回仕奉留常乃例乃今日乃御祭爾大前爾齋麻波里清麻波里御食御酒種種乃物乎獻置伎此乃某州（廳）乃宇豆乃幣帛捧奉良久乎平介久安介久聞食志氐天皇命乃大御代乎手厳御代乃足御代登堅磐爾常磐爾齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氐天乃下乃國民爾至留麻傳長久平介久守給比惠給比此乃某州（廳）市街乃人等又此乃氏子乃人等乎廣久厚久守給比惠給比氐身健爾家內安久產業乎各各彌勤爾八十綾爾至留麻傳彌榮衣志米給閉登恐美恐美毛白須

神饌幣帛料ノ供進ナキ神社ニ在リテハ獻置伎此乃某州以下十八字ヲ削リ獻奉ノ二字ヲ加フ

祓詞

官幣社ノ祓詞ニ同シ

前各項ニ定メタルモノノ外大正十四年府令第七十號官幣社及縣社以下神社祭式ノ規定ニ依ル

●官幣社及縣社以下神社神職齋戒ニ關スル件

（大正三年十月二十日　臺灣總督府令第六十四號）

（改正　大正一四年第六二號）

官幣社及縣社以下神社神職齋戒ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　祭祀ニ奉仕シ又ハ參向スル者ハ左ノ各號ニ依リ齋戒スヘシ

一　神職及幣帛供進使ニ在リテハ大祭、中祭ニハ其ノ當日及前日小祭ニハ其ノ當日

二　前號ニ揭クル以外ノ者ニ在リテハ其ノ當日

第二條　齋戒中ニ在ル者ハ喪ニ與ル等其ノ他凡テ汚穢ニ觸ルルコトヲ得ス

●縣社以下神社ノ鎭座祭式

（大正十二年十月二十三日　臺灣總督府令第七十三號）

縣社以下神社ノ鎭座祭式左ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

縣社以下神社ノ鎭座祭式

一　祭式

當日早旦社殿ヲ裝飾ス

定刻神職（衣冠）參列員（大禮服、通常禮服、正裝、服制ナキモノハ相當服裝）參集

次　參進

次　修祓

次　各員所定ノ席ニ著ク

時刻地方長官御靈代ヲ奉シテ參著

次　參進其ノ列左ノ如シ（是ヨリ先手水ノ儀アリ）（御靈代通御ノ際諸員起立）

先導（神職）　御靈代　幣物辛櫃　地方長官

　　　　　　　　　　　　　　　　隨員

次　修祓

次　地方長官所定ノ席ニ著ク

次　御靈代ノ辛櫃ヲ中門內ニ安ク（地方長官隨員奉從）

次　幣物ノ辛櫃ヲ便宜ノ所ニ置ク（同上）

次　地方長官隨員御靈代ノ辛櫃ヲ開ク

次　社司御靈代ヲ奉シテ本殿ノ御座ニ安ク（此ノ間奏樂）（此ノ間諸員起立）

次　地方長官進テ御靈遷ノ詞ヲ奏ス（此ノ間諸員起立）

次　地方長官御靈遷ノ詞ヲ社司ニ授ク

次　社司御靈遷ノ詞ヲ神前ニ納ム訖テ地方長官ニ反命ス

次　地方長官席ニ復ス

次　社掌以下神饌ヲ供ス（此ノ間奏樂）

次　社司祝詞ヲ奏ス（此ノ間諸員起立）

次　地方長官隨員幣物ヲ辛櫃ヨリ出シ假ニ案上ニ置ク（案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ク）

次　社司幣物ヲ奉ル

次　地方長官進テ祝詞ヲ奏ス（此ノ間諸員起立）

次　地方長官祝詞ヲ社司ニ授ク

次　社司祝詞ヲ神前ニ納ム訖テ地方長官ニ反命ス

次　地方長官席ニ復ス

次　地方長官玉串ヲ奉リテ拜禮　隨員列拜

次　社司玉串ヲ奉リテ拜禮　社掌以下列拜

次　參列員總代玉串ヲ奉リテ拜禮

次　社掌以下幣物ヲ撤ス

次　社掌以下神饌ヲ撤ス（此ノ間奏樂）

次　社司御扉ヲ閉チ訖テ席ニ復ス（此ノ間奏樂）（此ノ間諸員起立）

次　各退出

○社司ヲ置カサル神社ニ在リテハ本文中社司トアルヲ社掌トス

二　祝詞

掛麻久母長伎某神社乃大前爾社司（社掌）位勳功爵氏名恐美恐美毛白左久此乃何州（廳）乃官人公民等大神（等）乃高久尊伎大御德乎仰奉里彌遠永爾齋伎奉良牟登此乃（何々乃）所乎朝日乃日照留所夕日乃日照留所登所選定米氐底都岩根爾宮柱太敷立氐高天原爾千木高知里氐瑞乃御殿仕奉留乎以氐今日乃生日乃足日爾州知事（廳長）某長久御靈代乎坐奉里鎭奉里宇豆乃幣帛乎捧奉留故爾大前爾齋麻波里清麻波里氐獻奉留御食御酒種種乃物乎平介久安介久聞食志氐今與利往先此乃大宮乎靜宮乃常宮登長久爾鎭坐世登恐美恐美毛白須

●官幣諸社祭典地方官ニ於テ執行

（明治六年二月十五日　太政官布告第五十三號）

從前官幣諸社官祭ノ儀式部寮官員參向執行候處今後伊勢神宮ヲ除クノ外總テ地方官ニ於テ執行可致事

但巨細ノ儀ハ追テ式部寮ヨリ可相達事

●官國幣社祈年祭新嘗祭例祭ニ地方長次官及代理參向方

（明治十六年二月二十六日　內務省達乙第八號）

（改正　明治一七年第一一號）

府縣

官國幣社祈年祭新嘗祭例祭之義ハ神社祭式之通地方長官又ハ次官參向可致筈ニ付可成的事務繰合セ參向可致尤遠隔ノ地等不得已支障有之代理參向ノ節ハ府縣官竝【郡區】長ニ限リ候義ト可心得此旨相達候事（宮內省連署）

●神輿渡御ノトキ供奉者帶刀ヲ許ス

（明治九年七月二十日　教部省達甲第五號）

神宮並官國幣社神官

諸神社神輿渡御之節供奉之者共從前甲冑又ハ大紋素袍等著用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤モ其都度其筋ヘ屆出候儀ト可心得此旨相達候事

（明治十一年三月四日　內務省達乙第二十一號）

府縣

諸神社神輿渡御之節供奉之者帶刀之儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以神宮並官國幣社ヘ相達置候趣候處右ハ府縣社以下モ同樣專ラ古代之裝飾ニ摸倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度其筋ヘ可屆出儀ト可心得此旨相達候事

但普通祭服著用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ

第三款　諸社及寺院

●府縣社以下神社ノ神職ニ關スル件

（明治二十七年二月二十八日　勅令第二十二號）

（改正　明治三五年第三二號、四三年第三四九號　大正二年第七號、四年第二〇〇號、八年第二號、一五年第二四〇號）

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

第一條　府社縣社及鄕社ニ左ノ神職ヲ置ク

　社司　一人

　社掌　若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子總代又ハ崇敬者總代之ヲ議定シ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第二條　村社以下神社ニ左ノ神職ヲ置ク

　社掌　若干人

社掌ノ員數ハ氏子總代又ハ崇敬者總代之ヲ議定シ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第三條　社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條　府縣社及鄕社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケテ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ從事ス

第五條　村社以下神社ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條　社司及社掌ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ニ於テ氏子總代又ハ崇敬者總代ノ推薦シタル候補者中ヨリ之ヲ補ス但シ氏子總代若ハ崇敬者總代ニ於テ候補者ヲ推薦セサルトキ又ハ推薦再回ニ及フモ候補者其ノ任ニ適セスト認メタルトキハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事ニ於テ適任者ヲ擧ケテ其ノ職ニ補スヘシ

候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ內務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

第六條ノ二　神社ノ事務ノ掌理ニ付テハ府社縣社ノ社司ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事朝鮮總督府道知事臺灣總督府州知事、鄕社ノ社司及村社以下神社ノ社掌ハ朝鮮總督臺灣總督樺太廳長官北海道廳長官府縣知事朝鮮總督府道知事臺灣總督府州知事臺灣總督府廳長樺太廳支廳長北海道廳支廳長府縣支廳長ノ指揮監督ヲ承クルモノトス

第七條　社司及社掌ハ判任官ノ待遇トス

第七條ノ二　社司又ハ村社以下神社ノ上席社掌ニシテ二十年以上判任又ハ判任待遇以上ノ神官神職ノ職ニ在リ功績顯著ナル者ハ道府縣各二人ヲ限リ特ニ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

第八條　社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ內務大臣之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督臺灣ニ在リテハ臺灣總督樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

第九條　本令施行ノ際祠官祠掌タル者ハ社司社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

●府社縣社以下神社神職任用規則

（明治三十五年二月十八日　內務省令第四號）

（改正　明治四二年第一六號、四三年第二五號　大正元年第三號、一〇年第二號　昭和二年第一九號）

府社縣社以下神社神職任用規則左ノ通相定ム

府社縣社以下神社神職任用規則

第一條　年齡二十年以上ノ男子ニシテ社司社掌試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス

官國幣社神職及神職試驗ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職タリシ者ハ試驗ヲ要セス社司社掌ニ補スルコトヲ得

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ社司社掌ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分產若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　禁治產者及準禁治產者

四　懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條　社司社掌試驗ハ地方廳ニ於テ之ヲ行ハシム

第四條　社司社掌試驗ニ委員長一名及委員五名ヲ置キ社司社掌ノ試驗委員長及社司社掌試驗委員ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ選任スヘシ

第五條　社司社掌試驗委員ハ此ノ規則ニ依リ試驗ヲ施行シ試驗委員長ヨリ其ノ成績ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申スヘシ

第六條　北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ合格證書ヲ付與スヘシ

第七條　試驗ヲ施行スルトキハ豫メ其ノ試驗ノ期日及場所等ハ官報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第八條　社司社掌ノ試驗科目ハ左ノ如シ

一　祭式

二　倫理

三　國文　作文ハ祝詞體公文體

四　國史

五　法制　現行神社法令

六　算術

第九條　[illegible]

第十條　[illegible]廳長官府縣知事[illegible]ヘシ

第十一條　[illegible]ニ該當セ[illegible]驗委員ノ[illegible]ヲ得

一　官國幣[illegible]號二號[illegible]皇典講究所[illegible]テ定[illegible]ル者

二　判任[illegible]

三　[illegible]

四　內務大臣ノ[illegible]究所神職養成部神職教習科卒業ノ者

五　沖繩縣ニ在リテハ大夫、祝部、權祝部及宮童ノ職ニ在リシ者又ハ其ノ相續人ニシテ祭式及國典ヲ修メタル者

第十二條　神社ニ神職ノ闕員アルトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ三十日以內ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ推薦スヘシ但シ現ニ其ノ管內ニ奉職スル者ニ在テハ履歷書及資格證明書ヲ省クコトヲ得

北海道廳長官、府縣知事ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ此場合ニ於テハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ前項ノ例ニ依リ之カ推薦ヲ爲スヘシ

第十三條、第十四條　削除

附　則

第十五條　本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ施行ス

第十六條　本令施行前ヨリ現ニ府社縣社以下神社ノ神職タル者ハ本令ノ施行ニ依リ神職タルノ資格ヲ失フコトナシ

第十七條　明治二十八年內務省令第十號同年內務省訓第六五六號及同年內務省訓令第十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●神官神職ハ衆議院議員選擧競爭ニ關與ス可ラス

（明治二十七年二月六日　内務省訓令第五號）　北海道廳　府縣

衆議院議員ノ選擧ニ際シ神官神職ハ自己享有ノ選擧權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セス總テ政論ニ容喙シ朋黨ニ加盟シ選擧ノ競爭ニ關與スヘカラス專心一意本務ニ從事セシムヘシ

●神職職務上怠慢ノ所爲戒飭方

（明治二十六年九月二十八日　内務省訓令第十八號）　北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

神社ハ祭典祝日等ニ付闕ク可ラサル儀式モ有之且社頭管理上ニ就テモ亦夫々ノ要務有之神職ハ一切内外ノ社務ヲ併セ司ル筈ニ付宮司權宮司ハ勿論禰宜主典ト雖モ官祭ヲ始メ月次祭典等謂ハレナク闕席不相成ノミナラス日々社頭又ハ社務所ニ於テ各其職務ニ從事スヘキモノニ有之候條神職一同此趣旨ヲ體シ怠慢ノ所爲無之樣訓示スヘシ

●神官ハ葬儀ニ關係セス府縣社以下神官ハ舊ニ依ル

（明治十五年一月二十四日　内務省達乙第七號）　府縣

自今神官ハ【教導職】ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事

但府縣社以下【神官】ハ當分從前之通

●府縣社以下神社神饌幣帛料供進ニ關スル件

（明治三十九年四月三十日　勅令第九十六號）

改正　大正一一年第三九三號

朕府縣社以下神社ノ神饌幣帛料供進ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（内務大臣副署）

第一條　府縣又ハ北海道地方費ハ府縣社鄉社、市又ハ町村ハ村社ノ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得

前項ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ地方長官之ヲ指定ス

第二條　前條神饌幣帛料ノ金額ハ内務大臣之ヲ定ム

第三條　町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル村社ノ神饌幣帛料ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム

（明治三十九年内務省令第十八號ヲ以テ明治四十年一月一日ヨリ施行）

●府縣社鄉社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料金額

（大正九年八月二十六日　内務省令第二十四號）

明治三十九年四月勅令第九十六號第二條ニ依リ府縣社鄉社村社ニ供進スヘキ神饌幣帛料ノ金額左ノ通定ム

一新年祭				
府縣社	一社ニ付	金拾六圓	金六圓　神饌料	金拾圓　幣帛料
鄉社	一社ニ付	金拾貳圓	金四圓　神饌料	金八圓　幣帛料
村社	一社ニ付	金八圓	金貳圓　神饌料	金六圓　幣帛料
一新嘗祭				
府縣社	一社ニ付	金拾六圓	金六圓　神饌料	金拾圓　幣帛料
鄉社	一社ニ付	金拾貳圓	金四圓　神饌料	金八圓　幣帛料
村社	一社ニ付	金八圓	金貳圓　神饌料	金六圓　幣帛料
一例祭				
府縣社	一社ニ付	金參拾圓	金拾圓　神饌料	金貳拾圓　幣帛料
鄉社	一社ニ付	金貳拾圓	金六圓　神饌料	金拾四圓　幣帛料
村社	一社ニ付	金拾四圓	金四圓　神饌料	金拾圓　幣帛料

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年十一月内務省令第十五號ハ之ヲ廢止ス

●町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル村社ノ神饌幣帛料供進方

（明治三十九年六月二十八日　内務省令第二十號）

改正　明治四四年第五號　大正元年第一五號、二年第一六號、九年第二五號、一一年第二二號

明治三十九年四月勅令第九十六號第三條ニ依リ町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル村社ノ神饌幣帛料ニ關スル件左ノ通定ム

北海道ニ於ケル村社ニハ町村（一級町村制二級町村制ヲ施行セサル地方ハ町村費）ヨリ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得

東京府伊豆七島小笠原島ニ於ケル村社ニハ從前ノ例ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得

神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ハ道廳長官府縣知事之ヲ指定ス

神饌幣帛料ノ金額ハ大正九年八月内務省令第二十四號ヲ適用ス

本令ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●鄉社定則

（明治四年七月四日　太政官達）

先般被　仰出候神社御改正鄉社ノ儀ハ別紙定則ノ通取調可致事

（別紙）

定則

一鄉社ハ凡戸籍一區ニ一社ヲ定額トス假令ハ二十ケ村ニテ千戸許アル一鄉ニ社五ケ所アリ一所各三ケ村五ケ村ヲ氏子場トス此五社ノ中式内カ或ハ從前ノ社格アルカ又ハ自然信仰ノ歸スル所カ凡テ最首トナルヘキ社ヲ以テ鄉社ト定ムヘシ餘ノ四社ハ鄉社ノ附屬トシテ是ヲ村社トス其村社ノ氏子ハ從前ノ通リ社職モ又從前ノ通リニテ是ヲ【祠掌】トス總テ鄉社ニ附ス（鄉社ニ付スト雖トモ村社ノ氏子ヲ鄉社ノ氏子ニ改ムルニハアラス村社氏子元ノマヽニテ鄉社ニ付スルノミ）【鄉社ノ社職ハ祠官タリ村社ノ祠掌ヲ合セテ鄉社ニ祠官祠掌アルヿ布告面ノ如シ（但祠掌ハ村社ノ數ニヨレハ幾人モアルヘシ）】

一從前一社ニテ五ケ村七ケ村ノ氏子場其數千戸内外ニシテ粗戸籍一區ニ合スルモノハ乃チ自然ノ鄉社タリ【祠官一人ナレハ更ニ祠掌ヲ加フモ許スヘシ】

一三府以下都會ノ地從來産土神（鄉社）一社ニシテ氏子場數千戸ナルモノ戸籍ノ數區ニ亘ルト雖モ更ニ鄉社ヲ立テ區別スルニ及ハス

一官社又府【藩】縣社ニテ乃鄉社ヲ兼ルモアリ假令ハ東京日吉神社【府社】京都八坂神社（官社）ノ如キ氏子場數万戸ニ亘ルトイヘ𪜈更ニ鄉社ヲ建テス固ヨリ區別ニ及ハサルヿ上件ノ如シ

●社寺境內樹木濫伐禁止

（明治六年七月二日　太政官布告第二百三十五號）

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳ヘ願出許可ヲ可受事

（明治七年十二月十日　内務省布達甲第三十一號）　府縣

社寺境内樹木ノ儀ハ昨六年第貳百三十五號公布ノ通可相心得筈ニ候得共社寺ノ私有タル確證有之有稅地ニ係候モノ及ヒ其町村ノ買得候確證有之候有稅地ニ係リ候モノニ限リ無餘儀入用有之伐木致度節ハ所有主ヨリ其事故管轄廳ヘ申立事實取糺相違ナキニ於テハ可聞届候此旨布達候事

●社寺什物並祠堂金等處分心得方

（明治六年七月十七日　太政官布告第二百四十九號）

神社佛寺共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリ𪜈自儘ニ處分可致筋無之候條若不得已儀有之候ハヽ委詳具狀ヲ以テ【教部省】ヘ可申立候此旨布告候事

（明治九年二月二日　教部省達第三號）　府縣

神社佛寺共古來所傳之什物等處分之儀明治六年七月第貳百四拾九號公布之趣有之ニ付テハ持添之田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相達候事

●社寺總代人撰擧並收入財産取調方

（明治十四年七月二十一日　内務省達乙第三十三號）

改正　明治二四年内務省訓令第八號

府縣

各管内社寺總代人之儀氏子檀家中（氏子檀家ナキモノハ信徒）相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ【戸長役場】ヘ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財産（田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀同謝料等一切ノ受納物ヲ云フ）ハ其社寺有ニ屬スヘキモノト其【神官】住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル樣取調方可爲致此旨相達候事

但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改撰市町村役場若ハ【戸長役場】ヘ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖トモ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改撰セシムヘシ

但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ

●町村分合等ニヨリ甲乙社氏子轉換ノ際協議届出方

（明治十五年五月一日　内務省達乙第二十八號）　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

各町村鎭座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落擧テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社【神官】氏子協議ノ上雙方連署爲届出明細帳引直シノ儀當省ヘ可申出此旨相達候事

但雙方協議不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

●戊辰己巳ノ際從軍殉國ノ者私設招魂場所在地免稅祭祀並修繕共一切官費支給方

（明治七年三月十七日　内務省達乙第二十二號）　府縣

戊辰己巳ノ際從軍殉國ノ者戰歿ノ地及其他各所ニ於テ舊藩主或ハ人民共私設致候招魂場ノ儀ハ永ク忠士ノ魂魄ヲ御吊慰被爲在候御趣意ヲ以自今其所在ノ地稅ヲ免シ祭祀並修繕共一切官費支給可致旨被仰出候ニ付此旨相達候事

但招魂場敷地反別地稅ノ有無並從前祭祀修繕ノ費額別紙雛形ニ照準箇所限リ明細取調實地景況繪圖面並實測繪圖面共一通ツヽ相添來ル五月三十一日限リ當省ヘ可伺出最右場所無之向ハ來ル四月十五日限リ其旨可届出事

（雛形略ス）

●招魂社及墳墓ヘ神職監守者設置並其給料支辨方

（明治二十三年三月十三日　内務省訓令第八號）　北海道廳　府縣（奈良靜岡山梨島根和歌山德島愛媛沖繩ノ八縣ヲ除ク）

招魂社ヘ受持【神官】墳墓ヘ監守者ヲ置招魂社費並招魂社營繕費ノ受取方及該費收支ノ事ヲ取扱ハシムヘシ但給料ハ該金額内ヲ以テ適宜支辨スヘシ

●招魂社並墳墓修繕處分方

（明治二十三年八月二十二日　内務省訓令第二十九號）　北海道廳　府縣（奈良靜岡山梨島根和歌山德島香川愛媛沖繩ノ九縣ヲ除ク）

招魂社並墳墓共修繕等ノ儀ハ該受持神官監守者ヨリ其廳ヘ爲申立適宜處分スヘシ

但改造【及有形變更】ハ當省ヘ伺出ツヘシ

（大正元年十一月十六日　内務省訓令第十一號）　北海道廳　府縣（奈良、靜岡、山梨、島根、和歌山、德島、香川、愛媛、沖繩ノ九縣ヲ除ク）

官祭招魂社並官修墳墓ノ修繕及建物模樣替ハ自今其ノ廳限リ適宜處分スヘシ

●招魂社費招魂社營繕費取扱順序

（明治二十三年三月十三日　内務省訓令第九號）

改正　明治二三年第二六號　大正元年第一二號、三年第一七號

北海道廳　府縣（奈良靜岡山梨島根和歌山德島愛媛沖繩ノ八縣ヲ除ク）

招魂社費並招魂社營繕費取扱順序左ノ通相定ム二十三年度以降右ニ照準取扱フヘシ

招魂社費招魂社營繕費取扱順序

一招魂社費並招魂社營繕費ノ内招魂社ニ屬スル金額ハ該招魂社受持神官ヘ下渡スヘシ

一招魂社營繕費ノ内墳墓ニ屬スル金額ハ墳墓監守者ヘ下渡スヘシ但北海道廳長官府縣知事ハ墳墓箇數ノ多寡ニヨリ其管内限リ定額金ヲ彼是流用下渡スコトヲ得

一招魂社並墳墓費金ノ殘額ハ中央金庫、本金庫、支金庫、郵便官署其ノ他地方長官ニ於テ確實ト認ムル銀行ヘ預入ヲ爲スカ又ハ國債登錄、公債證書其ノ他地方長官ニ於テ確實ト認ムル有價證券ト爲サシムヘシ

一招魂社並墳墓ヘ寄附金額モ右ニ準シ取扱ハシムヘシ

一招魂社並墳墓ヘ下渡金ノ出納ハ常ニ地方廳ニ於テ嚴密監督シ毎年度末收支計算書差出サシメ精査スヘシ

●【社】寺取扱概則

（明治十一年九月九日　内務省達乙第五十七號）

改正　明治一三年第二八號

府縣

社寺取扱之儀左之通概則相定候條此旨相達候事

【社】寺取扱概則

第一條　社寺ノ創建ハ【（民有地ニ建設スルモノ）神官住職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ（寺院ハ本寺法類トモ）連署戸長奥書ヲ以テ願出永續財産ノ目途且其地所建物社寺ノ體（社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏）ヲ具フルモノニ限リ允許スルヲ得ヘシ再興復舊等總テ之ニ準ス】

【但別紙書式ニ倣ヒ其都度當省ヘ届出ヘシ】

第二條　同上移轉廢合並【社】寺號改稱ハ前條ノ手續ニ準シ其事由ヲ詳記シ願出ルモノニ限リ聞届【毎月末取纏メ當省ヘ届出ヘシ尤廢合社寺址地並建物等處分方ノ儀ハ從前ノ通】

【但式内神社並文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺ノ向ハ前以テ當省社寺局ヘ照會ヲ經ヘシ】

第三條　邸内【社】堂並掛所道場引直及寺號公稱等ハ總テ第一條ノ手續ニ據リ永續ノ目途並建物ノ體（堂宇ハ方六尺以上）ヲ具フルモノニ限リ聞届【別紙書式ニ倣ヒ毎月末取纏當省ヘ可届出】

第四條　前條々ノ外【社】寺例格ノ改定並【社】寺ニ關スル條件中例規ナキモノハ其都度當省ヘ伺出ヘシ

（別紙社寺明細書書式ハ改正ニ付略ス）

●寺院明細帳製式

（明治十二年六月二十八日　内務省達乙第三十一號）

改正　明治一五年第五九號、四一年訓令第七號　大正元年第一〇號

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

各管下【神社】寺院明細帳之儀最前進達ノ分脱誤不少候條別紙書式ニ照準更ニ精密取調且境外遙拜所招魂社靈社明細帳モ調製本年六月三十日ヲ限リ現況ヲ以テ取調同十二月限可差出此旨相達候事

但眞宗寺院明細帳ノ儀ハ十年當省乙第六十九號達之趣候處今般取調ニ付テハ各宗寺院同樣取調差出スヘキ事

（別紙）

△【神社明細帳書式】（改正ニ付略ス）

△寺院明細帳書式（△印ハ朱書）

何府縣管下何國何郡何町村字何

何宗何派

總本山或ハ本寺又ハ某寺末

某寺

一本尊

一由緒

一堂宇間數

一境内坪數地種

一境内佛堂數字

某堂

本尊

由緒

建物

一境內庵室幾宇

菜庵

本尊

由緒

建物

一境外所有地

耕地段別　何（町村）字何

地價金額

山林段別　何（町村）字何

地價金額

宅地段別　何（町村）字何

地價金額

一檀徒人員

以上

明細帳取調方心得

一明細帳ハ【神社】寺院【境外遙拜所招魂社】ノ【四】種ニ分チ【神社】寺院ハ毎郡各冊ニ編製シ表紙ニ何國何郡【神社】（寺院）明細帳ト署記ス（一郡ニシテ他府縣ニ跨ル者ハ何郡ノ內ト記シ又一郡ニシテ二冊以上ナル者ハ明細帳幾冊ノ內ト記スヘシ）一冊內ハ町村ヲ以テ次叙シ同町村內ノ【神社】ハ社格】寺院ハ宗派ヲ以テ區別シ且冊首ニ町村名目錄ヲ附スヘシ【境外遙拜所】以下ハ毎國各冊ニ編製シ表紙ノ署記竝目錄ハ前ニ準スヘシ

一用紙ハ美濃十三行界紙ヲ用ヒ一【社】寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ

【但攝末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ル者ハ總テ一社トシ各紙ニ認ムヘシ】

一【神宮官國幣社竝同境內神社（社格ノ有無ニ拘ハラス）ハ取調ニ及ハス】

一【山野路傍存置ノ神祠竝衆庶參拜ヲ許可セシ人民私邸內ノ神祠ハ竝ニ一社トシ其神社境內ヘ移轉セシ者ハ境內神社ノ項下ニ記スヘシ】

一【遙拜所招魂社】竝寺院ノ別院支坊末菴等ハ公許共有ニ係ル者ノミヲ取調フヘシ

【但官祭招魂社竝建物無之遙拜所ハ記載ニ及ハス】

一由緒ハ創立公稱廢合再興復舊移轉及ヒ【社格】等許可ノ年月竝改【社】寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ

一寺院民有境內地ニシテ其寺院ノ所有ニアラサルモノハ地種ノ下ニ其旨附記スヘシ

一寺院境內ニ堂宇外ノ建物（教院ノ類）アラハ堂宇間數ノ次ニ竝ヘ擧クヘシ

一【祭神由緒不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スル者ハ其旨ヲ記シ境內遙拜所等無之者ハ其項ヲ除クヘシ】

一【社】寺ニ【氏子】檀徒無之向ハ崇敬者、信徒（講中ノ類）ノ人員ヲ記スヘシ

一明細帳取調濟ノ後府縣限リ處分セシ事件ニシテ明細帳ヲ改正シ又ハ記入スヘキ者ハ【毎月末】取纏メ本省ヘ屆出ヘシ

但從前屆出方ノ成規アル者ハ格別ナリトス尤向後新ニ明細書ヲ出スモノハ總テ此書式ニ準スヘシ

●寺院創立再興復舊等出願取扱方

明治十三年十二月十七日
內務省達乙第五十二號

府縣

今般第六拾壹號公達ノ趣有之ニ付テハ自今【社】寺創立再興復舊等出願有之節ハ從來ノ手續ニヨリ取調候左ノ條件精査ノ上當省ヘ可伺出此旨相達候事

一【社】寺創立再興復舊等ヲ要スル理由及建設後施行ノ目的

但再興復舊ハ當初廢絶合併ノ年月竝次第共

一【社殿】堂宇諸建物坪數繪圖面竝目論見仕樣ノ事

一永續資本ノ財產（動產不動產等ノ細目員數ヲ詳記スヘシ）竝發願者（總代）（後該社寺一切ノ事ニ關係スヘキモノ）ノ總人員

一境內地坪數及【社】寺名受若クハ人民共有名受ノ別

●寺院創立再興復舊等ノ建物造立期限竝取扱處分方

明治十五年十一月七日
內務省達乙第五十九號

府縣

各府縣管內【神社】寺院等創立再興復舊許可之分ハ今後滿二年以內ニ建設セシムヘシ其建物巨大ニシテ工事數年ニ涉ル可キ者ハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受ル者トス其他在來ノ【社】寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者ハ滿五年ニ再建セシメ何レモ【每月末】取纏メ當省エ可屆出若シ右期限ヲ過キ建設セサル者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除更ニ屆出候儀ト可心得此旨相達候事

但十二年當省乙第三十一號達【社】寺明細書式中【神官住職ノ項ヲ加ヘ且境外遙拜所招魂社祖靈社】ノ書式ヲ廢シ都テ【社】寺書式ニ據リ取調フヘシ

●寺院公賣處分ヲ受ケタルモノ再建期限

明治二十年十月二十一日
內務省訓令第四十五號

北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

【社】寺ニシテ若シ其【社殿】堂宇等祭祀法用ニ必要ナル部分公賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以內ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ屆出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二箇年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二箇年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ削除スヘシ

●廢寺院佛像什器處分方

明治五年十一月八日
太政官布告第三百三十四號

諸省府縣【官】局廻シ

【諸寺院中總本寺本山ヲ除ノ外無檀ニシテ無住ノ向ハ自今渾テ被廢止候條各地方官ニ於テ夫々廢寺處分ノ上宗名寺號共詳悉取調敎部省ヘ可屆出候事】

但佛像什器等ハ本寺法類ノ內最寄寺院ヘ合附爲致【堂宇建物ノ儀ハ最初營造ノ次第ヲ追ヒ官營ハ公收シ私造ハ其人民所分ニ可相任官私ノ別不分明ノ向ハ適宜ニ取計ヒ跡地所置ノ儀ハ總テ大藏省ヘ可伺出】候事

明治十二年一月十一日
內務省達乙第一號

府縣

無檀無住ノ寺院廢止處分之儀ハ明治十一年當省乙第五十七號達第二條ノ手續ニ準シ其本寺法類等ヨリ廢合出願ノ上處分可致此旨更ニ相達候事

●廢合寺院跡地竝建物處分規則

明治八年九月七日
內務省達乙第百十三號
改正　明治九年第七〇號

府縣

廢寺院處分之儀ニ付壬申第三百三十四號御達之趣モ有之候處自今廢合寺院跡地竝建物處分規則別紙之通相定候條右規則ニ照準取調可【申出】此旨相達候事

（別紙）

廢合寺院跡地竝建物處分規則

第一節　廢寺　無檀　無住

一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ資金ヲ以テ建造セシモノ、別ヲ論セス官沒ス

一境內地ノ內從前人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リシモノハ其者ヘ下渡シ寺院ノ名受カ先住僧侶ノ買得カ其他民有ノ確證ナキモノハ都テ官沒スヘシ

但シ佛像什器處分ハ明治五年第三百三十四號達書ノ通タルヘシ

一朱黑印地除地田畑山林等ノ內寺院ノ名受地ハ勿論村方百姓竝ノ田畑等アリテ寺院ノ名受トナリタルカ又ハ先住僧侶ノ買得セシモノハ官沒スヘシ

但寺院竝先住僧侶ノ資金ヲ以テ開墾セシ證跡アルモノト雖モ官沒スヘシ

一人民ヨリ寄附ノ田畑アリテ貢租作德共該寺ニ於テ處務致シ來レルモノハ卽チ寺附ノ地面ユヘ官沒スヘシ然シ寄附人ノ子孫再ヒソノ所有ヲ欲セハ相當代價ヲ以テ拂下ヘシ

但寄附セシ次第ニヨリ別段ノ契約アルハ此限リニアラス

第二節　廢寺　有住　無檀

一現住職自己ノ財產ニ係ルモノ、外ハ第一節及ヒ第四節ニ照準シテ處分スヘシ

第三節　合寺　無檀　無住

一堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ資金ヲ以建造セシモノ、別ヲ論セス合スル所ノ寺院ニ附スヘシ

一境內地ノ內人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リシモノハ其者ヘ下渡シ寺院ノ名受カ先住僧侶ノ買得或ハ開墾ノ確證アルモノハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ（確證ナケレハ官沒スヘシ）

但萬一除稅地ノ山林ニ於テ先住僧侶自費ヲ以テ苗木植付等ノ確證アレハ立木ノミ合スル所ノ寺院ヘ下渡スヘシ

一人民ヨリ寄附ノ地アレハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ

第四節　合寺　有住　無檀

一第三節ニ同シ但建物境內地田畑山林等ノ內萬一現住職ノ資金ヲ以テ建造シ或ハ買得開墾等ノ確證アレハ其者ノ意ニ任カスヘシ

第五節　合寺　有檀　無住

一第三節ニ同シ但シ建物ハ檀中等ノ私費ヲ以テ造營セシモノ及ヒ境內地田畑山林等檀中ノ私費ヲ以テ買得シテ地租ヲ納メ來リシモノ或ハ開墾セシモノハ其合スヘキ寺院竝ニ法類等トノ協議ニ任カスヘシ

明治十一年三月十一日
內務省達乙第二十三號

府縣

舊修驗宗廢合寺之節建物處分之儀當省八年乙第百拾三號及九年乙第七拾號達寺院廢合處分規則ニ準シ取扱來候處右ハ一般寺院ト難同視次第モ有之候條向後其建物先代等ノ私營ニ係リ他ニ故障無之分ハ本人ヘ附與可致此旨相達候事

●寺院及佛堂參拜觀覽料竝寄附金募集ニ關スル取締方

明治三十一年七月七日
內務省令第六號
改正　明治三三年第三八號
大正二年第七號

第一條　寺院及ヒ佛堂ハ任意ノ寶物ノ外參拜者ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス參拜セシムル爲メ特ニ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第二條　寺院及ヒ佛堂ニシテ其ノ殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムルカ爲メ料金ヲ徵收セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　寺院、祠宇、佛堂其他宗敎ノ宣布又ハ宗敎上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ニシテ寄附金又ハ負債ヲ募集セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項募集ノ區域カ二以上ノ廳府縣ニ涉ルトキハ寺院、祠宇、佛堂及法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　寺院、祠宇、佛堂及敎派宗派其他宗敎ノ宣布又ハ宗敎上ノ儀式執行ヲ目的トスル團體ノ用ニ供スル爲メ寄附金募集ヲ爲ス者亦前條ニ同シ

第五條　寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記シタル願書ヲ差出スヘシ

一　募集ノ目的
二　募集ノ方法
三　募集ノ金額
四　募集ノ區域
五　募集ノ期間
六　前各號ニ揭クルモノ、外負債ニ付テハ利率及償還ノ方法

第六條　前條各號ニ揭クル事項ヲ變更セムトスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第七條　寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者他人ヲシテ其募集ニ從事セシメムトスルトキハ其住所氏名職業年齡ヲ記シタル願書ヲ差出シ募集地地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　第一條乃至第四條第六條及第七條ニ違背シタルトキハ寺院、祠宇、佛堂及法人ニアリテハ事務擔當者其他ノ場合ニアリテハ違背者ヲ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　本令ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行ス

附　則

第十條　本令實施前募集ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ其募集ノ完了ニ至ラサルモノハ其部分ニ對シ本令ヲ適用ス

●寺院佛堂境內官有地木竹管理規則

明治三十六年三月二十六日
內務省令第二號
改正　大正二年第八號

寺院佛堂境內官有地木竹管理規則左ノ通相定ム

寺院佛堂境內官有地木竹管理規則

第一條　寺院佛堂ニ於テ其境內官有地ノ木竹ヲ採取セントスルトキハ本規則ニ依ルヘキモノトス

第二條　枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　寺院佛堂ノ本堂庫裡ノ造修用材ニ必要ナル木竹ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得但寺院佛堂ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク外樹木ニ付テハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

一目通五尺以上一丈未滿ノ樹木ハ其一割以內

一目通一尺以上五尺未滿ノ樹木ハ其二割以內

前項ニ該當セサル建造物ト雖モ古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及寺院佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條　前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第五條　林藪ノ經營上必要ナル拔伐ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　前三條ニ該當スルモノト雖モ寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル木竹ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第七條　境內地ノ林藪五町歩以上ニ涉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但五町歩以下ノモノト雖モ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第八條　境內地ノ林藪ニ於テハ土石切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但寺院佛堂ニ於テ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ非ス

第九條　地方長官ニ於テ境內地ノ林藪荒廢ノ虞アリト認ムルトキ其他境內地ノ狀況林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其經營ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第十條　境內地ノ林藪ニ接續スル原野ニ火入

テ爲サントスル者ハ三日以前ニ警察官署ニ屆出テ境內ノ林藪ニ對シ防火ノ設備ヲ爲スヘシ

警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ火入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十一條　寺院佛堂ノ管理者本規則ニ依リ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其手續ヲ怠リタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第十條第一項ニ違背シ又ハ同條第二項ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　削除

第十四條　明治十五年八月二日內務省番外示達社寺境內伐木取扱概則ハ之ヲ廢止ス

第十五條　本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●寺院佛堂境內地使用取締規則

（明治三十六年十一月二十日內務省令第十二號）
（改正　明治三九年第一五號、四〇年第八號　大正二年第九號）

寺院佛堂境內地使用取締規則左ノ通相定ム

寺院佛堂境內地使用取締規則

第一條　寺院佛堂境內地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其寺院佛堂以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一　一時限リノ使用

二　參詣人休息所等其使用一箇年以內ニ止マルモノ

三　公益ノ爲ニスル使用

第二條　前條ノ使用ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ寺院佛堂ノ承認ヲ得且地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ前條第一號ノ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス

一　事由

一　名稱

一　構造、形狀、寸尺等ノ槪要（但シ必要ニ應シ圖面ヲ添付スヘシ）

一　文字圖畫ヲ記スルモノハ其文字圖畫

一　期限

一　使用料

一　坪數、位置（但シ必要ニ應シ見取圖ヲ添付スヘシ）

前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦前項ニ同シ

第三條　削除

第四條　地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其使用ヲ禁止シ又ハ其建設物ノ改造撤却其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一　制規ノ手續ヲ經サルトキ

一　期限ヲ經過シ又ハ許可ヲ取消シタルトキ

一　寺院佛堂ノ爲必要ナリト認メタルトキ

第五條　本令ニ依ル許可ハ之ヲ取消スコトヲ得

第六條　削除

第七條　本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

●寺院附屬ノ佛器什物記簿存置方

（明治五年八月三日敎部省達第十二號）

府縣

各管內寺院之向建物ヲ除之外一寺附屬之佛器什物等一切簿帳ヘ記載シ檀家總代法類等奧印之上兼テ其寺院ヘ備置可申旨可相達候事

●寺院ニ於テ金穀借入方

（明治十年五月十六日太政官布告第四十三號）

【神社並】寺院ニ於テ其【社】寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ【社】寺附地所（除地境內ヲ除クノ外）建物什器（寶物古文書類ヲ除クノ外）等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス【氏子】檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該【社】寺【神官】僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

●寺院ノ物品抵當取扱方

（明治十二年七月十四日內務省達乙第三十九號）

府縣

本年當省乙第二十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護之儀相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄帳中ヘ記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布之通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議之書面ヲ以テ一應管廳ヘ申出サセ調査ノ上全ク寶物古文書ニアラサル分ニ限リ認可スヘシ此旨相達候事

但目錄帳ヘ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得已儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年敎部省第三號達書之通心得ヘシ

●寺院ノ願伺屆書ニハ宗名ヲ記載セシム

（明治九年三月二十七日敎部省達第十號）

府縣

各管內寺院諸願伺中宗名ヲ脫スル向往々有之取調筋差閊候條自今諸願伺屆共總テ宗名記載可爲致此旨相達候事

●離末本寺換屆出方

（明治十一年二月一日內務省達乙第八號）

府縣

離末本寺換之儀是迄各寺ヨリ管轄廳ヘ出願致管轄廳ヨリ當省ヘ伺來候處自今同宗派內之分ハ本末寺協議濟之上新舊本寺承諾之書面相添管轄廳ヘ爲屆出【其都度】當省ヘ屆出候儀ト可心得此旨相達候事

但他宗派ヘ附屬候向ハ從前之通タルヘシ

●寺院輪番住職廢止本住職差置

（明治七年五月二十日敎部省布達第三號）

府縣

諸宗寺院中輪番住職ノ儀被廢止候條自今本住職差置可申此旨僧侶ヘ布達スヘキ事

但本山本寺住職ノ外現今輪番ノ住職其人體相當ノ向ハ其儘住職申付不相當ノ分ハ更ニ人撰可申付候尤出張所或ハ別院等ニテ本山本寺ヨリ兼帶ノ向ハ從前ノ通輪番僧差置不苦候事

●寺院副住職設置方

（明治九年五月十二日敎部省達第十八號）

府縣

各管下諸寺院之內寺務多端ノ故ヲ以テ【敎導職試補以上之者ヲ撰ヒ】副住職差置【度段願出候ハヽ、聞屆】不苦候條此旨相達候事

但【出願手續並辭令書渡方等】都テ住職ニ準シ取扱可申事

●私祭ノ神祠佛堂ヘ衆庶參拜停止及參拜出願方

（明治九年十二月十五日敎部省達第三十八號）

府縣

從來人民私邸內等ニ自祭スル神祠佛堂ヘ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同樣之姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信向人共有之筋ヲ以尙參拜之儀願出候ハヽ永續方法並【神官】僧侶之受持等夫々取調爲申出候上管轄廳見込相立可伺出此旨相達候事

但從前願濟之分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出事

●神社寺院規則

（大正四年八月十六日朝鮮總督府令第八十二號）

神社寺院規則左ノ通定ム

神社寺院規則

第一條　神社ヲ創立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ創立地ニ於テ崇敬者ト爲ルヘキ者三十人以上連署シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　創立ノ事由

二　神社ノ稱號

三　創立地名

四　祭神

五　建物並境內地ノ坪數、圖面及境內地周圍ノ狀況

六　創立費及其ノ支辨方法

七　維持ノ方法

八　崇敬者ノ數

第二條　寺院ヲ創立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ創立地ニ於テ檀信徒ト爲ルヘキ者三十人以上連署シ所屬宗派管長ノ承認書ヲ添ヘ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　創立ノ事由

二　寺院ノ稱號

三　創立地名

四　本尊並所屬宗派ノ名稱

五　建物並境內地ノ坪數、圖面及境內地周圍ノ狀況

六　創立費及其ノ支辨方法

七　維持ノ方法

八　檀信徒ノ數

第三條　神社ニハ神殿及拜殿ヲ備フヘシ

第四條　寺院ニハ本堂及庫裏ヲ備フヘシ

第五條　神社又ハ寺院創立ノ許可ヲ受ケタル者許可ノ日ヨリ二年內ニ神殿、拜殿又ハ本堂、庫裏ヲ建設セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

建設ヲ竣リタルトキハ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第六條　變災ニ依リ神殿、拜殿又ハ本堂、庫裏ヲ亡失シタルトキ又ハ亡失シタル神殿、拜殿若ハ本堂、庫裏ヲ再建シタルトキハ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

神殿、拜殿又ハ本堂、庫裏ヲ亡失ノ日ヨリ六年內ニ再建セサルトキハ創立許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條　神社又ハ寺院ヲ移轉セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　移轉ノ事由

二　移轉先地名

三　建物並境內地ノ坪數、圖面及境內地周圍ノ狀況

四　移轉費及其ノ支辨方法

第八條　第五條ノ規定ハ神社又ハ寺院移轉ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　神社又ハ寺院ヲ廢止又ハ合併セムトスルトキハ其ノ事由及財產ノ處分方法ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　左ニ掲クル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　神社ノ稱號ヲ變更シ又ハ祭神ヲ增減變更セムトスルトキ

二　寺院ノ稱號ヲ變更シ又ハ本尊ヲ增減變更セムトスルトキ

三　寺院ノ所屬宗派ヲ變更セムトスルトキ

四　神社又ハ寺院ノ維持ノ方法ヲ變更セムトスルトキ

五　建物又ハ境內地ノ坪數ヲ增減セムトスルトキ

前項第五號ノ場合ニ於テハ其ノ圖面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第十一條　寺院ニハ住職ヲ置キ寺院ニ關スル事務ヲ管理セシムヘシ

住職ヲ命セラレタルトキハ本人、死亡其ノ他ノ爲住職ニ異動アリタルトキハ檀信徒總代ヨリ之ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第十二條　神社ニハ崇敬者總代、寺院ニハ檀信徒總代各三人以上ヲ置キ其ノ住所氏名ヲ其ノ神社寺院所在地ヲ管轄スル道【長官】ニ屆出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

道【長官】ハ前項ノ總代ヲ不適任ト認ムルトキハ變更セシムルコトヲ得

總代ハ神社又ハ寺院ノ維持保存ニ關シ神職又ハ住職ヲ補助シ神社又ハ寺院ニ關スル願屆ニ連署スヘシ

第十三條　神社又ハ寺院ハ其ノ所有ニ屬スル不動產及寶物ニ關シ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

一　土地ニ在リテハ所在地、地番號、地目、面積及境內地、境外地ノ區別

二　建物ニ在リテハ所在地、建坪、名稱、構造ノ種類及境內地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別

三　寶物ニ在リテハ其ノ名稱、員數、品質、形狀、寸尺、作者及傳來

第十四條　神社又ハ寺院ハ財產臺帳ヲ備ヘ其ノ所有ニ屬スル不動產及寶物ニ關シ前條各號ノ事項ヲ登載スヘシ

第十五條　左ニ掲クル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　不動產又ハ寶物ヲ賣却、讓與、交換、質入若ハ抵當ト爲サムトスルトキ

二　境內地ノ立竹木ヲ伐採セムトスルトキ

三　負債ヲ爲サムトスルトキ

第十六條　境內地及其ノ建物ハ道【長官】ノ許可ヲ受クルニ非サレハ神社ニ在リテハ祭典儀式ノ執行、寺院ニ在リテハ傳法、布敎、法要執行及僧尼止住ノ目的以外ニ濫ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第十七條　第五條第一項但書、第七條、第九條、第十條又ハ第十五條ニ依リ寺院ヨリ提出スル願書ニハ其ノ所屬宗派管長ノ意見書ヲ添附スヘシ

第十八條　本令ニ依ル屆出ハ其ノ事故ノ生シタル日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲スヘシ

第十九條　本令中寺院ニ關スル規定ハ內地ニ於ケル佛道各宗派ニ屬スルモノニ限リ之ヲ適用ス

第二十條　許可ヲ受ケスシテ神社寺院又ハ之ニ類似ノ建造物ヲ設ケタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存在スル神社又ハ寺院ハ本令施行ノ日ヨリ五月內ニ第一條又ハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

●神職任用奉務及服裝規則

（大正五年六月二十九日朝鮮總督府令第五十號）
（改正　大正一〇年第四七號）

神職任用奉務及服裝規則左ノ通定ム

神職任用奉務及服裝規則

第一章　任用

第一條　年齡二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ非サレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス

一　社司社掌試驗ニ合格シタル者

二　道府縣ノ社司社掌試驗ニ合格シタル者

三　官國幣社神職試驗ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職タリシ者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ社司社掌ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　禁治產者、準禁治產者

四　懲戒免官又ハ免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條　朝鮮總督府ニ社司社掌試驗委員ヲ置キ社司社掌ノ試驗ヲ行フ

社司社掌試驗委員ハ委員長一人、委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　委員長及委員ハ朝鮮總督府ノ高等官中ニ就キ之ヲ命ス

委員ハ前項ノ官吏以外ノ者ニ囑託スルコトアルヘシ

第五條　社司社掌試驗委員長ハ社司社掌試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ付與スヘシ

第六條　社司社掌試驗ヲ施行セムトスルトキハ社司社掌試驗委員長ハ豫メ其ノ期日及場所等ヲ朝鮮總督府官報ヲ以テ公告スヘシ

第七條　社司社掌試驗ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

一　祭式

二　倫理

三　國文　作文ハ祝詞體、公文體

四　國史

五　法制　神社ニ關スル現行法規

六　算術

第八條　試驗ニ關スル細則ハ社司社掌試驗委員長之ヲ定メ報告スヘシ

第九條　左ニ掲クル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ詮衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

一　官國幣社及神宮神部署神職任用令第九條第一號乃至第三號、第五號又ハ第七號ニ掲クル者

二　皇典講究所ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階ヲ附與シタル者

三　判任待遇以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祝詞作文及祭式ヲ修メタル者

第十條　神社ニ神職ノ闕員アルトキハ崇敬者總代ハ三十日以內ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ朝鮮總督ニ推薦スヘシ但シ現ニ朝鮮內ノ神社ニ奉職スル者ニ在リテハ履歷書及資格證明書ヲ省略スルコトヲ得

朝鮮總督ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムル

トキハ更ニ候補者ノ推薦ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ崇敬者總代ハ前項ノ例ニ依リ之カ推薦ヲ爲スヘシ

第二章　奉務

第十一條　神職ハ國家ノ禮典ニ則リ國家ノ宗祀ニ從フヘキ職司ナルヲ以テ平素國典ヲ修メ國體ヲ辨シ操行ヲ正シクシテ其ノ本務ニ盡スヘシ

第十二條　祭祀ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齊肅恭敬ヲ旨トシ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第十三條　祭典ハ制規ニ據リ之ヲ行ヒ非常ノ事故アル場合ヲ除クノ外濫ニ其ノ次第ヲ變更シ又ハ其ノ時間ヲ伸縮スヘカラス但シ古來ノ儀式ニ遵ヒ神社慣行ノ神賑等ハ適宜之ヲ行フコトヲ得

第十四條　臨時祭ヲ行ハムトスルトキハ所轄警察官署ニ通知スヘシ

第十五條　神札ハ崇敬者以外ノ者ニ之ヲ配授スルコトヲ得ス但シ其ノ請求ニ依リ之ヲ授與スルヲ妨ケス

第十六條　神職ハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外其ノ奉仕スル神社所在地ノ府面內ニ居住スヘシ

第十七條　神職ハ社殿及境內ノ清潔修理ニ注意シ神社ノ尊嚴ヲ保持スルニ努ムヘシ

第十八條　神職ハ火災盜難等ノ豫防ニ付周到嚴密ヲ期シ豫メ取締方法ヲ定メ常ニ警戒注意ヲ爲スヘシ

第十九條　神職ハ神社所藏ノ寶物、貴重品、古文書等ニ付格護ノ方法ヲ設ケ常ニ之カ整理保存ニ注意スヘシ

第二十條　神職ハ神社金穀ノ出納及財產ノ管理ニ關シ平素其ノ會計收支ヲ明確ニシ苟モ公私混淆ノ嫌アルヘカラス

第二十一條　神職ハ常ニ境內ノ樹木ニ付森嚴ナル風致ヲ保ツニ努メ殊ニ其ノ所屬山林ニ付テハ保護植栽ヲ怠ルヘカラス

第三章　服裝

第二十二條　神職服裝ヲ分チテ正裝、禮裝及常裝ノ三種トス

正裝トハ衣冠ヲ著用スルヲ謂フ

禮裝トハ齋服ヲ著用スルヲ謂フ

常裝トハ狩衣又ハ淨衣ヲ著用スルヲ謂フ

第二十三條　正裝ハ皇族參拜ノトキ及大祭ノ場合ニ著用スルモノトス

第二十四條　禮裝ハ中祭ノ場合ニ著用スルモノトス

第二十五條　常裝ハ小祭、日拜及恆例トシテ行フ式等ノ場合ニ著用スルモノトス

附　則

本令施行ノ際現ニ神社寺院規則附則第二項ノ神社ニ奉職スル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銓衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

●神祠ニ關スル件

（大正六年三月二十二日朝鮮總督府令第二十一號）

神祠ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　本令ニ於テ神祠ト稱スルハ神社ニ非スシテ公衆ニ參拜セシムル爲神祇ヲ奉祀スルモノヲ謂フ

第二條　神祠ヲ設立セムトスルトキハ崇敬者ト爲ルヘキ者十人以上連署シ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　設立事由
二　神祠稱號
三　設立地名
四　祭神
五　建物及敷地ノ坪數並建物ノ構造、圖面
六　設立費及其ノ支辨方法
七　維持ノ方法

第三條　前條第二號乃至第五號又ハ第七號ニ揭クル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　神祠ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由及敷地、建物等ノ處分方法ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ他ノ神祠ニ合祀セムトスルトキ亦同シ

第五條　神祠ニハ崇敬者ノ協議ヲ以テ總代ヲ定メ其ノ住所及氏名ヲ神祠所在地ヲ管轄スル道【長官】ニ屆出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第六條　崇敬者總代ハ神祠ニ屬スル一切ノ事務ヲ擔任ス

第七條　崇敬者總代ハ神祠ノ祭祀ヲ神職ニ委託シ其ノ住所及氏名ヲ道【長官】ニ屆出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

地方ノ狀況ニ依リ前項ノ委託ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ道【長官】ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●寺刹令

（明治四十四年六月三日制令第七號）

寺刹令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

寺刹令

第一條　寺刹ヲ併合、移轉又ハ廢止セムトスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ其ノ基址又ハ名稱ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第二條　寺刹ノ基址及伽藍ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ傳法、布敎、法要執行及僧尼止住ノ目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第三條　寺刹ノ本末關係、僧規、法式其ノ他必要ナル寺法ハ各本寺ニ於テ之ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　寺刹ニハ住持ヲ置クコトヲ要ス

住持ハ其ノ寺刹ニ屬スル一切ノ財產ヲ管理シ寺務及法要執行ノ責ニ任シ寺刹ヲ代表ス

第五條　寺刹ニ屬スル土地、森林、建物、佛像、石物、古文書、古書畫其ノ他ノ貴重品ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第六條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　本令ニ規定スルモノノ外寺刹ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（明治四十四年朝鮮總督府令第八十三號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●寺刹令施行規則

（明治四十四年七月八日朝鮮總督府令第八十四號　改正　大正一三年第六九號）

寺刹令施行規則左ノ通定ム

寺刹令施行規則

第一條　住持ヲ定ムル方法、住持ノ交替手續及其ノ任期中死亡其ノ他ノ事故ニ因リ缺員ヲ生シタル場合ニ於ケル寺務取扱方法ハ寺法中ニ之ヲ規定スヘシ

第二條　左ニ揭クル寺刹ノ住持ノ就職ニ付テハ朝鮮總督ニ申請シ認可ヲ受クヘシ

京畿道廣州郡	奉恩寺
同　水原郡	龍珠寺
同　楊州郡	奉先寺
同　江華郡	傳燈寺
忠淸北道報恩郡	法住寺
同　南道公州郡	麻谷寺
全羅北道全州郡	威鳳寺
同　錦山郡	寶石寺
同　南道海南郡	大興寺
同　長城郡	白羊寺
同　順天郡	松廣寺
同　同	仙巖寺
同　求禮郡	華嚴寺
慶尙北道大邱府	桐華寺
同　永川郡	銀海寺
同　義城郡	孤雲寺
同　聞慶郡	金龍寺
同　長鬐郡	祇林寺
同　南道陝川郡	海印寺
同　梁山郡	通度寺
同　釜山府	梵魚寺
黃海道信川郡	貝葉寺
同　黃州郡	成佛寺
平安南道平壤府	永明寺
同　順安郡	法興寺
同　北道寧邊郡	普賢寺
江原道杆城郡	乾鳳寺
同　高城郡	楡岾寺
同　平昌郡	月精寺
咸鏡南道安邊郡	釋王寺
同　咸興郡	歸州寺

前項以外ノ寺刹ノ住持ノ就職ニ付テハ地方長官ニ申請シ認可ヲ受クヘシ

第三條　前條認可ノ申請書ニハ住持タルヘキ者ノ身分、年齡及修行履歷書ヲ添附スヘシ

第四條　住持ノ任期ハ三年トス但シ任期滿了ノ後再任スルコトヲ妨ケス

第五條　住持犯罪其ノ他不正ノ行爲アリタルトキ又ハ職務ヲ怠リタルトキハ其ノ就職ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第六條　前條ニ依リ認可ヲ取消サレタル者ハ寺法ノ定ムル所ニ依リ一切ノ事務ヲ引繼キ一週間以內ニ其ノ寺刹ヲ退去スヘシ

第七條　住持ハ寺刹ニ屬スル土地、森林、建物、佛像、石物、古文書、古書畫、梵鐘、經卷、佛器、佛具其ノ他貴重品ノ目錄書ヲ作リ住持就職後五月以內ニ之ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

前項ノ財產ニ增減異動アリタルトキハ五日以內ニ之ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第八條　第七條ノ屆出ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス第六條ノ規定ニ違反シタル者亦同シ

附　則

本令ハ寺刹令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各本寺ニ於テハ本令施行後五月以內ニ寺法ノ認可ヲ申請スヘシ

本令施行ノ際住持ナキ寺刹ハ慣例ニ從ヒ本令施行後三月以內ニ之ヲ定メ其ノ認可ヲ申請スヘシ

●寺刹ヨリ提出ノ願屆經由方

（大正二年十月二十七日朝鮮總督府訓令第五十五號）

朝鮮總督府所屬官署

寺刹ヨリ行政官廳ニ提出スル諸般ノ願屆ハ總テ其ノ本寺ヲ經由セシムヘシ但シ本寺ニ於テ其ノ經由ヲ拒ミタルトキ又ハ事緊急ヲ要シ本寺ヲ經由スルノ遑ナシト認ムルトキハ願屆ニ其ノ事由ヲ具セシメ直ニ受理スルコトヲ得

●縣社以下神社ノ創立移轉廢止合併等ニ關スル規則

（大正十二年六月二十三日臺灣總督府令第五十六號）

縣社以下神社ノ創立、移轉、廢止、合併等ニ關スル規則左ノ通相定ム

縣社以下神社ノ創立、移轉、廢止、合併等ニ關スル規則

第一條　神社ハ本殿、拜殿、社務所、手水舍、鳥居ヲ備ヘ其ノ他祭典ニ必要ナル設備アルヲ要ス

第二條　神祇ヲ奉祀スルモノ本令ニ依ルニ非サレハ神社ト稱スルコトヲ得ス

第三條　祭神ノ靈代ハ拜觀スルコトヲ得ス

當該神職ハ特別ノ事由アルトキニ限リ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ靈代ヲ拜觀スルコトヲ得

第四條　神社ノ再興、其ノ他ノ事故ニ依リ新ニ靈代ノ調進ヲ要スルトキハ神社ハ其ノ事由ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　知事又ハ廳長ハ社格ノ詮議ヲ臺灣總督ニ具申スルコトヲ得

第六條　鎭座式ヲ了シタルトキハ知事又ハ廳長ハ一月內ニ別記樣式ニ依リ神社臺帳二通ヲ作製シ一通ヲ臺灣總督ニ進達スヘシ

神社ニハ神社臺帳ノ謄本ヲ備付クヘシ

神社臺帳記載事項ニ附加、變更、訂正ノ要アリト認メタルトキハ神社ハ直ニ其ノ旨知事又ハ廳長ニ申請スヘシ

第七條　神社ヲ創立セムトスルトキハ氏子又ハ崇敬者トナルヘキ者五十人以上連署ヲ以テ其ノ事由ヲ具シ左記事項ニ關スル調書ヲ添ヘ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　祭神及靈代
二　神社名
三　鎭座地ノ位置並其ノ周圍ノ狀況
四　境內地坪數
五　社殿其ノ他境內地ニ於ケル工作物ノ圖面、配置圖及設計書
六　建造費及其ノ處辨方法
七　社殿ノ起工、竣工豫定日時
八　例祭日
九　維持方法

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　神社ヲ再興セムトスルトキハ氏子又ハ崇敬者トナルヘキ者三十人以上ノ連署ヲ以テ其ノ事由ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　神社ヲ移轉セムトスルトキハ神社ハ其ノ事由並左記事項ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　移轉先位置並其ノ周圍ノ狀況
二　境內地坪數
三　社殿其ノ他境內地ニ於ケル工作物ノ圖面、配置圖及設計書
四　移轉費及其ノ處辨方法
五　移轉ヲ終ルヘキ豫定日時

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　神社ヲ廢止シ又ハ合併セムトスルトキハ神社ハ其ノ事由並左記事項ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　靈代ノ處置
二　財產ノ處分方法

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　神社ノ創立、再興、移轉、廢止又ハ合併ノ許可ヲ受ケタル者二年內ニ建設、再興、移轉、廢止又ハ合併ヲ爲ササルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ臺灣總督ハ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

第十二條　本殿亡失ノ日ヨリ五年內ニ再建セサルトキハ神社ハ廢止シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由アルトキハ臺灣總督ハ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　社殿ノ新築、改築又ハ模樣替ヲ爲サムトスルトキハ神社ハ其ノ事由並左記事項ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

一　圖面及設計書
二　工事費及其ノ處辨方法
三　竣工豫定日時

第十四條　神社ハ知事又ハ廳長ノ指揮ヲ受ケ所轄地方廳名ノ制札ヲ建設スルコトヲ得

制札ニ記載スヘキ禁止事項ノ概目左ノ如シ

一　觸穢參入ノコト
一　車馬ヲ乘入ルルコト
一　魚鳥ヲ捕フルコト
一　竹木ヲ伐ルコト

第十五條　境內地ノ增減又ハ社殿以外ノ工作物ノ新築、改築、模樣替ヲ爲サムトスルトキハ神社ハ其ノ事由並圖面、配置圖、設計書及費用處辨ノ方法ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條　境內地ノ竹木ニシテ由緖アルモノ及風致ニ必要ナルモノハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第十七條　境內地ノ枯損竹木又ハ障碍竹木ヲ採取セムトスルトキハ神社ハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　社殿其ノ他ノ工作物ノ造修用材ニ必要ナルトキハ神社ハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケ境內地ノ竹木ヲ伐採スルコトヲ得但シ神社ノ移轉、合併又ハ災害復舊ノ場合ヲ除クノ外目通直徑一尺以上ノ樹木ノ一割ヲ超過スルコトヲ得ス

第十九條　民有境內地ノ竹木ニシテ伐採ノ必要アルトキハ地主ノ所有タル確證アルモノハ地主ヨリ神社ニ要求シ神社ニ於テハ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十條　知事又ハ廳長ニ於テ境內地ノ林藪經營又ハ保護上必要アリト認ムルトキハ神社ニ對シ其ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十一條　境內地ニ於テハ土石、切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　境內地ニ接續スル土地ニ火入ヲ爲サムトスル者ハ境內地ニ對スル防火ノ設備ヲ爲シ郡役所、支廳若ハ警察官署ヲ經由シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

知事又ハ廳長ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十三條　境內地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其ノ神社以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一　一時限ノ使用
二　參拜者休息所等其ノ使用六月內ニ止マルモノ
三　公益ノ爲ニスル使用ニシテ境內地ノ目的ヲ損セサルモノ

前項ノ使用ヲ爲サムトスル者ハ神社ノ承認ヲ受クヘシ但シ第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ神社ノ承認書ヲ添ヘ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條　知事又ハ廳長ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ境內地ヲ使用スル者ニ對シ其ノ使用ヲ禁止シ又ハ建物ノ改造撤去其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一　神社ノ爲メ必要アリト認メタルトキ
二　公益上必要アリト認メタルトキ
三　法令若ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ

第二十五條　境內地ニ近接セル社有林ニ付テハ知事又ハ廳長ハ其ノ區域ヲ指定シ境內地ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得

第二十六條　神社ハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建造物、寶物等ヲ拜觀セシムル爲メ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第二十七條　神社ノ提出スヘキ願屆書等ニハ神職及總代連署スヘシ

第二十八條　第二十二條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項若ハ第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年府令第四十七號中神社ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

神社臺帳樣式（用紙美濃）

神社臺帳第　　號

一		二	三	四	五	六	七	八	九	一〇		一一
社格	神社名	祭神	列格及昇格年月日	境内地坪數	境内建物坪數	創立、移轉等許可年月日	鎭座、遷座年月日	祭日	氏子區域及氏子戸數	神職ノ職氏名	定員社司社掌名	總代住所氏名
鎭座地												

（一）

記事

（二）

沿革

備考

一　祭神名ノ下ニハ御靈代ヲ附記スヘシ

一　境内地坪數及境内建物坪數ハ各其ノ總坪數ヲ記入スヘシ

一　創立、移轉等許可年月日ノ項ニハ創立、移轉、廢止、合併又ハ本殿ノ改築許可年月日ヲ記入シ更ニ沿革欄ニ於テハ其ノ指令番號及事由等ヲ記載スヘシ

一　祭日ノ項ニハ例祭日及其ノ神社特定ノ祭典ノ名稱竝其ノ月日ヲ記載スヘシ

一　氏子戸數ハ内地人、本島人ニ區別シテ記載スヘシ但シ本島人ハ所帶數ヲ以テ戸數ト看做ス

一　神職ノ職氏名ハ（社司社掌）（何某何某）ト記載シ位勳等ヲ有スルモノハ職名ノ下ニ（正何位勳何等）ト記載スヘシ但シ上段右側ヨリ書キ始ムヘシ

一　臺帳初表記載事項ノ說明若ハ異動ヲ記事欄ニ記入セムトスル場合ニハ當該項ノ番號ヲ標記スヘシ

一　債務ヲ有スル神社ニ在リテハ記事欄ニ各々種目ヲ標記シ借地ニ付テハ座落、地番、地目、甲數、地主名、期限（何年何月何日ヨリ何年何月何日迄）及料金（一年又ハ一月）等ヲ負債ニ付テハ金額、數量、利率、期限等ヲ記載スルノ外各其ノ使用ノ目的ヲモ附記スヘシ債務ノ償還ヲ了ヘタルトキハ各其ノ年月日ヲ記載スヘシ

一　沿革欄ニハ神社ノ創立緣起、移轉、廢合等ニ關スル事項ハ勿論苟モ神社誌トシテ後日ノ參考ト爲ルヘキモノハ洩ナク記載スヘシ

（三）

所屬財產（土地）

座落	地番	地目	甲數	業主、管理人	收益（一箇年ノ）	境内外ノ區別	備考

備考

一　登錄ヲ抹消シ又ハ變更シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ備考ニ記入スヘシ

一　神社備付ノ臺帳ニハ地目ノ下ニ「地價」ノ一欄ヲ增設シ取得ノ原因ヲ備考ニ記入スヘシ

（四）

所屬財產（社殿其ノ他ノ工作物）

種類名稱	番號	構造	建坪又ハ間數	座落	地番	地目	甲數	境内外ノ區別	備考

備考

一　登錄ヲ抹消シ又ハ變更シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ備考欄ニ記入スヘシ

一　社殿其ノ他ノ工作物ニ在リテハ建第何號トシテ登錄スヘシ

一　神社備付ノ臺帳ニハ取得ノ原因ヲ備考欄ニ記入スヘシ

（五）

所屬財產（金穀證券）

種類	額面數量	保管者	一箇年又ハ一箇月ノ收益	備考

備考

一　一時限ノ預金ハ登錄ニ及ハス

（六）

一 種類ニハ郵便貯金、銀行貯金、勸業債券等記入スヘシ
一 備考欄ニハ取得ノ原因及亡失等ノ事由並各其ノ年月日ヲ記入スヘシ但シ削除ノ際ハ朱線ヲ施スヘシ

（七）

所屬財產（寶物、貴重品、什器）

種別	名稱	數量	形狀寸法	備考

備考

一 種別ニハ「寶物」「貴重品」ト記入シ備考欄ニハ取得ノ原因及亡失ノ事由並各其ノ年月日等ヲ記載スヘシ但シ削除ノ際ハ朱線ヲ施スヘシ

（八）

神社境内建物配置圖（縮尺六百分ノ一又ハ千二百分ノ一）

備考

一 境内建物配置圖ニハ周圍ノ狀況ヲモ記載スヘシ

●寺教務所說教所建立廢合規則

（明治三十二年六月十六日臺灣總督府令第四十七號）
改正 大正一一年第一四五號、一二年第五六號（神社ニ關スル規定廢止）

【社】寺教務所說教所建立廢合規則左ノ通相定ム

第一條 【社】寺教務所（教會所社務所ノ類）說教所（說教ノミニ使用スルモノ）ノ建立移轉改稱廢合ハ此規則ニ依ルヘシ

第二條 【神社ハ本殿拜殿ヲ有シ其他祭典ニ必要ナル設備アルヲ要ス】

第三條 寺院ハ本堂庫裏ヲ有シ其他法用ニ必要ナル設備アルヲ要ス

第四條 【神社】又ハ寺院ヲ建立セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 【神社ハ社號及祭神】
二 寺院ハ寺院號及宗旨
三 建立スヘキ地名
四 建物竝境内ノ坪數及圖面
五 境内官地民地ノ區別
六 維持ノ方法
七 【分社】又ハ末寺ニ係ルトキハ其【本社】又ハ本寺ノ承認ヲ得タルコト
八 在來ノ廟宇等ヲ【社】寺ニ充ントスルトキハ其廟宇等ノ建物竝境内ノ坪數附屬財產ノ數額及賣買貸借等ノ關係

第五條 前條ノ許可ヲ得テ【社】寺ヲ建立シタルトキハ左ノ諸件ヲ具シ五日内ニ管轄地方廳ニ屆出ツヘシ

一 【遷座】又ハ入佛ヲ了シタル年月日
二 財產目錄
三 【氏子】又ハ檀家若ハ信徒ノ數
四 【受持神官】又ハ住職ノ本籍地現住所族稱氏名年齡及宗教上ノ資格

第六條 前條第二號第四號ニ掲ケタル事項ニ異動アリタルトキハ其旨五日内ニ管轄地方廳ニ屆出ツヘシ

第七條 【社】寺ヲ移轉セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 【社】寺號及所在地名
二 移轉スヘキ地名
三 移轉地ニ造營スヘキ【社】寺ノ建物竝境内ノ坪數及圖面
四 境内官地民地ノ區別
五 第四條第七號第八號ニ掲ケタル事項
六 移轉ヲ要スル理由

第八條 前條ノ許可ヲ得テ【社】寺ヲ移轉シタルトキハ其【遷座】又ハ入佛シタル年月日ヲ五日内ニ管轄地方廳ニ屆出ツヘシ

第九條 【社】寺號ヲ改稱セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 【社】寺號及所在地名
二 改稱スヘキ【社】寺號
三 改稱ヲ要スル理由

第十條 【社】寺ヲ廢合セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 【社】寺號及所在地名
二 建立許可ノ年月日
三 【分社】又ハ末寺ニ係ルトキハ其【本社】又ハ本寺ノ承認ヲ得タルコト
四 建物竝境内地其他所屬財產ノ處分方法
五 廢合ヲ要スル理由

第十一條 教務所又ハ說教所ヲ建立セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ管轄地方廳ノ認可ヲ請フヘシ

一 教務所又ハ說教所ノ名稱及建立スヘキ地名
二 教派ノ名稱
三 在來ノ廟宇等ヲ教務所又ハ說教所ニ充ントスルトキハ其廟宇等ノ建物竝境内ノ坪數所屬財產ノ數額及賣買貸借等ノ關係
四 教務又ハ說教ニ從事スヘキ者ノ本籍地現住所族稱氏名年齡及宗教上ノ資格

第十二條 前條第四號ニ掲ケタル事項ニ異動アリタルトキハ其旨五日内ニ管轄地方廳ニ屆出ツヘシ

第十三條 教務所又ハ說教所ヲ移轉セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ管轄地方廳ノ認可ヲ請フヘシ

一 教務所又ハ說教所ノ名稱及所在地名
二 移轉スヘキ地名
三 第十一條第三號ニ掲ケタル事項
四 移轉ヲ要スル理由

第十四條 教務所又ハ說教所ノ名稱ヲ改メタルトキハ左ノ諸件ヲ具シ管轄地方廳ニ屆出ツヘシ

一 教務所又ハ說教所ノ新舊名稱及所在地名
二 改稱シタル年月日
三 改稱シタル理由

第十五條 教務所又ハ說教所ヲ廢シタルトキハ左ノ諸件ヲ具シ五日内ニ管轄地方廳ニ屆出ツヘシ

一 教務所又ハ說教所ノ名稱及所在地名
二 建立認可ノ年月日及廢シタル年月日
三 廢シタル理由

第十六條 第四條乃至第十條ニ依リ差出スヘキ願屆書ニハ【神社ニ付テハ受持神官又ハ受持神官トナルヘキ者及氏子、信徒又ハ氏子信徒トナルヘキ者ノ總代二名以上】寺院ニ付テハ住職又ハ住職トナルヘキ者及檀家信徒又ハ檀家信徒トナルヘキ者ノ總代二名以上連署スヘシ

第十七條 此規則ヲ施行スルニ付細則ヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

附　則

第十八條 從來ノ建立ニ係ルモノハ此規則施行ノ日ヨリ六十日内ニ第四條第十一條ノ手續ヲナスヘシ

第十九條 本島ノ舊慣ニ依リ建立シタル在來ノ寺廟齋堂等ニハ此規則ヲ適用セス

●臺灣舊慣ニ依ル社寺廟宇等建立廢合移轉方

（明治三十二年七月十一日臺灣總督府令第五十九號）
改正 大正一一年第一三七號

本島ノ舊慣ニ依リ寺廟齋堂等ヲ建立シ又ハ神明會、祖公會等ヲ設立セムトスルトキハ管轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ廢止合併又ハ名稱變更若ハ寺廟齋堂等ヲ移轉セムトスル場合亦同シ

本令施行ニ關シ細則ヲ必要トスルトキハ地方長官之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

●社、遙拜所ニ關スル件

（大正十二年六月二十三日臺灣總督府令第五十七號）

社、遙拜所ニ關スル件左ノ通相定ム

社、遙拜所ニ關スル件

第一條 本令ニ於テ社ト稱スルハ神社ニ非スシテ公衆ニ參拜セシムル爲メ神祇ヲ奉祀スルモノヲ謂フ

第二條 社ヲ創立セムトスルトキハ崇敬者トナルヘキ者二十人以上連署ヲ以テ其ノ事由竝左記事項ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

一 祭神、靈代及社號
二 建設位置
三 建物、敷地及圖面、坪數竝周圍ノ狀況
四 建設費及其ノ處辨方法
五 起工、竣工豫定日時
六 維持方法

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 社ヲ移轉、廢止又ハ合併セムトスルトキハ社ハ其ノ事由ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ但シ移轉ノ場合ニ在リテハ前條第一項第二號乃至第五號ノ事項ヲ、廢止又ハ合併ノ場合ニ在リテハ敷地、建物等ノ處分方法ヲ具シ出願スヘシ

第四條 社ノ創立、移轉、廢止、合併ヲ了シタルトキ若ハ建物ヲ亡失シタルトキハ社ハ七日内ニ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第五條 第二條第一項又ハ第三條ノ許可ヲ受ケタル者一年内ニ建設、移轉、廢止又ハ合併ヲ爲ササルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

建物亡失ノ日ヨリ二年内ニ再建セサルモノハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第六條 社ハ崇敬者ノ協議ヲ以テ總代二名又ハ三名ヲ定メ其ノ原籍、住所、氏名ヲ具シ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第七條 知事又ハ廳長ハ總代ヲ不適任ト認メタルトキハ其ノ改選ヲ命シ又ハ之ヲ指定スルコトヲ得

第八條 總代ハ社ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任ス

第九條 總代ハ社ノ祭祀ヲ依託スヘキ神職ヲ定メ其ノ奉仕神社名及職、氏名ヲ具シ知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 建造物アル遙拜所ニ付テハ本令ヲ準用ス但シ一時限ノ遙拜所ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 社ノ建設ヲ了シタルトキハ知事又ハ廳長ハ十五日内ニ別記樣式ニ依リ臺帳二通ヲ作製シ一通ヲ臺灣總督ニ進達スヘシ

社臺帳ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ知事又ハ廳長ハ其ノ都度臺灣總督ニ報告スヘシ

第十二條 本令又ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外臺灣總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ公衆ヲ參拜セシムル爲メ鳥居其ノ他社ニ類似ノ設備ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ社ヲ創立シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ設立セル神社ニシテ本令ニ依リ社ニ該當スルモノハ本令施行ノ日ヨリ六十日内ニ第二條第一項ノ事項ヲ具シ知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ

知事又ハ廳長ニ於テ前條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ第十一條ノ規定ニ準シ社臺帳ヲ臺灣總督ニ進達スヘシ

第九條ノ規定ニ依リ依託スヘキ神職ヲ定ムルコト能ハサル地方ニ在リテハ當分ノ内知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ神社奉仕ノ心得アル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

本令施行ノ際第十二條ノ規定ニ違反スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日内ニ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

社臺帳樣式（用紙美濃）

社臺帳第　　號

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	
社名	所在地	祭神	境内地坪數	境内建物ノ名稱及坪數	創立許可年月日及指令番號	鎭座年月日	祭日ノ名稱及月日	崇敬者數若ハ維持區域	依託神職ノ氏名	總代ノ住所氏名	記事

備考

一 祭神ノ下ニハ靈代ニツキ括弧ヲ附シ例ヘハ（鏡）（木像）ノ如クニ記入スヘシ
一 境内地ハ坪數ノ下ニ括弧ヲ附シ（官地）又ハ（民地）ト區別シテ記入スヘシ
一 建物ノ名稱及坪數ノ項ハ建物毎ニ其ノ名稱及坪數ヲ分記スヘシ
一 祭日ノ名稱及月日ハ洩ナク記載スヘシ
一 依託神職ノ職氏名ハ何神社社司（社掌）何某ト記載スヘシ
一 記事欄ニハ社ノ創立緣起、沿革及其ノ他ノ異動事項ニツキ先ツ其ノ題目ヲ標記シ次ニ其ノ大要ヲ記載スヘシ
一 臺帳初表記載事項ノ說明若ハ異動ヲ記事欄ニ記入セムトスル場合ニハ初表ニ於ケル當該項ノ番號ヲ標記スヘシ
一 依託神職ノ報酬ハ其ノ月額又ハ年額ヲ記事欄ニ記載スヘシ

遙拜所臺帳樣式（用紙美濃）

遙拜所臺帳第　　號

一	遙拜所名稱	
二	所在地	
三	境內地坪數	
四	建物ノ種類及坪數	
五	創立許可年月日及指令番號	
六	式日	
七	維持者若ハ維持區域	
八	管理者ノ住所氏名	
記事		

備考

一　境內地ハ坪數ノ下ニ括弧ヲ附シ（官地）又ハ（民地）ト區別シテ記入スヘシ

一　式日ノ項ニハ主ナル式ノ名稱及月日ヲ記載スヘシ

一　維持者ニ就テハ維持者兩三名ナルトキハ其ノ姓名ヲ列擧シ其ノ以上ナルトキハ何某外何名ト記入スヘシ

一　記事欄ニハ遙拜所ノ創立緣起、沿革及其ノ他ノ異動事項ニツキ先ツ其ノ題目ヲ標記シ次ニ其ノ大要ヲ記載スヘシ

一　臺帳記載事項ノ說明若ハ異動ヲ記事欄ニ記入セムトスル場合ニハ初表ニ於ケル當該項ノ番號ヲ標記スヘシ

一　特ニ遙拜スヘキ神社ヲ定メタルモノハ其ノ神社名ヲ記事欄ニ記入スヘシ

一　式日ニ當リ儀禮ヲ執行スヘキモノヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ職業氏名ヲ記事欄ニ記入スヘシ

一　建物ナキ遙拜所ニ付テハ初表第四項及第五項中「許可」竝「指令番號」ノ記入ヲ要セス

●縣社以下神社神職任用規則

（明治三十七年二月十三日臺灣總督府令第十二號　改正　明治四二年第七〇號　大正元年第五九號）

縣社以下神社神職任用規則左ノ通相定ム

縣社以下神社神職任用規則

第一條　此ノ規則ニ定ムル社司社掌試驗ニ及第シタル者ニシテ年齡滿二十歲以上ノ男子又ハ明治三十五年內務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則ニ依ル社司社掌試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ社司若ハ社掌ニ補スルコトヲ得ス

官國幣社神職試驗ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職タル者及神職タリシ者ハ試驗ヲ要セス社司若ハ社掌ニ補スルコトヲ得

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　禁治產者、準禁治產者

四　懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條　社司社掌試驗ハ社司社掌試驗委員之ヲ施行ス

社司社掌試驗委員ハ臺灣總督之ヲ選任ス

第四條　社司社掌試驗ノ合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第五條　社司社掌試驗ノ期日及場所ハ豫メ官報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條　社司社掌試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一　祭式

二　倫理

三　國文　作文ハ祝詞體公文體

四　國史

五　法制　現行神社法令

六　算術

第七條　試驗ニ關スル細則ハ社司社掌試驗委員ニ於テ之ヲ定メ臺灣總督ニ報告スヘシ

第八條　左ニ揭クル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銓衡ヲ經テ社司若ハ社掌ニ補スルコトヲ得

一　官國幣社及神部署任用令第九條第一號第二號第三號及第五號ニ揭ケタル者

二　皇典講究所ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階司業（社司ニ在リテハ六等以上社掌ニ在リテハ八等以上）ヲ付與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ

三　判任官待遇以上ノ職ニ在リシ者ニシテ祝詞、作文、祭式ヲ修メタルモノ

四　內務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者

第九條　神社ニ神職ノ闕員アルトキハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ三十日內ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ管轄廳ヲ經テ臺灣總督ニ推薦スヘシ但シ本島內神社在職者ニ在リテハ履歷書及資格證明書ヲ省クコトヲ得

臺灣總督ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ候補者ノ推薦ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ氏子總代若ハ崇敬者總代ハ前項ノ例ニ依リ之カ推薦ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●縣社以下神社神職俸給規則

（大正十三年九月九日臺灣總督府令第七十四號）

縣社以下神社神職俸給規則左ノ通相定ム

縣社以下神社神職俸給規則

第一條　縣社以下神社神職ノ俸給ハ別表ニ依リ神社ヨリ之ヲ支給スヘシ

第二條　社司、社掌ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　社司、社掌ニシテ五年以上其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ成績優等ナル者ハ特ニ月額五十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第四條　社司、社掌ノ俸給ハ六級俸以下ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　社掌二名以上奉仕スル神社ニ在リテハ內若干名ヲ名譽職ト爲スコトヲ得

名譽職タル社掌ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第六條　社司、社掌死亡シタルトキハ在職最終月俸ノ四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項ノ遺族ト稱スルハ配遇者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戶籍內ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第七條　月俸ハ每月下旬之ヲ支給スヘシ

前項ノ外俸給及手當ノ支給ニ關シテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル

第八條　知事又ハ廳長ハ社司、社掌ノ俸給額ヲ決定シ又ハ增給シタルトキハ其ノ都度臺灣總督ニ報告スヘシ名譽職タル社掌ニ手當ヲ支給スル場合亦同シ

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

知事又ハ廳長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ當分ノ內本令ニ依ラサルコトヲ得

（別表）

職名＼級俸	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
社司	一五〇	一四〇	一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇	九五	九〇	八五	八〇
社掌	一二〇	一一〇	一〇〇	九〇	八五	八〇	七五	七〇	六五	六〇

●縣社以下神社ノ總代ニ關スル規則

（大正十二年六月二十一日臺灣總督府令第五十五號）

縣社以下神社ノ總代ニ關スル規則左ノ通相定ム

縣社以下神社ノ總代ニ關スル規則

第一條　神社ニハ總代ヲ置クヘシ、其ノ員數ハ三名以上七名以下トス

第二條　總代ハ當該神社ノ氏子又ハ崇敬者ニシテ相當ノ學識又ハ財產ヲ有シ名望アル者ノ中ヨリ知事又ハ廳長之ヲ指定ス

第三條　總代ノ任期ハ三年トス但再任ヲ妨ケス

總代ノ任期滿了スルモ後任者確定スルニ至ルマテハ仍其ノ職務ヲ行フモノトス

總代ニシテ犯罪其ノ他不正行爲アルトキハ任期中ト雖モ前條ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　總代ニ缺員ヲ生シタルトキハ神社ハ其ノ事由ヲ具シ七日內ニ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

知事又ハ廳長前項ノ屆出ヲ受理シタルトキハ一月內ニ補缺員ヲ指定スヘシ

補缺員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第五條　總代ハ常ニ神社ノ奉護ニ留意シ其ノ隆昌ヲ圖ルヘシ

總代ハ神社ノ財產管理、維持經營其ノ他重要ナル事項ニ關シ神職ノ協議ニ應スヘシ

總代ハ神社ニ關スル願屆ニ連署スヘシ

第六條　神職死亡其ノ他ノ事故ニ依リ神職ヲ缺クトキハ總代ハ其ノ事由ヲ具シ七日內ニ知事又ハ廳長ニ屆出ツヘシ

第七條　神社ニ神職ヲ缺クトキハ總代ハ神社財產ノ管理、維持ニ關スル一切ノ事項ヲ管掌シ其ノ責ニ任ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ總代タル者ハ第一條ノ規定ニ拘ラス第二條ニ依リ指定シタルモノト看做ス但シ任期ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ起算ス

●神社寺院等ノ所屬財產賣渡讓與交換其ノ他ノ處分ヲ爲ストキ取扱方

（明治三十八年十一月十日臺灣總督府令第八十四號　改正　明治三九年第一二號）

神社（臺灣神社ヲ除ク）寺院又ハ本島ノ舊慣ニ依ル寺廟等ノ所屬財產ヲ賣渡、讓與、交換又ハ其ノ他ノ處分ヲ爲シ或ハ之ヲ擔保ノ目的ニ供セントスルトキハ之ヲ必要トスル理由及其ノ年ノ收支豫算竝前年ノ收支決算ヲ記載シ氏子、檀家又ハ信徒總代二名以上連署ノ上神職、住職又ハ管理人ヨリ願出テ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

明治三十一年八月臺南縣令第十九號ハ之ヲ廢止ス

●神社規則

（大正九年十二月三十日樺太廳令第四十八號）

神社規則左ノ通定ム

神社規則

第一條　神社ヲ創立セムトスルトキハ崇敬者トナルヘキ者三十人以上ノ連署ヲ以テ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　創立ノ事由

二　神社名

三　建設地

四　祭神

五　例祭日

六　建物及境內地ノ坪數、圖面竝境內地周圍ノ狀況

七　創立費及其ノ支辨方法

八　維持方法

九　崇敬者トナルヘキ者ノ戶數

第二條　神社ヲ移轉セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　移轉ノ事由

二　移轉地

三　建物及境內地ノ坪數、圖面竝境內地周圍ノ狀況

四　移轉費及其ノ支辨方法

第三條　神社ノ創立又ハ移轉ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年內ニ本殿ヲ建設セス又ハ移轉セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

建設又ハ移轉ヲ竣リタルトキハ十日內ニ別記樣式ニ依リ明細書ヲ調製シ其ノ謄本ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ明細書記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　神社ヲ廢止シ又ハ合併セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　廢止又ハ合併ノ事由

二　廢止又ハ合併スヘキ神社及其ノ所在地

三　合併後存續スヘキ神社及其ノ所在地

四　社殿其ノ他財產ノ處分方法

廢止又ハ合併ヲ了リタルトキハ十日內ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第五條　神社建物ノ一部又ハ全部亡失シタルトキハ其ノ日時及顚末ヲ詳具シ五日內ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

本殿亡失後五年內ニ再建セサルトキハ神社ハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由アルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

第六條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　神社ノ名稱、祭神、例祭日又ハ維持方法ヲ變更セムトスルトキ

二　神社ノ建物又ハ境內地ヲ增減セムトスルトキ

三　不動產ヲ賣却、讓與又ハ交換セムトスルトキ

四　負債ヲ爲サムトスルトキ

五　負擔附ノ寄附ヲ受ケムトスルトキ

前項第二號ノ場合ハ增減スヘキ建物又ハ境內地ノ坪數及之ヲ表示シタル圖面竝費用及其ノ支辨方法ヲ第四號ノ場合ハ負債ノ額及其ノ償還方法竝不動產ヲ擔保ニ供スルトキハ其ノ種類員數ヲ詳具スヘシ

第七條　神職交替シタルトキハ後任者著任後十日內ニ崇敬者總代ノ立會ヲ以テ社務ノ引繼ヲ爲スヘシ

神職死亡其ノ他ノ事故ノ爲社務ノ引繼ヲ爲ス能ハサル場合ハ崇敬者總代ノ立會ヲ以テ後任者ニ於テ引繼調書ヲ作製スヘシ

社務ノ引繼ヲ終了シ又ハ引繼調書ヲ作製シタルトキハ三日內ニ所轄樺太廳支廳長ニ届出ツヘシ

第八條　神社ニハ崇敬者中ヨリ選出セル崇敬者總代三人以上ヲ置キ其ノ住所氏名ヲ所轄樺太廳支廳長ニ届出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

崇敬者總代ノ任期ハ三年トス

樺太廳支廳長ハ崇敬者總代ヲ不適任ト認ムルトキハ臨時改選セシムルコトヲ得

崇敬者總代ハ神社ノ維持保存ニ關シ神職ヲ補助シ神社ニ關スル願届及負債若ハ不動產ノ得喪ニ關スル契約書ニ連署スヘシ

第九條　神職ハ神社ノ財產其ノ他重要ト認ムル事項ニ關シテハ崇敬者總代ト協定ノ上之ヲ處理スヘシ

第十條　神職ノ俸給額又ハ手當額ハ神職候補者推薦ノ際崇敬者總代會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ增減セムトスルトキ亦同シ

樺太廳長官ニ於テ推薦ニ依ラスシテ神職ヲ補命シタルトキハ補命後直ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　神職死亡シタルトキハ職員又ハ崇敬者總代ヨリ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第十二條　神職二十日以上ニ涉ル旅行ヲ爲サムトスルトキハ所轄樺太廳支廳長ニ届出ツヘシ

第十三條　社務ノ爲旅行スル神職ニ對シテハ其ノ神社ヨリ旅費ヲ支給スヘシ

旅費定額ハ崇敬者總代會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條　神社ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十五條　樺太廳支廳長ニ於テ必要ト認ムルトキハ神社ノ收支豫算書又ハ決算書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十六條　許可ヲ受ケスシテ神社ヲ創立シ又ハ神社類似ノモノヲ設ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十七條　本令ハ官國幣社ニハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存在スル神社ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ既ニ設立ヲ公認セラレタル神社ハ本令ニ依リ創立ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

（樣式）

神社明細書

何郡何町村大字何字何
何番地鎭座
何　神　社

一祭神　配祀
一由緒
一例祭　月　日
一社殿
　何々　坪數
　何々　坪數
一境內坪數
一境內神社　幾棟
　何神社
　祭神
　由緒
　社殿
　何々　坪數
　何々　坪數
一基本財產及不動產ノ種類竝額
一崇敬者戶數

備考
一由緒ハ神社ノ緣由、沿革等ノ外創立、廢合、移轉ニ關スル許可竝竣成年月日ヲモ詳記スヘシ
一社殿ハ拜殿又ハ社務所等建物ノ種類ニ依リ區分記載スヘシ
一境內地ニシテ神社ノ所有ニ屬セサルモノハ其ノ旨附記スヘシ

●寺院規則（大正九年十二月三十日樺太廳令第四十九號）

寺院規則左ノ通定ム

寺院規則

第一條　寺院ヲ創立セムトスルトキハ檀信徒トナルヘキ者三十人以上ノ連署ヲ以テ左記事項ヲ具シ所屬宗派管長ノ承認書ヲ添ヘ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　創立事由
二　寺院名
三　建設地
四　本尊
五　所屬宗派
六　建物及境內ノ坪數、圖面竝境內地周圍ノ狀況
七　創立費及其ノ支辨方法
八　維持方法及基本財產調書
九　檀信徒トナルヘキ者ノ戶數

第二條　寺院ハ本堂及庫裏ヲ備フヘシ

第三條　寺院ヲ移轉セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　移轉ノ事由
二　移轉地
三　建物及境內地ノ坪數、圖面竝境內地周圍ノ狀況
四　移轉費及其ノ支辨方法

第四條　寺院創立又ハ移轉ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年內ニ本堂及庫裏ヲ建設セス又ハ移轉セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

建設又ハ移轉ヲ竣リタルトキハ十日內ニ別記樣式ニ依リ明細書ヲ調製シ其ノ謄本ヲ樺太廳長官ニ提出スヘシ明細書記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　寺院ヲ廢止シ又ハ合併セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　廢止又ハ合併ノ事由
二　廢止又ハ合併スヘキ寺院及其ノ所在地
三　合併後存續スヘキ寺院及其ノ所在地
四　堂宇其ノ他財產ノ處分方法

廢止又ハ合併ヲ了リタルトキハ十日內ニ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第六條　寺院ノ建物ノ一部又ハ全部亡失シタルトキハ其ノ日時及顚末ヲ詳具シ五日內ニ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

本堂又ハ庫裏亡失後五年內ニ再建セサルトキハ寺院ハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由アルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

第七條　左ノ場合ニ於テハ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　寺院ノ名稱、本尊、所屬宗派又ハ維持方法ヲ變更セムトスルトキ
二　寺院ノ建物又ハ境內地ヲ增減セムトスルトキ
三　不動產ヲ賣却、讓與又ハ交換セムトスルトキ
四　負債ヲ爲サムトスルトキ
五　負擔附ノ贈與ヲ受ケムトスルトキ

前項第二號ノ場合ハ增減スヘキ建物又ハ境內地ノ坪數及之ヲ表示シタル圖面竝費用及其ノ支辨方法ヲ第四號ノ場合ハ負債ノ額及其ノ償還方法竝不動產ヲ擔保ニ供スルトキハ其ノ種類員數ヲ詳具スヘシ

第八條　寺院ニハ住職ヲ置キ寺院ニ關スル事務ヲ管理セシムヘシ

住職ヲ命セラレタル者ハ履歷書ヲ添ヘ本人ヨリ死亡其ノ他ノ事故ニ依リ住職ヲ闕キタルトキハ檀信徒總代ヨリ十日內ニ樺太廳長官ニ届出ツヘシ

第九條　寺院ニハ檀信徒中ヨリ選出セル檀信徒總代三名以上ヲ置キ其ノ住所氏名ヲ所轄樺太廳支廳長ニ届出ツヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

檀信徒總代ノ任期ハ三年トス

檀信徒總代ハ寺院ノ維持保存ニ關シ住職ヲ補助シ寺院ニ關スル願届及負債若ハ不動產ノ得喪ニ關スル契約書ニ連署スヘシ

第十條　住職ハ寺院ノ財產其ノ他重要ト認ムル事項ニ關シテハ檀信徒總代ト協定ノ上之ヲ處理スヘシ

第十一條　第三條、第五條第一項又ハ第七條第一項第一號ニ依リ提出スル願書ニハ其ノ所屬宗派管長ノ副書ヲ添附スヘシ

第十二條　許可ヲ受ケスシテ寺院ヲ創立シ又ハ寺院類似ノモノヲ設ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前設立ヲ公認セラレタル寺院ハ本令ニ依リ創立ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

（樣式）

寺院明細書

何郡何町村大字何字何
何番地何寺末
何宗何派　何　寺

一本尊
一由緒
一建物
　何々　坪數
　何々　坪數
一境內坪數
一境內佛堂　幾宇
　何堂
　本尊
　由緒
　建物
　何々　坪數
　何々　坪數
一基本財產不動產ノ種類竝額
一檀信徒戶數

備考
一由緒ハ創立寺號公稱廢合移轉等ノ許可竝竣成ノ年月日其ノ他緣由沿革ヲ詳記スヘシ
一境內地ニシテ寺院ノ所有ニ屬セサルモノハ其ノ旨附記スヘシ

●社司社掌任用規則（明治四十三年十月樺太廳令第二十九號　改正　大正一〇年第一號、第七號）

第一條　樺太ニ於ケル神社ノ社司社掌ハ本則ニ定ムル社司社掌試驗ニ及第シ又ハ明治三十五年內務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則ニ依ル社司社掌試驗ニ及第シタル者ヨリ之ニ補ス

第二條　年齡滿二十歲以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試驗ヲ受クルコトヲ得

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
三　禁治產者及準禁治產者
四　懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後滿二ケ年ヲ經過セサル者

第三條　社司社掌試驗ハ社司社掌試驗委員之ヲ行フ

社司社掌試驗委員ハ樺太廳長官之ヲ命免ス

第四條　社司社掌試驗ノ合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第五條　社司社掌試驗ノ期日及場所ハ豫メ官報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條　社司社掌試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一　祭式
二　倫理
三　國文　祝詞體普通文體
四　作文
五　法制　現行神社法令

第七條　試驗ニ關スル細則ハ社司社掌試驗委員ニ於テ之ヲ定メ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　官國幣社神職試驗ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職タル者及神職タリシ者ハ試驗ヲ要セス社司社掌ニ補スルコトヲ得

左ニ揭クル者ニシテ第二條各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銓衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得

一　官國幣社及神部署神職任用令第九條第一號第二號第三號及第五號ニ揭ケタル者
二　皇典講究所ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階ヲ付與シタル者
三　判任官待遇以上ノ職ニ在リシ者ニテ祝詞作文祭式ヲ修メタルモノ
四　內務大臣ノ委託ニヨリ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者

第九條　神社ニ神職ノ闕員アルトキハ支廳長ハ十五日以內ニ崇敬者總代ニ命シ候補者ヲ推薦セシムヘシ

第十條　崇敬者總代ハ前條ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ所轄出張所及支廳ヲ經テ樺太廳長官ニ推薦スヘシ

候補者ノ資格證明書ハ左ノ各號ニ依リ調製スヘシ但シ兼務推薦ノ場合ニ於テハ之ヲ要セス

一　明治三十五年內務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則第二條第一號第二號第三號ノ事實ニ就キ被推薦者所在地出張所長ノ證明書
二　官國幣社神職試驗合格證書寫
三　明治三十五年內務省令第四號府社縣社以下神社神職任用規則ニ依ル社司社掌試驗合格證書寫
四　同上第十一條第一號第三號第四號ニ當ル者ハ官職ノ辭令書、學校學館等ノ卒業證書、學階證書、國史、國文科教員免許狀及祭式、國典、祝詞作文ヲ修メタル證書ノ寫
五　同上第十一條第二號ニ當ル者ハ學階證書及祭式ヲ修メタル證書ノ寫

第十一條　推薦書ニハ社入金額及社司社掌ニ給スヘキ給料若ハ報酬額調書ヲ添フヘシ

第十二條　樺太廳長官ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ第九條ノ規定ニ依リ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル神社廟宇及寺院等ニ關スル件（大正十一年五月十六日勅令第二百六十二號）

朕關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル神社廟宇及寺院等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テ神社、廟宇及寺院教會其ノ他ノ布教所ヲ設立、移轉、廢止又ハ併合セムトスルトキハ關東長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ名稱又ハ維持ノ方法ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

關東長官ハ前項ニ定ムルモノヲ除クノ外神社、廟宇及寺院教會其ノ他ノ布教所ノ取締ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム

大正十一年勅令第二百六十二號ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年關東廳令第七十七號）

●關東州及南滿洲鐵道附屬地神社規則（大正十一年十月二十六日關東廳令第七十八號）

關東州及南滿洲鐵道附屬地神社規則左ノ通定ム

關東州及南滿洲鐵道附屬地神社規則

第一條　神社ノ設立ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ氏子又ハ崇敬者ト爲ルヘキ者三人以上ノ連署ヲ以テ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出ツヘシ

一　事由
二　設立地
三　神社名
四　祭神
五　例祭日
六　神殿、拜殿、鳥居其ノ他ノ建物ノ位置、構造及建坪竝境內地ノ位置、面積及模樣
七　設立費及其ノ支辨方法
八　維持方法

九　神職ト爲ルヘキ者ノ氏名
十　氏子又ハ崇敬者ト爲ルヘキ者ノ戸數
十一　神殿其ノ他ノ建物ノ起工及竣成豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第六號ノ事項及神社ノ周圍ノ狀況ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第二條　神社ノ移轉ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出ツヘシ

一　事由
二　移轉地
三　神殿、拜殿、鳥居其ノ他ノ建物ノ位置、構造及建坪竝境內ノ位置、面積及模樣
四　移轉費及其ノ支辨方法
五　神殿其ノ他ノ建物ノ起工及竣成豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第三號ノ事項及境內地周圍ノ狀況ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第三條　神社ノ廢止又ハ併合ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出ツヘシ

一　事由
二　廢止又ハ併合セラルヘキ神社ノ名稱及鎭座地
三　併合スヘキ神社ノ名稱及鎭座地
四　廢止又ハ併合セラルヘキ神社ノ社殿其ノ他ノ建物及財產ノ處分方法

第四條　神社ノ設立、移轉又ハ併合ノ許可ヲ受ケ二年內ニ之ヲ爲ササルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

神社ノ設立、移轉、併合又ハ廢止ヲ了シタルトキハ遲滯ナク關東長官ニ屆出ツヘシ

第五條　神社ニ於テ第一條第一項第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　事由
二　變更箇所及設計
三　所要ノ費用額及其ノ支辨方法
四　著手及竣成豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第二號ノ事項ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第六條　神社ニ於テ第一條第一項第二號乃至第五號、第七號乃至第九號及第十一號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條　神社ノ境內地ニ國家ニ功勞アル者又ハ頌揚スヘキ事蹟アル者ノ碑表又ハ形像ヲ建設セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ之ヲ移轉又ハ除去セムトスルトキ亦同シ

一　事由
二　碑表又ハ形像ノ位置
三　碑表又ハ形像ノ物質、形狀、寸尺及其ノ地盤ノ面積
四　工事費及其ノ支辨方法
五　起工及竣工豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第二號ノ事項ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第八條　神社ノ境內ハ其ノ神社以外ノ者ニ之ヲ使用セシムルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　一時之ヲ使用セシムルトキ
二　參拜者ノ休息所等トシテ一年內ノ期間之ヲ使用セシムルトキ
三　公益ノ目的ヲ以テ境內地ヲ損セサル範圍ニ於テ之ヲ使用セシムルトキ

前項但書第二號及第三號ノ規定ニ依リ神社ノ境內ヲ使用セシメムトスルトキハ神社ヨリ左ノ各號ノ事項ヲ具シ民政署長又ハ同支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　使用ノ目的及方法
二　使用セシムヘキ場所及其ノ面積
三　使用期間
四　使用料

第二項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第二號ノ事項ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第九條　神社ハ民政署長又ハ同支署長ノ指揮ヲ受ケ其ノ境內ニ關東廳名ノ制札ヲ設クルコトヲ得

第十條　神社ハ設立後遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル神社明細書ヲ調製シ之ヲ關東長官ニ提出スヘシ

一　神社名
二　鎭座地
三　祭神
四　配祀
五　神殿、拜殿、鳥居其ノ他ノ建物
六　境內社
七　境內地內碑表又ハ形像
八　境內地
九　例祭日
十　氏子又ハ崇敬者ノ戸數
十一　維持方法
十二　由緒沿革

第十一條　神社ハ設立後遲滯ナク其ノ所有ニ屬スル不動產及寶物ニ關シ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ屆出ツヘシ

一　土地ニ在リテハ其ノ所在地、地目、段別又ハ坪數及境內地又ハ境外地ノ區別
二　建物ニ在リテハ其ノ位置、名稱、構造、建坪又ハ間數及境內地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別
三　寶物ニ在リテハ名稱、員數、形狀、品質、寸尺、作者及傳來

前項ノ屆出ヲ爲シタル後屆出テタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク屆出ツヘシ

第十二條　神社ハ財產臺帳ヲ備ヘ其ノ所有ニ屬スル不動產及寶物ニ關シ前條各號ノ事項ヲ記載スヘシ

第十三條　神社ニ於テ其ノ建物ノ全部若ハ一部又ハ其ノ寶物ヲ亡失シタルトキハ其ノ日時及顚末ヲ具シ遲滯ナク關東長官ニ屆出ツヘシ

第十四條　神社ニ於テ社殿ノ要部ヲ亡失シタル後二年內ニ之ヲ再建セサルトキハ其ノ設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條　神社ノ財產ノ管理其ノ他重要ナル事項ニ付テハ神職ハ氏子總代又ハ崇敬者總代ト協議シテ之ヲ處理スヘシ

神社ニ於テ其ノ所有ニ屬スル不動產又ハ寶物ニ付賣却、貸付其ノ他ノ處分ヲ爲サムトスルトキ又ハ負債ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ關東長官ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第十六條　神社ノ神職ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ且庶務ニ從事スヘシ

神職ハ宗敎上ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第十七條　神職ハ氏子總代又ハ崇敬者總代之ヲ推薦スヘシ

前項ノ規定ニ依リ推薦ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出テ就職ノ認可ヲ受クヘシ

一　氏名、履歷
二　俸給又ハ手當額
三　他ノ神社ヨリ兼務スル者ニ在リテハ其ノ事項

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ資格ヲ證明スル書類ヲ添附スヘシ

第十八條　滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ非サレハ神職ト爲ルコトヲ得ス

一　師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史若ハ國語科ノ敎員免許狀ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタル者
二　中學校又ハ之ト同等以上ト認ムル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタル者
三　內務大臣ノ委託ニ依リ開設シタル皇典講究所神職養成部神職敎習科ヲ卒業シタル者
四　皇典講究所ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階ヲ付與シタル者
五　內務省、北海道廳、府縣廳、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳及樺太廳ニ於テ執行シタル神職高等試驗又ハ尋常試驗ノ合格證書ヲ有スル者
六　判任待遇以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祝詞作文及祭式ヲ修メタル者
七　現ニ社掌以上ノ職ニ在ル者
八　五年以上神社ノ雇員トシテ奉職シ現ニ其ノ職ニ在ル者

第十九條　神職死亡シタルトキハ他ノ神職ヨリ、神職在ラサルトキハ氏子總代又ハ崇敬者總代ヨリ關東長官ニ屆出ツヘシ

神職退職セムトスルトキハ氏子總代又ハ崇敬者總代三人以上ノ連署ヲ以テ其ノ理由ヲ具シ關東長官ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

神職死亡若ハ退職シ又ハ病氣ニ因リ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ遲滯ナク後任者ヲ推薦スヘシ

第二十條　神職交代シタルトキハ遲滯ナク氏子總代又ハ崇敬者總代ノ立會ヲ以テ社務ノ引繼ヲ爲シ後任神職ヨリ其ノ顚末ヲ民政署長又ハ同支署長ニ報告スヘシ

第二十一條　神職其ノ職責ヲ怠リ若ハ其ノ體面ヲ汚シタルトキ又ハ其ノ他不適任ト認ムル行爲アリタルトキハ其ノ退職ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　神職ノ服裝ハ正裝、禮裝、常裝ノ三種トス

正裝ハ衣冠ヲ著クルヲ謂ヒ皇族參拜ノトキ及大祭ニ著用ス

禮裝ハ齋服ヲ著クルヲ謂ヒ中祭ニ著用ス

常裝ハ狩衣又ハ淨衣ヲ著クルヲ謂ヒ小祭、日拜及恒例トシテ行フ式等ニ著用ス

第二十三條　神社ノ氏子又ハ崇敬者ハ神社設立後遲滯ナク各三人以上ノ總代ヲ推擧スヘシ

氏子又ハ崇敬者總代ハ其ノ住所、氏名ヲ民政署長又ハ同支署長ニ屆出ツヘシ

氏子總代又ハ崇敬者總代ハ神社ノ維持、管理ニ關シ神職ヲ補助シ且其ノ願屆ニ連署スヘシ

第二十四條　氏子總代又ハ崇敬者總代ニシテ不適任ト認ムル者アルトキハ民政署長又ハ同支署長ハ之ヲ改選セシムルコトヲ得

第二十五條　許可ヲ受ケスシテ神社ヲ設立、移轉、廢止若ハ併合シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第二十六條　本令ノ規定ニ依ル民政署長又ハ同支署長ノ職務ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ警務署長又ハ同支署長之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前許可ヲ受ケ設立シタル神社ハ本令ニ依リ之ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ神社ハ本令ノ施行後二月內ニ第十條、第十一條及第二十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ神社ニシテ神殿、拜殿及鳥居ノ設備ヲ有セサルモノニ在リテハ本令施行後二年內ニ之ヲ完備スヘシ

●關東州及南滿洲鐵道附屬地寺院、敎會、廟宇其ノ他ノ布敎所規則

大正十一年十月二十六日
關東廳令第七十九號
改正　大正一三年第五號

關東州及南滿洲鐵道附屬地寺院、敎會、廟宇其ノ他ノ布敎所規則左ノ通定ム

關東州及南滿洲鐵道附屬地寺院、敎會、廟宇其ノ他ノ布敎所規則

第一條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ノ設立ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ住職、僧侶、牧師、道士又ハ布敎師ト爲ルヘキ者及檀信徒ト爲ルヘキ者三人以上ノ連署ヲ以テ左ノ事項ヲ具シ所屬宗派ノ管長又ハ之ニ類スル監督者ノ承認書ヲ添ヘ關東長官ニ願出ツヘシ

一　事由
二　設立地
三　名稱
四　宗派系統
五　本尊又ハ祭神
六　本堂其ノ他ノ建物ノ位置、構造及建坪竝境內ノ位置、面積及模樣
七　設立費及其ノ支辨方法
八　布敎方法
九　維持方法
十　檀信徒ト爲ルヘキ者ノ戸數
十一　住職、僧侶、牧師、道士又ハ布敎師ト爲ルヘキ者ノ履歷及其ノ資格
十二　本堂其ノ他ノ建物ノ起工及竣成豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第六號ノ事項及境內地周圍ノ狀況ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第二條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ノ移轉ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出ツヘシ

一　事由
二　移轉地
三　本堂其ノ他ノ建物ノ位置、構造及建坪竝境內ノ位置、面積及模樣
四　移轉費及其ノ支辨方法
五　本堂其ノ他ノ建物ノ起工及竣成豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第三號ノ事項及境內地周圍ノ狀況ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第三條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ノ廢止若ハ併合ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出ツヘシ

一　事由
二　廢止又ハ併合セラルヘキ寺院其ノ他ノモノノ名稱及所在地
三　併合スヘキ寺院其ノ他ノモノノ名稱及所在地
四　本堂其ノ他ノ建物及財產ノ事項方法

第四條　第一條第一項第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　事由
二　變更セムトスル箇所及設計
三　所要ノ費用額及其ノ支辨方法
四　著手及竣成豫定期日

前項ノ規定ニ依ル願書ニハ前項第二號ノ事項ヲ表示スル圖面ヲ添附スヘシ

第五條　第一條第一項第二號乃至第五號第七號乃至第九號及第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第六條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ノ設立、移轉、廢止又ハ併合ノ許可ヲ受ケタル者各之ヲ了シタルトキハ遲滯ナク關東長官ニ屆出ツヘシ

寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ノ設立、移轉又ハ併合ノ許可ヲ受ケ二年內ニ之ヲ爲ササルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條　寺院、敎會又ハ其ノ他ノ布敎所ニハ神社類似ノ社祠又ハ鳥居ヲ建設スルコトヲ得ス

第八條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ハ其ノ設立後遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル明細書ヲ調製シ之ヲ關東長官ニ提出スヘシ

一　名稱
二　所在地
三　宗派系統
四　本尊又ハ祭神
五　堂宇其ノ他ノ建物
六　境內地
七　境內附屬建物
八　檀信徒ノ戸數
九　維持方法
十　沿革

第九條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ハ其ノ設立後遲滯ナク其ノ所有ニ屬スル不動產及寶物ニ關シ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ屆出ツヘシ

一　土地ニ在リテハ其ノ所在地、地目段別又ハ坪數及境內地、境外地ノ區別
二　建物ニ在リテハ其ノ位置、名稱、構造、建坪又ハ間數及境內地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別
三　寶物ニ在リテハ名稱、員數、形狀、品質、寸尺、作者及傳來

前項ノ屆出ヲ爲シタル後屆出テタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク屆出ツヘシ

第十條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ハ財產臺帳ヲ備ヘ其ノ所有ニ屬スル不動產及寶物ニ關シ前條各號ノ事項ヲ記載スヘシ

第十一條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ニ於テ其ノ建物ノ全部若ハ一部又ハ其ノ寶物ヲ亡失シタルトキハ其ノ日時及顚末ヲ具シ遲滯ナク關東長官ニ屆出ツヘシ

第十二條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ニ於テ本堂、說敎場等主ナル建物ノ要部ヲ亡失シタル後二年內ニ之ヲ再建セサルトキハ其ノ設立許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條　寺院、敎會、廟宇又ハ其ノ他ノ布敎所ノ財產ノ管理其ノ他重要ナル事項ニ付テハ住職、僧侶、牧師、道士、布敎師等ハ檀信徒

總代ト協議ノ上之ヲ處理スヘシ

寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ニ於テ其ノ不動產又ハ寶物ニ付賣却、貸付其ノ他ノ處分ヲ爲サムトスルトキ又ハ負債ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ關東長官ニ願出テ認可ヲ受クヘシ

第十四條　住職、僧侶、牧師、道士、布教師、教職等就職シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東長官ニ屆出ツヘシ

一　就職年月日
二　職名
三　履歷及資格

前項ノ屆書ニハ資格ヲ證明スル書類ヲ添附スヘシ

第十五條　住職、僧侶、牧師、道士、布教師、教職等死亡又ハ退職シタルトキハ檀信徒總代ヨリ關東長官ニ屆出ツヘシ

第十六條　寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ノ檀信徒ハ其ノ設立後遲滯ナク三人以上ノ總代ヲ推擧スヘシ

檀信徒總代ハ其ノ住所、氏名ヲ民政署長又ハ同支署長ニ屆出ツヘシ

檀信徒總代ハ寺院、教會、布教所又ハ廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ノ維持、管理ニ關シ住職、僧侶、牧師、道士、教職ヲ補助スヘシ

第十七條　檀信徒總代ニシテ不適任ト認ムル者アルトキハ民政署長又ハ同支署長ハ之ヲ改選セシムルコトヲ得

第十八條　許可ヲ受ケスシテ寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ヲ設立、移轉、廢止若ハ併合シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十九條　本令ノ規定ニ依ル民政署長又ハ同支署長ノ職務ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ警務署長又ハ同支署長之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那人ノ爲ス寺廟類ノ設立、移轉、廢止又ハ併合ノ許可ノ出願ニ付テハ當分ノ內本令ニ定ムル手續ニ依ラサルコトヲ得

本令施行前許可ヲ受ケ設立シタル寺院、教會、廟宇又ハ其ノ他ノ布教所ハ本令ニ依リ之ヲ設立シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル寺院、教會、廟宇其ノ他ノ布教所ハ本令施行ノ日ヨリ二月內ニ第八條、第九條及第十六條ノ手續ヲ爲スヘシ

寺院、教會又ハ其ノ他ノ布教所ニシテ第七條ノ規定ニ依リ禁シタル施設ヲ爲シタルモノニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ除去スヘシ

第四款　古社寺保存

●古社寺保存法

明治三十年六月五日
法律第四十九號
改正　大正八年第四四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル古社寺保存法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

古社寺保存法

第一條　古社寺ニシテ其ノ建造物及寶物類ヲ維持修理スルコト能ハサルモノハ保存金ノ下付ヲ內務大臣ニ出願スルコトヲ得

第二條　國費ヲ以テ補助保存スヘキ社寺ノ建造物及寶物類ハ歷史ノ證徵、由緖ノ特殊又ハ製作ノ優秀ニ就キ古社寺保存會ニ諮詢シテ內務大臣之ヲ定ム

第三條　前條ノ建造物及寶物類ノ修理ハ地方長官之ヲ指揮監督ス

第四條　社寺ノ建造物及寶物類ニシテ特ニ歷史ノ證徵又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ古社寺保存會ニ諮詢シ內務大臣ニ於テ特別保護建造物又ハ國寶ノ資格アルモノト定ムルコトヲ得

內務大臣ニ於テ前項ノ資格ヲ付シタル物件ハ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第五條　特別保護建造物及國寶ハ之ヲ處分シ又ハ差押フルコトヲ得ス但シ內務大臣ノ許可ヲ得テ國寶ヲ公開ノ展覽場ニ出陳スルハ此ノ限ニ在ラス

第六條　前條ノ物件ハ神職（官國幣社ニ在テハ宮司、府縣郷社ニ在テハ社司、村社以下ニ在テハ社掌、以下之ニ倣フ）若ハ住職之ヲ監守シ內務大臣ノ監督ニ屬スルモノトス但シ內務大臣ノ許可ヲ經テ別ニ監守者ヲ置クコトヲ得

第七條　社寺ハ內務大臣ノ命ニ依リ官立又ハ公立ノ博物館ニ國寶ヲ出陳スルノ義務アルモノトス但シ祭典法用ニ必要ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ命ニ對シテハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第八條　前條ノ命令ニ依リ國寶ヲ出陳シタル社寺ニハ命令ニ定メタル標準ニ從ヒ國庫ヨリ補給金ヲ支給スルモノトス

第九條　神職住職其ノ他ノ監守者ニシテ內務大臣ノ命ニ違背シ國寶ヲ出陳セサルトキハ內務大臣ハ其ノ出陳ヲ強要スルコトヲ得

第十條　社寺ニ下付シタル保存金ハ地方長官之ヲ管理ス

保存金ハ豫算額ヲ以テ之ヲ下付ス但シ精算ノ上剩餘アルトキハ內務大臣ハ之ヲ還付セシムルコトヲ得

第十一條　社寺ニ下付シタル保存金ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十二條　第十條及第十一條ノ保存金ハ其ノ利子ヲ包含スルモノトス

第十三條　監守者其ノ監守スル所ノ國寶ヲ竊取シ、毀棄シ、隱匿シ若ハ他ノ物件ト變換シ又ハ第五條ノ規定ニ違背シタルトキハ二年以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

第五條ノ物件ナルコトヲ知リテ之ヲ讓受ケ、借受ケ、擔保ニ取リ、寄藏シ若ハ其ノ牙保ヲ爲シタル者ハ六月以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第十四條　監守者怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

【過料ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得】

【過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其ノ徵收ニ付テハ民事訴訟法第六編ノ規定ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ效力ヲ有ス】

第十五條　第七條ニ依リ出陳シタル國寶ノ監守者故意怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ國庫ハ命令ニ定メタル評價ノ方法ニ從ヒ其ノ損害ヲ賠償スルモノトス但シ其ノ評價額ニ關シテハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十六條　本法ニ定メタル保存金及補給金トシテ國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ一箇年拾五萬圓乃至貳拾萬圓トス

附　則

第十七條　本法施行前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シ內務大臣ハ第十條乃至第十二條ヲ適用スルコトヲ得

第十八條　第四條ニ該當スル物件ハ社寺ニ屬セサルモノト雖所有者ノ請求アルトキハ第七條第一項ニ揭ケタル博物館ニ出陳スルコトヲ許可シ之ニ補給金ヲ支給スルコトヲ得

第十九條　廢止

第二十條　本法施行上必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●古社寺保存法施行ニ關スル件

明治三十年十二月十五日
勅令第四百四十六號
改正　明治四三年第四二〇號

朕古社寺保存法施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

第一條　古社寺保存法第七條ニ依リ國寶ヲ博物館ニ出陳セシメタルトキハ當該博物館ニ國寶監守ヲ置ク

國寶監守ハ命ヲ內務大臣ニ承ケ出陳國寶ノ監守ニ關スル一切ノ責ニ任ス

第二條　官立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館ノ奏任待遇以上ノ館員ヲ以テ之ニ充ツ

公立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　削除

第四條　國寶監守故意怠慢ニ由リ其ノ監守スル國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第五條　古社寺保存法第八條ニ依リ支給スヘキ補給金ハ國寶一箇ニ就キ一箇年二圓以上五十圓以下トシ內務大臣ハ出陳ヲ命スル都度之ヲ定ム但シ國寶ニシテ特ニ貴重ナルモノアルトキハ內務大臣ハ古社寺保存會ニ諮詢シ五十圓以上百圓以下ヲ支給スルコトヲ得

第六條　出陳ニ要スル荷造運搬費等ハ總テ當該博物館ニ於テ支辨スヘキモノトス出陳ノ義務ヲ解除シタルトキ返送ニ要スル荷造運搬費等亦同シ

第七條　古社寺保存法第十五條ニ依リ損害賠償ヲ要スルトキハ內務大臣ハ賠償金額ヲ豫定シ古社寺保存會ノ議ニ附ス

前項ニ依リ古社寺保存會ニ於テ議決シタル金額內務大臣ノ豫定金額ニ相違シタルトキハ內務大臣ノ豫定額ト古社寺保存會ノ議決額トヲ合セ之ヲ二除シタル額ヲ以テ賠償ノ實額トス

第八條　本令ニ定ムルモノノ外古社寺保存法施行ニ要スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

●古社寺保存法施行細則

明治三十年十二月十五日
內務省令第三十五號

古社寺保存法施行細則左ノ通相定ム

古社寺保存法施行細則

第一條　古社寺保存法第一條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳具シ之ヲ內務省ニ差出スヘシ

一　出願ノ事由
二　修理スヘキ物件ノ名稱、所在、種類、品質、員數、形狀、寸尺、構造、坪數竝歷史ノ證徵、由緖ノ特殊又ハ製作ノ優秀等ヲ證見スルニ足ルヘキ要項
三　建築又ハ製作ノ年代及其ノ後之ニ加ヘタル修理ノ年月
四　修理ニ要スル工費豫算竝設計仕樣等
五　竣成期限
六　出願者ノ資力ヲ證スルニ足ルヘキ事項

第二條　特別保護建造物及國寶ノ修理費ニ對シ國庫ヨリ補助スル場合ニ於テハ當該社寺ハ少クトモ其ノ半額ヲ負擔スヘキモノトス但シ特別ノ事情アルモノニ限リ其ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得

第三條　保存金下付ノ後ニ於テ設計仕樣ノ變更若ハ竣成期限ノ延期ヲ要スルトキハ其ノ事由及變更設計仕樣書等ヲ具シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ關係者ノ願出ニ係ラス設計仕樣ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　修理竣リタルトキハ精算書ヲ添ヘ二箇月以內ニ內務大臣ニ屆出ツヘシ

第五條　本令ノ規程ニ違反シ若ハ保存金下付ノ條件ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ保存金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　國寶ハ分ツテ左ノ三種トス但シ神社ノ祭神若ハ寺ノ本尊ハ此ノ限ニ在ラス

甲種　製作ノ優秀ナルモノ
乙種　由緖ノ特殊ナルモノ
丙種　歷史ノ證徵トナルモノ

甲種ハ製作優秀ノ程度ニ依リ一等乃至四等ノ四等ニ分ツ

第七條　內務省ニ特別保護建造物臺帳竝國寶臺帳ヲ備置クモノトス

第八條　特別保護建造物ノ臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

一　名稱
二　所有者及所在地
三　創立及沿革
四　構造、形式
五　寸尺

第九條　國寶臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

一　名稱
二　所有者及所在地
三　作者及傳來
四　第六條ノ種別等級
五　種類
六　員數
七　品質
八　形狀
九　寸尺

第十條　特別保護建造物若ハ國寶ヲ臺帳ニ登記シタルトキハ特別保護建造物證書若ハ國寶證書ヲ其ノ物件所有者ニ交付ス

第十一條　古社寺保存法第六條但書ニ依リ別ニ監守者ヲ置カントスル者ハ其ノ氏名、履歷、資產調書ヲ添ヘ設置ノ事由ヲ詳具シテ內務大臣ニ願出ツヘシ

第十二條　特別保護建造物若ハ國寶ニシテ亡失毀損アリタルトキハ其ノ實況ヲ詳具シ五日以內ニ內務大臣ニ屆出ツヘシ

第十三條　補給金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ支給ス

甲種	一等	五十圓以下三十五圓以上
同	二等	三十五圓以下二十圓以上
同	三等	二十圓以下十圓以上
同	四等	十圓以下二圓以上
乙種		二十圓以下二圓以上
丙種		六圓以下二圓以上

第十四條　前條ノ補給金ハ月割ヲ以テ計算シ一箇月ニ滿タサル端日數及厘位未滿ハ切捨トス

第十五條　博物館ニ於テ國寶ヲ受領シタルトキハ受領證書ヲ交付シ又國寶ヲ返付スルトキハ該證書ト引換フヘシ

第十六條　博物館ニ於テ國寶ヲ受授シタルトキハ其ノ都度內務大臣及當該地方長官ニ報告スヘシ

第十七條　從前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シテハ古社寺保存法第十條乃至第十二條ヲ適用ス

第十八條　古社寺保存法第十九條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ第一條ノ規程ニ準據シテ願書ヲ差出スヘシ

第十九條　本令ニ依リ內務大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳ヲ經由スヘシ

●古社寺保存法ニ依ル特別保護建造物ニ對シ制札建設方

明治三十五年八月十三日
內務省訓令第十五號

廳府縣

古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレタル建造物ニ對シ保護上必要アリト認メタル場合ハ【明治六年教部省第十三號達】神社制札ニ準シ制札ヲ建設スヘシ

制札ニハ左記禁止條項ニ準シ該當社寺ノ意見ヲ徵シ保護上必要ト認ムル條項ヲ揭クヘシ

一　建物ヲ汚瀆又ハ毀損スルコト
一　喫煙ヲ爲スコト
一　猥リニ火ヲ用ユルコト
一　土足又ハ履物ノ儘上ルコト
一　建物ニ樂書スルコト
一　建物ニ廣告等ノ類ヲ貼付又ハ打付ルコト

●官國幣社及府縣鄉社古來ノ制式保存方

明治八年九月十四日
太政官達第百五十九號
改正　明治九年第六號

【使】府縣

官國幣社及府縣鄉社共古來ノ制式容易ニ變換候テハ後來其照鑑ヲ失ヒ候條本社並附屬建物周圍玉垣等些少ノ物件ニ至ル迄厚ク保存可致就テハ自今修復再造ノ節用材物品等モ可成舊式ニ不違樣可取計此旨相達候事

【但官國幣社ノ內社殿矮陋祭儀難相整向モ有之候ハヽ、修覆再造等ノ節其旨委細具狀內務教部兩省宛ヲ以教部省ヘ可差出事】

第二章　宗教

第一款　管長　教師　僧侶

●寺院住職任免及教師進退各管長ヘ委任條件

明治十七年八月十一日
太政官布達第十九號

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

第一條　各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條　管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條　管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ【內務卿】ノ認可ヲ得可シ

第四條　管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ【內務卿】ノ認可ヲ得可シ

一　教規
一　教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
一　教師ノ等級進退ノ事

以上神道管長ノ定ムヘキ者トス

一宗制
一寺法
一僧侶竝ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
一寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事
一寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事
以上佛道管長ノ定ムヘキ者トス

第五條　佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ【内務卿】ノ認可ヲ得テ之ヲ稱スルコトヲ得

右布達候事（内務卿達）

（明治十八年三月十八日内務省達丁第一號）　神佛各管長

教規宗制認可ヲ與ヘタル後ハ從前認可シタル教規宗制ノ部類ハ總テ認可ノ効力ヲ失ヒ候儀ニ付重要ノ事項ニシテ認可ヲ乞フヘキモノハ更ニ教規宗制中ニ編入可差出儀ト可心得此旨相達候事

〔參考〕

神佛各教宗派名稱一覽

神道

神道	神道修成派
神道大社教	神道御嶽教
神道扶桑教	神道神理教
神道實行教	神道禊教
神道大成教	神道金光教
神道神習教	天理教
神道黒住教	

佛道

天台宗	臨済宗向嶽寺派
天台宗寺門派	曹洞宗
天台宗眞盛派	黄檗宗
眞言宗	眞宗本願寺派
眞言宗醍醐派	眞宗大谷派
古義眞言宗	眞宗高田派
新義眞言宗智山派	眞宗木邊派
新義眞言宗豊山派	眞宗興正派
眞言律宗	眞宗佛光寺派
眞言宗東寺派	眞宗出雲路派
眞言宗泉涌寺派	眞宗山元派
眞言宗山階派	眞宗誠照寺派
眞言宗小野派	眞宗三門徒派
淨土宗	日蓮宗
淨土宗西山派	日蓮宗不受不施派
臨済宗天龍寺派	日蓮宗不受不施講門派
臨済宗相國寺派	日蓮正宗
臨済宗建仁寺派	顯本法華宗
臨済宗南禪寺派	本門法華宗
臨済宗妙心寺派	法華宗
臨済宗建長寺派	本妙法華宗
臨済宗東福寺派	本門宗
臨済宗大德寺派	時宗
臨済宗圓覺寺派	融通念佛宗
臨済宗永源寺派	法相宗
臨済宗方廣寺派	華嚴宗
臨済宗佛通寺派	律宗
臨済宗國泰寺派	

●神佛各宗派管長及舊教導職身分取扱方（明治十七年八月十一日太政官達第七十號）　【官】省院廳府縣

神佛各宗派管長及從前教導職タリシ者ノ身分取扱ノ儀第六十八號及第六十九號ノ通相定候條此旨爲心得相達候事

（明治十七年八月十一日太政官達第六十八號）　神佛各宗派一般

管長身分ノ儀ハ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル

右相達候事

（明治十七年八月十一日太政官達第六十九號）　神佛各宗派一般

今般教導職廢セラレ候ニ付テハ從前教導職タリシ者ノ身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ取扱フ者トス

右相達候事

●神佛各教宗派事務ニ關シ内務省ヘ出願手續（明治二十二年五月二十七日内務省訓令第二十二號）　神佛各教宗派管長

神佛各教宗派内ノ者其教宗派ノ事務ニツキ當省ニ出願處分ヲ要スヘキモノハ管長ヲ經由出願セシムヘシ但シ管長其手續ヲ拒ミタルトキハ其次第ヲ具シ本人ヨリ願書ヲ直ニ當省ニ差出スコトヲ得

●神佛各宗派管長海外渡航稟請方（明治二十六年八月十四日内務省訓令第十三號）　神佛各宗派管長

神佛各宗派管長ニシテ海外渡航ヲ要スル節ハ事實ヲ具シ當省ヘ伺出ツヘシ

●盲僧ヲ天台宗所轄トス（明治八年七月十二日教部省達第二十九號）　府縣

元青蓮院殿下盲僧之儀ハ總テ天台宗管長ニ於テ所轄取締可致樣管長ヘ達置候條此旨爲心得相達候事

●僧侶托鉢解禁（明治十四年八月十五日内務省布達甲第八號）

明治五年十一月教部省第廿五號達僧侶托鉢禁止之儀相廢候條此旨布達候事

但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ

●僧侶托鉢免許方竝托鉢者心得（明治十四年八月十五日内務省達戊第二號）　佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶【（教導職試補以上）】ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

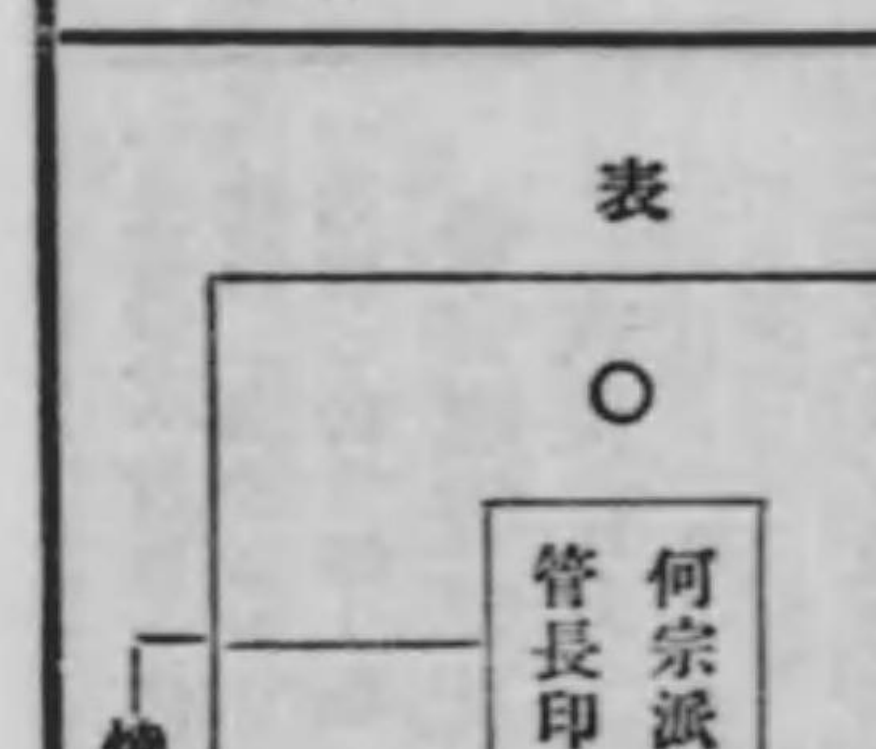
托鉢免許方竝托鉢者心得

一托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳ヘ通知シ東京ハ警視廳ヘモ通知スヘシ
一托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス
但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限
一托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞ヲ許サス
一托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨クヘカラス
一免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

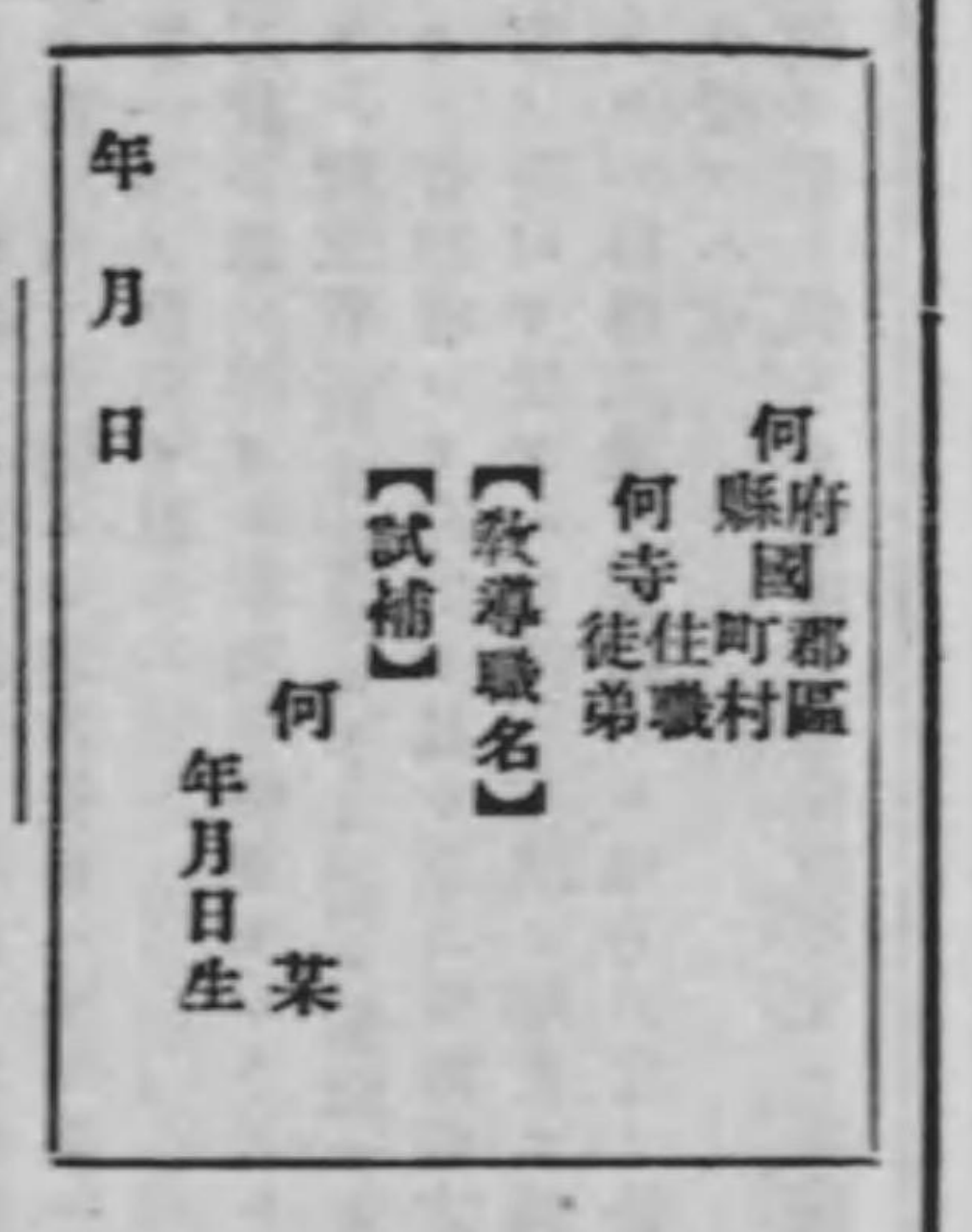
（標牌雛形）

木製　縱六寸　横貳寸

表



裏



（明治十四年八月十五日内務省達乙第三十八號　改正　明治一九年内令第九號）　府縣

今般戊第二號ヲ以佛道各管長ヘ別紙之通相達候條萬一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢差止顚末詳細取調該宗管長若クハ其地方取締ヘ通知スヘシ此旨相達候事

●僧侶神葬祭兼行ヲ停ム（明治七年十一月十八日教部省布達第四號）　府縣

僧侶神葬祭兼行ノ儀願出聞屆置候向モ有之候處詮議ノ次第有之今後不相成候條此旨寺院ヘ布達スヘキ事

第二款　開帳　祈禱

●佛像出開帳出願手續（明治十七年三月十九日内務省達乙第十六號）　府縣

明治九年教部省第四號布達廢止候條自今寺院佛像他管持出開帳之儀ハ該寺住職檀家總代（無檀家ノ寺院ハ信徒總代）及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳ヘ出願セシムヘシ此旨相達候事

但寶物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

●禁厭祈禳ニ關スル取締方（明治七年六月七日教部省達乙第三十三號）　神道諸宗管長

禁厭祈禳等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候抑【教導職】タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候樣ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戻シ政治ノ障碍ト相成甚以不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之樣屹度取締可致此旨相達候事

（明治七年六月七日教部省達第二十二號）　府縣

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長ヘ相達候條向後禁厭祈禳ヲ以醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成候樣ノ所業致候者有之候ハヽ於地方官取締可致此旨相達候事

（明治十五年七月十日内務省達戊第三號）　神道【副總裁】　神佛各管長

禁厭祈禳ノ儀ニ付七年六月教部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥之有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限リ其望ミニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此段相達候事

（明治十五年七月十日内務省達乙第四十二號）　府縣（沖繩縣除之）

別紙戊第三號之通神道【副總裁】神佛各管長ヘ相達候條今後違背之輩有之候ハヽ直ニ差止置委詳當省ヘ具狀可致此旨相達候事

第三款　布教　堂宇

●神佛道教會所規則（大正十二年七月二十四日文部省令第三十二號）

神佛道教會所規則左ノ通定ム

神佛道教會所規則

第一條　本令ニ於テ教會所トハ何等ノ名稱ヲ用ウルニ拘ラス繼續シテ神道又ハ佛道ノ教義ヲ宣布シ又ハ其ノ儀式ヲ執行スルコトヲ目的トスル設備ニシテ祠宇、寺院又ハ佛堂ニアラサルモノヲ謂フ

第二條　教會所ヲ設立セントスルトキハ神佛道教宗派ノ管長ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
一　名稱
二　所在地
三　所屬教宗派ノ名稱
四　奉齋主神又ハ安置佛ノ稱號
五　擔任教師ノ氏名及資格
六　管理及維持ノ方法
七　設立費用及其ノ支辨方法
八　役員又ハ教徒若ハ信徒ノ總代ヲ設クルモノニ付テハ其ノ人員、職務竝選定方法

第三條　設立者ノ變更ハ當事者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ管長タル設立者ノ變更ハ十四日以内ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

前條第一號乃至第四號及第七號ノ變更ハ設立者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ第五號、第六號及第八號ノ變更ハ十四日以内ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四條　教會所ノ合併若ハ移轉ヲ爲サントスルトキハ第二條各號ノ事項ヲ具シ設立者ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ヲ異ニスルトキハ合併先又ハ移轉先ノ地方長官ノ許可ヲ受ケ合併又ハ移轉後十四日以内ニ舊所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

教會所ヲ廢止シタルトキハ設立者ニ於テ十四日以内ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第五條　本令第二條第三號及第四號ノ變更セントスルトキハ更ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條　本令ニ依リ地方長官ニ提出スル文書ハ教徒又ハ信徒ノ總代アル場合ニ於テハ其ノ總代二名以上之ニ連署スヘシ

前項ノ文書ハ當該教宗派管長ヲ經由シ許可申請ニ付テハ當該教宗派管長ノ意見書ヲ附スヘシ

第七條　教會所ニ於テ主神ヲ奉齋シ又ハ本尊ヲ安置スルトキハ[illegible]ル者ヲシテ之ヲ禮拜セシムルコトヲ得

第八條　教會所ニ於テハ教義ノ宣布又ハ儀式ノ執行ニ際シ公衆ヲ參集セシムルコトヲ得

第九條　教會所ニ於テハ神社ニ模擬スル建築構造ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　教會所ニ於テハ神符、護符ヲ配布スルコトヲ得ス但シ教徒、信徒又ハ信徒タラントスル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　教會所ニ於テハ門戸ニ其ノ名稱及所屬教宗派ヲ標示スヘシ

第十二條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ第二條乃至第四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得
一　法令ノ規定又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ
二　公安ヲ害シ又ハ風紀ヲ紊亂スルノ虞アルトキ

第十三條　本令施行ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條　本令ノ規定ハ專ラ葬儀執行ノ用ニ供スルモノニ關シテハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ設立シタル教會所ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス

●神佛道外宗教宣布及堂宇等設立ニ關スル規程（明治三十二年七月二十七日内務省令第四十一號　改正　明治三五年第二號、三八年第三號）

第一條　宗教ノ宣布ニ從事セントスル者ハ左記事項ヲ具シ履歷書ヲ添ヘ其住所ナキトキハ居所ヲ管轄スル地方長官ニ屆出ヘシ
一　宗教ノ名稱
二　布教ノ方法

本令施行前ヨリ宗教ノ宣布ニ從事スル者ハ本令施行後二箇月以内ニ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

[illegible]

第二條　宗教ノ用ニ供スル爲メ堂宇會堂說教

所又ハ講義所ノ類ヲ設立セントスル者ハ左記事項ヲ具シ其所在地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　設立ヲ要スル理由
二　設置ヲ終ルヘキ期限
三　名稱、所在地竝敷地及建物ニ關スル重要ナル事項但圖面ヲ添フヘシ
四　宗教ノ名稱
五　管理及維持ノ方法
六　擔當布教者ヲ置クトキハ其資格及選定方法

前項第二號ノ期限內ニ於テ前項ノ堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ設置セサルトキハ前項ノ許可ハ其效力ヲ失フ

本令施行前ヨリ宗教ノ用ニ供スル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ノ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ハ第一項ニ揭クル事項ヲ本令施行後二箇月以內ニ所轄地方長官ヘ屆出ヘシ

前項ノ屆出ヲ爲シタルトキハ第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三條　前條ノ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ハ管理者及擔當布教者ノ履歷書ヲ所轄地方長官ニ差出スヘシ其管理者又ハ擔當布教者ヲ變更增加シタル場合亦同シ

第四條　第一條第一項各號ニ揭クル事項ヲ變更シタルトキ及住所又ハ居所ヲ移轉シタルトキハ宗教ノ宣布ニ從事スル者ヨリ二週日以內ニ所轄地方長官ヘ屆出ヘシ但第一條第一項第二項ノ屆出ヲ爲シタル廳府縣以外ニ住所又ハ居所ヲ移シタルトキハ舊住所又ハ舊居所ヲ管轄スル地方長官ニ屆出テ新住所又ハ新居所ヲ管轄スル地方長官ヘ更ニ第一條第一項ノ屆出ヲ爲スヘシ

第二條各號ニ揭クル事項ヲ變更セントスルトキハ設立者、設立者ナキトキ若ハ故障アルトキハ管理者ヨリ理由ヲ具シ更ニ所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但所在地ノ變更ニ係ルトキハ移轉先地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

宗教ノ用ニ供スル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ヲ廢止又ハ移轉シタルトキハ二週間以內ニ廢止又ハ移轉前ノ所轄地方長官ヘ屆出ヘシ

第五條　第二條ニ依リ設立シタル堂宇會堂說教所又ハ講義所ノ類ノ設立者又ハ管理者ハ每年十二月三十一日現在ノ信徒數ヲ翌年一月三十一日限リ所轄地方長官ヘ屆出ヘシ

第六條　神佛道ノ布教者及其寺院佛堂教會所等ノ設立移轉廢止ニ關シテハ總テ從前ノ規定ニ依ル

第七條　本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

●宗教ノ宣布又ハ儀式執行ヲ目的トスル法人設立等ニ關スル規程

（明治三十三年八月一日内務省令第三十九號）

宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サムトスルトキハ設立者ハ定款又ハ寄附行爲ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

一　宗教ノ名稱及所屬教派宗派ノ名稱
二　儀式及布教ノ方法
三　布教者ノ資格及選定方法
四　信徒ト法人ノ關係
五　信徒及社員タルヘキ者ノ員數
六　宗教ノ用ニ供スル堂宇、教會所、會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ備フルモノニ在テハ其名稱、所在地及設立許可ノ年月日

第二條　前條ノ法人カ前條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ屆出ツヘシ

第三條　第一條ノ法人カ第一條第一項第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ違背シタルトキハ民法第七十一條ニ依リ其設立ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　本令ニ依リ書面ヲ差出ス場合ニ於テ神佛道ノ教派又ハ宗派ニ屬スルモノニアリテハ凡テ管長ノ添書ヲ付スヘシ

●神佛教務所說教所取調並諸願差出方

（明治十七年十月三十日内務省達乙第三十七號）

府　縣

一　神佛教務所（教院教會所法務所講社事務所ノ類）說教所（說教ノミヲ行フモノ）ハ國竝宗派ニ分チ【六月三十日十二月三十一日ノ現數半年每ニ取調翌七月一月兩度ニ】當省ヘ差出スヘシ

一　祠宇竝寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他寶物古文書等財產ニ關スル諸願ハ（寺院ハ本寺法類連署）管長ノ添書ヲ要ス可シ

右相達候事

●神佛教務所說教所設立移轉廢合並寺院住職進退屆出方

（明治十七年十月三十日内務省達乙第三十八號）

府　縣

別紙戊第貳號ノ通神佛各管長ヘ相達候條第二項ノ件出願許可又ハ屆出ノ分共【月末】取纏メ當省ヘ可屆出此旨相達候事

（明治十七年十月三十日内務省達戊第二號）

神佛各管長

一【教師僧侶ノ現數ハ華族士族平民ニ分チ半年每ニ取調翌一月七月兩度ニ當省ヘ屆出ツ可シ】

但東京ノ教務所ニハ全國教師僧侶ノ姓名及各地方教務所說教所ノ所在等ヲ詳記セル帳簿ヲ備置ク可シ

一　教務所（教院教會所法務所講社事務所ノ類）說教所（說教ノミ行フモノ）取設ハ從前ノ手續ヲ履ミ地方廳ヘ願出其移轉廢合ハ屆出ツ可シ

但教務所ニハ教師ノ姓名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置ク可シ

一　祠宇竝寺院ノ廢立及財產ニ關スル諸願ハ管長添書ス可シ

一　寺院住職進退ハ其都度地方廳ヘ屆出ツ可シ

右相達候事

【參考】

（明治七年七月十二日教部省達乙第三十八號）

神道諸宗管長

教院設置并講社願出方是迄區々相成候處自今總テ【當省ヘ相窺】其管長添書ヲ以可爲差出尤講社及社寺外ニ設置候教院ノ分ハ前以地所等ノ儀其管轄廳ヘ申立聞濟ノ書面ヲモ取副候儀ト可爲相心得此旨相達候事

但願主ハ何レモ本職補任ノ者ニ限リ可申尤甲管內ヘ許可ノ講社乙管內ニ分社取結候節モ出願手續等本文ノ通リタルヘク並其取締ハ同樣本職ノ外不相成儀ト可爲相心得事

（同日達第三十號府縣ヘ心得達署ス）

（明治八年十月十日教部省達乙第十六號）

神佛各宗管長

教院設置之儀ニ付テハ當省昨七年乙第三十八號【並本年乙第六號】達書之通一般ニ可願出成規ニ候處自今社寺內ニ於テ開設之小教院ニ限リ不及其儀候條【當省及】地方廳ヘ屆出候儀ト可相心得此旨相達候事

但社寺外ニ設置候小教院並其他ハ總テ兩度達書之通可相心得候事

（同日達第四十號府縣ヘ心得達署ス）

（明治十四年二月四日内務省達戊第一號）

神佛各管長

說教所ノ儀自今社寺外ヘ設置ノ向ハ七年教部省乙第三十八號達ニ照準【當省】ヘ出願候儀ト相心得此旨【教導職】ヘ可相達事

但人家等借受一時執行候ハ此限ニアラス

（同日乙第八號府縣ヘ心得達署ス）

●教院教會所說教所等ニ於テ平素衆庶ノ參拜社寺ニ倣フヲ停ム

（明治十四年十月三日内務省達戊第三號）

【神道總裁】神佛各管長

教院教會所說教所等ニ於テ【葬祭ヲ執行シ或ハ】平素衆庶ニ參拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ倣フモノ有之候テハ不都合候條心得違無之樣可爲致此旨相達候事

（同日乙第四十八號府縣ヘ心得達署ス）

●葬儀執行ノ爲メ祠宇建設出願要件

（明治十五年一月二十三日内務省達戊第一號）

【神道副總裁】同（黑住派修成派）管長

昨十四年戊第三號ヲ以教院教會所說教所等ニ於テ【葬祭ヲ執行シ】衆庶ニ參拜セシムル等ノ儀不都合ノ旨相達候處自今神道【教導職】奉教ノ主義ヨリ其主神ヲ鎭祭シ其教徒ノ葬儀ヲ執行スル等ノ爲祠宇建設ヲ要スル向ハ左ノ條件ヲ詳記シ其地方廳ヘ出願スヘシ此旨相達候事

一　祠宇建設ヲ要スル理由
一　諸建物坪數繪圖面目論見仕樣竝境內地坪地種名受共
一　永續資本ノ動不動財產竝葬儀ヲ托スルモノ及信徒ノ員數

（明治十五年一月二十三日内務省達乙第四號）

府　縣

今般祠宇建設ノ儀別紙戊第一號之通相達候條該【教導職】竝教徒信徒ヨリ出願候ハヽ十三年乙第五十二號達ノ振合ヲ以廉々精査ノ上當省ヘ可伺出此旨相達候事

●布教規則

（大正四年八月十六日朝鮮總督府令第八十三號）

改正　大正九年第五九號

布教規則左ノ通定ム

布教規則

第一條　本令ニ於テ宗教ト稱スルハ神道、佛道及基督教ヲ謂フ

第二條　宗教ノ宣布ニ從事セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ布教者タル資格ヲ證明スヘキ文書及履歷書ヲ添ヘ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

一　宗教及其ノ教派、宗派ノ名稱
二　布教ノ方法

前項各號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日內ニ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ氏名ヲ變更シ住所ヲ移轉シ又ハ布教ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第三條　神道各教派又ハ內地ノ佛道各宗派ニ於テ布教ヲ爲サムトスルトキハ其ノ教派又ハ宗派ノ管長ハ布教管理者ヲ定メ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　宗教及其ノ教派、宗派ノ名稱
二　教規又ハ宗制
三　布教ノ方法
四　布教管理者ノ權限
五　布教者監督ノ方法
六　布教管理事務所ノ位置
七　布教管理者ノ氏名及其ノ履歷書

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　朝鮮總督ハ布教ノ方法、布教管理者ノ權限及布教者監督ノ方法又ハ布教管理者ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　布教管理者ハ朝鮮ニ居住スル者タルコトヲ要ス

第六條　朝鮮總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第三條以外ノ教派又ハ宗派ニ對シ布教管理者ヲ置カシムルコトアルヘシ

前項ニ依リ布教管理者ヲ置キタルトキハ十日內ニ第三條第一項各號ノ事項ヲ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第七條　前條ノ布教管理者ニ付テハ第四條及第五條ノ規定ヲ準用ス

第三條以外ノ教派又ハ宗派ニ於テ其ノ規約等ニ依リ布教管理者ヲ置キタルトキハ第四條、第五條及前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條　削除

第九條　宗教ノ用ニ供スル爲教會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ設立シタル者ハ直ニ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

一　名稱及所在地
二　宗教及其ノ教派、宗派ノ名稱
三　布教擔任者ノ資格及其ノ選定方法
四　設立費及其ノ支辨方法
五　管理及維持方法

前項各號ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第十條　前條第一項第三號ニ依リ布教擔任者ヲ選定シタルトキハ設立者又ハ布教管理者ヨリ其ノ氏名及住所ヲ具シ十日內ニ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十一條　宗教ノ用ニ供スル教會堂、說教所又ハ講義所ノ類ヲ廢止シタルトキハ十日內ニ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第十二條　朝鮮總督ハ現ニ宗教ノ用ニ供スル教會堂、說教所又ハ講義所ノ類ニ於テ安寧秩序ヲ紊スノ虞アル所爲アリト認ムルトキハ其ノ設立者又ハ管理者ニ對シテ之カ使用ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十三條　布教管理者ヲ置キタル教派、宗派ニ屬スル者又ハ朝鮮ノ寺刹ニ屬スル者本令ニ依リ屆出ヲ爲サムトスルトキハ布教管理者又ハ本寺住持ノ副書ヲ添附スヘシ

第十四條　朝鮮總督ハ布教管理者、布教擔任者又ハ朝鮮寺刹住持ニ對シ必要ト認ムル報告ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條　朝鮮總督ハ必要アル場合ニ於テハ宗教類似ノ團體ト認ムルモノニ本令ヲ準用スルコトアルヘシ

前項ニ依リ本令ヲ準用スヘキ團體ハ之ヲ告示ス

附　則

第十六條　本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　明治三十九年統監府令第四十五號ハ之ヲ廢止ス

第十八條　明治三十九年統監府令第四十五號第一條、第二條及第三條ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ本令第二條ノ屆出ヲ爲シ又ハ第三條ノ認可若ハ第九條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ本令第二條ニ該當スル者ニ在リテハ同條第一項第二號ノ事項、本令第三條ニ該當スル者ニ在リテハ同條第一項第二號第四號ノ事項、本令第九條ニ該當スル者ニ在リテハ同條第一項第三號第五號ノ事項竝布教擔任者ノ氏名及履歷ヲ具シ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

第十九條　本令施行ノ際現ニ宗教ノ宣布ニ從事シ、布教管理者ヲ置キ又ハ宗教ノ用ニ供スル教會堂、說教所、講義所ノ類ヲ管理スル者ニシテ前條ニ該當セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ第二條第三條又ハ第九條ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

前項ニ依リ第九條ノ事項ヲ屆出テタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

●布教規則

（大正九年十二月三十日樺太廳令第五十號）

布教規則左ノ通定ム

布教規則

第一條　本令ニ於テ宗教ト稱スルハ神道佛教及基督教ヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ布教所ト稱スルハ寺院ヲ除クノ外宗教ノ宣布ヲ爲シ宗教上ノ儀式ヲ執行スル所ヲ謂フ

第三條　布教ニ從事セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ布教者タル資格ヲ證明スヘキ文書及履歷書ヲ添ヘ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

一　教派、宗派ノ名稱
二　布教ノ方法
三　其ノ教派宗派ニ於テ布教者タル資格

第四條　布教者其ノ氏名住所又ハ第三條第一項各號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ布教ヲ罷メタルトキハ十日內ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第五條　布教所ヲ設立セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

一　設立ノ事由
二　布教所ノ名稱
三　設立地
四　所屬教派、宗派ノ名稱
五　建物及敷地ノ坪數及圖面（設立者ノ所有ニ非サルトキハ所有者ノ氏名記載ヲ要ス）
六　設立費及其ノ支辨ノ方法
七　布教ノ方法
八　管理及維持ノ方法

前項第六號乃至第八號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ設立者又ハ管理者ニ於テ樺太廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　布教所設立ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一年內ニ布教所ヲ設立セサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ樺太廳長官ノ認可ヲ受ケ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得設立ヲ竣

リタルトキハ十日内ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第七條　布教ヲ廢止シタルトキハ十日内ニ設立者又ハ管理者ヨリ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第八條　布教擔任者ヲ定メタルトキハ設立者又ハ管理者ヨリ十日内ニ布教者タル資格ヲ證明スヘキ文書及履歴書ヲ添ヘ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキハ亦同シ

第九條　樺太廳長官ハ布教者ノ行爲ニシテ公安風俗ヲ害スルモノアリト認ムルトキハ其ノ布教ヲ停止若ハ禁止シ又ハ布教所設立ノ許可ヲ取消シ若ハ布教者ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　設立者又ハ管理者ハ毎年十二月三十一日現在ニ於ケル信徒數ヲ翌年一月三十一日迄ニ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　各教派宗派ニ於テ布教管理者ヲ置カムトスルトキハ其ノ教派宗派ノ管長又ハ其ノ監督ノ權限ヲ有スル者ニ於テ左記事項ヲ具シ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　教派、宗派ノ名稱
二　布教管理者ノ權限
三　布教者監督ノ方法
四　布教管理事務所ノ所在地
五　布教管理者ノ氏名及其ノ履歴書

第十二條　樺太廳長官ハ布教管理者ノ權限、布教監督ノ方法又ハ布教管理者ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　本令第三條乃至第六條第一項及第七條ノ願屆書ハ神道、佛教ニ在リテハ所屬宗派ノ管長基督教ニ在リテハ監督ノ權限ヲ有スル者ノ管轄ヲ受クルモノハ其ノ監督者ノ副書ヲ要ス但シ第十二條ノ布教管理者ヲ置キタル場合ハ其ノ副書ヲ以テ之ニ代フコトヲ得

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ布教所ヲ設立シタル者

二　屆出ヲ爲サスシテ布教ニ從事シタル者

三　第四條第七條ノ規定ニ違反シ又ハ第九條ノ規定ニ基キテ發シタル命令ニ違反シタル者

附　則

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ布教ニ從事スル者布教管理者又ハ布教所ヲ管理スル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ第三條、第五條又ハ第十一條所定ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ニ屆出ツヘシ

前項ニ依リ屆出ヲ爲シタル者ハ本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第九輯

地方制度

第九輯

地方制度

九

第九輯　地方制度

第一章　府縣市町村

第一款　府縣制　附郡制廢止

○府縣制（明治三二、法律六四）……一
○府縣制暫行特例（大正一五、勅令二〇四）……九
○府縣制改正經過規程（大正一五、勅令二〇五）……九
○府縣制施行令（大正一五、勅令二〇〇）……九
○府縣制施行規則（大正一五、内令一八）……一二
○北海道會議員及府縣會議員ノ選擧權及被選擧權竝市町村會議員ノ公民權ニ關スル法律（大正一五、法律五六）……二〇
○地方議會議員ノ選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件（大正一五、内令二一）……二一
○北海道會法、府縣制、市制、町村制、北海道一級町村制、北海道二級町村制及島嶼町村制ノ規定ニ依ル直接税及間接税ノ種類、類別（大正一五、内告六八）……二一
○改選後ノ府縣會ニ於テ議長選擧ノ場合會議閉止又ハ中止方（明治四〇、内令二六）……二一
○國庫ノ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律（明治三〇、法律三七）……二一
○國庫ノ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律施行ニ關スル件（明治三一、勅令一八四）……二一
○沖繩縣ノ負擔及國庫補助ニ關スル特例廢止（明治四一、法律三）……二二
○郡制廢止ニ關スル法律（大正一〇、法律六三）……二二
○郡制廢止ニ關スル件（大正一一、勅令五〇二）……二二

第二款　市制　町村制

○市制（明治四四、法律六八）……二三
○町村制（明治四四、法律六九）……三三
○町村制暫行特例（大正一五、勅令二〇九）……四三
○市制町村制改正經過規程（大正一五、勅令二一〇）……四三
○市制中改正法律附則第二項、町村制中改正法律附則第四項及市制町村制施行令附則第九項ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件（大正一五、内令二二）……四四
○市制町村制施行令（大正一五、勅令二〇一）……四四
○市制町村制施行規則（大正一五、内令一九）……五〇
○市制第六條ノ市指定（明治四四、勅令二三九）……七〇
○市制第六條ノ市ノ助役ノ定數（明治四四、内令一三）……七〇
○府縣制準用選擧市區指定令（大正一五、勅令二一一）……七〇
○市制第八十二條第三項ニ依ル市指定（明治四四、内令一四）……七〇
○改選後ノ府縣會ニ於テ議長選擧ノ場合會議ノ閉止又ハ中止方ノ規定ヲ市會及區會ニ準用（明治四四、内令一九）……七〇
○六大都市行政監督ニ關スル法律（大正一一、法律一）……七〇
○六大都市行政監督特例（大正一五、勅令二一二）……七一
○行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件（明治二三、勅令七一）……七一
○市町村内土地ノ字名改稱變更取扱規定（明治四四、内訓二）……七一
○市制町村制ノ施行ニ關スル件（明治四四、勅令二四三）……七二
○市制及町村制ノ規定ニ依ル直接税及間接税ノ種類（本章第一款ニ收ム）
○市町村會議員選擧罰則（明治二三、法律三九）……七三

第三款　町村制不施行地

○町村制不施行島嶼戸長以下給料旅費負擔ノ件（明治二二、勅令二）……七四
○郡區町村編制法（明治一一、布告一七）……七四
○區町村會法（明治一七、布告一四）……七四
○水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件（明治二二、法律一一）……七四
○土地ニ賦課スル區町村費制限（明治一八、布告二五）……七四
○區町村會評決區町村費及水利土功會評決土木費ノ怠納者處分方（明治一七、布告一五）……七四
○區町村會評決區町村費及水利土功會評決土木費竝北海道町村公收入ノ怠納督促手數料ノ件（明治三五、勅令二六八）……七四
○區町村會評決區町村費ニ關シ不服出訴方（明治一七、布告二三）……七五
○北海道區町村總代人評決ノ協議費怠納者處分竝不服出訴方（明治一八、布告二二）……七五
○各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則（明治九、布告一三〇）……七五

第二章　北海道

第一款　北海道會

○北海道會法（明治三四、法律二）……七五
○北海道會法及北海道地方費法改正經過規程（大正一五、勅令二一五）……七六
○北海道會法及北海道地方費法施行令（大正一五、勅令二〇二）……七六
○北海道會議員選擧區分區令（大正一二、勅令三九四）……七六
○北海道會議員選擧特例（大正一二、勅令四四六）……七六
○北海道會法施行ニ關スル件（大正一五、内令二〇）……七七
○北海道會議員ノ配當竝選擧ニ關スル件（大正一二、内令三二）……七七
○北海道會議員選擧人名簿ノ分合ニ關スル件（大正一五、内令二六）……七七
○北海道會法ノ規定ニ依ル直接税ノ種類（第一章第一款ニ收ム）

第二款　一二級町村制

○北海道一級町村制（明治三〇、勅令一五九）……七七
○北海道一級町村制施行地（明治三三、内令一九）……八四
○北海道二級町村制（明治三五、勅令三七）……八六
○北海道二級町村制施行地（明治三五、内令七）……九〇
○北海道一級町村及北海道二級町村竝島嶼町村ノ町村會議員又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員ノ公民權又ハ選擧權ニ關スル件（大正一五、勅令五六）……九三
○北海道一級町村行政ニ關シ北海道一級町村制第百十三條ノ二ノ規定ニ依ル命令ノ件（大正一四、一〇、二九、内、大令）……九三
○北海道二級町村行政ニ關シ北海道二級町村制第六十一條ノ規定ニ依ル命令ノ件（大正一四、一〇、二九、内、大令）……九三
○北海道町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ

○北海道廳長官ニ委任スルノ件「大正一二、勅令一三」……九四
○北海道二級町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ北海道廳長官ニ委任スルノ件「大正一二、內令三」……九四
○北海道一級町村制實施ニ付事務取扱方「明治三三、內令二三」……九四
○北海道一級町村公民名譽職ヲ擔任セス又ハ其ノ職務ヲ執行セサル者處分規則「明治三三、內令二七」……九四
○北海道一級町村會會議及傍聽ノ紀律取締規則「明治三二、內令四九」……九四
○北海道一級町村ノ人口ニ關スル件「大正一三、內令二四」……九四
○北海道二級町村制施行地ニシテ屯田兵村ニ屬スル公有財產營造物事業及權利義務ノ歸屬シタルモノノ行政ニ關スル規定「明治三九、內令二五」……九四
○北海道一級町村制及北海道二級町村制ノ規定ニ依ル直接稅及間接稅ノ類別「第一章第一款ニ收ム」
○北海道町村會議員總代人選擧罰則「明治三二、法律一〇九」……九四

第三章　島嶼

○島嶼町村制「明治四〇、勅令四六」……九五
○町村制ヲ施行セサル島嶼指定「大正一〇、勅令一九〇」……一〇〇
○島嶼町村制施行ニ際シ取扱方「明治四一、內令五」……一〇〇
○沖繩縣間切島竝東京府伊豆七島及小笠原島ニ於ケル名稱及區域ノ變更等ニ關スル件「明治四〇、勅令四五」……一〇〇
○島嶼町村制ノ規定ニ依ル直接稅ノ種類「第一章第一款ニ收ム」

第四章　朝鮮

○府制「大正二、制令七」……一〇〇
○府制施行規則「大正三、朝令三」……一〇一
○府制及學校組合令ノ施行ニ關スル件「大正三、朝令二」……一一〇
○面制「大正六、制令一」……一一一
○面制施行規則「大正六、朝令三四」……一一一
○面ニ關スル規程「明治四三、朝令八」……一一五
○學校組合令「大正二、制令八」……一一五
○學校組合令施行規則「大正三、朝令六」……一一六
○學校組合規約準則「大正三、朝訓一」……一二三
○學校組合ノ事務引繼ニ關スル件「大正五、朝令一五」……一二三
○府制施行規則及面制施行規則ニ規定スル府稅及面賦課金指定「昭和二、朝告九九」……一二五
○天災事變ニ因リ租稅ヲ減免セラレタル者ノ納稅資格要件ニ關スル件「大正一三、朝令四七」……一二五

第五章　臺灣

○臺灣州制「大正九、律令三」……一二五
○臺灣州制施行令「大正九、臺令一一〇」……一二七
○臺灣市制「大正九、律令五」……一二九
○臺灣市制施行令「大正九、臺令一一一」……一三〇
○臺灣街庄制「大正九、律令六」……一三二
○臺灣街庄制施行令「大正九、臺令一一二」……一三三
○臺灣州制施行令、臺灣市制施行令及臺灣街庄制施行令中直接稅及間接稅ノ種類「大正九、臺令一八〇」……一三五
○街庄、街庄社、街庄社長及區、區長等ニ關スル律令「大正九、律令一〇」……一三五
○保甲條例「明治三一、律令二一」……一三六
○保甲條例施行規則「明治三一、臺令八七」……一三六
○團體ノ費用徵收及寄附金品募集ニ關スル規則「大正一一、臺令四九」……一三六
○臺灣地方稅支辨事業ニ寄附スル金穀物件取扱方「明治三八、臺令八七」……一三七

第六章　樺太

○樺太ノ郡町村編制ニ關スル件「大正四、勅令一〇一」……一三七
○大字及字ノ編成ニ關スル件「大正四、樺令二〇」……一三七
○樺太ノ地方制度ニ關スル法律「大正一〇、法律四七」……一三七
○樺太町村制「大正一一、勅令八」……一三七
○樺太町村制ノ施行ニ關スル件「大正一一、樺令一」……一四一
○町村財務規程「大正一一、樺令七」……一四一
○町村ノ廢置分合等ノ場合ニオケル財產處分其ノ他ノ事務ニ關スル件「大正一一、樺令三〇」……一四二
○町村行政ニ關シ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要セサル事項ニ關スル件「大正一一、樺令一〇」……一四二

第七章　關東州

○關東州會制「大正一四、勅令二三八」……一四三
○關東州會制施行規則「大正一四、關令四三」……一四三
○關東州會制ノ施行ニ關スル件「大正一四、關令四四」……一四六
○關東州市制「大正一三、勅令一三〇」……一四六
○關東州市制施行規則「大正一三、關令三五」……一四八
○關東州市制ノ施行ニ關スル件「大正一三、關令三六」……一五九

第八章　吏員（服務懲戒）

○府縣吏員服務紀律「明治三五、內令三」……一五九
○市町村吏員服務紀律「明治四四、內令一六」……一六〇
○市町村長助役ノ除服及旅行認可方「大正元、內訓一五」……一六〇
○島嶼町村制ニ依ル町村吏員ノ服務紀律「明治四二、內令九」……一六〇
○島嶼町村制ニ依ル町村吏員懲戒方「明治四一、內令二〇」……一六〇
○島嶼町村制ニ依ル町村吏員ノ賠償責任及身元保證ニ關スル件「明治四二、內令一〇」……一六〇
○府吏員服務紀律「大正三、朝令五」……一六〇
○府吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件「大正三、朝令四」……一六一
○面長及面吏員服務紀律「大正六、朝令三九」……一六一
○州有給吏員規則「大正九、臺令一七二」……一六一
○州有給吏員定員「大正一一、臺令一四九」……一六一
○臺灣廳地方費吏員規則「大正一五、臺令五〇」……一六一
○臺灣廳地方費吏員服務規律「大正一五、臺令四九」……一六一
○臺灣廳地方費吏員懲戒規程「大正一五、臺令五一」……一六二
○廳地方費有給吏員ノ定員「大正一五、臺令五二」……一六二
○州市街庄吏員服務紀律「大正九、臺令一九一」……一六二
○州市街庄吏員懲戒規程「大正一〇、臺令二八」……一六二
○市街庄吏員賠償責任竝身元保證ニ關スル規程「大正九、臺令一五一」……一六二
○市街庄吏員事務引繼ニ關スル件「大正一〇、臺令三〇」……一六二
○町村吏員服務規律「大正一一、樺令三」……一六三
○町村吏員ノ懲戒ニ關スル件「大正一一、樺令六三」……一六三
○町村吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル規程「大正一一、樺令四」……一六三
○町村吏員事務引繼ニ關スル規程「大正一一、樺令五」……一六三
○會吏員服務紀律「大正一四、關令四五」……一六四
○會吏員事務引繼ニ關スル件「大正一四、關令四六」……一六四
○會吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件「大正一四、關令四七」……一六四
○會長ノ旅行ニ關スル件「大正一四、關令四八」……一六五
○市吏員服務紀律「大正一三、關令四一」……一六五
○市吏員事務引繼ニ關スル件「大正一三、關令四二」……一六五
○市吏員ノ賠償責任竝身元保證ニ關スル件「大正一三、關令四三」……一六五
○市長ノ忌服及旅行ニ關スル件「大正一三、關令四四」……一六六
○南洋群島島民村吏規程「大正一一、南令三四」……一六六

第九章　地方諸稅

第一款　地方諸稅（第十二輯第二章第二十一款ニ收ム）

第二款　地方費

○北海道地方費法「明治三四、法律三」……一六六
○北海道地方費ニ關スル件「大正一一、勅令二二五」……一六六
○北海道地方費ノ豫算調製式、費目流用其ノ他財務ニ關スル件竝北海道地方費吏員ノ服務紀律ニ關スル件「大正一二、內令六」……一六六
○北海道地方費ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項「大正元、內令一六」……一六六
○府縣ニ於ケル費用ノ府縣負擔ニ關スル件「大正一五、勅令三三八」……一六七
○府縣稅ニ關スル寄附及雜收入ノ件「明治二〇、勅令五六」……一六七
○朝鮮道地方費令「大正九、制令一五」……一六七
○朝鮮道地方費令施行規則「大正九、朝令一〇五」……一六八
○地方費ノ會計年度「明治四三、朝令五四」……一七〇
○府尹又ハ面長ノ管掌スル戶籍事務ノ費用負擔ニ關スル件「大正一二、朝令四三」……一七〇
○健康診斷又ハ檢診ノ爲要スル費用負擔ノ件「大正一二、朝令六一」……一七〇
○臺灣廳地方費令「大正九、律令四」……一七〇
○臺灣廳地方費稅外收入規則「大正九、臺令一五〇」……一七〇
○廳地方費手數料規則「大正九、臺令一一五」……一七〇
○州又ハ廳地方費ノ收入トスル手數料「大正九、臺令一五八」……一七〇
○廳地方費所屬營造物使用料規則「大正一五、臺令六二」……一七〇
○廳地方費ニ對スル用途指定ノ寄附受納取扱方「大正九、臺令一五三」……一七〇
○臺灣廳地方費會計規則「大正九、臺令一四八」……一七一
○州市街庄手數料規則「大正九、臺令一四一」……一七一
○臺灣總督府令、告示中地方費區ニ關スル規定改定「大正九、臺令一四五」……一七一
○關東州地方費令「明治四〇、勅令四八」……一七一
○關東州地方費令施行規程「明治四〇、關令一六」……一七一
○關東州地方費令ニ依ル收入金又ハ仕拂金計算方「明治四〇、關令二九」……一七三
○地方費ニ屬スル歲入歲出外ノ現金ヲ取扱フ出納吏ニ關スル件「明治四四、關令二六」……一七三
○關東州地方費收入金郵便振替貯金收納規則「大正九、關令八〇」……一七三

第九輯　地方制度

第一章　府縣市町村

第一款　府縣制　附郡制廢止

●府縣制　明治三十二年三月十六日法律第六十四號
改正　明治四一年第二號大正三年第三五號、一一年第五五號、一五年第七三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

府縣制

第一章　總則
第二章　府縣會
第一款　組織及選擧
第二款　職務權限及處務規程
第三章　府縣參事會
第一款　組織及選擧
第二款　職務權限及處務規程
第四章　府縣行政
第一款　府縣吏員ノ組織及任免
第二款　府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程
第三款　給料及給與
第五章　府縣ノ財務
第一款　財產營造物及府縣稅
第二款　歲入出豫算及決算
第五章ノ二　府縣組合
第六章　府縣行政ノ監督
第七章　附則

府縣制

第一章　總則

第一條　府縣ハ從來ノ區域ニ依リ市町村及島嶼ヲ包括ス

第二條　府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務竝從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ渉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣ハ關係アル府縣參事會及市町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　府縣會

第一款　組織及選擧

第四條　府縣會議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區ハ市ノ區域又ハ從前郡長若ハ島司ノ管轄シタル區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條　府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル每ニ一人ヲ增シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル每ニ一人ヲ增ス

各選擧區ニ於テ選擧スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

議員ノ配當ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

議員ノ定數ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス

第六條　府縣內ノ市町村公民ハ府縣會議員ノ選擧權及被選擧權ヲ有ス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

市町村公民權停止中ノ者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選擧權ヲ有セス

選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域內ニ於テ被選擧權ヲ有セス

府縣ノ官吏及有給ノ吏員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

衆議院議員ハ府縣會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第七條　府縣會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八條　府縣會議員中闕員ヲ生シタルトキハ三箇月以內ニ補闕選擧ヲ行フヘシ但シ其ノ闕員ト爲リタル議員カ第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期限前ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ於テ闕員ト爲リタル者ナル場合ニ於テ第二十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十二條第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十二條第四項及第五項ノ規定ハ補闕選擧ニ之ヲ準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九條　府縣會議員ノ選擧ハ府縣內ニ於ケル市町村會議員選擧人名簿ニ依リ之ヲ行フ

町村制第三十八條ノ町村ニ於テハ同法第十八條乃至第十八條ノ五ノ規定ニ準シ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ選擧人名簿ハ之ヲ町村會議員選擧人名簿ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用ス

第十條　削除

第十一條　削除

第十二條　削除

第十三條　府縣會議員ノ選擧ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選擧ヲ行フヘキ選擧區投票ヲ行フヘキ日時及選擧スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選擧ノ期日前二十日目マテニ之ヲ發スヘシ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該選擧區又ハ投票區ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ投票ノ期日前七日目マテニ之ヲ告示スヘシ

第十三條ノ二　議員候補者タラムトスル者ハ選擧ノ期日ノ告示アリタル日ヨリ選擧ノ期日前七日目マテニ其ノ旨ヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

選擧人名簿ニ登錄セラレタル者他人ヲ議員候補者ト爲サムトスルトキハ前項ノ期間內ニ其ノ推薦ノ屆出ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ期間內ニ屆出アリタル議員候補者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選擧ノ期日ノ前日マテ議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者ハ選擧長ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ議員候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

前四項ノ屆出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第十三條ノ三　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ヲ爲サムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票數其ノ選擧區ノ配當議員數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ達セサルトキハ前項ノ供託物ハ府縣ニ歸屬ス

議員候補者選擧ノ期日前十日以內ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ被選擧權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第十五條　投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

投票所ハ市役所、町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

投票管理者ハ選擧ノ期日前五日目マテニ投票所ヲ告示スヘシ

府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ投票立會人一人ヲ定メ選擧ノ期日ノ前日マテニ投票管理者ニ屆出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ屆出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スルマテノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十七條　選擧人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

投票所ニ於テ演説討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ渉リ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者投票所ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第十八條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經又ハ確定裁決書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ投票所ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選擧人名簿調製ノ後選擧人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ仍選擧權ヲ有スルトキハ前住所地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第三十二條第一項若ハ第三十六條ノ選擧又ハ補闕選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第十八條ノ二　確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選擧ノ當日選擧權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

同府縣内ニ於ケル二以上ノ市町村ニ於テ公民權ヲ有スル者ハ住所地市町村ニ於テノミ投票ヲ爲スコトヲ得

第十九條　投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選擧人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票立會人ニ於テ異議アル選擧人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第二十條　投票管理者ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條　投票管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日マテニ、市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ選擧長ニ送致スヘシ

第二十二條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選擧會ノ期日マテニ其ノ投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條　選擧長ハ市長又ハ府縣知事ノ指定シタル官吏ヲ以テ之ニ充ツ

選擧長ハ選擧會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選擧會ハ市役所又ハ選擧長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

選擧長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第二十三條ノ二　府縣知事特別ノ事情アリト認ムルトキハ區劃ヲ定メテ開票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　第十六條ノ規定ハ選擧立會人ニ之ヲ準用ス

第二十五條　選擧長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日選擧會ヲ開キ選擧立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ但シ場合ニ依リ投票函ノ送致ヲ受ケタル日選擧會ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ先ツ第十九條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

選擧長ハ選擧立會人ト共ニ投票區毎ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲選擧會ヲ開クコトヲ得サルトキハ選擧長ハ更ニ其ノ期日ヲ定ムヘシ

第二十六條　選擧人ハ其ノ選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條ノ二　選擧會場ノ取締ニ付テハ第十七條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十七條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ

七　議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難キモノ

八　府縣會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第八號ノ規定ハ第八條、第三十二條又ハ第三十六條ノ規定ニ依ル選擧ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第二十八條　投票ノ效力ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長之ヲ決定スヘシ

第二十九條　府縣會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ其ノ選擧區ノ配當議員數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第二十九條ノ二　當選者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十九條ノ三　第十三條ノ二第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル届出アリタル議員候補者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選擧區ニ於テハ投票ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通知シ併セテ之ヲ告示シ且府縣知事ニ報告スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選擧長ハ選擧ノ期日ヨリ五日以内ニ選擧會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選者ト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選擧權ノ有無ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ選擧長之ヲ決定スヘシ

第三十條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顛末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選擧立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

選擧錄、投票錄、投票其ノ他ノ關係書類ハ選擧長（府縣知事ノ指定シタル官吏選擧長タル場合ニ於テハ府縣知事）ニ於テ、府縣會議員選擧ニ用ヰタル選擧人名簿ハ市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十一條　當選者定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選擧錄及投票錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選擧錄及投票錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ選擧ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選擧ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

前二項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第六項ニ掲クル在職ノ官吏ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

府縣ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ府縣ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付府縣知事若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者竝淸算人ヲ謂フ

第三十一條ノ二　選擧長ハ前條第一項ノ報告ヲ爲シタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ町村長ニ返付スヘシ

第三十二條　當選者左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スルトキハ三箇月以内ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　當選ヲ辭シタルトキ

二　數選擧區ニ於テ選擧ニ當リタル場合ニ於テ第三十一條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選擧區ノ選擧ニ應シタル爲他ノ選擧區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルトキ

三　第二十九條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四　死亡者ナルトキ

五　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ當選無效ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選擧又ハ補闕選擧ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

六　第三十四條ノ二ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無效ト爲リタルトキ

前項ノ事由第三十一條第二項、第三項若ハ第六項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第二十九條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第二十九條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ期間ハ第三十四條第七項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選擧ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期滿了前六箇月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選擧ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定員ノ三分ノ二ニ滿チサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條　選擧人又ハ議員候補者選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條第一項又ハ前條第二項ノ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事又ハ選擧長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八條、第三十二條又ハ第三十六條第一項若ハ第三項ノ選擧ハ之ニ關係アル選擧又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

府縣會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十四條ノ二　衆議院議員選擧法第百十條ノ規定ノ準用ニ依リ當選ヲ無效ナリト認ムルトキハ選擧人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ第三十一條第一項告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

衆議院議員選擧法第百三十六條ノ規定ノ準用ニ依リ選擧事務長カ同法第百十二條又ハ第百十三條ノ規定ノ準用ニ依ル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルニ因リ當選ヲ無效ナリト認ムルトキハ選擧人又ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ其ノ裁判確定ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前二項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

衆議院議員選擧法第八十五條、第八十七條及第百四十一條ノ規定ハ前三項ノ規定ニ依ル訴訟ニ之ヲ準用ス

第三十五條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

第三十六條　選擧無效ト確定シタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ

當選無效ト確定シタルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十二條第三項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三箇月以内ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ

第三十二條第四項及第五項ノ規定ハ第一項及前項ノ選擧ニ之ヲ準用ス

第三十七條　府縣會議員被選擧權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第三十一條第七項ニ掲クル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ノ有無又ハ第三十一條第七項ニ掲クル者ニ該當スルヤ否ハ府縣會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選擧權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外府縣參事會其ノ異議ヲ決定ス

一　禁治産者又ハ準禁治産者ト爲リタルトキ

二　破産者ト爲リタルトキ

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲被選擧權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ但シ同府縣内ニ於テ住所ヲ移シタル後被選擧權ヲ失フヘキ其ノ他ノ事由ニ該當スルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

府縣會ニ於テ其ノ議員中被選擧權ヲ有セサル者又ハ第三十一條第七項ニ掲クル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ七

日以內ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者又ハ第三十一條第七項ニ揭クル者アリト認ムルトキ亦同シ

第三十四條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十八條　本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條　府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章竝第百四十條第二項及第百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數竝選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款　職務權限及處務規程

第四十一條　府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一　歲入出豫算ヲ定ムル事

二　決算報告ニ關スル事

三　法律命令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手數料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四　不動產ノ處分竝買受讓受ニ關スル事

五　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八　其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條　府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條　府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十四條　府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條　府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第四十七條　府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十八條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條　府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條　府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ每年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以內トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以內トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條　府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス招集ハ開會ノ日前十四日目マテニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條　府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第五十四條　議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ府縣會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條　法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一名每ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第十八條及第二十七條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

第一項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用ウルコトヲ得

第五十六條　府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定員ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十八條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十八條　府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條　會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條　議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條　府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條　府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律竝會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章　府縣參事會

第一款　組織及選舉

第六十五條　府縣ニ府縣參事會ヲ置キ議長及名譽職參事會員十人ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十六條　名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十八條第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣會之ヲ議決ス

名譽職參事會員中闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依リ選舉同時ナルトキハ得票數ニ依リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ抽籤ニ依ル仍闕員アル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ隔年之ヲ選舉スヘシ

名譽職參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ルマテ在任ス府縣會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同シ

名譽職參事會員ハ其ノ選舉ニ關スル第八十二條第一項ノ處分確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第六十七條　府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス

第二款　職務權限及處務規程

第六十八條　府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事

三　削除

四　府縣會ノ議決シタル範圍內ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五　府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　府縣ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七　其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十九條　府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ檢査ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條　第四十四條第四十五條第四十九條第五十一條第三項第五十五條第五十七條第一項及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條　府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條　府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條　府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顚末ハ之ヲ會議錄ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條　第五十四條ノ規定ハ議長、其ノ代理者及名譽職參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第四項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ

議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章　府縣行政

第一款　府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條　府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第七十六條　府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條　府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第二款　府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條　府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

二　府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

三　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五　證書及公文書類ヲ保管スル事

六　法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七　其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條　削除

第八十條　府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣ノ官吏吏員ニ委任シ又ハ府縣吏員ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條　府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ竝給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八十二條　府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項ノ取消處分ハ府縣會又ハ府縣參事會開會中ニ非サルトキハ之ヲ告示スヘシ

第一項ノ取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條　府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ

付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ内務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條　府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條　府縣會若ハ府縣參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十六條　府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條　府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條　官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條　府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條　府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條　委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第九十二條　府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第九十三條　有給府縣吏員ノ給料額竝旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條　府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第九十五條　有給府縣吏員ノ退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

第九十六條　退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條　給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五章　府縣ノ財務

第一款　財產營造物及府縣稅

第九十八條　府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條　府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徴收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第百條　本法中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第百一條　府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百二條　府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第百三條　府縣稅及其ノ賦課徴收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第百四條　府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百五條　三箇月以上府縣内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百六條　府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百七條　納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滯在同時ニ府縣ノ内外ニ涉ル者ノ前項以外ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第百八條　府縣ノ内外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業又ハ其ノ收入ニ對シ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅附加稅所得稅附加稅又ハ鑛產稅附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ步合ヲ定ム若協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

鑛區又ハ砂鑛區カ府縣ノ内外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區稅又ハ砂鑛區稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第百九條　府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第百十條　府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

府縣ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ府縣稅ヲ課セサルコトヲ得

第百十一條　府縣ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ府縣ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十二條　府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣内一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十三條　府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第百十四條　詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徴收ヲ免レ又ハ府縣稅ヲ逋脫シタル者ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ徴收ヲ免レ又ハ逋脫シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、手數料及府縣稅ノ賦課徴收ニ關シテハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ヲ科シ及之ヲ徴收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十五條　府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徴稅令書又ハ徴稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料及手數料ノ徴收竝夫役及現品ノ賦課ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事、其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員又ハ市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條　府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅、使用料、手數料、夫役又ハ現品ニ代フル金錢、過料其ノ他ノ府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

急迫ノ場合ニ於テ夫役又ハ現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ換算シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

第二項ノ規定ニ依ル督促又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限マテニ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スヘシ

第二項及第三項ニ規定スル府縣ノ徴收金ノ先取特權ノ順位ハ國ノ徴收金ニ次クモノトス

府縣ノ收入金及支拂金ニ關スル時效ニ付テハ國ノ收入金及支拂金ノ例ニ依ル

府縣知事ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員カ第四項ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十七條　府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款　歲入出豫算及決算

第百十八條　府縣知事ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財產表ヲ提出スヘシ

第百十九條　府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條　府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百二十一條　豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

第百二十二條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大臣ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條　府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條　決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

決算ハ之ヲ内務大臣ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十五條　豫算調製ノ式竝費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第百二十六條　府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章ノ二　府縣組合

第百二十六條ノ二　府縣ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ規約ヲ定メ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣組合ヲ設クルコトヲ得

府縣組合ハ法人トス

第百二十六條ノ三　府縣組合ノ規約ニハ其ノ名稱組合ヲ組織スル府縣組合ノ共同事務組合會ノ組織事務ノ管理費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

府縣組合ノ事務ハ内務大臣ノ指定シタル府縣知事之ヲ管理ス

第百二十六條ノ四　府縣組合ノ組合府縣數ヲ增減シ共同事務ノ變更ヲ爲シ其ノ他規約ヲ變更セムトスルトキ又ハ府縣組合ヲ解カムトスルトキハ關係府縣ノ協議ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ關係府縣ノ協議ニ依リ之ヲ定ム

第百二十六條ノ五　前三條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

第百二十六條ノ六　公益上必要アル場合ニ於テハ内務大臣ハ關係府縣會ノ意見ヲ徴シ府縣組合ヲ設ケ[illegible]定メ若ハ[illegible]定ムルコトヲ得

第百二十六條ノ七　府縣組合ニ關シテハ法律勅令中別ニ規定アルモノヲ除ク外府縣ニ關スル規定ヲ準用ス但シ府縣組合ニハ參事會ヲ置カス其ノ權限ニ屬スル事項ハ組合ノ事務ヲ管理スル府縣知事之ヲ行フ

第六章　府縣行政ノ監督

第百二十七條　府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第百二十八條　異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ受ケ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ[illegible]ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ[illegible]規定ニ[illegible]示ノ日[illegible]

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百二十八條ノ二　異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除ク外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三箇月以内ニ之ヲ爲スヘ

シ府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以內ニ之ヲ裁決スヘシ

第百二十九條　內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ竝實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百三十條　內務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

內務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第百三十一條　內務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ選擧スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス內務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百三十二條　府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣之ヲ定ム

第百三十三條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　削除

二　使用料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　削除

四　第百十一條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ府縣ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

五　削除

六　繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

第百三十四條　府縣債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第百十七條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十五條　府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百三十六條　府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章　附則

第百三十七條　此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ【時期】ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第百三十八條　島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選擧ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

沖繩縣ニ於テハ第十三條中二十日トアルハ三十日、七日トアルハ十日、第十五條中五日トアルハ十日、第三十一條中十日トアルハ二十日、二十日トアルハ三十日、第三十四條及第五十一條中十四日トアルハ二十五日トス

第百三十九條　町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ、町村吏員ニ關スル規定ハ町村吏員ニ準スヘキモノニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第百三十九條ノ二　第四十九條及第七十六條ノ規定ニ依ル府縣知事ノ職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監亦之ヲ行フ

第百四十條　從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十一條　【明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及】地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ效力ヲ有ス

第百四十二條　本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第百四十三條　第四條第二項但書ノ市ニ於テハ第二章第一款中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

第百四十四條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員、其ノ組合役場ハ之ヲ町村役場ト看做ス

第百四十五條　從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域內ニ於テ市ノ設置アリタルトキ又ハ其ノ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ區域モ亦自ラ變更シタルモノト看做ス

從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付其ノ町村ノ屬スヘキ區域ハ內務大臣之ヲ定ム

第百四十六條　明治十三年第十五號布告府縣會規則明治二十二年法律第八號府縣會議員選擧規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第百四十七條　此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（大正一一年法律第五五號）

本法中選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正十年法律第五十八號又ハ法律第五十九號中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行セサル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付之ヲ施行シタルモノト看做ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選擧スルニ必要ナル選擧人名簿ニ關シ第九條乃至第十二條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

（選擧ニ關スル規定以外ノ規定ハ大正十一年五月十五日ヨリ施行（大正一一年勅令第二五五號））

附　則（大正一五年法律第七三號）

本法中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

次ノ總選擧ニ至ルマテノ間從前ノ第九條、第十二條、第十四條、第二十一條、第二十三條乃至第二十五條、第三十條及第三十四條ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行セサル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付之ヲ施行シタルモノト看做ス

此ノ場合ニ於テ議員ノ選擧ニ必要ナル選擧人名簿ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

大正十五年市制中改正法律又ハ町村制中改正法律中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行シタル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付次ノ總選擧ニ至ルマテノ間未タ之ヲ施行セサルモノト看做ス

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十五年勅令第二百三號ヲ以テ議員選擧ニ關スル規定ヲ除クノ外同年七月一日ヨリ施行）

大正十五年法律第七十三號府縣制中改正法律附則第三項ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件左ノ通定ム（大正十五年八月五日　內務省令第三十九號）

第一條　大正十五年法律第七十三號府縣制中改正法律ニ依リ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ其ノ選擧ニ用フヘキ市町村會議員選擧人名簿ナキ市町村ニ於テハ府縣會議員ノ選擧人名簿ハ本令ニ依リ調製スル選擧人名簿ニ依リ之ヲ行フ

第二條　前條ノ市町村ニ於テハ市町村長ハ府縣會議員ノ總選擧ノ期日ノ屬スル年ノ前年ヨリ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第三條　前條ノ選擧人名簿アル市町村ト大正十五年法律第七十四號市制中改正法律又ハ同年法律第七十五號町村制中改正法律ニ依リ調製シタル選擧人名簿アル市町村トノ區域ノ境界ニ涉リ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テハ大正十五年法律

依ル第七十四號市制中改正法律又ハ同年法律第七十五號町村制中改正法律ニ依リ調製シタル選擧人名簿中市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ニ因リ異動アリタル區域ニ係ル部分ハ之ヲ本令ニ依リ調製シタル選擧人名簿ト看做ス

第四條　第二條ノ選擧人名簿アル市町村ト同條ノ選擧人名簿ナキ市町村（大正十五年法律第七十四號市制中改正法律又ハ同年法律第七十五號町村制中改正法律ニ依リ調製シタル選擧人名簿アル市町村ヲ除ク）トノ區域ノ境界ニ涉リ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ選擧人名簿ナキ市町村ノ區域ニ屬シタル地域ニ關シ必要ナル選擧人名簿ハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長之ヲ調製スヘシ、此ノ場合ニ於テ市制第二十一條乃至第二十一條ノ五又ハ町村制第十八條乃至第十八條ノ五ノ規定ノ準用ニ依ル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ府縣知事ニ於テ其ノ期日又ハ期間ヲ定ムヘシ

第五條　市制第二十一條乃至第二十一條ノ五、第三十九條、第百六十條及第百六十條ノ二又ハ町村制第十八條乃至第十八條ノ五、第三十六條、第百四十條及第百四十條ノ二竝ニ市制町村制施行令第八條乃至第十條ノ規定ハ本令ニ依リ調製スル選擧人名簿ニ之ヲ準用ス

第六條　本令ニ依リ調製スル選擧人名簿ノ樣式ハ市制町村制施行規則別記樣式ノ例ニ依ル

第七條　府縣制第百四十四條ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第八條　本令ニ依リ準用スル府縣制、市制及町村制ノ規定ハ次ノ總選擧ヨリ施行セラルル規定ヲ謂フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣制暫行特例

（大正十五年六月二十四日　勅令第二百四號）

朕府縣制暫行特例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

府縣制暫行特例

第一條　本令ハ大正十五年府縣制中改正法律附則第二項ノ規定ニ依ル特例ヲ定ムルモノトス

第二條　町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日迄ニ其ノ町村內ノ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第三條　町村長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ町村役場ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ、若シ關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ府縣制第十一條ノ手續ヲ爲スコト能ハズシテ名簿ニ登錄セラレザルトキハ縱覽期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

本條ノ規定ニ依リ町村長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第四條　府縣制第二十一條ノ規定ニ依リ町村長ニ於テ投票函及投票錄ヲ選擧會場ニ送致スルトキハ併セテ選擧人名簿ヲ送致スヘシ

第五條　選擧長ハ府縣制第三十一條第一項ノ報告ヲ爲シタルトキハ府縣制第三十條ノ規定ニ拘ラズ直ニ選擧人名簿ヲ町村長ニ返付スヘシ、町村長ハ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

府縣知事ノ指定シタル官吏選擧長タル場合ニ於テハ府縣制第三十條ノ規定ニ依リ選擧長ノ保存スヘキ選擧錄、投票其ノ他關係書類ハ府縣知事之ヲ保存スヘシ

第六條　府縣制第十四條、第二十三條第一項及第二項、第二十四條第一項、第二十五條第一項及第二項竝ニ第三十四條第六項ノ規定ニ依ル郡長ノ職務權限ハ府縣知事ノ指定シタル官吏之ヲ行フ

第七條　本令ニ依ル異議、訴願及訴訟ニ付テハ府縣制第三十八條及第百二十八條ノ例ニ依ル

第八條　府縣制第三十九條第二項ノ規定ハ本令ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第九條　本令中郡長ニ關スル規定ハ島司ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

府縣制第十二條第一項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル異議ノ申立ハ之ヲ第三條第一項ノ規定ニ依リ町村長ニ爲シタル異議ノ申立ト看做ス

府縣制第十二條第一項ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル異議ノ決定ニ關スル訴願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル、此ノ場合ニ於テハ訴願ノ提起ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スルコトヲ要セズ

前項ノ裁決ニ對スル訴訟ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

府縣制第十二條第三項及第三十四條第六項ノ規定ニ依リ郡長ノ提起シタル訴訟ハ之ヲ府縣知事ノ提起シタル訴訟ト看做ス

●府縣制改正經過規程

（大正十五年六月二十四日　勅令第二百五號）

朕府縣制改正經過規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

府縣制改正經過規程

第一條　從前ノ府縣制第三條第三項ノ規定ニ依リ府縣知事ニ於テ市參事會ノ意見ヲ徵シタル場合ニ於テハ府縣制第三條第三項ノ規定ニ依リ市會ノ意見ヲ徵シタルモノト看做ス

第二條　大正十五年七月一日現ニ在任スル名譽職參事會員及其ノ補闕名譽職參事會員ノ任期ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條　郡廳舍建築修繕費及郡役所費ノ負擔ニ關シテハ大正十五年度ニ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

第四條　從前ノ府縣制第百十五條第五項ノ規定ニ依リ郡島ノ官吏吏員ノ提起シタル訴訟ハ之ヲ府縣制第百十五條第五項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ提起シタルモノト看做ス

第五條　從前府縣制第百十六條第七項ノ規定ニ依リ郡島ノ官吏吏員ノ爲シタル處分ニ關スル訴願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル、此ノ場合ニ於テハ訴願ノ提起ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スルコトヲ要セズ

前項ノ裁決ニ對スル訴訟ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

前條ノ規定ハ[illegible]ニ之ヲ準用ス

第六條　[illegible]正十五年六月三十日迄ニ[illegible]若ハ裁決[illegible]條第二項[illegible]八條ノ二ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣制施行令

（大正十五年六月二十四日　勅令第二百六號　改正　昭和二年第三六號）

朕府縣制施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

府縣制施行令

第一章　府縣會議員ノ選擧

第一條　府縣制第六條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ學生生徒左ノ如シ

一　陸軍各部依託學生生徒

二　海軍[illegible]生造機學生[illegible]海軍豫備[illegible]

第二條　府縣制第十五條第四項ノ規定ニ依リ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設ケタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

第三條　府縣制第十五條第四項ノ規定ニ依リ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　投票管理者ハ投票區ノ一ニ於テハ市町村長トシ其ノ他ノ投票區ニ於テハ市町村

長ノ指定シタル市町村吏員ヲ以テ之ニ充ツ

二　市町村長ハ選擧人名簿ニ依リ投票區（市町村長投票管理者タル投票區ヲ除ク）毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製シ選擧ノ期日ノ告示アリタルトキハ直ニ之ヲ關係投票管理者ニ送付スベシ

三　市町村長ノ指定シタル市町村吏員投票管理者タル投票區ニ於テハ府縣制第十八條第三項及第二十一條並ニ本令第八條中選擧人名簿トアルハ選擧人名簿ノ抄本トス

四　選擧人名簿ノ抄本ハ市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スベシ

第四條　府縣制第十五條第四項ノ規定ニ依リ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　投票管理者ハ府縣知事ニ於テ關係町村長ノ中ニ就キ之ヲ指定ス

二　町村長ハ選擧ノ期日ノ告示アリタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ投票管理者ニ送付スベシ

三　町村費ヲ以テ支辨スベキ投票所ノ費用ハ之ヲ關係町村ニ平分スベシ

第五條　府縣制第十八條第七項ノ規定ニ依リ盲人ガ投票ニ關スル記載ニ使用スルコトヲ得ル點字ハ市制町村制施行令別表ノ定ムル所ニ依ル

點字ニ依リ投票ヲ爲サントスル選擧人ハ投票管理者ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツベシ、此ノ場合ニ於テハ投票管理者ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スベシ

點字ニ依ル投票ノ拒否ニ付テハ府縣制第十九條ノ例ニ依ル、此ノ場合ニ於テハ封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スベシ

前項ノ規定ニ依リ假ニ爲サシメタル投票ハ府縣制第二十五條第二項及第三項ノ規定ノ適用ニ付テハ同法第十九條第二項及第四項ノ投票ト看做ス

第六條　府縣制第二十三條ノ二ノ規定ニ依リ開票區ヲ設ケタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ區劃ヲ告示スベシ

第七條　開票管理者ハ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ吏員ヲ以テ之ニ充ツ

開票管理者ハ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

開票所ハ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

開票管理者ハ豫メ開票ノ場所及日時ヲ告示スベシ

第八條　開票區ノ區劃內ノ投票管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ町村ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、市ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スベシ

第九條　投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選擧長ニ報告スベシ

第十條　開票管理者ハ開票錄ヲ作リ開票ニ關スル顚末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ開票立會人ト共ニ之ニ署名シ直ニ投票錄及投票ト併セテ之ヲ選擧長ニ送致スベシ

第十一條　開票管理者ハ第九條ノ報告ヲ爲シタルトキハ直ニ選擧人名簿（選擧人名簿ノ抄本アルトキハ併セテ其ノ抄本）ヲ町村長ニ返付スベシ

第十二條　選擧長ハ總テノ開票管理者ヨリ第九條ノ報告ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日（又ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日）選擧會ニ於テ選擧立會人立會ノ上其ノ報告ヲ調査シ府縣制第二十五條第三項ノ規定ニ依リ爲シタル點檢ノ結果ト併セテ各議員候補者ノ得票總數ヲ計算スベシ

第十三條　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ニ於テハ選擧長ハ前條ノ規定ニ準ジ其ノ部分ニ付前條ノ手續ヲ爲シ他ノ部分ニ於ケル各議員候補者ノ得票數ト併セテ其ノ得票總數ヲ計算スベシ

第十四條　開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選擧長ハ府縣制第三十一條第一項ノ報告ニ開票錄ノ寫ヲ添附スベシ

第十五條　第四條第一號若ハ第七條第一項又ハ府縣制第二十三條第一項ノ規定ニ依リ投票管理者、開票管理者又ハ選擧長ヲ指定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ

前項ノ規定ハ第三條第一號ノ規定ニ依リ市町村長ニ於テ投票管理者ヲ指定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　府縣制第十六條ノ規定ハ開票立會人ニ、同法第十七條第一項及第二項ノ規定ハ開票所ニ、同法第二十二條、第二十五條、第二十六條及第二十八條ノ規定ハ開票所ニ於ケル開票ニ之ヲ準用ス

第二章　府縣會議員ノ選擧運動及其ノ費用並ニ公立學校等ノ設備ノ使用

第十七條　選擧事務所ハ議員候補者一人ニ付選擧區ノ配當議員數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數一萬以上ナルトキハ三箇所ヲ、一萬未滿ナルトキハ二箇所ヲ超ユルコトヲ得ズ

選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合又ハ府縣制第十三條第二項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選擧事務所ハ前項ノ規定ニ依ル數ヲ超エザル範圍內ニ於テ府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ズ

府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）ハ選擧ノ期日ノ告示アリタル後直ニ前二項ノ規定ニ依ル選擧事務所ノ數ヲ告示スベシ

第十八條　選擧委員及選擧事務員ハ議員候補者一人ニ付選擧區ノ配當議員數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數一萬以上ナルトキハ通ジテ二十人ヲ、一萬未滿ナルトキハ通ジテ十五人ヲ超ユルコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ選擧委員及選擧事務員ニ之ヲ準用ス

第十九條　選擧運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　選擧區ノ配當議員數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘ジテ得タル額

二　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ選擧區ノ配當議員數ヲ以テ選擧人名簿確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘ジテ得タル額

三　府縣制第十三條第二項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準ジテ算出シタル額但シ府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）ハ選擧ノ期日ノ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ告示スベシ

第二十條　衆議院議員選擧法施行令第八章、第九章及第十二章ノ規定ハ府縣會議員ノ選擧ニ之ヲ準用ス

第三章　府縣出納吏及府縣吏員ノ身元保證及賠償責任

第二十一條　府縣出納吏其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財產ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ府縣知事ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムベシ但シ避クベカラザル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラザリシトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スベシ

第二十二條　府縣出納吏以外ノ吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ府縣知事ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムベシ

第二十三條　前二條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ府縣知事ハ七日以內ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スベシ、府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ之ヲ決定スベシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣制第三十八條及第百二十八條ノ規定ハ本條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第二十四條　賠償金ノ徵收ニ付テハ府縣制第百二十六條ノ例ニ依ル

第二十五條　府縣出納吏ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムベシ

第四章　府縣費ノ分賦

第二十六條　府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲特ニ賦課徵收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ當該年度ノ府縣稅既定豫算額ノ十分ノ一ノ範圍內ニ於テ其ノ費用ヲ府縣內市町村ニ分賦スルコトヲ得

第二十七條　前條分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅及直接府縣稅ノ賦課額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第二十八條　市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ニ賦課スベキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得

第二十九條　第二十七條ニ規定スル直接國稅及直接府縣稅ノ種類左ノ如シ

國稅

地租　所得稅（所得稅法第三條第二種ニ係ル所得稅ヲ除ク）　營業稅　營業收益稅

鑛業稅　砂鑛區稅　取引所營業稅

府縣稅

特別地稅　戶數割　家屋稅　營業稅　雜種稅（遊興稅及觀覽稅ヲ除ク）

第五章　府縣稅ノ賦課徵收

第三十條　府縣ノ內外ニ涉リ營業所ヲ定メテ爲ス營業ニ付營業收益稅ヲ分別シテ納メザル者ニ對スル營業收益稅附加稅ノ賦課ニ關シテハ府縣制第百八條第一項ノ例ニ依ル

第三十一條　市町村ハ其ノ市町村內ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ

府縣ハ前項徵收ノ費用トシテ地租附加稅及特別地稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ千分ノ七、其ノ他ノ府縣稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スベシ

第三十二條　市町村ハ避クベカラザル災害ニ因リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

府縣知事前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スベシ、府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ之ヲ決定スベシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

府縣制第三十八條及第百二十八條ノ規定ハ本條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　府縣稅ヲ徵收セントスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スベシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

府縣ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限リ前二項ノ規定ニ依ラズ其ノ府縣ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ府縣稅ヲ納入セシムルコトヲ得

第三十四條　徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス

徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス但シ府縣知事ハ市町村吏員ヲシテ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發セシムル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ其ノ拂込金ノ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅人又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ミ又ハ納入スルニ依リテ其ノ義務ヲ了ス

第三十五條　第三十三條第二項ノ規定ニ依リ市町村吏員ヲシテ徵稅令書ヲ發セシメタル場合ニ於テハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スルコトヲ得

第三十六條　徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人期限內ニ稅金ヲ完納セザルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ニハ府縣知事ノ定メタル期間內ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スベシ

第三十七條　督促狀ヲ發シタルトキハ手數料ヲ徵收ス

手數料ノ額ハ府縣知事之ヲ定ム

市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手數料ハ其ノ市町村ノ收入トス

第三十八條　市制町村制施行令第四十五條乃至第五十二條ノ規定ハ府縣稅ノ賦課徵收ニ之ヲ準用ス

第三十九條　府縣ハ內務大臣及大藏大臣ノ指定シタル府縣稅ニ付テハ第三十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ府縣稅ノ徵收ニ付テハ第三十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第四十條　前條第一項ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ徵收セシムル場合ニ於テハ納稅人ハ其ノ稅金ヲ徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納稅ノ義務ヲ了ス

第四十一條　第三十九條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スベキ府縣稅ヲ府縣知事ノ指定シタル期日迄ニ府縣金庫又ハ郵便官署ニ拂込ムベシ其ノ期日迄ニ拂込マザルトキハ府縣知事ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スベシ

第四十二條　第三十一條第二項、第三十二條及第三十四條第三項、第四項並ニ市制町村制施行令第四十五條乃至第四十八條ノ規定ハ第三十九條第一項ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ徵收セシムル場合ノ拂込金ニ之ヲ準用ス

第四十三條　府縣稅ノ徵收期ハ府縣知事之ヲ定ム

第四十四條　府縣稅ノ徵收ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第四十五條　町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル府縣稅ノ徵收ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス、其ノ準用シ難キ事項ハ府縣知事之ヲ定ム

第六章　府縣ノ監督

第四十六條　府縣行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭グルモノハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　公會堂、公園、病院、試驗場、商品陳列所、倉庫、教員養成所、產婆看護婦養成所、棧橋、墓地、火葬場、上屋、荷揚場、繫船浮標、種畜、種畜場、用水其ノ他之ニ類スルモノノ使用料ニ關スルコト

二　市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スベキ事件ニシテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキ其ノ費用ニ限リ不均一ノ賦課ヲ爲スコト

三　支出總額五十萬圓以內ノ繼續費ニ關スルコト

四　繼續費ヲ減額スルコト

五　元本總額五十萬圓ニ達スル迄ノ府縣債ニ關スルコト

六　借入ノ翌年度ニ於テ償還スル府縣債ニ關スルコト但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

七　府縣債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減スルコト

八　府縣債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル府縣債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル府縣債ニ變更スルコト

九　府縣債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セズシテ低利借替ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル府縣債ノ借入又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十　府縣債ノ償還年限ヲ延長セズシテ不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度內ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト

第七章　市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ノ行政ニ關スル特例

第四十七條　從來市部及郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部及郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會及市部參事會竝ニ郡部會及郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得

第四十八條　市部會及郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

市部又ハ郡部ニ於テ選出スベキ府縣會議員ノ數十二人ニ滿チザルトキハ府縣制第五條ノ定員ニ拘ラズ之ヲ十二人トス

第四十九條　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ベキモノト市部會又ハ郡部會ノ議決ヲ經ベキモノトノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ受ケ府縣知事之ヲ定ム、許可スベカラズト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第五十條　市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ十二人トス

市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選擧ス

市部參事會及郡部參事會ハ議長及各部會ニ於テ選擧シタル名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十一條　府縣費ニ關スル市部及郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ受ケ府縣知事之ヲ定ム、許可スベカラズト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第五十二條　第四十九條及前條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

第五十三條　市部及郡部ノ經濟ヲ分別スル府縣ノ行政ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外府縣制ノ規定ヲ準用ス

第五十四條　市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

第五十四條ノ二　市部會及郡部會ヲ設ケタル府縣ガ之ヲ廢シタル場合ニ於テハ其ノ際現ニ名譽職參事會員及其ノ補充員タル者ハ最近ノ改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フ但シ各十人ノ定員ヲ超ユル員數ニ付テハ府縣知事抽籤シテ解任スベキ者ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員ノ補闕順位ハ府縣知事抽籤シテ之ヲ定ム

第八章　島嶼ニ於ケル府縣ノ行政ニ關スル特例

第五十五條　島嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ分別スルコトヲ得

第五十六條　東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於ケル府稅ノ賦課及府會議員ノ選擧ニ關シテハ當分從前ノ例ニ依ル

第九章　雜則

第五十七條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長、其ノ組合吏員ハ之ヲ町村吏員ト看做ス

附　則

本令中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十二年勅令第二百二十七號
明治三十二年勅令第二百二十八號
明治三十二年勅令第二百八十五號
明治三十二年勅令第三百十六號
明治三十三年勅令第八十一號
明治三十三年勅令第二百四十八號
府縣會議員選擧區分區令
大正十三年勅令第二百二十七號

從前ノ規定ニ依ル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

明治三十三年勅令第二百四十八號第二條ノ規定ニ依ル處分ニ關シ提起シタル訴願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

明治三十三年勅令第二百四十八號第二條又ハ同年勅令第八十一號第三條ノ規定ニ依リ爲シタル決定又ハ處分ニ對スル異議ノ申立期間又ハ訴願ノ提起期間ハ決定又ハ處分アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

明治三十三年勅令第八十一號第二條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル申請又ハ同令第三條ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ決定ニ付セラレタル申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ府縣參事會ノ決定ナキモノニ付テハ第三十二條第二項ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

本令中議員選擧ニ關スル規定施行ノ際大正十五年勅令第三號衆議院議員選擧法施行令又ハ市制町村制施行令中公民權及議員選擧ニ關スル規定未ダ施行セラレザル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ同令又ハ同規定ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

（明治三十二年六月二十一日內務省令第二十五號　改正　大正一四年第五號　昭和二年第一五號）

【本年勅令第二百八十五號】ニ依リ左ノ府縣ニ於テハ從來ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クヘシ

東京府　京都府　兵庫縣　愛知縣
廣島縣

（昭和二年四月二十九日內務省令第二十七號）

明治三十二年內務省令第二十五號中「廣島縣」ヲ削ル

附　則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣制施行規則

（大正十五年六月二十四日內務省令第十八號）

府縣制施行規則左ノ通定ム

第一章　府縣會議員ノ選擧

第一條　府縣制第五條及本令第三條ニ規定スル人口ハ內閣ニ於テ官報ヲ以テ公示シタル最近ノ人口ニ依ル

前項公示ノ人口現在ノ日以後ニ於テ府縣、市、區、從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ境界ニ涉リテ市區町村ノ廢置分合、境界變更ヲ爲シタルトキ又ハ所屬未定地ヲ市區町村ノ區域ニ編入シタルトキハ府縣、從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ノ人口ハ左ノ區別ニ依リ府縣知事ノ告示シタル人口ニ依リ、市區ノ人口ハ市制町村制施行規則第一條第二項乃至第四項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ告示シタル人口ニ依ル但シ市區町村ノ境界變更又ハ所屬未定地編入ノ區域ニ現住者ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域ニ於テハ市制町村制施行規則第一條ノ規定ニ依ル町村ノ人口ヲ集計シタルモノ

二　府縣ニ在リテハ市制町村制施行規則第一條ノ規定ニ依ル市區町村ノ人口ヲ集計シタルモノ

前項ノ規定ハ市區町村ノ境界確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ人口中ニハ部隊艦船及監獄內ニ在リタル人員ヲ含マズ

第二條　府縣ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキハ前條第二項及第四項ノ例ニ依ル

第三條　府縣制第五條ニ依リ各選擧區ニ於テ選擧スベキ府縣會議員ノ數ハ人口ニ比例シテ之ヲ定ムベシ

第四條　新ニ市ヲ置キタル爲之ニ配當スベキ府縣會議員ハ從前其ノ市ノ屬シタル選擧區ヨリ選出シタル議員ノ中ニ就キ府縣知事抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ市ニ住所ヲ有スル議員アルトキハ其ノ議員ヲ以テ市選出ノ議員トス若シ市ニ住所ヲ有スル議員市ノ配當議員數ヨリ多キトキハ其ノ議員ノ中ニ就キ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項中市トアルハ府縣制第四條第二項但書ノ市ニ於テハ區トス

第五條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ議員候補者タルベキ者ノ氏名、職業、住所及生年月日（推薦屆出ノ場合ニ於テハ併セテ推薦屆出者ノ氏名、住所及生年月日）ヲ記載シ且府縣制第十三條ノ三第一項ノ供託ヲ爲シタルコトヲ證スベキ書面ヲ添附スベシ

議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ被選擧權ヲ有セザルニ至リタル爲選擧ノ期日前十日以內ニ議員候補者タルコトヲ辭スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載スベシ

第六條　議員候補者ノ屆出又ハ推薦屆出アリタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ旨ヲ議員候補者ノ住所地ノ市町村長ニ通知シ開票區アル場合ニ於テハ同時ニ議員候補者ノ氏名、職業、住所、生年月日其ノ他必要ナル事項ヲ開票管理者ニ通知スベシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ當該議員候補者死亡シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ選擧長ニ通知スベシ

開票區アル場合ニ於テハ選擧長ハ議員候補者ノ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ其ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ開票管理者ニ通知スベシ

第七條　議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ屆出ヲ受理シタルトキハ選擧長ハ直ニ其ノ受理ノ年月日時ヲ屆出書ノ餘白ニ記載スベシ

第八條　議員候補者選擧ノ期日前十一日目迄ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ、選擧ノ期日ニ於ケル投票所ヲ開クベキ時刻迄ニ死亡シタルトキ若ハ被選擧權ヲ有セザルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ選擧ノ全部無效ト爲リタルトキハ直ニ府縣制第十三條ノ三第一項ノ供託物ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

議員候補者ノ得票數府縣制第十三條ノ三第二項ノ規定ニ該當セザルモノナルトキ又ハ議員候補者同法第二十九條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ選擧及當選ノ效力確定後直ニ同法第十三條ノ三第一項ノ供託物ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

第九條　投票立會人ノ屆出ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ投票立會人ノ氏名、住所及生年月日ヲ記載シ且本人ノ承諾書ヲ添附スベシ

第十條　投票管理者必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到著番號札ヲ選擧人ニ交付スルコトヲ得

第十一條　投票記載ノ場所ハ選擧人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト能ハザラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スベシ

第十二條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クベシ

第十三條　投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ投票所ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖スベシ

第十四條　投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿（又ハ選擧人名簿ノ抄本）ニ對照シタル後投票用紙（假ニ投票ヲ爲サシムベキ選擧人ニ對シテハ併セテ封筒）ヲ交付スベシ

第十五條　選擧人誤リテ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投函スベシ

第十七條　選擧人投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ投票管理者ハ投票用紙（交付シタル封筒アルトキハ併セテ封筒）ヲ返付セシムベシ

第十八條　投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スベキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スベシ

第十九條　投票函ハ其ノ閉鎖後選擧長又ハ開票管理者ニ送致スル爲ノ外之ヲ投票所外ニ搬出スルコトヲ得ズ

第二十條　投票ニ關スル書類（選擧長又ハ開票管理者ニ送致シタルモノヲ除ク）ハ投票管理者ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スベシ

但シ市町村ノ區域ヲ分チテ數投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ市町村長タル投票管理者ハ其ノ他ノ投票管理者ノ保存スベキ書類ヲ併セテ保存スベシ

第二十一條　府縣知事府縣制第十三條第二項ノ規定ニ依リ投票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ投票管理者、開票管理者及選擧長ニ通知スベシ

第二十二條　第九條ノ規定ハ開票立會人及選擧立會人ニ之ヲ準用ス

第二十三條　投票ヲ點檢スルトキハ選擧長ハ選擧會ノ事務ニ從事スル者二人ヲシテ各別ニ同一議員候補者ノ得票數ヲ計算セシムベシ

第二十四條　前條ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ投票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スベシ

第二十五條　前二條ノ規定ハ開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ開票區ニ之ヲ準用ス

開票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選擧長ハ自ラ開票ヲ行ヒタル投票區ニ於ケル各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シタル後開票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀スベシ

第二十六條　選擧長又ハ開票管理者ハ投票區毎ニ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ二人以上ノ選擧立會人又ハ開票立會人ト共ニ封印ヲ施スベシ

受理スベカラズト決定シタル投票ハ其ノ封筒ヲ開披セズ前項ノ例ニ依リ封印ヲ施スベシ

第二十七條　開票管理者府縣制第二十五條第四項ノ規定ノ準用ニ依リ開票ノ期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ選擧長ニ報告スベシ

第二十八條　點字投票ナル旨ノ印ハ投票用紙及封筒ノ表面ニ之ヲ押捺スベシ

第二十九條　立會人ノ屆出書及之ニ添附スベキ承諾書、議員候補者ノ屆出書、議員候補者ノ推薦屆出書、議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ屆出書、投票錄、選擧錄、開票錄及選擧運動ノ費用ノ精算屆書ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

府縣制施行令第三條第二號ノ規定ニ依リ調製スル選擧人名簿ノ抄本ハ市制町村制施行規則別記ニ定ムル樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二章　府縣ノ財務

第三十條　府縣稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スベシ

第三十一條　各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ歲出ニ充ツルコトヲ得ズ

第三十二條　歲入ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　定期ニ賦課スルコトヲ得ザルガ爲特ニ納期ヲ定メタル收入、又ハ隨時ノ收入ニシテ徵稅令書、賦課令書又ハ納額告知書ヲ發スルモノハ令書又ハ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ徵稅令書、賦課令書又ハ納額告知書ヲ發セザルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ府縣債、補助金、寄附金、償還金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ收入ヲ豫算シタル年度ノ出納閉鎖前ニ領收シタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度

第三十三條　歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一、費用辨償、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料、其ノ他ノ給與、傭人料ノ類ハ其ノ支給スベキ事實ノ生ジタル時ノ屬スル年度但シ別ニ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　府縣債ノ元利金ニシテ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

四　補助金、寄附金、負擔金ノ類ハ其ノ支拂ヲ豫算シタル年度

五　缺損補塡ハ其ノ補塡ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

六　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三十四條　各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スベシ

第三十五條　府縣稅ハ徵稅令書、徵稅傳令書ニ依リ夫役現品ハ賦課令書ニ依リ、負擔金、使用料、手數料、過料、過怠金及物件ノ賃貸料ノ類ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ收入スベシ但シ府縣制施行令第三十三條第三項又ハ第三十九條ノ規定ニ依リ徵收スル府縣稅及急迫ノ場合ニ賦課スル夫役竝ニ納額告知書又ハ納付書ニ依リ難キモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條　支出ハ債主ニ對スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十七條　左ノ經費ニ付テハ府縣ノ官吏吏員ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏吏員ニ前渡スルコトヲ得

一　府縣債ノ元利支拂

二　外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲必要ナル經費

三　遠隔ノ地又ハ交通不便ノ地ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

特別ノ必要アルトキハ前項ノ資金前渡ハ府縣ノ官吏吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三十八條　旅費及訴訟費用ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　前二條ニ揭グルモノノ外必要ア

ルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ資金前渡又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第四十條　前金支拂ニ非ザレバ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ付テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フベシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、資金前渡、概算拂、前金拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スベシ

第四十二條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スベシ、前條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第四十三條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第四十四條　歳入歳出豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ別チ且各部ヲ款項ニ區分スベシ

第四十五條　歳入歳出豫算ニハ各項ヲ各目ニ區分シ其ノ豫算ノ基ク所ヲ詳記シタル豫算説明ヲ附スベシ

第四十六條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スベシ

第四十七條　府縣歳入歳出豫算ハ別記府縣歳入歳出豫算樣式ノ一ニ依リ之ヲ調製スベシ

府縣制第百四十條ノ府縣ニ於テハ府縣歳入歳出豫算ハ別記府縣歳入歳出豫算樣式ノ二ニ依リ、其ノ市部又ハ郡部ハ郡部限リノ豫算ハ別記府縣歳入歳出豫算樣式ノ三ニ依リ之ヲ調製スベシ

第四十八條　繼續費ノ年期及支出方法ハ別記繼續費ノ年期及支出方法樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第四十九條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ズ

豫算各項ノ金額ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得但シ機密費ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十一條　府縣ノ收入支出ニシテ命令ヲ發スルヲ要スルモノハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員其ノ他ノ職員ニ於テ之ヲ發ス

第五十二條　府縣ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

第五十三條　府縣ノ出納ニ關スル事項ハ會計年度經過後三月以内ニ之ヲ完整スベシ

第五十四條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ附スベシ

第五十五條　會計年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラザルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ゲ之ニ充用スルコトヲ得

第五十六條　府縣出納吏ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ府縣知事ニ於テ檢査員ヲ命ジ少クトモ毎年度一回之ヲ檢査セシムベシ

府縣出納吏ニ異動アリタルトキハ府縣知事ハ檢査員ヲシテ現金及帳簿ヲ檢査セシムベシ

第五十七條　府縣ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲府縣金庫ヲ置ク

第五十八條　府縣金庫ハ府縣本金庫府縣支金庫トス

府縣本金庫ハ府縣廳所在地ニ之ヲ置キ府縣支金庫ハ府縣知事ニ於テ必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク

第五十九條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムベキ銀行ハ府縣知事之ヲ定ム

金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ許可ヲ得其ノ責任ヲ以テ他ノ銀行又ハ其ノ他ノ者ヲシテ金庫事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付府縣ニ對シ責任ヲ有ス

第六十一條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ擔保ヲ提出スベシ

第六十二條　府縣知事ハ豫算ニ屬スル現金ヲ支出ニ妨ゲナキ限度ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ニ運用スルコトヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ府縣ニ納付スベシ

第六十三條　府縣知事ハ府縣金庫ヲ監督シ檢査員ヲシテ定期及臨時ニ現金帳簿ヲ檢査セシメ又必要アリト認ムルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十四條　本章ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第三章　雜則

第六十五條　府縣制第四條第二項但書ノ市ニ於テハ本令第六條第一項、第二項及第二十條中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

第六十六條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

附　則

本令中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ施行ス

左ノ內務省令ハ之ヲ廢止ス

明治二十四年內務省令第十二號
明治三十二年內務省令第六號
明治三十二年內務省令第二十九號
明治三十三年內務省令第七號
大正三年內務省令第九號
大正三年內務省令第十號
大正三年內務省令第十一號
大正十一年內務省令第十五號

從前ノ規定ニ依ル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令中議員選擧ニ關スル規定施行ノ際市制町村制施行規則中議員選擧ニ關スル規定未ダ施行セラレザル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ同規定ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

（別記）

立會人ノ屆出書樣式

投票立會人（開票立會人）（選擧立會人）

屆

立會人　氏　名

住　所　何府（縣）何市（何郡何町（村））
　大字何（町）何番地
生年月日　何年何月何日
選　擧　大正何年何月何日執行ノ府（縣）會議員選擧

右別紙本人ノ承諾書相添屆出候也

大正何年何月何日

議員候補者　氏　名印

投票管理者（開票管理者）（選擧長）氏名宛

立會人ノ屆出書ニ添附スベキ承諾書樣式

投票立會人（開票立會人）（選擧立會人）

承諾書

大正何年何月何日執行ノ府（縣）會議員選擧ニ於ケル投票立會人（開票立會人）（選擧立會人）タルコトヲ承諾候也

大正何年何月何日

何府（縣）何市（何郡何町（村））
大字何（町）何番地
氏　名印

議員候補者　氏　名宛

議員候補者ノ屆出書樣式

府（縣）會議員候補者屆

議員候補者　氏　名
職　業　何々（官公吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル可ク明細ニ記載スルコト）
住　所　何府（縣）何市（何郡何町（村））
　大字何（町）何番地
生年月日　何年何月何日
選　擧　大正何年何月何日執行ノ府（縣）會議員選擧

右別紙供託ヲ證スベキ書面相添立候補屆出候也

大正何年何月何日

議員候補者　氏　名印

選擧長　氏　名宛

議員候補者ノ推薦屆出書樣式

府（縣）會議員候補者推薦屆

議員候補者　氏　名
職　業　何々（官公吏、陸海軍軍人ニ在リテハ成ル可ク明細ニ記載スルコト）

住　所　何府（縣）何市（何郡何町（村））
　大字何（町）何番地
生年月日　何年何月何日
選　擧　大正何年何月何日執行ノ府（縣）會議員選擧
推薦屆出者　氏　名
住　所　何府（縣）何市（何郡何町（村））
　大字何（町）何番地
生年月日　何年何月何日
（推薦屆出者）（氏　名）
（住　所）（何府（縣）何市（何郡何町（村））大字何（町）何番地）
（生年月日）（何年何月何日）

右別紙供託ヲ證スベキ書面相添推薦屆出候也

大正何年何月何日

氏　名印
（氏　名印）

選擧長　氏　名宛

議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ屆出書樣式

府（縣）會議員候補者辭退屆

議員候補者　氏　名
事　由　大正何年何月何日何々ノ爲被選擧權ヲ有セザルニ至リタリ

右辭退屆出候也

大正何年何月何日

議員候補者　氏　名印

選擧長　氏　名宛

備　考

事由ハ被選擧權ヲ有セザルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭スル場合ニ限リ記載スベシ

投票錄樣式

投票錄

大正何年何月何日執行何府（縣）何市（何郡何町（村））府（縣）會議員（何）投票所投票錄

一　投票所ハ何市役所（何町（村）役場）（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ投票立會人ハ何レモ投票所ヲ開クベキ時刻迄ニ投票所ニ參會シタリ

住　所　氏　名
住　所　氏　名

投票所ヲ開クベキ時刻ニ至リ投票立會人中參會スル者三人ニ達セザルニ依リ投票管理者ハ臨時ニ投票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住　所　氏　名

三　投票所ハ大正何年何月何日午前（午後）何時ニ之ヲ開キタリ

四　投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セザルニ至リタルニ依リ投票管理者ハ臨時ニ投票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前（午後）何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住　所　氏　名

五　投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票ニ先チ投票所ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖シ投票管理者及投票立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六　投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿（選擧人名簿ノ抄本）ニ對照シタル後（到著番號札ト引換ニ）投票用紙ヲ交付シタリ

七　選擧人ハ自ラ投票ヲ認メ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ投函シタリ

八　左ノ選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄セラルベキ確定裁決書（判決書）ヲ所持シ投票所ニ到リタルニ依リ投票管理者ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシメタリ

住　所　氏　名

九　左ノ選擧人ハ點字ニ依リ投票ヲ爲サントスル旨ヲ申立タルヲ以テ投票管理者ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ投票ヲ爲サシメタリ

住　所　氏　名

十　左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否シタリ

住　所　氏　名

左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否スベキ旨決定シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ（投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ）投票用紙ト共ニ封筒ヲ交付シ假ニ投票ヲ爲サシメタリ

住　所　氏　名

十一　左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ點字投票ヲ拒否シタリ

住　所　氏　名

左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ因リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ點字投票ヲ拒否スベキ旨決定シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ（投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ）投票用紙及封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ假ニ點字投票ヲ爲サシメタリ

住　所　氏　名

十二　左ノ選擧人ハ誤リテ投票用紙（封筒）ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙（封筒）ヲ交付シタリ

住　所　氏　名

十三　左ノ選擧人ハ投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ（喧擾ニ渉リ）（投票ニ關シ協議ヲ爲シ）（何々ヲ爲シ）投票所ノ秩序ヲ紊シタルニ依リ投票管理者ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハザルヲ以テ投票用紙（投票用紙及封筒）（到著番號札）ヲ返付セシメ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住　所　氏　名

十四　投票管理者ハ投票所外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選擧人ニ對シ投票所ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ

住　所　氏　名

投票管理者ニ於テ投票所外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選擧人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シタリ

住　所　氏　名

十五　午前（午後）何時ニ至リ投票管理者ハ投票所ヲ閉ヅベキ時刻ニ至リタル旨ヲ告ゲ投票所ノ入口ヲ鎖シタリ

十六　午前（午後）何時投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了シタルヲ以テ投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十七　投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スベキ左ノ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管ス

氏　名

十八　投票ヲ爲シタル選擧人ノ總數　何人
　內
　選擧人名簿ニ登錄セラレタル選擧人ニシテ投票ヲ爲シタル者　何人
　確定裁決書（判決書）ニ依リ投票ヲ爲シタル者　何人
　投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何人
　內
　假ニ投票ヲ爲サシメタル者　何人

十九　投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ選擧長（開票管理者）ニ送致スベキ投票立會人左ノ如シ

氏　名

二十　午前（午後）何時投票所ノ事務ヲ結了シタリ

二十一　左ノ者ハ投票所ノ事務ニ從事シタリ

職　氏　名
職　氏　名

二十二　投票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏　名

投票管理者ハ此ノ投票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日
投票管理者　職　氏　名
投票立會人　氏　名
氏　名
氏　名

備考

樣式ニ掲グル事項ノ外投票管理者ニ於テ投票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

選擧錄樣式ノ一

大正何年何月何日執行何府（縣）何郡（市）府（縣）會議員選擧會選擧錄

一　選擧會ハ何市役所（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧會ヲ開クベキ時刻迄ニ選擧會ニ參會シタリ
住所　氏　名
住所　氏　名

選擧會ヲ開クベキ時刻ニ至リ選擧立會人中參會スル者三人ニ達セザルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ
住所　氏　名

三　大正何年何月何日選擧長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ翌何日（當日）午前（午後）何時ニ選擧會ヲ開キタリ

四　選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セザルニ至リタルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前（午後）何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ
住所　氏　名

五　選擧長ハ選擧立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ
投票總數　何票
投票人總數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人

右投票區別內譯左ノ如シ
何町（村）投票區（何市何投票區）
投票數　何票
投票人數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人
投票數ト投票人數ト符合ス（投票數ト投票人數ト符合セズ卽チ投票數ハ投票人數ニ比シ何票多シ（少シ）（其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スベシ））
何町（村）投票區（何市何投票區）
、、、、　（、、
、、、　、、

六　投票管理者ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ
住所　氏　名
住所　氏　名

選擧長ハ右ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ左ノ通之ヲ決定セリ
受理セシモノ
一　事由何々　住所　氏　名
一　事由何々　住所　氏　名
受理セザリシモノ
一　事由何々　住所　氏　名

七　選擧長ハ投票區每ニ（假ニ爲シタル投票ニシテ受理スベキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上）總テノ投票ヲ混同シ選擧立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ

八　選擧會ノ事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二人ハ各別ニ同一議員候補者ノ得票數ヲ計算シタリ

九　選擧長ニ於テ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
內
一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票
二　議員候補者ニ非ザル者ノ氏名ヲ記載シタル者　何票
三　、、、、、、、、、、、　何票
總計　何票

右投票區別內譯左ノ如シ
何町（村）投票區（何市何投票區）
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
內
一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票
二　議員候補者ニ非ザル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三　、、、、、、、、、、、　何票
計　何票
何町（村）投票區（何市何投票區）
一、、、、、、、、、、
一、、、、、、、、、、、
、、

十　午前（午後）何時投票ノ點檢ヲ終リタルヲ以テ選擧長ハ投票區每ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ其ノ得票總數ヲ朗讀シタリ

十一　各議員候補者ノ得票總數左ノ如シ
何票　氏　名
內
何町（村）投票區（何市何投票區）　何票
何町（村）投票區（何市何投票區）　何票
何票　氏　名
內
何町（村）投票區（何市何投票區）　何票
何町（村）投票區（何市何投票區）　何票

十二　選擧長ハ投票區每ニ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者每ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ選擧立會人ト共ニ封印ヲ施シタリ

十三　大正何年何月何日總テノ開票管理者ヨリ府縣制施行令第九條ノ報告ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日（翌何日）選擧立會人立會ノ上逐次其ノ報告ヲ調査シ自ラ開票ヲ行ヒタル部分ニ付各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シタル後開票區每ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各議員候補者ノ得票總數ヲ朗讀シタリ

十四　各議員候補者ノ得票總數左ノ如シ
何票　氏　名
內
選擧會　何票
何開票區　何票
何開票區　何票
何票　氏　名
內
選擧會　何票
何開票區　何票
何開票區　何票

十五　選擧區ノ配當議員數何人ヲ以テ有效投票ノ總數何票ヲ除シテ得タル數ハ何票ニシテ此ノ五分ノ一ノ數ハ何票ナリ

議員候補者中其ノ得票數此ノ數ニ達スル者左ノ如シ
何票　氏　名
何票　氏　名

右ノ內有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何人ヲ以テ當選者トス
氏　名
氏　名

但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同ジキニ依リ其ノ年齡ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生、氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ（同年月日ナルヲ以テ選擧長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當籤セリ依テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ）

十六　選擧區ノ配當議員數何人ヲ以テ有效投票ノ總數何票ヲ除シテ得タル數ハ何票ニシテ此ノ十分ノ一ノ數ハ何票ナリ

議員候補者中其ノ得票數此ノ數ニ達セザル者左ノ如シ
何票　氏　名
何票　氏　名

十七　午前（午後）何時選擧會ノ事務ヲ結了シタリ

十八　左ノ者ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ
官職　氏　名
官職　氏　名

十九　選擧會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官職　氏　名

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日
選擧長　官職　氏　名
選擧立會人　氏　名
氏　名
氏　名

備考

樣式ニ掲グル事項ノ外選擧長ニ於テ選擧會ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

選擧錄樣式ノ二

大正何年何月何日開會何府（縣）何郡（市）府（縣）會議員選擧會選擧錄

一　選擧會場ハ何市役所（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧會ヲ開クベキ時刻迄ニ選擧會ニ參會シタリ
住所　氏　名
住所　氏　名

選擧會ヲ開クベキ時刻ニ至リ選擧立會人中參會スル者三人ニ達セザルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ
住所　氏　名

三　屆出アリタル議員候補者ノ數何人ニシテ選擧スベキ議員ノ數何人ヲ超エザル爲投票ヲ行ハザルコト大正何年何月何日確定シタルヲ以テ大正何年何月何日午前（午後）何時ニ選擧會ヲ開キタリ

四　選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セザルニ至リタルニ依リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前（午後）何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ
住所　氏　名

五　屆出アリタル議員候補者ノ氏名左ノ如シ
氏　名
氏　名
氏　名

六　選擧長ハ選擧立會人ノ意見ヲ聽キ議員候補者ノ被選擧權ノ有無ヲ決定シタリ
有リト決定シタル者
氏　名
氏　名
無シト決定シタル者
一　事由何々　氏　名

七　選擧スベキ議員ノ數何人ニシテ被選擧權有リト決定シタル議員候補者ノ數何人ナリ依テ左ノ何人ヲ以テ當選者ト定ム
氏　名
氏　名

八　午前（午後）何時選擧會ノ事務ヲ結了シタリ

九　左ノ者ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ
官職　氏　名
官職　氏　名

十　選擧會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官職　氏　名

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ茲ニ署名ス

大正何年何月何日
選擧長　官職　氏　名
選擧立會人　氏　名
氏　名
氏　名

備考

樣式ニ掲グル事項ノ外選擧長ニ於テ選擧會ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

開票錄樣式

大正何年何月何日執行何府（縣）何郡（市）府（縣）會議員何開票所開票錄

一　開票所ハ市役所（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ開票立會人ハ何レモ開票所ヲ開クベキ時刻迄ニ開票所ニ參會シタリ
住所　氏　名
住所　氏　名

開票所ヲ開クベキ時刻ニ至リ開票立會人中參會スル者三人ニ達セザルニ依リ開票管理者ハ臨時ニ開票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ
住所　氏　名

三　大正何年何月何日開票管理者ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ翌何日（當日）午前（午後）何時ニ開票所ヲ開キタリ

四　開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ數三人ニ達セザルニ至リタルニ依リ開票管理者ハ臨時ニ開票區內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前（午後）何時左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ
住所　氏　名

五　開票管理者ハ開票立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ
投票總數　何票
投票人總數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人

右投票區別內譯左ノ如シ
何町（村）投票區（何市何投票區）
投票數　何票
投票人數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人
投票數ト投票人數ト符合ス（投票數ト投票人數ト符合セズ卽チ投票數ハ投票人數ニ比シ何票多シ（少シ）（其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スベシ））
何町（村）投票區（何市何投票區）
、、、　、、
、、、　、、

六　投票管理者ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ
住所　氏　名

住所　氏名

開票管理者ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ左ノ通之ヲ決定シタリ

受理セシモノ
一事由何々　住所　氏名
一事由何々　住所　氏名
受理セザリシモノ
一事由何々　住所　氏名

七　開票管理者ハ投票區毎ニ(假ニ爲シタル投票ニシテ受理スベキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上)總テノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ

八　開票事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二人ハ各別ニ同一議員候補者ノ得票數ヲ計算シタリ

九　開票管理者ニ於テ開票立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
　內
一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票
二　議員候補者ニ非ザル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三　、、、、、、、、、　何票
總計　何票
右投票區別內譯左ノ如シ
何町(村)投票區(何市何投票區)
　一有效ト決定シタルモノ　何票
　一無效ト決定シタルモノ　何票
　　內
　一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票
　二　議員候補者ニ非ザル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
　三　、、、、、、、、、　何票
何票
計　何票
何町(村)投票區(何市何投票區)
　一、、、、、、、、、、、
　一、、、、、、、、、、、

十　午前(午後)何時投票ノ點檢ヲ終リタルヲ以テ開票管理者ハ投票區毎ニ各議員候補者ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ其ノ得票總數ヲ朗讀シタリ

十一　各議員候補者ノ得票總數左ノ如シ
何票　氏名
　內
何町(村)投票區(何市何投票區)　何票
何町(村)投票區(何市何投票區)　何票
何票　氏名
　內
何町(村)投票區(何市何投票區)　何票
何町(村)投票區(何市何投票區)　何票

十二　開票管理者ハ投票區毎ニ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印ヲ施シタリ

十三　午前(午後)何時開票所ノ事務ヲ結了シタリ

十四　左ノ者ハ開票所ノ事務ニ從事シタリ
官職　氏名
官職　氏名

十五　開票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ
官職　氏名

開票管理者ハ此ノ開票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正何年何月何日
開票管理者　官職　氏名
開票立會人　氏名
　氏名
　氏名

備考
樣式ニ揭ゲル事項ノ外開票管理者ニ於テ開票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

選擧運動ノ費用ノ精算屆書樣式

選擧運動費用精算屆

何府(縣)何郡(市)
議員候補者　氏名

前記議員候補者ノ大正何年何月何日執行府(縣)會議員選擧(府(縣)會議員選擧再投票)ニ於ケル選擧運動ノ費用精算ノ結果左記ノ通相違無之依テ府縣制第三十九條ニ依リ屆出候也

大正何年何月何日
選擧事務長　氏名　印
府(縣)知事(警視總監)宛

記

一支出總額　金何圓何錢
(一)選擧事務長ノ支出シタル額　金何圓何錢
(二)選擧事務長ノ承諾ヲ得テ支出シタル額　金何圓何錢
　內
　議員候補者ノ支出シタル額　金何圓何錢
　選擧委員ノ支出シタル額　金何圓何錢
　選擧事務員ノ支出シタル額　金何圓何錢
(三)議員候補者、選擧事務長、選擧委員又ハ選擧事務員ニ非ザル者ノ支出シタル額　金何圓何錢
　內
　議員候補者ト意思ヲ通ジテ支出シタル額　金何圓何錢
　選擧事務長ト意思ヲ通ジテ支出シタル額　金何圓何錢
(四)立候補準備ノ爲ニ支出シタル額　金何圓何錢
一支出明細
(一)報酬　金何圓何錢
　選擧事務員　金何圓何錢
　　何某ヘ　金何圓何錢
　　何某ヘ　金何圓何錢
　傭人　金何圓何錢
　　何某ヘ　金何圓何錢
　　何某ヘ　金何圓何錢
(二)家屋費　金何圓何錢
　選擧事務所　金何圓何錢
　　何選擧事務所　金何圓何錢
　　何選擧事務所　金何圓何錢
　集會會場　金何圓何錢
　　何集會會場　金何圓何錢
　　何集會會場　金何圓何錢
(三)通信費　金何圓何錢
　郵便料　金何圓何錢
　電報料　金何圓何錢
　電話料　金何圓何錢
　其ノ他　金何圓何錢
(四)船車馬費　金何圓何錢
　汽車賃　金何圓何錢
　電車賃　金何圓何錢
　自動車賃　金何圓何錢
　馬車賃　金何圓何錢
　人力車賃　金何圓何錢
　船賃　金何圓何錢
　其ノ他　金何圓何錢
(五)印刷費　金何圓何錢
(六)廣告費　金何圓何錢
(七)筆墨紙費　金何圓何錢
(八)休泊費　金何圓何錢
(九)飲食物費　金何圓何錢
(十)雜費　金何圓何錢

計　金何圓何錢
一實費辨償　金何圓何錢
(一)選擧事務長　金何圓何錢
(二)選擧委員　金何圓何錢
　何某ヘ　金何圓何錢
　何某ヘ　金何圓何錢
(三)選擧事務員　金何圓何錢
　何某ヘ　金何圓何錢
　何某ヘ　金何圓何錢
(四)傭人　金何圓何錢
　何某ヘ　金何圓何錢
　何某ヘ　金何圓何錢

備考
一　府縣制第十三條第二項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ別ニ精算屆書ヲ作成スベシ
二　精算ノ屆出ハ最後ニ選擧事務長ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ爲スベシ
三　實費辨償ノ項ニハ支出明細ノ項ニ記載シタルモノノ中實費辨償ニ係ルモノヲ重ネテ記載スベシ

府縣歲入歲出豫算樣式ノ一

大正何年度何府(縣)歲入歲出豫算

歲入
經常部
第一款　地租附加稅　金　但シ地租豫算金高若干
　第一項　地租附加稅　金　本稅一圓ニ付若干
第二款　特別地稅　金　但シ地價金高若干
　第一項　特別地稅　金　地價一圓ニ付若干
第三款　營業收益稅附加稅　金　但シ營業收益稅豫算金高若干
　第一項　營業收益稅附加稅　金　本稅一圓ニ付若干
第四款　所得稅附加稅　金　但シ所得稅豫算金高若干
　第一項　所得稅附加稅　金　本稅一圓ニ付若干
第五款　鑛業稅附加稅　金　但シ鑛產稅豫算金高若干
　本稅一圓ニ付若干
　採堀鑛區稅豫算金高若干
　本稅一圓ニ付若干
　試堀鑛區稅豫算金高若干
　本稅一圓ニ付若干
　第一項　鑛業稅附加稅　金
第六款　砂鑛區稅附加稅　金　但シ砂鑛區稅豫算金高若干
　第一項　砂鑛區稅附加稅　金　本稅一圓ニ付若干
第七款　取引所營業稅附加稅　金　但シ取引所營業稅豫算金高若干
　第一項　取引所營業稅附加稅　金　本稅一圓ニ付若干
第八款　家屋稅　金　但シ家屋賃貸價格金高若干
　第一項　家屋稅　金　家屋賃貸價格一圓ニ付若干
第九款　營業稅　金
　第一項　營業稅　金
第十款　雜種稅　金
　第一項　何稅　金
　第二項　何稅　金
第十一款　分賦金　金
　第一項　市町村分賦金　金
第十二款　財產收入　金
　第一項　不動產收入　金
　第二項　動產收入　金
第十三款　使用料及手數料　金
　第一項　使用料　金
　第二項　手數料　金
第十四款　國庫下渡金　金
　第一項　警察費下渡金　金
第十五款　雜收入　金
　第一項　納付金　金
　第二項　懲罰及沒收金　金
　第三項　辨償金　金
　第四項　作業收益　金
　第五項　物品賣拂代金　金
　第六項　賦金　金
　第七項　何々　金
經常部計金
臨時部
第一款　繰越金　金
　第一項　前年度繰越金　金
第二款　國庫補助金　金
　第一項　何費補助金　金
　第二項　何費補助金　金
第三款　寄附金　金
　第一項　何費寄附金　金
　第二項　何費寄附金　金
第四款　財產賣拂代金　金
　第一項　不動產賣拂代金　金
　第二項　動產賣拂代金　金
第五款　府(縣)債　金
　第一項　府(縣)債　金
臨時部計金
歲入合計金

歲出
經常部
第一款　神社費　金
　第一項　神社費　金
第二款　會議費　金
　第一項　府(縣)會議費　金
　第二項　府(縣)參事會費　金
第三款　府(縣)職員費　金
　第一項　俸給料　金
　第二項　諸給　金
　第三項　廳費　金
第四款　警察費　金
　第一項　俸給及諸給　金
　第二項　廳費　金
　第三項　機密費　金
第五款　警察廳舍修繕費　金
　第一項　修繕費　金
第六款　土木費　金
　第一項　道路橋梁費　金
　第二項　治水堤防費　金
　第三項　港灣費　金
　第四項　何費　金
第七款　教育費　金
　第一項　師範學校費　金
　第二項　何學校費　金
　第三項　學事諸費　金
第八款　衞生及病院費　金
　第一項　何病院費　金
　第二項　何費　金
　第三項　衞生諸費　金
第九款　勸業費　金

第一項　勸業會費　金
第二項　地方測候所費　金
第三項　農事試驗場費　金
第四項　蠶業取締所費　金
第五項　何費　金
第六項　勸業諸費　金
第十款　社會事業費　金
第一項　救育費　金
第二項　何費　金
第十一款　都市計畫事業費　金
第一項　都市計畫地方委員會費　金
第十二款　史蹟名勝天然記念物保存費　金
第一項　史蹟名勝天然記念物保存費　金
第十三款　選擧費　金
第一項　衆議院議員選擧費　金
第二項　府（縣）會議員選擧費　金
第十四款　財産費　金
第一項　維持費　金
第二項　管理費　金
第十五款　府（縣）稅取扱費　金
第一項　徵收費　金
第二項　金庫諸費　金
第十六款　豫備費　金
第一項　豫備費　金
經常部計金
臨時部
第一款　警察廳舍建築費　金
第一項　何警察署建築費　金
第二項　何建築費　金
第二款　土木費　金
第一項　道路橋梁費　金
第二項　治水堤防費　金
第三項　何費　金
第三款　市町村土木補助費　金
第一項　道路橋梁費補助　金
第二項　何費補助　金
第四款　勸業補助費　金
第一項　縣農會費補助　金
第二項　何費補助　金
第五款　市町村教育補助費　金
第一項　何學校費補助　金
第六款　何費本年度支出額　金
第一項　何費本年度支出額　金
第七款　府（縣）債費　金
第一項　元金償還　金
第二項　利子　金
第三項　諸費　金
臨時部計金
歳出合計金
大正何年何月何日提出
何府（縣）知事　氏　名

備考

一　歳入經常部第八款第一項但書ハ大正十八年度分迄ハ適宜記載スヘシ

二　特別會計ニ屬スル豫算ハ本樣式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

三　追加又ハ更正ノ豫算ハ本樣式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

府縣歳入歳出豫算樣式ノ二

歳入（（ニ）（ホ）（ヘ）（ト）ノ符印ハ府縣歳入歳出豫算樣式ノ三ノ式ト對照）
何部
第一款　何　々　金
內　市部收入金（ヘ）
　　郡部收入金（ニ）
第一項　何　々　金
內　市部收入金（ヘ）
　　郡部收入金（ニ）
第何款　市郡分賦金　金
內　市部收入金（ト）
　　郡部收入金（ホ）
第一項　市郡分賦金　金
何部計金
內　市部收入金
　　郡部收入金
歳入合計金（イ）
內　市部收入金（ロ）
　　郡部收入金（ハ）

歳出
何部
第一款　何　費　金（款ニ付テ市郡ノ負擔額ヲ分ツノ例）
內　市部負擔金
　　郡部負擔金
第一項　何　々　金
第二項　何　々　金
第四款　何　費　金
內　市部負擔金
　　郡部負擔金
第一項　何　費　金（項ニ付テ市郡ノ負擔額ヲ分ツノ例）
內　市部負擔金
　　郡部負擔金
何部計金
內　市部負擔金
　　郡部負擔金
歳出合計金（イ）
內　市部負擔金（ロ）
　　郡部負擔金（ハ）
大正何年何月何日提出
何府（縣）知事　氏　名

府縣歳入歳出豫算樣式ノ三

大正何年度何府（縣）市（郡）部歳入歳出豫算書（（ニ）（ホ）（ヘ）（ト）ノ符印ハ府縣歳入歳出豫算樣式ノ二ノ式ト對照）

歳入
何部
第一款　市郡連帶市（郡）部收入　金（ヘ）
（ニ）
第一項　市郡連帶市（郡）部收入　金
（ヘ）（ニ）
第二款　財産收入　金
第一項　不動産收入　金
第二項　動産收入　金
第何款　市豫算編入額　金
第一項　市豫算編入額　金
何部計金
歳入合計金

歳出
何部
第一款　何　費　金
第一項　何　々　金
第二項　何　々　金
第何款　市郡分賦市（郡）部負擔　金（ト）（ホ）
第一項　市郡分賦市（郡）部負擔　金（ト）（ホ）
何部計金
歳出合計金
大正何年何月何日提出
何府（縣）知事　氏　名

繼續費ノ年期及支出方法樣式

自大正何年度至大正何年度何府（縣）何費繼續年期及支出方法

一金
內譯　何費中何費
金　大正何年度支出額
金　大正何年度支出額
右何々（議決ヲ要スヘキ事業ノ大要ヲ記載ス）
大正何年何月何日提出
何府（縣）知事　氏　名

●北海道會議員及府縣會議員ノ選擧權及被選擧權竝市町村會議員ノ公民權ニ關スル法律

（大正十五年四月八日法律第五十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル北海道會議員及府縣會議員ノ選擧權及被選擧權竝市町村會議員ノ公民權ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

本法公布前ノ調製期日ニ依リ調製セラレタル最近ノ北海道會議員又ハ府縣會議員ノ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ハ次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間納稅要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖之カ爲其ノ選擧權及被選擧權ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間ニ調製セラルル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者亦同シ

本法公布ノ際現ニ北海道會議員、府縣會議員又ハ市町村會議員ノ職ニ在ル者ハ其ノ任期ヲ終ル迄ノ間被選擧權又ハ公民權ノ納稅要件ヲ闕クニ至リタルカ爲其ノ職ヲ失フコトナシ本法公布後次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間ニ其ノ職ニ在ルニ至リタル者亦同シ

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方議會議員ノ選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件

（大正十五年六月二十四日內務省令第二十一號）

北海道會法第十四條、府縣制第三十九條、市制第三十九條ノ二及町村制第三十六條ノ二ニ依リ選擧運動ノ爲頒布シ又ハ掲示スル文書圖畫ノ制限ニ關スル件左ノ通定ム

地方議會議員ノ選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件

北海道會、府縣會、市會（市制第六條ノ市ノ區ノ區會ヲ含ム）及町村會ノ議員ノ選擧ニ付テハ大正十五年內務省令第五號選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件ヲ準用ス但シ同令第三條中百箇トアルハ左ノ各號ニ依ル

一　北海道會議員、府縣會議員及市制第三十九條ノ二ノ市（又ハ區）ノ市會議員（又ハ區會議員）ノ選擧ニ付テハ三十箇

二　前號ノ市（又ハ區）以外ノ市（又ハ區）ノ市會議員（又ハ區會議員）及町村會議員ノ選擧ニ付テハ十箇

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際大正十五年內務省令第五號選擧運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ同令ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

●北海道會法、府縣制、市制、町村制、北海道一級町村制、北海道二級町村制及島嶼町村制ノ規定ニ依ル直接稅及間接稅ノ種類、類別

（大正十五年五月七日內務省告示第六十八號）

北海道會法第十五條、府縣制第百四十五條、市制第百七十五條、町村制第百五十五條、北海道一級町村制第百二十三條、北海道二級町村制第七十條及島嶼町村制第百二條ノ規定ニ依リ直接稅及間接稅ノ種類、類別左ノ通之ヲ定ム（大藏大臣連署）

一　北海道會法第十五條直接國稅ノ種類

地租　所得稅（所得稅法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）　營業稅　營業收益稅　資本利子稅（資本利子稅法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク）　鑛業稅　砂鑛區稅

一　府縣制第百四十五條直接稅ノ種類

地租　所得稅（所得稅法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）　國稅營業稅　營業收益稅　資本利子稅（資本利子稅法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク）　鑛業稅　砂鑛區稅

一　市制第百七十五條及町村制第百五十五條直接稅及間接稅ノ種類

國　稅

左ノ諸稅ヲ直接稅トシ其ノ他ヲ間接稅トス

地租　所得稅（所得稅法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）　營業稅　營業收益稅　資本利子稅（資本利子稅法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク）　鑛業稅　砂鑛區稅　取引所營業稅

府縣稅

左ノ諸稅ヲ直接稅トシ其ノ他ヲ間接稅トス

特別地稅　戶數割　家屋稅　營業稅　雜種稅（遊興稅、觀覽稅ヲ除ク）

市町村稅

左ノ諸稅ヲ間接稅トシ其ノ他ヲ直接稅トス

遊興稅　觀興稅　宴席消費稅　特別消費稅　觀覽稅　入湯稅　遊興稅附加稅　觀覽稅附加稅

一　北海道一級町村制第百二十三條及北海道二級町村制第七十條直接稅及間接稅ノ類別

國　稅

左ノ諸稅ヲ直接稅トシ其ノ他ヲ間接稅トス

地租　所得稅（所得稅法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）　營業稅　營業收益稅　資本利子稅（資本利子稅法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク）　鑛業稅　砂鑛區稅　取引所營業稅

北海道地方稅

左ノ諸稅ヲ直接稅トシ其ノ他ヲ間接稅トス

特別地稅　戶數割　家屋稅　營業稅　雜種稅（遊興稅ヲ除ク）

町村稅

左ノ諸稅ヲ間接稅トシ其ノ他ヲ直接稅トス

遊興稅附加稅

一　島嶼町村制第百二條直接國稅ノ種類

地租　所得稅（所得稅法第三條第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク）　營業稅　營業收益稅　資本利子稅（資本利子稅法第二條甲種ノ資本利子中無記名債券ノ資本利子ニ係ル資本利子稅ヲ除ク）　鑛業稅　砂鑛區稅

國稅營業稅ハ大正十五年分迄北海道地方稅及府縣稅中戶數割ハ大正十五年度分迄營業收益稅ハ大正十六年分ヨリ資本利子稅ハ大正十五年分ヨリ特別地稅ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治三十四年內務省告示第二十六號、明治三十二年內務省告示第六十九號、大正十二年內務省告示第百六十七號、明治三十二年內務省告示第九十六號及明治四十一年內務省告示第二十六號ハ之ヲ廢止ス

●改選後ノ府縣會ニ於テ議長選擧ノ場合會議閉止又ハ中止方

（明治四十年十月二十一日內務省令第二十六號）

改選後ノ府縣會ニ於テ始メテ議長ヲ選擧スル場合ニハ會議ノ決議ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫ノ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律

（明治三十年四月一日法律第三十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、拓殖務、內務大臣副署）

第一條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理竝經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若クハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得

第二條　前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間內ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若クハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

第三條　此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得

第五條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●國庫ノ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律施行ニ關スル件

（明治三十一年八月二日勅令第百八十四號）

朕明治三十年法律第三十七號ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

第一條　內務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ヲ直接施行スルトキハ官報ヲ以テ其ノ事業ノ屬スル公共團體竝其ノ施行スヘキ事業及其ノ始期ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ前項事業ノ直接施行ヲ廢止シ又ハ事業ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ハ內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ期間竝豫算金額ハ內務大臣之ヲ定ム

第三條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ於テ內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ノ爲取得シタル物件及權利ヲ有スルトキハ之ヲ內務大臣ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ期間竝物件及權利ノ範圍ハ內務大臣之ヲ定ム

第四條　內務大臣ハ其ノ直接施行ニ係ル事業ニ關シ必要ナルトキハ其ノ事業ノ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ヲ管轄スル行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第五條　內務大臣ニ於テ其ノ直接施行ニ係ル事業ヲ終了シタルトキハ之ヲ其ノ所屬府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ引渡スヘシ但シ其ノ事業ノ數年ニ涉ル場合ニ於テハ其ノ完了シタル部分ヲ順次引渡スコトヲ得

第六條　內務大臣ニ於テ前條ニ依リ事業ノ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事業ノ爲取得シ又ハ第三條ニ依リ移付ヲ受ケタル物件及權利ニシテ現存スルモノハ之ヲ其ノ事業ノ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ物件及權利ノ範圍竝其ノ移付ヲ爲スヘキモノニ關スル處分ハ內務大臣之ヲ定ム

第七條　內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ內務大臣之ヲ定ム

第八條　內務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ屬スル事業ノ直接施行ヲ廢止シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第九條　此ノ勅令ニ規定シタルモノノ外內務大臣ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

●沖繩縣ノ負擔及國庫補助ニ關スル特例廢止

明治四十一年二月二十八日
法律第三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣ノ負擔及國庫補助ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、內務大臣副署）

法律中府縣ノ負擔及國庫補助ニ關シ沖繩縣ニ付設ケタル特例ハ之ヲ廢止ス

附　則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十二年內務省令第八號ヲ以テ沖繩縣ニ府縣制施行（明治四十二年四月一日）ノ日ヨリ施行）

明治四十二年三月二十三日
勅令第三十一號

朕勅令中沖繩縣ニ付設ケタル特例ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

勅令中府縣又ハ市町村ノ負擔、收入及國庫補助ニ關シ沖繩縣ニ付設ケタル特例ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ沖繩縣ニ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月二十四日官報

內務大臣ハ府縣制第百三十七條ニ依リ來ル四月一日ヨリ沖繩縣ニ府縣制ヲ施行ス

●郡制廢止ニ關スル法律

大正十年四月十二日
法律第六十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郡制廢止ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　郡制ハ之ヲ廢止ス

第二條　郡制廢止ノ爲郡又ハ郡組合ニ屬スル營造物及事業ノ處分竝權利義務ノ歸屬ニ付必要ナル事項ハ關係府縣、郡、郡組合、町村、市町村組合及町村組合ノ府縣會、郡會、郡組合會、町村會、市町村組合會及町村組合會ノ意見ヲ徵シ主務大臣之ヲ定ム

本法ニ依リ郡又ハ郡組合消滅スル場合ニ於テハ郡又ハ郡組合ヲ當事者トスル訴訟ノ手續ハ訴訟ノ目的タル權利義務ノ歸屬者又ハ相手方カ之ヲ受繼クマテ中斷ス

前二項ノ外郡制廢止ニ付必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第一條　施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第二條ノ處分及歸屬ニ關スル手續終了シタル府縣ニ付テハ內務大臣ハ其ノ施行ノ期日前ニ施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

大正十年法律第六十三號第一條施行ノ期日ハ大正十二年四月一日トス（大正十二年勅令第四十四號）

●郡制廢止ニ關スル件

大正十一年十一月三十日
勅令第五百二號

朕郡制廢止ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　郡ノ有給吏員ニシテ郡制廢止ノ爲失職シタルモノハ郡ノ退隱料又ハ退職給與金ノ支給ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ郡制廢止ノ直前ニ於テ廢職又ハ事務ノ都合ニ依リ退職シタル者ト看做ス

第二條　退隱料又ハ遺族扶助料ノ支給ニ關スル郡ノ義務ヲ承繼シタル公共團體ハ退隱料又ハ遺族扶助料ノ支給ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ遺族其ノ他ノ者ニ對シ從前ノ郡ノ規定ニ依リ遺族扶助料ヲ支給スルノ義務ヲ負フ

第三條　退隱料若ハ遺族扶助料ノ支給ニ關スル郡ノ義務ヲ承繼シ又ハ前條ノ規定ニ依リ遺族扶助料支給ノ義務ヲ負擔シタル公共團體ハ其ノ退隱料又ハ遺族扶助料及其ノ支給方法ヲ變更スルコトヲ得變更ノ手續ニ付テハ其ノ公共團體ノ吏員ニ對スル退隱料又ハ遺族扶助料ノ支給ノ規定ノ變更ノ例ニ依ル

第四條　郡ノ有給吏員ニシテ郡制廢止ノ爲失職シタルモノヲ引續キ他ノ公共團體ノ有給吏員ニ任用シタルトキハ從前屬シタル郡ノ退隱料又ハ退職給與金ニ關スル在職期間ハ新ニ屬シタル公共團體ノ退隱料又ハ退職給與金ノ支給ニ關スル在職期間ニ通算ス但シ新ニ屬シタル公共團體ニ於テ本令施行ノ際退隱料又ハ退職給與金ノ支給ニ關スル規定ノ設ケナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ退隱料又ハ退職給與金ノ支給ニ關スル在職期間ヲ通算スル場合ニ於テハ第一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

前二項ノ規定ハ郡ノ有給吏員ニシテ郡制廢止ノ爲失職シタルモノヲ引續キ他ノ公共團體ヨリ俸給ヲ支給スル職員ニ任用シ、郡ヨリ俸給ヲ支給シタル職員ニシテ郡制廢止ノ爲解職セラレタルモノヲ引續キ他ノ公共團體ノ有給吏員ニ任用シ又ハ郡ヨリ俸給ヲ支給シタル職員ヲ郡制廢止ノ爲他ノ公共團體ヨリ俸給ヲ支給スル職員ニ任用シタル場合ニ於テ其ノ者ノ退隱料又ハ退職給與金ノ支給ニ關スル在職期間ニ付之ヲ準用ス

第五條　大正十年法律第六十三號第二條又ハ本令第二條ノ規定ニ依リ公共團體ニ於テ承繼シ又ハ負擔シタル退隱料、退職給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ關スル異議、訴願及訴訟ニ付テハ當該公共團體ノ吏員ニ對スル退隱料、退職給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ關スル異議、訴願及訴訟ノ例ニ依ル

第六條　郡制第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依ル給與ニ關スル異議、訴願及訴訟ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ給與ニ關シ異議アル者ハ之ヲ府縣知事ニ申立ツヘク郡制廢止前郡長ニ申立テタル異議ハ之ヲ府縣知事ニ申立テタル異議ト看做ス

前項但書ノ規定ニ依ル給與ニ關スル異議及其ノ訴訟ニ付テハ府縣制第九十五條又ハ第九十六條ノ規定ニ依ル給與ニ關スル異議及訴訟ノ例ニ依ル

第七條　郡制第八十七條ノ規定ニ依ル過料ニ關シ郡長ノ爲シタル處分ニ關スル訴願及訴訟ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第八條　郡制第九十三條ノ規定ニ依ル使用料、手數料ノ徵收又ハ郡費ノ分賦ニ關スル異議、訴願及訴訟ニ付テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第九條　郡制第九十四條ノ規定ニ依ル滯納處分ニ關スル訴願及訴訟ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル但シ町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スヘク郡制廢止前郡參事會ニ提起シタル訴願ハ之ヲ府縣參事會ニ提起シタル訴願ト看做ス

第十條　郡出納吏及郡吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル但シ郡長ノ權限ニ屬スル事項ハ府縣知事、郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ府縣參事會之ヲ行フ

前項但書ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル郡出納吏ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ十四日內ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

賠償金ノ滯納處分ニ關スル訴願及訴訟ニ附テハ前條ノ例ニ依ル

第十一條　郡制廢止ニ伴フ經過事務ハ郡長之ヲ處理ス

第十二條　前各條ノ規定ハ郡組合ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ同條ノ施行期日ヲ定メタル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年四月一日ヨリ施行（同年勅令第四十四號）

第二款　市制　町村制

●市制

明治四十四年四月七日
法律第六十八號
改正　大正一〇年第五八號、一一年第五六號、一五年第七四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル市制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

市制

第一章　總則
第一款　市及其ノ區域
第二款　市住民及其ノ權利義務
第三款　市條例及市規則
第二章　市會
第一款　組織及選擧
第二款　職務權限
第三章　市參事會
第一款　組織及選擧
第二款　職務權限
第四章　市吏員
第一款　組織選擧及任免
第二款　職務權限
第五章　給料及給與
第六章　市ノ財務
第一款　財產營造物及市稅
第二款　歲入出豫算及決算
第七章　市ノ一部ノ事務
第八章　市町村組合
第九章　市ノ監督
第十章　雜則

市制

第一章　總則

第一款　市及其ノ區域

第一條　市ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條　市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第四條　市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ前條第二項ノ例ニ依ル

第五條　市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條　勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條　市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二款　市住民及其ノ權利義務

第八條　市內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條　帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來市住民タル者ハ其ノ市公民トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　禁治產者及準禁治產者
二　破產者ニシテ復權ヲ得サル者
三　貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者
四　一定ノ住居ヲ有セサル者
五　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
六　刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ揭クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス
七　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ揭クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第一項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第十條　市公民ハ市ノ選擧ニ參與シ市ノ名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止スルコトヲ得

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
二　業務ノ爲常ニ市內ニ居ルコトヲ得サル者
三　年齡六十年以上ノ者
四　官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
五　四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員、市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者
六　其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條　陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第三款　市條例及市規則

第十二條　市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章　市會

第一款　組織及選擧

第十三條　市會議員ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧ス

議員ノ定數左ノ如シ

一　人口五萬未滿ノ市　三十人
二　人口五萬以上十五萬未滿ノ市

三十六人

三　人口十五萬以上二十萬未滿ノ市　四十人

四　人口二十萬以上三十萬未滿ノ市　四十四人

五　人口三十萬以上ノ市　四十八人

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員四人ヲ增加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス但シ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　市公民ハ總テ選擧權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　削除

第十六條　市ハ市條例ヲ以テ選擧區ヲ設クルコトヲ得

選擧區ノ數及其ノ區域竝各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選擧區トス其ノ各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選擧人ハ住所ニ依リ所屬ノ選擧區ヲ定ム第七十六條又ハ第七十九條第二項ノ規定ニ依リ市公民タル者ニシテ市內ニ住所ヲ有セサル者ニ付テハ市長ハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ職權ニ依リ其ノ選擧區ヲ定ムヘシ

被選擧人ハ各選擧區ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

第十七條　特別ノ事情アルトキハ市ハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設クルコトヲ得

第十八條　選擧權ヲ有スル市公民ハ被選擧權ヲ有ス

在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選擧權ヲ有セス

選擧事務ニ關係アル官吏及市ノ有給吏員ハ其ノ關係區域內ニ於テ被選擧權ヲ有セス

市ノ有給ノ吏員教員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ市ノ市會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十九條　市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム但シ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ニ滿チサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付市長抽籤シテ解任スヘキ者ヲ定メ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ヲ超ユルトキハ解任ヲ要スル者ニ充ツヘキ闕員ハ最モ先ニ闕員ト爲リタル者ヨリ順次之ニ充テ闕員ト爲リタル時同シキトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アル場合ニ於テ選擧區アルトキハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選擧區ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル者ノ選擧區ニ闕員アリタルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選擧セラレタル議員ハ總選擧ニ依リ選擧セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選擧區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條　市會議員中闕員ヲ生シタルトキハ三月以內ニ補闕選擧ヲ行フヘシ但シ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第三十三條第五項及第六項ノ規定ハ補闕選擧ニ之ヲ準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

選擧區アル場合ニ於テハ補闕議員ハ前任者ノ選擧セラレタル選擧區ニ於テ之ヲ選擧スヘシ

第二十一條　市長ハ每年九月十五日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ但シ選擧區アルトキハ選擧區每ニ之ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ例ニ依リ選擧人名簿ヲ調製セシムヘシ

選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名、住所及生年月日等ヲ記載スヘシ

第二十一條ノ二　市長ハ十一月五日ヨリ十五日間市役所（第六條ノ市ニ於テハ區役所）又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

市長ハ縱覽開始ノ日前三日目迄ニ縱覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十一條ノ三　選擧人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ市長（第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テ）ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縱覽期間滿了後三日以內ニ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十一條ノ四　選擧人名簿ハ十二月二十五日ヲ以テ確定ス

選擧人名簿ハ次年ノ十二月二十四日迄之ヲ据置クヘシ

前條ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ直ニ之ヲ修正シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ修正セシムヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

投票分會ヲ設クルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃每ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第二十一條ノ五　第二十一條ノ三ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ選擧人名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縱覽、確定及異議申立ニ對スル市會ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

市ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ名簿ニ關シ其ノ分合其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　市長ハ選擧ノ期日前七日目（第三十九條ノ二ノ市ニ於テハ二十日目）迄ニ選擧會場（投票分會場ヲ含ム以下之ニ同シ）、投票ノ日時及選擧スヘキ議員數（選擧區アル場合ニ於テハ各選擧區ニ於テ選擧スヘキ議員數）ヲ告示スヘシ投票分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

總選擧ニ於ケル各選擧區ノ投票ハ同日時ニ之ヲ行フ

投票分會ノ投票ハ選擧會ト同日時ニ之ヲ行フ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ市長ハ其ノ投票ヲ行フヘキ選擧會又ハ投票分會ノミニ付更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ選擧會場及投票ノ日時ハ選擧ノ期日前五日目迄ニ之ヲ告示スヘシ

第二十三條　市長ハ選擧長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

各選擧區ノ選擧會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員（第六條ノ市ニ於テハ區長）選擧長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長（第六條ノ市ニ於テハ區長）ハ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ但シ選擧區アルトキハ各別ニ選擧立會人ヲ設クヘシ

投票分會ハ市長ノ指名シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長（第六條ノ市ニ於テハ區長）ハ分會ノ區劃內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ

選擧立會人及投票立會人ハ名譽職トス

第二十四條　選擧人ニ非サル者ハ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者、選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選擧會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選擧長又ハ投票分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選擧會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長又ハ投票分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十五條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間內ニ自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間內ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選擧區アル場合ニ於テ選擧人名簿ノ調製後選擧人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選擧人ハ前所屬ノ選擧區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ選擧長ニ送致スヘシ

第二十五條ノ二　確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選擧ノ當日選擧權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

第二十五條ノ三　投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長又ハ投票分會長之ヲ決スヘシ

投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選擧人不服アルトキハ投票分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票分會長又ハ投票立會人ニ於テ異議アル選擧人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第二十六條　第三十三條若ハ第三十七條ノ選擧、增員選擧又ハ補闕選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條　市長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十七條ノ二　選擧長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日（投票分會ヲ設ケタルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日）選擧立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ先ツ第二十五條ノ三第二項及第四項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

選擧長ハ選擧立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ更ニ開票ノ期日ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選擧會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十七條ノ三　選擧人ハ其ノ選擧會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條ノ四　特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

七　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十九條　投票ノ效力ハ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

第三十條　市會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ議員ノ定數（選擧區アル場合ニ於テハ其ノ選擧區ノ配當議員數）ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第三十條ノ二　當選者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第三十一條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顚末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選擧立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選擧區ノ選擧長ハ選擧錄（第六條ノ市ニ於テハ其ノ寫）ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

投票分會長ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顚末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選擧長ニ送致スヘシ

選擧錄及投票錄ハ投票、選擧人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間市長（第六條ノ市ニ於テハ區長）ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十二條　當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ（第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシメ）同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選擧錄ノ寫（投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫）ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選擧錄ノ寫（投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫）ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間內ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

市ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責

任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス第二項又ハ第三項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者竝淸算人ヲ謂フ

第三十三條　當選者左ニ揭グル事由ノ一ニ該當スルトキハ三月以内ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　當選ヲ辭シタルトキ

二　數選擧區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選擧區ノ當選ニ應シ又ハ抽籤ニ依リ一ノ選擧區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ選擧區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルトキ

三　第三十條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ

四　死亡者ナルトキ

五　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無效ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選擧又ハ補闕選擧ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事由前條第二項、第三項若ハ第五項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第三十條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス

第二項ノ場合ニ於テハ市長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第一項ノ期間ハ第三十六條第八項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選擧ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期滿了前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選擧ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ二ニ滿チサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ市長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

第三十六條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十二條第一項又ハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ第三十二條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ第三十二條第一項又ハ第三十四條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無效トス

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十條、第三十三條又ハ第三十七條第一項若ハ第三項ノ選擧ハ之ニ關係アル選擧又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

市會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十七條　選擧無效ト確定シタルトキハ三月以内ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ

當選無效ト確定シタルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ

第三十三條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選擧ニ之ヲ準用ス

第三十八條　市會議員被選擧權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第三十二條第六項ニ揭クル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ノ有無又ハ第三十二條第六項ニ揭クル者ニ該當スルヤ否ハ市會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選擧權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外市會之ヲ決定ス

一　禁治産者又ハ準禁治産者ト爲リタルトキ

二　破産者ト爲リタルトキ

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

市長ハ市會議員中被選擧權ヲ有セサル者又ハ第三十二條第六項ニ揭クル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條第九項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十九條　第二十一條ノ三及第三十六條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市長直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條ノ二　勅令ヲ以テ指定スル市（第六條ノ市ノ區ヲ含ム）ノ市會議員（又ハ區會議員）ノ選擧ニ付テハ府縣制第十三條ノ二、第十三條ノ三、第二十九條ノ三及第三十四條ノ二ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第二十三條第三項及第五項、第二十五條第五項及第七項、第二十五條ノ三、第二十八條、第二十九條、第三十三條第一項竝第三十六條第一項ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十九條ノ三　前條ノ規定ニ依ル選擧ニ付テハ衆議院議員選擧法第十章及第十一章竝第百四十條第二項及第百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選擧事務所ノ數、選擧委員及選擧事務員ノ數竝選擧運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

前條ノ規定ニ依ル選擧ヲ除クノ外市會議員（又ハ第六條ノ市ノ區ノ區會議員）ノ選擧ニ

付テハ衆議院議員選擧法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第百條及第百四十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款　職務權限

第四十一條　市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條　市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二　市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三　歳入出豫算ヲ定ムル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、加入金、市稅又ハ夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事

六　不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七　基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ抛棄ヲ爲ス事

九　財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十　市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一　市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十三條　市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條　市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選擧ヲ行フヘシ

第四十五條　市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條　市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十七條　市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徴シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選擧スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十九條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

前項假議長ノ選擧ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條　市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條　市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第五十四條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第五十四條　議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條　法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選擧ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人每ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

第一項ノ選擧ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ其ノ投票ニシテ第二十八條第一號、第六號及第七號ニ該當スルモノ竝其ノ記載ノ人員選擧スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無效トシ同條第二號、第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無效トス

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者選擧スヘキ定數ヲ超ユルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次選擧スヘキ定數ニ至ル迄ノ者ヲ以テ當選者トシ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十六條　市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十九條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十八條　議員ハ選擧人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條　會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官

吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條　市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十二條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第六十三條　市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章　市參事會

第一款　組織及選擧

第六十四條　市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　市長

二　助役

三　名譽職參事會員

前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十五條　名譽職參事會員ノ定數ハ六人トス但シ第六條ノ市ニ在リテハ市條例ヲ以テ十二人迄之ヲ增加スルコトヲ得

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ其ノ選擧ニ關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中闕員アルトキハ直ニ補闕選擧ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ハ隔年之ヲ選擧スヘシ

名譽職參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ル迄在任ス市會議員ノ任期滿了シタルトキ亦同シ

名譽職參事會員ハ其ノ選擧ニ關シ第九十條ノ處分確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第六十六條　市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス

第二款　職務權限

第六十七條　市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二　削除

三　其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條　市參事會ハ市長之ヲ招集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

第六十九條　市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十條　市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除斥ノ爲名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條　第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條並第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章　市吏員

第一款　組織選擧及任免

第七十二條　市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得

特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置クコトヲ得其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條　市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

市長ハ市會ニ於テ之ヲ選擧ス

市長ハ其ノ退職セムトスル日前三十日目迄ニ申立ツルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ市會ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條　市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

市參與ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム

名譽職市參與ハ市公民中選擧權ヲ有スル者ニ限ル

第七十五條　助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選擧ス

第七十三條第三項ノ規定ハ助役ニ之ヲ準用ス

第七十六條　市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市ノ公民トス

第七十七條　市長市參與及助役ハ第十八條第二項又ハ第四項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ市ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ其ノ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付市長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役、監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配人タルコトヲ得ス

第七十八條　市長ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長有給市參與及助役ハ會社ノ取締役監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

第七十九條　市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項及第二項、第七十六條、第七十七條並前條第二項ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第八十條　第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシ市長之ヲ任免ス

第七十七條第一項及第七十八條第二項ノ規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第八十一條　第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役及區副收入役各一人ヲ置ク

區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長ト父子兄弟タル緣故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命ス

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區副收入役ニ之ヲ準用ス

第八十二條　第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム

內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條　市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會議員、名譽職參事會員又ハ市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市長之ヲ定ム但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條　市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員又ハ職ニ就キタルカ爲市公民タル者選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第八十五條　前數條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條　前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款　職務權限

第八十七條　市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四　證書及公文書類ヲ保管スル事

五　法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料、手數料、加入金、市稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六　其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十八條　削除

第八十九條　市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第九十條　市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選擧ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

前項ノ裁決ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條　市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

市參事會成立セサルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ議決スヘキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

市會又ハ市參事會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參事會ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十二條　市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條ノ二　市參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ市長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第九十三條　市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條　市長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十五條　市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第九十六條　助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條　收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務中ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

市長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市會ハ市長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

第九十八條　區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區內ニ關スル市ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス

第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條　區收入役ハ市長又ハ市收入役ノ命ヲ承ケ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及區ノ出納其ノ他ノ會計事務並國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ニ規定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第百條　名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助ス

名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第百一條　委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第百二條　第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第百三條　第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五章　給料及給與

第百四條　名譽職市參與、市會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職市參與、名譽職區長、名譽職區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第百五條　市長、有給市參與、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第百六條　有給吏員ニハ市條例ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第百七條　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ市長ハ七日以內ニ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百八條　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ市ノ負擔トス

第六章　市ノ財務

第一款　財產營造物及市稅

第百九條　收益ノ爲ニスル市ノ財產ハ基本財產トシ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第百十條　舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第百十一條　市ハ前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第百十二條　市ハ第百十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第百十三條　市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第百十四條　財產ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百十五條　市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百十六條　市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第百十七條　市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　國稅府縣稅ノ附加稅

二　特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第百十八條　三月以上市內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百十九條　市內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖市內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百二十條　納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

市ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滯在市ノ內外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百二十一條　所得稅法第十八條ニ揭クル所得ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地竝教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百二十一條ノ二　市ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市稅ヲ課セサルコトヲ得

第百二十二條　數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第百二十三條　市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十四條　數人又ハ市ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條　夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準

率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第百二十六條　非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ市長、警察官吏又ハ監督官廳ハ市內ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百二十七條　市稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第百二十八條　市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市稅ヲ減免スルコトヲ得

第百二十九條　使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ市稅ヲ逋脫シタル者ニ付テハ市條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脫シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料及市稅ノ賦課徵收ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百三十條　市稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ市長ハ七日以內ニ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收竝夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百三十一條　市稅、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期內ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限內ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第百三十二條　市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市長ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款　歲入出豫算及決算

第百三十三條　市長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財產表ヲ提出スヘシ

第百三十四條　市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百三十五條　市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百三十六條　市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百三十七條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百三十八條　市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百三十九條　市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第百四十條　市ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第百四十一條　市ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ之ヲ檢査シ且每會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘシ

檢査ハ市長之ヲ爲シ臨時檢査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第百四十二條　市ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百四十三條　豫算調製ノ式、費目流用其ノ

他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第七章　市ノ一部ノ事務

第百四十四條　市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬スル市ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ市ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第百四十五條　前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ市會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第百四十六條　區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選擧權及被選擧權ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

區會議員ノ選擧ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選擧人名簿又ハ選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選擧權ノ有無ノ決定ハ市會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第百四十七條　第百四十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百四十八條　第百四十四條ノ市ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章　市町村組合

第百四十九條　市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ前項ノ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

市町村組合ハ法人トス

第百五十條　市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合市町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第百五十一條　市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第百五十二條　組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル市町村、組合ノ共同事務、組合役場ノ位置、組合會ノ組織及組合會議員ノ選擧、組合吏員ノ組織及選任竝組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第百五十三條　市町村組合ヲ解カムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

第百五十四條　第百五十條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係市町村ノ協議ニ依リ之ヲ定ム

第百五十條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第百五十五條　第百四十九條第一項第百五十條第一項第百五十一條第一項第百五十三條第一項及前條第二項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ市町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル市町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ組合ノ管理者ハ七日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百五十六條　市町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章　市ノ監督

第百五十七條　市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第百五十八條　本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル市ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百五十九條　本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第百六十條　異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百六十條ノ二　異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除クノ外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スヘシ

第百六十一條　監督官廳ハ市ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ市ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第百六十二條　内務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

市會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

第百六十三條　市ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

市長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百六十四條　市長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ市吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第百六十五條　市條例ヲ設ケ又ハ改正セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第百六十六條　左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　市債ヲ起シ竝起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別稅ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

四　使用料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

第百六十七條　左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　市條例ヲ廢止スル事

二　基本財産及特別基本財産ノ處分ニ關スル事

三　第百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事

四　寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五　手數料及加入金ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

六　均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

七　第百二十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八　第百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事

九　第百二十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第百六十八條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百六十九條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第百七十條　府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經市長ニ付テハ勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選擧補闕及任期竝懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長、市參與、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第百七十一條　市吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十章　雜則

第百七十二條　府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ内務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百七十三條　本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用分限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十四條　第十三條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第百七十五條　本法ニ於ケル直接稅及間接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百七十六條　市又ハ市町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ市ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十七條　本法中府縣、府縣制、府縣知事、府縣參事會、府縣名譽職參事會員、府縣高等官、所屬府縣ノ官吏若ハ有給吏員、府縣稅又ハ直接府縣稅ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各地方費、道會法、道廳長官、道參事會、道名譽職參事會員、道廳高等官、道廳ノ官吏若ハ地方費ノ有給吏員、北海道地方稅又ハ直接北海道地方稅ニ、町村又ハ町村會ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各町村又ハ町村會ニ該當スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第百七十七條ノ二　本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

附　則

第百七十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十九條　本法施行ノ際現ニ市會議員又ハ區會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第百八十條　本法施行ノ際現ニ市長助役又ハ收入役ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日ニ於テ其ノ職ヲ失フ

舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第百八十一條　本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十四年勅令第二百三十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

附　則（大正十五年法律第七十四號）

本法中公民權及議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ必要ナル選擧人名簿ニ關シ第二十一條乃至第二十一條ノ五ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法中改正法律未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十五年勅令第二百七號ヲ以テ公民權及議員選擧ニ關スル規定ヲ除クノ外同年七月一日ヨリ施行）

●町村制

明治四十四年四月七日　法律第六十九號

改正　大正一〇年第五九號、一五年第七五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル町村制改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（御名御璽　大臣副署）

町村制

第一章　總則
第一款　町村及其ノ區域
第二款　町村住民及其ノ權利義務
第三款　町村條例及町村規則
第二章　町村會
第一款　組織及選擧
第二款　職務權限
第三章　町村吏員
第一款　組織選擧及任免
第二款　職務權限
第四章　給料及給與
第五章　町村ノ財務
第一款　財産營造物及町村稅
第二款　歲入出豫算及決算
第六章　町村ノ一部ノ事務
第七章　町村組合
第八章　町村ノ監督
第九章　雜則

町村制

第一章　總則

第一款　町村及其ノ區域

第一條　町村ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條　町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ市ノ廢置分合ヲ伴フトキハ市制第三條ノ規定ニ依ル

第四條　町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五條　町村ノ名稱ヲ變更セムトスルトキ、村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲サムトスルトキ又ハ町村役場ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款　町村住民及其ノ權利義務

第六條　町村內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス

町村住民ハ本法ニ從ヒ町村ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條　帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來町村住民タル者ハ其ノ町村公民トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　禁治產者及準禁治產者
二　破產者ニシテ復權ヲ得サル者
三　貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者
四　一定ノ住居ヲ有セサル者
五　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
六　刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス
七　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第一項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第八條　町村公民ハ町村ノ選擧ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止スルコトヲ得

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
二　業務ノ爲常ニ町村內ニ居ルコトヲ得サル者
三　年齡六十年以上ノ者
四　官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
五　四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者
六　其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條　陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第三款　町村條例及町村規則

第十條　町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ町村條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村ノ營造物ニ關シ町村條例ヲ以テ規定スルモノノ外町村規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章　町村會

第一款　組織及選擧

第十一條　町村會議員ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧ス

議員ノ定數左ノ如シ

一　削除
二　人口五千未滿ノ町村　十二人
三　人口五千以上一萬未滿ノ町村　十八人
四　人口一萬以上二萬未滿ノ町村　二十四人
五　人口二萬以上ノ町村　三十人

議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス但シ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　町村公民ハ總テ選擧權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　削除

第十四條　特別ノ事情アルトキハ町村ハ區劃ヲ定メテ投票分會ヲ設クルコトヲ得

第十五條　選擧權ヲ有スル町村公民ハ被選擧權ヲ有ス

在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選擧權ヲ有セス

選擧事務ニ關係アル官吏及町村ノ有給吏員ハ其ノ關係區域內ニ於テ被選擧權ヲ有セス

町村ノ有給ノ吏員敎員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ町村ノ町村會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十六條　町村會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ニ滿チサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付町村長抽籤シテ解任スヘキ者ヲ定メ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ヲ超ユルトキハ解任ヲ要スル者ニ充ツヘキ闕員ハ最モ先ニ闕員ト爲リタル者ヨリ順次之ニ充テ闕員ト爲リタル時同シキトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選擧セラレタル議員ハ總選擧ニ依リ選擧セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

第十七條　町村會議員中闕員ヲ生シタルトキハ三月以內ニ補闕選擧ヲ行フヘシ但シ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第三十條第五項及第六項ノ規定ハ補闕選擧ニ之ヲ準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十八條　町村長ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名、住所及生年月日等ヲ記載スヘシ

第十八條ノ二　町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間町村役場又ハ其ノ指定シタル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

町村長ハ縱覽開始ノ日前三日目迄ニ縱覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第十八條ノ三　選擧人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縱覽期間滿了後三日以內ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十八條ノ四　選擧人名簿ハ十二月二十五日ヲ以テ確定ス

選擧人名簿ハ次年ノ十二月二十四日迄之ヲ据置クヘシ

前條ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

投票分會ヲ設クルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃每ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

第十八條ノ五　第十八條ノ三ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ選擧人名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縱覽、確定及異議申立ニ對スル町村會ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ名簿ニ關シ其ノ分合其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　町村長ハ選擧ノ期日前七日目迄ニ選擧會場（投票分會場ヲ含ム以下之ニ同シ）、投票ノ日時及選擧スヘキ議員數ヲ告示スヘシ投票分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ區劃ヲ告示スヘシ

投票分會ノ投票ハ選擧會ト同日時ニ之ヲ行フ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ町村長ハ其ノ投票ヲ行フヘキ選擧會又ハ投票分會ノミニ付更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ選擧會場及投票ノ日時ハ選擧ノ期日前五日目迄ニ之ヲ告示スヘシ

第二十條　町村長ハ選擧長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

町村長ハ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ選任スヘシ

投票分會ハ町村長ノ指名シタル吏員投票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

町村長ハ分會ノ區劃內ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ二人乃至四人ノ投票立會人ヲ選任スヘシ

選擧立會人及投票立會人ハ名譽職トス

第二十一條　選擧人ニ非サル者ハ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者、選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選擧會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選擧長又ハ投票分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選擧會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長又ハ投票分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十二條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間內ニ自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間內ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル點字ハ之ヲ文字ト看做ス

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ選擧長ニ送致スヘシ

第二十二條ノ二　確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧人名簿ニ登錄セラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス選擧ノ當日選擧權ヲ有セサル者ナルトキ亦同シ

第二十二條ノ三　投票ノ拒否ハ選擧立會人又ハ投票立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長又ハ投票分會長之ヲ決スヘシ

投票分會ニ於テ投票拒否ノ決定ヲ受ケタル選擧人不服アルトキハ投票分會長ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

投票分會長又ハ投票立會人ニ於テ異議アル選擧人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第二十三條　第三十條若ハ第三十四條ノ選擧、增員選擧又ハ補闕選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十四條　町村長ハ豫メ開票ノ日時ヲ告示スヘシ

第二十四條ノ二　選擧長ハ投票ノ日又ハ其ノ翌日（投票分會ヲ設ケタルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日）選擧立會人ノ立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ先ツ第二十二條ノ三第二項及第四項ノ投票ヲ調査スヘシ其ノ投票ノ受理如何ハ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

選擧長ハ選擧立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲開票ヲ行フコト能ハサルトキハ町村長ハ更ニ開票ノ期日ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ選擧會場ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ更ニ其ノ場所ヲ告示スヘシ

第二十四條ノ三　選擧人ハ其ノ選擧會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條ノ四　特別ノ事情アルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ開票分會ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設クル場合ニ於テ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ
二　現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四　被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
七　被選擧人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十六條　投票ノ效力ハ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘ

シ

第二十七條　町村會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條ノ二　當選者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第二十八條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顚末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選擧立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

投票分會長ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顚末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

投票分會長ハ投票函ト同時ニ投票錄ヲ選擧長ニ送致スヘシ

選擧錄及投票錄ハ投票、選擧人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間町村長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十九條　當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ且選擧錄ノ寫（投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫）ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ當選者ナキトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ且選擧錄ノ寫（投票錄アルトキハ併セテ投票錄ノ寫）ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ニ應スヘキ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

町村ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ町村ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス第二項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者竝淸算人ヲ謂フ

第三十條　當選者左ニ揭クル事由ノ一ニ該當スルトキハ三月以內ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選擧ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　當選ヲ辭シタルトキ
二　第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒタルトキ
三　死亡者ナルトキ
四　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無效トナリタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選擧又ハ補闕選擧ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事由前條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ第二十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者選擧ノ期日後ニ於テ被選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者ト定ムルコトヲ得ス

第二項ノ場合ニ於テハ町村長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第一項ノ期間ハ第三十三條第八項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選擧ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期滿了前六月以內ニ生シタルトキハ第一項ノ選擧ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ二ニ滿チサルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ又ハ同條第四項ノ申立アリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十二條　選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス但シ當選ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限リ當選ヲ失フコトナシ

第三十三條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第二十九條第一項又ハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以內ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ第二十九條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ、當選ニ關シテハ第二十九條第一項又ハ第三十一條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無效トス

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條、第三十條又ハ第三十四條第一項若ハ第三項ノ選擧ハ之ニ關係アル選擧又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

町村會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十四條　選擧無效ト確定シタルトキハ三月以內ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ

當選無效ト確定シタルトキハ直ニ選擧會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選擧ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三月以內ニ更ニ選擧ヲ行フヘシ

第三十條第五項及第六項ノ規定ハ第一項及前項ノ選擧ニ之ヲ準用ス

第三十五條　町村會議員被選擧權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第二十九條第五項ニ揭クル者ナルトキハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ノ有無又ハ第二十九條第五項ニ揭クル者ニ該當スルヤ否ハ町村會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選擧權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外町村會之ヲ決定ス

一　禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ
二　破產者ト爲リタルトキ
三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
四　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

町村長ハ町村會議員中被選擧權ヲ有セサル者又ハ第二十九條第五項ニ揭クル者アリト

認ムルトキハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ決定スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條第九項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十六條　第十八條ノ三及第三十三條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、町村會ノ決定ハ町村長直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十六條ノ二　町村會議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第百條及第百四十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第三十八條　特別ノ事情アル町村ニ於テハ府縣知事ハ其ノ町村ヲシテ町村會ヲ設ケス選擧權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充テシムルコトヲ得

町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二款　職務權限

第三十九條　町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十條　町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　町村條例及町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二　町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第七十七條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
三　歲入出豫算ヲ定ムル事
四　決算報告ヲ認定スル事
五　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、加入金、町村稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
六　不動產ノ管理處分及取得ニ關スル事
七　基本財產及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事
八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
九　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
十　町村吏員ノ身元保證ニ關スル事
十一　町村ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十一條　町村會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選擧ヲ行フヘシ

第四十二條　町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條　町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十四條　町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ町村會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス町村長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

前項假議長ノ選擧ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

特別ノ事情アル町村ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス町村條例ヲ以テ町村會ノ選擧ニ依ル議長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制第四十八條及第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第四十六條　町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十七條　町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル日前三日目迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第四十八條　町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第五十條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條　町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲議員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第五十條　議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條　法律勅令ニ依リ町村會ニ於テ選擧ヲ行フトキハ一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ決定ス

第一項ノ選擧ニ付テハ町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ其ノ投票ニシテ第二十五條第一號、第六號及第七號ニ該當スルモノ竝其ノ記載ノ人員選擧スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無效トシ同條第二號、第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無效トス

連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テ過半數ノ投票ヲ得タル者選擧スヘキ定數ヲ超ユルトキハ最多數ヲ得タル者ヨリ順次選擧スヘキ定數ニ至ル迄ノ者ヲ以テ當選者トシ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十二條　町村會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁止シタルトキ
二　議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議員ノ發議ハ討論ヲ須ヰス其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラス市制第

第五十六條ノ規定ヲ準用ス

第五十三條　議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半數以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長仍會議ヲ開カサルトキハ第四十五條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

第五十四條　議員ハ選擧人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第五十五條　會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第五十六條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ渉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條　町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十八條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條第三項ノ町村ニ於ケル町村會ノ會議ニ付テハ市制第六十二條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十九條　町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章　町村吏員

第一款　組織選擧及任免

第六十條　町村ニ町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ增加スルコトヲ得

第六十一條　町村長及助役ハ名譽職トス

町村ハ町村條例ヲ以テ町村長又ハ助役ヲ有給ト爲スコトヲ得

第六十二條　町村長及助役ノ任期ハ四年トス

第六十三條　町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選擧ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ前項ノ例ニ依ル

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選擧權ヲ有スル者ニ限ル

有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

第六十四條　有給町村長及有給助役ハ其ノ退職セムトスル日前三十日目迄ニ申立ツルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ町村會ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條　町村長及助役ハ第十五條第二項又ハ第四項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ町村ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ其ノ町村ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付町村長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役、監査役若ハ之ニ準スヘキ者、淸算人及支配人タルコトヲ得ス

第六十六條　有給町村長ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

有給町村長及有給助役ハ會社ノ取締役監査役若ハ之ニ準スヘキ者、淸算人又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

第六十七條　町村ニ收入役一人ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入役一人ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

第六十三條第二項及第四項、第六十五條竝前條第二項ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用ス

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

特別ノ事情アル町村ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十八條　町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム

第六十九條　町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會議員又ハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條　町村公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員又ハ職ニ就キタルカ爲町村公民タル者選擧權ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第七十一條　前數條ニ定ムル者ノ外町村ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ町村長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款　職務權限

第七十二條　町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四　證書及公文書類ヲ保管スル事

五　法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手數料、加入金、町村稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六　其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第七十三條　町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第七十四條　町村會ノ議決又ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選擧ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選擧ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村會ノ議決公益ヲ害シ又ハ町村ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ

要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ府縣知事ノ處分ヲ請フヘシ

前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十五條　町村會成立セサルトキ又ハ第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ町村會ノ議決スヘキ事件ヲ處置スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル町村長ノ處置ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第七十六條　町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ町村長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十七條　町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條　町村長ハ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第七十九條　助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ町村長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第八十條　收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村會ハ町村長ノ推薦ニ依リ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

町村長ハ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八十一條　區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區內ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十二條　委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル町村ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第八十三條　第七十一條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第四章　給料及給與

第八十四條　名譽職町村長、名譽職助役、町村會議員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長、名譽職助役、區長、區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十五條　有給町村長、有給助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條　有給吏員ニハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第八十七條　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以內ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ町村ノ負擔トス

第五章　町村ノ財務

第一款　財產營造物及町村稅

第八十九條　收益ノ爲ニスル町村ノ財產ハ基本財產トシ之ヲ維持スヘシ

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條　舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條　町村ハ前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第九十二條　町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十三條　町村ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十四條　財產ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條　町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十六條　町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第九十七條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　國稅府縣稅ノ附加稅

二　特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第百四十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十八條　三月以上町村內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條　町村內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖町村內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、町村內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百條　納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ

町村外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

町村ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滯在町村ノ內外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百一條　所得稅法第十八條ニ揭クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境內地竝敎會所說敎所ノ用ニ供スル建物及其ノ構內地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ敎會所說敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百一條ノ二　町村ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ町村稅ヲ課セサルコトヲ得

第百二條　數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第百三條　町村稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第百四條　數人又ハ町村ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ町村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百五條　夫役又ハ現品ハ直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第百四十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第百六條　非常災害ノ爲必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村長、警察官吏又ハ監督官廳ハ町村內ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百七條　町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第百八條　町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ハ特別ノ事情アル者ニ限リ町村稅ヲ減免スルコトヲ得

第百九條　使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

詐僞其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ使用料ノ徵收ヲ免レ又ハ町村稅ヲ逋脫シタル者ニ付テハ町村條例ヲ以テ其ノ徵收ヲ免レ又ハ逋脫シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額五圓未滿ナルトキハ五圓）以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料及町村稅ノ賦課徵收ニ關シテハ町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得財產又ハ營造物ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十條　町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ノ申立アリタルトキハ町村長ハ七日以內ニ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收竝夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十一條　町村稅、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期內ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限內ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第百十二條　町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ

方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款　歲入出豫算及決算

第百十三條　町村長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財產表ヲ提出スヘシ

第百十四條　町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百十五條　町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百十六條　町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十七條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百十八條　町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百十九條　町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス

第百二十條　町村ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第百二十一條　町村ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ之ヲ檢査シ且每會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘシ

檢査ハ町村長之ヲ爲シ臨時檢査ニハ町村會ニ於テ選擧シタル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第百二十二條　町村ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第六十七條第五項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第百二十三條　豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第六章　町村ノ一部ノ事務

第百二十四條　町村ノ一部ニシテ財產ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアルトキハ其ノ財產又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財產又ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ財產又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財產又ハ營造物ノ屬スル町村ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ

第百二十五條　前條ノ財產又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ府縣知事ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ町村會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第百二十六條　區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選擧權及被選擧權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ關スル事項ニ付亦同シ

區會議員ノ選擧ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選擧人名簿又ハ選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選擧權ノ有無ノ決定ハ町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十七條　第百二十四條ノ場合ニ於テ町村ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百二十八條　第百二十四條ノ町村ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　町村組合

第百二十九條　町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合內各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合內各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ前二項ノ町村組合ヲ設クルコトヲ得

町村組合ハ法人トス

第百三十條　前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セムトスルトキハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ增加セムトスルトキハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラムトスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ一部事務ノ爲設クル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第百三十一條　町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ヲ變更セムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第百三十二條　組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル町村、組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムヘシ

一部事務ノ爲ニ設クル組合ノ組合規約ニハ前項ノ外組合會ノ組織及組合會議員ノ選擧、組合吏員ノ組織及選任竝組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第百三十三條　町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組

合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ町村組合ヲ解クコトヲ得

第百三十四條　第百三十條第一項第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村ノ協議、關係町村ト組合トノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第百三十條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第百三十五條　第百二十九條第一項及第二項第百三十條第一項及第二項第百三十三條第一項竝前條第一項及第二項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ組合ノ管理者ハ七日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百三十六條　町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ニ關スル規定ヲ準用ス

第八章　町村ノ監督

第百三十七條　町村ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第百三十八條　本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ノ監督ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百三十九條　本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第百四十條　異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百四十條ノ二　異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノヲ除クノ外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スヘシ

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ裁決スヘシ

第百四十一條　監督官廳ハ町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ町村ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第百四十二條　内務大臣ハ町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

町村會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

第百四十三條　町村ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百四十四條　町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ハ有給ノ町村吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第百四十五條　町村條例ヲ設ケ又ハ改正セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第百四十六條　左ニ揭クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　町村債ヲ起シ竝起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
二　特別稅ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事
三　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
四　使用料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

第百四十七條　左ニ揭クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一　町村條例ヲ廢止スル事
二　基本財産及特別基本財産竝林野ノ處分ニ關スル事
三　第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
四　寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五　手數料及加入金ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事
六　均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
七　第百二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
八　第百四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
九　第百五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
十　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第百四十八條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百四十九條　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第百五十條　府縣知事ハ町村長、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ町村長、助役、收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ

懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選擧補闕及任期竝懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ町村長、助役、收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選擧セラレ又ハ任命セラルルコトヲ得ス

第百五十一條　町村吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九章　雜則

第百五十二條　削除

第百五十三條　府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ内務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百五十四條　第十一條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第百五十五條　本法ニ於ケル直接稅及間接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百五十六條　町村又ハ町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ町村ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百五十六條ノ二　本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス

第百五十七條　本法ハ北海道其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス

前項ノ地域ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ本法ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコトヲ得

附　則

第百五十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百五十九條　本法施行ノ際現ニ町村會議員、區會議員又ハ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第百六十條　舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第百六十一條　本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（明治四十四年勅令第二百三十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

附　則（大正十五年法律第七十五號）

本法中公民權及議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケサル町村ニ付テハ本法ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

次ノ總選擧ニ至ル迄ノ間從前ノ第十四條、第十七條、第十八條、第三十一條、第三十三條及第三十六條ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

本法ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ必要ナル選擧人名簿ニ關シ第十八條乃至第十八條ノ五ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十五年町村制中改正法律ハ公民權及議員選擧ニ關スル規定ヲ除クノ外大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

町村制第三十八條ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケザル町村ニ付テハ大正十五年町村制中改正法律ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年勅令第二百八號））

●町村制暫行特例

（大正十五年六月二十四日勅令第二百九號）

朕町村制暫行特例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、内務大臣副署）

町村制暫行特例

第一條　本令ハ大正十五年町村制中改正法律附則第三項ノ規定ニ依ル特例ヲ定ムルモノトス

第二條　町村制第十四條、第十七條第一項、第十八條第十三項及第三十一條ノ規定ニ依ル郡長ノ職務權限ハ府縣知事之ヲ行フ

第三條　府縣知事ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ町村制第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ、當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無效トス

第一項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四條　本令ニ依ル異議、訴願及訴訟ニ付テハ町村制第三十六條及第百四十條ノ例ニ依ル

第五條　本令中郡長ニ關スル規定ハ島司ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

町村制第十四條ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル許可ノ申請ハ之ヲ府縣知事ニ爲シタル許可ノ申請ト看做ス

町村制第三十三條第三項ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ二十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

●市制町村制改正經過規程

（大正十五年六月二十四日勅令第二百十號）

朕市制町村制改正經過規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム（總理、內務大臣副署）

市制町村制改正經過規程

第一條　從前ノ市制第十條第二項又ハ町村制第八條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル市町村稅增課ノ處分ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第二條　大正十五年七月一日現ニ在任スル名譽職參事會員及其ノ補闕名譽職參事會員ノ任期ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條　市會ニ於テ市長候補者ヲ選擧推薦シ大正十五年六月三十日迄ニ裁可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

町村會ニ於テ町村長ヲ選擧シ大正十五年六月三十日迄ニ認可ヲ得ザル場合ニ於テハ同年七月一日町村會ニ於テ之ヲ選擧シタルモノト看做ス

第四條　市町村會ニ於テ市町村助役、市町村收入役又ハ市町村副收入役ヲ定メ又ハ選擧シ大正十五年六月三十日迄ニ認可ヲ得ザル場合ニ於テハ同年七月一日市町村會ニ於テ之ヲ定メ又ハ選擧シタルモノト看做ス

第五條　町村會ニ於テ町村長ヲ選擧シ又ハ市町村會ニ於テ市町村助役ヲ定メ若ハ選擧シタル場合ニ於テ從前ノ町村制第六十四條第一項又ハ市制第七十五條第二項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ爲シタル不認可ノ處分ニ不服アルモノアルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條　市長又ハ市助役退職ノ認可ノ申請ヲ爲シ大正十五年六月三十日迄ニ認可ヲ得ザル場合ニ於テハ同年七月一日市制第七十三條第三項又ハ第七十五條第三項ノ規定ニ依リ退職ノ申立ヲ爲シタルモノト看做ス

有給町村長又ハ有給町村助役退職ノ申立ヲ爲シ大正十五年六月三十日迄ニ退職セザル場合ニ於テハ同年七月一日町村制第六十四條ノ規定ニ依リ退職ノ申立ヲ爲シタルモノト看做ス但シ同日ヨリ三十日以內ニ從前ノ規定ニ依ル期間ノ滿了スル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第七條　市會ニ於テ市參與ヲ選擧シ大正十五年六月三十日迄ニ認可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八條　市町村ニ於テ市町村收入役故障アルトキ之ヲ代理スベキ吏員ヲ定メ大正十五年六月三十日迄ニ認可ヲ得ザル場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九條　從前ノ町村制第百二十五條ノ規定ニ依リ郡長ニ於テ町村會ノ意見ヲ徵シタル場合ニ於テハ町村制第百二十五條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ於テ町村會ノ意見ヲ徵シタルモノト看做ス

第十條　從前ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル許可ノ申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ許可ヲ得ザルモノハ新規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項ニ限リ之ヲ府縣知事ニ爲シタル許可ノ申請ト看做ス

前項ノ規定ハ從前ノ町村制第七十四條第六項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル處分ノ申請又ハ從前ノ町村制第七十五條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル指揮ノ申請ニ之ヲ準用ス

第十一條　從前ノ町村制第百六條第五項ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル訴願ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ裁決ナキモノハ之ヲ町村制第百六條第五項ノ規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル訴願ト看做ス

第十二條　從前ノ市制第百五十四條第一項又ハ町村制第百三十四條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ爲シタル處分ニ對スル訴願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第十三條　從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分又ハ裁決ニ關スル訴願ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル、此ノ場合ニ於テハ訴願ノ提起ハ處分又ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スルコトヲ要セズ

前項ノ訴願ノ裁決ニ對スル訴願及訴訟ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第十四條　從前市町村長ニ申立テタル異議ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付セラレザルモノニ付テハ市制第百七條第二項若ハ第百三十條第三項又ハ町村制第八十七條第二項若ハ第百十條第三項ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條　從前市町村組合又ハ町村組合ノ管理者ニ申立テタル異議ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ組合會ノ決定ニ付セラレザルモノニ付テハ市制第百五十五條第三項又ハ町村制第百三十五條第三項ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

第十六條　從前市參事會、町村會若ハ市町村組合町村組合ノ組合會ノ決定ニ付セラレタル異議又ハ府縣參事會ニ於テ受理シタル訴願ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ決定又ハ裁決ナキモノニ付テハ市制第百六十條ノ二又ハ町村制第百四十條ノ二ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

第十七條　本令中郡長ニ關スル規定ハ島司ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市制中改正法律附則第二項、町村制中改正法律附則第四項及市制町村制施行令附則第九項ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件

大正十五年六月二十四日
內務省令第二十二號

市制中改正法律附則第二項、町村制中改正法律附則第四項及市制町村制施行令附則第九項ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件左ノ通定ム

大正十五年市制中改正法律又ハ同年町村制中改正法律ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ必要ナル選擧人名簿ニ關シ市制第二十一條乃至第二十一條ノ五又ハ町村制第十八條乃至第十八條ノ五ノ規定ニ依ル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ府縣知事（北海道ニ於テハ北海道廳長官）ニ於テ其ノ期日又ハ期間ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ハ市制町村制施行令附則第九項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

●市制町村制施行令

大正十五年六月二十四日
勅令第二百一號

改正　昭和二年第三八號

朕市制町村制施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

市制町村制施行令

第一章　總則

第一條　市町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ市町村長ノ臨時代理者又ハ職務管掌ノ官吏ハ歲入歲出豫算ガ市町村會ノ議決ヲ經テ成立スルニ至ル迄ノ間必要ナル收支ニ付豫算ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ

第二條　市町村ノ設置アリタル場合ニ於テハ府縣知事ハ必要ナル事項ニ付市町村條例ノ設定施行セラルルニ至ル迄ノ間從來其ノ地域ニ施行セラレタル市町村條例ヲ市町村ノ條例トシテ當該地域ニ引續キ施行スルコトヲ得

第三條　市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村其ノ事務ヲ承繼ス、其ノ地域ニ依リ難キトキハ府縣知事ハ事務ノ分界ヲ定メ又ハ承繼スベキ市町村ヲ指定ス

前項ノ場合ニ於テ消滅シタル市町村ノ收支ハ消滅ノ日ヲ以テ打切リ其ノ市町村長（又ハ市町村長ノ職務ヲ行フ者）タリシ者之ヲ決算ス

前項ノ決算ハ事務ヲ承繼シタル各市町村ノ市町村長之ヲ市町村會ノ認定ニ付スベシ

市制第百四十二條第三項又ハ町村制第百二十二條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條　市町村ノ境界變更アリタル爲事務ノ分割ヲ要スルトキハ其ノ事務ノ承繼ニ付テハ府縣知事之ヲ定ム

第五條　市制第八十二條第三項ノ市ニ於テ新ニ區ヲ劃シ又ハ其ノ區域ヲ變更セントスルトキハ市ハ內務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第六條　市制第十一條及町村制第九條ノ規定ニ依リ除外スベキ學生生徒左ノ如シ

一　陸軍各部依託學生生徒

二　海軍軍醫學生藥劑學生主計學生造船學生造機學生造兵學生竝ニ海軍豫備生徒及海軍豫備練習生

第二章　市町村會議員ノ選擧

第七條　市制第二十一條ノ五第三項又ハ町村制第十八條ノ五第三項ノ規定ニ依リ選擧人名簿ノ調製、縱覽、確定及異議申立ニ對スル市町村會ノ決定ニ關スル期日及期間ヲ定メタルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ

第八條　市町村ノ境界變更アリタル場合ニ於テハ市町村長ハ選擧人名簿ヲ分割シ其ノ部分ヲ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スベシ

市町村ノ廢置分合アリタル場合ニ於テ名簿ノ分割ヲ以テ足ルトキハ前項ノ例ニ依リ、其ノ他ノ場合ニ於テハ從前ノ市町村ノ市町村長（又ハ市町村長ノ職務ヲ行フ者）タリシ者ハ直ニ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ選擧人名簿ヲ送付スベシ

市町村長選擧人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スベシ

第九條　前條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選擧人名簿ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ニ係ル地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ選擧人名簿ト看做ス

第十條　第八條ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル選擧人名簿確定前ナルトキハ名簿ノ縱覽、確定及異議申立ニ對スル市町村會ノ決定ニ關スル期日及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ期日及期間ヲ定メタルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ

第十一條　市制第二十五條第六項又ハ町村制第二十二條第六項ノ規定ニ依リ盲人ガ投票ニ關スル記載ニ使用スルコトヲ得ル點字ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

點字ニ依リ投票ヲ爲サントスル選擧人ハ選擧長又ハ投票分會長ニ對シ其ノ旨ヲ申立ツベシ、此ノ場合ニ於テハ選擧長又ハ投票分會長ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スベシ

點字ニ依ル投票ノ拒否ニ付テハ市制第二十五條ノ三又ハ町村制第二十二條ノ三ノ例ニ依ル、此ノ場合ニ於テハ封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付スベシ

前項ノ規定ニ依リ假ニ爲サシメタル投票ハ市制第二十七條ノ二第二項及第三項又ハ町村制第二十四條ノ二第二項及第三項ノ規定ノ適用ニ付テハ市制第二十五條ノ三第二項及第四項又ハ町村制第二十二條ノ三第二項及第四項ノ投票ト看做ス

第十二條　市制第二十七條ノ四又ハ町村制第二十四條ノ四ノ規定ニ依リ開票分會ヲ設ケタルトキハ市町村長ハ直ニ其ノ區劃及開票分會場ヲ告示スベシ

第十三條　開票分會ハ市町村長ノ指名シタル吏員開票分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ズ

第十四條　開票分會ノ區劃內ノ投票分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票分會長少クトモ一人ノ投票立會人ト共ニ投票函ノ儘投票錄及選擧人名簿ノ抄本ト併セテ之ヲ開票分會長ニ送致スベシ

第十五條　投票ノ點檢終リタルトキハ開票分會長ハ直ニ其ノ結果ヲ選擧長ニ報告スベシ

第十六條　開票分會長ハ開票錄ヲ作リ開票ニ關スル顚末ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ開票立會人ト共ニ之ニ署名シ直ニ投票錄及投票ト併セテ之ヲ選擧長ニ送致スベシ

第十七條　選擧長ハ總テノ開票分會長ヨリ第十五條ノ報告ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日（又ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日若ハ其ノ翌日）選擧會ニ於テ選擧立會人立會ノ上其ノ報告ヲ調査シ市制第二十七條ノ二第三項又ハ町村制第二十四條ノ二第三項ノ規定ニ依リ爲シタル點檢ノ結果ト併セテ各被選擧人（市制第三十九條ノ二ノ市ニ於テハ各議員候補者）ノ得票總數ヲ計算スベシ

第十八條　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ニ於テハ選擧長ハ前條ノ規定ニ準ジ其ノ部分ニ付前條ノ手續ヲ爲シ他ノ部分ニ於ケル各被選擧人（市制第三十九條ノ二ノ市ニ於テハ各議員候補者）ノ得票數ト併セテ其ノ得票總數ヲ計算スベシ

第十九條　開票分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ市町村長ハ市制第三十二條第一項又ハ町村制第二十九條第一項ノ報告ニ開票錄ノ寫ヲ添附スベシ

第二十條　市制第二十三條第五項及第六項竝ニ町村制第二十條第四項及第五項ノ規定ハ開票立會人ニ、市制第二十四條第一項及第二項竝ニ町村制第二十一條第一項及第二項ノ規定ハ開票分會場ニ、市制第二十七條ノ二、第二十七條ノ三及第二十九條竝ニ町村制第二十四條ノ二、第二十四條ノ三及第二十六條ノ規定ハ開票分會ニ於ケル開票ニ之ヲ準用ス

第二十一條　市制第八十二條第三項ノ市ハ其ノ區ヲ以テ選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ市制第二章第一款（第十六條第三項ノ規定ヲ除ク）及本令第二十二條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ市制第六條ノ市ト看做ス

第三章　市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員ノ選擧ニ關スル特例

第二十二條　議員候補者ハ選擧人名簿（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ選擧人名簿）ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得テ選擧立會人一人ヲ定メ選擧ノ期日ノ前日迄ニ市長（市制第六條ノ市ニ於テハ區長）ニ屆出ヅルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ屆出テタル選擧立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル選擧立會人三人ニ達セザルトキ若ハ三人ニ達セザルニ至リタルトキ又ハ選擧立會人ニシテ參會スル者選擧會ヲ開クベキ時刻ニ至リ三人ニ達セザルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セザルニ至リタルトキハ市長（市制第六條ノ市ニ於テハ區長）ハ選擧人名簿（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ選擧人名簿）ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ三人ニ達スル迄ノ選擧立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ニ立會ハシムベシ

前二項ノ規定ハ投票立會人及開票立會人ニ之ヲ準用ス[illegible]ル者トア[illegible]名簿ニ登[illegible]

第二十三條　[illegible]ノ規定ハ[illegible]

同規定中[illegible]

第二十四條　投票ノ拒否ハ選擧立會人又ハ投票立會人[illegible]長之ヲ決定スベシ

市制第二[illegible]定ハ前項[illegible]長又ハ投[illegible]

第二十五條　[illegible]人トアル[illegible]ス

前項ノ規[illegible]者ノ氏名[illegible]

第二十六條　[illegible]票立會人[illegible]長之ヲ決[illegible]

第二十七條　[illegible]同項第六[illegible]ス

六　府縣[illegible]依ル訴[illegible]

第二十八條　[illegible]選擧人ト[illegible]同規定ヲ[illegible]

第四章　市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員ノ選擧運動及其ノ費用竝ニ公立學校等ノ設備ノ使用

第二十九條　選擧事務所ハ議員候補者一人ニ

付議員ノ定數（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ配當議員數）ヲ以テ選擧人名簿（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ選擧人名簿）確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數一千以上ナルトキハ二箇所ヲ、一千未滿ナルトキハ一箇所ヲ超ユルコトヲ得ズ

選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合又ハ市制第二十二條第四項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ選擧事務所ハ前項ノ規定ニ依ル數ヲ超エザル範圍內ニ於テ府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ズ

府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）ハ選擧ノ期日ノ告示アリタル後直ニ前二項ノ規定ニ依ル選擧事務所ノ數ヲ告示スベシ

第三十條　選擧委員及選擧事務員ハ議員候補者一人ニ付議員ノ定數（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ配當議員數）ヲ以テ選擧人名簿（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ選擧人名簿）確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數一千以上ナルトキハ通ジテ十五人ヲ、一千未滿ナルトキハ通ジテ十人ヲ超ユルコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ選擧委員及選擧事務員ニ之ヲ準用ス

第三十一條　選擧運動ノ費用ハ議員候補者一人ニ付左ノ各號ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　議員ノ定數（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ配當議員數）ヲ以テ選擧人名簿（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ選擧人名簿）確定ノ日ニ於テ之ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘ジテ得タル額但シ三百圓未滿ナルモノハ三百圓トス

二　選擧ノ一部無效ト爲リ更ニ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ議員ノ定數（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ配當議員數）ヲ以テ選擧人名簿（選擧區アル場合ニ於テハ當該選擧區ノ選擧人名簿）確定ノ日ニ於テ關係區域ノ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ヲ四十錢ニ乘ジテ得タル額

三　市制第二十二條第四項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フ場合ニ於テハ前號ノ規定ニ準ジテ算出シタル額但シ府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）必要アリト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

府縣知事（東京府ニ於テハ警視總監）ハ選擧ノ期日ノ告示アリタル後直ニ前項ノ規定ニ依ル額ヲ告示スベシ

第三十二條　衆議院議員選擧法施行令第八章、第九章及第十二章ノ規定ハ市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員選擧ニ之ヲ準用ス

第五章　市町村吏員ノ賠償責任及身元保證

第三十三條　市町村吏員其ノ管掌ニ屬スル現金、證券其ノ他ノ財産ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムベシ但シ避クベカラザル事故ニ原因シタルトキ又ハ他ノ者ノ使用ニ供シタル場合ニ於テ合規ノ監督ヲ怠ラザリシトキハ市町村ハ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スベシ

第三十四條　收入役、副收入役若ハ收入役代理者又ハ收入役ノ事務ヲ兼掌スル町村長若ハ助役市制第百三十九條第二項又ハ町村制第百十九條第二項ノ規定ニ違反シテ支出ヲ爲シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ之ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償セシムベシ區收入役、區副收入役又ハ區收入役代理者ニ付亦同ジ

第三十五條　市町村吏員其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケ故意又ハ怠慢ニ因リ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ市町村ハ期間ヲ指定シ其ノ損害ヲ賠償セシムベシ

第三十六條　前三條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市町村ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以內ニ之ヲ裁決スベシ

市制第百六十條第一項乃至第三項又ハ町村制第百四十條第一項乃至第三項ノ規定ハ第一項及第二項ノ訴願及訴訟ニ之ヲ準用ス

第三十七條　賠償金ノ徵收ニ關シテハ市制第百三十一條又ハ町村制第百十一條ノ例ニ依ル

第三十八條　市町村吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認ムルトキハ市町村ハ其ノ種類、價格、程度其ノ他必要ナル事項ヲ定ムベシ

第三十九條　本章中市町村ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市ノ區及市制第百四十四條ノ市ノ一部及町村制第百二十四條ノ町村ノ一部ニ之ヲ準用ス

第六章　市町村税ノ賦課徵收

第四十條　市町村ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メザル者ニ對シ附加税ヲ賦課セントスルトキハ市町村長ハ關係市長又ハ町村長（町村長ニ準ズベキ者ヲ含ム）ト協議ノ上其ノ本税額ノ步合ヲ定ムベシ

前項ノ協議調ハザルトキハ府縣知事之ヲ定メ其ノ數府縣ニ涉ルモノハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ムベシ

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生ズルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本税額ノ步合ヲ定ムベシ

府縣ニ於テ數府縣ニ涉ル營業又ハ其ノ收入ニ對シ營業税附加税、營業收益税附加税又ハ所得税附加税賦課ノ步合ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ步合ニ依ル本税額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本税額ト看做ス

第四十一條　鑛區（砂鑛區域ヲ含ム以下之ニ同ジ）ガ市町村ノ內外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區税（砂鑛區税ヲ含ム）ノ附加税ヲ賦課セントスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本税額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スベシ

市町村ノ內外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所ヲ設ケタル場合ニ於テ鑛產税ノ附加税ヲ賦課セントスルトキハ前條ノ例ニ依ル、鑛區ガ營業所所在ノ市町村ノ內外ニ涉ル場合亦同ジ

第四十二條　住所滯在ガ市町村ノ內外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生ズル收入ニ非ザルモノニ對シ市町村税ヲ賦課セントスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スベシ

前項ノ住所又ハ滯在ガ其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納税義務ノ發生シタル翌月ノ初メヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スベシ但シ賦課後納税義務者ノ住所又ハ滯在ニ異動ヲ生ズルモ賦課額ハ變更セズ其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル市町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スベシ

住所滯在ガ同一府縣內ノ市町村ノ內外ニ涉ル者其ノ住所又ハ滯在ノ時ヲ異ニスル場合ニ於テ其ノ者ニ對シ戶數割附加税ヲ賦課セントスルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第四十三條　市町村税ヲ徵收セントスルトキハ市町村長ハ徵税令書ヲ納税人ニ交付スベシ

第四十四條　徵税令書ヲ受ケタル納税人納期內ニ税金ヲ完納セザルトキハ市町村長ハ直ニ督促狀ヲ發スベシ

第四十五條　督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付税金額ノ萬分ノ四以內ニ於テ市町村ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滯金ヲ徵收スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付市町村長ニ於テ酌量スベキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　令書一通ノ税金額五圓未滿ナルトキ

二　納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ

三　納税者ノ住所及居所ガ帝國內ニ在ラザル爲又ハ共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納税ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ税金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滯金ハ之ヲ徵收セズ

第四十六條　納税人左ノ場合ニ該當スルトキ

ハ徵税令書ヲ交付シタル市町村税ニ限リ納期前ト雖モ之ヲ徵收スルコトヲ得

一　國税徵收法ニ依ル滯納處分ヲ受クルトキ

二　强制執行ヲ受クルトキ

三　破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四　競賣ノ開始アリタルトキ

五　法人ガ解散ヲ爲シタルトキ

六　納税人脫税又ハ逋税ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四十七條　相續開始ノ場合ニ於テハ市町村税、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徵收スベシ但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徵收スルコトヲ得

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ヲ限度トシテ市町村税、督促手數料、延滯金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス

法人合併ノ場合ニ於テハ合併ニ因リ消滅シタル法人ノ納付スベキ市町村税、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ヨリ之ヲ徵收スベシ

第四十八條　共有物、共同事業、共同事業ニ因リ生ジタル物件又ハ共同行爲ニ係ル市町村税、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ納税者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス

第四十九條　同一年度ノ市町村税ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徵收スベキ同一税目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第五十條　納税義務者納税地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ納税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ市町村長ニ申告スベシ其ノ納税管理人ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第五十一條　徵税令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人ガ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス

納税管理人アルトキハ納税ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス

第五十二條　書類ノ送達ヲ受クベキ者ガ其ノ住所若ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ其ノ者ノ住所及居所ガ帝國內ニ在ラザルトキ若ハ共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第五十三條　市町村ハ內務大臣及大藏大臣ノ指定シタル市町村税ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵收セシムルコトヲ得

前項ノ市町村税ノ徵收ニ付テハ第四十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第五十四條　前條第一項ノ規定ニ依リ市町村税ヲ徵收セシムル場合ニ於テハ納税人ハ其ノ税金ヲ徵收義務者ニ拂込ムニ依リテ納税ノ義務ヲ了ス

第五十五條　第五十三條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者ハ徵收スベキ市町村税ヲ市町村長ノ指定シタル期日迄ニ市町村ニ拂込ムベシ、其ノ期日迄ニ拂込マザルトキハ市町村長ハ相當ノ期限ヲ指定シ督促狀ヲ發スベシ

第五十六條　市町村ハ前條ノ徵收ノ費用トシテ拂込金額ノ百分ノ四ヲ徵收義務者ニ交付スベシ

第五十七條　第五十三條第一項ノ規定ニ依ル徵收義務者避クベカラザル災害ニ依リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ税金拂込義務ノ免除ヲ市町村長ニ申請スルコトヲ得

市町村長前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付スベシ市參事會又ハ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ之ヲ決定スベシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第二項ノ決定ニ付テハ市町村長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ市町村長又ハ府縣知事ヨリモ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣參事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月以內ニ之ヲ裁決スベシ

市制第百六十條第一項乃至第三項又ハ町村制第百四十條第一項乃至第三項ノ規定ハ第三項乃至第五項ノ訴願ニ之ヲ準用ス

第二項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スベシ

第五十八條　第四十五條乃至第四十八條ノ規定ハ第五十三條第一項ノ規定ニ依リ市町村税ヲ徵收セシムル場合ノ拂込金ニ之ヲ準用ス

第七章　市町村ノ監督

第五十九條　市町村行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭グルモノハ府縣知事之ヲ許可スベシ

一　基本財產、特別基本財產、造林、傳染病豫防救治ニ關スル一時給與金、有給吏員ノ年功加俸、退隱料、退職給與金、療治料、救助金、手當金、死亡給與金、弔祭料及遺族扶助料竝ニ市町村助役ノ定數增加、町村長及町村助役ノ有給、市町村副收入役ノ設置、委員ノ組織及學務委員ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

二　著シク人口ノ增減アリタルニ因リ議員ノ定數增減ニ關スル町村條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

三　浴場、共同宿泊所、病院、消毒所、住宅、產婆、胞衣及產穢物燒却場、市場、屠場、墓地、火葬場、棧橋、林野、土地、通船、用水、溜池其ノ他之ニ類スルモノノ管理及使用竝ニ其ノ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

四　手數料又ハ加入金ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

五　特別税段別割ヲ新設シ、增額シ又ハ變更スルコト及之ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト但シ大正九年勅令第二百八十二號又ハ大正十五年勅令第百四十三號ニ依リ府縣知事ニ於テ許可スル課税ノ限度ヲ超エザルモノニ限ル

六　府縣ノ基金又ハ教育資金ヨリ借入ルル市町村債及市町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可ヲ得テ借入レタル府縣債ノ收入金ヨリ借入ルル當該市町村債ニ關スルコト

七　小學校舍ノ建築、增築、改築等ニ關スル費用、傳染病豫防費、急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル市町村債ニ關スルコト但シ小學校舍ノ爲ニスル市町村債ニシテ償還期限十年度ヲ超ユルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

八　借入ノ翌年度ニ於テ償還スル市町村債ニ關スルコト但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十條　市町村行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭グルモノハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　耕地整理ノ爲市町村ノ境界ヲ變更スルコト但シ關係アル市町村會ノ意見ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　所屬未定地ヲ市町村又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區域ニ編入スルコト但シ關係アル市町村會又ハ區會ノ意見ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三　公告式、印鑑、書類送達及建物證明、市町村ノ一部ノ區會又ハ區總會ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢スルコト

四　公會堂、公園、水族館、動物園、植物園、鑛泉、幼兒哺育場、商品陳列所、勸業館、農業倉庫、殺蛹乾燥場、種畜、牛馬種付所、斃獸解剖場、獸醫、上屋、荷揚場、貯木場、土砂採取場、石材採取場、動力農具ノ管理及使用竝ニ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢スルコト

五　延滯金、積立金穀等ニ關スル條例ヲ設ケ若ハ之ヲ改廢シ又ハ使用料、手數料、加入金、特別税及委員ニ關スル條例ヲ廢止スルコト

六　府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受クル市ニ於テ特別税特別地税又ハ大正十五年勅令第三百三十九號第十七條第一項ニ揭グル種類ト同種類ノ特別税ノ賦課ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト但シ特別税特別地税ニ付テハ大正十五年勅令第百四十三號ニ依リ府縣知事ニ於テ許可スル課税ノ限度ヲ超ユルモノ及新ニ漁業ニ對シ特別税ヲ賦課シ又ハ其ノ賦課率若ハ賦課方法ヲ變更スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

六ノ二　特別税戶數割ヲ新設シ、增額シ又ハ變更スルコト及之ニ關スル條例ヲ設ケ

又ハ改正スルコト

七　三年度ヲ超エザル繼續費ヲ定メ又ハ其ノ年期內ニ於テ之ヲ變更スルコト

八　繼續費ヲ減額スルコト

九　市町村債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減スルコト

十　市町村債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル市町村債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更スルコト

十一　市町村債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セズシテ低利借替ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル市町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十二　市町村債ノ償還年限ヲ延長セズシテ不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度內ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト

第八章　市制第六條ノ市ノ區

第六十一條　府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ新ニ區會ヲ設クルコトヲ得

第六十二條　區內ニ住所ヲ有スル市公民ハ總テ區會議員ノ選擧權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ市制第十一條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十三條　區會議員ノ選擧權ヲ有スル市公民ハ區會議員ノ被選擧權ヲ有ス

在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選擧權ヲ有セズ

選擧事務ニ關係アル官吏及市ノ有給吏員ハ其ノ關係區域內ニ於テ被選擧權ヲ有セズ

市ノ有給ノ吏員敎員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ其ノ所屬區ノ區會議員ト相兼ヌルコトヲ得ズ

第六十四條　區會議員ハ市ノ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生ジタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ム但シ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツベシ

前項但書ノ場合ニ於テ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ニ滿チザルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付區長抽籤シテ解任スベキ者ヲ定メ闕員ノ數解任ヲ要スル者ノ數ヲ超ユルトキハ解任ヲ要スル者ニ先ツベキ闕員ハ最モ先ニ闕員ト爲リタル者ヨリ順次之ニ充テ闕員ト爲リタル時同ジキトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生ジタル爲新ニ選擧セラレタル議員ハ總選擧ニ依リ選擧セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

第六十五條　區會ノ組織及區會議員ノ選擧ニ關シテハ前數條ニ定ムルモノノ外市制第十三條、第十七條及第二十條乃至第三十九條竝ニ本令第七條乃至第二十條ノ規定ヲ準用ス但シ市制第十三條第四項ノ規定ノ準用ニ依ル市條例ノ設定ニ付テハ市ハ區會ノ意見ヲ徵スベク、市制第三十二條及第三十四條ノ規定ノ準用ニ依ル報告ハ市長ヲ經テ之ヲ爲スベシ

第六十六條　第三章及第四章ノ規定ハ市制第三十九條ノ二ノ區ノ區會議員選擧ニ之ヲ準用ス

第六十七條　區會ノ職務權限ニ關シテハ市會ノ職務權限ニ關スル規定ヲ準用ス

區長ト區會トノ關係ニ付テハ市長ト市會トノ關係ニ關スル規定及市制第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第六十八條　區會ヲ設ケザル區ニ於テハ區會ノ職務ハ市會之ヲ行フ

第六十九條　市ハ區會ノ意見ヲ徵シ區ノ營造物ニ關シ市條例又ハ市規則ヲ設クルコトヲ得

市制第百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

區ハ前二項ノ市條例ノ定ムル所ニ依リ區ノ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ過料ヲ科スルコトヲ得

第七十條　區ハ其ノ財產及營造物ニ關シ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

前項ノ支出ハ區ノ財產ヨリ生ズル收入、使用料其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキハ市ハ其ノ區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツベシ

前項ノ市稅ニ付市會ノ議決スベキ事項ハ區會之ヲ議決ス但シ市ノ定メタル制限ヲ超ユルコトヲ得ズ

市制第九十八條第四項ノ規定ニ依リ市ノ負擔スル費用ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第七十一條　前數條ニ定ムルモノノ外區ニ關シテハ市制第百十四條、第百十五條、第百三十條第二項乃至第六項、第百三十一條第一項、第二項、第四項乃至第八項及第百三十三條乃至第百四十三條竝ニ本令第一條乃至第四條ノ規定ヲ準用ス但シ第百三十條第三項中市參事會トアルハ區會、第百四十一條第二項中名譽職參事會員トアルハ區會議員トス

前項ノ規定ニ依リ市制第百三十一條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ市ハ區會ノ意見ヲ徵シ市條例ヲ定メ區ヲシテ手數料ヲ徵收セシムルコトヲ得

第七十二條　區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章　雜則

第七十三條　市町村組合又ハ町村組合ニ關シテハ第一條乃至第四條ノ規定ニ拘ラズ組合規約ニ於テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十四條　本令中府縣、府縣知事又ハ府縣參事會ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官又ハ北海道參事會ニ、本令第一章中町村長又ハ町村條例ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ各町村長又ハ町村條例ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令中公民權及議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年勅令第二百四十號
明治四十四年勅令第二百四十一號
明治四十四年勅令第二百四十四號
明治四十四年勅令第二百四十五號
明治四十四年勅令第二百四十八號
大正九年勅令第百六十八號
大正十年勅令第四百十二號

從前ノ規定ニ依ル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

大正十年勅令第四百十二號第二條ノ規定ニ依リ爲シタル許可ノ申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ許可ヲ得ザルモノハ之ヲ本令第五十九條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル許可ノ申請ト看做ス

大正十五年市制中改正法律又ハ同年町村制中改正法律中選擧ニ關スル規定ノ施行セラレタル市町村及未ダ施行セラレザル市町村ノ區域ノ境界ニ涉リ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ右選擧ニ關スル規定ノ施行セラレザリシ市町村ノ區域ニ屬シタル地域ニ關シ必要ナル選擧人名簿ハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長之ヲ調製スベシ、此ノ場合ニ於テハ大正十五年市制中改正法律附則第二項又ハ同年町村制中改正法律附則第四項ノ例ニ依ル

明治四十四年勅令第二百四十五號第四條又ハ大正九年勅令第百六十八號第四條ノ規定ニ依リ爲シタル決定又ハ裁決ニ對スル訴願又ハ訴訟ノ提起期間ハ決定又ハ裁決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

從前市町村長ニ爲シタル申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ市參事會又ハ町村會ノ決定ニ付セラレザルモノニ付テハ第五十七條第二項ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

從前市參事會若ハ町村會ノ決定ニ付セラレタル申請又ハ府縣參事會ニ於テ受理シタル訴願ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ決定又ハ裁決ナキモノニ付テハ第三十六條第三項竝ニ第五十七條第二項及第六項ノ期間ハ同年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

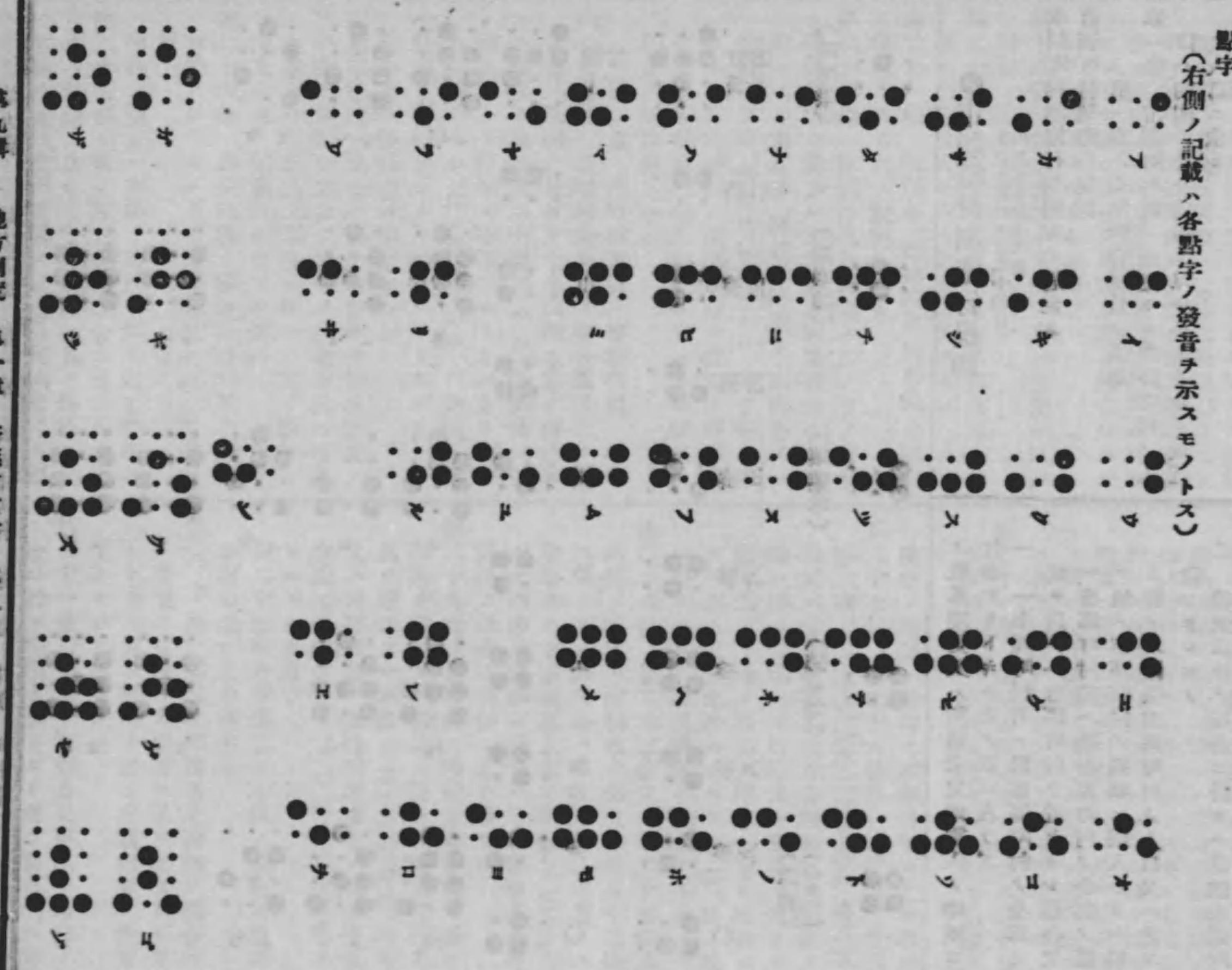
本令ニ依リ初メテ區會議員ヲ選擧スル場合ニ於テ必要ナル選擧人名簿ニ關シ市制第二十一條乃至第二十一條ノ五ノ規定ノ準用ニ依ル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス

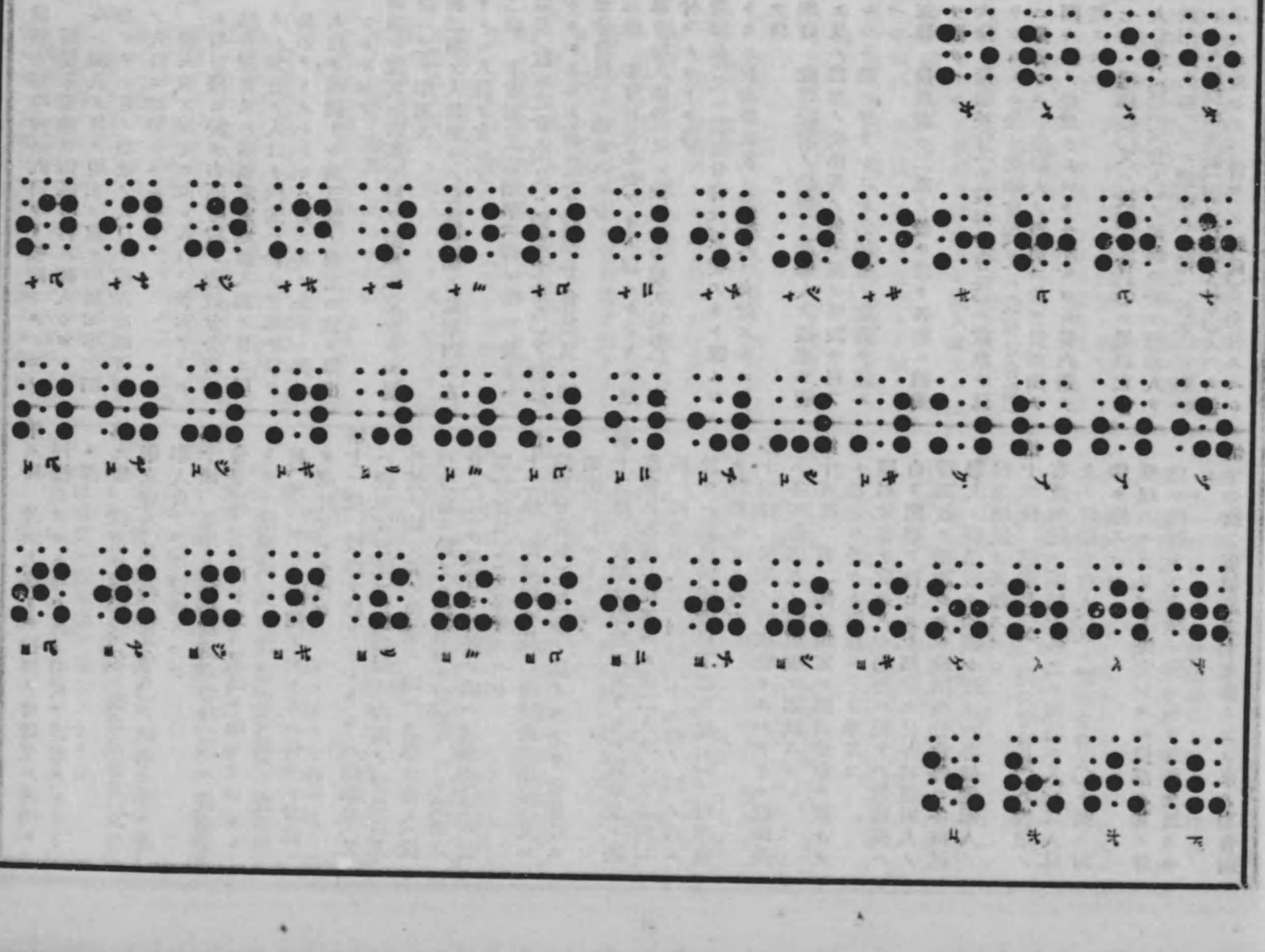
本令中公民權及議員選擧ニ關スル規定施行ノ際大正十五年府縣制中改正法律中議員選擧ニ關スル規定若ハ同年市制中改正法律中公民權及議員選擧ニ關スル規定又ハ同年勅令第三號衆議院議員選擧法施行令未ダ施行セラレザル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ同規定又ハ同令ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

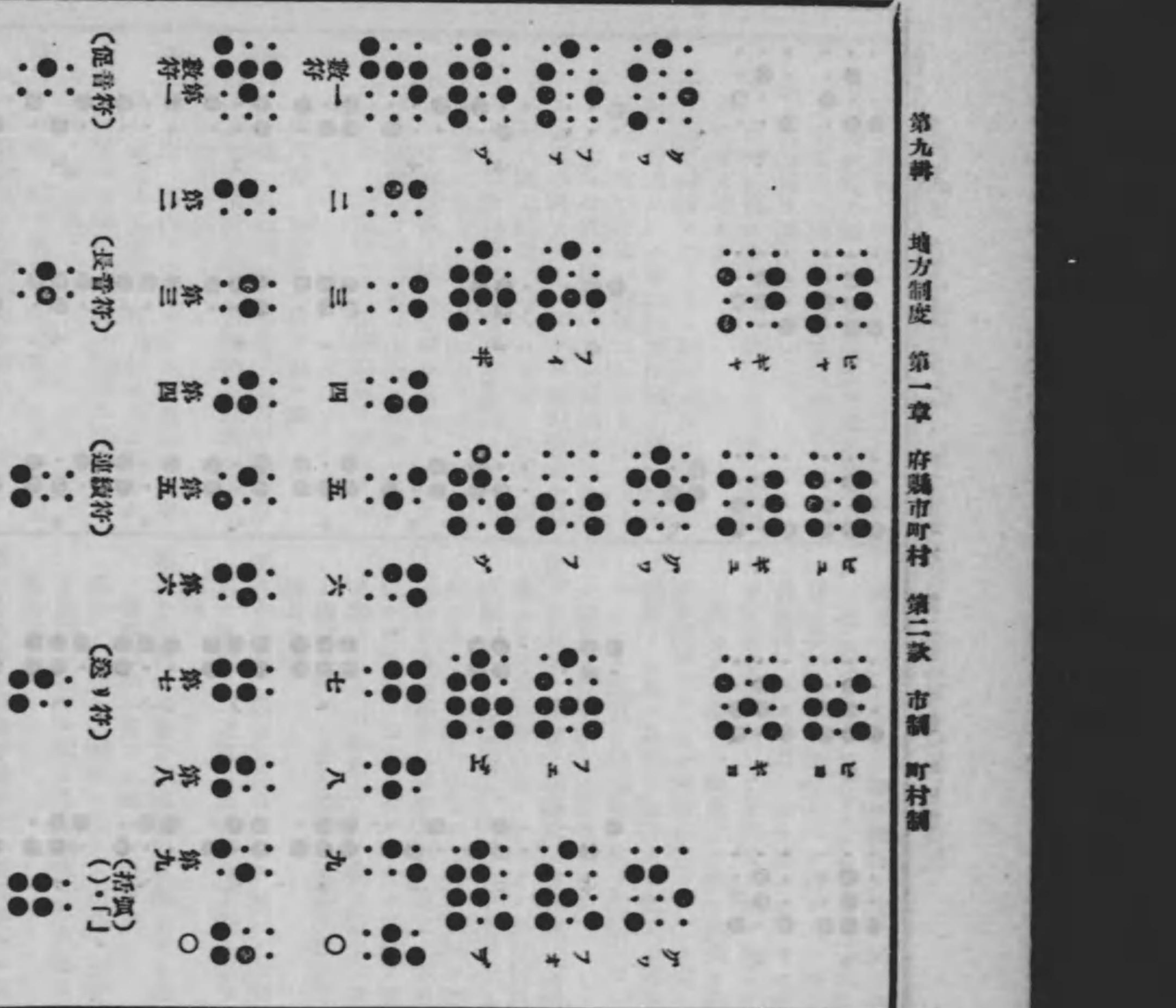
別表

點字

（右側ノ記載ハ各點字ノ發音ヲ示スモノトス）







●市制町村制施行規則

（大正十五年六月二十四日內務省令第十九號）

市制町村制施行規則左ノ通定ム

市制町村制施行規則

第一章　市町村會議員ノ選擧

第一條　市制町村制ニ規定セル市區町村ノ人口ハ內閣ニ於テ官報ヲ以テ公示シタル最近ノ人口ニ依ル

前項公示ノ人口現在ノ日以後ニ於テ市區町村ノ廢置分合、境界變更ヲ爲シ又ハ所屬未定地ヲ市區町村ノ區域ニ編入シタルトキハ關係市區町村ノ人口ハ左ノ區別ニ依リ府縣知事ノ告示シタル人口ニ依ル但シ市區町村ノ境界變更又ハ所屬未定地編入ノ地域ニ現住者ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　一市區町村若ハ數市區町村ノ全部ノ區域ヲ以テ一市區町村ヲ置キタル場合又ハ一市區町村若ハ數市區町村ノ全部ノ區域ヲ他ノ市區町村ノ區域ニ編入シタル場合ニ於テハ關係市區町村ノ人口又ハ之ヲ集計シタルモノ

二　前號以外ノ場合ニ於テハ當該市區町村ノ人口ヲ廢置分合又ハ境界變更アリタル日ノ現在ニ依リ府縣知事ノ調査シタル人口ニ按分シテ算出シタル當該地域ノ人口又ハ其ノ人口ヲ集計シタルモノ又ハ其ノ人口ヲ關係市區町村ノ人口ニ加算シ若ハ關係市區町村ノ人口ヨリ控除シタルモノ

三　所屬未定地ヲ市區町村ニ編入シタルトキハ編入ノ日ノ現在ニ依リ府縣知事ノ調査シタル其ノ地域ノ人口ヲ關係市區町村ノ人口ニ加算シタルモノ

四　前三號ノ規定ニ依ル人口ノ告示アリタル日以後ニ於テ市區町村ノ廢置分合若ハ境界變更又ハ所屬未定地編入前ノ日ニ屬スル最近ノ人口ヲ內閣ニ於テ官報ヲ以テ公示アリタルトキハ更ニ其ノ公示ニ係ル人口ヲ基礎トシ前三號ノ規定ニ依リ算出シタルモノ

前項ノ規定ハ市區町村ノ境界確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ人口中ニハ部隊艦船及監獄內ニ在リタル人員ヲ含マズ

第二條　市町村長（市制第六條ノ市ニ於テハ區長）投票立會人（又ハ開票立會人）ヲ選任シタルトキハ直ニ之ヲ投票分會長（又ハ開票分會長）ニ通知スベシ

第三條　市町村長必要アリト認ムルトキハ選擧會場入場券（又ハ投票分會場入場券）ヲ交付スルコトヲ得

選擧長（又ハ投票分會長）必要アリト認ムルトキハ到著番號札ヲ選擧人ニ交付スルコトヲ得

第四條　投票記載ノ場所ハ選擧人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト能ハザラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スベシ

第五條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クベシ

第六條　選擧長（又ハ投票分會長）ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ選擧會場（又ハ投票分會場）ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖スベシ

第七條　選擧長（又ハ投票分會長）ハ選擧立會人（又ハ投票立會人）ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿（又ハ選擧人名簿ノ抄本）ニ對照シタル後投票用紙（假ニ投票ヲ爲サシムベキ選擧人ニ對シテハ併セテ封筒）ヲ交付スベシ

第八條　選擧人誤リテ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第九條　投票ハ選擧長（又ハ投票分會長）及選擧立會人（又ハ投票立會人）ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投函スベシ

第十條　選擧人投票前選擧會場（又ハ投票分會場）外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ選擧長（又ハ投票分會長）ハ投票用紙（交付シタル封筒アルトキハ併セテ封筒）ヲ返付セシムベシ

第十一條　投票ヲ終リタルトキハ選擧長（又ハ投票分會長）ハ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ內蓋ノ鑰ハ選擧立會人（投票分會ニ於テハ投票函ヲ送致スベキ投票立會人）之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ選擧長（又ハ投票分會長）之ヲ保管スベシ

第十二條　投票函ハ其ノ閉鎖後選擧長（又ハ開票分會長）ニ送致ノ爲ノ外之ヲ會場外ニ搬出スルコトヲ得ズ

第十三條　投票ヲ點檢スルトキハ選擧長ハ選擧會ノ事務ニ從事スル者二人ヲシテ各別ニ同一被選擧人（市制第三十九條ノ二ノ市ニ於テハ議員候補者以下之ニ同ジ）ノ得票數ヲ計算セシムベシ

第十四條　前條ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀スベシ

第十五條　前二條ノ規定ハ開票分會ヲ設ケタル場合ニ於ケル開票ニ之ヲ準用ス

開票分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ選擧長ハ自ラ開票ヲ行ヒタル部分ニ付各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シタル後開票分會毎ニ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各被選擧人ノ得票總數ヲ朗讀スベシ

第十六條　選擧長（又ハ開票分會長）ハ投票ノ有效無效ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ二人以上ノ選擧立會人（又ハ開票立會人）ト共ニ封印ヲ施スベシ

受理スベカラズト決定シタル投票ハ其ノ封筒ヲ開披セズ前項ノ例ニ依リ封印ヲ施スベシ

第十七條　市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員選擧ニ付テハ府縣制施行規則第五條、第七條乃至第九條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第十八條　市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員選擧ニ付開票分會ヲ設ケタルトキハ選擧長ハ豫メ議員候補者ノ氏名、職業、住所、生年月日其ノ他必要ナル事項ヲ當該開票分會長ニ通知スベシ、議員候補者議員候補者タルコトヲ辭シタルトキ又ハ其ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキ亦同ジ

第十九條　點字投票ナル旨ノ印ハ投票用紙及封筒ノ表面ニ之ヲ押捺スベシ

第二十條　市町村會議員選擧人名簿及其ノ抄本ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二十一條　選擧錄、投票錄及開票錄ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第二十二條　市制第三十九條ノ二ノ市ノ市會議員選擧ニ關スル立會人ノ屆出書及之ニ添附スベキ承諾書、議員候補者ノ屆出書又ハ推薦屆出書、議員候補者タルコトヲ辭スルコトノ屆出書並ニ選擧運動ノ費用ノ精算屆書ハ府縣制施行規則別記ニ定ムル各樣式ニ準ジ之ヲ調製スベシ

第二章　市町村吏員ノ事務引繼

第二十三條　市町村長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼グベシ、後任者ニ引繼グコトヲ得ザル事情アルトキハ之ヲ助役ニ引繼グベシ、此ノ場合ニ於テハ助役ハ後任者ニ引繼グコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ後任者ニ引繼グベシ

前項引繼ノ場合ニ於テハ書類帳簿及財產ノ目錄ヲ調製シ處分未濟若ハ未著手又ハ將來企畫スベキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序方法及意見ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條　助役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ市町村長ニ引繼グベシ

前條ノ規定ハ前項ノ事務引繼ニ之ヲ準用ス

第二十五條　收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以內ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼グベシ、後任者ニ引繼グコトヲ得ザル事情アルトキハ之ヲ副收入役又ハ收入役代理者ニ引繼グベシ、此ノ場合ニ於テハ副收入役又ハ收入役代理者ハ後任者ニ引繼グコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ後任者ニ引繼グベシ

前項引繼ノ場合ニ於テハ現金書類帳簿其ノ他ノ物件ニ付テハ各目錄ヲ調製シ仍現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添附シ帳簿ニ付テハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者之ニ連署スベシ

第二十六條　副收入役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ收入役ニ引繼グベシ

前條ノ規定ハ前項ノ事務引繼ニ之ヲ準用ス

第二十七條　第二十三條第二項、第二十四條第二項、第二十五條第二項及前條第二項ノ規定ニ依リ調製スベキ書類帳簿及財產ノ目錄ハ現ニ設備セル目錄又ハ臺帳ニ依リテ引繼ヲ爲ストキハ其ノ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ以テ充用スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ其ノ旨引繼書ニ記載スベシ

第二十八條　第二十三條又ハ第二十五條乃至前條ノ規定ハ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長若ハ區收入役ノ更迭又ハ分掌事務アル區副收入役ノ退職ノ場合ニ、第二十四條及前條ノ規定ハ分掌事務アル町村區長ノ退職ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　市町村ノ廢置分合ニ依リ新ニ市町村ヲ置キタル場合ニ於テハ前市町村ノ吏員ノ擔任スル事務ハ之ヲ市町村長、收入役又ハ市町村長ノ臨時代理者若ハ職務管掌ノ官吏ニ引繼グベシ、市町村ノ境界變更アリタルトキ亦同ジ

第二十三條乃至第二十七條ノ規定ハ前項ノ事務引繼ニ之ヲ準用ス

第三十條　第二十三條乃至前條ノ場合ニ於テ所定ノ期間內ニ引繼ヲ了スルコトヲ得ザルトキハ其ノ事由ヲ具シ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ

第三十一條　第二十三條乃至第二十九條ノ場合ニ於テ引繼ヲ拒ミタル者ニ對シテハ府縣知事ハ二十五圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得、其ノ故ナク引繼ヲ遷延シタルガ爲市町村長ニ於テ期日ヲ指定シテ催告ヲ爲シ仍之ニ應セザル者ニ付亦同ジ

第三十二條　第二十三條乃至前條ニ規定スルモノノ外市町村吏員ノ事務引繼ニ關シ必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

第三章　市町村ノ財務

第三十三條　市町村稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ豫算ニ編入スベシ

第三十四條　各年度ニ於テ決定シタル歲入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ歲出ニ充ツルコトヲ得ズ

第三十五條　歲入ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　定期ニ賦課スルコトヲ得ザルガ爲特ニ納期ヲ定メタル收入又ハ隨時ノ收入ニシテ徵稅令書、賦課令書又ハ納額告知書ヲ發スルモノハ令書又ハ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ徵稅令書、賦課令書又ハ納額告知書ヲ發セザルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ市町村債、交付金、補助金、寄附金、請負金、償還金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ收入ヲ豫算シタル年度ノ出納閉鎖前ニ領收シタルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度

第三十六條　歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一　費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料、其ノ他ノ給與、傭人料ノ類ハ其ノ支給スベキ事實ノ生ジタル時ノ屬スル年度但シ別ニ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二　通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三　市町村債ノ元利金ニシテ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

四　補助金、寄附金、負擔金ノ類ハ其ノ支拂ヲ豫算シタル年度

五　缺損補塡ハ其ノ補塡ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

六　前各號ニ揭ゲルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三十七條　各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スベシ但シ市町村條例ノ規定又ハ市町村會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財產ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セズ之ガ支出ヲ爲スコトヲ得

第三十八條　市町村稅ハ徵稅令書ニ依リ夫役現品ハ賦課令書ニ依リ負擔金、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金及物件ノ賃貸料ノ類ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徵收シ其ノ他ノ收入ハ納付書ニ依リ收入スベシ但シ市制町村制施行令第五十三條ノ規定ニ依リ徵收スル市町村稅及急迫ノ場合ニ賦課スル夫役並ニ納額告知書又ハ納付書ニ依リ難キモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條　支出ハ債主ニ對スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十條　左ノ經費ニ付テハ市町村吏員ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該吏員ニ前渡スルコトヲ得

一　市町村債ノ元利支拂

二　外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲必要ナル經費

三　市町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

特別ノ必要アルトキハ前項ノ資金前渡ハ市町村吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　旅費及訴訟費用ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　前二條ニ揭ゲルモノノ外必要アルトキハ市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ資金前渡又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

第四十三條　前金支拂ニ非ザレバ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ付テハ前金拂ヲ

爲スコトヲ得

第四十四條　歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フベシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、資金前渡、概算拂、前金拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スベシ

第四十五條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スベシ前條ノ拂戻金戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同ジ

第四十六條　繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄逓次繰越使用スルコトヲ得

第四十七條　歳入歳出豫算ハ必要アルトキハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ別ツベシ

歳入歳出豫算ハ之ヲ款項ニ區分スベシ

第四十八條　歳入歳出豫算ニハ豫算說明ヲ附スベシ

第四十九條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スベシ

第五十條　市町村歳入歳出豫算ハ別記市町村歳入歳出豫算樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第五十一條　繼續費ノ年期及支出方法ハ別記繼續費ノ年期及支出方法樣式ニ依リ之ヲ調製スベシ

第五十二條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十三條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ズ

豫算各項ノ金額ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第五十四條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ附スベシ

第五十五條　會計年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラザルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ翌年度ノ歳入ヲ繰上ゲ之ニ充用スルコトヲ得

第五十六條　市ハ其ノ歳入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第五十七條　市町村ハ現金ノ出納及保管ノ爲市町村金庫ヲ置クコトヲ得

第五十八條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムベキ銀行ハ市町村會ノ議決ヲ經テ市町村長之ヲ定ム

第五十九條　金庫ハ收入役ノ通知アルニ非ザレバ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付市町村ニ對シテ責任ヲ有ス

第六十一條　市町村ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ヨリ擔保ヲ徵スベシ、其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ市町村會ノ議決ヲ經テ市町村長之ヲ定ム

第六十二條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ノ保管スル現金ハ市町村ノ歳入歳出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ゲナキ限度ニ於テ市町村ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市町村ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ市町村ニ納付スベシ

第六十三條　收入役ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金帳簿ヲ檢査スベシ

第六十四條　市町村ハ收入役ヲシテ其ノ保管ニ屬スル市町村歳計現金ヲ郵便官署又ハ銀行若ハ信用組合ニ預入セシムルコトヲ得

前項ノ銀行及信用組合ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十五條　第三十三條乃至前條ニ規定スルモノノ外市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條　第三十三條乃至第五十五條及前條ノ規定ハ市町村ノ一部ニ之ヲ準用ス

第四章　市制第六條ノ市ノ區

第六十七條　第二條乃至第十六條及第十九條乃至第二十一條ノ規定ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會議員選擧ニ、第十七條、第十八條及第二十二條ノ規定ハ市制第三十九條ノ二ノ區ノ區會議員選擧ニ之ヲ準用ス

第六十八條　第三十三條乃至第六十五條ノ規定ハ市制第六條ノ市ノ區ニ之ヲ準用ス

附則

本令中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ、財務ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ内務省令ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年内務省令第十五號
明治四十四年内務省令第十七號
大正元年内務省令第十八號
大正三年内務省令第九號

從前ノ規定ニ依ル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

從前ノ規定ニ依リ郡長ニ爲シタル許可ノ申請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ許可ヲ得ザルモノハ之ヲ新規定ニ依リ府縣知事ニ爲シタル許可ノ申請ト看做ス

本令中議員選擧ニ關スル規定施行ノ際府縣制施行規則中議員選擧ニ關スル規定未ダ施行セラレザル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ同規定ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

（別記）

市町村會議員選擧人名簿樣式

番號	住所	生年月日	氏名
＝	＝	＝	＝
番號	住所	生年月日	氏名

備考

一　名簿ハ大字若ハ小字毎ニ區別シテ調製スベシ但シ一字若ハ數字毎ニ分綴スルモ妨ゲナシ

二　市制第九條第二項又ハ町村制第七條第二項ニ依ル者ニ付テハ氏名欄ニ「特免」ト附記シ又市制第七十六條、第七十九條第二項又ハ町村制第六十三條第四項、第六十七條第三項ノ規定ニ依リ公民タル者ニ付テハ末尾ニ其ノ職氏名ノミヲ記載スベシ

三　決定、裁決、判決等ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ旨及修正ノ年月日ヲ欄外ニ記載シ職印ヲ押捺スベシ

四　名簿ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スベシ

五　選擧區アルトキハ前各號ニ準ジ各選擧區毎ニ名簿ヲ調製スベシ

（表紙）

大正何年何月何日現在調
市（町）（村）會議員選擧人名簿
何府（縣）何市（何選擧區）（何郡何町（村））（大字若ハ小字何々）

（卷末）

此ノ選擧人名簿ハ大正何年何月何日ヨリ何日間何市役所（何町（村）役場）（何ノ場所）ニ於テ縱覽セシメ大正何年何月何日ヲ以テ確定セリ

何府（縣）何市（何郡何町（村））長　氏　名印

市町村會議員選擧人名簿抄本樣式

番號	住所	生年月日	氏名
＝	＝	＝	＝
番號	住所	生年月日	氏名

備考

一　選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ此ノ選擧人名簿ノ抄本ヲモ修正シ其ノ旨及修正ノ年月日ヲ欄外ニ記載シ職印ヲ押捺スベシ

二　名簿抄本ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スベシ

（表紙）

大正何年何月何日現在調
市（町）（村）會議員選擧人名簿抄本
何府（縣）何市（何選擧區）（何郡何町（村））會議員選擧第二（何々）投票分會

（卷末）

此ノ選擧人名簿抄本ハ大正何年何月何日確定ノ選擧人名簿ニ依リ之ヲ調製セリ

何府（縣）何市（何郡何町（村））長　氏　名印

選擧錄樣式

大正何年何月何日執行何府（縣）何市（何郡何町（村））會議員選擧會選擧錄

一　選擧會ハ何市役所（何町（村）役場）（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧會ヲ開クベキ時刻迄ニ選擧會ニ參會シタリ

住所　氏　名
住所　氏　名

選擧會ヲ開クベキ時刻ニ至リ選擧立會人中何人參會セザルニ依リ市（町）（村）長ハ臨時ニ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住所　氏　名

三　選擧會ハ大正何年何月何日午前（午後）何時ニ之ヲ開キタリ

四　選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕キタルニ依リ市（町）（村）長ハ臨時ニ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前（午後）何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住所　氏　名

選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙選擧立會人ハ二人（三人）在リ其ノ闕員ヲ補フノ必要ナキヲ認メ其ノ補闕ヲ爲サザル旨ヲ宣言シタリ

五　選擧長ハ選擧立會人ト共ニ投票ニ先チ選擧會ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖シ選擧長及選擧立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六　選擧長ハ選擧立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿ニ對照シタル後（到著番號札ト引換ニ）投票用紙ヲ交付シタリ

七　選擧人ハ自ラ投票ヲ認メ選擧長及選擧立會人ノ面前ニ於テ之ヲ投函シタリ

八　左ノ選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄セラルベキ確定裁決書（判決書）ヲ所持シ選擧會場ニ到リタルニ依リ選擧長ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏　名

九　左ノ選擧人ハ點字ニ依リ投票ヲ爲サントスル旨ヲ申立テタルヲ以テ選擧長ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏　名

十　左ノ選擧人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ選擧立會人ノ決定ヲ以テ（選擧立會人可否同數ナルニ依リ選擧長ノ決定ヲ以テ）投票ヲ拒否シタリ

住所　氏　名

十一　左ノ選擧人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ選擧立會人ノ決定ヲ以テ（選擧立會人可否同數ナルニ依リ選擧長ノ決定ヲ以テ）點字投票ヲ拒否シタリ

住所　氏　名

十二　左ノ選擧人ハ誤リテ投票用紙（封筒）ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙（封筒）ヲ交付シタリ

住所　氏　名

十三　左ノ選擧人ハ選擧會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ（喧擾ニ渉リ）（投票ニ關シ協議ヲ爲シ）（何々ヲ爲シ）選擧會場ノ秩序ヲ紊シタルニ依リ選擧長ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハザルヲ以テ投票用紙（到著番號札）ヲ返付セシメ之ヲ選擧會場外ニ退出セシメタリ

住所　氏　名

十四　選擧長ハ選擧會場外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選擧人ニ對シ選擧會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏　名

選擧長ニ於テ選擧會場外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選擧人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シタリ

住所　氏　名

十五　午前（午後）何時ニ至リ選擧長ハ投票時間ヲ終リタル旨ヲ告ゲ選擧會場ノ入口ヲ鎖シタリ

十六　午前（午後）何時選擧會場ニ在ル選擧人ノ投票結了シタルヲ以テ選擧長ハ選擧立會人ト共ニ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十七　投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ內蓋ノ鑰ハ左ノ選擧立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ選擧長之ヲ保管ス

氏　名

十八　選擧會ニ於テ投票ヲ爲シタル選擧人ノ總數　何人

內

選擧人名簿ニ登錄セラレタル選擧人ニシテ投票ヲ爲シタル者　何人
確定裁決書（判決書）ニ依リ投票ヲ爲シタル者　何人
投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何人

十九　各投票分會長ヨリ投票函等左ノ如ク到著セリ

第一（何々）投票分會ノ投票函ハ投票分會長職氏名及投票立會人氏名携帶シ何月何日午前（午後）何時著之ヲ檢スルニ異狀ナシ

第二（何々）投票分會ノ投票函何々

二十　大正何年何月何日選擧長ハ（總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日（翌日））午前（午後）何時ヨリ開票ヲ開始シタリ

二十一　選擧長ハ選擧立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數　何票
投票人總數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人

投票總數ト投票人總數ト符合ス

（投票總數ト投票人總數ト符合セズ即チ投票總數ニ比シ何票多シ（少シ）（其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スベシ））

二十二　投票分會ニ於テ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住所　氏　名
住所　氏　名

選擧長ハ右ノ投票ヲ調査シ選擧立會人左ノ通之ヲ決定シタリ（選擧長ハ右ノ投票ヲ調査シ選擧立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ選擧長左ノ通之ヲ決定シタリ）

一事由何々　住所　氏　名
受理セシモノ
一事由何々　住所　氏　名
受理セザリシモノ

二十三　選擧長ハ（假ニ爲シタル投票ニシテ受理スベキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上）總テノ投

投票ヲ混同シ選擧立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ

二十四　選擧事務ニ從事スル職氏名及職氏名ノ二人ハ各別ニ同一被選擧人ノ得票數ヲ計算シタリ

二十五　有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ

（一）選擧立會人ニ於テ決定シタル投票數　何票

内

一　有效ト決定シタルモノ　何票

一　無效ト決定シタルモノ　何票

内

一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票

二　現ニ市（町（村））會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票

三　、、、、、、、　何票

（二）選擧立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ選擧長ニ於テ決定シタル投票數　何票

内

一　有效ト決定シタルモノ　何票

一　無效ト決定シタルモノ　何票

内

一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票

二　現ニ市（町（村））會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票

三　、、、、、、、　何票

（三）投票總數　何票

内

一　有效ト決定シタルモノ　何票

一　無效ト決定シタルモノ　何票

内

一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票

二　現ニ市（町（村））會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票

三　、、、、、、、　何票

二十六　午前（午後）何時投票ノ點檢ヲ終リタルヲ以テ選擧長ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シタリ

二十七　各被選擧人ノ得票數左ノ如シ

何票　氏名

何票　氏名

二十八　選擧長ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ選擧立會人ト共ニ封印ヲ施シタリ

二十九　選擧長ハ選擧立會人立會ノ上逐次開票分會長ノ報告ヲ調査シ自ラ開票ヲ行ヒタル部分ニ付各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シタル後開票分會毎ニ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シ終リニ各被選擧人ノ得票總數ヲ朗讀シタリ

三十　開票分會長ノ報告ノ結果ト選擧會ニ於テ爲シタル點檢ノ結果ト併セタル各被選擧人ノ得票總數左ノ如シ

何票　氏名

何票　氏名

三十一　議員定數何人ヲ以テ有效投票ノ總數何票ヲ除シテ得タル數ハ何票ニシテ此ノ六分ノ一ノ數ハ何票ナリ

被選擧人中其ノ得票數此ノ數ニ達スル者左ノ如シ

何票　氏名

何票　氏名

右ノ内有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何人ヲ以テ當選者トス

氏名

氏名

但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同ジキニ依リ其ノ年齡ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生、氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ（同年月日ナルヲ以テ選擧長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當籤セリ依テ氏名ヲ以テ當選者ト定メタリ）

三十二　午前（午後）何時選擧事務ヲ結了シタリ

三十三　左ノ者ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ

職　氏名

職　氏名

三十四　選擧會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏名

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正何年何月何日

選擧長

何府（縣）何市（何郡何町（村））長　氏名

選擧立會人　氏名

氏名

備考

一　市制第三十九條ノ二ノ市ニ於ケル選擧錄ハ府縣制施行規則第二十九條投票錄樣式及選擧錄樣式ノ一ノ例ニ依リ之ヲ記載スベシ

二　市制第三十九條ノ二ノ市ニ於テ屆出アリタル議員候補者ノ數選擧スベキ議員ノ數ヲ超エザル爲投票ヲ行ハザルトキハ府縣制施行規則第二十九條選擧錄樣式ノ二ノ例ニ依リ之ヲ記載スベシ

三　樣式ニ揭グル事項ノ外選擧長ニ於テ選擧ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

投票錄樣式

大正何年何月何日執行何府（縣）何市（何郡何町（村））會議員選擧第一（何々）投票分會投票錄

一　投票分會ハ何市役所（何町（村）役場）（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ投票立會人ハ何レモ投票分會ヲ開クベキ時刻迄ニ投票分會ニ參會シタリ

住所　氏名

住所　氏名

投票分會ヲ開クベキ時刻ニ至リ投票立會人中何人參會セザルニ依リ市（町）（村）長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

三　投票分會ハ大正何年何月何日午前（午後）何時ニ之ヲ開キタリ

四　投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕ギタルニ依リ市（町）（村）長ハ臨時ニ投票分會ノ區劃内ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前（午後）何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙投票立會人ハ二人（三人）在リ其ノ闕員ヲ補フノ必要ナキヲ認メ其ノ補闕ヲ爲サザル旨ヲ宣言シタリ

五　投票分會長ハ投票立會人ト共ニ投票ニ先チ投票分會ニ參會シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖シ投票分會長及投票立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六　投票分會長ハ投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲ選擧人名簿ノ抄本ニ對照シタル後（到著番號札ト引換ニ）投票用紙ヲ交付シタリ

七　選擧人ハ自ラ投票ヲ認メ投票分會長及投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ投函シタリ

八　左ノ選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄セラルベキ確定裁決書（判決書）ヲ所持シ投票分會場ニ到リタルニ依リ投票分會長ハ之ヲシテ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

九　左ノ選擧人ハ點字ニ依リ投票ヲ爲サントスル旨ヲ申立テタルヲ以テ投票分會長ハ投票用紙ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

十　左ノ選擧人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ（投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ）投票ヲ拒否シタリ

住所　氏名

左ノ選擧人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ（投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ）投票ヲ拒否シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ（投票分會長又ハ投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ）投票用紙ト共ニ封筒ヲ交付シ假ニ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

十一　左ノ選擧人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ（投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ）點字投票ヲ拒否シタリ

住所　氏名

左ノ選擧人ニ對シテハ何々ノ事由ニ因リ投票立會人ノ決定ヲ以テ（投票立會人可否同數ナルニ依リ投票分會長ノ決定ヲ以テ）投票ヲ拒否シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立テタルヲ以テ（投票分會長又ハ投票立會人氏名ニ於テ異議アリシヲ以テ）投票用紙及封筒ニ點字投票ナル旨ノ印ヲ押捺シテ交付シ假ニ點字投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

十二　左ノ選擧人ハ誤リテ投票用紙（封筒）ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙（封筒）ヲ交付シタリ

住所　氏名

十三　左ノ選擧人ハ投票分會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ（喧擾ニ渉リ）（投票ニ關シ協議ヲ爲シ）（何々ヲ爲シ）投票分會場ノ秩序ヲ紊シタルニ依リ投票分會長ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハザルヲ以テ投票用紙（投票用紙及封筒）（到著番號札）ヲ返付セシメ之ヲ投票分會場外ニ退出セシメタリ

住所　氏名

十四　投票分會長ハ投票分會場外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選擧人ニ對シ投票分會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認メ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

投票分會長ニ於テ投票分會場外ニ退出ヲ命ジタル左ノ選擧人ハ最後ニ入場シテ投票ヲ爲シタリ

住所　氏名

十五　午前（午後）何時ニ至リ投票分會長ハ投票時間ヲ終リタル旨ヲ告ゲ投票分會場ノ入口ヲ鎖シタリ

十六　午前（午後）何時投票分會場ニ在ル選擧人ノ投票結了シタルヲ以テ投票分會長ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十七　投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スベキ左ノ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票分會長之ヲ保管ス

氏名

十八　投票函及投票錄（選擧人名簿ノ抄本）ヲ選擧長（第一（何々）開票分會長）ニ送致スベキ投票立會人左ノ如シ

氏名

十九　投票分會場ニ於テ投票ヲ爲シタル選擧人ノ總數　何人

内

選擧人名簿ノ抄本ニ記載セラレタル選擧人ニシテ投票ヲ爲シタル者　何人

確定裁決書（判決書）ニ依リ投票ヲ爲シタル者　何人

投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何人

内

假ニ投票ヲ爲サシメタル者　何人

二十　午前（午後）何時投票分會ノ事務ヲ結了シタリ

二十一　左ノ者ハ投票分會ノ事務ニ從事シタリ

職　氏名

職　氏名

二十二　投票分會場ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏名

投票分會長ハ此ノ投票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正何年何月何日

投票分會長　職　氏名

投票立會人　氏名

氏名

備考

一　市制第三十九條ノ二ノ市ニ於ケル投票錄ハ府縣制施行規則第二十九條投票錄樣式ノ例ニ依リ之ヲ記載スベシ

二　樣式ニ揭グル事項ノ外投票分會長ニ於テ投票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

開票錄樣式

大正何年何月何日執行何府（縣）何市（何郡何町（村））會議員選擧第一（何々）開票分會開票錄

一　開票分會ハ何市役所（何町（村）役場）（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ開票立會人ハ何レモ開票分會ヲ開クベキ時刻迄ニ開票分會ニ參會シタリ

住所　氏名

住所　氏名

開票分會ヲ開クベキ時刻ニ至リ開票立會人中何人參會セザルニ依リ市（町）（村）長ハ臨時ニ開票分會ノ區劃内ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

三　開票分會ハ大正何年何月何日午前（午後）何時ニ之ヲ開キタリ

四　開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ闕ギタルニ依リ市（町）（村）長ハ臨時ニ開票分會ノ區劃内ニ於ケル選擧人名簿ニ登錄セラレタル者ノ中ヨリ午前（午後）何時左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前（午後）何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタルモ尙開票立會人ハ二人（三人）在リ其ノ闕員ヲ補フノ必要ナキ

テ認メ其ノ補闕ヲ爲サザル旨ヲ宣言シタリ

五　開票分會ノ區劃内ノ各投票分會長ヨリ投票函等左ノ如ク到著セリ

第一（何々）投票分會ノ投票函ハ投票分會長職氏名及投票立會人氏名携帶シ何月何日午前（午後）何時著之ヲ檢スルニ異狀ナシ

第二（何々）投票分會ノ投票函何々

六　大正何年何月何日開票分會長ハ開票分會ノ區劃内ノ投票分會長ヨリ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ當日（翌日）午前（午後）何時ヨリ開票ヲ開始シタリ

七　開票分會長ハ開票立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數　何票
投票人總數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人

投票總數ト投票人總數ト符合ス（投票總數ト投票人總數ト符合セズ即チ投票總數ニ比シ何票多シ（少シ）（其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スベシ））

投票分會ニ於テ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住所氏名
住所氏名

八　開票分會長ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人左ノ通之ヲ決定シタリ（開票分會長ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ開票分會長左ノ通之ヲ決定シタリ）

受理セシモノ
一事由何々　住所氏名
一事由何々　住所氏名
受理セザリシモノ
一事由何々　住所氏名
一事由何々　住所氏名

九　開票分會長ハ（假ニ爲シタル投票ニシテ受理スベキモノト決定シタル投票ノ封筒ヲ開披シタル上）總テノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ之ヲ點檢シタリ

十　開票事務ニ從事スル職氏名及職氏名ノ二人ハ各別ニ同一被選擧人ノ得票數ヲ計算シタリ

十一　有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ

（一）開票立會人ニ於テ決定シタル投票數　何票
内
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
内
一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票
二　現ニ市（町（村））會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三　、、、、、、、　何票

（二）開票立會人ノ決定ニ付シタルニ可否同數ナルニ依リ開票分會長ニ於テ決定シタル投票數　何票
内
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
内
一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票
二　現ニ市（町（村））會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三　、、、、、、、　何票

（三）投票總數　何票
内
一有效ト決定シタルモノ　何票
一無效ト決定シタルモノ　何票
内
一　成規ノ用紙ヲ用ヒザルモノ　何票
二　現ニ市（町（村））會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ　何票
三　、、、、、、、　何票

十二　午前（午後）何時投票ノ點檢ヲ終リタルヲ以テ開票分會長ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シタリ

十三　各被選擧人ノ得票數左ノ如シ

何票　氏名
何票　氏名

十四　開票分會長ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在リテハ之ヲ類別シ各之ヲ一括シ更ニ有效無效及受理スベカラズト決定シタル投票別ニ之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ封印ヲ施シタリ

十五　午前（午後）何時開票分會ノ事務ヲ結了シタリ

十六　左ノ者ハ開票分會ノ事務ニ從事シタリ

職氏名
職氏名

十七　開票分會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職氏名

開票分會長ハ此ノ開票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ玆ニ署名ス

大正何年何月何日
開票分會長　職氏名
開票立會人　氏名
　氏名

備考

一　市制第三十九條ノ二ノ市ニ於ケル開票錄ハ府縣制施行規則第二十九條開票錄樣式ノ例ニ依リ之ヲ記載スベシ

二　樣式ニ揭グル事項ノ外開票分會長ニ於テ開票ニ關シ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スベシ

市町村歲入歲出豫算樣式

大正何年度何府（縣）何市（何郡何町（村））歲入歲出豫算

歲入
一金　歲入豫算高
又ハ
一金　經常部豫算高
一金　臨時部豫算高
合計金

歲出
一金　歲出豫算高
又ハ
一金　經常部豫算高
一金　臨時部豫算高
合計金

歲入歲出差引
殘金（ナシ）

歲計剩餘金ヲ翌年度ニ繰越サズシテ基本財産ニ編入セントスル場合ニハ左ノ通記載スベシ

歲計剩餘金ハ全部基本財産ニ編入
又ハ
歲計剩餘金ノ内何步基本財産ニ編入

大正何年度何府（縣）何市（何郡何町（村））歲入歲出豫算

歲入

豫算			豫算説明				
科目 款	科目 項	豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減	附記
一 財産ヨリ生ズル收入		圓		圓	圓	圓	
	一 基本財産收入						
			一 何々				
			二 何々				
	二 小學校（何學校）基本財産收入						
			一 何々				
			二 何々				
	三 何々						
			一 何々				
			二 何々				
二 使用料及手數料							
	一 使用料						
			一 何々				
			二 何々				
	二 手數料						
			一 何々				
			二 何々				
三 交付金							
	一 國稅徵收交付金						
			一 何々				
	二 府（縣）稅徵收交付金						
			一 何々				
	三 水利組合費徵收交付金						
			一 何々				
	四 何々						
			一 何々				
四 國庫下渡金							
	一 義務教育費下渡金						
			一 何々				
五 納付金							
	一 納付金						
			一 何々				
六 報償金							
	一 報償金						
			一 何々				
七 國庫補助金							
	一 水道費補助						
			一 何々				
	二 下水道費補助						
			一 何々				
	三 何々						
			一 何々				
八 府（縣）補助金							
	一 傳染病豫防費補助						
			一 何々				
	二 道路費補助						
			一 何々				

	三 何々	
		一 何々
九 寄附金		
	一 小學校（何學校）建築費指定寄附	
		一 何々
	二 道路修繕費指定寄附	
		一 何々
	三 何々	
		一 何々
十 繰入金		
	一 小學校（何學校）積立金繰入	
		一 何々
	二 基本財産繰入	
		一 何々
	三 水道經濟ヨリ繰入	
		一 何々
	四 何々	
		一 何々
十一 財産賣拂代金		
	一 土地賣拂代金	
		一 何々
	二 物件賣拂代金	
		一 何々
	三 何々	
		一 何々

十二 繰越金		
	一 前年度繰越金	
		一 何々
十三 雜收入		
	一 小學校（何學校）雜入	
		一 何々
		二 何々
	二 繰替金戻入	
		一 何々
		二 何々
	三 何々	
		一 何々
		二 何々
十四 市（町）（村）税		
	一 地租附加税	
		一 何々
	二 特別地税附加税（特別地税）	
		一 何々
	三 營業收益税府加税	
		一 何々
	四 所得税附加税	
		一 何々
	五 鑛業税附加税	
		一 何々
	六 砂鑛區税附加税	

		一 何々
	七 取引所營業税附加税	
		一 何々
	八 府（縣）税家屋税附加税	
		一 何々
	九 府（縣）税營業税附加税	
		一 何々
	十 府（縣）税雜種税附加税	
		一 何々
	十一 特別税戸數割	
		一 何々
	十二 特別税段別割	
		一 何々
	十三 特別税戸別割	
		一 何々
	十四 特別税何々	
		一 何々
十五 夫役及現品		
	一 夫役	
		一 何々
	二 現品	
		一 何々
十六 市（町）（村）債		
	一 市（町）（村）債	
		一 何々
		二 何々

歳入合計

歳出

經常部

豫算　豫算説明

科目		豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減	附記
款	項						
一 神社費		圓		圓	圓	圓	
	一 神饌幣帛料						
			一 何々				
			二 何々				
二 會議費							
	一 費用辨償						
			一 何々				
	二 給料						
			一 何々				
	三 雜給						
			一 何々				
			二 何々				
	四 需用費						
			一 何々				
			二 何々				
三 役所（役場）費							
	一 報酬						
			一 何々				
			二 何々				
	二 給料						

		一何々
		二何々
	三雑給	
		一何々
		二何々
	四需用費	
		一何々
		二何々
	五修繕費	
		一何々
		二何々
四土木費		
	一道路橋梁費	
		一何々
		二何々
	二治水堤防費	
		一何々
		二何々
	三用惡水路費	
		一何々
		二何々
	四何々	
		一何々
		二何々
五小學校（何學校）費		
	一給料	

		一何々
		二何々
	二雑給	
		一何々
		二何々
	三需用費	
		一何々
		二何々
	四修繕費	
		一何々
		二何々
	五何々	
		一何々
		二何々
六學事諸費		
	一何々	
		一何々
七傳染病豫防費		
	一給料	
		一何々
		二何々
	二雑給	
		一何々
		二何々
	三需用費	
		一何々

		二何々
八傳染病院（隔離病舍）費		
	一給料	
		一何々
		二何々
	二雑給	
		一何々
		二何々
	三需用費	
		一何々
		二何々
	四修繕費	
		一何々
		二何々
九汚物掃除費		
	一雑給	
		一何々
		二何々
	二需用費	
		一何々
		二何々
	三設備費	
		一何々
		二何々
十病院（何病院）費		
	一給料	

		一何々
		二何々
	二雑給	
		一何々
		二何々
	三需用費	
		一何々
		二何々
	四修繕費	
		一何々
		二何々
十一水道費		
	一給料	
		一何々
		二何々
	二雑給	
		一何々
		二何々
	三需用費	
		一何々
		二何々
	四作業費	
		一何々
		二何々
	五修繕費	
		一何々

十二　下水道費
一　雜給
一　何々
二　何々
二　需用費
一　何々
二　何々
三　修繕費
一　何々
二　何々
十三　屠場費
一　雜給
一　何々
二　何々
二　需用費
一　何々
二　何々
三　修繕費
一　何々
二　何々
十四　公園（何公園）費
一　雜給
一　何々
二　何々
二　需用費
一　何々
二　何々
三　修繕費
一　何々
二　何々
十五　墓地（何墓地）費
一　雜給
一　何々
二　何々
二　需用費
一　何々
二　何々
三　修繕費
一　何々
二　何々
十六　火葬場費
一　雜給
一　何々
二　何々
二　需用費
一　何々
二　何々
三　修繕費
一　何々
二　何々
十七　商品陳列所費

一　雜給
一　何々
二　何々
二　需用費
一　何々
二　何々
三　修繕費
一　何々
二　何々
十八　市場費
一　雜給
一　何々
二　何々
二　需用費
一　何々
二　何々
三　修繕費
一　何々
二　何々
十九　勸業諸費
一　害蟲驅除豫防費
一　何々
二　何々
二　何々
一　何々
二　何々
二十　電氣事業費
一　給料
一　何々
二　何々
二　雜給
一　何々
二　何々
三　需用費
一　何々
二　何々
四　何々
一　何々
二　何々
二十一　瓦斯事業費
一　給料
一　何々
二　何々
二　雜給
一　何々
二　何々
三　需用費
一　何々
二　何々
四　何々
一　何々
二　何々

二十二　史蹟名勝天然紀念物保存費		
	一　何々	
		一　何々
		二　何々
二十三　職業紹介所費		
	一　何々	
		一　何々
		二　何々
二十四　住宅費		
	一　何々	
		一　何々
		二　何々
二十五　救助費		
	一　棄兒費	
		一　何々
		二　何々
	二　貧困者救助費	
		一　何々
		二　何々
	三　罹災救助費	
		一　何々
		二　何々
二十六　警備費		
	一　雜給	
		一　何々
		二　何々
	二　需用費	
		一　何々
		二　何々
	三　修繕費	
		一　何々
		二　何々
二十七　徵發費		
	一　物件輸送費	
		一　何々
		二　何々
二十八　基本財産造成費		
	一　基本財産造成	
		一　何々
		二　何々
	二　小學校(何學校)基本財産造成	
		一　何々
		二　何々
	三　何々	
		一　何々
		二　何々
二十九　財産費		
	一　管理費	
		一　何々
		二　何々

	二　何々	
		一　何々
		二　何々
三十　諸税及負擔		
	一　諸税	
		一　何々
		二　何々
	二　負擔	
		一　何々
		二　何々
三十一　公金取扱費		
	一　徵收費	
		一　何々
	二　金庫諸費	
		一　何々
三十二　雜支出		
	一　滯納處分費	
		一　何々
	二　過年度支出	
		一　何々
	三　繰替金	
		一　何々
		二　何々
三十三　豫備費		
	一　豫備費	
經常部計		

臨時部

科目 款	科目 項	豫算 豫算額	豫算説明 種目	豫算説明 本年度豫算額	豫算説明 前年度豫算額	豫算説明 增減	豫算説明 附記
一　役所(役場)營繕費		圓		圓	圓	圓	
	一　建築費						
			一　何々				
			二　何々				
	二　修繕費						
			一　何々				
			二　何々				
二　土木費							
	一　道路橋梁費						
			一　何々				
			二　何々				
	二　治水堤防費						
			一　何々				
			二　何々				
	三　用惡水路費						
			一　何々				
			二　何々				
	四　何々						
			一　何々				
			二　何々				
三　小學校(何學校)營繕費							

	一 建築費	
		一 何々
		二 何々
	二 修繕費	
		一 何々
		二 何々
四 傳染病豫防費		
	一 給料	
		一 何々
		二 何々
	二 雜給	
		一 何々
		二 何々
	三 需用費	
		一 何々
		二 何々
五 傳染病院（隔離病舍）營繕費		
	一 建築費	
		一 何々
		二 何々
	二 修繕費	
		一 何々
		二 何々
六 病院（何病院）營繕費		
	一 建築費	

		一 何々
		二 何々
	二 修繕費	
		一 何々
		二 何々
七 水道費		
	一 布設費	
		一 何々
		二 何々
	二 修繕費	
		一 何々
		二 何々
八 下水道費		
	一 築造費	
		一 何々
		二 何々
	二 修繕費	
		一 何々
		二 何々
九 商品陳列所營繕費		
	一 建築費	
		一 何々
		二 何々
	二 修繕費	
		一 何々
		二 何々

十 勸業諸費		
	一 奬勵費	
		一 何々
		二 何々
	二 何々	
		一 何々
		二 何々
十一 警備費		
	一 建築費	
		一 何々
		二 何々
	二 修繕費	
		一 何々
		二 何々
十二 積立金穀		
	一 小學校（何學校）積立金	
		一 何々
		二 何々
	二 幼稚園（何幼稚園）積立金	
		一 何々
		二 何々
	三 何々	
		一 何々
		二 何々
十三 公債費		

	一 元金償還	
		一 何々
	二 利子	
		一 何々
	三 何々	
		一 何々
十四 訴訟費		
	一 訴訟費	
		一 何々
十五 寄附金		
	一 土木費寄附	
		一 何々
		二 何々
	二 何學校費寄附	
		一 何々
		二 何々
	三 何々	
		一 何々
		二 何々
十六 補助費		
	一 教育費補助	
		一 何々
		二 何々
	二 衛生費補助	
		一 何々
		二 何々

	三　勸業費補助						
				一　何々			
				二　何々			
	四　何々						
				一　何々			
				二　何々			
十七　雜支出							
	一　何經濟繰入						
				一　何々			
				二　何々			
	二　何々						
				一　何々			
				二　何々			
十八　何費本年度支出額							
	一　何費本年度支出額						
				一　何々			
				二　何々			
臨時部計							
歳出合計							

大正何年何月何日提出

何府(縣)何市(何郡何町(村))長　氏　名

備考

一　特別會計ニ屬スル豫算ハ本樣式ニ準ジ之ヲ調製スベシ

二　歳入歳出豫算ノ追加又ハ更正ノ豫算ハ本樣式ニ準ジ之ヲ調製スベシ

記載例

一　歳入ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要アルトキハ其ノ性質ニ從ヒ之ガ區分ヲ爲スベシ例ヘバ國庫補助金、府縣補助金、寄附金、繰入金、財產賣拂代及市町村債ノ如キハ之ヲ臨時部ニ編入スベシ雜收入中臨時事業ニ伴フ不用品賣拂代金ノ如キ亦臨時部ニ屬スルモノトス仍經常臨時ノ二部ニハ各計ヲ設ケ更ニ歳入合計ヲ掲載スベシ

二　歳出ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要ナキトキハ各款ヲ通ジテ歳出合計ヲ掲載スベシ

三　豫算金額ハ圓位ニ止ムルモ妨ゲナシ

四　增減欄ノ減ハ朱書ト爲シ又ハ△印ヲ附スベシ

五　豫算說明ノ部分ハ別ニ調製スルモ妨ゲナシ

六　歳入

イ　基本財產ハ一般ト特別トヲ區分シ且特別基本財產ハ其ノ種類ノ異ナル每ニ別項ト爲スベシ例ヘバ「小學校(又ハ何學校)基本財產」、「公園(何公園)基本財產」等ノ如シ

ロ　豫算說明欄ニハ豫算ノ計算ノ基ク所ヲ明ナラシムルヲ旨トシ種目ノ分別ニ付テハ特ニ注意スベシ例ヘバ財產ヨリ生ズル收入(款)基本財產收入(項)ノ說明ニ付テハ種目ハ「小作米」、「貸地料」、「木竹其ノ他賣拂代金」、「貸家料」、「貸付金穀利子」、「預金利子」、「公債利子」、「社債利子」、「株券配當金」等ノ類トシ其ノ附記欄ニハ「小作米」ニ付テハ土地ノ所在地、地目、段別、一段步當、數量、單價及金額又「貸地料」ニ付テハ土地ノ所在地、地目、段別又ハ坪數及金額ヲ掲載シ其ノ地上權者ヨリ收得スル地代、永小作權者ヨリ收得スル小作料、土地ノ賃借人ヨリ收得スル借賃ノ類ニシテ現米ナルトキハ總テ之ヲ「小作米」ニ、現金ナルトキハ總テ之ヲ「貸地料」ニ算入スベシ又「木竹其ノ他賣拂代金」トハ立木竹ノ賣拂代金ハ勿論落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取又ハ採掘等ノ種別ニ從ヒ各數量、單價及金額ヲ掲載スベシ

ハ　使用料(項)ニ對スル說明種目ノ欄ニハ市制町村制ニ所謂使用料例ヘバ「公園(何公園)使用料」、「屠場使用料」、「水道使用料」ノ如キハ勿論他ノ法令ニ依ル使用料例ヘバ「小學校(何學校)授業料」、「幼稚園(何幼稚園)保育料」、「圖書閱覽料」、「道路占用料」ノ類ヲモ掲載シ其ノ各附記欄ニハ件數、金額ヲ掲載スベシ

ニ　手數料(項)ニ對スル說明種目ノ欄モ亦市制町村制ニ所謂手數料例ヘバ「證明手數料」、「督促手數料」ノ如キハ勿論他ノ法令ニ依ル手數料例ヘバ「戶籍手數料」、「寄留手數料」、「馬籍簿閱覽手數料」ノ類ヲモ掲載シ其ノ各附記欄ニハ件數、金額ヲ掲載スベシ

七　雜收入ノ項ハ小學校(何學校)雜入、繰替金戾入、加入金等ノ類トシ其ノ說明種目例ヘバ「小學校(何學校)雜入」ニ對シテハ「物件賣拂代金」ノ類、又「繰替金戾入」ニ對シテハ「召集旅費繰替金戾入」、「行旅病人及死亡人取扱費繰替金戾入」、「精神病者監護費繰替金戾入」ノ類トス仍雜收入ニ付テハ他ノ各款ニ屬セザル諸收入ヲ掲載スベシ

八　市町村稅中地租其ノ他ノ各稅附加稅ニ付テハ說明附記欄ニ其ノ本稅額及課率ヲ掲載シ仍特別稅戶數割又ハ戶數割ヲ賦課セザル市町村ニ於テ戶數割ニ代ヘ賦課スル稅附加稅ニ付テハ現在戶數及平均一戶當ノ金額ヲモ掲載スベシ

九　歳出

イ　豫算說明ノ欄ニハ計算ノ基ク所ヲ明ナラシムルヲ旨トシ種目ノ分別ニ付テハ特ニ注意スベシ例ヘバ役所(役場)費(款)報酬(項)ノ說明ニ付テハ種目ハ「町(村)長報酬」、「市參與報酬」、「助役報酬」、「區長報酬」、「區長代理者報酬」、「委員(何委員)報酬」ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「町(村)長報酬」ニ付テハ一年何圓ノ類ヲ掲載スベシ

ロ　給料(項)ニ對スル說明種目ノ欄ニハ「市(町)(村)長給料」、「市參與給料」、「助役給料」、「收入役給料」等ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「助役給料」ニ付テハ年俸又ハ月俸何圓幾人ノ類ヲ掲載スベシ

ハ　雜給(項)ニ對スル說明種目ノ欄ニハ「費用辨償」、「旅費」、「手當」、「給仕及使丁給」、「傭人料」、「賞與」、「退隱料」、「退職給與金」、「死亡給與金」、「遺族扶助料」ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「費用辨償」ニ付テハ町(村)長何圓助役何圓ト掲載スベシ

ニ　需用費(項)ニ對スル說明種目ノ欄ニハ「備品費」、「消耗品費」、「印刷費」、「通信運搬費」、「賄費」、「被服費」、「借家料」、「電燈費」、「電話費」、「雜費」ノ類トシ其ノ各附記欄ニハ例ヘバ「備品費」ニ付テハ何器具新調費何圓、何機械修繕費何圓、書籍購買代金何圓、又「消耗品費」ニ付テハ筆紙墨代金何圓、薪炭油茶代金何圓ノ類ヲ掲載スベシ

十　市ニ於テ市會費ト市參事會費トヲ區分セントスルトキハ會議費ノ款ヲ市會費市參事會費ト分記シ各款ノ下ニ「費用辨償」、「給料」、「雜給」、「需用費」等ノ項ヲ設クベシ

十一　小町村ニ於テハ各款ノ下ニ給料ト雜給、需用費ト修繕費トヲ合セテ各一項ト爲スモ妨ゲナシ

十二　小學校費ヲ學校每ニ區分シタル場合ニ於テ各校共通ノ費用アルトキハ別ニ一款ヲ設ケテ之ヲ掲載スベシ

十三　小學校(何學校)費、幼稚園(何幼稚園)費及圖書館(何圖書館)費ノ款ハ之ヲ合セテ教育費トシ其ノ項ハ之ヲ小學校(何學校)費、幼稚園(何幼稚園)費及圖書館(何圖書館)費トシ給料、雜給、需用費等ハ之ヲ說明種目ト爲スモ妨ゲナシ

十四　諸稅及負擔(款)ハ諸稅(項)ト負擔(項)トニ分チ「諸稅」ノ說明種目ハ「地租」、「地租附加稅」、「水利組合費」ノ類トシ其ノ附記欄ニハ市(町)(村)有土地等ニ對スル分ヲ掲載シ又「負擔」ノ說明種目ハ「何町(村)外何ケ村組合費負擔」ノ類トス

十五　雜支出ノ項ハ「滯納處分費」、「繰替金」、「過年度支出」ノ類其ノ他他ノ各款ニ屬セザル諸支出ヲ掲載スベシ

十六　特ニ必要アルトキハ本樣式ニ掲グル歳入歳出科目ノ外適宜ニ款項目ヲ設クルモ妨ゲナシ

十七　市町村組合、町村組合ニ於テハ分賦法ニ依ルモノハ歳入科目「市町村稅」ノ款ヲ「分賦金」トシ左ノ例ニ依ルベシ

歳入

豫算			豫算說明				
科目		豫算額	種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減	附記
款	項						
分賦金		圓		圓	圓	圓	
	一　何市分賦金						
			一　地租附加稅				
			二　何々				
	二　何町分賦金						
			一　地租附加稅				
			二　何々				
	三　何村分賦金						
			一　地租附加稅				
			二　何々				

繼續費ノ年期及支出方法樣式

何府(縣)何市(何郡何町(村))何費繼續年期及支出方法

自大正何年度
至大正何年度

一金　　何費中何費

内譯

金　　大正何年度支出額

金　　大正何年度支出額

右何々(議決ヲ要スベキ事業ノ大要ヲ記載ス)

大正何年何月何日提出

何府(縣)何市(何郡何町(村))長　氏　名

何府(縣)何市(何郡何町(村))繼續費何費收支計算表

收入

科目		大正何年度	大正何年度	大正何年度	大正何年度	大正何年度	計	說明		
款	項							種目	金額	附記
一　補助金		圓	圓	圓	圓	圓	圓		圓	
	一　國庫補助金									
								一　何々		
	二　府(縣)補助金									
								一　何々		
二　寄附金										
	一　寄附金									
								一　何々		
三　市(町)(村)費繰入金										
	一　市(町)(村)費繰入金									
								一　何々		
四　雜收入										

	一 雜收入									
								一 預金利子		
								二 何々		
五 市(町)(村)債										
	一 市(町)(村)債									
								一 市(町)(村)債		
合計										

支出

科目		大正何年度	大正何年度	大正何年度	大正何年度	大正何年度	計	說明		
款	項							種目	金額	附記
一 何費		圓	圓	圓	圓	圓	圓		圓	
	一 給與									
								一 何々		
								二 何々		
	二 雜給									
								一 何々		
								二 何々		
	三 需用費									
								一 何々		
								二 何々		
	四 何々									
								一 何々		
								二 何々		
合計										

記載例

一　繼續費ト爲ス費用ニ付特別會計ヲ設ケズ又ハ特定ノ收入ナキ場合ニハ「一繼續費何費支出計算表」トシ收入ノ部ハ之ヲ設クルヲ要セズ

●市制第六條ノ市指定

（明治四十四年九月二十二日勅令第二百三十九號）

朕市制第六條ノ市ノ指定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

市制第六條ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

東京市

京都市

大阪市

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市制第六條ノ市ノ助役ノ定數

（明治四十四年九月二十二日内務省令第十三號）

市制第六條ノ市ノ助役ノ定數左ノ通之ヲ定ム

東京市　三人

京都市　二人

大阪市　二人

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣制準用選擧市區指定令

（大正十五年六月二十四日勅令第二百十一號）

朕府縣制準用選擧市區指定令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

府縣制準用選擧市區指定令

第一條　市制第三十九條ノ二ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

東京市　京都市　大阪市　堺市
横濱市　横須賀市　川崎市　神戸市
姫路市　長崎市　佐世保市　新潟市
長岡市　前橋市　宇都宮市　津市
名古屋市　豐橋市　靜岡市　濱松市
甲府市　岐阜市　長野市　松本市
仙臺市　青森市　山形市　福井市
金澤市　富山市　岡山市　廣島市
吳市　下關市　和歌山市　德島市
高松市　松山市　高知市　福岡市
久留米市　門司市　大牟田市　八幡市
大分市　熊本市　鹿兒島市　那覇市
札幌市　函館市　小樽市　旭川市
室蘭市

第二條　市制第三十九條ノ二ノ規定ニ依リ區ヲ指定スルコト左ノ如シ

東京市ノ區

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス

●市制第八十二條第三項ニ依ル市指定

（明治四十四年九月二十二日内務省令第十四號）

市制第八十二條第三項ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ

名古屋市

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

（昭和二年六月二十二日内務省令第三十二號）

明治四十四年内務省令第十四號中左ノ通改正ス

「名古屋市」ノ次ニ「横濱市」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●改選後ノ府縣會ニ於テ議長選擧ノ場合會議ノ閉止又ハ中止方ノ規定ヲ市會及區會ニ準用

（明治四十四年十月三十日内務省令第十九號）

明治四十年内務省令第二十六號ノ規定ハ【郡會】、市會又ハ市制第六條ノ市ノ區ノ區會ニ之ヲ準用ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●六大都市行政監督ニ關スル法律

（大正十一年三月二十二日法律第一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル六大都市行政監督ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

市ノ公共事務及法律ノ定ムル所ニ依リ市又ハ市長ニ屬スル國ノ事務ニ關シ府縣知事ノ許可又ハ認可ヲ要スル事件ニ付テハ東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可又ハ認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●六大都市行政監督特例

（大正十五年六月二十四日勅令第二百十二號）

朕六大都市行政監督特例ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

六大都市行政監督特例

市行政ニ關シ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ東京市、京都市、大阪市、横濱市、神戸市及名古屋市ニ於テハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一　市制中府縣知事ノ許可ヲ要スル事項但シ市長カ他ノ報償アル業務ニ從事スルコト、市町村組合ニ關スルコト及三年度ヲ超ユル繼續費ニ關スルコトヲ除ク

二　市制町村制施行令第五十九條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ要スル事項但シ同條第五號乃至第七號ニ掲クルコトヲ除ク

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年勅令第四百二十四號ハ之ヲ廢止ス

●行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件

（明治二十三年五月二日勅令第七十一號）

朕行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

行政事務又ハ司法事務ニ關シ郡區ヲ以テ其區域ヲ定メタルモノニシテ市制ヲ施行シタル場合ニ於テハ特ニ市ノ屬スヘキ區域ヲ定メタルモノヲ除クノ外左ノ區別ニ隨ヒ其所屬ヲ定ムルモノトス

一　區ヲ市トナシタルモノニ付テハ市ノ區域ニ依ル但東京市京都市大阪市ニ在テハ仍區ノ區域ニ依ル

二　郡内ノ町村ヲ市トナシタルモノニ付テハ仍其從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

三　二郡以上ニ渉ル町村ヲ合シテ市トナシタルモノニ付テハ其人口ノ最モ大ナル部分ノ屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

四　此勅令發布前ニ行ヒタル選擧ハ第三ノ規定ニ合ハサルモノアルモ其當選者ニ限リ改選ヲ要セス

區域變動ノ爲メ關係ノ郡ヨリ選擧スヘキ縣會議員ノ數ニ增減ヲ爲スヘキ必要アルトキハ本年ノ通常縣會ノ議決ヲ取リ【明治二十二年法律第七號第二條第二項】ニ依リ處分スヘシ

●市町村内土地ノ字名改稱變更取扱規定

（明治四十四年三月十五日内務省訓令第二號）

改正　大正四年第六號、九年第一九號

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

從來公稱スル市町村内土地ノ字名ハ明治十四年第八十三號公達ノ趣旨ニ依リ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラサルモ已ムヲ得サル事實アリテ改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ左ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

一　市町村内大字名（市制町村制施行ノ際分合シタル舊町村名、從前獨立町村内ノ大字又ハ其ノ組ト稱フル部落等ノ總稱）及市内ノ町名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ市町村會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

二　市町村内ノ小字名（市内ノ町名ヲ除ク）ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル地主ノ意見ヲ聞キ市町村會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

三　前項ノ場合ニ於テ其ノ區域全部カ國有林野ニ屬スルトキハ府縣知事之ヲ處分シ若其ノ區域カ國有林野ノ外民有地ニ屬スルトキハ關係アル市町村會及民有地主ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ處分スヘシ但シ本項ノ處分ハ直ニ之ヲ關係市町村ニ通知スヘシ

四　第二項ノ場合ニ於テ其ノ區域カ御料地ニ屬スルトキハ前項ノ例ニ依ルヘシ但豫メ帝室林野管理局長官ニ協議スヘシ

五　耕地整理施行ノ爲市町村内ノ大字若ハ字ノ名稱ヲ改メ又ハ其ノ區域ヲ變更スルノ必要アルトキハ關係アル市町村會ノ意見ヲ開キ府縣知事之ヲ處分スヘシ但シ本項ノ處分ハ直ニ之ヲ關係市町村ニ通知スヘシ

六　水面埋立地其ノ他新開地等新ニ字名稱ヲ付スルトキハ第二項ノ例ニ依ルヘシ

七　市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ裁決及民事訴訟ノ判決ニ依リ字名ノ訂正又ハ其ノ區域ヲ變更スヘキトキハ市參事會町村長（第八項ノ島嶼ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ職務ヲ行フ者）ヨリ府縣知事ニ申報セシムヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由スヘシ

八　東京府伊豆七島ノ内八丈島及大島ヲ除ク外竝小笠原島ニ於テハ仍從前ノ手續ニ依ル其ノ小字ノ名稱及區域ニ關スルモノハ府知事ニ於テ處分スヘシ

九　第一項乃至第六項及第八項ノ許可又ハ處分ヲ爲シタルトキ竝第七項ノ申報ヲ受ケタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ府縣ニ於ケル公布式ニ依リ之ヲ公告シ同時ニ其ノ公報ヲ内務大臣ニ報告シ且左ノ官廳ニ送付スヘシ

一　土地臺帳主管廳タル所轄税務署

二　當該要塞司令部、陸地測量部、當該師團司令部（近衞師團ヲ含マス）、當該聯隊區司令部

三　司法省、所轄地方裁判所、同區裁判所、同區裁判所出張所

四　遞信省通信局、同管船局、同電氣局、當該所轄遞信局

（大正十四年二月九日内務省訓令第三號）

東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、愛知　各府縣

從來公稱スル市町村内土地ノ字名改稱取扱方ニ關シテハ曩ニ訓令スルトコロアリシモ東京、京都、大阪、横濱、神戸及名古屋ノ各市ニ於テ市内ノ町名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ヲ變更スルニ付テハ明治四十四年訓令第二號ニ依ル府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス其ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ヲ府縣知事ニ申報スヘシ

府縣知事前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ該訓令第九ニ依リ處理スヘシ

（明治四十四年三月十五日内務省訓令第三號）

改正　大正九年第二〇號

沖繩縣

從來公稱スル【區】町村内土地ノ字名ハ明治十四年第八十三號公達ノ趣旨ニ依リ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラサルモ已ムヲ得サル事實アリテ改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ左ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

一　【區】町村内ノ字名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ【區】町村會之ヲ議決シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

二　【區】町村内ノ小字名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル地主ノ意見ヲ聞キ【區】町村會之ヲ議決シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

三　水面埋立地其ノ他新開地等新ニ字及小字ノ名稱ヲ付スルトキハ前二項ノ例ニ依ルヘシ

四　前各項ノ許可又ハ處分ヲ爲シタルトキハ縣知事ハ直ニ其ノ縣ニ於ケル公布式ニ依リ之ヲ公告シ同時ニ其ノ公報ヲ内務大臣ニ報告シ且左ノ官廳ニ送付スヘシ

一　土地臺帳主管廳タル所轄税務署

二　當該要塞司令部、陸地測量部、當該師團司令部（近衞師團ヲ含マス）、當該聯隊區司令

部

三　司法省、所轄地方裁判所、同區裁判所、同區裁判所出張所

四　遞信省通信局、同管船局、同電氣局、當該所轄遞信局

明治四十四年三月十五日 內務省訓令第四號
改正　大正九年第二一號

北海道廳

從來公稱スル【區】町村內土地ノ字名ハ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラサルモ已ムヲ得サル事由アリテ其ノ改稱變更ヲ必要トシ又新開地等ニテ新ニ字名ノ設定ヲ要スルトキハ北海道廳長官之ヲ定ムヘシ

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ廳ニ於ケル公布式ニ依リ之ヲ公告シ同時ニ其ノ公報ヲ內務大臣ニ報告シ且左ノ官廳ニ送付スヘシ

一　土地臺帳主管廳タル所轄稅務署

二　當該要塞司令部、陸地測量部、當該師團司令部（近衞師團ヲ含マス）、當該聯隊區司令部

三　司法省、所轄地方裁判所、同區裁判所、同區裁判所出張所

四　遞信省通信局、同管船局、同電氣局、當該所轄遞信局

●市制町村制ノ施行ニ關スル件

明治四十四年九月二十二日 勅令第二百四十三號

朕市制町村制ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　市制町村制施行前舊市制町村制ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ市制町村制ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第二條　町村ノ境界ニ關スル爭論ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ノ裁定ヲ請フコトヲ得

郡參事會ノ裁決ニ不服アルカ爲府縣參事會ニ爲シタル訴願ハ之ヲ其ノ裁定ヲ請ヒタルモノト看做ス

市町村ノ境界ニ關スル爭論ニ付府縣參事會ノ爲シタル裁決ハ之ヲ裁定ト看做ス

第三條　町村名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルカ爲受ケタル町村公民權停止及町村費增課ノ處分ニ關スル訴願ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

市町村制施行前市町村ニ於テ爲シタル市町村公民權停止及市町村費增課ノ處分ニ對スル訴願ノ期間ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第四條　市町村營造物ニ關スル從前ノ市町村規則中市町村條例ヲ以テ規定スヘキ事項ニ關スル規定ハ市町村條例ト同一ノ效力ヲ有ス

第五條　市會議員ノ定數市制第十三條ノ議員ノ定數ニ滿タサルニ依リ其ノ不足ヲ補フカ爲選擧シタル議員ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フ

第六條　市町村會議員、區會議員又ハ全部事務ノ爲ニ設ケタル町村組合會議員ノ補闕又ハ增員ニ付從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期前ニ於テ其ノ選擧ヲ行ヒタルトキハ其ノ補闕議員又ハ增員議員ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ其ノ職ヲ失フ當選ヲ辭シ又ハ選擧若ハ當選無效ト爲リタルカ爲選擧セラレタル議員ニ付亦同シ

第七條　市制町村制施行前ノ選擧ニ關スル選擧人名簿又ハ選擧若ハ當選ノ效力ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

選擧人名簿又ハ選擧若ハ當選ノ效力ニ關スル訴願ニシテ市制町村制施行前市町村長ニ於テ受理シタルモノ又ハ市町村會ニ付議シタルモノハ之ヲ市町村會ノ決定ニ付シタルモノト看做ス其ノ決定及市町村會ニ於テ爲シタル裁決ハ之ヲ異議ノ決定ト看做シ其ノ市町村制施行前ニ爲シタル裁決ニ對スル訴願ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ之ヲ提起スヘシ

市制町村制施行前ニ於ケル選擧又ハ當選ノ效力ニ關スル異議ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ之ヲ申立ツヘシ

第二項ノ裁決ニ不服アル者ノ提起シタル訴願ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

第八條　市制町村制施行前家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲公判ニ付セラレタル者ノ選擧權及被選擧權ノ有無ニ關シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條　選擧又ハ當選ノ效力ニ關スル府縣知事ノ異議ニシテ市制施行前府縣參事會ニ付議シタルモノハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付シタルモノト看做シ其ノ府縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ハ之ヲ決定ト看做ス

選擧又ハ當選ノ效力ニ關スル郡長ノ異議ニシテ町村制施行前郡參事會ニ付議シタルモノアルトキハ郡長ニ於テ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ハ之ヲ郡長ノ處分ト看做シ之ニ對スル訴願ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ之ヲ提起スヘシ

第十條　市制施行ノ際現ニ市會議長及其ノ代理者タル者ノ任期ハ從前ノ規定ニ依ル

前項ノ議長代理者ハ之ヲ副議長ト看做ス

第十一條　從前ノ規定ニ依ル市町村助役ノ選擧及收入役ノ選任ニ付テハ市町村長ノ推薦ニ依リ市町村會ニ於テ定メタルモノト看做ス

第十二條　町村長ニ於テ町村會ノ議決其ノ權限ヲ超エ又ハ法令ニ背クト認メ裁決ノ申請ヲ爲シ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

町村長ニ於テ町村會ノ議決公衆ノ利益ヲ害スト認メ裁決ノ申請ヲ爲シ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ郡長ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ハ之ヲ郡長ノ處分ト看做シ之ニ對スル訴願ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ之ヲ提起スヘシ

前項ノ事件ニ付町村制施行前府縣參事會ノ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

市參事會ニ於テ市會ノ議決公衆ノ利害ヲ害スト認メ府縣參事會ニ爲シタル裁決ノ申請ハ之ヲ市長ノ申請ト看做ス市制施行前其ノ府縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十三條　市制施行前市ノ有給吏員ノ給料若ハ退隱料又ハ名譽職員ノ實費辨償若ハ報酬ノ給與ニ關シ府縣參事會ニ於テ受理シタル異議ハ之ヲ訴願ト看做シ其ノ府縣參事會ニ於テ爲シタル異議ノ裁決ハ之ヲ訴願ノ裁決ト看做ス

町村ノ有給吏員ノ給料若ハ退隱料、名譽職員ノ實費辨償若ハ報酬又ハ町村長ノ書記料ノ給與ニ關スル異議ノ申立ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

町村長ノ書記料ノ給與ニ關スル異議、訴願及訴訟ニ付テハ給料ニ關スル規定ヲ準用ス

市制町村制施行前三項ノ給與ニ關シ爲シタル處分ニ對スル異議ノ申立期間ハ市制町村制施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十四條　從前ノ使用料、手數料及特別稅ニシテ市町村條例ニ依ラサルモノハ之ヲ市町村條例ヲ以テ規定シタルモノト看做ス

使用料、手數料及特別稅ニ關シ從前市町村條例ニ規定シタル科料ハ之ヲ過料ト看做ス但シ市制町村制施行前科料ノ處分ヲ受ケタル者ノ出訴ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第十五條　市制町村制施行前市町村稅ノ賦課又ハ市町村ノ營造物、市町村有財產若ハ其ノ所得ヲ使用スル權利ニ關シ市參事會又ハ町村長ニ申立テタル訴願ハ之ヲ市長又ハ町村長ニ爲シタル異議ノ申立ト看做シ其ノ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ事件ニ關スル訴願ニシテ郡參事會ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做シ其ノ郡參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

市制町村制施行前市町村ノ營造物、市町村有財產又ハ其ノ所得ヲ使用スル權利ニ付爲シタル處分ニ對スル異議ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ之ヲ申立ツヘシ

第十六條　手數料ノ徵收及市町村稅ノ滯納處分ニ關スル訴願ニシテ郡長又ハ府縣知事ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ內務大臣ノ受理シタルモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

市制町村制施行前ノ手數料ノ徵收ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ郡長ニ於テ爲シタル訴願ノ裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其ノ府縣知事ニ於テ爲シタル裁決ハ府縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ト看做ス

市制町村制施行前ノ市町村稅ノ滯納處分又ハ町村稅ノ滯納處分ニ關スル郡長ノ裁決ニ不服アル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十七條　市町村ノ一部ニ屬スル財產又ハ營造物ニ關シ區會又ハ區總會ヲ設クルカ爲市町村條例ノ設定ニ付府縣參事會又ハ郡參事會ヨリ內務大臣ニ提出シタル申請ハ之ヲ府縣知事又ハ郡長ノ申請ト看做ス

第十八條　町村組合ヲ解カムトスルノ申請ニシテ郡長ニ於テ受理シタルモノハ之ヲ府縣知事ニ於テ受理シタルモノト看做ス

第十九條　舊市制第百十六條第一項ノ府縣參事會ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

舊町村制第百二十條第一項ノ郡參事會ノ處分又ハ裁決ニ對スル訴願ニシテ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノハ府縣知事ニ於テ受理シタルモノト看做ス其ノ府縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ニ不服アル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

前項郡參事會ノ處分又ハ裁決ハ郡長ニ於テ爲シタル處分ト看做シ之ニ不服アル者ハ從前ノ規定ニ依ル訴願期間內ニ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

舊市制第百十六條第一項又ハ舊町村制第百二十條第一項ノ郡長又ハ府縣知事ノ處分又ハ裁決ニ不服アルカ爲提起スル訴願ノ期間ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

舊市制第百十六條第五項又ハ舊町村制第百二十條第五項ノ執行ノ停止ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第二十條　舊町村制第百二十二條ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル處分ニ對スル訴願ニシテ府縣參事會ニ於テ受理シタルモノハ府縣知事ニ於テ受理シタルモノト看做シ府縣參事會ニ於テ爲シタル裁決ハ之ヲ府縣知事ノ裁決ト看做ス

前項郡長ノ處分ニ不服アル者ノ提起スル訴願ノ期間ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第二十一條　市町村會ノ議決ニ付許可ヲ要スル事件中府縣參事會又ハ郡參事會ニ申請シタルモノニシテ府縣知事又ハ郡長ノ職權ト爲リタルモノハ之ヲ府縣知事又ハ郡長ニ申請シタルモノト看做ス

第二十二條　市制町村制施行前ニ爲シタル市町村吏員ノ解職ニ付テハ總テ從前ノ規定ニ依ル

第二十三條　第三條第七條第四項第十二條第一項第十三條第二項第十五條第一項若ハ第二項又ハ第十六條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ府縣參事會ニ提起シタル訴願ハ之ヲ市制又ハ町村制ニ依リタルモノト看做ス

第二十四條　市制町村制施行前ノ處分決定裁定又ハ裁決ニ對スル行政訴訟ノ提起期間ハ從前ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●市町村會議員選擧罰則

明治二十三年五月三十日 法律第三十九號

朕市町村會議員選擧罰則ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、司法大臣副署）

市町村會議員選擧罰則

第一條　凡テ選擧資格ニ必要ナル事項ヲ詐僞シテ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選擧人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧會場ノ近傍若クハ選擧人往來ノ途中ニ於テ選擧人ニ酒食ヲ供シ又ハ選擧會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ノ爲ニ選擧會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條　第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ【輕禁錮】ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選擧人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選擧權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條　第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條　選擧人ヲ脅逼シ若クハ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ【輕禁錮】又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　選擧ノ際選擧ニ關スル吏員若クハ選擧掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條　多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ【輕禁錮】又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條　選擧會場所在ノ郡市內ニ於テ選擧ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヰル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ【輕禁錮】ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條　被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシト虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ選擧會場ニ入リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ褒札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選擧人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條　本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各〻其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條　本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條　本法ハ市町村會ノ外【市制町村制】竝ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選擧ニモ適用ス

第三款　町村制不施行地

●町村制不施行島嶼戸長以下給料旅費負擔ノ件（明治二十二年一月十七日勅令第二號）

朕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費竝浦役場費ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務、大藏大臣副署）

町村制ヲ施行セサル島嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本屬府縣ニ於テ町村制施行ノ後ニ要スル戸長以下給料旅費【竝浦役場費】ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

●郡區町村編制法（明治十一年七月二十二日太政官布告第十七號　改正　明治一三年第一四號、二一年法律第一號）

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條　地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條　郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル

第三條　郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡トナス（東西南北上中下ト云カ如シ）

第四條　【三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ數區トナス】

第五條　毎郡ニ郡長各一員ヲ置キ毎區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クコトヲ得

第六條　廢止

第七條　此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得

第八條　地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ因リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スルコトヲ得

第九條　第三條【第四條】第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事【縣令】ヨリ【内務卿】ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

（明治十一年九月七日内務省達乙第五十六號）　府縣

本年第十七號布告ニ依リ取設候郡區ノ事務取扱所ハ郡役所區役所ト可稱候心得此旨相達候事

（明治十一年十二月四日内務省達乙第八十號（抄錄））　府縣

本年第十七號公布【及ヒ第三十二號公達】中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

一　第十七號公布第六條毎町村ニ戸長一員ヲ置クト云々右戸長旅行病氣忌引等ニテ不在ノ節ハ用掛筆生又ハ手傳人等ヲ以テ其職務ヲ取扱ハシムルヿヲ得

●區町村會法（明治十七年五月七日太政官布告第十四號）

明治十三年四月第拾八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

第一條　區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徴收方法ヲ議定ス

第二條　區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府知事【縣令】之ヲ定ム

第三條　區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戸長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス

第四條　區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戸長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事【縣令】ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條　區長ニ於テ區會、郡區長戸長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事【縣令】ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條　府知事【縣令】ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條　前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戸長ハ經費ノ支出徴收方法ヲ定メ府知事【縣令】ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條　區町村ニ於テ議員ヲ選擧セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期内ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條　議員ヲ選擧スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ルル者及陸海軍軍人現役ノ者ハ選擧人タルコトヲ得ス

第十條　議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ルル者ハ議員タルコトヲ得ス

第十一條　區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戸長ヲ以テ之ニ充ツ區長戸長若シ事故アルトキハ區長戸長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條　府知事【縣令】其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ【内務卿】ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條　府知事【縣令】ハ數區町村ニ關渉スル事件アルトキハ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條　府知事【縣令】ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十五條　聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戸長數人ノ所轄ニ渉ルモノハ府知事【縣令】便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右奉　勅旨布告候事（内務卿連署）

●水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件（明治二十二年三月二十二日法律第十一號）

朕水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務、文部大臣副署）

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功【若クハ學事】ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年五月第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

●土地ニ賦課スル區町村費制限（明治十八年八月十五日太政官布告第二十五號）

土地ニ賦課スル區町村費ハ明治十九年度ヨリ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス

但非常ノ費用ハ（預知スヘカラサル天災時變ノ費用ヲ云）別ニ賦課スルヲ得此場合ニ於テハ區町村會若クハ水利土功會ノ評決ヲ取リ府知事【縣令】ノ指揮ヲ請フヘシ

右奉　勅旨布告候事（内務卿、大藏卿連署）

●區町村會評決區町村費及水利土功會評決土木費ノ怠納者處分方（明治十七年五月七日太政官布告第十五號）

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ【明治十年十一月第七十九號布告】ニ據リ處分スヘシ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戸長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取リ府知事【縣令】ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年四月第貳拾四號布告ハ廢止ス

右奉　勅旨布告候事（内務卿連署）

●區町村會評決區町村費及水利土功會評決土木費竝北海道町村公收入ノ怠納督促手數料ノ件（明治三十五年十一月二十六日勅令第二百六十八號　改正　明治三六年第一二五號）

朕區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納督促手數料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（内務、大藏大臣副署）

區町村會法ニ依リ區町村會ノ評決シタル區町村費及水利土功會ノ評決シタル土木費竝北海道ニ於ケル北海道一級町村制北海道二級町村制ヲ施行セサル町村ノ公收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ管理者又ハ戸長ニ於テ督促狀ヲ發スヘシ

督促手數料ノ新設増額又ハ變更ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

●區町村會評決區町村費ニ關シ不服出訴方（明治十七年七月四日太政官布告第二十三號）

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ【明治十五年五月第貳拾貳號布告】ニ依ルヘシ

右奉　勅旨布告候事（内務卿連署）

●北海道區町村總代人評決ノ協議費怠納者處分並不服出訴方（明治十八年八月十日太政官布告第二十二號）

函館札幌根室【三縣】ニ於テ【區】町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明治十七年五月第拾五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ同年七月第貳拾三號布告ニ據ルヘシ

右奉　勅旨布告候事（内務卿連署）

●各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則（明治九年十月十七日太政官布告第百三十號）

各【區】町村金穀公借共有物取扱土木起功規則自今左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條　【凡ソ一區ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル時ハ正副區戸長幷ニ其區内毎町村ノ總代貳名ツヽノ内六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ】

第二條　凡ソ町村ニ於テ金穀ヲ公借シ若クハ共有ノ地所建物等ヲ賣買スル時ハ【正副區】戸長幷ニ其町村内不動産所有ノ者六分以上之ニ連印スルヲ要スヘシ

但右不動産所有者ヨリ其總代ヲ撰シテ之カ代理タラシムルハ其都合ニ任スヘシ

第三條　凡ソ【區内若クハ】町村内ニテ土木ヲ起功スル時ハ【其區ト】町村ナルトニ隨ヒ各第一條若クハ】第二條ニ倣フヘシ

第四條　若シ【第一條】第二條及第三條ニ指示セル場合ニ於テ唯【正副區】戸長ノ印ノミヲ鈐シ其須要ナル連印ナキモノハ總テ之ヲ該【區】戸長限リノ私借若クハ私ノ土木起功ト看做スヘシ其【正副區】戸長ノ印ノミヲ以テ共有ノ地所建物等ヲ賣買シタル者ハ總テ賣買ノ効ヲ有セス

第二章　北海道

第一款　北海道會

●北海道會法（明治三十四年三月二十八日法律第二號　改正　大正五年第二九號、一一年第五七號、一五年第七六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道會法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、内務大臣副署）

北海道會法

第一條　北海道會ハ各選擧區ヨリ選擧スル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

選擧區ハ北海道廳支廳長管轄區域及市ノ區域ニ依ル

第二條　北海道會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第三條　帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子ニシテ二年以來北海道内ノ同一市町村内ニ住所ヲ有スル者ハ北海道會議員ノ選擧權及被選擧權ヲ有ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　禁治産者及準禁治産者

二　破産者ニシテ復權ヲ得サル者

三　貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四　一定ノ住居ヲ有セサル者

五　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六　刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

七　六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

前項二年ノ期間ハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

第四條　陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者（未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒（勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク）及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第五條　在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選擧權ヲ有セス

選擧事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選擧權ヲ有セス

北海道廳ノ官吏及北海道地方費ノ有給ノ吏員其ノ他ノ職員ニシテ在職中ノ者ハ北海道會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

衆議院議員ハ北海道會議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第六條　北海道會議員ノ選擧ハ市ニ在リテハ市會議員選擧人名簿ニ依リ、町村ニ在リテハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ町村長ノ調製スル選擧人名簿ニ依リ之ヲ行フ

町村制第十八條第二項、第十八條ノ二乃至第十八條ノ五ノ規定ハ前項町村ニ於ケル選擧人名簿ニ之ヲ準用ス

第七條　選擧長ハ北海道廳支廳長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツ

選擧長ハ選擧會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選擧會ハ北海道廳支廳、市役所又ハ選擧長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

選擧長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第八條　北海道會ハ法令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ノ外北海道地方費ニ關シ左ノ事項ヲ議決ス

一　歳入出豫算ヲ定ムル事

二　決算報告ニ關スル事

三　法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、北海道地方稅及夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事

四　不動産ノ處分竝買受及讓受ニ關スル事

五　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七　財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條　北海道參事會ハ議長及名譽職參事會員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條　北海道參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　北海道會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二　北海道會ノ議決スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ[illegible]

三　[illegible]

四　[illegible]

五　[illegible]訴願訴訟及和解ニ關スル事

六　[illegible]

七　其ノ他法令ニ依リ北海道參事會ノ權限ニ屬スル事項

第十一條　[illegible]ヲ發ス

第十二條　削除

第十三條　削除

第十四條　[illegible]

第十五條　[illegible]

第十六條　[illegible]キモノハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條　[illegible]

附則（大正五年法律第二十九號）

[illegible]

適用ニ付テハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

大正三年度北海道地方費決算ハ大正五年ノ通常會ニ報告スヘシ

附　則（大正十一年法律第五十七號）

本法中選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之チ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令チ以テ之チ定ム

第十四條ノ規定ニ依リ準用スル選擧ニ關スル府縣制ノ規定ハ次ノ府縣會議員ノ總選擧ヨリ適用セラルル規定チ謂フ

本法ニ依リ初テ議員チ選擧スルニ必要ナル選擧人名簿ニ關スル期日又ハ期間ニシテ本法ニ依リ難キモノハ勅令チ以テ別ニ之チ定ム但シ其ノ選擧人名簿ハ次ノ選擧人名簿確定ノ日迄其ノ效力チ有ス

北海道參事會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ本法施行ノ際急施チ要スルモノハ其ノ成立ニ至ル迄ノ間北海道廳長官之チ行フ

北海道會又ハ北海道參事會ノ議決チ要スル事項ニシテ從前ノ規定ニ依リ北海道廳長官ノ爲シタルモノハ本法ニ依リ北海道會又ハ北海道參事會ノ議決チ經タルモノト看做ス

本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル異議、訴願又ハ訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

（選擧ニ關スル規定以外ノ規定ハ大正十一年五月十五日ヨリ施行〔大正十一年勅令第二五五號〕）

附　則（大正十五年法律第七十六號）

本法中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之チ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令チ以テ之チ定ム

本法ニ依リ議員チ選擧スル場合ニ於テ必要ナル選擧人名簿ニ關シ第六條ノ規定ニ依リ難キトキハ命令チ以テ特別ノ規定チ設クルコトチ得

本法施行ノ際大正十四年法律第四十七號衆議院議員選擧法又ハ大正十五年府縣制中改正法律、市制中改正法律若ハ町村制中改正法律未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令チ以テ之チ定ム

（大正十五年勅令第二百十三號チ以テ議員選擧ニ關スル規定チ除クノ外同年七月一日ヨリ施行）

●北海道會法及北海道地方費法改正經過規程

大正十五年六月二十四日
勅令第二百十五號

朕北海道會法及北海道地方費法改正經過規程チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（總理、內務大臣副署）

北海道會法及北海道地方費法改正經過規程

第一條　大正十五年七月一日現ニ在任スル名譽職參事會員及其ノ補闕名譽職參事會員ノ任期ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第二條　從前北海道廳長官ニ申立テタル異議又ハ北海道參事會ノ決定ニ付セラレタル異議若ハ北海道參事會ニ於テ受理シタル訴願ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ北海道參事會ノ決定ニ付セラレザルモノ又ハ北海道參事會ノ決定若ハ裁決ナキモノニ付テハ府縣制第九十六條第二項、第百十五條第三項又ハ第百二十八條ノ二ノ規定ノ準用ニ依ル期間ハ同年七月一日ヨリ之チ起算ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之チ施行ス

●北海道會法及北海道地方費法施行令

大正十五年六月二十四日
勅令第二百二號

朕北海道會法及北海道地方費法施行令チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（總理、內務大臣副署）

北海道會法及北海道地方費法施行令

第一條　府縣制施行令及大正十五年勅令第三號衆議院議員選擧法施行令第百六條ノ規定ハ北海道會法及北海道地方費法ノ施行ニ之チ準用ス

第二條　北海道廳根室支廳管內國後郡、紗那郡、擇捉郡及蘂取郡ニ於ケル北海道會議員選擧ニ關シテハ第三條乃至第十三條ノ規定ニ依ル

第三條　投票管理者ハ投票ノ當日又ハ翌日其ノ管理スル投票所ニ於テ北海道會法第十四條ノ規定ニ依リ準用スル府縣制第二十五條及第二十八條ノ例ニ依リ選擧長ニ屬スル職務チ行フ、此ノ場合ニ於テハ投票立會人ハ其ノ例ニ依リ選擧立會人ニ屬スル職務チ行フ

第四條　前條ノ規定ニ依リ投票ノ點檢チ行フトキハ投票管理者ハ投票所ノ事務ニ從事スル者二人チシテ各別ニ同一議員候補者ノ得票數チ計算セシムヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ投票管理者ハ各議員候補者ノ得票數チ朗讀スヘシ

第五條　投票ノ點檢終リタルトキハ投票管理者ハ直ニ其ノ結果チ選擧長ニ報告スヘシ

第六條　投票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效チ區別シ各之チ封筒ニ入レ二人以上ノ投票立會人ト共ニ封印チ施スヘシ

第七條　投票管理者ハ前四條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顚末書チ作リ之チ朗讀シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ署名シ直ニ投票錄及投票ト併セテ之チ選擧長ニ送致スヘシ

第八條　投票管理者ハ豫メ投票所ニ於ケル開票ノ日時チ告示スヘシ

第九條　選擧人ハ其ノ投票所ニ就キ開票ノ參觀チ求ムルコトチ得

第十條　天災事變等ノ爲投票所ニ於ケル開票チ行フコトチ得ザルトキ又ハ更ニ之チ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ更ニ期日チ定メ開票チ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ投票管理者ハ直ニ其ノ旨チ選擧長ニ報告スヘシ

第十一條　[illegible]

附　則

本令中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之チ施行ス

左ノ勅令ハ之チ廢止ス

[illegible]

從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル異議ノ申立期間又ハ訴願ノ提起期間ハ決定又ハ處分アリタル日ノ翌日ヨリ之チ起算ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳長官ニ爲シタル申請又ハ[illegible]請ニシテ大正十五年六月三十日迄ニ北海道參[illegible]ト看做ス

●北海道會議員選擧區分區令

大正十二年八月三十日
勅令第三百九十四號

朕北海道會議員選擧區分區令チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　[illegible]

第二條　[illegible]

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之チ施行ス

●北海道會議員選擧特例

大正十二年十月十五日
勅令第四百四十六號

朕北海道會議員選擧特例チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　[illegible]

第二條　[illegible]

第三條　北海道會法第十四條ノ規定ニ依リ準

用スル府縣制第十二條第一項ノ規定ニ依ル申立ハ町村長ニ對シ之チ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ町村長ハ申立チ受ケタル日ヨリ十日內ニ之チ決定スヘシ

前項ノ規定ニ依リ町村長ノ爲シタル決定ハ府縣制第十四條第二項ニ規定スル郡市長ノ決定ト看做ス

[illegible]

ニ選擧會チ開キ調查未濟ノ報告チ調查ス

第十一條　第五條ノ規定ニ依ル報告ノ書類及第六條ノ規定ニ依リ送致チ受ケタル顚末書ハ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄選擧長之チ保存スヘシ

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之チ施行ス

●北海道會法施行ニ關スル件

大正十五年六月二十四日
內務省令第二十號

北海道會法施行ニ關スル件左ノ通定ム

府縣制施行規則中府縣會議員ノ選擧ニ關スル規定ハ北海道會議員ノ選擧ニ之チ準用ス但シ其ノ規定中從前郡長又ハ島司ノ管轄シタル區域トアルハ北海道廳支廳長管轄區域トス

附　則

本令ハ次ノ總選擧ヨリ之チ施行ス

左ノ內務省令ハ之チ廢止ス

大正十二年內務省令第三十二號

大正十五年內務省令第二十六號

從前ノ規定ニ依ル手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ之チ爲シタルモノト看做ス

本令施行ノ際府縣制施行規則又ハ市制町村制施行規則中議員選擧ニ關スル規定未タ施行セラレザル場合ニ於テハ同規定ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

●北海道會議員ノ配當選擧ニ關スル件

大正十二年九月十三日
內務省令第三十二號
改正　大正一五年第二七號

北海道會議員ノ配當選擧ニ關スル件左ノ通定ム

大正三年內務省令第九號同第十一號及大正十一年內務省令第十五號ノ規定ハ北海道會議員ノ配當選擧ニ關シ之チ準用ス但シ大正三年內務省令第九號中郡トアルハ北海道廳支廳長管轄區域トス

數町村ノ區域ニ依リ一投票區チ設ケタル場合ニ於テ投票終リタルトキハ投票管理者ハ選擧人名簿チ關係町村長ニ返付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之チ施行ス

●北海道會議員選擧人名簿ノ分合ニ關スル件

大正十五年六月二十四日
內務省令第二十六號

北海道會議員選擧人名簿ノ分合ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　北海道廳支廳長管轄區域又ハ市町村ノ境界變更アリタル爲選擧人名簿ノ分割チ要スルトキハ北海道廳支廳長又ハ市町村長ハ其ノ管理ニ屬スル選擧人名簿チ分割シ北海道廳支廳長及市長ニ在リテハ其ノ部分チ其ノ地域チ新ニ管轄スル北海道廳支廳長又ハ其ノ地域ノ新ニ屬シタル市ノ市長ニ、町村長ニ在リテハ其ノ部分チ其ノ地域ノ新ニ屬シタル町村ノ町村長ニ送付スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選擧人名簿ノ分割チ要スルトキハ前項ノ例ニ依ル

第二條　前條ノ規定ニ依リ北海道廳支廳長ニ於テ市長ヨリ選擧人名簿ノ送付チ受ケタルトキハ直ニ其ノ謄本チ調製シ之チ關係町村長ニ送付スヘシ

第三條　北海道廳支廳長及市町村長ニ於テ選擧人名簿ノ送付チ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨チ告示スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之チ施行ス

第二款　一二級町村制

●北海道一級町村制

明治三十年五月二十九日
勅令第百五十九號
改正　明治三三年第五一號、三四年第二〇號、三九年第一八二號、大正一三年第二五二號、一四年第三〇六號、昭和二年第二三號

朕北海道一級町村制チ裁可シ玆ニ之チ公布セシム（總理、拓殖務大臣副署）

北海道一級町村制

第一章　總則
第一款　町村及其ノ區域
第二款　町村住民及其ノ權利義務
第三款　町村條例及町村規則
第二章　町村行政
第一款　町村吏員ノ組織及選任
第二款　町村吏員ノ職務權限
第三款　給料及給與
第三章　町村會
第一款　組織及選擧
第二款　職務權限及處務規程
第四章　町村ノ財務
第一款　町村有財產及町村稅
第二款　町村ノ歲入出豫算及決算
第五章　町村內一部ノ行政
第六章　町村組合
第七章　町村行政ノ監督
第八章　附則

北海道一級町村制

第一章　總則

第一款　町村及其ノ區域

第一條　此ノ勅令ハ北海道ニ於テ一級町村ト[illegible]

[illegible]

本條ノ處分ニ付財產處分チ要スルトキハ關係アル區會及町村會ノ意見チ聞キ北海道廳長官之チ定ム

町村ノ境界明ナラサルコトアルトキハ北海道廳長官之チ定ム但シ郡若クハ區ノ境界ニ涉ル場合ニ於テハ內務大臣ノ許可チ受クヘシ

第二款　町村住民及其ノ權利義務

第四條　町村內ニ住居チ占ムル者ハ總テ町村住民トス

町村住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ町村有財產及町村ノ營造物チ共用スル權利チ有シ及町村ノ負擔チ分任スル義務チ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務チ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　帝國臣民ニシテ公權チ有スル獨立ノ男子三年以來（一）町村ノ住民ト爲リ（二）町村ノ負擔チ分任シ及（三）其ノ町村內ニ於テ地租年額四十錢以上チ納メ又ハ直接國稅、北海道水產稅若クハ直接國稅ト北海道水產稅トチ合シテ年額二圓以上チ納メ又ハ耕地宅地三町歩以上チ所有スル者ハ町村公民トス但シ公費チ以テ貧民救助チ受ケタル後三年チ經サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項三年ノ制限ハ場合ニ依リ町村會ノ議決チ經テ北海道廳支廳長ノ許可チ受ケ之チ特免スルコトチ得

此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戶チ構ヘ且治產ノ禁チ受ケサ

ルモノヲ云フ

土地所有ノ期間ハ所有權ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ起算ス

町村ノ負擔ヲ分任セシムルコトナキ町村ニ於テハ第一項（二）ノ要件ヲ缺クト雖其ノ他ノ要件ヲ具備スル者ハ町村公民トス

町村公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ内務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ町村會ノ議決ニ依リ六年以内町村公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘキ町村税ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ增加スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六條　町村公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス

町村公民タル者公權停止中若クハ租税滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

町村公民ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキ又ハ第五條第五項ニ依リ公民權ヲ停止セラレタルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタル爲公民權ヲ有スル職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ有給吏員ニ對シテハ併セテ給料ヲ支給セサルコトヲ得

第三款　町村條例及町村規則

第七條　町村ハ町村住民ノ權利義務及町村ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村有財産及町村ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス

町村條例及町村規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二章　町村行政

第一款　町村吏員ノ組織及選任

第八條　町村ニ町村長及助役各一名ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ增加スルコトヲ得

町村長及助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

第九條　町村長及助役ハ町村會之ヲ選擧シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ若其ノ認可ヲ得サルトキハ再選擧ヲ爲スヘシ

町村會ニ於テ町村長及助役ヲ選擧セス又ハ其ノ再選擧ニシテ仍認可ヲ得サルトキハ更ニ選擧ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間北海道廳長官ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシムヘシ

臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十條　其ノ町村公民ニ非サル者ト雖町村長又ハ助役ニ選任セラルルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在職ノ期間ヲ限リ其ノ町村公民權ヲ有ス

第十一條　町村長及助役ハ第四十二條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若町村長トノ間ニ其ノ緣故アル者助役ニ當ルトキハ其ノ當選ヲ無效トシ助役トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長ノ任ヲ受クルトキハ助役ハ其ノ職ヲ失フモノトス助役數名アル場合ハ第四十二條第四項ノ例ヲ適用ス

第十二條　町村長及助役ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ營業其ノ他報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

第十三條　町村長及助役ハ町村會ノ同意ヲ得北海道廳長官ニ申請シ其ノ認許ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ任意ニ退職ノ申請ヲ爲シタル後三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　町村ニ收入役一名ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ收入役代理者一名ヲ置クコトヲ得

收入役及收入役代理者ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及收入役代理者ニ關シテハ第八條第二項及第九條乃至第十三條ノ例ヲ適用ス

町村長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟ノ緣故アル者ハ之ト同時ニ收入役又ハ收入役代理者タルコトヲ得ス若收入役又ハ收入役代理者トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長又ハ助役ノ任ヲ受クルトキハ其ノ緣故アル收入役又ハ收入役代理者ハ其ノ職ヲ失フ

收入役及收入役代理者ノ身元保證金ニ付テハ町村條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十五條　町村長助役共ニ故障アルトキ又ハ收入役收入役代理者共ニ故障アルトキハ北海道廳長官ハ第九條第二項ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第十六條　町村ニ書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス其ノ人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ町村長之ヲ任免ス

第十七條　町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ町村ノ區域ヲ數部ニ分チ每部部長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

部長及其ノ代理者ハ名譽職トス

部長及其ノ代理者ハ選擧權ヲ有スル町村公民ノ中ニ就キ町村長之ヲ任免ス

第十八條　町村ハ町村規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會議員若クハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ町村會議員及町村公民中選擧權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ町村長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

委員ハ町村會ニ於テ之ヲ選擧ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

第十九條　町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルルコトヲ得

第二款　町村吏員ノ職務權限

第二十條　町村長ハ町村ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議事ヲ準備シ竝其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事

二　町村有財産及町村ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　町村ノ權利ヲ保護スル事

四　町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算其ノ他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

五　町村吏員ヲ監督シ其ノ任免ニ係ル町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六　町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ町村ヲ代表シ及町村ノ名義ヲ以テ他廳若クハ一個人ト交涉スル事

八　法律命令若クハ町村會ノ議決ニ依リ使用料加入金手數料町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第二十一條　町村長ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ町村ニ關スル國及北海道地方費ノ行政事務ヲ掌ル

前項ノ事務ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ記載スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第二十二條　町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ヨリ北海道廳支廳長ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ又前項取消ニ不服アル町村會ハ北海道廳支廳長ニ訴願スルコトヲ得

前項北海道廳支廳長ノ決定若クハ裁決ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ヨリ北海道廳支廳長ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ其ノ北海道廳支廳長ノ決定ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ決定若クハ裁決ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　町村會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ北海道廳支廳長ニ申立テ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ北海道廳支廳長ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項北海道廳支廳長ノ處分ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　町村會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ町村長ハ北海道廳支廳長ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第二十五條　第六十六條但書若クハ第六十八條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第二十六條　町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十七條　助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得北海道廳支廳長ノ許可ヲ經テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第二十八條　收入役ハ法律命令中別段ノ規定アルモノノ外町村ノ出納其ノ他會計事務竝第二十一條ニ依ル國及北海道地方費ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

收入役代理者ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ收入役及町村會ノ同意ヲ得テ收入役代理者ヲシテ收入役ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

收入役代理者ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

第二十九條　書記其ノ他ノ附屬員ハ町村長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條　部長及其ノ代理者ハ町村長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國及北海道地方費ノ行政及町村ノ行政ニ付町村長ノ事務ヲ補助執行ス

第三十一條　委員ハ町村長ノ監督ニ屬シ町村有財産若クハ町村ノ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第三十二條　町村役場及町村吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ北海道廳支廳長之ヲ定ム

町村吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第三十三條　名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者竝委員ニハ實費辨償ノ外町村會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ北海道廳支廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條　町村長助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ北海道廳支廳長之ヲ定ム

本條ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

町村條例ヲ以テ有給吏員ノ退隱料退職給與金及遺族扶助料ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條　有給吏員ノ給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料其ノ他第三十三條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ北海道廳支廳長ニ訴願シ其ノ北海道廳支廳長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第三十六條　給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料報酬辨償等ハ町村ノ負擔トス

第三章　町村會

第一款　組織及選擧

第三十七條　町村會議員ハ町村ノ選擧人其ノ被選擧權アル者ヨリ之ヲ選擧ス其ノ定員左ノ如シ

一　人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ　議員八人

一　人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ　議員十二人

一　人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員十六人

一　人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員二十人

一　人口二萬以上ノ町村ニ於テハ　議員二十四人

前項ノ定員ハ町村規則ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第三十八條　町村公民ハ總テ選擧權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

直接町村税ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク直接町村税ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ町村住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ町村住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルトキハ選擧權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　選擧人ハ分テ二級トス

選擧人中直接町村税ノ納額多キ者ヲ合セテ選擧人總員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選擧人ヲ二級トス

各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納税者二名以上アルトキハ町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選擧人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選擧ス其ノ被選擧人ハ同級内ノ者ニ限ラサルモノトス

ス

直接町村税ヲ賦課セサル町村ニ於テハ本條ノ選擧等級ヲ設ケス

第四十條　區域廣濶又ハ人口稠密ナル町村ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選擧分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級選擧ノ爲之ヲ設クルモ妨ナシ

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選擧ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第四十一條　特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ選擧區ヲ設クルコトヲ得

選擧區ノ數及其ノ區域竝各選擧區ヨリ選擧スヘキ議員ノ員數ハ選擧人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之ヲ規定スヘシ

選擧人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選擧區ヲ定ム其ノ町村内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接町村税ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若數選擧區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ税額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接町村税ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ税額ノ相同キトキ又ハ數選擧區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ

選擧區ヲ設クルトキハ各選擧區ニ於テ選擧人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選擧區ヨリ選擧スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ難キトキハ各選擧區各級ヨリ選擧スヘキ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選擧人ハ其ノ選擧區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第四十二條　選擧權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選擧權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選擧權ヲ有セス

一　北海道廳ノ官吏
二　其ノ町村ノ有給吏員
三　檢事警察官吏及收税官吏
四　神官僧侶其ノ他諸宗教師
五　小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選擧セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選擧セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長又ハ助役トノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長又ハ助役ノ任ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第四十三條　町村會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選擧ヲ行ヒタル日（選擧ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ初日）又ハ定期改選期日（選擧ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ初日）ヨリ起算シ曆ニ從フ但シ總選擧ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選擧セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選擧セラルルコトアルモ先ニ總選擧ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

議員ニ關シテハ第三十三條第一項第三項第三十五條第三十六條ノ例ヲ適用ス

第四十四條　町村會議員中闕員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選擧ヲ行フヘシ若定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村會町村長若ハ北海道廳支廳長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補闕選擧ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選擧ハ前任者ノ選擧セラレタル選擧等級及選擧區ニ從テ之カ選擧ヲ行フヘシ

第四十五條　町村長ハ選擧ヲ行フ毎ニ其ノ選擧前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人ノ資格ヲ記載セル選擧原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ但シ選擧區ヲ設クルトキハ毎選擧區各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選擧人名簿ハ其ノ選擧前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳支廳長ニ訴願シ其ノ北海道廳支廳長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分、決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セス

町村長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選擧ヲ行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選擧ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選擧ノ日ヨリ五日前ニ修正スヘキモノトス

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第四十六條　選擧ヲ行フトキハ町村長ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選擧ノ場所日時竝每選擧區及每級ヨリ選擧スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選擧ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ一級ノ選擧ヲ行フヘシ

第四十七條　選擧掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選擧人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選擧分會若クハ選擧區ヲ設クルトキハ各別ニ選擧掛ヲ設クヘシ

第四十八條　選擧開會中ハ選擧人ヲ除ク外選擧會場ニ入ルコトヲ得ス選擧人ハ選擧會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條　選擧ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選擧人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選擧人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選擧人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

町村住民ニ非スシテ第三十八條第二項ニ依リ選擧權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選擧ヲ行フコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選擧掛ニ示スヘシ

選擧人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選擧人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第五十條　單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無效トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無效トス

一　氏名ヲ記載セサルモノ
二　記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ
三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
五　被選擧人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス
六　投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選擧スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ

投票ノ受理竝效力ニ關スル事項ハ選擧掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第五十一條　町村會議員ノ選擧ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕議員數名ヲ選擧スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第五十二條　選擧掛ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記錄シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選擧掛長選擧掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選擧ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選擧掛長選擧掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第五十三條　選擧ヲ終リタルトキハ選擧掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選擧區ノ選擧ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選擧ニ應スヘキコトヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選擧トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選擧ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

選擧ヲ終リ當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選擧錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ北海道廳支廳長ニ報告スヘシ

第五十四條　選擧人選擧ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ノ日ヨリ七日以内ニ北海道廳支廳長ニ訴願シ其ノ北海道廳支廳長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

北海道廳支廳長ニ於テ選擧ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ選擧ヲ取消スヘシ

前項北海道廳支廳長ノ處分ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第五十五條　選擧ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選擧ヲ無效トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無效トスヘキモノトス但シ選擧ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選擧ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條　選擧若クハ當選無效ト確定シタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

第五十七條　町村會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

町村長若クハ町村會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ北海道廳支廳長ニ申出ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ北海道廳支廳長ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス

前項北海道廳支廳長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

第五十八條　特別ノ事情アル場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ選擧ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第二款　職務權限及處務規程

第五十九條　町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

一　町村條例及町村規則ヲ設定スル事
二　町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ國及北海道地方費ノ行政事務ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
三　歲入出豫算ヲ定ムル事
四　法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手數料町村税及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
五　町村有不動產ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事
六　基本財產及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
七　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
八　町村有財產及町村ノ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
九　町村吏員ノ身元保證ヲ徵シ竝其ノ額ヲ定ムル事
十　町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

其ノ他町村會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第六十條　町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告書ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行竝收入支出ノ正否ヲ檢查スルコトヲ得

町村會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選擧シ町村長若クハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類竝金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

町村會ハ町村長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第六十一條　議員タル者ハ選擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第六十二條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス

町村會ハ町村會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選擧スヘシ

議長代理者ハ町村會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選擧ハ總選擧ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第六十三條　議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選擧スルモ妨ナシ

第六十四條　町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第六十五條　町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ町村長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

招集竝會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クトモ會議ノ三日前タルヘシ

第六十六條　町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

町村會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條　町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第六十八條　議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ町村會ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第六十九條　町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又町村長ヨリ要求アリタルトキハ傍聽ヲ禁スヘシ

第七十條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第七十一條　會議及傍聽ノ紀律竝取締ニ關スル規則ハ內務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

第七十二條　前條ニ依リ內務大臣ノ定ムル規則ノ外町村會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

町村會ニ於テ行フ選擧ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第七十三條　町村會ノ書記ハ町村吏員ノ中ニ就キ町村長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隷屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シテ會議ノ顛末竝出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第四章　町村ノ財務

第一款　町村有財產及町村稅

第七十四條　町村ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ町村ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財產ヲ蓄積セシムルコトヲ得

臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財產ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ町村規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財產若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財產若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　町村有財產ハ其ノ收益ヲ以テ町村ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ町村ノ直接ノ公用若クハ町村住民ノ直接ノ共用ニ供シタル町村有財產ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ牴觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條　町村有財產ヲ町村住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ町村規則ノ規程ニ依ルヘシ

前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徵收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七十七條　町村有財產ノ賣却貸與又ハ町村ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條　町村ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第七十九條　町村ハ其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ町村有財產ヨリ生スル收入使用料手數料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十條　町村ハ町村有財產若クハ町村ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十一條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一　國稅北海道地方稅ノ附加稅

二　直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ北海道地方稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス

特別稅ハ別ニ町村限リ稅目ヲ設ケ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス

第八十二條　此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別稅ニ關スル細則ハ町村條例又使用料手數料ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第八十三條　町村住民ニ非スト雖三箇月以上町村內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初若クハ滯在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務アルモノトス

町村住民ニ非ス又三箇月以上町村內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スルコトナキ者ト雖町村內ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ町村內ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務アルモノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條　所得稅ノ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課スルトキハ納稅義務者ノ町村外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スル者ニ前項ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課稅スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

數市區町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ營業稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ本稅額ヲ各市區町村ニ分割シテ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第八十五條　所得稅法第五條ニ揭クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財產ニ對シテハ第百二十二條ニ揭クル期間中ハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ

皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第八十六條　町村有財產ヲ町村住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財產ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第八十七條　町村住民ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在シ又ハ其ノ部內ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部內ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部內ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第八十八條　地租ノ附加稅ハ其ノ納期ヲ定メ納期（納期ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ末日）ニ於ケル土地臺帳ノ記名者ヨリ徵收スルモノトス但シ質入ノ土地ニ對シテハ質取主ヨリ徵收スルモノトス

地租ノ附加稅ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ、有租地ノ免租地若クハ無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地類地目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス

所得稅ノ附加稅ハ本稅ノ納期ニ於テ本稅ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス

本條ニ規定スルモノヲ除ク外附加稅徵收ノ方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

本條ノ例ニ依リ難キ場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第八十九條　町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅又ハ直接北海道地方稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九十條　町村ニ於テ徵收スル使用料加入金手數料町村稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他町村ノ公法上ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督促及手數料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第九十一條　町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

町村有財產若クハ町村ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ町村長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳支廳長ニ訴願シ其ノ北海道廳支廳長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十二條　町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

町村債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以內ト爲シ年年ノ償還步合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以內ニ還了スルヲ以テ常例トス

町村ハ無記名債券ヲ發行スルコトヲ得ス

豫算內ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款　町村ノ歲入出豫算及決算

第九十三條　町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歲入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度二箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ但シ町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ町村ノ事務報告書及財產明細表ヲ提出スヘシ

第九十四條　町村長ハ必要ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十五條　豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ町村會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日町村會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式竝費目流用ニ關スル規程ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ北海道廳支廳長ニ報告シ竝地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第九十六條　豫算ノ議決ヲ經タルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

收入役ハ町村長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス町村長ノ命令ヲ受クルモ其ノ支出豫算中豫定ナキカ又ハ其ノ命令前條第一項ノ規程ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第九十七條　町村ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ檢査ヲ行ヒ又每年少クトモ一回臨時檢査ヲ行フヘシ

檢査ハ町村長若クハ其ノ代理者之ヲ行ヒ臨時檢査ハ町村會ノ選擧シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第九十八條　町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以內ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ北海道廳支廳長ニ報告シ竝地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章　町村內一部ノ行政

第九十九條　町村內ノ一部ニシテ所有財產若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ財產營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選擧職務權限規程等ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第百條　前條ニ記載スル事務ニ就キテハ此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章　町村組合

第百一條　北海道廳支廳長ハ公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ數町村ノ事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長官ノ許可ヲ受ケ町村組合ヲ設クルコトヲ得

北海道廳支廳長ハ前項ノ許可ヲ受クルニハ町村組合會議ノ組織事務ノ管理方法及費用ノ支辨方法ニ關シ組合規程ヲ設ケ併セテ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第百二條　町村組合ニハ此ノ勅令中町村ニ關スル規程ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項其ノ他町村組合ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ組合規程ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第百三條　北海道廳長官ハ町村組合會議ノ議決ヲ經テ解除スルコトヲ得

公益上必要ト認ムル場合ニ於テ北海道廳支廳長ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第百四條　一級町村ト二級町村トノ組合ニ關シテモ亦本章ノ例ヲ適用ス但シ組合規程ニ於テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七章　町村行政ノ監督

第百五條　町村行政ハ第一次ニ於テ北海道廳支廳長之ヲ監督シ第二次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第百六條　此ノ勅令ニ規定スル異議、訴願若

クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百七條　監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其ノ事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第百八條　北海道廳支廳長ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項北海道廳支廳長ノ處分ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第百九條　町村會ノ解散ハ内務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

北海道廳支廳長ハ十日以内ニ於テ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第百十條　町村條例ノ設定ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第百十一條　左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村債ヲ起シ並借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事

但シ第九十二條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別税ヲ新設シ若クハ變更スル事

三　直接國税二分ノ一ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事

四　間接國税ノ附加税ヲ賦課スル事

五　國庫ヨリ直接ニ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

第百十二條　左ニ掲クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村規則ヲ設定スル事

二　使用料手數料ヲ新設シ若クハ變更スル事

三　道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

四　學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事

七　均一ノ税率ニ依ラスシテ國税又ハ北海道地方税ノ附加税ヲ賦課スル事

八　第八十六條第八十七條ニ依リ町村住民ノ一部若クハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

九　直接北海道地方税二分ノ一ヲ超過スル附加税ヲ賦課シ又ハ間接北海道地方税ニ附加税ヲ賦課スル事

第百十三條　左ニ掲クル事件ハ北海道廳支廳長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村有不動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事

二　基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事

三　第八十九條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

第百十三條ノ二　監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第百十四條　北海道廳長官北海道廳支廳長ハ町村長助役收入役收入役代理者部長委員其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ北海道廳長官ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ北海道廳支廳長ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者ニ對シテ之ヲ行フモノトス

隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ本條解職ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第百十五條　町村吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタルコトアルカ爲町村ニ對シテ賠償スヘキコトアルトキハ北海道廳支廳長之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ訴願ヲ爲シタルトキハ北海道廳支廳長ハ假ニ其ノ財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章　附則

第百十六條　此ノ勅令施行ノ時期ハ内務大臣之ヲ定ム

第百十七條　此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ一級町村ト爲ス地ハ内務大臣之ヲ指定ス

第百十八條　此ノ勅令ニ依リ初メテ町村會成立シ及町村吏員就職ニ至ルノ間其ノ職務竝町村條例町村規則ヲ以テ定ムヘキ事項ハ北海道廳長官ノ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第百十九條　此ノ勅令ヲ施行スル島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ就テハ其ノ町村吏員監督官廳ノ職務權限等ニ關シ内務大臣ニ於テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第百二十條　第三十七條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第百二十一條　【現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セス】

第百二十二條　屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ【屯田兵服役期限中】及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス

第百二十三條　此ノ勅令ニ於テ直接税若クハ間接税トスヘキ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百二十四條　此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

●北海道一級町村制施行地

（明治三十三年五月十九日内務省令第十九號）

北海道一級町村制明治三十三年七月一日ヨリ施行ス其實施地ハ左ノ通リ指定ス但現在ノ町村名ハ大字トシテ之ヲ存ス

町村名	所屬郡名	區域
大野村	龜田郡	大野村　一本木村　本郷村　市渡村　文月村　千代田村
上磯村	上磯郡	上磯村　清川村　中野村　谷好村　富川村
福山町	松前郡	總社堂町　生符町　白川町　愛宕町　西館町　博知石町　唐津内澤町　唐津内町　新荒町　湯殿澤町　小松前町　松城町　大松前町　枝ヶ崎町　中町　袋町　横町　蔵町　中川原町　川原町　神明町　馬形上町　馬形中町　馬形下町　端立町　東上町　東中町　東下町　東新町　泊川町　寅向町　傳治澤町　山ノ上町　及部町
福島村	松前郡	白符村　福島村
江差町	檜山郡	東新町　北新町　中新町　川原新町　片原町　詰木石町　豐部内町　九艘川町　中歌町　姥神町　津花町　濱茂尻町　酒田町　新地裏町　新地町　法華寺町　上野町　佐平治町　彌陀堂町　切石町　影ノ町　澤茂尻町　中茂尻町　小平澤町　碇町　寺小屋町　五勝手村
壽都町	壽都郡	六條町　岩崎町　開進町　渡島町　新榮町　大磯町　矢追町
岩内町	岩内郡	御鉾内町　稻穗崎町　橘町　吹上町　堀江町　三島町　鷹臺町　老古美村ノ一部（西南野東川ヲ限リ東八番内市街ト堀株村トノ界線ニ沿ヒ直進シ南ニ延ヒ野東川ニ至ル）
余市町	余市郡	濱中町　澤町　富澤町　中町　梅川町　琴平町　山臼町　黒川村　山田村　畚部村　大川町　沖村
岩見澤村	空知郡	岩見澤村ノ一部（石狩川幌向川ノ落合ヨリ月形道路ト此道路(字ナカコヤ)ヲ横流スル美唄川支流ノ交叉點ニ向ヒ直線ヲ以テ之ヲ限リ其ノ南方ノ一圓トス）
増毛町	増毛郡	辨天町　稻葉町　野塚町　永壽町　七源町　畠中町　暑寒町　暑寒裏町　畠中裏町　阿分村　舍熊村　増毛村　別苅村　岩尾村　暑寒澤村
稚内村	宗谷郡	稚内村　抜海村　聲問村
【室蘭町】	【室蘭郡】	【札幌通】【西小路町】【澤町】【幕西町】【常盤町】【濱町】【本町】【繪鞆村】【千歳町】【海岸町】
伊達村	有珠郡	有珠村　稀府村　東紋鼈村　西紋鼈村　長流村　黄金蘂村
【釧路町】	【釧路郡】	【米町】【眞砂町】【浦見町】【幣舞町】【洲崎町】【釧路村】【桂戀村】
厚岸町	厚岸郡	灣月町　松葉町　梅香町　若竹町　奔渡村　眞龍村　苫多村　床潭村　末廣村　璃瑠瀾村　別寒邊牛村
根室町	根室郡	本町　花咲町　梅ヶ枝町　緑町　常盤町　彌生町　有磯町　光和町　松ヶ枝町　清隆町　千島町　彌榮町　平内町　琴平町　定基町　鳴海町　松本町　辨天町　汐見町　根室村　穗香村ノ一部（字キナトエウス一圓）　花咲村　友知村ノ一部（オンチトウ沼ヨリ南タカタ川及ヒ北ノフカマツプ川ヲ廻リ郡界ニ至ル直線ヲ限リ西一圓）

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通リ指定シ明治四十年四月一日ヨリ施行ス（明治四十年三月十二日内務省告示第二十六號）

札幌郡豐平村　石狩郡石狩町　石狩郡當別村　厚田郡厚田村　濱益郡濱益村　龜田郡七飯村　茅部郡森村　山越郡八雲村　古平郡古平町　空知郡砂川村　夕張郡角田村　夕張郡長沼村　樺戸郡新十津川村　雨龍郡深川村　留萌郡留萌村

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通リ指定シ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス（明治四十二年三月十七日内務省告示第三十二號）

札幌郡江別村　磯谷郡磯谷村
美國郡美國町　空知郡瀧川村
空知郡栗澤村　空知郡沼貝村
上川郡鷹栖村　上川郡東旭川村
苫前郡羽幌村

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ大正四年四月一日ヨリ施行ス（大正四年三月十七日内務省告示第十二號）

虻田郡倶知安村　余市郡大江村
空知郡江部乙村　上川郡士別村
上川郡上名寄村　苫前郡苫前村
網走郡網走町　常呂郡野付牛村
勇拂郡厚眞村　浦河郡浦河町
河西郡帯廣町

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ大正八年四月一日ヨリ施行ス（大正八年三月二十四日内務省告示第十四號）

龜田郡　龜田村　錢龜澤村
　戸井村
上磯郡　木古内村
瀬棚郡　瀬棚村
空知郡　歌志内村　上富良野村
夕張郡　由仁村　夕張町
上川郡　東川村　當麻村
勇拂郡　苫小牧町
河西郡　芽室村
中川郡　川合村　幕別村

厚岸郡　濱中村

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ大正十年四月一日ヨリ施行ス（大正十年三月三十一日内務省告示第五十一號）

札幌郡廣島村　忍路郡鹽谷村
高島郡高島村　雨龍郡一巳村
上川郡永山村　上川郡比布村
空知郡富良野町　紋別郡紋別町

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ大正十年四月一日ヨリ施行ス（大正十年三月三十一日内務省告示第五十二號）

河東郡音更村

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ大正十二年四月一日ヨリ施行ス（大正十二年三月二十八日内務省告示第七十五號）

龜田郡湯川村
山越郡長萬部村
岩内郡前田村
同郡發足村
古宇郡泊村
虻田郡東倶知安村
札幌郡琴似村
千歲郡惠庭村
雨龍郡秩父別村
空知郡三笠山村
同郡蘆別村
同郡中富良野村
枝幸郡枝幸村
禮文郡香深村
利尻郡鬼脇村
同郡鴛泊村
網走郡美幌村
上川郡上士別村
同郡美瑛村
中川郡美深村
勇拂郡安平村
上川郡屈足村
同郡人舞村
中川郡本別村

北海道一級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ大正十三年四月一日ヨリ施行ス（大正十三年三月二十四日内務省告示第百四十九號）

札幌郡札幌村　積丹郡余別村
上川郡多寄村　天鹽郡天鹽村
利尻郡沓形村　靜内郡靜内村

●北海道二級町村制

朕北海道二級町村制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

（明治三十五年二月二十二日勅令第三十七號
改正　明治三九年第一八三號、四四年第一七〇號
大正一四年第三〇七號
昭和二年第二四號）

北海道二級町村制

第一章　總則

第一條　町村ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務及法律命令又ハ慣例ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス

第二條　北海道一級町村制第三條ハ之ヲ二級町村ニ準用ス

第三條　町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ町村住民トス

町村住民ハ町村有財産及町村ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　町村ハ町村住民ノ權利義務、町村ノ事務、町村有財産及町村營造物ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第二章　町村吏員

第一款　組織及選任

第五條　町村ニ町村長書記收入役其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス

町村長收入役ハ町村又ハ町村組合ニ各一名トシ書記ノ定員ハ北海道廳長官之ヲ定ム

町村長ハ北海道廳長官之ヲ任免シ書記ハ北海道廳支廳長之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ町村長之ヲ任免ス

收入役ハ町村會ノ推薦ニ依リ北海道廳支廳長之ヲ任命シ其ノ任期ハ四箇年トス

收入役闕ケタルトキハ北海道廳支廳長ハ書記ノ一人ヲシテ臨時其ノ職務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

特別ノ事情アル町村ニ於テハ北海道廳支廳長ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ町村長又ハ書記ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ヲ除クノ外町村長書記及收入役ハ相兼ヌルコトヲ得ス

收入役ノ保證金ニ付テハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ町村ノ區域ヲ數部ニ分チ每部部長一名ヲ置クコトヲ得

町村ハ町村會ノ議決ニ依リ北海道廳支廳長ノ許可ヲ得テ臨時委員ヲ置クコトヲ得

部長及委員ハ名譽職トシ北海道廳支廳長之ヲ任免ス

第二款　職務權限

第七條　町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議事ヲ準備シ竝其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事
二　町村有財産及町村ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
三　町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算其ノ他町村會ノ議決ニ依リ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
四　町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
五　法律命令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料加入金手數料町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
六　町村營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
七　其ノ他法律命令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第八條　町村長ハ法律命令ノ定ムル所ニ依リ町村ニ關スル國及北海道地方費ノ行政事務ヲ掌ル

本條ニ記載スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第九條　町村長ハ町村吏員ヲ監督シ其ノ任免ニ係ル町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第十條　町村會ノ議決其ノ權限ヲ越エ、法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害シ其ノ他不當ノ議決ト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ北海道廳支廳長ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ北海道廳支廳長ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第十一條　町村會成立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ町村長ハ北海道廳支廳長ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

町村會其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若ハ議了セサルトキ又ハ第三十三條第二項但書ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前項ノ例ニ依ル

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第十二條　書記及附屬員ハ町村長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

町村長事故アルトキハ上席ノ書記之ヲ代理ス

町村長ハ書記ヲシテ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十三條　收入役ハ町村ノ出納其ノ他會計事務又ハ第八條ニ依ル國及北海道地方費ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

第十四條　部長ハ町村長ノ命ヲ承ケ部内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助ス

委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第十五條　町村役場及町村吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ北海道廳支廳長之ヲ定ム

町村吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第十六條　名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ北海道廳支廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條　町村長及書記ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經北海道廳支廳長ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ若シ之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ北海道廳支廳長之ヲ定ム

町村規則ヲ以テ有給吏員ノ退隱料退職給與金及遺族扶助料ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十八條　給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料辨償等ハ町村ノ負擔トス但シ町村長書記ノ給料及旅費ハ北海道地方費ヨリ之ヲ支給ス

第三章　町村會

第一款　組織及選擧

第十九條　町村會議員ハ其ノ町村ノ選擧人其ノ被選擧權アル者ヨリ之ヲ選擧ス其ノ定員ハ一町村四名以上十二名以下トシ北海道廳長官之ヲ定ム

第二十條　町村會議員ノ選擧權ヲ有スル者ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子一年以來（一）町村内ニ住居ヲ占メ（二）町村ノ負擔ヲ分任シ及（三）町村内ニ於テ地租年額十錢以上ヲ納メ又ハ直接國稅北海道水産稅若ハ直接國稅ト北海道水産稅トヲ合シテ年額五十錢以上ヲ納メ又ハ耕地一町步若ハ宅地百坪以上ヲ所有シ又ハ總納稅人ノ町村稅平均額以上ノ町村稅ヲ納ムル者ニ限ル

公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者ハ選擧權ヲ有セス

前二項ノ期間ハ町村會ノ議決ニ依リ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ之ヲ特免スルコトヲ得

町村ノ負擔ヲ分任セシムルコトナキ町村ニ於テハ第一項（二）ノ要件ヲ闕クト雖其ノ他ノ要件ヲ具備スル者ハ選擧權ヲ有ス

第一項ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戶ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ謂ヒ又耕宅地所有ノ期間ハ所有權ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　選擧權ヲ有スル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ選擧權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アル迄又公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選擧ニ參與スルヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第二十二條　選擧權ヲ有スル者ハ總テ被選擧權ヲ有ス

左ニ揭クル者ハ被選擧權ヲ有セス

一　北海道廳ノ官吏
二　其ノ町村ノ有給吏員
三　檢事警察官吏及收稅官吏
四　神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
五　小學校教員
六　選擧權停止中ノ者及第二十一條第二項ニ依リ選擧ニ參與スルコトヲ得サル者

官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　町村會議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二箇年トス

町村會議員中闕員アルトキハ補闕選擧ヲ行ヒ其ノ補闕ニ係ル議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

町村會議員ニ關シテハ第十六條及第十八條ヲ準用ス

第二十四條　町村長ハ選擧前三十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

選擧人名簿ハ調製ノ日ヨリ十四日間町村役場ニ於テ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願スルコトヲ得

町村長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決ノ確定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ其ノ修正ノ要領ハ直ニ之ヲ公告スヘシ

確定名簿ハ確定ノ日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ用フ

確定名簿ニ登錄セラレサル者及登錄セラレタルモ選擧權ヲ有セサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定決定書又ハ確定裁決書ヲ所持スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　選擧ヲ行フトキハ町村長ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選擧ノ場所日時及議員ノ員數ヲ公告スヘシ

選擧場ノ開閉及選擧ノ取締ハ町村長之ニ任ス

選擧開場中ハ選擧人及選擧事務ニ從事スル者ヲ除クノ外選擧場ニ入ルコトヲ得ス

選擧ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選擧人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選擧人自ラ之ヲ町村長ニ差出スヘシ

選擧ハ代人ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得代人ハ委任狀ヲ町村長ニ差出スヘシ

選擧人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ町村長ニ申立テ町村長ハ選擧人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ

投票ノ時間終リタルトキハ町村長ハ選擧場ニ於テ投票ヲ檢シ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ當選トシ同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ町村長自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

町村長ハ當選者ニ當選ヲ通知シ其ノ人名ヲ公告シ同時ニ之ヲ北海道廳支廳長ニ報告スヘシ

第二十六條　選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ノ日ヨリ七日以内ニ北海道廳支廳長ニ申立テ其ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願スルコトヲ得

北海道廳支廳長ニ於テ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ [illegible]

但シ北海道廳 [illegible] ス

第二十七條　左ノ投票ハ無效トス

一　一投票中二人以上ノ氏名ヲ記載セルモノ
二　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
三　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載セルモノ
四　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ官位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
五　投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

投票ノ受理及效力ニ關スル事項ハ町村長之ヲ決ス

第二十八條　町村會議員中被選擧權ヲ有セサル者アルトキハ [illegible]

前項ニ該當スル [illegible] 定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願スルコトヲ得

町村會議員ハ [illegible] ル迄職務ヲ [illegible]

第二十九條　町村會議員相當ノ理由ナクシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ任期中退職スルトキハ町村長ハ町村會ノ議決ニ依リ北海道廳長官